收容書目

陶山鈍翁
遺著

日本經濟叢書

卷四

日本經濟叢書刊行會

日本經濟叢書卷四目次

陶山鈍翁著

一　口上覺書　一頁
一　土穀談 幷同附錄 同附說　一三
一　老農類語　一六九
一　刈麥談　二八一
一　水利問答　三一一
一　告新錄　三三五
一　甘藷說　三四七
一　民事紀聞　三五三
一　農政問答　三七七

一　伊奈郷農事錄　三九七
一　鄉村農事錄　幷同附說　四〇九
一　農書輯略　幷同後語　四三九
一　食兵宗旨　四八五
一　訥庵文草　幷同續集　五一五
一　財用說　五五三
一　受益談　幷同附記、同續錄、同附說 同或問、同東語、同後語　五六九
一　足食談　六二七
一　讀增田開地記　六三七

目次終

解題

陶山存、字は士通、(一作士道)鈍翁と號す、又訥庵、西丘老人、海隅小生等の別號あり、通稱は庄右衞門、其の先は豫州大洲の人なり、鈍翁は明暦三年對馬國に生る、寛文七年、初て國を出でて京師に遊び、木下順庵の門に入る、幾もなく順庵先生に從ひて江戸に遊學し、當時室鳩巢、雨森芳洲等と名を齊うせり、寛文十一年、江戸を去て大和に赴き、心學を學ぶ、延寶元年、對馬に還り、翌年、年甫て十八、藩主宗氏に筮仕し、尋で復た京師に遊び、延寶五年、對馬に還る、是より、鈍翁經濟を以て自ら任じ、藩主宗氏の爲めに大に獻替する所あり、殊に對馬は當時日韓交渉の關門たりし故を以て、其の事ある每に、鈍翁は之が難局に當り、江戸及朝鮮の間を奔走して、頗る斡旋の勞を取れりと云ふ、然れども鈍翁の功勳の顯著なるは、對馬の農政に關する事柄にして、就中最も著明なるは夫の殲豬事業なり、從來對馬の農民は、豬

害に苦しむこと、甚だ大にして、野豬の苗を毀ち稼を損ずること、至らざるなく、之が爲め晝夜となく常に嚴防を怠らざるも、猶且つ年々耕種の勞を空くすること、少からざれば、上下皆之を以て多大の民殤とせり、鈍翁民政の局に當るに及び、同僚平田某と與に、大に計畫する所ありて此の豬害を一掃せんことを企て、元祿十三年十二月より、寶永六年に涉る八年有餘の間に、此の大事業を奏功して、農民に其の勞力と資本の効果を全うすることを得せしめたるは、農政上莫大の偉績なりと云ふべし、鈍翁は寶永六年、歲五十三にして隱退せるより（郡奉行を罷めたるは此の前年なり）享保十七年六月二十四日、七十六歲にて歿するに至る迄、專ら農政に關する著述に從事せり、今陶山訥庵傳の著者川本逹氏の報告に依れば、鈍翁の著述の多き、實に一百二十餘部に及べりと云ふ、然れども本篇採收する所は左記の三十二部に過ぎず、川本氏及中木博智氏（嚴原中學校長）を始め、嚴原に於ける訥庵會員諸氏は、本叢書の爲めに目下他の諸書を搜索謄寫中なるを以て、他日尙ほ左記の

外に經濟に關する著書を得ることあらば、或は追て本篇の續篇を刊行するの機會あるべし
本篇各書の解題は別に每書に之を詳述せず、寛政八年對馬の人、中村愼允なる者が書き留め置ける備忘記なるもの丶一節に、鈍翁に關する略傳幷に本篇に採收せる著書の由來を略述したるものあれば、爰にその一節を拔鈔して解題の參考となす
一　陶山庄右衛門、存先生、元祿十二年己卯三月十七日、御郡奉行被仰付、寶永五年戊子六月十三日當役御免を蒙り、己卯より戊子迄十ケ年の間勤仕の厚き事世人の專ら云ふ所にして、某等も聞き居ける事なれども、其の事實を知る事能はざる事多し、其の著明なるものは豬逐詰の一事、元祿十三年庚辰十二月豐島鄕に始まり、寶永六年己丑二月、豆酘鄕に終りて終に豬を取盡さる事、永世諸民の安堵、鄕村の益、某等が口舌に及ばず、豬狩の始末は碑の銘に詳なり（編者案ずるに、碑の銘とは雨森芳洲の撰せる碑陰文なるべし）

先生在役中勤仕の事跡、日帳諸錄に見えたる分さへ未熟讀し得る事能はず、先生述作の書數多の中にて菜見る事を得たる書には、先對馬鄕村帳を編輯して鄕村御年貢の高を明にし、序文に檢地幷物成等の次第を詳になし、鐵砲格式僉議定目は鄕村の武備を設け、二千六百挺の鄕筒を農兵に渡し、種々修練の工夫を盡し、賊を防ぐの備を設けられし事、眼の及ぶ處にあらず〔以上二書は本篇之を收めず〕正德二年壬辰の比、退役の後、當役の衆と御郡政の問答六十二箇條ありしを二册に錄して、口上覺書と唱、土穀談、同附錄、同附說は、專ら州中の土力、人力を厚く盡し、州中の出來穀にて州中の人口を養はん事を記し、老農類語は享保七年壬寅正月御郡支配大浦忠左衛門殿の志を續で鄕村老農の仕覺えし農事の宜しき分を撰て是を錄し、刈麥談は老農類語に繼で、壬寅の夏に至り、刈麥の節要を橋邊氏に告げて是を錄し、水利問答は山田揚田干出開となし、畠も田になして、益多きの旨を錄し、告新錄は口上覺書六十二箇條、旅人吟味に付ての八箇條、土穀談、老農類語、刈麥談、

水利問答に洩れし事を、享保八年癸卯御郡奉行の問あらば答へん爲めに是を錄し、農書輯略、農書輯略後語は土穀談に繼で州中の出來穀にて、州中の人口を養ふの趣、幷に賊變來る時府中にて變に應ずる備の大意を錄し、食兵宗旨は農書輯略、同後語を橋邊氏に示し、是を鈔して專ら賊を防ぎ食を備ふるの旨を錄し、食兵宗旨續錄（本書は未だ原本を得ざるが爲め本篇に收採せず）は鄕村にて賊を防ぎ、變に應ずるの備を錄し、甘藷說は孝行芋の益多き事を示し、常平問答（是亦原本を得ざりし爲め收採せず）は漢の宣帝の常平倉に效ひて儲蓄を備へん事を錄し、農業全書約言（同上）は、宮崎氏貝原氏の撰せし農業全書の內、五穀其の外食を足す種類、衣を助くる種類等、切近の旨を約して之を錄し、農政問答は役人を撰み農政の大本たるべき旨を錄し、農政御下知問答（本篇に採收せず）鄕村農事錄附說は享保八年癸卯より農政興起し、鄕村へ新に諸下知を行はれし旨に追補して橋邊氏に示して之を錄し、民事紀聞は同名にて貞草二部を皆享保癸卯甲辰農政興起して、鄕村へ新に諸下知を行はれ

し旨に追補して、橋邊氏に示して之を錄し、民事紀聞附錄は享保十年己巳の冬より享保十一年丙午の春迄聞集し事を追補して之を錄し、民事紀聞附說は享保十一年丙午の十月より同十二年丁未の九月迄書調へ追補して之を錄し（以上二書未だ原本を得ざるに由り採收せず）受益談、同附記、同續錄、同續錄後語、同附說、同或問、同或問後語、同東語、同東語後語、同受益談後語、同節要（節要は收採せず）は享保十六年辛亥より同十七年壬子まで、追々の著述にて木庭作を停止し、山林繁茂し川筋水利を正し、田畠の耕作を厚くし、山田、山畠、段畠を開發し、公役銀を免許して、八鄕十分二の穗見免に改めんとの旨を錄す、足食談は享保十七年壬子の閏五月受益談に追補し、老病の床にて錄し、受益談に添へ置くとあり、陶山先生の著述總て三十六部の書は見る事を得たり、右三十六部の書は皆農政の爲、郡國保全の爲に著述せられし書なるべし、聖朝禁戒錄（收採せず）も右の聖語を鈔し國字に解かれし趣、專ら鄕村を司る役人の爲めに著述せられしと見えたり、此の外鄕村農政に關する

書は其の數多かるべけれども、某は未だ見る事少し、又鄕村農政の爲めに著述の書も某等が未だ見る事を得ざるもの多からん、旣に鄕村農政の爲めに著述の書も御郡役所に甚少かりしを、去る戊申年以來、追々に寫し增し、猶又去乙卯の冬九册を寫増して大概備る事を得たり、右三十六部の書、某等が偏見にて如何とも云ふべきやうなし、右の如く猥に書毎の趣意を書するも甚恐れありけれども、皆鄕村農政の爲め、國郡保全の爲めに厚く心を盡し、後の役人をして、其の志を續がん事を深く思想し給ひし事、諸書に明かなり、享保十七年壬子六月廿四日、七十六歳にて卒去の際に至る迄著述をなし、受益談を八幡宮に奉納ありし深意誠に恐感餘りありといへども、是を如何ともすべきことを不知、某ごとき凡俗無智の者當役を塞ぐ事恐れ多き次第なれば、せめて右數多の書を熟讀し、先生の著述を目錄に鈔して其件々を覺ん事を志すなり云々

以上中村愼允の備忘記に記する所に據て、鈍翁の著書の大體を知ることを得

べし、備忘記に記する日上覺書は二冊とあるも、本篇收採する所は、其の下卷の一冊のみにして、上卷を佚したるは、甚遺憾とする所なり、本書は正德二年に郡奉行所に差出したるものなれば、恐らくは同年の著作なるべし、土穀談は諸書に著作の年月を記さゞるも、正德三四年頃の作なるべしと信ず、同附錄は享保九年四月同附記は同年五月に著作する所なり、老農類語は享保七年の始に之を編輯し、同年四月の頃之を八鄉に頒布したるものなり、然れども本書は全然鈍翁の著作にあらざることは、其の序文に依て明なり、序文に記する所に依れば、本書は當時郡支配たりし某（序の末文及備忘記を見れば大浦忠左衛門なるべし）が鄉中にて、農事に鍛錬せる老農の言を聞き、紀聞八卷を作りて、鈍翁に言辭の繁多なる所を省き、意旨の混雜せる所を明にする樣、訂正の依囑を爲したるに由り、鈍翁は其の紀聞を基礎となし、人に口授して本書を編輯せしめたるものなりと云ふ、刈麥談は老農類語と同じく鈍翁の外親某（編者案ずるに中村氏の備忘記にある橋邊某氏なるべし）が筆受し

て翁の意見を記述したるものなるべし、告新錄は備忘記に記する所に依れば、正德二年奉行所へ差出したる六十一個條の覺書中にある八個條（旅人吟味に付ての）の拔鈔の如くなれども、本書の首節に「旅人吟味役所の衆中に當て八ケ條の覺書を著はし置たり、是は吟味役所より某に尋らるゝ事有る時の備にて、吟味役所に遣はしたるにてはなし、右兩樣の覺書（編者案ずるに兩樣とあるは、上記六十一個條の覺書と、此の八個條の覺書とを指すならん）の外題を、口上覺書を名付置けるに、旅人吟味役衆に當てし覺書の外題は、後に告新錄と改めたり」とあるを見れば、本書は六十一個條の覺書（即ち郡奉行所へ差出したる口上覺書）とは全く別物なるべし、甘藷說は中村愼允の備忘記には、著作の年月を記さゞるも浦瀨濟之氏の「甘藷の傳來と陶山先生」（對馬日々新聞第千九百四十二號）に據れば、享保九年の著とあり、勿論其の頃の著作なるべしと思はるれども、本書の末注に「此の書は曾て著はし置けるを後に刪り補ふなり」と附記しあるを見れば、鈍翁が本書を始めて著はしたるは、

夫の廿諸即ち孝行芋を對馬へ移植したる前後の事にして、本書は同島の經濟史上に少からざる關係を有するものならん(浦瀨氏の記事に詳なり)民事紀聞は是れ又鈍翁の執筆に成れるものにあらず、橋邊氏が鈍翁に問ひ尋ねて筆記したものなるが如し、備忘記に眞草二部ありとは、本書の末尾に記しあるが如く、眞の方は眞字、即ち漢文を以て記せるものにして、草の方は平假名を交へて書述べたる本書是なり、農政問答は何年の作なるや詳ならざれども、享保五年より同十一年までの間に成りしものなることは、鄕村農事錄に之を記せり、伊奈鄕農事錄は享保十一年、鄕村農事錄は享保十一年より翌年に涉るの著作にして、鄕村農事錄附錄は享保十二年に成れるものなり(中村氏の備忘記に鄕村農事錄附說は、享保八年に成れるもの丶如く記せるは誤なるべし)農書輯略は享保十二年の著作にして、同後語は翌十三年の著作なり、其の跋文に依れば本書は遺言に依て、八幡宮に奉納せんことを望みたるものにして、備忘記には只受益談のみを奉納したることを記せども、兩書共に奉

納したるものなるが如し、食兵宗旨は享保十四年に、橋邊氏が鈍翁に請ひて、農書輯略及其後語の要領を指示付箋して貰ひしを鈔錄し、翁之に食兵宗旨の題名を附したるものなり、訥庵文草は忠功忠節辨、幹利務財論、無信不立說、實名通字辨、農政興起論及知罪知量論の六篇より成り、何れも享保十三年の著作にして、同續集は木庭停止論及地方普請說の二篇より成り、同十四年の著作なるが如し、財用說は享保十五年に鈍翁の嗣子守正氏が翁に請ひ、諸書の要領に付箋し貰ひて、之を抄錄したるものなり、文中概ね重複の嫌あれども、參考の爲め之を收採せり、受益談、同附記、同續錄、同續錄後語、同附說、同或問、同或問後語、同東後は皆享保十六年の著作にして、附說、或問、同後語の三書は嗣子守正をして書寫せしむとあり、書寫とは單に成案を筆寫せしめしものなるや、若は大體の草案を示して執筆せしめたるものなるや明白ならず、受益談東語後語、受益談後語及足食談は何れも享保十七年の著作に成れるものなり、同年の著作中に受益談節要あり、是れは書名の如く全く受益談

の節要に過ぎざるを以て、本篇には之を收採せず、讀增田開地記は對州本山派の頭襟司某の述作せる增田開地記を讀んで、所感を述べたる一片の短文に過ぎざれども、鈍翁絶筆の著作なるべしと思はるゝなり、文中「六月七日に增田開地記を讀み……翌月十五日に稿を成せり」とある翌月は、其の月の誤寫にてはあらざるか、芳洲の撰文に係る墓誌を始め諸書皆鈍翁の歿年月を以て、享保十七年六月二十四日となしあるも、此の翌月十五日云々の語あるを見れば、七月十五日までは且に生存し居たるものなるが如し、然れども編者の原本とせる寫本は、往々誤字ありて正確ならず、今後に之を他本と對校するに遑なきが故に、且らく記して他日を待つ、又對馬日々新聞千九百四十四號に記載せる川本達氏の訥庵傳に依れば「享保十七年六月十五日に增田開地錄成る」とあり、是れは植字の際增の上に讀の一字を脫したるものなるか、開地記が開地錄とあるも疑はしければ、序に併せ記して參考に資す

本篇の遺著蒐集に就きては、友人犬塚勝太郎君曾て長崎縣知事として在任の

際、編者の爲めに大に斡旋の勞を取られ、當時同縣の事務官たりし秦豐助君（今現に德島縣知事たり）と與に鈍翁の遺著を百方探求して、本篇收採の三十二部を寫送せられたるは、編者深く其の厚意を感謝せざるを得ず、對馬嚴原中學校長中木博智氏及訥庵會副會長川本達氏（訥庵傳の著者）等又種々の便宜及注意を與へられ、殊に川本氏は對馬日々新聞に揭げられたる對州聖人陶山訥庵の略傳（同氏の大著訥庵傳の要領なるべし）を寄送せられ、本文執筆の爲めに有益の資料を與へられたるは甚多とする所なり

又理學博士渡瀨庄三郞君は其の著「元祿寶永年間に於ける對馬殲豬の事跡」と題する小册子（動物學雜誌第二十四卷第二百八十一號）の拔刷を寄せられ、且本篇の發行に關し、大に贊成の意を表せられたり、殲豬の事跡は鈍翁畢生の大事業にして、博士の此小册子は、本篇の參考書として、多大の價値あること言を待たざるなり

神戶高等商業學校教授石橋五郞氏は、往年對馬島廳に至り、鈍翁遺著の價値

を認めて、當時早く學友間に其の詳を報告せられたることあり、近世學界に於て漸く鈍翁の名を知らるゝに至りしは、石橋氏の力與りて大なりと云ふ、編者本篇を發行するに當り、特に此事を附記して、學界の爲めに石橋氏に謝す

大正三年九月　　　　　　　　瀧　本　誠　一

解　題　終

口上覺書

陶山鈍翁著

口上覺書　下卷

陶山鈍翁著

一　某先年平田類右衛門殿と同前に御役相勤候節、仕掛置候儀申上置候儀に付、當年八月以後御口上御覺書を以、類右衛門殿ト某に段々御尋被レ成候事共有レ之候内に、被二御聞一候は、當分見へ來り不レ申事にても、以後御僉議に及候儀可レ有二御座一と存寄り、□□□□之候はゞ、委く書述懸二御目一候得と被二仰付一、去年□八月公儀より被二仰出一御書付に、□巡檢使□□□士之趣に就て、國郡の治否悉く□聽に達する所に、御料私領の間其善政特に著しく聞ゆる處なく、大抵風俗衰へ政事煩く、四民一ッに困窮に及ぶ由被二聞召一御憂慮尤淺からざる處也、雖レ然御代始之日猶近く、且は思召御旨有レ之によりて、いまだ御糺問の事あらず、自今以後御料の御役人國郡の諸領主、凡大小の政事自分懈る處なく、四民各其生をいとしむべし、若他日に至りて舊弊猶改まる事なきにおいては、嚴に其御沙汰を經らるべき由被二仰出一者也と御書載被レ遊候、右御書付の御旨を謹て相考申候得ば、某共御郡方の御役旅人吟味方の御役相勤候節の儀に付、公儀御役人樣より他日御糺問に及候事有二御座一間敷とは難レ申、其節某を被二差出一候儀有二御座一間敷とは難レ極候故、御郡中の儀旅人吟味方の儀に付、公儀御役人樣御糺問可レ被レ遊哉と奉レ存候儀は、御糺問之御詞を設け、某御返答可二申上一と奉レ存候儀は、御返答の詞を立て一々

記し置き申し候、其の趣各より御郡中の儀御尋ね被レ成候、御返答のヶ條の内に致二書載一候事も有レ之御尋被レ成候、御返答のヶ條の内に不レ致二書載一事の御郡中に預り候儀十六ヶ條、左に書記し懸二御目一申し候

又御郡中の儀に付、某存寄り候事共有レ之候を、右十四ヶ條の奥に書記し候分八ヶ條六ヶ條にて御座候、當分見へ來り不レ申事にても、以後御僉議に及候儀可レ有二御座一と存寄り候事共有レ之候はゞ、委く書述懸二御目一候へと被二仰聞一候處之御返答にて御座候

一 對州の儀以前より石高の極め無レ之、御當家御代々對州領主へ被二成下一候御判物にも、對馬一圓と御書載被レ遊、正保冬年其節の對馬守より國繪圖に添へ被二差上一候帳面にも、村々の物成高計相見へ候て石高は書載無レ之、其後も石高の極め無レ之旨折々被二申上一候、然處寶永三年天龍寺青寧院住持越長老に對州以酊庵の輪番被二相勤一候節、其方への尋に當國は高一萬石の國と聞及候、彌其通にて候哉と被二相尋一候時、高一萬七千石程にて候と致二返答一たる由に候、又寶永五年高役金の儀に付、留守居役鈴木太郎右衞門差出し候書付にも、麥六千二百七十石程と有レ之候て其方申分とも違ひ、正保三年の帳面の趣とも違ひ、右の段々一致に無レ之候は如何樣の故に候哉と御尋被レ遊候時の御返答の案、正保三年對州の繪圖に相添へ差上候帳面に、籾麥の物成高六千二百六十九石七斗一升五合、籾四百六十六石六斗二升三合、麥五千八百六十三石九升二合と書載有レ之、對州にて籾を黑米に仕候大法を五合摺りと申し、麥を

精麥に仕候大法を七合舂と申候故、籾四百六石は黒米二百三石、麥五千八百六十三石は精麥四千百四石と相見へ、何れの國郡の石高も田は黒米の積り、畠並に伐り畠は大豆精麥之積りにて御座候と承及、對州の物成は二ッ五歩程にて、出來高之四分一程を納候段以前より申傳へ、延寶九年公使御巡檢被レ遊候節、郷村の役人へ御尋の御返答にも其通に申上げ、籾麥の物成六千二百六十九石を二ッ五歩程の免にいたし候時は、高二萬五千七十六石程と相見へ、籾を黒米にいたし麥を精麥にいたし候時は、一萬七千廿二石程と相見へ候故、越長老御尋の御返答に一萬七千石程と申上候、對州の郷村石高の御極め無二御座一候故、某肄養父の領分國郡の外の玄蕃竿高一萬千八百卅七石と相極り居候樣に、其數を極候て可二申上一樣無二御座一、大數を一萬七千石程と申上候、某郡役を相勤候節、郷村の樣子を考見申候に、在附き百姓農業の時節當分の食用の爲に山海を働候儀無二御座一、作所之養ひを心の儘に仕り、土を耕し草を拔くにも手間へ無レ之候得ば、穀物の出來高增し候て、其百姓納候定物成は出來高の十分一程に當り、在附き惡き百姓農業の時節、當分の食用の爲に山海の働を仕り、作所の養ひを存の程に不レ仕、土を耕し草を拔き候も手間有レ之候得ば、穀物の出來高減り候て、其百姓の納候定物成は出來高の三ッ四ッ程にも當り候故、穀物の出來高其年の豐凶に依り、多少有レ之のみにて無二御座一、百姓在附の好し惡しに依り段々增減有レ之候に付、以前より四分一の年貢と申傳へ候ても、年貢の高を以石高を積り立て候ては、大分の違有レ之筈にて御座候、百姓在附の儀十人は十人共に在附好きと申す村も有りかね候筈にて御座

候得共、十人に八九人在附惡く候は、百姓不在附なる村と申すにて可レ有ニ御座一候、在附好き村多く候ては、定免の年貢增し不レ申候ても、惣出來高の增し候分少の儀にては有ニ御座一間敷候、在附惡き村多くては、定免の年貢減り不レ申候ても、惣出來高の減り候分是又少の儀にては有ニ御座一間敷候、對州は田畠の在り所谷間は磯邊に打散り居申候故、作の出來を檢分仕候に手間入り多く、木庭の儀は山々に有レ之作所にて御座候故、出來穗の檢分猶以手間入り多く、檢分に日久く掛り候ては、出來居候作物の取納め致ニ延引一、百姓の難儀に成り、其上壹ヶ年二ヶ年など致ニ檢分一候ても、其年何分程の出來の年と申す儀分明に難レ極、數年の間年々の出來を委細に致ニ檢分一候ては、百姓甚及ニ難儀一候勢と相見へ、ヶ樣の障り御座候に付、國中の村々內檢の極めも無ニ御座一、當役を勤候奉役村下知人とても、其鄕其村の石代を存じ不レ申。只定物成の分を取り立て候分相納め、損毛の年には委細に無ニ御座一候ても有增しの檢分有レ之、郡奉行了簡の上にて捨りを申付ける事に御座候、左樣御座候とて、公儀御役人樣より對州石高の大數を申上候得と被ニ仰付一候時、大數をも不レ存由申上候はゞ、重て御不審に、何れの國郡とても玄蕃竿高と內檢高とは多少の違有レ之、內檢高と其年の今高も多少の違有レ之、石高の相定り居不レ申段は對州のみにて無レ之候、對州より正保三年に公儀へ申上置候物成高は、諸國の玄蕃竿高公儀へ相知れ居候と同前之事にて、延寶九年に上使御巡檢の時、對州鄕村の役人より二ッ五步の免と申上置候故、正保三年の帳面に相見へ居候成高を、二ッ五步の免に被レ成候ては、御尋に不レ及石高相知れ居候得共、

御試に御尋被レ成候物成の高と免租之程は相知れ居候て、石高は大數をも不レ存と申候段、郡奉行を勤候者の可レ申事にて無レ之、御不審に被二思召一候と御座候時、御返答申上候詞有二御座一間敷候、越長老の御尋も公儀御役人樣の御尋と同前に奉レ存候故、右の通り御返答申上候、先年開板仕候廣益節用集と申す書籍に、對馬二萬五千石と記し候は、正保三年公儀へ差上候帳面に、物成六千二百六十九石と書載有レ之候段を承及、對州鄉村の物成は二ッ五歩程の免に當り居候段を聞傳へ、右の物成黒米精麥の高にて無二御座一籾麥の高にて御座候段を存じ不レ申、六千二百六十九石に四を掛け候て、大數を二萬五千石と記し候樣に相見申候、元祿十一年對州の國繪圖を相認候節、正保參年の例の通り物成高の帳面を相添へ差上候樣に被二仰付一候事も可レ有二御座一哉と奉レ存、其年の物成高を相極め申候所、籾麥の物成高六千三百廿四石九斗、籾七百一石六斗七合、麥五千六百廿三石二斗九升三合と相見へ、籾は正保三年よりも增し、麥は正保三年よりも減り居申候、寶永五年に高役金の儀に付、對馬守留守居鈴木佐次右衛門より打上河内守樣御用人長濱次左衛門殿へ差出し候書付には、對州雜穀高左に記レ之一有レ之、次に對州麥六千二百七十石程年々の過不足を並しにて如レ此と書載仕り置申候、雜穀と申候は、麥、粟、蕎麥の總名にて御座候處、雜穀高を記し候とて麥計を記し置申候、又麥六千二百七十石程と記し候は、正保三年に差上候帳面の控を考へ候て記し候と相見へ、正保三年の書付は籾麥を合せたる高にて御座候を、麥計の樣に記し置申候、又正保三年の帳面に六千二百六十九石と記し置候は、村々物成之總高

と相見へ居申候處、雜穀高と書付候ては出來高と相聞へ、物成高とは相聞へ不レ申候、又正保三年の帳面には其年に相極候物成高を記し候故、六千二百六十九石七斗一升五合と其數を詰め候て記し置候處、正保三年の帳面の控を考へ候て記し候と相見へ居申しながら、年々の過不足を並し候て如レ此と書載仕候、佐久右衛門新村田畠の樣子を委く考へ不レ申所より、右之通りに書載仕たるにて可レ有二御座一候

一對州には京升の外伊奈十合と申す升有レ之たる由に候、寛文八年に其節の對馬守より公儀へ申上げ被レ置候麥請取の升は、右伊奈十合と申す升の儀にて候哉と御尋被レ遊候時の御返答の案

某共承り傳へ居申候は、昔の亂世には八郷にて用ひ候升一樣に無二御座一、其後京升一升三合九勺四才入りの升に相定り候は、上縣郡伊奈郷の升を用へての儀に御座候、依レ之其節は右の升を伊奈十合と申し、其後右一升三合九勺四才入りの升を、京升一升二合五勺入りの升に改候時も、以前よりの名にて伊奈十合と申し、其州の儀黒米と精麥を年貢に納候にて無二御座一、籾と麥を年貢に納め升の上を中高にいたし候て量り、一俵を四斗入りと極め、寛文十一年に郷村地面の仕分有レ之候節、役人共年貢の俵を京升にて量り極めさせ候處、右二合五勺の違と、中高に量り候違にて、一俵の升目京升五斗七升有レ之候に付、其節籾麥の升を改め一升升は京升一升四合二勺五才入り、一斗升は京升一斗四升二合五勺入に相極め、一斗升四盃にて京升五斗七升有レ之積りにいたし、中高に量り候仕來りを止め申たる由承り傳へ居り申候、元祿十五年に某共勤役の節僉議仕候は、國中に兩樣の升を用候段如何敷相見へ、殊に五斗七升入りの

俵は百姓共の持運も手重く候に付、京升五斗入りの俵に改候て、以前より五十俵納め來候村は五十七俵納めさせ、國中一同に京升計を用候段可レ宜との僉議にて、其通りに相改り申候、其節は藏本の役人共と、年貢を納め來り候村々の役人並に百姓と立合候て、年貢の俵を量り立て彌五斗七升有レ之候段を双方見屆け候上にて、五十俵を五十七俵と仕らせ候

一　對州の鄕村にて以前損毛の年に年貢の捨りを請候格式は、三ッ捨り迄は捨りを不レ請、三ッ一歩捨りより捨りを請け、八ッ九歩捨り迄は皆無に準ぜず、九ッ捨りより皆無に準じ候格にて候處、其方共郡役に成り候て其格を改め、物成の一倍出來居候迄は捨りを不ニ申付一、物成の一倍に足り不レ申分を捨りに申付け、物成の程出來居候より皆無に準じ候由に候、右の格に改り候て捨り候請方增し候處も有レ之減り候處も有レ之候得共、減り候分量を增し候分量と考へ合せ候ては、減りの分量多きと相見へ候、捨りの請方以前よりも減り候て、領主の勝手に宜く、百姓の勝手に不レ宜樣に仕候は、如何樣の僉議にて候哉、其外捨り檢分の格を改め候儀も有レ之候と御聞被レ成候、其樣子委く申上候得と御尋被レ遊候時の御返答の案

某共郡役を勤の節捨り候格を改め候僉議の趣は、譬ば百石物成之村々二百四十石出來居候時は、二ッ五歩の免にいたし候ての出來まへ、四百石の內百六十四石捨り候故、四ッ一歩捨りにて御座候、四ッ一歩捨りより捨りを請候へば、右二百三十六石の內より五十九石納め、殘り百七十七石村中作人の得

分に成り申候、然ば同じ百石物成之村之內にて四ッ捨りの村は、年貢の殘り三十七石少く、四ッ一歩捨りの村は、年貢の殘り三十七石多く、其段不レ宜樣に相見へ申候、譬ば百石物成之村に、八十四石出來居候時は、出來まへ四百石の內參百十六石捨り候故、七ッ九歩捨りにて御座候、七ッ九歩捨り迄は皆無に準じ不レ申候へば、右八十四石之內より二十一石納め、殘り六十三石村中作人の得分に成り申候、百石物成之村に、八十石出來居候村は、出來まへ四百石の內參百二十石捨り候故、八ッ捨りにて御座候、八ッ捨りより皆無に準じ候得ば、右の八十石直に村中作人の得分に成り申候、然ば同じ百石物成之村の內にて、七ッ九歩捨り之村は得分十七石少く、八ッ捨りの村は得分十七石多く、其段不レ宜樣に相見へ申候、三ッ捨り迄は捨りを不レ請、三ッ一歩捨りより捨りを請け、八ッ九歩捨り迄は皆無に準ぜず、九ッ捨りより皆無に準じ候て不レ宜候も、右同前の事に御座候、依レ之某共勤役の節其格を相改め、物成之一倍出來居候迄は捨りを不ニ申付一、物成の一倍に足り不レ申分を捨りに申付、物成之程出來居候より皆無に準じ申候、右の通りに捨りの格を相改め候段、百姓の勝手にも宜き儀と相考へ候故は、某共改候格にては、四ッ一歩捨りより六ッ六歩捨り迄は、段々百姓の損分と相見へ候得共、六ッ七ッ歩捨りより九歩迄は、段々百姓の得分と相見候故にて御座候、以前の格百石物成之四ッ一歩捨りは、四十一石捨り候處、某共改候格にては捨りを請け不レ申以前の格、百石物成之六ッ六歩捨りは六十六石捨り候處、某共改候格にては、六十四石捨り、右の分は百姓の損分に成り、以前の格百石物成之六ッ七歩捨りは

六十七石捨り、某共改候格にては六十八石捨り、以前の格百石物成之七ッ五歩捨りは七十五石捨り、七ッ九歩捨りは七十九石捨り候處某共改候格にては、七ッ五歩捨りより皆無に準じ、右の分は百姓の得分に成り申候、惣體の人情入り高多き時の餘分を、手前の心にて引除け置き、入り高少き時の差足しに仕候儀は難ㇾ成事に御座候故、輕き損毛の年に捨りの請け方多くよりは、重き損毛の年に捨りの請け方多候段、百姓の勝手にも可ㇾ宜事に御座候、當作損毛の檢分の儀、以前の格は隣鄕の鄕侍並に郡方手代足輕目檢分の程を、郡奉行又は目付役吟味の上にて相極め候も有ㇾ之、目檢分入札の並しにて相極候も有ㇾ之候、目檢分の功不功にて出來穗の見立て一樣に無ㇾ之候處、不功なる奉行目付吟味仕候ては、功者の見立てを用ひ不ㇾ申、不功者の見立てを用申候儀も可ㇾ有㆓御座㆒候、又功者不功者の見立てを並し候も宜しかる間敷事に御座候、又功者に計任せらるも、其者の心に檢分を請け候村の百姓、檢分人の見立て辛く候とて怨み可ㇾ申を迷惑に存じ、目に見候所は用ひ不ㇾ申、心にて出來を減じ捨りを增し候も有ㇾ之、又郡奉行目付役の心に檢分人百姓の悅候樣に仕り、年貢の多く捨り候儀は構ひ不ㇾ申樣に可ㇾ存候と相考へ、目に見候所は用ひ不ㇾ申、心にて出來を增し捨りを減じ候も可ㇾ有ㇾ之候故、功者に計任せ候も宜しかる間敷事に御座候、依ㇾ之某共郡役の節は右の仕形を相改め、捨り檢分を請けし村の品麥其年の上中下の出來を見分けさせ、譬ば上の出來の處十分の三、中之出來の處十分の五、下の出來の處十分の二と見分け、上中下の三所にて、上の中中の中下の中と相見へ候處を一步づつ步刈いた

し、歩刈の穗を日に曬し、雨天の時は火に炙り風に當て候て年貢拵に仕らせ、譬ば上の出來一歩の分三合有ㇾ之候得ば、一歩五勺の蒔目に五倍の出來と知り、中の出來一歩の分二合有ㇾ之候得ば、三倍の出來と知り、下の出來一歩の分一合有ㇾ之候へば、一倍の出來と知り、其村の畠の蒔目高の内十分の三は蒔目の五倍の出來、十分の五は蒔目の三倍の出來、十分の二は蒔目の一倍の出來と極め、其村畠坪の蒔目、新地仕付、水損地捨りの差引有ㇾ之候高にて、其村其年の畠麥の出來高を知り、出來高の内より蒔目高の分を引、木庭麥は其郷の奉役目檢分の出來高帳を出させ、出來高の内より其村木庭坪の蒔目仕付地捨りの差引有ㇾ之候、上畠廻之分を引き、畠麥の出來高に合せ候て捨りの程を極め、田作の捨り檢分は畠麥捨り檢分の格に仕らせ、出來高の内より蒔目高の分を引き不ㇾ申候て、捨りの程を極め申候、木庭の上畠廻しと申候は、木庭の蒔目高の内にて、毎年蒔付し法に當りたる蒔目の儀にて御座候、對州の百姓畠木庭を請込候には、上々上中下の所と、山奥の畠木庭、海邊の畠木庭、山附の畠、川寄りの畠を大方同じ程に請込み、畠の損毛重き年に木庭の損毛輕き儀有ㇾ之、山奥の損毛重き年に海邊の損毛輕き儀有ㇾ之、山附きの損毛重き年に川寄りの損毛輕き儀有ㇾ之、損の輕重年に依り所に依り段々移り替り候ても、百姓共其所にて地面を請込居候に付、面々の作所の出來を合せ候ては、捨りに當り候程の損毛の年は少く、田の儀多くは海の近邊と川寄りの地卑くなる所に有ㇾ之、元より田方甚狹く御座候得ば、田坪を數ヶ所にて請込候儀無ㇾ御座、此所は致ㇾ損毛、彼所は損毛不ㇾ致と申儀、畠木庭の樣に無ㇾ

御座候て、田に損毛の捨りを請候年は、畠木庭に損毛の捨りを請候年よりも多き筈と相見へ、少の田成物に損毛の捨りを請候とて、秋作取り納め麥作仕付の最中に捨りの檢使を申請け、檢使往還の道筋の村に迄人馬の費有レ之候段不レ宜候に付、田作の捨りを極め候には蒔種を引き不レ申、捨りに當り候年の少き樣に仕り候方可レ宜と致二僉議一、殊に對州の百姓は味噌、酢、醬油の糀をも麥にて拵へ、麥の用ひ方多く御座候故、麥作の捨りを極め候には、左樣の所をも致二了簡一、籾は種用年貢の外は飯米に仕る迄にて御座候故、其年の出來物成之一倍有レ之候得ば、年貢と種用を引除け候上にも、少々は食用有レ之筈にて御座候と相考へ、蒔種を引不レ申候て捨りの程を極め申候、歩刈にて畠麥の出來田作の出來の程を極候段も慥なる儀にて無二御座一、上中下の出來の分數を見立て候儀も、上中下の出來の內にて、上の中中の中下の中を見立て候儀も、目檢分に可レ仕外無二御座一、譬ば其村其年の畠麥上の出來十分の三、中の出來十分の四、下の出來十分三にて候を、或は上の出來十分の二、中の出來十分の三、下の出來十分の五と見立て候得ば、檢分甘く候て百姓の得分に成り、或は上の出來十分の五、中の出來十分の三、下の出來十分の二と見立て候得ば、檢分辛く候て百姓の損分に成り、又上の中中の下下の下を、上の中中の中下の中と見立て候て歩刈仕候得ば、歩刈甘く候て百姓の得分に成り、上の上中の上下の上を、上の中中の中下の中と見立て候て歩刈仕候得ば、歩刈辛く候て百姓の損分に成り、右の見立ての不レ慥所も、以前の檢分の不レ慥所も同じ事にて御座候得共、同じ不レ慥內にて檢分の道筋委く相分れ居候樣に

仕り置き可ㇾ申儀と致二僉議一候て、以前の仕形を改め申候、且又、畠木庭麥蒔の大法を一歩五勺蒔と極め、檢地の帳面物成之帳面にも、一歩を五勺蒔、十歩を五合蒔、一畝を一升五合蒔、一段を一斗五升蒔、一町を一石五斗蒔と記し置き候得共、必大法の通に蒔付け候にて無二御座一、其上木庭は畠の平なる所の樣に種を蒔込得不ㇾ申、其村に譬ば上々木庭廿石蒔有ㇾ之、法の通り十に分け置き、十年に一遍作ㇾ之候得ば、毎年二石蒔に當り、上木庭廿四石蒔有ㇾ之、法の通り十二に分け置き、十二年に一遍作ㇾ之候得ば、是又毎年二石蒔に當り、中木庭卅四石蒔有ㇾ之、法の通り十七に分け置き、十七年に一遍作ㇾ之候得ば、是又毎年二石蒔に當り、下木庭五十石蒔有ㇾ之、法の通り廿五に分け置き、廿五年に一遍作ㇾ之候得ば、是又毎年二石蒔に當り、合て八石蒔にて御座候得共、何れの村も多くは法の通りより早く伐り明け候て作り申候故、毎年八石蒔に當り居候を、十五六石蒔も廿石蒔も伐り明け候て蒔付け、十五六石蒔伐り明け候ても、一歩五勺蒔の積りには蒔込得不ㇾ申、十五六石蒔の所に八石程蒔候時、蒔目は其村木庭の蒔目高の上畠廻しに當り居候ても、蒔候壤は一倍程も廣き筈にて御座候、木庭の蒔目一歩に五勺迄は蒔き込不ㇾ申候を、五勺蒔込候にいたし、其村の木庭上畠廻しの蒔目高の分を、畠の蒔目高同前に引候て出來高を極め候段、百姓に請け不ㇾ申筈の引け方を請けさせ樣に相見へ申候得共、譬ば其村の木庭上畠廻しの蒔目高八石、木庭の物成高十六石と相定り居候村、八石蒔の壤に麥作を仕付け、其年凶年にて一歩に一合五勺並しに出來、木庭高にて廿四石出來居候時は、上畠廻しの蒔目八石を引不ㇾ申候ても、

十六石の物成の一倍に八石少く、又十六石蒔の壤に麥作を仕付け、凶年に一歩に一合五勺並しに出來、
木庭高にて四十八石出來居候時は、上畠廻しの蒔目八石を引候ても殘り四十石有レ之、十六石物成之一
倍に八石多く、何れの村の木庭も多くは法の通りより早く明け候段、右申上候通りにて御座候故、郡
奉行目付役相極め候歩様し之畠麥出來高帳の升目と、其鄕の奉役目檢分の木庭麥出來高帳の升目の上
にて、畠の蒔目の格に木庭の蒔目をも引き、畠木庭の出來を一ッに合せ、捨りの程を極候段不レ宜とは
可レ難レ申候、木庭の捨りを畠同格に歩刈にて極め不レ申候故は、木庭歩刈の壤險く候得ば、損毛は輕く
相見へ候ても、種蒔付の粒數少く候處より、損毛の程よりは歩刈の升目少く、歩刈の壤穩に候得ば、損
毛は重く相見へ候ても、種蒔付の粒數多く候處より、損毛の程よりは歩刈の升日多く、又同じ地位の
木庭にても、木長じ候て明け候木庭は灰の養ひ厚く、木長じ不レ申前に明け候木庭は灰の養ひ薄く候所
より、損毛の輕重の外に別て出來の多少有レ之、尤畠にも蒔付の多少養ひの厚薄有レ之儀に御座候得共、
畠の分は平地にて檢分の手間入り、木庭程には無レ之、木庭は廣き山々に打散り居候に付、檢分に甚手
間入り、損毛の村數多き年二組三組などにて致二檢分一候ては、上中下の出來の分數を見極め、上の中
中の中下の中を見詰候に、日數多く掛り候筈と相見へ候に付、一鄕切りに其鄕の奉役兩人を二組にい
たし、目檢分にて見極させ候外有二御座一間敷と僉議仕候故にて御座候、其年木庭麥の損毛は畠麥の損
毛より輕く候と申し、重く候と申す儀大體は相知れ候に付、畠麥損毛歩刈の樣しに成候上は、奉役木庭

麥を目檢分にいたし候も、其鄉の內にての穗見之功者を召連れ、念を入れ見屆け可ㇾ申候故、本庭計を春役の目檢分に任せ候段、疎略なるとは可ㇾ難ㇾ申候、且又洪水にて畠麥を流し候は、洪水の掛り不ㇾ申畠に出來居候分を極め候上にて、洪水の掛り候畠之蒔目を考へ、流れ捨りたる程を知り、其分を引き候て畠麥の出來高を極め、本庭麥目檢分の出來高に合せ候て捨りを極め候格に僉議仕り置き申候

一　對州の鄉村に損毛の捨りを請け候時、出來高の內より蒔種の分を引候て捨りの程を極候段、其方共郡役の節新規に仕りたる由に候、又本庭を法の通りより早く明け、其村の本庭上畠廻しの高、譬ば廿石蒔と相見へ候に現種五十石蒔付置候ても、損毛の捨りを極候節、蒔種を引候にて廿石ならでは引不ㇾ申、蒔種五十石の內卅石は蒔付無ㇾ之分に仕たる由に候、又其方共郡役の初比損毛の捨りを極候に、畠に損毛有ㇾ之候て本庭に損毛無ㇾ之候得ば、損毛有ㇾ之畠の方にて捨りを極候處、勤役中比より畠本庭の出來を合せ候て、捨りを極め申たる由に候、又其方共郡役の初比は鄉損毛の捨りを申付候處、勤役中比より村損毛に計捨りを申付たる由に候、又以前は田作の捨り檢分の節、五ッの免にて斗代を立て捨りを極め、穗見所の田物成をも五ッの免にて納めさせ候を、其方共郡役の節田の免も畠同前に二ッ五步の格に仕り、穗見所の田は三ッの免に仕りたる由に候、又以前よりの格穗見所の畠本庭は三ッの免にて物成を納させ、二ッ五步の免と申傳へたる大法を用ひ不ㇾ申、其方共も其通りに仕り置き申たる由に候、又麥作の捨り檢分の時節相過候後に、洪水にて畠麥を流し候は、捨り檢分を願出候ても檢使を不ㇾ

差下ニ捨りを不ニ申付ニ候段、其方共郡役の節僉議の上にて相極め申たる由に候、右段々の僉議の様子委く申上候得と御尋被ㇾ遊候時の御返答の案

麥作損毛の捨りを申付候時、出來高の內より蒔日の分を引き候て捨りを極め候椿、某共郡役の節より初め候段御聞屆被ㇾ遊候通りの儀に御座候、二百餘年以前田畠の名目を改候て、上々田上々畠は一町を一間と名付け、蒔日は田一步に三勺三才、蒔畠一步に五勺蒔に立て、上々田一間は一石蒔、上田一間は一石五斗蒔、中田一間は二石蒔、下田一間は三石五斗蒔、上々畠一間は一石五斗蒔、上畠一間は二石蒔、中畠一間は三石五斗蒔、下畠一間は十石蒔と定め候は、蒔種を引除け候作得、大體上々田上々畠一町の作得程に有ㇾ之、田畠を一間と定め申たると相見へ申候、二ッ五步の免四分一の年貢と申傳へ候も、蒔種を引除け候積りに不ㇾ仕候ては其法不ㇾ慥、譬ば上々田一間に籾廿石出來候年に一石を種用に引き、五石を年貢に納候得ば、作人の得分十四石有ㇾ之、二ッ六步の免に當り申候得共、下田一間に籾廿石出來候年に三石五斗を種用に引き、五石を年貢に納候へば、作人の得分十一石五斗有ㇾ之候て三ッの免に當り、上々田も下田も同格の免と申候ても、下田の免は上々田の免より四步程高く當り、上々畠一間の蒔日一石五斗、下畠一間の蒔日十石と相定り候は、下畠に年々耕作仕候ても出來甚少く候に付、十石の內を半分作り、半分は荒し畠に仕置候て地力を休め、上々木庭より下木庭迄段々蒔日は相增し候ても、木庭一間を每年二石蒔づつ作り候格に定り居候と同じ道理と相見へ、上々畠一間に麥廿石出來候

年一石五斗を種用に引き、五石を年貢に納め候得ば、作人の得分十三石五斗有レ之、二ッ七歩の免に當り候得共、下畠一間に麥廿石出來候年五石を種用に引き、五石を年貢に納候得ば、作人の得分十石有レ之候て三ッ三歩の免に當り、上畠も下畠も同格の免と申し候ても、下畠の免は上々畠より六歩程高く當り候故、二百餘年以前何町と申す名を何間と改め、年貢を二ッ五歩の免に定候時の法は、田畠木庭共に蒔種を引候殘り之四分一を年貢に納候筈にいたし置き申たるにて可レ有二御座一と相考へ、先役の仕り申たる事にては無二御座一候得共、出來高の內より蒔目の分を引候て捨りを極め申候、田作の方計先役より仕來の通り蒔種を引き不レ申候て捨りを極候は、前の御尋の御返答に申上候通りに僉議仕りたる故にて御座候、又損毛の年に物成之捨りを相極候に、蒔種の引け方多く御座候得ば、殘り高其分程少く成り、或は年貢の捨りに及不レ申年も捨りに及び、或は卅石捨り候筈の村にて六十石も捨り申す積りにて御座候得共、譬ば木庭上畠廻しの蒔目廿石の物成四十石と相定り居候は、廿石蒔に當て申したる物成と相見へ、每年廿石蒔伐り明け、種の十倍二百廿石程出來候木庭を、每年五十石蒔伐り明け、早く明け候所より種の六倍出來候ても、參百五十石程も出來、常の年に五十石蒔の出來の內より物成を納候と申す儀無二御座一候て、凶年の捨りの算用計五十石蒔の格に仕り可レ申道理有レ之間敷事と僉議仕り、現蒔種如何程多く蒔付候ても、捨りの算用に蒔種を引候ては、上畠廻しの蒔種の分計引申候、又畠に損毛在レ之候て木庭に損毛無レ之候時、畠の方計にて捨りを請させ候は、某共郡役に成り候初比一度有レ之

たる事に御座候、其年は畠方大損毛之年にて御座候得共、木庭の伐り明け多く、損毛も畠程に無レ之村にては、畠木庭の出來を合せ候時捨りに當り不レ申候故、百姓の難儀を考へ候處より畠計にて捨りを極め申候、然共右の格に定り候ては畠麥、如何程出來好候ても、木庭麥出來惡敷候て捨り檢分を願出、木庭麥如何程出來好候ても、畠麥出來惡敷候はゞ、是又捨り檢分を願出て、捨り檢分を請け候年多く成り、殊に畠木庭を引分け候て捨りを請させ不レ申候時は、百姓の難儀甚き筈と申すにても無二御座一、飢に及候者は飢飯米を請候格有レ之、其上畠木庭の出來を合せ蒔種の分を引候殘り高、物成之一倍に足り不レ申分を捨りに申付候ては、甚き難儀と可レ申樣無二御座一候故、其以後の損毛の捨り算用には、畠木庭の出來を合せ候て出來高を極申候、又郷損毛に捨りを請け候儀以前も希に有レ之たる由相知れ居申候に付、某共當役の初に僉議仕候は、其村の惣體にて捨りを請けさせ候ては捨り無レ之、作人も村並の捨りを請候段不レ宜候故、其村中にて捨りに當り候作人計相應の捨りを請させ可レ申事と僉議仕候て、其通りにいたし候事一ヶ年有レ之候、然共其後又僉議仕候は、御損毛の格相立て居候ては、譬ば一村三十人の百姓の内、二人三人御損毛の者有レ之候ても、捨り檢分の儀を申出て少計の捨りに檢使を請け候とて、其村幷に檢使往來の道筋の村々迄人馬の費有レ之段不レ宜、以前村損毛目檢分の時さへ、其村の畠の内にて郷侍、郷足輕の領、社領、寺領等を見分け候に手間入り有レ之候所、其村の百姓の内にて捨り檢分を願出候者の作所數ヶ所に打散り居候を、面々請け込み坪々にて致二檢分一候は猶以手間入り多く、御損

毛の村數多有レ之年は、檢分の力難レ屆筈と相見へ、殊に其所其年の氣運にて、年貢の捨りに當る候程の損毛有レ之たるにて無二御座一、作人の仕形疎略に候て御損毛に成り候事も有レ之、氣運人事の兩樣は一々に吟味難レ成、吟味に不レ及捨りを請けさせ候ては、中分以上の年にても捨りに當り候作人有レ之筈と相見へ、右の次第御損毛の捨りを請させ候て不レ宜所にて御座候、村損毛に計捨りを請候格に成候ては、耕作に精を出し候百姓共所其事の氣運にて、御損毛に逢候時捨りを請け不レ申候段不レ宜事と相見へ申候得共、左樣の百姓は常の在附も好く、親類緣者組中村中の介抱も有レ之、差當りたる損失には奉役村下知人吟味の上にて、其年其者の公役銀の高を減じ、公役の勤方を免じ候て、鄕中村中より救はせ□□□御座候故、御損毛に捨りを請け不レ申候とて、耕作に精を出し候上百姓身體衰へ候と申す程の儀は無レ之筈にて御座候、不精なる下百姓御損毛に捨りを請け不レ申候て、百姓の勤難レ成名子の部に入り候はゞ、其者の請持居申たる地面を、村中の次男又は名子の內にて耕作に精を出し候者に請込せ候段、却て可レ宜事に御座候、右の通りに僉議仕候て、御損毛に捨りを請させ候儀を相止め申候、又先役よりの仕來り田作の捨り檢分の節、五ッの免にて斗代を立て捨りを極め、穗見所の田物成をも五ッの免にて納めさせ候を、某共郡役の節田の免も畠同前に二ッ五分の格に仕り候は、五ッの免と申す儀慥なる申傳へにても無二御座一、以前郡役を勤候者一通りの不了簡にて申出したる事にて可レ有二御座一と僉議仕候故にて御座候、某共郡役の節鄕村所々にて田物成之樣子を致二吟味一、此村にて田作中分の出來の年に、一人まへに

籾を何俵程取り候哉と相尋、出來高と物成を考へ見申候に、甚高免なると申候村は三ッ程に當り、免の輕きと申す村は一ッ二ッの間に當り居申候、百姓の儀役人より作物出來高の樣子を尋候得ば、免を上げ物成を增し候心にては無レ之かと氣遣候に付、譬ば中分の年に籾五俵取り物成一俵納め候百姓、有りの儘に五俵取り候と申候ては、一俵の物成五分の一に當り、三俵四俵取り候と申候ては、一俵の物成三分一四分一に當り候と心得、五俵取り候を四俵又は三俵と申す樣子に相見へ候故、百姓の中分にて高免の田、中分の年の物成三ッに當り居候と相考へ候て、實は二ッ五歩に當り居可レ申候、然所以前の郡役の內より田は五ッの免と申す儀を申出し置候は、田作をも畠作同前に二ッ五歩の免と申す法を用ひ、捨り檢分の節二ッ五歩の免にて斗代を立て候ては、年貢の捨りに當り候年多く有レ之、少計の田作に捨り檢分の儀を切に申出で、麥作仕付秋作取納の最中に、人馬の費相增し候段不レ宜と考へ申たる故にて可レ有二御座一候得共、其分の事計にて田は五ッの免と申す法を立て候段如何敷相見へ、穗見所の田を五ッの免に仕り候事も、右田作の捨りの格より出申たる儀と相見へ、是又如何敷事と致二僉議一、田作の捨り檢分にも二ッ五歩の免にて斗代を立て、穗見所の田も穗見所の畠木庭と同格三ッの免に仕り申候、左樣御座候ては、田作の捨り檢分を願出の村、其以前よりは多く可レ有レ之事の樣に相見へ申候得共、五ッの免にて斗代を立て候節は、出來穗の目檢分甚甘く、麥刈の樣しに成り候ては、以前の目檢分の樣成大違ひ無レ之故か、二ッ五歩の免にて斗代を立て候故、以前捨りを請け不レ申年も捨りを請け候て、

田作の捨り檢分以前より多く成り候と申す儀も無ニ御座一候、又穗見所三ッの免と申す法は、以前の郡役の時より始り申たるにて無ニ御座一候、久き古法にて可レ有ニ御座一と相考へ申候、對州の郡役所に有レ之記錄帳面等は五十年以來の書き物にて、其以前の儀は相知れ不レ申、朝鮮の申叔舟と申す者嘉吉三年日本への信使の節、書狀官にて致ニ來聘一日本の樣子を見聞仕り、歸國の後編修いたし候海東諸國記と申す書籍に、對州の郷村年貢納め方の儀を記し置申候、其趣は郷村の地頭每年其所の作毛の出來を致ニ檢分一、百姓に出來高の三分二を請させ、三分一を地頭の方に取り候て、又其内三分二を領主に納め、自分に三分一を致ニ所務一候由相見へ申候、右の趣にては百姓より出來高の九分の三を納め申たるにて御座候得共、定て其節も蒔種を引き候て出來高を極め申たるにて可レ有ニ御座一候故、蒔種を引候九分の三は、蒔種を加へ候十分の三にも當り可レ申候、然ば穗見所の畠木庭三ッの免と申候は、古法にて御座候と相考へ、殊に其格不レ宜と相見へ候所も無ニ御座一候故、穗見所の分は田畠木庭共に先役仕來りの通りに仕り置き申候、郷村に穗見所有レ之候ては年々に檢使罷下り人馬の費有レ之候故、先役の心にも穗見の免は定免より少く高く、百姓の心に定免にて請込候方勝手に宜きと存候樣に仕り置き候方可レ宜と存じ、定免の畠木庭の捨り檢分は二ッ五歩の免にて斗代を立て、穗見所の畠木庭の免は三ッの免に仕り置き申たるにて可レ有ニ御座一と相考へ、定免の所の捨り檢分には、蒔種を引候て出來高を極め候格にいたし候得共、穗見所の檢分には、蒔種を引不レ申候て出來高を極め、惣出來高より三ッの免にて物成を

納めさせ、穗見所の畠木庭の格は、全體先役よりの仕來りの通りに仕り置き申候、又畠麥の捨り檢分相濟候後に、洪水にて畠麥を流し候は、捨り檢分を願出候ても檢使を不ㇾ差下ㇾ捨りを不ㇾ申付ㇾ候段、差當り百姓の難儀を考へ不ㇾ申仕形の樣に相見へ申候得共、實は百姓の爲に宜き事にて御座候僉議仕り置き申候、對州の儀邊土の小國にて隣國と大海を隔て居候故か、地續きの國にて百姓農業の仕形の宜き儀を隣端と問合せ仕來りたる事にても、利益少きと存候儀は相止め、仕來り不ㇾ申事にても、利益多きと存候儀を取り用ひ候樣なる勢にて無ㇾ御座、只一筋に仕來りを用申候、畠麥を遲く取り木庭麥を早く取り候儀も、對州鄉村の仕來りにて御座候、其利益を相尋候に、木庭麥は鹿鳥等の喰減し多く候と申し、木庭は草の繁り樣畠よりも多く取り掛り遲く候て、麥の莖折れ穗と草と交り候得ば、取り手間入り候と申し、木庭麥を早く取り、麥跡の大豆を早く仕付候ても畠麥の跡に遲く仕付け候大豆よりは出來惡く候故、木庭の大豆を早く仕付候爲にも畠麥を遲く取り候と申し、畠麥の出來好き所を雨に逢せ、實入りを十分に不ㇾ仕候ては種に不ㇾ宜候と申し、ヶ樣の類の事共を申候て畠麥を遲く取り、洪水に流し候儀以前より折々有ㇾ之事に御座候、隣國の鄉村の樣子を見聞仕候に、麥の出來對州よりは二十日程も早く、其上に麥粒半分は黃に成り、半分は青く候時分より取り掛り、出來の早く候と。取り掛りの早く候と兩樣の違にて、四月末五月初には麥を取り仕廻候由に御座候、對州は麥の出來晩く候上に、麥粒十分黃に成り候時に取り掛り候故、五日か十日の間に五月雨に成り、風雨にて莖折れ候へば取り納め甚手

間入り、五月の内にも取り仕廻不レ申田方有レ之村は、麥を取り居候間に田の種付けをも仕り、麥を取り申たる坪々には大豆の蒔付をも仕り、六月に至り候て漸く麥を取り仕廻候故、五月の内に穗の土に交り候て腐損し生出候も有レ之、家小屋に取り入れ置き干上げ得不レ申内に腐損し生出候も有レ之候、依レ之某共那役の節郷村に教へ申候は、麥の取り掛りを差し急ぎ、半は黃半は青き比より取り掛り候ても、一日増しに青き粒は少く成り、取り仕廻候惣粒數より見候へば、十粒の内二三粒ならで青き粒は無レ之、其二三粒も見分程は實入り居候積りにて候、然ば早く取り掛り候に一二割の損有レ之筈にて候得共、麥の取り仕廻遲候て毎年長雨に腐ら、折々洪水に流し候損分は、一二割などと申す事にては有レ之間敷候、雨に逢不レ申實入り十分に無レ之麥は、種に不レ宜と申候も種を蒔付け候上にて、委細に無レ之考へにて候、以前他國より調へ候麥種を蒔付候者共に委く相尋候所、他國の種も九月十月の間に蒔候は好く生じ出て候、十一月末十二月に成り候て蒔候は生じ兼候由申候、然らば九月十月の内に蒔候種に當て置候には、五月雨の前に取り候麥の種不レ宜と申す儀は無レ之筈にて候、對州は麥の出來隣國より遲く候に付、麥種半分青き時より取り掛り候ても、五月雨に成り不レ申内には取り仕廻不レ申筈にて候故、雨に逢候麥を種に備へ不レ申候て不レ叶と存レ之、水の掛り不レ申地高なる坪々の麥、又は木庭の内にて出來好き坪々の麥、五月雨の前に取り仕廻得不レ申、雨に逢候内より種にいたし候て可二相濟一事に候、假令右の仕形に少し損分有レ之にいたし候ても、川近邊の上品に好く出來居候麥を早く取り不レ申、折

折洪水に流し候損失よりは輕きにて可ㇾ有ㇾ之候と申敎へ候、夫共に前々申上候通り仕來りを改め兼候風俗の百姓共にて御座候故、川近邊の平地の麥を早く取り不ㇾ申候て、洪水に流し候は捨りの檢使を不二差下一、流し候坪々の物成は代銀納めに申付候、末々への下知の儀敎へ候計にても相濟不ㇾ申、懲し候計にても相濟み不ㇾ申、兩樣を兼用ひ可ㇾ申事に御座候、畠麥を早く取り不ㇾ申候て、木庭麥を取り居候内に洪水に流し候、畠麥には物成りの捨り無ㇾ之と存じ候所より、畠麥を早く取り以來水流れ候はゞ、損失以前の樣に無ㇾ之候はゞ、其所却而百姓の利益に成り可ㇾ申と僉議仕り置申候、洪水に畠麥を大分流し候ても、木庭麥に損毛無ㇾ之候得ば、畠麥の流れ不ㇾ申分と、木庭麥を合せ候て出來の程を極め候時、蒔種を引候、殘高物成り之一倍に足り不ㇾ申と申す儀はありかね、假令有ㇾ之候ても稀なる筈と相見へ居申候

一　對州鄕村の百姓飢に及候者は、一日一人に二合づつの飢飯米を請け、時行の病人食用無ㇾ之者は、是又一日一人二合づつの養生飯米を請け凶年に作物を仕付候、一日の食用無ㇾ之者は拝飯米を借り、凶年に種物致二不足一候者は種物を借り候段、其方共郡役を勤不ㇾ申以前より有り來りたる由に候處、其方共郡役の節申渡しに、不心掛にて種の用意を仕り不ㇾ申百姓は地面を取上げ、種物を餘分に備へ置き、耕作の心掛け宜き百姓に、右取り上げの地面を請込せ可ㇾ申と申渡したる由に候、大凶年に種物致二不足一候は、輕き凶年に種物致二不足一候とは違ひ、百姓の心掛け惡きとも取申間敷事に候處、左樣の考へも無

レ之種の用意を不レ仕百姓は、地面を取り上げ、種物を隨分に備へ置き、耕作の心掛宜き百姓に右取上候地面を請込せ可レ申と申渡し候は、如何様の僉議にて候哉と御尋被レ遊候時の御返答の案

村々の諸作一同に大損毛と申す年は有かね、大凶年と申候ても、郷に依り村に依り損毛の程違ひ申す儀に御座候處、大凶年には種物を可レ借儀と申村置き種用程も取り不レ申作人、郷中又は隣郷に種用に越し候作得有レ之者之方より、種物買調への才覺を仕る儀無二御座一、差當り食用不足なる者は、種用程出來居候力を喰滅し候も有レ之、大凶年の種の不足は被二借渡一候と心得候所より、手前の覺悟薄く成り可レ申候、依レ之大凶年には種を可二借渡一との儀不二申付一候、某郡役に成り候年に蕎麥種を大分借し渡し候は、其前年蕎麥の大凶年にて、翌年の種用甚敷不足たる故にて御座候、惣體種用の穀物□へ候は、食用の穀物を調へ候よりも其次第六ヶ敷、食用の穀物は隣國他國より商買の爲に積み來り候儀も有レ之、朝鮮よりの入來りも有レ之候得共、種用に拵へ置きたる穀物を積み來り候と申す儀は無二御座一、以前の郡役種物を大分買調へ候節は、別て其用として隣國他國に人を差越し申たる事も御座候、秋作の損毛の程は九月末十月初比に相知れ申候故、其時節に郷村の役人に申渡し、損じ殘りの高を一村切りに極め、大豆、小豆、籾、粟、蕎麥等の損の殘りの高を帳面にて見屆け、何村は種用に如何程餘り、何村は種用程有レ之、何村は種用如何程不足と申候儀を其品々にて相極め、翌年の春隣國他國へ人を遣し候て買調へ候程の種物代銀を前年の十月末比に領主より申請け、大豆の種致二不足一候村は、大豆の出來高

種用に餘り候村より餘りの分を買調へ候て相渡し、蕎麥の程致㆓不足㆒候村には、蕎麥の出來高種用に餘り候村より餘りの分を買調へ候て相渡し、粮、粟、小豆も其格に仕り候はゞ、船賃等の費も無㆓御座㆒、領主より借し出し被㆑申候銀高も、他國にての買調への銀高よりは掛り物の分程少く、百姓も自國に作り來りたる種を作り、種物代の銀高にても輕㆑之候段、勝手に宜き筈にて御座候得共、秋物を蒔付候二三ヶ月三四ヶ月前に成り候ては、種用に餘り候分を喰減し候時節にて御座候故、右の仕形も成り不㆑申、他國へ人を遣し候て買調へ候外無㆓御座㆒候、如何程の大凶年にても、其國中に出來候穀物の高、其國中の種用程無㆑之と申候儀はありかね可㆑申候、甚き大凶年にて種用二割三割など致㆓不足㆒候は、差間に成り候と申す程の儀にて無㆓御座㆒、種不足と相見へ候分は、面々請込の田畠、木庭の內にて、上田、中田、上畠、中畠、上木庭、中木庭迄に常の通りに種を蒔付け、種不足の分は下田、下畠、下木庭の內にて蒔付けを減じ候得と申教へ、上中下の田畠に作物を仕付け、草を拔き養を入れ候力を上中の田畠に用ひ候はゞ、種にては二割三割の不足と相見へ候ても、出來高にては二割三割迄の損には成り不㆑申、下田、下畠の地力を休め候へば翌年の益に成可㆑申候、又秋作の內にて種の少く入り候物は粟にて御座候故、大豆種、蕎麥種の不足の分は粟を蒔付けさせ、大豆、蕎麥の蒔付け常よりも減り候代りに、粟の蒔付けを常よりも增し候仕形も可㆑有㆑之事に御座候、麥作は如何程の大凶年にても、種之分程出來不㆑申と申す儀は無㆑之と相聞へ候故、下百姓種用の內を節減し候儀さへ無㆓御座㆒候はゞ、隣鄉又は

隣郷より麥種を買調へ候には及申間敷候、麥作仕付の時節、食用の爲に海山を働候ては仕付け致二延引一候故、下百姓の食用差閊へ候は、已ことを不ㇾ得して秋物の種の内を喰減し、秋作仕付けの時節には種麥の内を喰減し、時行の病にて下百姓海山の働を仕り得不ㇾ申、時行にて病人多く、親類縁者よりの助けも成りかね候時節、其外大凶年に惣體の食用乏き時節は、差當り難儀甚く候所より、種用の内を喰減し候年有ㇾ之筈と相見へ候得共、拝飯米を借り養生飯米、飢飯米を請け候格相立ち居候上にて、下百姓に種用の内を喰減させ候は、畢竟郷村の□□の油斷にて御座候と僉議仕り置き申候

一　對州郷村の百姓養生飯米を請候儀、其方共郡役を勤不ㇾ申以前より其格有り來り候て事濟み居申たる由に候所、其方共郡役の節百姓より臨時に銀を出させ候て、郷村の籾を買調へ郷藏と申す藏を建させ、右の籾を儲へさせ候は如何樣の入用にて候哉、其次第委く申上候得と御尋被ㇾ遊候時の御返答の案、

對州郷村の浦々に他國より薪積船入り來り候時、百姓共薪を伐り候て賣り渡し候直段、五尺繩にて三〆半を銀一匁に賣渡し申候、某郡役に成り候翌年元祿十三年に、同役中僉議の上にて一匁に三〆に改め、半〆の分高直に申付け薪を伐り出し候、村人は以前の通り三〆半の直段にて代銀を請取り、半〆増しの銀は府中にて薪船の船頭より役人を以て郡奉行所に納めさせ申候、又觸番薪とて領主の臺所其外諸役方に薪を納め公役銀の差引に成り、其薪以前は入用次第にて定數無二御座一候所、寶永元年に右の

觸番薪何の鄕何百何十疋と相定め、以前の疋數より餘分に申付け、入用の外薪を賣拂候代銀、是又役人より郡奉行所に納めさせ申候、又寶永二年に申付候は、府中の商□□鄕村にて大豆を買他國へ賣出し候節、大豆□□之一割を商人より役人を以郡役奉行所へ納め候得と申付候故、商人共百姓の方より買候大豆を一割程不足に買申候、右三樣の銀を鄕中用銀と名付け、獵師共の內困窮仕候て、冬春猪鹿を狩り候間の食用足り不ㇾ申者共に合力申付け、猪荒れ相止み鹿も少く成候てより以來は、獵師共猪鹿を打留候て賣拂候利分共以前より甚少く、鐵砲の修覆新張り等、獵師共面々の力にては難ㇾ成筈と相見候故、右の鄕中用銀にて段々新張り鐵砲を調檢し鐵砲を持居候獵師共に相渡し申候、猪荒止み鹿も少く成り候ても、鐵砲數減じ獵師の功者漸々に減り候ては、鹿又段々相增し候て麥の生ひ立ちを喰候害甚く成り、深山に殘り居候猪の作所に出候も可ㇾ有ㇾ之候、殊に對州海邊の作所は、畠麥を蒔付け候前に藻を敷き候故、鴉多く聚り候て藻を引出し麥種生じかね、又雉の麥種を掘り喰候害も有ㇾ之、鹿を防候上に雉鴉をも防ぎ候に付、獵師鐵砲少も減じ不ㇾ申爲に右の通りに仕り候、大豆代の一割銀を出させ候は、薪代半〆增し候銀觸番殘り薪賣拂代銀計にては、狩の入目鐵砲の入目不足に可ㇾ有ㇾ之哉と相考へ候ての儀に御座候得共、兩樣の銀にて大形相足り可ㇾ申積りにて御座候故寶永二年同三年兩年に、大豆代一割銀七貫百五十目餘出させ候迄にて相止め、其後は右兩樣の銀計を鄕中用銀にいたし、兩樣の銀寶永元年より正德元年迄八ヶ年の並し十二貫九百十五匁にて御座候、右の銀狩の入用鐵砲の入目に餘

り候年餘りの分にて、郷村の籾を買調へ郷藏に入れ置き、籾の實入り好き年に段々取り替へ備へさせ候は、鄉中損毛の年に時行の病人多く、養生飯米を願出候ても風雨打續候て海上荷船の通用も、山阪荷馬の通用も難ㇾ成、養生飯米の下し方差閊へ候節、村繼の飛脚を以て其鄉の奉役へ申達し、鄉藏の籾を病人の數に應じ候て村々に割付け、病氣に無ㇾ之者共に相渡し、其者共より籾を白米にいたし候て病家に渡し候樣に仕らせ、領主より被二申付一候養生飯米は、雨止み風靜に成り候節其鄉に差下し、鄉中の百姓食用の麥に替へ候て鄉藏に其麥を入れ置き、籾出來に籾に取り替へ候か、田方有ㇾ之村の百姓の仲間に右の養生飯米を當分の食用に借し置き、籾出來に籾にて返させ、元の通り鄉藏に入れ置き候か、兩樣の間に仕らせ、病人養生の食用差閊へ無ㇾ之樣にいたし候備にて御座候

一　對州の鄉村にて百姓の次男別家を持出候者には、別家麥とて麥五俵請來りたる由に候處、其方共郡役の節領主の勝手被二差閊一候とて、右の別家麥を止め申たると御聞被ㇾ成候、彌其通りの事にて候哉と御尋被ㇾ遊候時の御返答の案

別家麥は不ㇾ宜事にて御座候と兼て僉議仕り置き、家老共へ其段可二申達一と存入り罷在候折節、對馬守不勝手に付諸役方の拂出しを隨分儉約に仕り致ㇾ減候ても障り無ㇾ之、出方は成たけ致二減少一候由家老共より諸役人に申渡し、郡役の方にては右別家麥の拂出し相止み候ても障りの儀無二御座一、別家麥の格有ㇾ之候段却て不ㇾ宜由申達候、家老共聞屆候上にて相止め申候、對州の鄉村に四十年以前相定り候格、

其村々公役を勤候百姓譬ば卅人有レ之候得ば、其村領分の田畠木庭を卅二三に分け、其內卅は其村の百姓卅人の請込に仕り、二ッ三ッは村抱へと名付け、村中差寄り候て同前に致二耕作一、餘計の地に仕り置き候格にて御座候處、次男別家を持出し候者段々相增し、終には彼二ッ三ッの地面を不レ殘別家持の方に請取、其上に別家を持可レ申次男出來の時は。又地面を割り直し候て、割出しの地面を次男別家を持出候者に相渡し、郷村の內にて仕來り惡き村は、不精なる下百姓共面々請込の地面に養をも不レ仕候て作り枯し、作物出來惡く成り候得ば、地分けに不同有レ之と申立て地分けを仕直し、上百姓耕地に念を入れ地面を好く肥し置候內を請込候て幸と存じ、上百姓は下百姓の作り枯し置候內を請込候て難儀に存じ、農業の勢に不レ宜、殊に對州は田畠少く、田畠を合せ候て一人分の作りまへ一町に及候村は一村も無二御座一候、二三段より四五段迄の間と相見へ、田畠多く候て大體の百姓一人にて一二町三四町所持仕候國郡さへ、二男三男に段々田畠を分け渡し候を、田畠分けと申候て不レ宜事に相極、子共多く有レ之候得ば奉公人に成り申候處、對州の樣成る田畠少き郷村にて、段々地面を分け次男をも百姓に仕立て、百姓請持の地面甚少く成り候事は氣遣ひ不レ申、只百姓と名付け候竈の增し候事のみを好み候は、他國の田分よりは不レ宜儀に可レ有二御座一と致二僉議一、地分け不レ仕候て不レ叶儀有レ之節郡役へ申屆候得と申付け、內證の地分けを禁じ申候、洪水にて土地の變化有レ之候か、以前の地分け不レ宜所有レ之候か、何れの道にても分け直し可レ申道理有レ之、村計吟味の上にて分け直させ申候、百姓の二男三男卅歲に成り候迄も惣

領の家に罷有り、卅歳以役妻を持候節は惣領の名子に成り、惣領に公役の勤め相當り候か、又は病氣差出候て耕作取納めの間へ有ㇾ之節は、惣領の代りに作所の働をも仕り、公役の代りにも罷出で、平生も惣領の農業を相助け候得ば、土を耕し塊を碎き、草を拔き養を入れ候ても力屆き候て、穀物諸菜の出來高相增し、其上に惣領同前に山海の働をも仕り候得ば、二男三男名子の竈を立て候節の食用も相違し、次男弟を手前に召置き又は名子に仕り置候て、公役の勤め五十日當り公役銀五十日出し候は、村中の次男弟に段々地面を分け渡し、家内名子に農業公役を相助け候者無ㇾ之候て、公役の勤め卅日當り公役銀卅日出し候よりは、勝手の爲に宜きと申處を考へ不ㇾ申、只公役人多く成り候程公役の勤方少く成り、公役銀の出し方も減り候と申す片端の損益計を考へ、村中に次男弟廿歳に越へし者有ㇾ之候得ば、勸め候て別家を持せ別家妻を請させ、其次男弟の父惣領の心に、今暫く一家に置候て農業公役の助けに仕り度と存じても、廿歳以上の次男弟を持不ㇾ申者共より頻りに申立て候て、地面を分け別家を持せ候樣に仕り、耕作に精て出し請込の田畠の地位を好く仕出し置候上百姓も、成長の次男有ㇾ之百姓も年老候て隱居いたし、隱居屋に次男を連れ移り、表向の嫡子請持の地面の内を、隱居の食用の爲に少々引分け候て致二耕作一候か、又は村中に倒れ百姓の跡の地面有ㇾ之候を、隱居の者共數人にて分け作り候に成り候時の心は、表向の百姓に成り居候時の心とは違ひ、隱居に連れ移り移り候次男に妻を持せ、百姓一人まへの地面を請込せ度事と存じ地分け有ㇾ之候て成りとも次男を百姓に仕立て度と願候心に成

り、次男は猶以百姓竈を立て申度と願ひ、又鄕村海附の村に當り候水夫公役も、名子の竈幷に壯年の男二三人有㆑之百姓竈に當り候故、次男名子とて地面を請持居不㆑申候へば、水夫公役にも出少にても地面を請持居候へば、水夫公役農業に障り年貢をも納め得申間敷と申候て、公役を免れ候申立にも成り候筈と存候勢にて御座候、譬ば田畠十五町を百姓卅人にて請込み、妻を持可㆑申年比の次男弟には名子の竈を立させ、農業の助にもいたし公役の勤にも當て。作得多き年には名子にも穀物諸菜を多く致㆓合力㆒、作得少き年には少く致㆓合力㆒候樣に仕り候村と、十五町の田畠を卅人にて作り居候を、吟味もなく漫りに分け直し候て百姓の數を增し候村は、田畠の數竈の數人の數同じ程にても、作物の出來高は百姓竈を增し不㆑申、名子竈を增し候村の方勝れ申すにて可㆑有㆓御座㆒候。然ば百姓竈を漫りに增し不㆑申下知は、鄕村の元氣を養候道理に成り百姓竈を心次第に增させ候は、鄕村の元氣を減じ候道理に成り可㆑申候、地面を分け直し百姓の數を增し候儀を禁じ候ても、次男の內より百姓に成候儀無㆑之にては無㆓御座㆒、病身不仕合にて請持の地面を人並に作り屆け得不㆑申者の差出し候を請込み候か、不精不行跡にて地面を被㆓取上㆒候者の跡の地面を請込候か、實子無㆑之百姓の養子にも成り可㆑申候故、次男は總體名子に計成り居申にて無㆓御座㆒候、土地は穀物を生じ候て人民を養ひ、國郡の御領主は田畠を百姓に御預け被㆑成候て、穀物を作り出し候樣に被㆓仰付㆒候所、不精なる百姓面々請込の田畠に生ずべき程の穀物を作り出し不㆑申候は、百姓の職分を失ひ候のみにて無㆓御座㆒、土地にも職分を失しめ候道理に

て御座候、殊に左樣の不精なる百姓田畠を預り居候得ば、其村の百姓次男の內耕作に念を入れ穀物を好く作り出し、上百姓に成り可レ申者有レ之候ても、病身不仕合なる者の差出し候地面を請込候て、實子無レ之百姓の養子に成候儀無二御座一候は、一生名子の竈を立居可レ申外無二御座一候、然ば耕作に念を入れ不レ申穀物の作り出し少く、年貢公役銀用心穀物を人並に出し得不レ申百姓に、其儘地面を請込せ置候は却て天理に違ひ、不精なる百姓の地面を取り上候て名子の輩に申付け、達者なる次男名子に其跡の地面を請込せ候段却て天理に叶ひ可レ申候、又人數過分に增し居候村の餘民を人數過分に減り居候村移し候は、移り候者の爲に不勝手なる所有レ之候故か、以前より村移りの百姓は在附かね候由に御座候、然ば人數不足なる村に人を移し候は、人多き村の次男妻を持候年比に成り候時、人少き村にて妻を持ち竈を立て候て百姓に成り、前以百姓に成り居候者は村移り不レ仕、人數過分に減り居候村の地面を近邊の人多き村に請込せ候儀無二御座一、人多き村に一年切りに賣渡し候て耕作仕らせ候儀は、心次第にいたし候格に申付候段可レ宜事に御座候、又地面少き村にても送り公役、漕船公役度々當り候村は、人數過分に無レ之候ては不レ叶事に御座候、人數減り候て面々に當り候公役の勤方相增し候はゞ、人數地面致二相應一候ても其村却て立かね可レ申候、郡中百姓拾餘村の內人數地面甚不相應なる村五ヶ村十ヶ村など有レ之分は不レ苦事にて可レ有二御座一候、時行の病などにて鄕村の人數減り候節、急に增し可レ申と仕り候ても、農業を仕馴れ不レ申者を百姓に仕立て候儀は難レ成事に御座候故、何れの道にいたし候

ても、郷村の人數は過分に相見へ候程に有レ之、百姓と名付き候者の數は地面に致二相應一候樣に有レ之度儀に御座候、右段々申上候通りの儀に御座候故、別家麥を請させ百姓竈を增させ候を不レ宜事と僉議仕り置き申候、次男新規に百姓竈を立て候は、五俵六俵の麥を請け候力にて立て得申す物にて無二御座一只竈を立て候時の少の助けに成り候と申す迄にて御座候、五俵の麥を請け候格相止め候ても、地面を分け直し百姓の數を增し候儀さへ村々の心次第に仕らせ候はゞ、百姓の竈段々に相增可レ申勢にて御座候、末々の者は目前に差當りたる勝手の儀のみを存じ、國家惣體の利害には少しも構ひ不レ申、國家惣體の害重く成り候時は、面々の勝手の爲にも不レ宜と申す儀は曾て考へ不レ申候故、左樣の所を委く致二僉議一候段、末々の者に致二下知一候役人の職分にて可レ有二御座一候

一　其方共郷村の下知を仕候に濁酒燒酒の法を背き候者共への申付樣、其の以前終に無レ之嚴し過ぎたる事にて候由御聞被レ成候、左樣に甚き儀を仕候は如何樣の僉議にて候哉と御尋被レ遊候時の御返答の案

郷村の百姓共村神祭りの用ならでは濁酒を造り不レ申、其の郷の藥用ならでは燒酒を造り不レ申、神樂用、養生用、元服、婚禮、家作、船造り等の祝事の用、年始盂蘭盆の用ならでは府中より清酒燒酒を買不レ申、府中より清酒燒酒を買候節は每度郡役所の證文を請け、其郷藥用の燒酒は奉役居村の肝煎方にて造り置き、穀物を代りに取り候て相渡し候得と申付候段元祿十六年の春の事にて御座候、對州の樣成小下

國の百姓に凶年の備へを仕らせ候下知の第一は、濁酒燒酒を漫りに造り不レ申、清酒を多く買ひ不レ申樣に申付け候處と相見へ、大國上國にて米穀を多く費し不レ申爲とて、酒の制法有レ之仕形の通よりは嚴く不二申付一候て不レ叶事にて可レ有二御座一候、濁酒燒酒を漫りに造らせ不レ申仕掛けは、郡方足輕を不時に鄕村に差下し、家小屋に濁酒燒酒等の有り無しを見屆させ、村々を段々には見せ不レ申、其格相極り居不レ申樣にいたし候て不意に見屆させ、尤郡方足輕共用捨宥免不レ仕樣に嚴密に申付候、某共勤役の內に濁酒燒酒の法を背き候者二人有レ之、一人は濁酒を造り置き候を足輕見出し候時、濁酒にて無レ之酢にて候と申候得共、酢を造り込候時友酢を入れ候格に兼て申し付置候處、酢の氣味無レ之候に付濁酒に相極り、其鄕の本役家の前にて三日さらし、遠鄕の給人永代の下人に申付け、子供は右下人に成り候者の兄弟より致二介抱一候得と申付け、子供の內三歲の子有レ之候は、母其子を召連れ候て夫の主人の方に罷越し、夫と同前に召遣候成り候か、親の方にて其子を育て候て心次第に仕り候得と申付候、一人は上方抱の下男年季滿候て其村に在附き坊司に成り居候者、燒酒を隱し置候段相知れ、其村の下知人より郡役所に申出て、則其坊司を村中に七日さらし候迄にて相濟め申候、右の通りの罰は最初に相極候て觸聞せ急ぎ申たる事に御座候、ケ樣の儀に付某共刑罰を尊び候て宥免の心無レ之、百姓共甚疎のことと申觸候、聖主賢君の政は刑罰を以民心を齊へ、敎化を以風俗を善し、刑罰の法立て候て後敎化行はれ候　徳を尊び候て刑を尊び不レ申筈の道理にて候得共、刑を廢し候と申す儀無レ之由古人の議論明白な

る事に御座候、聖王の法に五刑六刑などと申す儀有レ之を見候て。一偏に刑罰を尊び聖人の教に導くに政を以し、齊るに刑を以すれば民免れんとして耻なしと有レ之を見候て、一偏に刑罰を廢し候ば學び思ふ事の精からざるにて可レ有二御座一候、德を尊び候人の刑を行ひ候と、刑を尊び候人の刑を行ひ候とは違ひ有レ之筈にて御座候、人は情の下に住むと申諺のごとく、役儀を勤候人宥免の心無レ之候はゞ、末々の者手足を措に所なき様に存じ可レ申候、眞實の宥免は宥免を受け候者も、宥免を受け候と申候儀を不レ存、只此事相知れ不レ申候故別條無レ之とのみ存じ、外人は尚以何某宥免を得候と申す儀を不レ存様に可レ有レ之事に御座候、鄉村に府中より淸酒を買候は、神樂用、養生用、元服、婚禮、家作、船造り等の當用の節計郡役所の證文にて免し候故、府中の酒屋糀屋幷に鄉村に賣酒を持下り候小商買人共難儀に存じ、商買の利分減じ百人困窮に及候などと申立て、百姓も心の儘に酒を用ひ得不レ申を窮屈に存じ、酒を飲み不レ申候得ば精力少く耕作の働成りかね候などと申觸し、酒屋、糀屋、酒賣の小商買人と同前に某共を惡み申たる事に御座候、鄉村の者酒を多く飲みて農業に怠り、下百姓共酒の代物に諸色銀子を拂候て手前差閊・牛馬の仕替へ農具の修覆も人並に仕り得不レ申、耕作の仕形惡く穀物の取り高少く成り候、檢分は不レ輕事にて可レ有二御座一候、然ば鄉村に酒の禁制有レ之候て。酒屋、糀屋、酒賣の小商買人の利得減じ候分數よりは、下百姓共以前の樣に酒を買不レ申代りに農具、衣服、家財等を買ひ、諸商買人諸職人の利得增し候分數却て多きにて可レ有二御座一候、諸商買人諸職人の利分增し候は、心に叶候

事故何の沙汰をも不ㇾ申、酒屋、糀屋、酒賣の小商買人の利分滅じ候は、心に叶不ㇾ申事故種々の沙汰を申候と相聞へ、是皆自然の勢にて不ㇾ珍事に御座候、百姓に酒の法をも不ㇾ申付、凶年の用心をも仕らせ不ㇾ申、大凶年に飢に及候者有ㇾ之節は、以前の格に飢飯米を請させ、若飢飯米の出方差閊へ候時節にて候はゞ夫迄と存じ、以前大凶年に大國上國にさへ餓死の者有ㇾ之たる由に御座候故、對州の樣なる小下國にて大凶年に餓死の者有ㇾ之候は別條有ㇾ御座ㇾ間敷事と心得、以前大凶年に鄕村に請け候飢飯米は、朝鮮國との商買の買米、又は朝鮮國との商買の利分の銀にて、隣國他國より買調への米穀にて候得ば、飢飯米等の出所不ㇾ慥とも辨へ不ㇾ申、何となく以前より有來り候樣に仕り置き候ばゞ、公儀御役人樣方對州の鄕村濁酒燒酒の禁制嚴し過ぎたると御聞被ㇾ遊候御事も無ㇾ御座ㇾ候て相濟み居可ㇾ申候得共、其仕形は某共本意に存じ不ㇾ申事に御座候、某共郡役相勤候節主意に存入り罷有候は、見へ來りたる小罪に宥免不ㇾ仕候て、大罪を仕出し不ㇾ申樣にいたし、輕き難儀を見せ候事を厭ひ不ㇾ申候て、重き難儀に及候事無ㇾ之樣にいたし候所にて御座候、某儀元祿十二年より寶永五年迄十ケ年郡役を相勤候内に鄕村の者死刑に被ㇾ行候は、上縣郡佐賀村の肝煎同村の下知人を害し可ㇾ申と仕り、夜中篭に忍入り候て下知人に手を負せ、則下知人に取り伏せられ府中にて死刑に被ㇾ行候迄にて、其外には罪ありて自害仕候者も無ㇾ御座ㇾ候

一　其方郡役を勤候節鄕村にて申候は、百姓共凶年の捨りを請候段不ㇾ宜事と申たる由に候、其通りに

申候は如何樣の故にて候哉と御尋被ㇾ遊候時の御返答の案

元祿十六年の夏麥捨り檢分の時、上縣郡の村々の肝煎共寄合居申候所にて、某試に申聞せ候は、定免は豐年凶年の並しにて定りたる免にて候故、麥出來、粮出來七分以上の年に臨時の出し立てを申付け、凶年に定免の不足と相見へ候分を差足させ候格に相極候はゞ、捨りを不ㇾ請候ても百姓の難儀に成候儀は有ㇾ之間敷と申聞せ候、其時一人の肝煎申候は、御領主は大きなる御身體にて御座候故、百姓凶年の捨りを被ㇾ下候とて被二差間一候程の儀は有二御座一間敷候、百姓は小きなる身體の者にて御座候故、豐年の出し立にて凶年の年貢の不足を差足し候格に成り候はゞ、只今迄百姓共の請け來候捨りの分御領主の御所務に成り、百姓共の方は必難儀仕にて可ㇾ有二御座一と申候、某申聞候は、其方共年貢の穀物御領主の御臺所用に成り候と心得居候哉、年貢の穀物多くは侍中の扶助に成り候、譬ば常年に穀物廿石受け候侍の家凶年に十石受け候はゞ、年貢種用の殘り麥十石にて秋作出來候迄の食用を達し候百姓の家、五石殘りたると同前の難儀にて可ㇾ有ㇾ之候、四十年以來百姓共凶年の捨りを請候格に成り候は、侍中請取前の俵數の不足を、朝鮮國との商賣の買米、又は朝鮮國との商賣の利分の内より被二差足一たる故にて候、先年以來朝鮮の商賣以前の樣に無ㇾ之候て、侍中に請け來り候扶助の内減り居候段、其方共承及たるにて可ㇾ有ㇾ之候、異國との商賣の利は不定なる事にて候故、此後只今よりは商賣衰へ候時節に凶年有ㇾ之、侍中請取までの俵數の不足を、商賣の買米又は商賣の利分にて被二差足一候事難ㇾ成、侍中難

儀に及候勢と相見候ても、百姓にて定免の捨りを請させ、侍中の難儀は打捨て可レ被レ置と存候哉、其節は必種用并に取納の間の食用の外は悉と府中に納め、其分にても麥作定免の分不足に候はゞ、秋作の雑穀にて差足し、田物成の不足も畠木庭の秋作にて差足し、百姓の儀に候間面々食用の不足は、以前より凶年に仕來り候堀物にて差足し候へと被二申渡一にて可レ有レ之候、百姓共只今迄の通りに心得居候て、不圖左様の時節に逢候はゞ、甚き難儀にて可レ有レ之候、五分六分の年を常の年と心得、七分以上の年の餘分を四分以下の年の備へにいたし候格を段々立て置候はゞ、以來四分以下の年に定免の分を不足仕らせ不レ申のみにて無レ之、面々の食出以前の凶年よりは多く、以前の凶年に食用盡き候者共、一日一人に二合の飢飯米を遣候ても、蕨、鹿角菜、葛根、蕨根等の交物屆きかね、堀物の内にて下品と相見へ居候大草蘇迄をも食し、父母妻子同前に青種になり候様なる難儀を免じ申にて可レ有レ之と申聞せ候、又一人の肝煎申候は、百姓の作豐年の餘計にて家、小屋、馬屋等の普請をも仕り、牛馬の仕替へ農具の修覆、其外物入の儀は皆豐年を待候て仕る事に御座候故、豐年に臨時の出し立て被二仰付一、凶年の年貢の不足を差足し候得と御座候、百姓共豐年に仕來り候儀を仕り得不レ申甚難儀に及候筈にて御座候と申候、某申聞候は、田作麥作に豐年凶年有レ之ごとく、畠木庭の秋物にも夏作の辛子にも豐年凶年有レ之、海山の出來物にも多き年少き年有レ之事に候故、畠木庭の秋作の豐年、辛子の豐年、海山の出來物多き年に賣拂候穀物、諸色の代銀を合せ候はゞ、公役銀を納め手前の當用を濟め候ても餘分有

レ之筈にて候、餘分無レ之候はゞ費なる儀を仕る間敷候得共、中分以上の百姓以前より濁酒燒酒を過分に造り、清酒を多く買ひ、其外百姓に不相應なる家財敷物等を調へ、祈禱法事など過分の仕形有レ之、中分以下の百姓迄も右の仕形を見習候て、自分相應の身持を不レ仕候、歷然の事に候得ば、家、小屋、馬屋等の普請をいたし、牛馬を仕替へ農具を致二修覆一候樣なる當用の外に、分限に過たる費を不レ仕候ては無レ之候、以前より百姓共飢飯米養牛飯米の救を請け、種物并飯米を借り候候儀度々の事に候所、其恩を難レ有と存候樣子は不二相見一、豐年凶年の並しを以定め被レ置たる定免を、豐年には餘分を遣捨て、凶年の不足は御領主の損に仕り度とのみ存じ、隣鄕隣村より捨り檢分を願出候と承候得ば、面々の村の儀を願出、檢分の上にて捨りに當り不レ申儀有レ之候ても恥敷とは不レ存、或は何村の檢分此方より甘く候故、捨りを多く請け候と申立て、或は此方の檢分何村より辛く候故、捨りを請け不レ申候と申成し、只今豐年の餘分を以凶年の不足を差足し候道節を開せ候ても、只手前の利、穀物を引除け置候を差足し候て、飢寒に及不レ申迄の過し方にいたし候段、氣運の自然に隨候仕形と相見へ申候、對州の樣なる下國の百姓にても右の仕形をさへ守り候はゞ、面々其生を遂げ申すにて可レ有二御座一候、苦勞の輕く成り候方には移り易く、苦勞の重く成り候方には移り難き人情にて御座候故、百姓共い心に鄕村食用の不足は、領主より差足し給り候筈に成候存じ入り候はゞ、農業の仕形段々緩く成り、穀物諸菜の出來高漸々に減じ可レ申候、儉約を緩め候下知には隨ひ易く、儉約を勸め候下知には隨ひ難き人情にて御

座候故、百姓共の心に事付食用の不足は領主より差足し給り候と存じ入り候はゞ、家内の過し方段々變じ候て、飲食雜用の入目漸々に增し可レ申候、穀物諸菜の出來高は減り、飲食雜用の入目高は增し候はゞ豐年にも食用差閊候、凶年の不足は尙以甚く、假令年々に其年相應の救を請け候とも身體却て可レ致二衰微一候、衰微の樣子相見へ候時節に至て仕置を可レ被二相改一と御座候ても、農業の仕形緩く成り家内の入目增し居候仕來りは容易に變じかね、初め憐愍の樣に相見へ候儀却て甚き害に成り可レ申候、然ば下國の百姓は下國の分限を守り候て、外より來り候利益を賴み不レ申、領主よりの救を心當に不レ仕、豐年に凶年を忘れ不レ申候て凶年の食用を豐年に引き除け置き、米飯を食し得不レ申候段は上國の百姓に劣り候ても、食用相足り其生を遂げ候段は、上國の百姓にも相替り候儀無レ之樣に仕らせ、郡奉行奉役村下知人代々其道筋の改り不レ申樣に差引仕候をこそ、十全の策とも可レ被レ申事に御座候、末々の人情當分自由の叶ひ候樣に仕掛け候下知を宜きと申成し、當分は不自由に有レ之候ても後日飢寒に不レ及樣に仕掛け候下知を不レ宜と申立て、取り前の增し出し前の減り候儀は、如何程無理なる事にても道理の樣に申成し、取りまへの減り出しまへの增し候儀は、如何程道理ある事にても無理の樣に申立て候故、某共の存寄りに七分以上の年の出し立てにて、四分以下の年の年貢幷に食用を差足し候道筋を立て其備相調り候以後は、凶年にても年貢の捨りを請させ申間敷事を致二僉議一候段を承り候て致二心服一候百姓は、兩郡の内に一人も無レ之にて可レ有二御座一候、百姓共手前の勝手を專らに存じ難儀迷惑なると申候と

も、納め可レ申物は納させ、假令手前より臨時に差上度と申候とも、納め不レ申筈の物は納めさせ不レ申、百姓不時に飢寒に及不レ申備をいたし。危急の時節國家の食用を足し候道筋を立て候様に有レ之度事に御座候。領主の爲とて納め方相滯り不レ申様に計心掛け、鄕村の餘分を密く取り上げ、下の難儀に心を付け不レ申、自分に百姓の恨を得候ても領主に利ある様に仕候を善事と心得、郡役の百姓を苦しめ候罪、畢竟は領主に歸る道理を辨へ不レ申、百姓を愛し候は下に施し譽れを求め、民心我身に歸服致し候事を好み候て、領主の損分を考へ不レ申、仕形にて候と申成し候人も有レ之、又百姓に請け申間敷物を請けさせ候て、納め可レ申物を納めさせ不レ申、當分の自由を達しさせ候て、慈悲なる奉行にて候と被レ唱候を慥しき事と存じ、請け申間敷物を請させ不レ申、納め可レ申物を納させ可レ申と仕候時、百姓不心得にて無理の様に申立て、身體倒れ可レ申などと申候を迷惑なる事と存じ、上を欺き人を欺き候様なる惡さ處存を戒め不レ申人も有レ之と相見へ申候、右の類の郡役其仕形は兩様にて候得共、其利心は同じ事にて可レ有レ之御座候、只心入り惡く成り居候百姓に惡まれ、心入り惡からぬ百姓に親まれ候郡役、畢竟國家の益に成り可レ申候、然其百姓の心入り惡く成り居候は、郡役の下知敎訓不レ宜所より起り申たる儀に御座候故、心入り惡き百姓郡役を惡み候とも、郡役は百姓心入りの惡きを惡み不レ申、只心入りの惡く成り居候所を哀憐仕候様に有レ之度事に御座候、百姓の心入り惡く成り居候て慥なる道筋を嫌ひ候とも、御郡役より其道筋を委く致二僉議一候て家老役へ申達し、領主迄被二聞届一候て吟味相極り、五年も

七年も其事行はれ候はゞ、百姓の心も初めの樣には無二御座一、面々の爲にも宜き儀と存じ付け候者共段段に出來候て、其格終には相立ち可レ申候

一　對州の鄕村作毛の出來七分以上の年に、四分以下の年の備へをいたし候格は、如何敷僉議仕り置候哉と御尋被レ遊候時の御返答の案

對州鄕村の年貢二ッ五歩の免と申傳へ候も、中分の出來高よりの二ッ五歩と相見へ、一分より十分迄の出來を並し候ては五六分の出來に成り、六分の出來を中分の出來にいたし、三分の出來を半作にいたし、中分の出來を四分一を年貢に納候格にて御座候故、譬ば麥の作得一分の年に一石、五六分の年に五六石、十分の年に十石有レ之、百姓七分の年に麥一石出し置候て四分の年に取り返し、八分の年に麥二石出し置候て三分の年に取返し、九分の年に麥三石出し置候て二分の年に取返し、十分の年に麥四石出し置候て一分の年に取返し、秋作の籾、大豆、蕎麥の出し立ても右の格にいたし、小豆、粟等は凶年の備へとて出し置き候儀無レ之格に仕り候はゞ、麥、籾、大豆、蕎麥の出來一分二分三分四分の年も五分の年に成り可レ申候、大豆、蕎麥の出來七分以上の年は小豆、粟幷に木綿、諸菜迄も多くは出來好く、麥の出來七分以上の年は麻、苧、芥子迄も多くは出來好く御座候故、麥、籾、大豆、蕎麥にて凶年の備へをいたし候ても、百姓共豐年を樂み候儀計無レ之とは難レ申候、三年耕して一年の食あり、九年耕して三年の食ありと申候は、夏秋の作得、譬ば二十石有レ之内より五石引除け置、十五石にて其年

を過し候得ば、三年目には十五石に成り候て一年の食を備へ、九年目には四十五石に成り候て三年の食を備へ候積りにいたし、四分一づつ引除け候年の儀のみを申述たると相見へ、實は九ケ年の内三ケ年は出し立ても取り返しも不レ仕、三ケ年は出し立て、三ケ年は取り返し候道筋を申教へたる詞にて可レ有二御座一候、下知の仕形は詞にて申述候通りに難レ成所も有レ之物にて御座候得共、當て所も無レ之不レ知仕候ては相調り不レ申にて可レ有二御座一候故、前に申述候次第を當て所にいたし候て、凶年の用心穀物を出し立てさせ可レ申儀に御座候、用心穀物の出し立てを中分以上の百姓に計申付け、下百姓には不二申付一、大凶年に下百姓飢に及候節は、中分以上の百姓より相救候得と可二申付一事の樣にも相見へ申候得共、左樣に申付候はゞ、中分以上の百姓の心に、耕作に精を出し作得多き者には難儀なる申付け有レ之と存じ、下百姓は村中よりの救を賴みに致し候て農業の勵み彌薄く成り、鄕村の爲に甚相障候所可レ有二御座一候故、用心穀物の出し立ては上中下の百姓同前に可二申付一事に御座候、薪を切り出し炭を燒出し、材木板車を取出し枌をへき出し候儀を常に仕來り候て、木庭を少く明け耕作を大形に仕り、夏秋共に穀物の作り出し少く其仕來りを改させ、總村の並に耕作仕らせ候儀容易に難レ成と相見へ候、村の用心穀物は薪炭材木板車を賣候代銀の内にて、隣鄕隣村より賣出し候穀物を買調させ可レ申儀に御座候、中華井田の法に十ケ一の年貢と御座候も地面の上の積りと相見へ、同百畝を受け候ても上農夫は九人を養ひ、下農夫は五人を養ふと有レ之候故、公田十畝の出來と私田百畝の出來て見合せ候時、上農夫

の方にては十ヶ一に當り可ㇾ申候得共、下農夫の方にては十ヶ二にも當り可ㇾ申候、然ば井田の法も上農夫下農夫共に上に一分を納め、手前に九分を取り候にては無ㇾ之と相見へ申候故、地面を同じ程に請込み、年貢を同じ程に納候はゞ、用心穀物の出し立ても上中下の百姓同じ程づつ出し立てさせ可ㇾ申事と僉議仕り置き申候、寶永二年の夏試に凶年の用心穀物の出し立て成りかね候と申出候百姓有ㇾ之候はば、種用、食用に當て置きたる内を加へ候て成りとも村中の並に出し立て、種用、食用、不足の分は海山を相働候利分にて買調へ候得、種用を調へ足し不ㇾ申、請込み地面の内其年荒し畠に不ㇾ仕筈の所を少にても荒し候はゞ、吟味の上にて地面を取り上げ、右取上の地面は其村の百姓仲間に請込み致二耕作一候て年貢を納候へと申付け、地面を被二取上一候百姓は其村の名子に成り、惣體の名子の仕形にいたし、村中の農業の助に雇はれ、村人の公役の勤を相助け、海山をも働候て渡世仕り候得と申付け、夫にても渡世成りかね飢に及可ㇾ申と申出候者有ㇾ之候は、鄉侍、鄉足輕又は肝煎役の方に年を切り身を賣らせ、老人、小兒、病者、片輪并に乳飲子を育て候母は親類緣者に養はせ、親類緣者無ㇾ之候は村中に預り、其百姓の被二取上一候地面を村中より致二耕作一、年貢を納候餘計にて彼預り者を養、父の不精に付身賣りに成り候者も、年明候て後其者の働方さへ好く候はゞ、父の被二取上一候地面を請込せ候か、他の不精者の被二取上一候地面を請込せ候か、男子無ㇾ之百姓の跡を繼せ候にて可ㇾ有ㇾ之由申付け、村地を請込居候被友村中の並に用心穀物を出し立て候儀、成りかね候と申出候者有ㇾ之候はゞ、村地を百姓同

格に請込居候て、村中の並に用心穀物を出し得不レ申様に耕作を仕成し候故、其儘村地を請込せ置候段不レ宜儀の旨其者の主人へ申達し地面を取り上げ、其村に同じ主人の被友有レ之候はゞ、其被友の次男の内耕作に精を出し候者に作らせ、相應の次男無レ之候はゞ、右之地面を被友仲間に作せ、其村に一人の被友にて候はゞ、右取上の地面を其村の百姓仲間に作らせ置き、地面を被レ取上レ候被友の實子にても養子にても致二成長一候時、彼取り上げの地面を請込せ、地面を被二取上一候被友は百姓の名子の格に成り居候か、夫婦共に子供成長迄主人に被レ遣候か兩様の間を心次第に仕り、若其被友の方に極老、病者、片輪有レ之候て、主人の方に其者共迄も召遣候儀難レ成との申届有レ之候はゞ、地面を被二取上一候百姓の方に極老、病者、片輪有レ之候時の格に仕らせ可レ申由申達する等と僉議仕り、鄉村の役人に右の趣を申聞せ、其村其年の出來に應じ候て出し立てさせ、六分以下の出來の村々は出し立てを不二申付一、右の格にて麥五斗俵二千七百十九俵の出し立てに成り、中分以上の百姓の用心麥は直に其者に預け、中分以下の百姓の用心麥は村仲間の小屋に入れさせ置き、村小屋無レ之在所にては、村下知人又は肝煎頭百姓の小屋に預らせ、其後二ケ年も右の格の出し立てに仕らせ、寶永五年には某儀郡役を致二交代一、糀、大豆、蕎麥の出し立ての儀は僉議仕り置き候迄にて不二申付一候、豐年にても凶年にても、村々の作毛同じ程に有レ之と申す儀は無二御座一候故、一村も不レ殘出し立て候申す年も有りかね、一村も不レ殘取返し候と申す年も有りかね、一村も不レ殘出し立ても取り返しも不レ仕と申す年も有りかね候筈にて御座候、

然ば其年何の作には何分の出來と申す儀も、村々にて相極め不レ申候ては不レ叶事にて可レ有二御座一候、用心穀物出し立て候儀田畠廣く穀物の多き所にてこそ成可レ申候、對州の樣なる田畠狹く穀物少き所にては、成り申す間敷とも可レ被レ申事に御座候得共、五分六分の年には下百姓迄も難儀仕ると申す程に無レ之、雜穀に野菜、木實、海草等を交へ候て食用を足し候故、七分以上の年に四分以下の年の備を仕候儀成り不レ申筈は有二御座一間敷候、凶年の用心無レ之候ては上國の百姓も飢に及候儀有レ之、凶年の用心有レ之候ては下國の百姓も飢に及候儀無レ之候段、何れの時代何れの土地にても同前の儀にて可レ有二御座一候、且又秋作の內にて粟、小豆を用心穀物出し立ての格に入れ不レ申筈に僉議仕り置き候は、何れの國にても小豆を大豆の程には作り不レ申、對州の鄕村には蕎麥を多く作り粟を少く作り申す故にて御座候、希に粟を多く作り蕎麥を少く作り候村有レ之候には、蕎麥の代り粟を出し立てさせ、大豆は味噌に用候物にて御座候故、少く作り候村にても用心穀物に出し立てさせ可レ申儀に御座候、其通りに仕掛候はゞ大豆の出し立てにて常用不足候と存候者共、惣並に多く作り候樣に成り行き可レ申候、

一　對州の鄕村にて猪逐詰を仕り候は、猪を取り盡し候仕掛と相聞へ候、御先代生類御憐之儀折々被二仰出一諸國共に奉レ守候樣にとの御事に候得ば、如何程猪の作毛を荒し候事甚く候ても、無レ殘打留め候樣に下知仕間敷儀に候、殊に打留めの猪を埋候と申候ても、埋申たるは甚少くと致二沙汰一候、其上猪を取盡し候所より毒虫多く成り候て、人を害ひ候事折々有レ之雉多く成り候て作物を喰候事甚き由に候、

公儀被ニ仰出ー候旨に違候を構ひ不レ申、猪の害は止候て別の害の増し候所を考へ不レ申候段、如何様の存入にて候哉と御尋被レ遊候時の御返答の案

貞享五年戊辰正月廿一日公儀より鐵砲御改候儀被ニ仰出ー候節、諸國へ御渡し被レ遊候所鐵砲の御案文に、「獵師鐵砲何挺致ニ所持ー狩仕り渡世を送り申候、若鐵砲にて狩りの外惡事仕出し申候においては、本人は不レ及レ申名主五人組迄可レ爲ニ曲事ー旨急度申付置候」と御書載被レ成候て御渡し被レ遊、對馬守より上縣、下縣兩郡の獵師八百八十三人の名を帳面に致ニ書載ー候て差上、公儀より被ニ仰出ー候趣委細に奉レ守候樣に堅く致ニ下知ー候得と郡役に申渡し候故、郡役より獵師共に度々其趣申付候、公儀より獵師の外の者殺生仕候儀を御禁制被レ遊候は、御仁心禽獸に及候處と奉レ存。殺生にて渡世の營仕候者禽獸を殺し候儀を御免し置き被レ遊候は、人民の生業を重く被ニ思召上ー禽獸の死亡を輕く被ニ思召上ー候所と奉レ存、作毛を害ひ人に仇を成し候獸は、獵師共を差寄せ候て打留めさせ候儀を御免し置被レ遊候は、民食と民命を大節に被ニ思召上ー候所と奉レ存候故、獵師の外狩り仕る者無レ之樣に念を入れ候て申付、作毛を荒し民食を食し候猪鹿は、隨分打留候得と獵師共に致ニ下知ー、公儀御仁政の御意趣を奉レ守候、對州の儀は續き渡りたる山々にて深山に隱れ居候猪も可レ有レ之候故無レ殘打留可レ申とも難レ申、狩り出し候程の猪は段々打留させ候故、無レ殘打留候儀有レ之間敷とも難レ申事に御座候、獵師を差寄せ候て打留させ候節、狩の間の飯米代銀、玉藥代銀は鄉中用銀にて調させ、鄉中用銀不足にて差閊へ候時は、打留の猪鹿を

賣拂候代銀にて差足せ其餘分を埋させ申候、常に獵師共の打留候猪鹿は、面々に食し候か賣拂候か之兩樣に仕來り申候得共、獵師共を多く差寄候節の打留の猪鹿は、右の格に申付候て埋候分の帳面を御役人樣へ差上申候、朝鮮より譯官來り候年には譯官への馳走に猪鹿をも相渡し候故、左樣の節は打留の猪鹿多く有レ之候ても埋候餘計無二御座一候、上代に日本六十八ヶ國大上中下の位を御定被レ成候時、下國に定り候國九ヶ國と相見へ、九ヶ國の內第一の下國は對州にて可レ有二御座一候、他方は小下國にても、百姓の數田畠の高に相應仕り居申由に御座候所、對州は山谷甚多く田畠甚少く、百姓の數田畠の高に相應不レ仕候、左樣御座候とも郡中の餘民を上國大國に出し、百姓田畠致二相應一候樣に仕り候ては、日本朝鮮御通交の御役に付、信使譯官を致二馳走一候節の人夫の遣方差閊へ候所有レ之、府中の佐須奈關所の間の通り筋の村々は、送り公役、漕船公役等も差閊可レ申候故、田畠に相應不レ仕候ても、百姓數多き樣に仕掛け不レ申候ては不レ叶勢と相見へ、其上外國若亂世に成り候て、賊船侵し來候節は、境內相應の人數にて相防不レ申候ては難レ叶、田畠相應の人數にては防禦の力足り申間敷候、然共境內相應の人數常に鄉村に罷出候ては、隣國より米の入來り相滯り候節食用差閊へ候筈と相見へ、外國の賊船侵し來り候節、防禦の人數の足り不レ申よりは重き害にて御座候故、田畠木庭の作毛を害ひ候猪鹿を取り減し候て、作所の利相增し候樣に仕り、所作の利相增し候所より人民の數も相增し候樣に有レ之度事と僉議を極め家老共へ其段申達し、先對馬守聞屆け候上にて公儀役人樣へ申上置候て猪鹿逐詰の

儀を申渡し候、其節郡役より八百八十三人の獵師共に申付候は、公儀より獵師共狩仕り生業にいたし候儀を御免し置き被レ遊たる御事の間隨分精を出し狩り仕り候へ、左樣にいたし候ては當分生業の助に成り候のみにて無レ之、作毛の害を除き候所は百姓獵師惣體の利益に成候筈にて候と申聞せ、毎年十二月より翌年二月迄は獵師共一同に狩り仕り、今程は猪荒止み申候、鹿は作毛を荒し候ても猪の荒し候程には無二御座一候故、獵師共に申付候も第一に猪を狩り鹿は大體に狩り候得と申付候、對州の獵師は狩をのみ生業にいたし候にて無二御座一、百姓同前に田畠木庭を請込居申候故、猪鹿少く成候程獵師共の爲にも宜く、猪鹿を多く賣拂候利益よりは、猪荒止み作毛出來增し候利益却て多き筈にて御座候、對州は山谷甚多く平地甚少く、平地の横の廣さと申す所纔三四町有レ之、大形は猪の通ひ候田畠にて御座候故、他國の郡役に違ひ、別て猪鹿打留の下知を精く不二申付一候て不レ叶事に御座候、假令餘民を他方へ出し百姓の數を減じ候て差間候所無二御座一候共、人は少く成り猪鹿は多く成り候はゞ、猪の作毛を害ひ候事彌甚く、少き人の食用も足り不レ申にて可レ有二御座一候、猪逐詰の儀を申付の時分、鄕村末々の者致二批判一候は、猪荒れ止み候程に成候はゞ兩條の害可レ有レ之候、獸の內にて作所の害に成り候事の甚き物は雉と相見へ候、然所猪は雉の卵を食し候故、猪多く候ては雉の生育少く、猪荒止み候程に成り候ては雉の生育多く、尤雉の卵を食し候は猪のみにて無レ之、山猫鹿などと申す獸も雉の卵を食し候得共、猪の食し候程には無レ之筈にて候故、猪荒止み候はゞ雉甚相增し候て其害□る猪よりも甚く成

り可レ申候、又ひら口と申す毒蟲山々に有レ之候得共、猪の食し候物故大分相增し候儀無レ之候、猪荒止み候はヾひら口甚相增し候て、ひら口に喰れ候者多く、其害却て猪より甚く成り可レ申と致二批判一候者共有レ之候由承り候、其節郡役中僉議仕候は、百姓共山の中作所を伐り明け掘り明け候て、諸作を仕付候に廿日掛り候得ば、作所の廻りに牆を丈夫に構候に又廿日も掛り、地位好く作得有レ之所計を伐り明け掘り明け申度存候ても、夜に猪を逐候人數木庭ごとに罷越し居不レ申候ては不レ叶事に御座候故、猪を逐候程の年比の者其家內に居候數に應じ候て木庭數を明け候に付、地位惡く作得有りかね候所をも押込候て、木庭數を少く木庭の壞を廣く明け、作物の實のり候初より作物を刈取り候迄は、每日の働に疲れ候者共日暮より山中に猪逐に罷越し候得ば、翌日の働き心の程に成りかね、其通りに苦勞いたし猪を防ぎ候ても、風雨の夜などは猪牆を破り作毛を害ひ候儀折々有レ之、其損失不レ輕事と相見へ、民食の助に成り候櫧子、栗子をも喰滅し、凶年の食用を足し候葛根、百合等をも喰滅し候故、民食を滅じ候は大分の儀にて御座候。雉の作物の實を喰ひ蒔付の種を掘り喰ひ候は夜中の儀にて無レ之、多くは朝日の出候時分と、晩景に成り候時分にて御座候得ば、作所に罷出候者共作物蒔付の時節と實のり候時節には、以前猪荒の節終夜猪を逐ひ候苦勞の五分一か三分一の苦勞と存じ、未明に朝飯を食し兼て構へ置き候雉打の仕寄り牆に寄り附候て、作所に出候雉に鐵砲を打掛け、早朝に一偏作所を廻り候上にて働を仕り、晩景には作所の引掛けに朝の格に雉を打候はヾ、惣體の獵師共雉を打覺へ候て打留段

段多く成り、獵師にて無レ之者は手間代をいだし候て獵師に雉を打せ、寒氣の時節に打候は賣拂候利益も有レ之、猪荒止み候上に雉の害も輕く漸に成り可レ申候、猪之雉卵を食し候儀無レ之候ては、雉甚多く成り候筈と申す段も決定の道理とは難レ申、對州郷村の内にても豊崎郷の鰐浦、仁位郷の貝口、佐保唐洲廻小綱銘志多浦等の山々は、五六十年以前に猪を不レ殘打留候て、本山の猪も通ひ不レ申候得共、右の村村に屬したる山谷は、其外の山々谷々よりも雉甚多く候て、他の村々の作所を雉の荒し候よりは其害相增し候と申すにても無レ之由に御座候得ば、此所歴然の考へに成り毒虫の害も右同前の道理にて御座候、殊に對州府中の東に有レ之山も、昔は本山に續き居候て夜通ひ申たる由に御座候所、四十餘年以前本山に續きたる卑みの所を掘り切り候て川筋にいたし、其外屋敷にも成り候て猪の通ひ止み候得共、雉甚相增し毒虫甚多く成り候と申儀無二御座一、此所は目前に見へ申たる事に御座候、ヶ樣の次第を僉議仕候上にて猪逐詰を下知仕候、然所猪荒止み候後は、百姓共作所の見廻を疎略に仕り候故、雉の作毛を荒し候を見候ては雉甚多く成り候と申し、以前猪荒の時節には作所の立廻り繁く候て、雉の人を恐れ候所も有レ之候得共、作所の立廻り疎く成り候て、雉自由に作毛を荒し候段をも辨へ不レ申と相見へ申候、尤猪荒止み候ては雉の生育其以前よりは相增し候所も可レ有二御座一候得共、其害強く成り候節は前々申上候通り、以前の猪荒の節の五分一か三分一の苦勞を仕候はゞ、雉も段々に減じ、猪荒計相止み居候時よりは利益彌多く、雉少く成り候て人を恐れ候はゞ、半分減じ候ても三分一にも四分一にも減じ候

様に相見へ可レ申候、他國の儀を承候に、雉多く成り蒔付の種を喰候事甚く候時は、麥を蒔付候後に逐鳥狩と申す儀を仕り、其仕形は數ヶ村の人數差寄り、譬ば人數四百人有レ之候へば、百人づつ四組に分け、四組共に壹間程づつ間を置候て一列に立並候格にいたし、内二組は二町程隔候て列を立て、同二組は兩方に立並たる二組の眞中に列を立て候て兩方に向き、眞中に立たる二組より草茅木柴の內に隱れ居候雉を蹈起し、犬をも連れ候て蹈起させ、雉の舞揚り候時に音を揚げ候て追揚げ、兩方に立並たる組より音を揚候て追戾し候へば、遠く舞得不レ申物ゆへ兩方の間に落候を、或は犬に取らせ、或は棒にて打ち、或は手取りにもいたし、其內に高き木有レ之木の枝に雉すはり候へば、鐵砲にて打ち段々右の通りに仕候由承候、雉の儀深山には多く居不レ申、茅山又は茅山と木山の境作所に近き邊に多く居候と申候、鐵砲にて打候計にては打留少く、生增し甚多く成り候はゞ、麥を蒔付候後に多き所を見合せ、逐鳥狩の仕形にて取り滅し可レ申候、他國の鄕村にて大河の防ぎに土手を築き置候に、洪水の時土手の上を水越し、其水掛りの田畠數百石の損毛折々有レ之候て、土手を高め水越し不レ申樣に仕候へば、洪水の時土手を破り數十石の損毛に成り地捨りも多く候に付、土手を元の高さにいたし候へば洪水にも土手破れ不レ申、折々數百石の損毛有レ之に任せ置候方宜きと申すに成り又他國の鄕村にて稻の實のり候節、鴉聚り穗を喰折り候損分有レ之とて、鐵砲にて間斷なく打拂候へば、稻の根に居候虫を鴉の喰候儀も、穗を喰折り候事と同前に相止み、虫の稻を損ざし候儀鴉の稻を喰折り候損分より多く候に付、鴉打ち

止め穂々喰折り候に任せ置候方宜き候申すに成り候由承候、猪を除き候も雉を減じ候も右の二事の類と心得可ㇾ申事にて無ㇾ御座ㇾ候、猪逐詰を初め候は元祿十三年庚辰の冬にて御座候、府中鄕村年々の人高無ㇾ斷絶ㇾ相知れ居候は延寶七年以來にて御座候所、延寶七年より元祿十一年迄廿ヶ年の間、鄕村の人高一萬四千七百四十餘人より一萬五千七百八十餘人迄にて、寶永六年より一萬七千人に餘り、凶年の難儀の樣子を考へ候に、人高相增し候ても以前の凶年よりは難儀却て輕く成り候と相聞へ、常年豐年凶年共に鄕村の者府中より米穀を買下し候儀以前よりも減じ、麥。豆を賣り登せ候は以前よりも增し候由に御座候へば、猪荒止み候所より諸穀、諸菜、木實等迄、民食に成り候物相增し申したるにて可ㇾ有ㇾ御座ㇾ候

一　猪逐詰を仕候に付、猪子の牝牡を朝鮮の絶影島に放ち申たる由御聞被ㇾ成候、我國にて作毛の害に成り候とて嫌候獸を、隣國の山に放候段隣交の上にて宜しかる間敷事に候、其所如何僉議仕り置き候哉と御尋被ㇾ遊候時の御返答の案

山々より狩り出し候猪を獵師共段々打留候樣に申付候ては、取り盡し申間敷とは難ㇾ極、對州一島の山山の猪を取り盡し候ても、其外の國々に居候猪は元の通りにて御座候故、天理にて自然と生じたる獸を殺し盡し候に成り申す道理にては無ㇾ御座ㇾ候得共、一島の地に有り來り候獸の內を一種にても取り盡し候段快き事にて無ㇾ御座、已むことを得ざる所より仕る事に御座候得ば。種類を他方へ遣し候道筋さ

へ有レ之候はゞ遣し可レ申儀に御座候、他方へ遣し候道筋決て無レ之上にて取り盡し候は、人民に致ニ下知一候役にて民食を足し候道筋を立て不レ申所を甚不快事と存じ、快からぬ事の内にて輕きを捨て重きを取り候に成り可レ申候、猪の儀牝牡一ッ宛殘り居候ても數年の間には數多に成り、或は鄕村に公役の繁き時節にて候か、或は大凶年にて食用差閊へ食用の代物に成候諸品を働き出し候時節にて候か、或は時行の病人多き時節にて候へば、農隙にも狩仕る儀難レ成、五六年の間に取り成し置候猪、二三年の間にも增し申す物にて御座候故、成るたけは取り盡し候程に有レ之度事と存入り候所より、牝牡一ッ宛他方へ遣し候道筋を僉議仕候、元より猪鹿有レ之所に猪子二ッ三ッなど遣し候とて、其所の作毛の害相增し候と申す程の儀は少も無レ之筈にて御座候故箱に入れ送り遣し、彼肆養父の山に放ち可レ申事に御座候得ば、對州近隣の國々島々に獵師の狩り不レ仕所は一ヶ所も無ニ御座一、二ッ三ッ遣し候猪子長じ不レ申、子を生じ不レ申前に獵師に被ニ打留一候か、獵犬に被ニ喰留一候ては、種類を殘し候主意相達し不レ申、絕影島は和館の東に有レ之島にて、和館の西南北に出候□は際木立ち居候て、日本人の自由に通り候事を禁じ候得共、船に乘り絕影島に罷越し候には禁じ申儀無ニ御座一、和館に在勤の侍共絕影島にて鶉狩仕り、和館に入り候薪差閊へ候節などは、水夫共絕影島の木柴を取り急用を達し候事も有レ之、殊に絕影島は馬の牧所にて少も耕作不レ仕、島の西に有レ之見へ掛りの山々には草木茂り居不レ申、獸の隱れ所無レ之候故か、瀨戶の潮行き早く候故か、彼島に居候牧の馬も、獐と申す獸も、島の西に渡り申たる儀無ニ御座一、釜

山僉使希に獐を狩り候迄にて、常に狩りねらひを仕ると申る儀無二御座一、釜山僉使の狩り希に有レ之分にては、放ち置候猪の子を生じ不レ申內に打留候儀は有レ之間敷と相考へ彼島に放ち申候、夫共に放ち不レ申前に東萊府釜山僉使へ申達し、許容の返答有レ之候上にて放ち可レ申事に御座候得共、申達し候ては免し可レ申も免し申間敷も難レ量、免し不レ申時は猪の種類を斷ち不レ申、主意相達申間敷候、猪の儀牆の內にて飼屆候事の成り可レ申獸にて無二御座一候故、種類を斷ち不レ申候て其害を除き、他方に放ち可レ申外無二御座一候、絕影島は田畠も無レ之、牧所に成り居候離れ島、殊に和館の外の日本の方に有レ之島にて御座候故、其島に猪子を放ち候不禮は重き不禮に成り可レ申樣無二御座一、以後に至り若東萊府使釜山僉使より難題申來り候はゞ、猪の種類を殘し候爲に、猪子を放ち候島を隣の國々の內に無レ之次第を委く申述、夫共に許容の差圖を得不レ申候て絕影島に放ち候段は、其節の不念にて候と申謝し、其上にても難題を申候はゞ、種類を殘し候爲に放ち申たる猪子にて候得ば、此方より狩り候て打留候段忍不レ申事に候間、狩人に被二仰付一候て如何樣にも被レ成被レ下候得、絕影島は獐を立て被レ置候島にて作所も無レ之候故、願は猪をも獐同前に立て被レ置、猪多く成り候時計獐同前に狩人打留候樣に被二成下一候得と可申述レ事に御座候、對州に穀物乏く候段は、朝鮮に委く相知れ居申す事にて、猪の作毛を害ひ候儀も、生き物の種類を絕ち不レ申筈の道理をも、朝鮮人委く心得居可レ申候故、鄕村に致二下知一候役人穀物少にても出來增し候樣に心を用候所より猪逐詰を申付け、猪逐詰を申付候所より猪子の牝牡を絕影島に放ち

候段、彼方了簡不ㇾ仕筈は有二御座一間敷候、迯使商買の利分對州に入來り候を永々迄違變有ㇾ之間敷と致二決定一、迯使商買の利分にて鄕村の者凶年の救を請候を、年貢運上の餘計にて被ㇾ救候樣に心得居候面々は、猪逐詰の儀、絕影島の猪子の儀、其外某共郡役の節鄕村に致二下知一候仕形を一々惡く存候筈にて御座候、見識の根本に違候所有ㇾ之候ては、其枝葉の所も悉く違不ㇾ申候て不ㇾ叶事と相見へ申候

一 對州鄕村の用心鐵砲を府中にて張らせ候儀、其方共勤役以前より有り來り候事に候哉、用心鐵砲を張らせ候入目銀を鄕村の者共より出させ、領主よりは出し不ㇾ被ㇾ申候は如何樣の故にて候哉と御尋被ㇾ遊候時の御返答の案

某共郡役に成り不ㇾ申以前は、鄕村の者共の調へ候鐵砲も和泉堺又は筑前福岡にて調へ、修覆も重き修覆は右兩所に遣し、輕き修覆は對州の鍛冶の內にて鐵砲修覆の仕形を少々存居候に仕らせ候得共、新張りの仕樣を存じ不ㇾ申候ては、輕き修覆も慥には成りかね候所有ㇾ之、殊に海上を越へ候て每度他國へ修覆に遣し候儀勝手不ㇾ宜候故、以前より鐵砲の修覆を仕來り候鍛冶を堺に遣し候て見習はせ、寶永二年の夏より對州にて鐵砲を張り申候、初は殊外無調法に御座候得共、漸々に少づつ張り覺へ申候、貞享五年正月鐵砲御改の御役加藤兵助樣より諸御大名の御留守居への被二仰渡一に、鐵砲を張り商買仕候儀家職の事に候間、以前の通り細工可ㇾ仕候、少も御構ひ無ㇾ之候由被二仰渡一、以前より鐵砲を張り商買仕來り候者の外、新規に鐵砲を張り候儀御停止被ㇾ遊候との被二仰渡一は終に無二御座一、他國にて以前よ

り張り來り候も、公儀の御免しを蒙り候て張り初め候と申す儀終に不レ承候故右の通りに張らせ申候、對州は日本より外國に被レ對境目に有レ之島にて、地續の國々とは大海を隔て居申候故、假令諸國には新規に鐵砲を張り候儀を御停止被レ遊候御時節にても、對州には被ニ差免一にて可レ有ニ御座一樣に奉レ存候、鄕村の者共より出させ候銀にて、鄕村の用心鐵砲を張らせ候段御不審に可レ被ニ思召上一候得共、對州の二郡並に基肄一郡養父半郡より納候年貢は家中への扶助に相渡し、其上にも相足り不レ申分は送使商賈の利分にて差足し、公役銀、諸運上銀は府中の武備其外送使商賈の利分を用候て不レ宜と相見へ候、出方に拂成し候由に御座候得ば、公役銀、諸運上銀も鄕村の武備の入目に當て可レ申餘計無ニ御座一候、家中の扶助に當て置候領中の年貢の內を鄕村武備の入目程引除け、其分程送使商賈の所務の內にて、家中の扶助の渡し方を差足し候仕形も可レ有ニ御座一候得共、左樣に仕候ては府中の侍の扶助を、鄕村之鐵砲の入目よりは輕く存候樣に相見へ候段不レ宜候故、鄕村の家數參千四百軒の內作所を請け込み居候百姓二千五百軒程より、毎年臨時に代銀四匁程に當り候程の薪を伐り出させ、貳千五百軒分十貫目程にて鐵砲用銀相調り候積りに仕り置き申候、鄕村の山々より伐り出し候薪を賣拂候代銀は、田畠に作り出しの穀物を賣拂候代銀と同じ心にて、土地人民より出候實利にて御座候、外國靜謐に無レ之時節賊船侵し來り候防禦の備への鐵砲の入目を、外國より入來り候送使の利分にて拂出し候は逆なる事と相見へ、土地を守り人民を保ち候武備にいたし候鐵砲の入目を、商賈の利分にて拂出し候も逆なる事と

相見へ、兩樣共に鄕村の武運の爲に宜しかる間敷候、薪代を以て鐵砲の入目に當て候に差閊へ有レ之節は、鄕村參千四百軒より少づつ穀物を出し立てさせ候ても、鐵砲細工人五六軒の人數を養候に差閊への儀は有ニ御座ー間敷候

一 對州鄕村の用心鐵砲の數は如何程に定め置候哉、對州の鄕村に外國の賊船使し來り候節の防禦の仕形は、如何僉議仕り置候哉と御尋被レ遊候時の御返答の案

對州鄕村の人高一萬七千人程の內、二十歲以上六十歲以下の病身に無レ之男三千九百人程有レ之候故、三千九百人の三分二貳千六百人を鐵砲を持候人數に相極め、千參百人を右鐵砲を持たる人數の食粮、飮水、簑笠等を持候夫に相定め、鄕侍、鄕足輕の鐵砲三百五十挺程、獵師鐵砲八百八十三挺の上に新獵師を千參百人程仕立て、鄕侍の子共の鐵砲をも加へ候得ば、惣鐵砲の數二千六百挺程に成候積りにて御座候、以後に至り鄕村の人高減じ候時節にても、鐵砲を持候二千六百人は其儘にて立て置き、持夫千三百人、廿歲以上六十歲以下の者計にて不足と相見へ候分を、十六七歲十八九歲の男にて差足し、夫にても不足にて御座候はゞ、六十一二歲六十三四歲の內の達者なる男を鐵砲持之內に差加へ候て、廿一二歲の鐵砲持の內を持夫の方に加へ可レ申候、當年壬辰の正月に相改候鐵砲高千六百挺餘有レ之候故、一ヶ年の張り出し七十挺にて御座候得ば、此後十二ヶ年程の間に二千六百挺の定數相滿ち、每年の張り出し六十挺程にて御座候得ば、十六ヶ年程にて定數相滿申筈に御座候、二千六百挺の定數相滿候後

は毎年の張り出しを卅挺に極め、七十挺の代銀にて卅挺張り出し、筒臺金具共に右の積りに直段を増し、其分程手間を込み念を入れ丈夫に仕らせ、二千六百挺の定數相滿ち不ㇾ申前にても、鐵眞鍮等の直段高直に成り候はゞ、百姓の出し候銀高を増し不ㇾ申、細工人の請け候手間銀を減じ不ㇾ申、鐵眞鍮の代銀の増し候分程鐵砲張り出しの數を減じ候筈に仕り置き申候、御先代の通り獵師の増減御案内に及候御法にて御座候はゞ、千三百挺相増し候鐵砲を郷侍二百七十人程有ㇾ之候に、一人に並し五挺程づつ預け置き、外國靜謐に無ㇾ之致二沙汰一候時節に御案内申上げ御免を蒙り、右の千三百挺程を百姓千三百人程に渡し候て打習はせ可ㇾ申事に御座候得共、御當代の初に獵師鐵砲の相續並に増減の儀、鐵砲御改の御役に相窺候に不ㇾ及、御代官、領主、地頭勝手次第と被二仰出一候故、右の通りに段々新獵師を相増し申候、南北廿六里に餘り候山國にて、賊船乘り込み可ㇾ申浦々數多有ㇾ之候所、千參百挺程之鐵砲は甚不足なるにて御座候、尤府中の鐵砲を合せ候ては鐵砲數も相増し候筈にて御座候得共、府中の侍は平壤手詰の働こそ郷村の者共に勝れ可ㇾ申候、其險岨なる山坂を立働き雨露風霜を凌ぎ、數日晝夜山の高みを守り候儀、郷村の者の樣に勤候迄は十人に一人も有りかね可ㇾ申候、然ば府中近邊の村々迄も新獵師を仕立て、郷村の鐵砲二千六百挺程有ㇾ之樣に不ㇾ仕候ては武備とは被ㇾ申間敷候、殊に賊船使し來り候を見掛候遠見番所より註進仕候て、府中の人數を差下し候には、其郷の遠近に依り一二日も三四日も掛り、夜中又は霧靄の日には浦口迄乘り掛け候時に至て急に見付け候儀も有ㇾ之、烽火にての註進成り

がたき日も有レ之筈にて御座候、然ば郷村の人民府中の武備を賴にいたし居候は、無用心なる儀にて可レ有二御座一候、ヶ樣の次第を僉議仕候て、郷村の鐵砲の數を一倍程相增し候筈に仕り置き申候、外國靜謐に無レ之段致二沙汰一候時、郡役より郷村の役人へ致二下知一候筈に某共僉議仕り置候大意は、村々に有レ之物入れ小屋を其村本山の谷奥要害宜き所に移し、番屋には名子の老人を遣し置き、鄉藏は其鄉內の高山の頂大木茂り居候中に移し、是又鄉中の名子を代る〳〵番人に遣し置き、村には當用の食物、衣服、家財計を置き、兵粮は炊く事を用ひざる爲に大麥粉に致し、小屋にも鄉藏にも入れ置き、村々にて白鹽硝を取り、府中より段々差下し候硫黃鉛にて鹽硝を合せ玉を鑄、火繩をも無二油斷一拵へ、是又小屋にも鄉藏にも入れ置き、常に一人に八十放し分づつ所持仕居候へと申付置候、玉藥を彌致二吟味一藥のしめりなど無レ之樣にいたし、遠見番の人足は三人に極め、村々の火の番は二人に極め置き、賊船相見へ候節遠見番の人足三人の內、二人は遠見番所の左右に有レ之村に告知らせ、一人は遠見番所の後ろの村に告知らせ、遠見番當番の鄉侍は府中への註進の手筋を兼て申渡し有レ之格に違ひ不レ申樣に仕り、左右後ろの村々に遠見番所より告來り候時は、火番の者一人と右告來りの者一人と同前に、其村の鐵砲を村の近邊の高き所に持出て强藥にて續け放しに打放し、作所磯山の働を仕り居候者共鐵砲の音にて罷歸る樣にいたし、今一人の火の番は續きの村に告知らせ、續きの村にても告來りの者一人と、其村の番一人と右の格に鐵砲を打、村々段々と右の格に仕通し、村中の婦女幷に十六七十八九の男子、六十一二六十三四の老

人、其村の極老、小兒、病身、片輪と當用の食物衣服を牛馬に載せ、面々の背にも負ひ、賊船の侵し來り候後の村に立退き、鐵砲を持たる者共は火打袋と玉藥の早込を頭に掛け、玉藥の入たる竹の筒を脊に掛け、鐵砲に當分の食用を結付け候て肩に掛け、餘計の火繩は結へ候て腰に付け、脇指しの差し添へに薙鎌を後ろに差し、鐵砲を持不ㇾ申者共は脇差の差添へに斧を後ろに差し、大麥粉を入れ候袋と、其身幷に鐵砲持たる者二人、合せ三人分の簑笠を一ッに結へ候て脊に負ひ、大竹の筒に水を入れ口を指し候て肩に掛け、鐵砲を持たる二人に鐵砲を持ざる者一人づつ不斷に相添ひ、竹の筒の水盡き候時は賊徒の見掛け不ㇾ申方の谷水を汲取り、兵粮、玉藥、火繩を用ひ盡し候時、本山谷奥の小屋本山高き峯の鄉藏より取り寄せ候儀も、鐵砲を持不ㇾ申者共より相勤め、賊船入來り候浦々の鐵砲を持たる者共は、早速二手に分れ候て浦の左右の峰に馳上り、峰の頂き峯の左右より賊船を目當てにいたし候て鐵砲を打掛け、玉藥を込候には毎度賊徒より見掛け不ㇾ申方にて込み、打放し候時身を顯し候て打掛け、賊徒陸に上り可ㇾ申と相見へ候時は、早速浦の左右の峯を捨て候て村の左右の峰に馳せ上り、賊徒村を燒拂とも、手前は只村を見下げ候て賊徒に鐵砲を打掛けて、賊徒道を求候て谷に入り山々へも登り可ㇾ申と仕り候はゞ、村の左右の峰を捨て道の上手の峯々を持堅め候て鐵砲を打掛け、夜中には面々申合せ、半分は笠を頭に掩ひ簑を身に卷き候て代る〲に臥り、半分は賊徒の火繩の火を見當て候て鐵砲を打掛け、賊徒入來り不ㇾ申村々より加勢に罷越し候人數も右の格に相勤め、兵粮、玉藥、火繩をも面々の村よ

り續けさせ可レ申候、對州二郡の郷村何方も平地狹く、山坂險く、平地の左右の峯平地への矢掛りにて候故、村里田畠の左右の峯より頻りに鐵砲を打掛け、賊徒平々に足を休め候儀可レ難レ成候、手前の人數峯峯を持堅め居候時、賊徒山下より火を放ち候儀可レ有レ之候故、峯より早く火を放ち草茅を燒切り、峯に火移り不レ申樣にいたし、賊徒一手は道の上手の峯を攻め、一手は本山の高き峯に上り可レ申樣子相見へ候はゞ、急に道の上手の峯々を捨て候て、峯傳へに本山の方に引上げ、本山の高み又は大木大石の陰より、矢掛りの賊徒を目當てにいたし候て鐵砲を打掛け、小屋を移し置候所に通り候道筋の左右の峯をも人數を分け候て守らせ、鐵砲を持ざる者共は斧薙鎌にて木柴を伐り伏せ、□□上り候道筋と小屋有レ之所の道筋を二重にも三重にも伐り塞ぎ、伐り塞ぎたる逆木の內よりも鐵砲を打掛候樣に仕り、其內に隣郷よりの加勢段々馳來り峯々より橫矢を打ち、賊徒上手の鐵砲と橫矢の鐵砲を凌ぎかね候て引取り候はゞ、一町程隔て候て峯傳へに跡を逐ひ段々鐵砲を打掛け、賊徒濱に下り候はゞ、手前の人數は浦里の左右の峯を持堅め、賊徒一人にても船に乘り不レ申濱邊平地に殘り居候はゞ、其者を目當てにいたし一町程の所迄近寄り候て鐵砲を打掛け可レ申候、賊徒本山を攻取り得不レ申候て峯傳へに尾崎に下り候時、尾崎の峯の外向き本山の方より見へ不レ申所に人數を分け候て伏せ置き、手前の人數其考を不レ仕賊徒の跡を逐候て尾崎に下り、不圖伏兵に出會の儀可レ有レ之候間、賊徒を逐候て尾崎に下り候內に小峯にても有レ之候はゞ、其小峯より二三町の所に手前の人數を控へ、其邊の案內を能く知りたる人數二組を

二手に分け候て、脇道より尾崎に廻し、手前の人數の控へたる前の小峯の左右より小峯の外向き、賊徒殘り居候か、殘り居不ㇾ申候かを見屆け、居候はゞ左右の二手高みに立上り候て伏兵に鐵砲を打掛け、殘り居候伏兵皆々濱に下り候を見極候て、段々峯傳へに尾崎に下り、浦邊の左右の峯を持堅め、惣體賊徒一度入り込候近邊の峯を賊徒引取り候後に持堅め候時は、毎度右の仕形にいたし、又賊船の掛居り候浦々の左右の峯に賊徒陣取り候て、手前の人數賊船に鐵砲を打掛候事成り不ㇾ申樣にいたし候はゞ、案内を知りたる物見を遣し、賊徒の陣取り候山を見極めさせ、賊徒見掛け不ㇾ申山道を通り、賊徒の居候山より二町程の所迄近寄り、山の高みに立上り候て鐵砲を打掛け、賊徒山を下り候て手前の人數に攻掛り、手前の人數を二手に分け賊徒攻掛り候と相見へ候時、早速一手の人數を後ろの山手一町程の所に備させ、賊徒一町程の所に攻來り候迄は、跡に殘り居候一手より鐵砲を打掛け、一町に迫り候と相見へ候時、早足に立退き、初に引取り候一手の者共の居候脇を通り候て、又後ろの山手一町程の所に備を立て、賊徒攻來り候には初に引取り候一手より鐵砲を打掛け、段々右の格にいたし候て峰傳へに本山の方に引取り、賊徒退き候時は又初の格にて尾崎に下り、賊徒を山にも平地にも休息仕らせ不ㇾ申樣にいたし、案内を知りたる者を物見に遣し候にも、不圖賊徒に行逢候儀可ㇾ有ㇾ之候故、物見一組を十人にいたし面々に鐵砲を持ち、五人は半町程先に立て、五人は半町程後れ、先立候、五人不圖賊徒に出合候はゞ早速に立退き、跡の五人の者の居候後ろ半町程の所に立留り、賊徒攻來り候には跡の

五人より鐵砲を打掛け、段々右の格にいたし候て引取り、草茅荊棘の茂りたる近邊にては別て用心仕り候へと、郷村の役人を以惣人數に委く申聞せ候筈に僉議仕り置申候、郷村の儀郷侍郷足輕は少く候故、賊徒多勢にて侵來り候節は、三郷四郷の郷侍郷足輕差寄り候ても、手詰の働にて賊徒を防ぎ候儀は成り不レ申筈にて御座候、獵師には兵器備り居不レ申候故、三郷四郷の獵師差寄り候ても、是又手詰の働を以賊徒を防ぎ候儀は成り不レ申筈にて御座候、依レ之郷村の人數にては差當りたる賊徒を防ぎ候には、只一二町二三町を隔候て鐵砲を打掛け、府中より罷下る人數の到着迄は右の仕形にて賊徒を防ぎ居可レ申事に御座候、毎年二月八月兩度に郷侍、郷足輕、獵師、新獵師一郷切りに星打仕候も、一町二町三町を廻り／＼に打ち、鹽硝を合せ候儀も、年々に分數を極め合せ習候格に仕り置申候、對州に外國の賊船侵來り候節の儀傳記に相見へ居申候得共、以後の防禦の考へに成り候程の委き儀は相知れ不レ申候、外國の賊船侵來り候節の防禦の次第、家老共兼て僉議を極め置き申たる由に御座候得共、某共當役に付郷村の人數計にて差寄りたる賊徒を防ぎ、府中より下り候人數を待請候仕形を右の通りに僉議仕り置き申候、郡役代々僉議仕り候て仕形を委く記し置候はゞ、賊徒侵來り候時節の下知の益に成り申儀も可レ有二御座一候

一　對州府中郷村年々の人高、幷に生子死人の高相知れ居候分書記し差上候得と被二仰付一候時の御返答の案

對州の人高生子死人高相知れ居候分、左に書付け差上申候

寛文五年乙巳、十歳以上の人高二萬四百四十人

九歳以下寺證文不レ取の者を合せ候ては、二萬三千九百人程有レ之積りにて御座候、寛文六年丙午より

寛文十一年辛亥迄は、宗旨改計有レ之候て人高の改無レ之、寛文十二年壬子十歳以上の人高二萬三千四

百七十九人、九歳以下寺證文不レ取の者を合せ候ては、二萬七千四百七十人程有レ之積りにて御座候

延寶三年乙卯、人高二萬八千百七十七人　　此年の改より九歳以下の者も人高に入る

延寶四年丙辰、人高二萬九千百十二人

延寶五年丁巳、人高二萬九千六百七十九人

府中一萬三千七百卅七人　郷村一萬四千五百九十三人　銀山千參百四十九人

延寶六年戊午は人馬の改無レ之

延寶七年己未、人馬參萬六百七十六人

府中壹萬四千參百十六人　郷村壹萬五千卅五人　銀山千參百廿五人

延寶八年庚申、人高參萬千百七十四人

府中壹萬四千七百七十二人　郷村壹萬五千百七十四人　銀山千貳百廿八人

天和元年辛酉、人高參萬千百五十參人

府中壹萬五千六十人　鄕村壹萬四千九百廿五人　銀山千百六十八人

貞和二年壬戌、人高參萬千貳百八人

府中壹萬五千貳百七十九人　鄕村壹萬四千八百十三人　銀山千百十六人

貞和三年癸亥、人高參萬千八十四人

府中壹萬五千貳百五十一人　鄕村壹萬四千七百六十五人　銀山千六十八人

貞享元年甲子、人高參萬九百卅八人

府中壹萬五千廿一人　鄕村壹萬四千七百四十四人　銀山千百七十三人

貞享二年乙丑、人高參萬九百六人

府中壹萬四千九百十二人　鄕村壹萬四千七百六十二人　銀山千貳百卅二人

貞享三年丙寅、人高參萬千四十七人

府中壹萬四千九百七十八人　鄕村壹萬四千七百九十六人　銀山千貳百七十三人

貞享四年丁卯、人高參萬千百六十一人　生子五百五十四人　死人五百六十六人

府中壹萬四千九百六十一人　鄕村壹萬四千九百四十四人　銀山千貳百五拾六人

元祿元年庚辰、人高參萬千十六人　生子五百廿人　死人五百七十八人

府中壹萬四千九百廿七人　鄕村壹萬四千八百七十人　銀山千貳百十九人

元祿二年己巳、人高參萬千九十二人　生子 六百四十四人　死人 四百七十三人

府中壹萬四千八百五十五人　郷村壹萬五千十五人　銀山千貳百廿二人

元祿三年庚午、人高參萬千百五十七人　生子 七百八十四人　死人 七百卅五人

府中壹萬四千六百八十二人　郷村壹萬五千貳百七十八人　銀山千百九十七人

元祿四年辛未、人高參萬千四百五十八人　生子 六百卅八人　死人 五百十六人

府中壹萬四千八百七十七人　郷村壹萬五千四百卅二人　銀山千百四十九人

元祿五年壬申、人高參萬千五百四十八人　生子 六百十八人　死人 七百六十四人

府中壹萬五千四十一人　郷村壹萬五千四百四十三人　銀山千六十四人

元祿六年癸酉、人高參萬千六百四十四人　生子 五百八十五人　死人 九百七十人

府中壹萬五千貳百八十九人　郷村壹萬五千參百卅九人　銀山千十六人

元祿七年甲戌、人高參萬千六百九十四人　生子 七百十八人　死人 七百七十一人

府中一萬五千三百廿人　郷村壹萬五千四百卅四人　銀山九百四十人

元祿八年乙亥、人高參萬千九百五十三人　生子 七百九十四人　死人 七百八十五人

府中壹萬五千五百六十六人　郷村壹萬五千五百四十七人　銀山八百四十人

元祿九年丙子、人高參萬二千三百八十三人　生子 六百九十人　死人 五百九人

府中壹萬五千九百貳人　鄕村壹萬五千六百八十四人　銀山七百九十七人

元祿十年丁丑、人高參萬貳千四百六十二人　生子六百五十六人　死人七百卅人

府中壹萬六千十九人　鄕村壹萬五千七百七人　銀山七百卅六人

元祿十一年戊寅、人高三萬貳千五百八十人　生子五百九十七人　死人五百八十八人

府中壹萬六千九十三人　鄕村壹萬五千七百八十七人　銀山七百人

元祿十二年己卯、人高參萬貳千七百廿五人　生子六百〇五人　死人五百六十六人

府中壹萬六千百卅八人　鄕村壹萬五千九百廿五人　銀山六百六十二人

元祿十三年庚辰、人高參萬貳千六百九十二人　生子六百〇四人　死人八百八十七人

府中壹萬六千四十七人　鄕村壹萬六千七人　銀山六百卅八人

元祿十四年辛巳、人高參萬貳千四百卅八人　生子六百廿八人　死人七百卅人

府中壹萬五千九百卅五人　生子二百八十八人　死人三百七十七人　鄕村壹萬五千八百八十人　生子三百三十五人　死人三百三十四人

銀山六百廿三人　生子五人　死人十九人

元祿十五年壬午、人高參萬貳千卅人　生子六百七十一人　死人八百八十八人

府中壹萬五千四百四十七人　生子二百五十六人　死人五百七十八人　鄕村壹萬五千九百八十五人　生子四百〇五人　死人五百七十八人

銀山五百九十六人　生子十人　死人卅人

元祿十六年癸未、人高參萬千七百四十七人 生子 五百七十四人 死人 七百四十三人

府中壹萬五千百廿七人 生子 百四十八人 死人 三百廿八人

鄉村壹萬六千卅八人 生子 四百十人 死人 三百八十七人

銀山五百八十二人 生子 十六人 死人 廿八人

寶永元年甲申、人高參萬千五百卅六人 生子 六百四十九人 死人 七百六十八人

府中壹萬四千九百廿六人 生子 二百五十三人 死人 三百六十二人

鄉村壹萬六千卅八人 生子 三百九十一人 死人 二百九十四人

銀山五百七十二人 生子 五人 死人 十二人

寶永二年乙酉、人高參萬千五百廿三人 生子 七百四十一人 死人 六百六十三人

府中壹萬四千六百九十五人 生子 二百五十九人 死人 三百九十二人

鄉村壹萬六千貳百五十九人 生子 四百六十五人 死人 二百五十二人

銀山五百六十九人 生子 十七人 死人 十九人

寶永三年丙戌、人高參萬千六百廿壹人 生子 七百十五人 死人 五百三十一人

府中壹萬四千五百八十人 生子 二百廿四人 死人 二百五十二人

鄉村壹萬六千四百七十二人 生子 四百八十一人 死人 二百七十二人

銀山五百六十九人 生子 十人 死人 七人

寶永四年丁亥、人高參萬千三百十九人 生子 七百八十人 死人 六百十二人

府中壹萬四千十九人 生子 三百四十七人 死人 三百廿五人

鄉村壹萬六千七百四十人 生子 四百十七人 死人 二百六十六人

銀山五百六十人 生子 十六人 死人 廿一人

寶永五年戊子、人高參萬〇八百五十三人　生子六百六十九人　死人七百卅四人

府中壹萬三千貳百六十一人　生子二百〇八人　死人三百五十八人

鄉村壹萬六千九百卅一人　生子四百四十一人　死人三百五十四人

銀山六百六十一人　生子廿人　死人二十二人

寶永六年己丑、人高參萬貳百廿三人　生子六百卅二人　死人千〇七人

府中壹萬貳千五百十五人　生子百七十五人　死人五百六十七人

鄉村壹萬七千六十七人　生子四百五十人　死人四百六人

銀山六百五十一人　生子七人　死人卅四人

寶永七年庚寅、人高貳萬九千卅五人　生子六百七十人　死人八百十三人

府中壹萬貳千九十一人　生子百九十二人　死人四百五十三人

鄉村壹萬七千貳百二人　生子四百六十七人　死人三百四十二人

銀山六百四十二人　生子十一人　死人十八人

正德元年辛卯、人高貳萬九千六百十人　生子五百卅六人　死人八百卅五人

府中壹萬千九百卅六人　生子百四十七人　死人二百五十人

鄉村壹萬七千五十四人　生子三百八十三人　死人五百六十人

銀山六百廿八人　生子六人　死人廿五人

正德二年壬辰、人高貳萬九千五百三人　生子七百卅六人　死人八百廿三人

府中壹萬千八百卅九人　生子二百十八人　死人三百十三人

鄉村壹萬七千五十七人　生子五百〇四人　死人四百九十一人

銀山六百七人　生子十四人　死人十九人

右は宗門改役方にて年々に極候人高相知れ居候分にて御座候、宗門改の時節の儀以前は正二月に仕候得共、其時節に差間へ候儀共有之候て、時節段々相延五六月に改候様に成り候事も有之、又三四月に改候事も有之候、人高、生子、死人の高も宗門改を仕候月に極候高にて御座候故、前年は二月に改め、翌年は三月に改候時は、翌年の改之人高、生子高、死人高一ヶ月分多く、前年は五月に改め翌年は四月に改候時は、翌年の改の人高、生子高、死人高一ヶ月分少き筈にて御座候、寛文五年より以前の人改の書付は傳り不申、宗門改に付毎年人高をも改候は延寶七年以來にて御座候、對州に入り來り居候他國人の高、延寶八年の宗門改に八千八十四人と有之、寛文五年より延寶八年迄は十五年に成り、寛文の初に家中の知行扶持の格相改り候て請け方相増し、其比より上方抱の下人段々罷下り、延寶八年に至り候ては右の通りの他國人高に成り申候、寛永、正保、慶安、承應、明暦、萬治の比は、大坂堺佐野并に筑前の町人對州に在付の者も希に有之、上方抱者の下り候も希に有之候故、寛文五年迄は人高貳萬四千に及不申候、延寶八年の他國人高八千八十四人の内八九百人は、寛文五年以前より銀山に入來り居候他國人の高にて可有御座候、天和元年の銀山の他國人高八百廿五人と相見へ候にて右の通りに考へ申候、銀山榮へ候時は人多く聚り申たる由に御座候得共、對州の宗門改に入り候は少く、間屋附の者多く有之たる由に御座候、貞享以後の他國人高は天和年中の他國人高より少く御座候得共、他國人對州に在附候て子を生じ候後に死し候は他國人の高の減りと相見へ候ても、其子孫對州にて生

れ候は皆々他國人の類にて御座候、生子死人の高は貞享四年より相知れ、生子死人府中、鄕村、銀山の仕分けは元祿十四年以來相知れ申候故其通りに書載仕候、生子高少く死人高多き年は、時行の病有レ之たる年にて御座候、府中の儀人高に應じ候ては生子高多く候は、府中には妻を持不レ申下人多く、鄕村には妻を持不レ申下人少き故にて御座候、對州の銀山は下縣佐須郡鄕の內に有レ之候得共、銀山の人高は鄕村の人高に入れ不レ申、別て宗旨を改候故右の通り書載仕候、以來銀山相止候時節にても、國中の鐵砲の用を達し候程の鉛を取り出し候人數、郡中田畠水道の普請の用を達し候程の金掘り、府中入用の炭を燒出し候程の炭燒は居來り候所に罷在り、其外の夫婦者は鄕村の名子に成り、夫なく妻なき者共は侍中の下人に成り、老人、病者、片輪の獨身者は窮民格の救を請け申にて可レ有二御座一候

一　對州の府中鄕村に入り來り居候他國人年々の高、幷に其年々の入來り出歸り、其外問屋附の者缺落者の高相知れ居候分、書記し候て差上候へと被二仰付一候時の御返答書之案

對州府中鄕村に入來り居候他國生の人年々の高、幷に其年々の入來り出歸り、其外問屋附の者缺落者の高相知れ居候分、左に書付差上申候

延寶八年、他國生之人高八千八十四人

天和元年、他國生之人高七千九百七十六人

府中六千二十人　鄕村千百二十九人　銀山八百二十五人

天和二年、他國生之人高七千九百七十九人
府中六千九十五人　鄉村千百一人　銀山七百八十三人
天和三年、他國生之人高七千八百十九人
府中六千四十七人　鄉村千五十三人　銀山七百十九人
貞享元年、他國生之人高七千四百六十六人
府中五千六百九十九人　鄉村千一人　銀山七百六十六人
貞享二年、他國生之人高七千二百二十三人
府中五千四百八十三人　鄉村九百五十九人　銀山七百八十一人
貞享三年、他國生之人高七千百四十四人
府中五百四十九人　鄉村九百四十九人　銀山七百八十六人
貞享四年、他國生之人高六千八百六十一人
府中五千二百三人　鄉村九百六人　銀山七百五十二人
元祿元年、他國生之人高六千六百九十六人
府中五千百三人　鄉村八百七十六人　銀山七百十七人
元祿二年、他國生之人高六千五百六十九人

府中五千六人　鄉村八百五十六人　銀山七百七人
元祿三年、他國生之人高六千三百九十八人
府中四千八百五十七人　鄉村八百五十九人　銀山六百八十二人
元祿四年、他國生之人高六千四百二十五人
府中四千九百四十七人　鄉村八百四十二人　銀山六百卅六人
元祿五年、他國生之人高六千五百四十八人
府中五千百十三人　鄉村八百五十一人　銀山五百八十四人
元祿六年、他國生之人高六千七百六十七人
府中五千三百六十二人　鄉村八百六十三人　銀山五百四十二人
元祿七年、他國生之人高六千七百〇七人
府中五千三百四十六人　鄉村八百七十七人　銀山四百八十四人
元祿八年、他國生之人高六千七百四十九人
府中五千四百六十九人　鄉村八百六十二人　銀山四百十八人
元祿九年、他國生之人高六千八百十人
府中五千五百八十人　鄉村八百四十人　銀山三百九十人

元祿十年、他國生之人高六千八百五十人
府中五千六百六十人　鄕村八百五十二人　銀山三百卅八人
元祿十一年、他國生の人高六千七百七十六人
府中五千六百十四人　鄕村八百四十八人　銀山三百十四人
元祿十二年、他國生の人高六千七百卅人
府中五千六百〇九人　鄕村八百卅四人　銀山二百八十七人
元祿十三年、他國生之人高六千六百卅人
府中五千五百六十一人　鄕村八百九人　銀山二百六十人
元祿十四年、他國生之人高六千二百八十九人
府中五千二百六十一人　鄕村七百八十五人　銀山二百四十三人
元祿十五年、他國生之人高五千八百六十五人
府中四千八百七十人　鄕村七百七十一人　銀山二百二十四人
元祿十六年、他國生之人高五千六百〇六人
府中四千六百四十八人　鄕村七百四十九人　銀山二百九人
寶永元年、他國生之人高五千三百八十八人

府中四千四百五十六人　鄉村七百卅三人　銀山百九十九人
寶永二年、他國生之人高五千百三十四人
府中四千二百廿四人　鄉村七百廿四人　銀山百八十六人
寶永三年、他國生之人高四千九百六十人
府中四千七十八人　鄉村七百十二人　銀山百八十人
寶永四年、他國生之人高四千三百四十七人
府中三千四百九人　鄉村七百六十五人　銀山百七十三人
寶永五年、他國生之人高三千九百五十四人
府中二千九百四十九人　鄉村七百九十五人　銀山二百十人
寶永六年、他國生之人高三千五百六十四人
府中二千五百六十二人　鄉村八百十人　銀山百九十二人
寶永七年、他國生之人高三千三百廿人
府中二千三百五十四人　鄉村七百八十一人　銀山百八十五人
正德元年、他國生之人高三千二百廿八人
府中二千三百二人　鄉村七百四十七人　銀山百七十九人

正德二年、他國生之人高三千百卅四人

府中二千二百四十六人　郷村七百二十五人　銀山百六十三人

右は他國生之人高、年々の高相知れ居候分にて御座候

元祿元年入來り百四十一人、出歸り百八十人　同年欠落者五十八人

元祿二年入來り八十一人、出歸り百廿五人　同年欠落者四十人

元祿三年入來り百六十人、出歸り百十一人　同年欠落者廿七人

元祿四年入來り三百四十三人、出歸り百廿人　同年欠落者卅三人

元祿五年入來り四百九十九人、出歸り百廿六人　同年欠落者卅一人

元祿六年入來り六百五人、出歸り百三十一人　同年欠落者八十四人

元祿七年入來り二百六十三人、出歸り九十三人　同年欠落者五十五人

元祿八年入來り四百卅三人、出歸り百五人　同年欠落者參人

元祿九年入來り四百二人、出歸り九十二人　同年欠落者五十二人、間屋附五百四十六人

元祿十年入來り參百五十四人、出歸り百四十一人　同年欠落者四十一人、間屋附六百七十六人

元祿十一年入來り參百八人、出歸り百廿七人　同年欠落者五十九人、間屋附七百五十九人

元祿十二年入來り二百七十二人、出歸り百七人　同年欠落者五十三人、間屋附五百十六人

元祿十三年入來り四百八十九人、出歸り二百人　同年欠落者六十二人、問屋附千四百五十一人
元祿十四年入來り百七人、出歸り百九十五人　同年欠落者五十五人、問屋附八百五十五人
元祿十五年入來り八十四人、出歸り百五十一人　同年欠落者百十四人、問屋附千百五十八人
元祿十六年入來り廿三人、出歸り八十人　同年欠落者五十三人、問屋附四百九十壹人
寶永元年入來り七十一人、出歸り八十二人　同年欠落者七十七人、問屋附五百十九人
寶永二年入來り八十七人、出歸り百廿九人　同年欠落者四十八人、問屋附七百五十一人
寶永三年入來り六十四人、出歸り百八人　同年欠落者卅七人、問屋附四百十人
寶永四年入來り五十人、出歸り四百四人　同年欠落者六十五人、問屋附五百廿人
寶永五年入來り十三人、出歸り二百卅二人　同年欠落者五十七人、問屋附五百五十人　内三人は町人の抱者
寶永六年入來り三人、出歸り百六十三人　同年欠落者廿五人、問屋附四百四十二人　内四十六人は町人の抱者
寶永七年入來り五人、出歸り七十人　同年欠落者六十參人、問屋附千參百廿一人　内廿七人は町人の抱者
正德元年入來り十一人、出歸り廿人　同年欠落者八人、問屋附千六百廿九人　内廿人は町人の抱者

正徳二年入來り八十九人、出歸り卅人　同年欠落者五十八人、間屋附參百七十五人　內廿四人は町人の抱者

右は他國人入來り出歸り、幷に缺落者間屋附の者年々の高相知れ居候分にて御座候、寶永四年迄は町人の抱者も入來りの高の內にて御座候へ共、寶永五年より侍中の抱者計入來りの高の內に仕り、町人の抱者は間屋附の高の內に仕り申候、間屋附の高大體は何百人と申す高にて御座候所、年に依り千何百人と申す程有レ之候は、釣り船の者共入來り居候節、宗門改有レ之たる年にて御座候、右の外對州生の者他國へ出候分、寶永四年には四十五人、寶永五年には百廿人、寶永六年には六十三人、寶永七年には十九人、正徳元年には八人、正徳二年には十九人、他國へ出候て立歸り候者、寶永七年には六人、正徳元年には一人、追放者、寶永四年には六人、寶永五年には一人、寶永六年には一人、寶永七年には二人、正徳元年には二人、正徳二年には一人にて御座候

一　御國鄕村の田畠木庭昔は百姓代々の持傳へに仕り、寛文四年に物成を定免に被二仕付一候時迄も其通に仕らせ被レ置、寛文十一年に地分け有レ之候節、百姓持傳への地面悉く取上げに成り、其村の百姓等分に請込候格に相極り候、地分け以前の利は百姓持傳への地面を面々の知行の樣に存じ、譬ば山畠の片下りなる地面を耕し候に自身の苦勞を致二堪忍一候て、下き方より高き方に掘り上げ、肥土の下き方に落ち不レ申樣に仕り、川端の坪などは岸の崩れ不レ申爲に川柳小竹等を川岸に植へ付け、左樣の仕

形を公役の樣に不レ仕、面々眞實に念を入れ申たる所にて御座候、其害を考へ候に、富有なる百姓は其村幷に隣村の地面を心次第に買取り、貧窮なる百姓は富有なる百姓の作り子に成り、貧富の差別甚く候て、公役を勤候百姓の數段々減じ申たる所にて御座候、地分け以後の利は貧民も村並に地面を請持、富民も自由に買込候儀不レ被レ成、公役を勤候百姓の數其以前よりは增し申したる所にて御座候、其害を考候に面々請持の地面にても、以前より代々持傳へ候時程には大節に不レ存、以前富民の持候地面の作り子に成り居申たる時の心の樣に有レ之、御郡奉行より折々の下知無レ之候得ば、內證の地分けを仕り候村有レ之所にて御座候、然共內證の地分けを堅く被レ禁、地分けを仕直し不レ申候て不レ叶村計吟味相極り候上にて地分け仕らせ被レ申、不精にて請持の地面に出來可レ申程の穀物を作り出し不レ申者は、地面を取り上げ名子の部類に入れ、取り上げの地面を百姓の次男又は名子の內にて、上百姓に成り立て可レ申者に請込せ被レ申、地分を仕直し不レ申候て不レ叶に吟味相極り候節地分け仕候も、上百姓の地位を好く仕成し置候分は少も分け直し不レ申其儘にて請込せ置き、中分以下の百姓の請込の分計にて分け直し其格にいたし候時、上百姓請持の地面村並よりは少々過分に當り居候とも、必等分に分させ候樣には不レ被二申付一其仕形を上百姓地位を好く仕成し候褒美の心持に被二申付一候はゞ、地分け以後の格の通り地面を百姓自分の物に仕り得不レ申方利益多きにて可レ有二御座一候、地分け以後の格に成り居候ても、富有なる百姓より貧窮なる百姓に穀物銀子を借し渡し、利息の代りに請持の地面の內を取り置き、欲

心深き者は公儀の御法を背き候て、物成を本地主に納させ候儀有レ之間敷とも難レ極候故、奉役村下知人左樣の所に念を入れ候得と御郡奉行より折々申渡し有レ之、人力足らざる方より人力餘りある方へ、木庭の內を一年切りに賣り候儀は不レ苦事に御座候得共、長病を煩て百姓其身請込の田畠木庭を、家內の者に作り屆させ候儀成りかね候て、同村又は隣村の者に田畠の內を年切りに賣り候事なと有レ之候は、村下知人肝煎勤方に念入り不レ申、病氣なる者不仕合なる者を村中より救はせ、耕作取納を村中より合力仕らせ候儀無レ之故にて御座候得ば、是又御郡奉行より折々申渡し有レ之、左樣の下知に油斷無レ之候はゞ、尙以地面を百姓自分の物に仕り得不レ申方利益多きにて可レ有二御座一候、又木庭の內を畠に仕成し候所に畠物成を仕付け候段當らざる事とは難レ申、其肆養父の御領分にて畠を田に仕成し候には、田物成を被二仕付一候と同前の儀に候と申す說も有レ之候得共、其肆養父の樣子は不レ存、御國の鄉村にては其不レ宜事にて可レ有二御座一候、作人精力勝れ請込の木庭の內にて畠に成り可レ申所を畠に仕成し候とて、其坪に畠物成を被二仕付一候はゞ、其作人の心に耕作に精を出し作得の餘計有レ之樣にいたし候得ば、如レ此委細に物成の仕付け有レ之と存じ、耕作の心掛け薄く成り農業の勢を妨げ可レ申候故、木庭の內を畠に仕成し候ても畠物成の仕付け無レ之候段、以前よりの仕來りの通りに成り居候方可レ宜事と相見へ申候、竿延餘計の地を作り候に物成を仕付け不レ申候段可レ宜事と相見へ候も同じ道理にて御座候、又高免の地面とて物成を被レ減候儀も容易に可レ難レ成事に御座候、譬ば五十石物成を納候て相應と相見へ

候村に、六十石物成の仕付けを請け居候は十石の分高免にて候、其村より高免の由申立て、定免の高を被レ減候樣に願出候時、若願の通りに成り候はゞ、其類の願を段々可二申出一候、一村の高免を吟味の上にて被レ減候上は、其類の願一々に聞分け無レ之候て不レ叶事にて可レ有二御座一候、吟味の上にて高免の分を被レ減候はゞ、相應よりは免輕き村の物成も、吟味の上相應に增し不レ被レ申候て不レ叶事にて可レ有二御座一候、水掛りの移り替り作人の好し惡しにて以前高免と相見へ居候坪、其後輕き免と相見へ候樣に成り候事も有レ之、以前輕き免と相見へ居候坪、其後高免と相見へ候樣に相成り候事も有レ之、物成の仕付け折々相改り候には其費甚多く、折々相改り候ても十分に相應仕る樣には難レ成筈と相見へ、若又物成を改候役人不功に候か不直に候はゞ、其害尚以甚き筈にて御座候故、高免も輕き免も被二相改一に不レ及、若甚き高免と相知れ候村有レ之候はゞ、其村の公役銀の出しまへを減じ、其鄕中の村々に相應に蒙らせ、其鄕中計に蒙らせ候儀難レ成候節は、八鄕の公役銀高を割直し、總體に蒙り候樣に成候方可レ宜儀に御座候

一　御國の鄕村にて以前行はれ其後相止み居候事の內、鄕村の益に成り申たる儀兩條有レ之候は、蠶を飼候事と鹽を燒き候事にて御座候、某先年東鑑を考へ見申候に、御國の國司源親光國司の年限相滿候時織物三萬疋上納有レ之、小國の納貢滿足と御座候は、其時代鄕村に蠶を多く飼申たる故と相見へ申候、五六十年以前迄も蠶を多く飼候村多く有レ之たる由に御座候處、其後段々相止め候て飼候村希に御座

候、就ㇾ夫桒共勤役の節被二仰付一候は、蠶の飼様を知り候者に試に飼せ候へと被二仰付一、小茂田村の内にて兩年飼せ申候所、入目に當り候程の利分有ㇾ之物にて無二御座一、只百姓の婦女農業の働を不ㇾ仕者共のいたし候儀と相見へ申候、御國の山は所々に桒木有ㇾ之候故、在家の近邊に段々桒を植へ立て桒葉の取り方手易く成り候はゞ、蠶を飼候に差閊へ候儀は無二御座一筈にて御座候得共、御國は諸作の内にて麥作を多く仕付け、麥作取納は蠶を飼候時節に當り、其節婦女蠶を飼ひ、山奥海邊方により麥作を取納候に合力不ㇾ仕候ては、麥作の取納め致二延引一秋作の仕付け迄も延引に成り、年長じたる男子無ㇾ之者などは取り納め尚以延引に成り、夫共に諸方の通路難ㇾ成時代には、面々の手前の用を達し候爲に利益の多少、差閊への有り無しを考へ不ㇾ申候て、古より仕來り候通りに蠶を飼ひ、諸方の通路無ㇾ滯時代に成候ては、婦女農業を助け候力にて麥作の取納め、秋作の仕付け果敢取り、男女磯山を働候利益にて他國より入來り候絹織物等を買調へ候方、却て勝手に宜きと相考へ候所より蠶を飼ひ候儀段々相止み申たるにて可ㇾ有二御座一候、又昔郷村の内砂濱有ㇾ之所にては、其手寄りの村々之者共鹽竈を仕立て候て、鹽を燒き鹽竈運上を納め申たる由に御座候得共、其後段々相止み候て一ヶ所も無ㇾ之様に成り行き申候、廿ヶ年以前府中の町人鷄知樽ノ濱にて鹽竈を仕立て鹽を燒せ候得共、利分無ㇾ之相止申候、御國にて鹽を燒候は元より利分少く有ㇾ之たるにて可ㇾ有二御座一候得共、諸方の通路難ㇾ成時代には面々手前の用を達し候爲に、利分の多少を考へ不ㇾ申候て鹽を燒き、諸方の通路無ㇾ滯時代に成り候ては、薪

を伐り出し炭を燒き出し候利分にて、他國より入來り候蠶を買調へ候方却て勝手に宜きと相考へ候所より、鹽を燒候儀段々相止み申たるにて可レ有二御座一候、蠶を飼候儀希に殘り居候は、皆々迯り公役、漕船公役の當り候事甚希なる村々の内にて御座候、蠶を飼候ては麥作取納に相障り候故、公役繁き村は蠶の障り彌重く候て相止申たるにて可レ有二御座一候、依レ之某共御役相勤候節蠶を飼候村希に有レ之候に、無二斷絕一飼候へと致二下知一候迄にて、昔の樣に村々に蠶を飼候得との儀は勸め不レ申候

一　某共御郡役の節僉議仕り候は、御國之山附きは土淺く御座候故、堤の壞所も有りかね、岩の出張り所々に有レ之候故、水道を仕掛け候て川上より水を取り候儀も難レ成、何れの村の田も多くは天水田と深け田にて御座候、深田雨過候時の爲に水拔の溝を仕掛け可レ申と存候ても、旱損多く成り可レ申恐れ有レ之、天水田に近邊の出水を用ひ候ては冷氣の痛み有レ之、右の通りの儀にて御座候故、水を掛け候て田にいたし、水を落し候て麥作を仕付け候、田は少く大體は一作之天水田深田にて御座候、依レ之山中海邊の間に有レ之上畠に麥作を仕付け、麥作の跡に芋、蕪菁等を作り候は、一作の上田よりも利分多く、損毛の年も田の程には無レ之、田方の利益畠方に及レ不レ申と心得居候村十に八九にて御座候、山川に岩の出張り有レ之所は金掘に水道を切り通させ、直なる大木を樋の形にいたし候て岸を隔てたる水をも取り、洪水にて樋を流し不レ申爲には大葛にて樋の片端を結へ、其邊の立木の樣に結續け置き、田の内に有り來り候濕氣は溝より川に拔き候て、遠方の水を仕掛け田方の耕作に力を盡し候はゞ、田方の

位以前よりは好く成り、籾の出來高も相增し、以前より畠に成り居候所を田に仕成し候て、畠にいたし置候時より利分相增レ候儀可レ有二御座一候、又御國の儀西國の内にての北寄りの島にて御座候故か、麥の出來筑前肥前壹岐よりは廿日程も遲く、梅雨の前に麥を取り仕廻候と申す儀は無レ之、梅雨の節七八日の内二三日も晴天有レ之候得ば、雨天四五日に刈取り置たるを、晴天二三日に干し候得共、雨天七八日も續き候へば、穗麥の内に腐候粒段々に出來候て損失に成り、長雨の節前以穗先きを燒置きたる麥を竹器に入れ、竈の上に掛け候て火に乾し候儀も有レ之候得共果敢取り申す事にて無二御座一、穗麥を家々の土間の内板敷の上、又は臼屋の土の上に積み候て濕氣の洩れ候儀無二御座一候、他國の鄉村には作物を取り納め候爲に、こなし屋と申す小屋を建て置候儀有レ之由承り候て心付き候は、御國の鄉村に家の土間を廣くいたし候得と下知仕候ても、穗麥を積み置き候て長雨に腐候樣損失を防ぎ候爲は少く御座候故、穗麥を長雨の間入れ置候小屋を勝手宜き所に建て、小竹の床を高くいたし、床の上には麥粒の洩れ不レ申程の古き席を敷き、四方の壁にも小竹の編たるを引き廻し候て、風を通し濕氣を洩し、四方の端に積置きたる穗麥は吹掛けの雨に當り候ても、雨の止みまに風の當り強く候所より乾き易く、中に積み込みたる穗麥は風の當り弱く候ても雨の當り候儀無二御座一、刈取り候時に含みたる濕氣は漸々に竹床の下に洩れ、床高く風通り候所より土氣の上り候害も輕く、右段々の違にて長雨に麥粒の腐れ損失少く成り、晴天の日に取り出し候て干し候も、以前三日に干上げたるを二日にも干上げ可レ申樣に

相見へ候、右の小屋の儀茅葺、麥藁葺、竹床、竹壁に仕り候ては入目も輕き筈にて御座候故、每年農隙に村中互に力を合せ候て建て候はゞ、數年の後には村々不㆑殘建て揃へ可㆑申候、利益の程を考へ候爲に、初年には大村計に一軒づつ建させ、彌利益有㆑之段を面々致㆓得心㆒候上にて段々と建させ可㆑申事に御座候、又御國の儀外國に向き申たる浦々には干出に成可㆑申濱無㆑之候へ共、內海の浦々には干出に成り可㆑申濱間々有㆑之、干出の開きの儀干出に成り不㆑申所に川筋を立て候ては、川上の山々より大水の節流れ下り候土砂川筋を通り候て浦を淺め、船を繫ぎ候爲には惡く成り、干出にいたし度と存候所は干出に成り不㆑申、其樣子仁位村の浦濱にて相見へ居申候故、寒中木の性强き時櫪木を長さ三尺程に伐り揃へ、干出に成り可㆑申濱大潮の干切れの限りの所に、兩方の岸より押通し候て右の木を打込み、木の頭を一尺程づつ出し置き、流れ掛りたる土砂の留り候樣にいたし、一尺程づつ出居候木の頭埋り可㆑申と相見へ候年の冬又初に、木を打込みたる內に一尺程引取り候て初の格に木を打込み濱邊干出申たる分計に少づつ川筋を立て、段々其通りに仕り候はゞ作所相增し可㆑申候、右の仕形にて出來候作所は、腐たる草木の葉に土砂の交り候にて出來申候故作所の位地も好く、其內には川上の水を引き請け候事の來り候は田方に仕り、田方に成不㆑申候は畠方に仕り、一段以上の所は皆々右の通りに仕掛け、最初に打たる櫪木腐候て岸の根崩れ可㆑申樣子に相見へ候所は、又新櫪を最初の格に打添へ候はば、二三十年の後には干出の作所相增し候分不㆑少事にて可㆑有㆓御座㆒候、又御國の內に儲實の多く出

來候山五六ヶ所ならては無二御座一、海に遠き山々は櫨木多く候ても櫨實少く候故、海より半里一里の間に有レ之山々、北向の險阻なる所、位地惡き所には櫨實を植へ、櫨木を仕立て可レ申事に御座候、險阻なる陰ヶ木庭、下木庭は耕作の利益少く御座候故、其類の取計に櫨木を仕立て候て、木庭に明け不レ申分の損失は少の儀にて、三四十年の後櫨實多く生じ候はゞ、凶年に食用を足し常の年にも穀物を蓄へ候助に成り、險阻なる陰ヶ木庭、下木庭よりは利益相增し申にて可レ有二御座一候、右の次第は某共御郡役交代の時分に至り候て、存じ寄り申たる事に御座候故、僉議仕り置候迄にて其試をも不二申付一、只鷄知村にて穗麥を入れ候小屋を一軒立させ候得共、追付御役致二交代一候に付、右の小屋の試も不二承屆候、惣體諸事を試候に初め可レ宜と僉議仕り置候ても、試に取り行候時不レ宜所相知れ候儀も有レ之、又其事は宜く候ても試の仕形惡く候て不レ宜樣に成り候儀も有レ之、又其事も宜く試み仕形も宜く候ても、試の妨に成り候事致二出來一候て不レ宜樣に成り行き候儀も有レ之候故、某共僉議仕り置候品々の利害損益も容易には相知れ申間敷事に御座候、右に記し候品々の下知と、木庭作、川普請の下知と、麥の取り掛りを早め川近邊の平地の麥を先きに取り候下知と、用心穀物出し立ての格相立ち候下知の爲に、其器に當り候御役人を一人被 仰付一、下役を兩人程被二仰付一、御郡方の當用の相談には少も加り不レ被レ申、只右の段々を御郡方の衆に相談し候て、專一に被レ致二下知一候樣にと御座候て其下知行はれ候はゞ、五六年の後には用心穀物出し立ての格相立ち、以前折々有レ之たる御年貢の捨り、右用心穀物出し立ての

內より差足し、捨りの御損失無レ之分も不レ輕御事と相見へ、用心穀物百姓の利益に成り候所に尙以不レ輕事と相見へ可レ申候、御郡方には當用繁く御座候故、假令御役人を二人三人御增し被レ成候てゐ當用を被レ勤候に成り候ては、右段々其下知屆き申間敷候、別て御立てと成り候御役人は希に被レ致二上府一、多くは鄕村所々に居可レ被レ申候故、右段々の下知屆ニ可レ申樣に存候、然共其御役人に勤方の功を以て立身を望候心有レ之候か、本役村下知人肝煎百姓等の賄を請け利欲に耽り候心有レ之候か、人の申す事の手前の了簡より優り候を惡み候て用かね候心有レ之候か、不行儀にて酒色を好み候心有レ之候か、右の類の心少にても有レ之候ては、鄕村の實益に成候筈の下知にても其下知相立ち不レ申、却て種々害致二出來一御郡方よりの總體の御下知の妨にゐ成可レ申候、又某御郡役の節上鄕東目の村にて以前より存じたる者の申候は、播磨の薪積船當浦へ入り來り候時船頭の物語に、當國の人麥を平ら蒔にいたし小畝作りに不レ仕候は心得違にて候、平ら蒔の能肥へたるは實の入りかゝる時雨風に逢候て伏し易く、伏し候て後は根の性よわく成り候て實入りあしく、當國にては是を肥へ過たると申候、小畝つくりは初め畝溝にうへ候て後に畝頭らの土を段々と掛け候ゆへ、初の畝溝は畝頭に成り麥の莖土に入りたる所深く、實の入りたる時雨風に逢候ても伏し難く、伏し候ても根の性强く候て實入りに障らず、肥へ過ぎたるといふことなく、こやすほど實いりよく候、平ら蒔はこやし多くいり、同じ樣にゆきわたらずあくれ穗多く、土をかくることなりかね、草を取るにも六ヶ敷、刈るにも刈手間入り、小畝作りはこ

やし少くいり、同じ樣にゆきわたりあくれ穗少く、土を掛け草を取る事手易く、刈るにも刈り易く候と物語り仕候、近年は當村の内にも小畝作りを仕候儀少づつ相增し候と申候、他國にも小畝作り平ら蒔き共に有レ之由に御座候得共、右播磨の者の申し候所能く聞へ申たる事の樣に存じ、御國の鄕村にて大體申來り候を承候に、小畝作りは種少く入り、種の程に應じ候ては出來多く候得共、一面に蒔き不レ申所より其步數に應じ候ては出來少く、平ら蒔きは種多く入り、種の程に應じ候ては出來少く候得共、一面に蒔候所より其步數に應じ候ては出來多く候と申來り候、ヶ樣の次第未分明には勘辨仕り得不レ申候、其道筋は優り候ても作人の仕覺へ不レ申儀は、利分多き筈の仕形に利分少く、其道筋は劣り候ても作人の仕覺へ候儀は、利分少き筈の仕形に利分多き事も可レ有二御座一候、他國の百姓作毛を養候仕形を傳へ承り候に、生じ候爲に養ひ、長じ候爲に養ひ、穗に出候爲に養ひ、實のり候爲に養ひ、薄く養ひ候て養ひの度數多きを被レ掛、養候て養の度數少なきを不レ宜と申す由に御座候、御國にて藻鰯等を作毛之養にいたし候に、穗に出候爲實のり候爲の養は見へ不レ申、生じ候爲め長じ候爲の養と相見へ、薄く養候て養の度數多き方とは見へ不レ申、厚く養候て養の度數少き方と相見へ候、朝鮮にては干藻を短く切り俵に入れ置候て、作毛之養に仕所有レ之由傳へ承り候、御國にて藻を養にいたし候樣子は、取り上たる藻を干し候て藻小屋に入れ置き、麥を蒔付候節取り出し候て土中に鋤き込み、其上に麥を蒔付け候故、藻の内に土の交り不レ申所有レ之、其所に麥種留り居、蒔付候後久しく雨降不レ申候へば、土に入

り居候麥種よりは乾き甚く種の性弱く成り生じかね候儀有レ之由に御座候、朝鮮にて干藻を短く切り候て養に仕る所有レ之候は、土に交り易き爲にても可レ有二御座一候得共、干たる藻を短く切り候段手間入り可レ申事の樣に存候、御國にて藻を取り候時之樣子を承候に、干終り不レ申内に長雨大雨に逢候へば、藻の性脫け油氣無レ之成り候故、雨止み候迄浦の潮に浸し置き候ても、或は浪に打上られ、或は浪に引取られ候事有レ之、風雨の節の寄り藻などは向以干し候事成りかね、大分腐捨り候儀有レ之由に御座候、雨降り候節の藻は浪の掛り不レ申水の通り不レ申所に積み重ね、茅にて屋禰の樣に圍ひ置き、長雨大雨に逢候ても油氣脫け不レ申、油氣を含みながら腐候樣にいたし、晴天續き候時乾き候分を段々打碎き、俵に入れ藻小屋に蓄へ置き候て養に仕り、以前より仕來りたる干藻の養との利益の程を考へ合せ、利益勝れ不レ申候はゞ、風雨の節の寄り藻と、干終り不レ申内に雨に逢候藻計右の通りにいたし、利益勝れ候はゞ、惣體右の仕形に相改め、二月の比麥畠の上に生藻を敷き散らし候養をも止め候て、是又右の通りにいたし、干藻を直に麥畠に鋤き込み候は、春雨に藻腐の節ならでは養ひに成り不レ申由に御座候故、油氣を含みながら腐碎けたる藻を、蒔付け初より實のり候節迄段々と養にいたし候はゞ、作得相增し候儀可レ有レ之樣に存候、以前多年諸國を遍歷致したる人の語り候は、御國にての木庭の仕形を他國にては伐り畠と申候、其類の仕形に伐り掛けと申す儀有レ之、右の伐り掛けは山中にて地之平なる所と、地の穩なる所計り少づつにても幾所にも掘り明け、險岨なる所は地位好く候ても掘り明け不レ申

草木を立て置き、作所の四方の手近き所より木の枝を伐り取り、草茅を刈取り耕し置たる作所の上に敷き散し、其草茅木の枝の枯れたる時に焼き候て養にいたし、毎年この通りに仕る所有レ之由語り申候、草木を作所の上にて焼き候は、焼きたる灰の土を養候利益のみにて無レ之、草木の焼け候火にて土の焼け候も作毛の爲に宜き由申候故、土を耕し候度ごとに其通りに仕り候はゞ、同じ物を年々に蒔付け種へ付け候ても出來好き道理可レ有ニ御座一候、右伐り掛けの仕形を試に仕り木庭を段々に伐り明け、二三年づつ作り候仕形との利益を考へ合せ可レ申事に御座候、伐り明けをいたし候にも風を防ぎ可レ申程之木の枝は伐り不レ申、小立ち又は伐りかぶより生じ候を伐り掛けにいたし、草茅は焼き候爲にも刈り、旱の節作毛の根に敷き候て濕氣を求め候爲にも刈り、作所の下手に有レ之草茅木の枝を上手の作所に運び候は苦勞相増し可レ申候故、少々手遠く候分は下手の作所に運び申候て可レ有ニ御座一候、山々にても川岸にても嶮岨なる所に作物を仕付候とて掘り明け候へば、大雨の節浮土の流れ下り候害有レ之候故、平なる所穩なる所に水やりを能いたし、上手より作所水の流れ込み不レ申樣に仕り、嶮岨なる所は惣體掘明け不レ申候はゞ、作所の土を保ち候爲にも成り可レ申候、平なる作所穩なる作所の四方に大木立ち居候はゞ嶮岨なる作所の四方に大木立ち居候とは違ひ、風損を防ぎ候益も少々は可レ有レ之候、西海に出張りたる村之作所は、畠木庭共に秋風強く當り秋作別て損じ候故、秋作不レ仕候て麥作計仕る村有レ之。左樣の村は秋物を取り終り候跡に麥を蒔付候にて無レ之、麥を取り納め候節秋物を蒔付候にて

無レ之候へば、蒔付も取り納めも手廻し能く候て少も時に後れ不レ申、麥作を取り終り候跡は夏かやしとて土を耕し置き、水田を干田に仕る格にいたし、六月より八月迄は土を休め、其上に百姓の働方勝れ藻を取り候手寄りも好く候は、他の中分の村の麥作秋作兩樣の取り高よりは其村麥一作の取り高却て多く候、然共秋作に宜き土地に麥作計可レ仕樣無レ之候故、秋作に宜き土地は秋作を可レ仕事に御座候、惣體山奥の畠木庭は秋作に宜く、海邊の畠木庭は麥作に宜き田に御座候、其故を致二吟味一候に海邊は潮風の吹通しにて麥粒に著濕を含み不レ申所より實入り好く、山奥は暑氣の節夕立の雨海邊よりも多く、秋風の當り海邊程は無レ之候所より旱損風損海邊よりは輕きと申す事に御座候、然ば海邊の畠木庭は麥作計仕り、山奥の畠木庭は秋作計仕り、里近邊の手寄り好き作所計別て養に念を入れ、麥作秋作兩樣共に仕り、海邊山奥共に手寄りに草木多き作所は、畠迄も右に申述候伐り掛けの仕形にいたし、山奥の作所に蕎麥と裸麥を交へ一度に蒔付け候事を仕來り候村は、其仕來りの通りにいたし、他之秋物一作の土地は秋物を取り納め候後數ヶ月休め候を、右蕎麥と裸麥を交へ候て作り候土地は五月六月二ヶ月休め、裸麥は飯に炊き候時のふべり常の大麥程に無レ之候ても、舂き候時の減り甚少く、殊に實のり候事早く候て、貧民麥出來前に穀物を喰盡し候者共の爲に成り、一作の手間にて兩作を仕付候益も有之候へ共、其通りに仕る村は希に候故、彌利益あるに相極り候はゞ、山奥は秋作計仕るに成候とも、蕎麥には裸麥を交へ候て蒔付候樣に有レ之度事に御座候、右申述候次第の利益を考へ合せ、土を耕し土

を掛け、草を抜き養を入れ候仕形、蒔付取納の仕形迄宜き道筋を幾重にも承り合せ、心を用ひ力を盡し候はゞ、作得の増益少之儀にては有ㇾ之間敷候、以前より御國中の申來りに、御國は土地悪く候故耕作と養に如何程念を入れ候ても、差違たる作得の増しは無ㇾ之筈と申す事に候へ共、鯨組の手代、薪船の船頭、其國々の百姓の働方を見屆候者共の批判に、御當地百姓の様に働候ては身體在附きかね候筈にても、仕形の精しからぬと申すのみにて無ㇾ之、働方も不精なると申候由折々承及候、其批判無理にて有ㇾ之間敷と存じ、證據は同じ地位の村々の内にても、耕作の働に精を出し候村は穀物の取り高多きにて相知れ申たる事に御座候、又御國の百姓は公役繁く候故、農業に精を出し候儀成りかね候と申す事に候へ共、御郡中にて佐須奈村、鰐浦村は御關所有ㇾ之に付、百姓を被二召遣一候儀其外の村々よりは甚繁く候ても、耕作の働方村並に勝れ候所より、穀物の取り高他の中分の村よりは多く候、府中と佐須奈、鰐浦との往來筋の村々は、海陸共に送り公役繁く農業に障り候へ共、豐崎郷より與良郷迄の内通り筋にて無ㇾ之村々、幷に佐須郷、豆酘郷は送り公役甚稀に候ても、其分の働を仕り作得多きと申す達目も見へかね候、以前承り候は、昔公儀御領の内御年貢御公役御免の村有ㇾ之候に、其村の在附却て並び村の在附には無ㇾ之段々致二衰微一候に付、其後願上候て御年貢を納め御公役を勤候へば、在附却て好く成り候と申す物語りを承り候、年貢薄く公役輕く候は郷村の在附好く成り候根元にて御座候得共、百姓油斷仕候へば年貢を納不ㇾ申、公役を勤不ㇾ申候ても衰微仕る道理有ㇾ之と相見へ、古訓に民の

事不レ可レ緩と示し被レ置候ハ、其道理にて可レ有ニ御座一候、御國の土地にても年に依り所に依り、麦一本のかぶより成は何百粒、或は千何百粒と申す粒數出來候も有レ之、其坪の出來高にて四五十倍に當り候も有レ之候、小畝作りなどは百倍程に當候處も有レ之候故、畠木庭を並し候ても十五倍廿倍には作り出し可レ申事の樣に相見へ候所、畠木庭の出來の並し種の十倍に當り不レ申所多く、唯一筋に耕作を手廣く仕る事を好み、木庭一石蒔にて十倍出來候ても十石取り、二石蒔とは七倍出來候ても十四石取り、種を引候て三石の利益にて候と申由に御座候、右の損益の道理も一筋は聞へたる事には御座候へ共、二石蒔の手間を一石蒔に用候はゞ、作り出しの違目三石などと申す事にては有レ之間敷候、同じ地位同じ蒔目の畠を請込居候ても、上百姓の作得は下百姓作得より一倍程も多く候にて相知れ申たる事の樣に存候、山中の木庭の儀東風の損毛を免れ候處も有レ之、西風の損毛を免候所も有レ之南風の損毛を免候所も有レ之、北風の損毛を免れ候所も有レ之、一ヶ所二ヶ所抔に秋作を仕付け候は損分多き筈にて御座候故、平なる穩なる所計何ヶ所にも掘り明け、嶮岨なる所迄手廣く掘り明け候手間を、平なる所穩なる所計に用候樣に有レ之度事に御座候、某御郡役の内の念願に御國之儀耕作の仕形他國より粗く候と相聞へ居申候故、村々に二三日づつ宿り候て耕作取納之仕來りを聞届け、地面川筋の樣子を見届け、薪船の船頭其國の耕作の仕形を語り候をも聞合せ、某肆養父御領分耕作の功者の申分を書中を以尋聞き、一部の書籍を仕立て候て御郡御役所に遺し置き、以來迄御郡御役人衆土地耕作の儀を御下知被レ成候御考

へに成り候樣に仕り度と存候へ共、不氣力にて當用さへ勤めかね候へば、其念願終に不ㇾ致ニ成就一候

一　御郡中にて利益の儀を致ニ沙汰一候に、沙汰程に利益無ㇾ之儀も可ㇾ有ニ御座一候、譬ば　鄕い浦々立ち魚を大分立ち込み、八鄕の並しにて十貫目程づつ利を得銀高八十貫目程有ㇾ之候を、公役を勤候百姓の公役銀高に割付け候て致ニ所務一候へと被ニ仰付一候事など御座候はゞ、百姓共此節身體成立て可ㇾ申候て甚く可ㇾ致ニ沙汰一候、又二三月比氣候惡く八鄕の麥作に痛み相見へ、四月に氣候好く成り晴天の日多く候て、宜き程に雨も降麥作の痛み立ち直り、麥六石取り可ㇾ申と存候者共八石取り、八鄕の作人二千五百人程にて五千石程の增しに成り候はゞ、一石卅目の麥にいたし候ても百五十貫目の銀高にて御座候、然共立ち魚にて八十貫目の利を得候樣には不ㇾ致ニ沙汰一只少々麥作立ち直り候と申したる迄にて可ㇾ有ニ御座一候、作物の出來增し一割など有ㇾ之候は、是又何の沙汰にも及不ㇾ申、出來劣り一割など有ㇾ之候は、是又何の沙汰にも及不ㇾ申候得共、損益の違は不ㇾ輕事と相見へ、作物の出來の多少は其年の氣候のみにて無ニ御座一人事の精粗に預り候所も有ㇾ之、困窮村困窮人の作所にて、他村他人に無ㇾ之不作損毛折々有ㇾ之にて相知れ申たる事に御座候、是又上使御巡檢、信使來聘の節の通りに百姓を多く被　召遣一耕作の仕付け取納常の程に難ㇾ成、山海の働も常の程に仕り得不ㇾ申年は、作物損毛の年と山海の出來少き年と同じ道理にて御座候、百姓の在附は諸穀、諸菜、出來能く、山海の物出來多き年に在附き、百姓の困窮は諸穀諸菜出來惡く、山海の物出來少き年に致ニ

困窮㆑候道理にて御座候得共、其内にても年々の覺悟宜き者は、二ヶ年の不作にも及㆓困窮㆒候と申す程に無㆓御座㆒、常々の覺悟不㆑宜者は、一ヶ年の不作にも及㆓困窮㆒候儀有㆑之由に御座候、村々の百姓覺悟の好し惡しは、村下知人肝煎の下知の善惡に掛り、村々の下知人肝煎の下知の善惡は、御郡奉行奉役勤方の趣に依り候と相見へ、百姓覺悟の善し惡しの儀は、豐年凶年の損益に相並候程の重き中にて可㆑有㆓御座㆒候

一 某儀元祿十二年に御郡役被㆓仰付㆒候後、御米漕船水夫の指足しを百姓の子供又は名子に勤させ候得と被㆓仰渡㆒候節、同役中僉議仕候て申上候は、鄕村の者を御米漕船の水夫に被㆓召遣㆒候ては農業の合力に障り、百姓風俗を妨候段不㆑宜由申立て成るたけは御理り申上候、然所寶永三年に旅人吟味役を御立て被㆑成候て、府中の浮民を被㆑減候後は、御用の水夫御用の夫を府中者にて足り不㆑申分は、鄕村の者を可㆑被㆓召遣㆒御事と折々申上候、右の通り申上候は、府中の浮民を御減し不㆑被㆑成候て鄕村の者を被㆓召遣㆒候時は、農業の合力に障り百姓の風俗を妨候害の方重く相見へ、府中の浮民を御減し被㆑成候て鄕村の者を被㆓召遣㆒候時は、農業の合力に障り百姓の風俗を妨げ候害の方輕く成り候と相考へ候故にて御座候、府中の浮民を御減し不㆑被㆑成候て鄕村の者を被㆓召遣㆒、譬ば壯年の男貳百人□御遣ひ詰め被㆑成、其貳百人農業の合力を不㆑仕所より、夏秋の穀物の高と諸菜を穀物に積り候高と合て八百石減じ候にいたし候ても、八百石の內六百石程は貳百人の飯幷に味噌、酢、醬油の用に成り可㆑申候故、

貳百人の者府中の食を食し田舍の食は食し不レ申候得ば、鄕村の損貳百石程にて可レ有二御座一候、府中にて御用の水夫御用の夫遣を勤候者を二百人御仕立置き被レ遊候に成り候はゞ、貳百人の內當病指合有レ之時の差足しの餘計迄御備へ置き不レ被レ成候て不レ叶事に御座候故、男女、老少、病身、虛弱を合せ候ては千五百人程に成り可レ申候、以後に至り萬一中國筋西國筋より米の賣出しを被二指留一、送使交易の諸品御買調へも難レ成、中國筋西國筋の樣子を朝鮮にも聞及、日本の勢を考へ候て彼方よりも米穀の賣出しを差留め候時節致二出來一、府中の浮民食用無レ之他方にも出得不レ申、其者共を鄕村に御割込被レ成候時は、一人一年の飯用幷に味噌、酢、醬油の用の穀物と、食用の足しに成り候諸菜を穀物に積り候分一人貳石に當り候ても、千五百人程にては三千石程と相見へ候、然ば常に鄕村の者を二百人程被二召遣一、府中の者を千五百人程被レ減候段鄕村以後の害を輕め候實益にて可レ有二御座一候、鄕村の者を御米漕船の水夫に被二召遣一候ては、百姓の風俗を妨候害有レ之候ても、府中の浮民を御減じ不レ被レ成所の害に合せ候ては輕き害にて可レ有二御座一候、古訓に農の時に違はざれば穀勝て食ふべからずと申し被レ置候得共、御國鄕村の百姓農業の時節に公役を勤候者一人も無二御座一、村々一同に專ら農業に掛り居、其上に今程府中に居候人數の內、農業の働を可レ仕者共を悉く鄕村に御割込被レ成農業を相助候得と被二仰付一候とも、御國中只今の人數の食用を足し候程之穀菜を作り出し候儀は決て成り申間敷候、古の智慮ある人の詞は、何れの時代何れの土地に當て候ても違ひ申す儀無レ之と相見へ候得共、其下地古

訓に違ひ居候を上邊計引き合せ候儀は成り不レ申候て可レ有二御座一候、御國の郷村の儀猪荒の時節は、郷村に居來り候人數の食用の差足しを府中より買下し候分不レ少、郷村の人數計の食用の足り候下知の道筋も見へかね申候得共、猪荒止候後は郷村穀物、諸菜の作り出しも相增し、食用足り候下知の道筋も見へ來り、府中の家數六十年以前程に成り其上の生れ增し段々上方諸方に在附候格には御定め被レ遊候はゞ、諸方より米穀の入來り、相滯り候節の下知も成り可レ申事に御座候、某を御郡役に被二仰付一候先後七ヶ年は府中の人高壹萬六千人に餘り、其以後府中之人高段々に減じ、今程壹萬貳千人の內端に成り申候は、上方抱の御免し其以前の樣に無二御座一、其上に浮民を上方へ御登せ被レ成候御下知、寶永三年より同五年迄丸年二年程行はれ申たる故にて御座候、壹萬六千餘の人數一萬二千人の內端に成候て四千人餘減じ、四千人程の飯米は七千石程と相見へ、某肄養父の御物成程にて御座候故、諸方の通路相滯り候時節之儀は中々不レ及、諸方より米穀の入り來り少き時の爲にも可レ宜事に御座候、府中の家數二六十年以前程に成り居不レ申候ては、諸方の通路難レ成時の下知の道筋立申間敷候得共、人高一萬二千人程有レ之候は。人高一萬六千人程有レ之よりは甚宜く、以來若府中の家數六十年以前程に成り候樣に、御仕詰め被レ遊候時の御爲に成り候所不レ輕御事にて可レ有二御座一候、宜き方には少成りとも近寄り、不レ宜方には少成りとも遠ざかり候樣に致し候段、面々の身持にも用ひ、國家の御事にも御用ひ可レ被レ遊儀に御座候、府中の人高一萬二千人有レ之候ても、他方の米入り來り不レ申候ては食用足り不レ申事に候

はゞ、一萬六千人有レ之も、一萬二千人有レ之も、食用の足り不レ申所は同じ事にて候などと申候は、家內一日の飯米一人五合當りに足り不レ申候は、二合當りに成り居候も、一合當りに成り居候も、同じ事にて候と申す類にて可レ有二御座一候、某存入り右の通にて御座候故、旅人吟味役を御立て被レ成候後は、鄕村の者を被二召遣一候儀の御理りを其以前の樣に不二申上一、却て鄕村の者を可レ被二召遣一儀と申上候

一　旅人吟味役を御立て被レ成候後は、鄕村の者を被二召遣一候儀、其以前の樣には御理り不二申上一と申候段を一偏に御用ひ被レ成候はゞ、是又甚不レ宜儀にて可レ有二御座一候、御米漕船水夫の指足しを鄕村の者共に被二仰付一候事にて右の道理を可二申述一候、御米漕船の水夫以前の賃銀は一立て廿五匁、船中飯米一立て白米七升、留守扶持一ヶ月白米一斗にて御座候と承候、留守扶持一斗は女房一人分の飯米にも足り不レ申、其上の鹽噌諸色下賤の者にても調へ不レ申候て不レ叶物數々有レ之、去年の冬朝鮮渡りの御免し銀相止候所より、水夫共袋米を調へ歸り候儀も成り不レ申、惣體朝鮮通ひ仕る者共の勝手に不レ宜由申し、其上に米穀諸色甚高直に成候へば、假令一立て廿五匁の賃銀一倍相增し候て五十目に成り、一ヶ年に三立て仕り百五十目之賃銀を請候ても、妻子の衣食の用を達し得可レ申樣無二御座一、定水夫難儀に存候段左樣可レ有レ之事に御座候、右の通りの勢に成り定水夫を望候者は有りかね、勤居り候者の內より辭退仕り度と存候者段々出來候ても、御扶持賃銀渡世の成り候程には相增し不レ申、御家中の被官又は町改の者水夫を勤候よりは、他の排を仕り候方增しにて候と存候時節、鄕村の者在所にての排

を仕候よりは勝手に惡く候とも、水夫の差足しを勤させ度由御勘定所より被二申上一御郡奉行所へ其通りに被二仰渡一御郡奉行所にて何の御僉議も不レ被レ成御郡中へ被二仰付一候はゞ、百姓共の心に府中の者は上より被二仰付一候御事にても、手前の勝手に不レ宜儀は御理り申候て請け不レ申、勤來り候者も致二辭退一候儀成申候所、御郡中の百姓の子共又は百姓の農業公役を助候名子は、手前の勝手に不レ宜儀にても御理り申上候儀成り不レ申、府中の被官町改の末々の者よりは劣り候樣に成り行き迷惑なる事と存居候て、他國より田舍に往來仕候者にも段々語り候ては、公儀御役人樣方御聞被レ遊間敷とは難レ申、去る辛卯の年公儀よりの被二仰出一の御旨にては、何時に如何樣の御沙汰可レ有二御座一も難レ量、御米漕船水夫賃銀の樣なる儀、常々こそ御勘定所の吟味次第に御請け被レ成候ても宜きと申すに成り居候とも、御郡中百姓方の御仕置に付公儀よりの御沙汰に及候はゞ、其申分けに御勘定役被二罷出一候へとは不レ被二仰付一、御郡奉行被二罷出一候得と被二仰付一候て可レ有二御座一候、左樣の節各御出候て御申分けの道理立ち不レ申候時は、御國中の批判にも如何程御勘定役衆御勝手御指圖の段を被二申立一、御出方の增し候儀を嫌ひ被レ申候とも、御郡奉行は御郡中の御仕置に御無理無レ之樣に仕り置き不レ被レ申候て不レ叶事の所、御勘定役の心に叶候樣に被レ仕候とて、上の御爲に不レ宜儀を仕出し被レ申候との批判に成り、只今御出方の增し候儀を、御勘定役衆に達て御申達し被レ成候所を惡く申し成し、御不勝手の御時節柄を考へ不レ被レ申、百姓の氣に入り候樣に計被レ仕候と被レ申候衆有レ之候とも、其節に至り候はゞ只今の批判とは

違ひ、御勘定役に違て御申請無レ之所を悪く被レ申候て可レ有二御座一候、其批判は兎も角も御座候へ。只御爲の所を專一に御考へ可レ被レ成候、朝鮮への御送使幷に御商賈共に萬一致二斷絕一候御時節は格別、御送使御商買相續仕り居候內にて、臨時に廿貫目卅貫目の御出方有レ之候段難レ被レ成、百姓の難儀仕候事を已ことを不レ被レ得被二仰付一候との御申立てを、左樣可レ有レ之事と請け申す人は有二御座一間敷候、以前某共御郡役より旅人吟味役を致二兼帶一候節、田舍者府中へ奉公に遣し候儀を申上候主意は、日本朝鮮御通交の御役を殿樣御勤め被レ遊、日本の境目に有レ之土地を御知行被レ遊候に、朝鮮の米穀不二入來一候ては御國中人民の食用足り不レ申、日本の人數の內何千人は朝鮮の米にて養はれ候と申す樣に被レ成候レ置候段、御國の御爲不レ宜のみにて無二御座一、日本の御爲にも不レ宜所有レ之と奉レ存、上方抱を被二指留一、府中鄕村の末々の者にて御家中の召遣相濟み、朝鮮の米穀不二入來一候ても御國中に飢餓の者無レ之程に人數を御減し可レ被レ成御事と奉レ存、鄕村の者御家中の召遣に成り、其分程農業に障り候害を公儀御役人樣方御糺問被レ遊候とも、右の主意を以明白に御返答可二申上一と存入り罷在り候故にて御座候、御米漕船水夫賃銀の御出方多く增し不レ申樣にとの儀にて、鄕村の者を水夫に被二召遣一候所とは違ひ申たる事に御座候、然は府中水夫に增し賃銀を被二仰付一候ても、增しの分を不足に存候て勤かね候節、鄕村より水夫の差足しを相勤候樣に被二仰付一候には、府中水夫增し賃銀の上に一ヶ月十三匁か十五匁程の增し賃銀を被二成下一、府中水夫妻子衣食の用相足り候程の賃銀に成り候ても水夫足り不レ申。鄕村より

被二差足一候には少の賃銀をも不レ被二成下一、府中水夫同格の賃銀にて可レ被二召遣一御事に御座候、左様に被レ成候はゞ後日の御難有二御座一間敷様に奉レ存候、去る辛卯の年公儀よりの被二仰出一の御旨にては、何時に如何様の御沙汰可レ有二御座一も難レ量と申候は遠慮の過ぎたるにて候、水夫賃銀の様なる輕き儀公儀よりの御沙汰に及候事は不二聞及一候などと申す說も可レ有二御座一候へ共、其類の說は案同意に不レ存候、水夫賃銀の様なる儀を御郡役より輕き事と思召候て達て不レ被二仰立一候はゞ、其類の事共段々と致二出來一、輕き事も數重り候へば重き事に不二相替一様に成り候筈にて御座候、和漢古來の事跡を考へ候に、是程の儀は苦しかる間敷と申候て、當らざる儀と存じながら取り行ひ、當分別條無レ之候ても不圖其害致二出來一候事共有レ之と相見へ居申候、東照宮御終に御臨み被レ遊候時、台德院樣への御尋に、天下をば何と心得られ候やと御尋被レ遊候へば、台德院樣御答に、天下は亂と存候と御答へ被レ遊、東照宮御機嫌能くざつとすんだり安堵なりと御意被レ遊候由御遺訓附錄に書載有レ之候、右之御意は古訓に「亂者有二其治一者也」と被レ敎候道理にて御座候と奉レ存候、亂と申す儀無レ之筈との決定には難レ成候故、亂に及可レ申と御當て被レ成候て諸事を御愼み被レ成候段、和漢古來の明君の定りたる御思召と相見へ申候、然ば國郡の御役を勤候人公儀よりの御沙汰に及候儀有レ之間敷との決定難レ成事を、御沙汰に及申間敷と致二決定一候は不レ宜道筋にて可レ有二御座一候

一　御國中末々にての申習はしに、御國は田畠少く土地悪く、他國の穀物不二入來一候得ば、御國中の

食用足り不レ申筈にて候由申習はし候、人民の食用足らざる樣に成り來りたる御國とは可レ被レ申候得共、人民の食用足らざる筈の御國とは被レ申間敷候、他國にても小さなる御城下に大國大領より人多く入込み、其御城下にて生れ增し候人大國大領に在附候儀無二御座一二男三男迄段々其所に致二居住一候はヾ、御國府中の樣子に相替儀は有二御座一間敷候、御國の府中にても大國大領より人多く入込み候儀無二御座一、府中にて生れ增し候人大國大領に在附候はヾ、他國の小さなる御城下に相替儀は有二御座一間敷候、百萬の人數の食用を生じ候大國にても、元より百萬人有レ之上に他方より五六十萬の人數入來り候はヾ、人民の食用足り不レ申國に成り可レ申候、一萬の人數の食用を生じ候小郡にても、元より在り來りたる人數迄にて臨時の入來り無二御座一候はヾ、人民の食用不足無レ之土地にて候と可レ申候、出方の程入り方の程に應じ候得ば、少の入方にても差閊無二御座一、出方の程入り方の程に過候得ば、多き入り方にても差閊御座候と同じ道理にて可レ有二御座一候、御國は朝鮮國との通用に付臨時の御利分有レ之候故、嚴密の御下知無二御座一候ては、府中の餘民他方へ出不レ申、他方の浮民は府中に入り込み、段々土地不相應の人數に成り候勢と相見へ、他國の小さなる御城下は臨時に入來り候利分無レ之候故、御領主より嚴密の御下知無二御座一候ても、餘民は自然と他方に出去り、他方より浮民入込み候と申す儀無レ之と相見へ申候、江戸の人民の食用武藏一國の米穀にて達し候にて無二御座一、關東八州其外奧州よりも米穀入り、京大坂の人民の食用山城攝津の米穀にて達し候にて無二御座一、御畿内幷に北國、中國、四國、西國

よりも米穀入來り候と承候、京江戶大坂は公儀の御城下にて御座候故、諸國の米穀にて食用相違し候段左樣可レ有レ之御事に御座候、諸御大名の御城下に其御領分に生じ候穀物にて人民の食用相違し不レ申、他方より米穀多く入來り候て食用相違し候樣に成り來り居候所は終に承及不レ申事に御座候、日本國中にて外國の者との商買の利分を以末々の者共世を渡り居候所は、肥前長崎と御國府中にて御座候、長崎に外國の商船入り來り不レ申候ても、內檢百萬石に餘り候肥前の內に有るの長崎にて御座候得ば、長崎の浮民急に肥前一國に致二分散一候にも相障り候儀は有二御座一間敷候、右の通の勢にて御座候故か、商買衰へ候時は人高自然に減じ、商買榮へ候時は人高自然に增し、人高の增減御奉行所の御下知を待不レ申由承及候、御國府中に入來り候浮民は隣國の壹岐、肥前、筑前より入込み居申すにて無二御座一、御畿內、中國、東國、北國の者京大坂に罷出て、二百里に餘り候海上を經候て罷下り候年々御座候得ば、獨身の壯年者御國の居留りを望不レ申候は格別、妻子をも持ち四十にも過候者は饑寒に及候勢に成り候ても、自心より存じ立ち上方へ登り候儀は有かね、長崎の浮民の增減とは甚替り申たる勢にて御座候、御國の儀朝鮮の米穀不二入來一候ては、人民の食用足らざる樣に成來り候、最初は三百六十三年以前觀應元年よりの事と相見へ、建武の亂後西海にて海賊仕り候者共觀應元年に御國に入込、御國の者をも引連れ衣食を奪取り候爲に朝鮮の邊土を侵し、其後は朝鮮より兵卒を備へ置候て賊徒を防ぎ候時節も有レ之、米穀、紬布、木綿等を給し候て盜賊に不二罷越一樣に仕り候時節も有レ之、觀應元年より九十

四年目嘉吉三年に送使の約條相定り候、觀應元年に西國筋の海賊共御國へ入來り候時之申渡しに、高麗へ海賊に可ニ罷越一と存候はゞ、對州の地に船を着け不レ申候て直に罷越し候得、當國を海賊往來の宿に仕らせ候儀は不ニ罷成一との申渡し有レ之、異議を申候時御國を侵し候盜賊の類に立て防戰に及候はゞ、海賊共御國へ入り込得不レ申、外國の穀物不ニ入來一候へば、人民の食用不足なると申す御國に成り可レ申樣無ニ御座一候、昔の亂世之內とても隣國上方の通用相止み居候と申す程の儀、十年も廿年も續き申たるにては無レ之樣子と相見へ候故、亂世の內にて通用開けたる時節に、通用無レ之間の生れ增しの分、他國に在り附き候儀は成り申間敷事にて無ニ御座一又人事精密に御座候はゞ、御國中にて生じ增し候人數の食用は御國中に出來增し候道理可レ有ニ御座一候、觀應以後朝鮮の穀物にて御國中の人數相增し居候分は、文祿慶長の朝鮮御陣の中に減じ、又其後寛文延寶の比朝鮮との商賣榮へ候所より上方抱者多く入來り、土地不相應の人數に成り候と相見へ申候

一　公儀日本を御治め被ニ遊候內にて、御國と基肄養父半郡の土地は殿樣の御仕置に御任せ被ニ遊、又其內にて御國の鄉村と基肄養父の御下知を殿樣より御郡御支配に被ニ仰付一御國鄉村の御下知の御下役を各々被ニ仰付一候故、各々迄も公儀日本を御治め被レ遊候御役人の內にて御座候と奉レ存候、然上は各鄉村の御下知を被レ成候とも、御當家御政道の御道筋を御考へ不レ被レ成候ては不レ叶御事にて可レ有ニ御座一候、某謹て東照宮御遺訓を拜見仕候に、先祖の功にもとづきたりし國郡を取りながら、其先祖の仕

置を我まゝに改めたつは不孝の至極なりと御意被ㇾ遊、たとひ新法に少々能事有りとても、古法を改る上に付て多くは災出來る物ぞと御意被ㇾ遊候由相見へ居申候、御國郷村の御仕置の儀、萬松院樣御代より以前の樣子は其以後の樣子程に相知れ不ㇾ申、萬松院樣朝鮮御陣御勤の內、文祿四年に薩州出水郡一萬石の地を秀吉公より御拜領被ㇾ成、慶長六年東照宮より右出水郡を肥前の基肄養父に御振替へ被ㇾ遊、慶長十年に二千八百石の御加增地を東照宮より御拜領被ㇾ成候故朝鮮御陣以後は朝鮮御陣以前より御身體の御分限御增し被ㇾ遊候得共、萬松院樣御代に御先祖樣の御仕置を御改被ㇾ遊たるとの申傳へ曾て無ニ御座一候得ば、萬松院樣御代より光雲院樣御代迄行はれ候御仕置を、御先祖樣の御仕置と御立て可ㇾ被ㇾ遊御事に御座候、萬松院樣御代慶長九年より光雲院樣御代明曆元年迄、七度の信使を被ニ召連一候に郷村の者を多く被ニ召遣一、江戶表の御屋敷に相勤候夫の者下も男、幷に御奥樣に被ニ召遣一候御中居御半下迄百姓の子共を被ニ指登一、御家中の衆江戶勤の附き人も、郡附とて百姓の子供を連れ被ㇾ申、府中の夫遣にも郷村の者を被ニ召遣一候樣に被ㇾ遊被ㇾ置候段、御先祖樣の御仕置と相見へ、天龍院樣御代に至り、朝鮮國との商賣に大分の御所務有ㇾ之候所より上方抱者多く入込み、以前郷村の者の勤候儀を多くは府中者より勤候得共、萬松院樣光雲院樣の御仕置を御改め被ㇾ遊、以來郷村の者を被ニ召遣一間敷との被ニ仰出一は無ニ御座一、只府中の浮民相增し候て、以前郷村の者の勤候儀を府中の者より勤候に御任せ置被ㇾ遊たると申すに成り居申候、然ば殿樣寶永三年に旅人吟味役を御立て被ㇾ遊、府中の浮民上方に登

り、浮民の勤來り候儀鄕村の百姓より勤候樣に被㆑遊候は、御先祖樣の御仕置の廢れ居候所を御起し立て被㆑遊たる事と申すに成り、天龍院樣の御改め被㆑遊たる御仕置を其以前の通りに御直し被㆑遊候と申すには成り申間敷候、此以後の議論に、若府中の浮民を被㆑減鄕村の夫遣相增し候樣に被㆑遊候は、百姓の農業を妨候所不㆑宜と申す議論有㆑之候て、其說行はれ候はゞ百姓の農業の勝手には少々可㆑宜候得共、穀物少き御國の府中に他方の食を食し候人數多く相聚り、若諸方の通路難㆑成儀不㆑圖致㆓到來㆒候時節には、大分の浮民を鄕村に御割込可㆑被㆑成外無㆓御座㆒、鄕村の災甚き事に成り、無事の時府中者多く鄕村よりの夫遣少く、農業の勝手に宜きと心得候所の誤を存じ付候ても、其甲斐有㆓御座㆒間敷候、御遺訓に、新法に少々能事有りとても、古法を改る上に付ては多くは災出來る物ぞと御意被㆑遊候段、ヶ樣の道理にて可㆑有㆓御座㆒樣に奉㆓存上㆒候、又御遺訓に國を治め天下の主たるものは、渡る船の內に座し、燒る家の下に臥す心根を忘れずと御意被㆑遊、無智なる者は利發立てして一寸先をしらず、夏溫かなればば冬の寒さをかんがへぬぞ、末をかんがへ奢をたつべしと御意被㆑遊候由相見へ居申候、天下御靜謐に御座候ても、公儀に亂世の御用心御懈り不㆑被㆑遊、兵粮兵器を御備へ置被㆑遊、寶永七年四月十五日公儀より被㆓仰出㆒候武家諸法度の御條目の第三ヶ條に、軍役の兵馬を整備へ、公役の與料を儲蓄ふべき事を御書載被㆑遊、第十ヶ條に若非常の變有㆑之時は、其所在に隨行て、或は宅地或は領地、各其所を守てみだりに動かず、速かに其事を註進すべしと御書載被㆑遊候段、是皆御遺訓に、渡る船の內に座し、

燒る家の下に臥す心根を忘れずと御意被ㇾ遊候御旨にて御座候と奉㆓存上㆒候、近隣の國にて海を隔てたる所に御領地御座候は松浦の御家にて御座候、平戶の御城下と壹州は十八里の海上と申候に、御家中の衆を壹州の內に被㆓召置㆒候分不ㇾ少由に御座候、毛利の御家は長門の萩に御在城被ㇾ成候て、御家中衆の儀長門周防に相分れ居被ㇾ申、長門衆周防衆と申由に御座候、地續の兩國を御知行被ㇾ成候ても如ㇾ此に御座候は、隣端に非常の變有ㇾ之時早速其所を守候樣に可ㇾ被ㇾ成との御心にて、御家中の衆を皆々御城下に被㆓召置㆒候て、御勝手に宜く候所は御構ひ不ㇾ被ㇾ成、御家中衆遠方より出仕當番を相勤候苦勞の所をも御構ひ不ㇾ被ㇾ成、重き所に御心を被ㇾ用候御事と相見へ、平戶壹州の通りに海上を隔てたる御領分は、非常の變有ㇾ之時年貢の廻し方差閊へ候事も有ㇾ之筈にて御座候故、常に壹州に被㆓召置㆒候御家中衆は、壹州の年貢にて御扶助を請け被ㇾ申、右の通の時節にも差閊無ㇾ之樣に被ㇾ成候御心とも相見へ、ヶ樣の次第も渡る船の內に座し、燒る家の下に臥す心根を忘れずと御意被ㇾ遊たる道理にて可ㇾ有㆓御座㆒候、然所御國鄕村の百姓に凶年の年貢の捨りを被ㇾ下候は、朝鮮よりの御買米にて、御家中凶年の年貢の捨りの分を御足し被ㇾ成候故と相見へ、其外鄕村の凶年飢飯米、養生飯米を被㆓成下㆒、種物、拵飯米を御借し被ㇾ成候儀も皆々朝鮮との交易の御所務にて相濟み、若非常の變有ㇾ之候て交易の路相滯り候時、御郡中に損毛有ㇾ之候ては百姓の難儀甚き筈にて御座候得共、其儀を存じ付け候百姓は曾て相見へ不ㇾ申、菜共御郡役の節御支配の御差圖を請け、酒を妄りに用不ㇾ申御法を申付候に、勝手好き

者にも守らせ不レ申候ては、不勝手なる者も勝手好き者の仕形に習候勢と相見へ、上中下の百姓同格に御法を申付候へば、勝手よき者共百姓の喉をしめ候申出し、用心穀物の出し立を申付候に、不勝手なる者にも不二申付一候へば勝手よき者も不勝手なる者と同前に出し立を免れたく存候勢と相考ひ、上中下の百姓同格に出し立を申付候へば、不勝手なる者共百姓を飢に及ばせ候と申立て、非常の變は永々迄決て無レ之事の樣に存じ、今日の自由の達し候願をのみ仕り、其道理を申聞候ても曾て心服不レ仕、目に見へぬ事を申候て諸人を苦しめ候と嘲り譏り候は、御遺訓に無智なる者利發立して一寸先をしらず、夏温かなれば冬の寒さをかんがへぬぞと御意被レ遊候所と奉二存上一、御郡御支配より百姓共の自由を申す心を御抑へ被レ成、酒の法用心穀物の法相立候樣に致二下知一候へと被二仰付一候は、御遺訓に末をかんがへ奢をたつべしと御意被レ遊候御旨に叶ひ可レ申哉と奉レ存候、又御遺訓に何程手前に好き事と思ひても、人民うとむは惡事ぞと御意被レ遊、下のいやに思ふ事を去り、下の好む所を行へば諸人思ひ付なりと御意被レ遊候由相見へ居申候、有り來りたる年貢公役銀の外に、少にても年貢公役銀の上納相增し候儀、公儀の御事に預りたる夫遣にて無二御座一、御領主の御自由に成候夫遣少々にても相增し候儀、有り來りたる上納方人夫遣にても減じ候筈の、上納方人夫遣の減じ不レ申候儀、輕く被レ罰候て相應に相見へ居候罪を重く被レ罪候儀、聞捨てに成り居候ても法令の障りに成り不レ申事を聞捨てに不レ仕僉議に及候儀、不禮不義を行ひ折々人の害に成り候者を其儘に立て置候て懲し不レ申候儀、ヶ樣の類は諸人のいや

に思ふ事にて、ヶ様に無レ之を諸人好み候故、其いやに思ふ事を去り、其好む所を行はれ候ては、諸人思ひつき候段天下古今の常理にて御座候、私智小才を用候て天下古今の常理を捨て候者の儀、主君に當分の利有レ之様にいたし自分の功に立可レ申と存候時は、年貢公役銀幷に人夫遣相増し候ても、下知の道筋さへ宜く候得ば百姓の難儀に成り不レ申と存じ、刑罰を嚴く行候て威を振ひ權を取り可レ申と存候時は、其節の勢に依り罸を嚴く不二申付一候て不レ叶事に候と申し、我心に叶候者に依怙贔負を仕候時は、折々不禮不義を行候をも其儘に立て置き、末々への下知は刑罸計にて相濟候儀にて無レ之、宥免を加へ不レ申候て不レ叶事も有レ之と申し、諸人の心に隨ひ不レ申候て自心を高慢いたし候故、ヶ様の仕形を何ほど手前に御戒め被レ遊、好き事と思ひても人民うとむは惡事ぞ、下の好む所を行へば諸人思ひ付なりと御意被レ遊候と奉二存上一候、其國其郡の下知に大病□の諸人其大病を樂み居候を其儘に治し候下知□□□□を其儘にいたし置き、當分何事をも不レ申候を諸人思ひ付たる様に心得、當分何事をも不レ申候ても實に思ひ付きたるにて無レ之段を曾て辨へ不レ申、其病の實をなし候時節には、諸人甚いやに思ひ候事共致二出來一、大才大智の人も下知の道筋を立て得不レ申候段、是又天下古今の定りたる勢と相見へ候、□□□□□樂み居候を、御遺訓に無智なる者利發立てして一寸先をしらずと御戒め被レ遊、末をかんがへ奢をたつべしと御教へ被レ遊候とは存じ付け不レ申、諸人病の治し候下知を嫌ひ候を、御遺訓に人民うとむは惡事ぞと御戒め被レ遊、下の好む所を行へば諸人思ひ付なりと御教へ被レ遊候様に存じ

違へ候も有レ之候、右の次第能く勘辨可レ被レ成候事に御座候

一　上巻の覺書と此覺書の内に、各御尋の御詞を記し候分十一ヶ條、其存寄りを申述候分四十八ヶ條、前書と奥書を合せ候て七十五ヶ條にて御座候、右の六十二ヶ條其條々にて意旨落着いたし候樣には書述得不レ申候間、六十二ヶ條を一ヶ條と思召候て御披見可レ被レ成候、左樣御座候はゞ某存寄りの一筋は御聞届被レ成候て可レ有二御座一候、不才不勘なる某の書き物にて御座候得ば、相違の儀無用の儀など多く可レ有二御座一候間、左樣の所は御捨て被レ成、少にても御考へに成り候と思召候所計を御取り可レ被レ成候、畢竟は以前相勤申たる御役方の儀を御當役より御尋被レ成候には、心底を盡し候筈と存候迄に御座候間、長々敷申述候所を御了簡被レ成可レ被レ下候　以上

正徳二年十二月十三日　陶山庄右衛門

中原傳藏樣

平山太吉樣

渡邊十郎左衛門樣

口上覺書下卷終

士穀談

幷同附錄

同附說

土穀談

是州府中ノ人ノ說ニ、是州ハ田畠少ナク、土地惡シク、他方ノ穀物ノ入リ來ラザレバ、州中ノ食用足ラザルニ定マレル州ナリト云ヘリ、他方ノ穀物入リ來ラザレバ、州中ノ食用足ラザルニ爲シタル州ト云フベシ、他方ノ穀物入リ來ラサレバ、州中ノ食用足ラザルニ定マレル州トハ云フベカラズ、他方ニテモ少シキナル城下ニ、上方諸方ヨリ又多ク入リ來リ、其ノ城下ニテ生レ增シタル人ノ上方諸方ニ在リ附クコトナクバ、是州府中ノ樣子ニカワルコトアルマジ、是州ノ府中ニテモ上方諸方ヨリ人多ク入リ來ラズ、府中ニテ生レ增シタル人ハ、上方諸方ニ在リ附キタラバ、他方ノ少シキナル城下ニカワルコトアルマジ、是州ハ朝鮮ノ通用ニテ臨時ノ利アルユヘ、餘民上方諸方ニ出ルコトナク、上方諸方ノ浮民ハ入リ來リ、鄉村ニ相應セザル人數ト成レリ、他方ノ少シキナル城下ハ臨時ノ利ナキユヘ、餘民上方諸方ニ出デ、上方諸方ノ浮民ハ入リ來ラズ、其ノ城下ノ人數常ニ其ノ鄉村ニ相應セザルコトナシ、又府中ノ人ノ鄉村ノコトヲ論ズル說ニ、是州ト朝鮮トノ商賣ノ道ヲ精シク心得タル人ニ、商賣ノ事ヲ任セタマワバ、臨時ニ利ヲ得タマフ事多ク、鄉村ノ凶年ニ年貢公役銀ヲユルシタマヒ、常ノ年ニモ食用ノ足ラザルモノヲ救ヒタマフトモツカユルコトアルマジ、凶年ニ食用ノ足ラザル百姓ヨリ、捨リノ外ノ年貢ヲ召シ上ゲラレズ、凶年ニ難儀ナル百姓ヨリ公役銀ヲ召シ上ケラレヌニ成ラバ、鄉村ノ安堵ナ

ルベシト云ヘリ、若シ是ノ如キ說ノ行ワルヽ時モアラバ、鄕村ノ爲メニ甚ダ好カラスコトナルベシ、上國ノ百姓ハ粳米ニ雜穀ヲマジヘテ食用ヲ足シケルコト、水土ノ自然ニ順ガフナリ、七分以上ノ年ニハ四分以下ノ年ノ備ヘニ穀物ヲ蓄ヘ置キ、差當リタル出方ヲ成ルタケハ內端ニシ、四分以下ノ年ニハ七分以上ノ年ニ蓄ヘ置キタル穀物ヲ差シ足シ、飢寒ヲ凌ギ得ルマデノ過シ方タニスルコト、氣運ノ自然ニ順ガフナリ、是州ノ樣ナル下國ノ百姓ニテモ、右ノ道理ヲ守レルナラバ、下ノ通其ノ生ヲ遂グルニテアルベシ、苦勞ノ輕ク成レルニハ移リ易ク、苦勞ノ重ク成レルニハ移リ難キ人情ナルユヘ、百姓ノ心ニ鄕村食用ノ足ラザル分ハ、府中ヨリ差シ足シタマワルニ成リタルト思ワバ、農業ノ働ラキ方ヲノヅカラ緩ク成リ、諸穀諸菜ノ出來ヲノヅカラ減ルベシ、儉約ヲ弛ムルニハ從ヒ易ク、儉約ヲ勸ムルニハ從ヒ難キ人情ナルユヘ、百姓ノ心ニ鄕村食用ノ足ラザル分ハ、府中ヨリ差シ足シタマワルニ成リタルト思ワバ、家內ノ過シ方ヲノヅカラ緩ク成リ、飮食雜用ノ費ヘヲノヅカラ增スベシ、諸穀諸菜ノ出來ハ減リ、飮食雜用ノ費ヘハ增シタラバ、七分以上ノ年ニハ食用足ラズシテ、七分以下ノ年ニハ足ラザルコト甚ダ多カラン、是ノ如クナラバ、府中ヨリノ差シ足シモ及ビタマワズ、下知ヲ改タメラルベシトアリテモ、農業ノ働ラキ方緩クナリ、家內ノ過シ緩ク成リタルハ改タマルコト難ク、初メ百姓ヲ愛シタマフト見ヘシモ、甚ハダ百姓ノ爲メニ好カラズ、元ノ物ニ成シタマワントテ、心ヲ勞シタマフニテアルべこ

是州府中ノ人ノ說ニ、是州ハ土地惡シキユヘ、百姓イカホド耕作ニ力ヲ盡ス共、作得ノ多ク成リタルト見ユル程ノ事ハアルマジト云ヘリ、他方ヨリ是州ノ海村ニ來レル薪積船ノ船頭、鯨突組ノ頭役、面面ノ在所ノ農事ヲ見知レル者ノ云ヘルハ、是州ノ百姓ハ農事ノ爲シ樣ノ精シカラヌノミナラズ、農事ノ働ラキ方モ疎ソカナリ、食用ノ足ラヌコソ道理ナレト云ヒケル由度々聞キ及ビシ事ナリ、他方ノ諸州ハ地續キナルユヘ、近隣ノ州郡ノ農事ノ爲シ樣ノ好キ事ヲ見及ビ聞キ傳ヘスレバ、爲シ來レル事ヲ改メテ好キ事ニ爲シ易ヘ、段々是ノ如クスル所ヨリ、農事ノ爲シ樣精シク成リ、爲シ樣ノ精シク成レルニ隨ヒテ、働ラキ方モ疎ソカナラザルト見ヘタリ、是州ハ大海ノ中ノ嶋ナルユヘ、農事ヲ成ルマヽニシテ爲シ樣精シカラズ、爲シ樣ノ精シカラザル所ヨリ、働ラキ方モ疎ソカナルト見フレドモ、爲シ樣モ人並ニ勝テ、働ラキ方モ人並ニ勝レル者ハ、其者ノ作得人並ニ倍セリ、勝レル事ナキ者ヲ、勝レル者ト同ジ樣ニスル事コソ成ルマジキ事ナレドモ、郡奉行士穀ノ下知ニ深ク心ヲ用ヒラレ、他方ノ農事ノ用フベキヲ考ヘ、奉役村下知人ト共ニ其ノ鄉其村ノ農事ノ爲シ來リヲ僉議シ、働ラキ方ノ勝レル百姓ニ農事ノ精シキ爲シ樣ヲ云ヒ聞カセ、其ノ通リニ働ラカシメ、其ノ百姓ヲ村中ノ手本ニセヨトテ、其ノ外ノ百姓ヲ勸メラルヽナラバ、人並ノ者モ其ノ生付ノ程ニ應ジテ働ラキ好ク成リ、人並ニ劣リタル者モ、其ノ劣リタル生付ノ程ニ應ジテ働ラキ好ク成ルベシ、農事ノ成シ樣ト働ラキ方ト好ク成ルベシ、農事ノ爲シ樣ト働ラキ方ト共ニ好ク成リ、諸穀諸菜ノ出來ノ多クナレルハ、百姓ニ利アル事ナルユヘ、

農事ノ風俗ノ改タマルハ、他ノ風俗ノ改タマルヨリ易スカルベシ、吾レ郡奉行タリシ時ハ、郷村ノ爲メニ利ヲ興コス先務ト思ヘルコトニ心ニ用ヒ、殊ニ病身ニテ當用ヲモ勤メカ子ケルユヘ、農事ノ條目ノ下知ハ力ニ及バザリシナリ、又府中ノ人ノ郷村ノ事ヲ論ズル說ニ、是州ノ百姓ハ公役シゲキユヘ、農事ニ力ヲ盡スコト成ラザル道理ナリト云ヘリ、郷村ノ內ニテ關所アル一村ハ、百姓ヲ召シ使ワル丶コト、其ノ外ノ村々ヨリ甚ハダ多ケレドモ、農事ノ働ラキ其ノ外ノ村々ニ勝レルユヘ、郷村ニテ穀物ノ出來ノ多キト云フ十餘村ノ內ナリ、府中ト關所トノ往來筋ニ當ラザル村々府中ノ西南ニアル村々ハ、海陸ノ送リ公役甚ハダ稀レナレドモ其ノ分ノ働ラキヲ爲シテ、作得ノ多キト云フコトヲ聞カズ、老人ノ吾レニ語レルハ、昔シ公領ノ內ニ年貢公役ヲ許シ置カセタマヘル村アリシ、其ノ村ノ在リ附キ却テ並ビノ村ノ在リ附キニ劣リ、段々ト衰微シケルユヘ、其ノ村ヨリ願ヒ上ゲ、年貢ヲ納メ公役ヲ勤メケレバ、在リ附キ却テ好ク成リシト聞キケル由語レリ、年貢ノ薄ク公役ノ輕キハ、百姓ノ在リ附キ好ク成レル根本ナレドモ、百姓油斷スレハ年貢ヲ納メズ、公役ヲ勤メズシテモ衰微スル道理アルト見ヘタリ、孟子ノ國ヲ治ムル道ヲ說キタマヘル語ニ、「民事不レ可レ緩也」ト曰タマフモ其義ナラン、農業全書ニ云ヘルハ、大小ノ農人或ヒハ愚カニシテ、才覺機轉ヲ用フルコトアタワズ、或ヒハ怠タリテ其ノ勤メ足ラズ、却テ咎ヲ土地ト天災トニオホセテ、是レ只仕合セノ爲スコトナリト口ニマカセテ云ヒ暗マス類是レ多シ、才覺才智足ラザル者ハ、隨分骨ヲ折リ苦勞シテモ利ヲ得ルコト難シト云ヘリ、又云

ヘルハ、其ノ分限ヨリ多ク田畠ヲ作クルコトヲ貪ボルハ農人コトノ病ナリ、田畠分ニ過ヌレバ、假令耕作ノ法ヲ能ク知リテモ人力足ラズ、其ノ法ノ如ク營ムコト能ハザル者ナリ、耕作ハ分量ヨリ內端ニシテ、深ク耕シ委シクコトナシ、厚ク培カフニ利多シト知ルベシト云ヘリ、右ノ兩段ハ農業全書ノ要文ナラン、吾レ郡奉行タリシ時ニ、鄕村ノ事ヲ聞キケルニ、仕合セ好キ者ノ作所ハ其ノ村ノ損毛ノ年ニテモ、其ノ者ノ作所バカリ損毛ナシト云フ、是レ才覺機轉アリテ能ク働ラク者ヲ、愚カニシテ怠タル者ドモヨリ仕合セ好キト名付クルナリ、凶年ニ年貢ノ捨タリヲ受クル村ヲ勘ガフルニ、多クハ困窮ノ村ナリ、困窮セザル村ハ捨タリヲ受クルコト希レナリ、是州ハ田畠木庭ヲ百姓ノ物トスルコトナラズ、村地ト名付ケ百姓面々ニ分チ受ケテ耕作スル故、田畠ヲ貪ボル心ヲ木庭ニ用ヒ、十年目ニ明クル木庭ヲ四五年目ニ明ケ、甚シキハ二三年目ニモ明クル故、木庭ノ地位ノ好キハ早ク明クル利モ劣ラヌドモ、木庭ノ地位惡シキハ早ク明クル利モ少ナク損スル所モアルナリ

是ノ州ノ西邊ニ水田ヲ開キシ人ノ語レルハ、初メニ植シ稻ハ、西風ノ強ク吹キケル時ニ、粒ヲ吹キ落シケル故、後ニ求メテ風當テニ宜シキ稻ヲウヘタレバ、風ニ逢ヒテモ粒ノ落ツルコトナシト語レリ、是ノ一事ニテモ農業ノ道ノ學ブヘキコトヲ知ルベシ、農業全書ニ、耕作ヲ第一トシ、種子ヲ第二トシ、土地ヲ見ルヲ第三トシ、時節ヲ考フルヲ第四トシ、鋤芸ヲ第五トシ、糞ヲ第六トシ、水利ヲ第七トシ、穫收ヲ第八トシテ、記ルスコト甚ダ詳ラカニ、論ズルコト甚ダ明ラカナリ、第六ニ灌糞ヲ記ルスコトナキ

ハ、作者ノ住メル州ニモ、經歷セシ州ニモ、藻糞ヲ用ヒザリケル故ナラン、是ノ州ニテハ、昔ヨリ藻糞ヲ用ヒ來タレリ、朝鮮ニテハ、干藻ヲ短ク切リテ俵ニ入レ置キ、作毛ノ養ナヒトスル處モアリト聞ク、是ノ州ハ小屋ヲ構ヘテ干藻ヲ入レ置キ、麥ヲ蒔ク時ニ取リ出シ、土中ニ敷キ入レ、其ノ上ニ麥ヲ蒔キケル故、藻ノ中ニ土ノ交ジラザルトコロアリテ、其ノ處ニ麥粒トマリ、蒔キタル後ニ久シク雨降ラザレバ、土ニ入リタル麥粒ヨリハ乾クコト甚ダシク、種ノ性ヨワク成リ生シカヌル由云ヘリ、朝鮮ニテ藻ヲ短ク切ルハ、土ニ交ジリ易キ故ナラン、然レドモ干藻ヲ短ク切ルコトハ、輕キ手入リニテアルマジ、是ノ州ニテ藻ヲ干スニ、干シ終ラザル中ニ雨降レバ、藻ノ性ヌケテ油氣ナクナレル故、雨止ムマデ潮ニ浸シ置キ、波ニ打チ上ゲラル丶コトモアリ、波ニ引キ取ラル丶コトモアリ、風雨ノ時ノ寄リ藻ハ、干スコト成ラズシテ腐ツルト云フ、干シ終ラザル中ニ雨ニ逢ヘル藻ト、風雨ノ時ノ寄リ藻ハ、波ノカ丶ラズ水ノトヲラザルトコロニ積ミ重サ子、茅ニテ掩ヒ葛ヲ引キ廻シ、風ノ吹キ散ラサヌ樣ニシ、長雨ニモ油氣ヌケズ、油氣ヲ含ミナガラ腐ツル樣ニシ、晴天ノ時ニ掩ヒタル茅ヲ除キテ日ニ當テ、上ヘノ乾ワキタル分ヲ段々ニ取リテ打チ碎キ、俵ニ入レ藻小屋ニ積ミ置キテ養ナヒトシ、昔シヨリ爲シ來レル干藻ノ養ナヒト何レカ勝レルト勘ガヘ、利益マサラズバ、風雨ノ時ノ寄リ藻ト、干シ終ラザル中ニ雨ニ逢ヘル藻バカリ右ノ如クシ、勘ヘテ利益マサラバ、總テ右ノ如クスベキコトナラン、麥ヲ蒔ク時ニ干藻ヲ土中ニ敷キ入レシハ、春雨ニ藻ノ腐ツル節ナラデハ、養ナヒニ成ラザルト云ヘリ、油氣ヲ含ミ

ナガラ腐チ碎ダケタル藻ヲ、作物蒔キ付ケノ初メヨリ實ノレル節マデ、段々ト養ナヒニスルナラバ、作得ノ増シアルベシト思ワル丶ナリ、農業全書ヲ讀ミテ、是州ノ農事ノ甚ダ粗ラク甚ダ疎ソカナルコトヲ知ルベシ

是州ハ西海道ノ諸州ノ中ニテ西北ニ在リケルユヘ、麥ノ實ノルコト諸州ヨリ晩シ、諸州ハ麥ヲ根刈リニスレドモ、是州ハ中刈リニシ根刈リニスルコト少ナクシテ、多クハ穗ノ實ノレルヲ一穗ヅツ取リケル故、麥ヲ取リ終ルコトモ諸州ニタクラブレバ甚ダ晩シ、梅雨ノ前ニ取ラザル麥ノ梅雨ニ成リテ莖ノ折レヌルハ、取ルニ手入リ増シ、穗ノ土ニ付キ草ニ交リタルハ、或ヒハ腐チ、或ヒハ生ヒ出テ、鹿ニモ喰ワレ、雉ニモ喰ハレ、家小屋ニ取リ入レ置キタルモ、長雨ニ逢ヒテ干シ得ラレザルハ、是又腐ツルモアリ、生ヒ出ヅルモアリ、水田アル村ハ麥ヲ取ル中ニ苗ヲ植ヘ、麥ヲ取リタル木庭ニハ大豆ヲ蒔キ、是ノ如キノ事ニテ、六月ニ入リテ麥ヲ取リ終リ、川近邊ノ麥ヲ五月ノ大水ニ流シ、大分ノ損スルコトモアルナリ、農業全書ニ云ヘルハ、麥ヲ刈ルニハ、初メハ少シ青穗ヲ交ヘテ刈ル程ニナクテハ、終リニ梅雨ノ恐レアリ、跡ノ耕シモ時ニ後レテ夏秋ノ芸リマデ後クル丶コトナレバ、片時モ油斷スベカラズ、蓑笠ヲ著テ刈リ取ルベシト云ヘリ、麥粒ノ十粒ニ三四粒ハ青キ時ニ、出來ノ劣レル處ヨリ刈リ取ラバ、一日増シニ黄ナルハ多ク成リ、青キハ少ナク成リ、麥ヲ取リ始ムルヨリ取リ終ハルマデノ惣體ノ粒ヨリ見ルナラバ、十粒ノ内一二粒ナラデ青キ粒ハアルマジ、其ノ一二粒モ黄ニナラントスル時ノ

粒ナレバ、黄ニ成レル粒ノ半分カ、三分二ホドノ實ノリニテアルベキ故、悉ク黄ニ成レル時ニ取リ初メタルニ較ラベタラバ、一割ホドノ損ナラン、麥ノ取リ掛カリ晩クシテ梅雨ニ逢ヒ、麥粒ノ腐ツル損分、鹿雉ニ喰ワルヽ損分、大水ニ流ガス損分ハ、一割二割ナドニテハアルマジ、畠ノ中ノ地ノ高キ處ノ殊ニ好ク實ノレル麥ヲ、終ニ取リテ種トスベキコトナリ、右ノ如クシテモ年ニヨリ梅雨ノ早キコトアルナレバ、穗麥ヲ長雨ノ時ニ入レ置クタメニ別ニ小屋ヲ立テ、廣サハ一間ニシテ長サハ二間ニナリトモ、九尺ニナリトモ宜シキ程ニシ、小竹ノ編ミタルヲ床トシ、麥藁ヲ敷キテ粒ノ漏ラヌ樣ニシ、四方ニモ小竹ノ編ミタルヲ引キ廻シテ、風ヲ通シ濕氣ヲ乾カシ、四方ノ端シニ積ミタル穗麥ハ、吹キ掛ケノ雨掛カリテモ、雨ノ止ミ間ニ風ノ當タリ强キニテ乾キ易ク、中ニ積ミタル穗麥ハ風ニ當タルコトナケレドモ、雨ノ掛カラザルニテ乾キ易ク、刈リ取ル時ニ含ミタル濕氣ハ、漸々ト竹床ノ下ニ漏レ、床高ク風通リテハ土氣ノ上ボルコト薄ク、長雨ニモ麥粒ノ腐ツルコト少ナク、晴天ノ日ニ干スモ、以前二三日ニ干シ終リタルハ二日ニモ干シ終リ、秋物ヲ刈リ雨ニ逢ヒタル時ニ入レ置キ、干シ得ルニモ益アラン、其小屋ハ曲ミタル柱ニテ掘リ立テニシ、堅葛ニテ結ビ、麥藁ニテ葺クナラバ費ヘ少ナカラン、試ミテ利アラバ村々ノ百姓其ノ小屋ヲ立ツベキコトナリ、何事モ僉議ニハ利アルベキ事ト見ヘテモ、試ミテ利アラザルモアリ、利アル事ナレドモ、試ミノ爲シ樣ノ宜シカラヌニテ、利アラザルニ成ルモアリ、利アル事ニテ試ミノ爲シ樣モ宜シケレドモ、試ミノ妨タゲニナレル事ノ出來シテ、宜シカラヌニ

ナルモアリ、能ク深ク勘ガフベキコトナラン、土穀ノ爲メニ水損ノ災ヲ減ラス大本ハ、山林ヲ養ナフニアリ、山林アルレバ雨ヲ木ノ葉ニ含ムコト少ナク、雨水ニワカニ出テ土砂ヲ川中ニ流シ入レ、川床高ク成リテ土穀ニ水損多ク、山林アルレバ夕立ノ雨マレニシテ、穀ニ旱損ノ災ヲモ增スナリ、吾レ經過セシ諸州ノ中ニモヽ常ニ水ノ流レザル川ニハ、川床ノ高サ民屋ト同ジ程ナルモアリ、是レ山林ノ荒レタル故也、北國ノ人ノ金澤領ノ山林ノ事ヲ語レルハ、金澤領三州ハ山々ヲ悉ク奉行ヨリ下知シ、伐明クベキ山ヲ段々ト杣人ニ伐ラセ、大木小木トモニ悉ク伐リ、其ノ中ニテ柱トナルベキハ柱トシ、板トナルベキハ板トシ、薪ニスベキハ薪ニシ、炭ニ燒クベキハ炭ニ燒キ、他領ノ境ニアル山ハ昔ヨリ伐ル事ナク、他領ニテハ材木ヲ取ル者ハ材木ヲ取リ、薪柴ヲ取ル者ハ薪柴ヲ取リケル故、山々マバラニ成リテ茂リ薄ク、金澤領ハ伐リ明クベキ山ヲ一度ニ殘リナク伐ル故、其山ニ生ズル木ハ、高キ木ノ木垂レニ掩ワルヽコトナクシテ長ズルコト早ク、一樣ニ長ズルユヘ茂リ厚シト語レリ、是州ヨリ薪ヲ他方ニ賣リ出スハ、昔ヨリノ事ナレドモ、其ノ如ク成シ來レル村ハ州中ノ村ノ五分一ホドナリ、是ノ州ノ用ニ木ヲ伐ルモ、他方ニ賣リ出ス爲メニ薪ヲ伐ルモ、金澤領ノ山林ノ下知ヲ學ビテ、村村其村ノ木山ヲ二十ニナリトモ、三十ニナリトモ分ケ置キ、每年其ノ中ノ一ツヲ伐リ、材木ノ用ニ松ヲ立テ杉ヲ植ヘ、食用ノ助ケニ橡栗ヲ植フルハ別段ニシ、其ノ外ニモ民用ニ達スベキ諸木ハ、地ヲ擇ビテ植フベキコトナリ、是州ニテ山々ノ樣子ヲ見ルニ、伐リ明ケタル處ヲ野火ニテ燒クコトナケレバ、伐リタル木ノ

根ヨリ新タニ又生ジ出テ、元ノ如ク長ジ茂ルト見ヘタレドモ、伐リ明ケタル處ヲ野火ニテ焼キ、二年モ三年モ其ノ如クナレバ、生ジ出デタルヲ焼キ枯ラシ、終ニハ根モ枯レ草山ト成ル、山ノ新ニ焼ケタル處ニハ、其ノ近邊ノ山ヨリ松ノ種ヲ吹キ來リテ、松アマネク生ズレドモ、野火ニテ其ノ生ジタル松ヲ焼キ枯ラシテ、草アマネク生ズレバ、其ノ後ハ松ノ種ヲ吹キ來リテモ、草ノ上ヘニ落チ土ニ交ジラザルユヘ、松ノ生ズルコトモナシ、野火ヲ防グハ山林ノ政道ノ中ニテノ重キコトナルベシ、草ノ繁レル山々ヲ野火ニテ焼クコトナキナラバ、其ノ山々ニ宜シキ木ヲ植ヘ立テシムル下知アルベキコトナラン

十穀ノ爲メニ水損ノ災ヲ減ラス先務ハ川普請ニアリ、吾レ郡奉行ヲ辭セシ後ニ、奉役ナル人ノ來リテ川普請ノ事ヲ語レルハ、川筋ノ曲リタルハ好カラズ、直グナルガ好キト心得テ、成ルタケハ直グニ成シケレドモ、其ノ害ノ見ヘ來レルコトアリ、谷口ヨリ濱邊マデ一筋ニ直グニ成ルナラバ、直グ成ルニ害ナカルベケレドモ、山ノ出張リアル處ニテハ、直グニスルコト成ラズ、大水ノ時ニ水ノ勢ノタヲリテ、其ノタヲリタル通リニ川筋ノ立チタルヲ、其ノタヲリ好カラヌトテ直グニ成シテモ、大水ノ時コトニ以前ノタヲレタル方ニ水筋アタリ、古川留メノ土手ヲ突キ破ルナリ、又川筋ヲ直グニ成シタル處ニテハ好ク見ユレドモ、其ノ直グナル處ノ上ミ下モニ水ノ當リ強ク成リ、以前ニ岸ノ崩レザル處モ岸ノ崩ルヽコトアリ、直グナル新川ニ成シテ利多カルシベト決定シタル處バカリ新川ニシ、新川ニシテ

害多カルベシト見ユル處ハ、其ノタヲリタル中ニテ、水當リ岸崩ルベキ處ノ防ギノミヲ爲スベキコトナリト語レリ、是レハ川普請ノ僉議ニ益アルベキ說ナリ、是ノ州ノ鄕村ニテ水ノ手普請ト云フハ、三四月ヨリ八九月マデノ間ダ雨降リ水出カヽル時ト、雨止ミ小水ニナレル時ニ人夫ヲ出シ、川中ト岸下ニ土砂ノ高ク成リ居ケル處ヲ掘リ浮シ、水ノ力ニテ流シ下ダスヲ云フナリ、谷口ヨリ濱邊マデ人夫ヲ配バリ置キ、同ジ時ニ水ノ手普請ヲ爲サシメ、長キ川ハ濱邊ヨリ谷口マデ、二ツニモ三ツニモ分ケ、初度ニ川下ノ土沙ヲ流シ、後ニ川上ノ土砂ヲ流シ、川上ノ土砂ノ川下ニ入リタルハ、又其ノ後ニ流シ、段段是ノ如クスベキコトナリ、吾レ郡奉行タリシ時ニ、川普請ノ爲シ樣ヲ人ノ語レルヲ聞キタルコト多シ、郡奉行ヲ辭セシ後ニ勘ガフルニ、川岸ニ土手アルハ好カラヌコトト思ハルヽナリ、土手アル川ハ土手ノ弱キ處卑キ處ヲ、大水ニテ突キ破リ、田畠ニ突掛クル故、土手ナキ川ニテ大水ノ川ニ餘マリ、田畠ニ滿チタルヨリハ、田畠ヲ損ジ作物ヲ損ズルコト甚シキト見ヘタリ、然レバ川岸ニ昔ヨリ土手アルハ、其ノマヽニシテ修理スルコトナク、新ニ土手ヲ築クコトナク、三四月ヨリ八九月マデノ間雨降リテ水出テ、雨止ミ小水ニ成レル度ゴトニ、濱邊ヨリ谷口マデ人夫ヲ配バリ、川筋ノ眞中ヲ藥研ノ樣ニ掘リ深メ、掘リ浮シタル土沙ヲ浦海ニ流シ入レ、一通リ掘リ深メシ後ハ、其ノ左右ヲ段々ト岸ノ邊マデ掘リ深メ、其ノ後又眞中ヨリ右ノ樁ニ埋リ深メ、以前川床ヨリ土手ノ上端マデ八尺ナリシ川ハ川床ヨリ川岸ノ平地マデ八尺アルニ成シ、以前土手ニテ防ギシ大水ヲ、川岸ニテ防グニ成ラバ、川岸ニ餘

レル大水モ緩ク平地ニ滿チ度タリ、田畠ヲ損ジ作物ヲ損ズルコト輕ロカラン、大水ノ時ニ水ノ强ク當ル處ハ、他方ニテ爲セル如ク長キ竹ヲ破リテ籠ヲ造リ、其ノ中ニ石ヲ納レ、積ミ重ネ水當リヲ防ギ、毎年二月ノ中ニ川筋ノ村々ノ下知人其ノ村ノ人夫ヲ出シ、谷口ヨリ濱邊マデ見通シ、石ニテモ木ニテモ川中ニアルハ、其木石ヲ除ケサセ、重キ石ハ川中ニ掘リ入レサセ、土沙高ク成リタル處アルハ、其ノ土沙ヲ川岸ノ平地ヨリ卑キク見ユル處ニ上ゲサセ、川岸ノ根ノ川床ノ並ミヨリ卑キク見ユル處ニ入レサセ、川岸ニ植ヘタル川柳ノ根ノ川中ニ出張リタルハ、出張リタル分ヲ掘リ切リテ取リ除ケサセ、川岸ノ川柳小竹ノ枯レタルハ植ヘ足サセ、五月ノ大水ニ石木ノ谷奧ヨリ流レ出タルハ、農事ヲ差シ置キ、早速人夫ヲ出タシ取リ除ケサセ、掘リ入レサセ、川筋惡シキニ極マリテ新川ヲ掘レルニハ、正月ニ新川ノ僉議ヲ定メ、二月ニ川筋ニ立ツベキ處ノ眞中ヲ、川下ヨリ川上マデ掘リ通シ、古川ノ口ハ塞ガズシテ、雨降リ水出ヅル時ハ、新川ニモ古川ニモ水ノ通ル樣ニシ、三四月ヨリ八九月迄ノ間ノ水ノ手普請ニテ、右掘リ通シ置キタル新川筋ノ左右ヲ、下モヨリ上ミマデ堀リ廣メテ土沙ヲ流シ下ダシ、古川筋ハ大水ノ時ノ土沙漸々ニ積レルヲ待チテ作處トシ、水ノ手普請ニテ土沙ノ浦海ニ流レ入リ、船ノ往來ニ障ワリアルハ、潮ノ多ク干ル月ノ大潮干ツメノ時刻ニ、川筋ノ村々ヨリ人夫出デ、濱村ノ船ヲ悉ク出ダシ、浦中ニ積モレル土沙ヲ掘リ取リテ船ニ積ミ、潮ノ滿ツル時刻ニ至リテ濱邊ノ地ヲ上グヘキ處ニ入レ、地ヲ上グル處ハ其ノ前ヨリ並ミ橛ヲ打チ境ヲ立テ置キ、並ミ橛ノ間ダヲ土沙ノ漏レヌ樣ニシ

テ其ノ内ニ入レ、或ヒハ屋敷トシ、或ヒハ作處トスベシ、山林川筋ノ下知好ク成ラバ、川普請ニ人夫ノ勞スルコト年々ニ少ナクナランゾ

是州ニハ木庭ト云フ作處ヲ勘ガフルニ、木庭ノ頭ラト左右ニ溝ヲ掘リ、雨降ル時木庭ノ上ヨリ木庭ノ中ニ水ノ流レ入ルヲ、防グコトノ成ルベキ木庭ハ少ナクシテ、險シキ木庭多シ、田畠ヲ合セテ僅ニ二三段四五段ノ地ヲ受ケ持チタル百姓ニテ、面々ノ心ニモ木庭ヲ廣ク明クルユヘ、農人ト成リ居ケルト覺ヘシ様子ナレバ、山林ノ爲メ田畠ノ爲メニ、穩ヤカナル木庭ヲノミ耕作シ、險シキ木庭ハ伐リ明ケザルコトノ下知アリトモ、百姓一同ニ受ケザルニテアルベシ、一石物成ノ上々木庭ト、一石物成リノ上畠ヲ、物成リニテ見ルトキハ同ジ程ト見フレドモ、上々木庭ハ十年ニ一度明クル法ナル、一石物成ノ上々木庭ノ地ノ廣サハ、一石物成ノ上畠ノ十倍ナリ、上々木庭ハ十年ニ一度明クル法ナレドモ、十年目ニ明ケテ十石出來ル上々木庭、五年目ニ明ノレバ五石出來、三年目ニ明クレバ三石出來ルニテナク、其ノ積リヨリ多ク出來、鄉村ノ木庭物成ノ高ハ、畠物成ノ高ノ三分一ニモ及バサルユヘ、出來高モ其ノ積リナルベキコトナレドモ、木庭ヲ法ノ通リヨリ早ク明クルニ付キ、木庭ノ作得、畠ノ作得ニ同ジキモノアリ、木庭ノ作得、畠ノ作得ヨリ多キモノアリ、百姓ノ木庭ヲ明ケ過グスコトヲ好メル道理、コノ所ニテ勘ガフベシ、木庭ヲ明ケ過グスヲ下知ニテ制シガタキ道理モ、此ノ所ニテ辨マフベシ、是州ヨリ出デ諸州ヲ遍歷セシ人ノ老ヒテ是州ニ歸リ、吾レ郡奉行ト爲レル時ニ、吾レニ語リテ云ヘルハ、

是州ニテ木庭ト名ヅクルヲ、他方ニテハ伐リ畠ト云フ、又州ニヨリテ伐リ掛ケト云フ事ヲ用フル州モアリ、其ノ伐リ掛ケハ山中ニテ、地ノ穩ヤカナル處バカリ掘リ明ケテ作處トシ、險シキ所ハ土ノ肥ヘタル處モ掘リ明ケズ、草木ヲ立テ置キ、作處ノ近邊ヨリ木柴ヲ伐リ取リ、草茅ヲ刈リ取リ、耕ヤシタル作處ニ敷キ散ラシ、其ノ木柴草茅ノ枯レタル時ニ燒キテ養ナヒトシ、耕ヤス度ゴトニ是ノ如クシテ、年々夏秋ノ作物ヲ蒔キ付クナリト云ヘリ、吾レ是レヲ聞キテ深ク信ジ、是州ノ鄕村ニ用フベキ良法ナリト思ヘリ、然レドモ野猪ノアリケル時ハ、牆ナクシテ木庭ヲ明クルコト成ラズ、木庭ゴトニ作物ノ實ノルベキ時ヨリ刈リ取ル時マデハ、毎夜猪逐ニ行キ、家內ニ猪ヲ逐フベキ年比ノ者三人アレバ、木庭ヲ三處ニ明ケ、四人アレバ四處ニ明ケヘルユヘ、木庭ノ數ハ少ナクシテ地ハ廣ク、穩ヤカナル處バカリ幾ク處ニモ掘リ明ケテ、右ノ伐リ掛ケノ通リニセヨトイフ下知ハ成ルベキ樣ナシ、是レニ由リ同役ノ先輩平田某佐役米田某ト野猪ヲ除クノ事ヲ議シ、平田某元ヨリ野猪ノ農事ニ害アルコトヲ深ク知リ野猪ヲ除カント欲スル志ザシアリケルユヘ、鄕村ノ爲メニ利ヲ興コス先務ハ、野猪ヲ除クニアリト議定シテ、支配ニ申シ下知ヲ受ケ、庚辰ノ冬ヨリ野猪ヲ除クノ事ヲ始メ、丙戌ノ春ニ至リテ事ヲ成スコト四分ノ三ナリ、是年古川某郡奉行ト爲リテ其ノ事ヲ繼ギ、己丑ノ春ニ至リテ其ノ事ヲ成セリ、野猪ヲ除クトテ鄕村ノ人ヲ使ヘルハ、始メヨリ終マデ大數三十萬人ナリ、庚寅ノ年ハ上使巡檢ニテ、鄕村ノ人ノ使ワレシ數七萬七百人、辛卯壬辰ノ兩年ハ信使來聘ニテ、鄕村ノ人ノ使ワレシ數廿三萬二千人

ナリト開ク、然レバ庚辰ヨリ壬辰マデノ間ダニ、郷村ノ人ノ使ハレシ高六千萬ニ餘マリ、大分ノ人夫使ヒニテ、其上庚辰以來麥作モ秋作モ出來好キト云フ年ハ一年モナク、凶年ナリト云フ年ハ度々アリケルユヘ、百姓衰微スベキコトナレドモ、野猪ノアリシ時ニ劣リテ衰微セシト云フコトヲ聞カズ、庚辰以來郷村ノ人高二千人ホド增シタレドモ、人數增シ食用乏シク成レルト云フコトヲ聞カズ、是ノ後ニ農事ノ下知ニ心ヲ盡サル丶郡奉行アラバ、野猪ノ除キシコニ郷村大益ノ本ト成レル樣子、其ノ時ニ至リテ初メテ著ハレ、郷村ノ爲メニ利ヲ興ス先務ハ、野猪ヲ除クニアリト云ヒシ道理、其ノ時ニ至リテ初メテ明カナラン

是ノ以後ニ郡奉行ト成レル人ノ、若シ木庭ヲ伐リ掛ケニ改メント思ハル丶ナラバ、佐護郷ノ深山村、伊奈郷ノ瀨田村、三根郷ノ三根村、仁位郷ノ仁位村四箇村ニテ、耕作ノ働ラキ人並ミニ勝レル百姓ヲ二人ヅツ擇出シ、二人ノ受ケ持チノ木庭坪ヲ帳面ニ記シ、木庭何坪蒔目何程ノ內。木庭ノ頭ヨリ左右ニ水ヤリノ溝ヲ掘ルコトノ成ルベキ穩ヤカナル地イク處、ソノ蒔目イカ程ト書添ヘ、二人ノ百姓ヲ奉役ノ家ニ召シ寄セ、郡奉行ヨリ諭サル丶詞ニ、險シキ木庭ヲ明ケヌレバ其ノ害多シ、木庭ノ頭ヨリ左右ニ水ヤリノ溝ヲ掘リ、作處ニ雨水ノ流レ入ラザル樣ニ成ルベキ木庭バカリ耕作セヨ、穩ヤカナル木庭ノ內ニテモクボミタル處ハ、上ヘヨリ雨水ノ流レ通ル筋ナルユヘ、常ニ溝ト成シ、時々ニサラヘテ土ヲカキアゲ、木庭ノ頭ヨリ左右ニ掘リタル溝モ時々ニサラヘ、山下ノ畠ニモ水ヤリノ溝ヲ掘リ、川

マデ溝ヲ掘リ續ケ、險シキ木庭ニ耕作セシ手入リヲ、畠ト穩ヤカナル木庭ニ用ヒヨ、水ヤリノ溝ヲ掘ルコトノ成ルマジキ險シキ木庭ヲ見ルニ、作物ヲ蒔キテモ土ニ留マルコト少ナキト見ヘ。作毛甚ダ薄シ、然レバ險シキ木庭ヲ明ケザルハ、多キト見ヘテモ其ノ損ハ少シキナルコトナラン、穩ヤカナル木庭ヲ耕ヤシテ、作物ヲ蒔キ付クル前ヘニ木柴草茅ヲ取リ、耕ヤシ置キタル上ヘニ敷キ散ラシ、枯レタル時ニ燒キ、夏作秋作共ニ每度此ノ如シテ、年々ニ穀物ヲ植ユルナラバ、作得ノ增シ險シキ木庭ニ耕作セザル損ヨリハ多カラン、險シキ木庭ハ伐リ明ケ掘リ明クルニ、手入リノ多キノミナラズ、蒔キ付クルニモ刈リ取ルニモ、穩ヤカナル木庭ヨリハ手入リ增スベシ、其ノ分ノ手入リニテ、畠穩ヤカナル木庭ノ耕ヤシ耨キリ培カヒ養ナフコトヲ精シクセヨ、作物ヲ蒔キ付クル前ニ、每度木柴草茅ヲ作處ノ上ニテ燒クハ、其ノ灰ノ土ヲ養ナフ益アルノミナラズ、土ノ燒クルニテ其性アラタマリ、同ジ物ヲ續ケテ蒔キテモ出來好シト聞ク、作處ノ近邊ヨリ木柴ヲ取ルニモ、作處ノ風防ギニナルベキ木ハ、枝ヲモ伐ラズ立テ置カバ、險シキ木庭ニ風ノ當リタル樣ニナク、風損モ輕ロカラン、畦ヲ立テ筋ヲ切リテ蒔キ付クルナラバ、久シク雨降ラズ、旱損アルベキカト恐ルヽ時ニ、近邊ノ草茅ヲ刈リ作毛ノ間ニ敷キ、濕氣ヲ求ムル益モアラン、穩ヤカナル作處ニ水ヤリノ溝アラバ、大雨ニモ灰ノ養ナヒ流レ下ラズ、年年ニ木柴草茅ヲ敷キテ燒キケル所ヨリ、地位漸々ニ好クナラン、麥ヲ取リ收ムルニ畠麥ヲ早ク取リ、木庭麥ヲ晩ク取レバ、木庭ニ草茂リ木ノ根ノワカバヘモ高ク成リ、取ルニ手入レ多ク、麥跡ノ木庭ニ大

豆ヲ蒔クコト、麥跡ノ畠ニ大豆ヲ蒔クヨリ早カラザレバ、出來甚ダ惡シキトテ、木庭麥ヲ早ク取リ、川ノ近邊ノ好ク出來タル麥ヲ梅雨ノ大水ニ流スコトモアルユヘ、木庭ノ穩ヤカナル處ヲ畠ニナスナラバ、川ノ近邊ノ麥ヲ出來次第ニ早ク取リテ、水ニ流サヾル益モアリ、惣體ノ麥ヲ取リ終ワルコトノ早ク成ル益モアラン、穩ヤカナル木庭ニテモ、其ノ木庭ノ地形ニ依リ、溝ノ掘ラレヌト思フモアルベケレドモ、其レハ心ヲ盡サヌナリ、譬ヘバ穩ヤカナル木庭一斗蒔キナルヲ一坪ニセズシテ、其ノ一斗蒔ノ内ニテ、或ヒハ五六合蒔キノ坪モアリ、或ヒハ一二升蒔キノ坪モアル樣ニシ、一斗蒔キヲ三坪ニモ四坪ニモ分ケ、坪ノ形チ圓キモアリ、長キモアリ、四角ナルモアリ、三角ナルモアル樣ニセバ、溝ノ掘ラレヌト云フコトハアルマジ、溝ハ藥研ナリシニ、深サ廣サハ山ノ樣子ヲ見テ、水ノ流レ下ダルベキ多少ヲ考ヘ、宜キ程ニ掘ルベキコトナリ、譬ヘバ百姓受ケ持チノ木庭ノ蒔目五石ナル村十ケ村アリトモ、其ノ村々ノ木庭ノ樣子ニ依リ、五石蒔キノ内ニテ穩ヤカナル地、五斗蒔キナルモアリ、一石蒔ナルモアラン、五斗蒔キヨリ一石蒔キヲ羨ヤマズ、他ノ一石蒔キニ用ユル力ヲ五斗蒔キニ用ヒタラバ、五斗蒔キノ作得、一石蒔キノ作得半分ナドト云フコトニテハアルマジト、是ノ類ノ事ヲ詳カニ云ヒ聞セ、自身ノ眞實ヲ積ムコトヲ務メテ百姓ヲ疑ガワズ、先ヅ四村ノ百姓二人ヅツヲ諭シ得テ、四村ノ百姓ヲ諭シ、段々ニ推シ廣メテ惣體ノ村々ニ及ボサルヽナラバ、五年程ニテ其ノ事成ルベシ、其ノ事ト共ニ農事條目ノ敎ヘ能ク行ナワレテ、穀物ノ出來今時ニ半倍セバ若シ諸方ノ通路ノ成リ難キ時アリト

モ、其ノ時ノ府中ノ人高ノ程ニ依リ、食用ノ下知ヲ成シ得タマフニテアルベシ、農業全書ノ附錄ニ麥作ノ事ヲ記ルシ、上畠一段ニ上農夫ハ六石五斗モ七石モ作リ出ダシ、下農夫ハ七八斗ヨリ一石一二斗作リ出ダスト云ヒ、田モ作リ樣ニテ一石作リ出ダシタル地ヨリ三石作リ出ダスト云ヒ、惣體ニ並シタル內端ノ積リ、一石ハ一石五斗ニ成ルベシト云ヘリ、是レ卽チ半倍ナリ、是州ノ鄕村ニテモ下農夫ノ穀物一石作リ出ダス地ヨリ、上農夫ハ三石モ作リ出ダスナレバ、其ノ上農夫ニ農業全書ニ見ヘタル農事ノ道ヲ精シク敎ヘタラバ、作リ出ダシ又增スベシ、中下ノ農夫モ敎ヘニ依リテ、其ノ元ヨリノ分ニ應ジ、作リ出ダシ增スベキユヘ、鄕村ノ惣體ニテ半倍ノ增シアルハ成リ難キコトニアラジ、夫レトモニ百姓ヲ農業ノ外ノ事ニ召シ使ワル、日數ノ、減ラズシテ增ス事杯アラバ、農事ヲ敎ヘラルベキ樣モナク、敎ヘアリテモ爲シ得ベカラズ、吾レ竊カニ鄕村ノ人情ヲ勘ガフルニ、譬ヘバ郡奉行ノ心ニ農事ヲ下知スル通リニ務メテ、出來增シアラバ、出來マシノ四分ノ三ヲ百姓ニ得サセ、四分ノ一ヲ年貢ノ增シトスベシト思ワレ、其ノ心ヲ百姓知リタラバ、悅ブコトモ進ムコトモナク、出來增シノ四分ノ一ヲ召シ上ゲラルベキモ、出來增シヲ悉ク召シ上ゲラルベキモ量リ難ク、假令一年二年ハ四分ノ三ヲ下モニ得ルトモ、府中ニツカヘサセタマフ事ナドアラバ、下モニ得ルニ定マリタル分モ府中ニ召シ上ゲラレ、作處ノ增シタルニテモナク、公役銀ノ減リタルニテモナクシテ年貢ノミ增シ、百姓ノ苦勞ノ爲シ損ニ成ルベシト思ヒ、下知ノ通リニ務ムルコトアルマジ、諸方ノ通路ノ成リ易キ時ニ、干出開田

ノ外ニハ年貢ノ増スコトヲ少シモ爲サズ、一筋ニ百姓ヲ利スル心ヲ守レル郡奉行ヲ、眞トニ能ク君ヲ利スル郡奉行ト云フベシ、上使巡檢、信使來聘ノ時ハ格別、其ノ外ニ百姓ヲ召シ使ハル丶日數少シヅツニテモ減リ、農事ヲ務ムル日數少シヅツニテモ増シタル樣ニ心ヲ盡シテ支配ニ申シ、自身ノ眞實ヲ積ミテ百姓ヲ諭シ、農事ノ下知ニ心ヲ盡サレンコトヲ、吾レ深ク後チノ郡奉行ニ望ムナリ

是州ノ山附キハ土淺キユヘ、堤ノ壞モ有リカチ、岩ノ出張リ間々ニ有ルユヘ、水道ヲ掘リテ谷奥ヨリ水ヲ引クコトモ成リカネ、元ヨリ水田少ナキ中ニテ、水ヲ落シ水ヲ掛ク田ハ最モ少ナク、大體ハ天水田深田ナリ、岩ノ出張リ有ル處ハ、金掘リニ水道ヲ切リ通サセテ、谷奥ヨリ水道ヲ開キ、水道ノ山ニ隨ヒ入リ廻ワリテ、川ノ狹ミ二三間ナル處ニ當レルハ、直ナル大木ヲ樋ノ形ニ作リ、兩方ノ端シニ赤土ヲ込ミテ水ヲ洩サズ、洪水ノ時ニ樋ノ流レヌ爲メニハ、樋ノ端シ一方ヲ堅葛ニテ結ヒ、近邊ノ大木大石ニ結ビ附ケ置クベシ、是ノ如クシテ山奥ノ谷水ヲ遠ク引キ、元ヨリ田ニアル濕氣ハ溝ヲ掘リテ川ニ拔キ、遠方ノ水ノ水道ニテ日ニ當リ冷氣ノ去リタルヲ田ニ掛ケ、耕耨ノ爲シ樣モ好ク、養ナヒノ爲シ樣モ宜シクナラバ、田作ノ利其ノ以前ヨリハ多ク成リ、上上畠上畠ノ麥ノ跡ニ大豆、蕪菁、大根ヲ種ヘ、麥ノ畦ノ間ニ芋ヲ種ヘタルヨリハ、上上畠上畠ヲ田ニシテ、麥ノ跡ニ稻ヲ種ヘタル利益多カラン、大豆ハ稻麥ニ次ギテ民食ニ切ナル物ナリ、芋ハ諸菜ノ中ニテ最モ民食ニ益アル物ナレバ、田ニナラザル畠ニ蕪菁、大根ヲ減ラシ芋ヲ増シ、山畠ニ粟、蕎麥ヲ減ラシ大豆ヲ増シ、大豆ト芋ヲ種フル分量ハ減ラ

スマジキコトナラン、秋物風損ノ時ニテモ大豆ト芋ノ損ハ栗、蕎麥ノ損ヨリ少ナシト云ヒケルナレバ、損毛ノ多キ物ヲ減ラシ、損毛ノ少ナキ物ヲ増シテ種フル道理モアルベキコトナリ、山ノ根ニ水道ヲ切リ通スハ、農業全書ニ云ヒケル如ク、南ニ向キタル山ノ根ニ切リ通シ、草木ノ水道ヲ掩ハヌ様ニスベキコトナリ、銀山ノ様子ヲ見テ勘ガフルニ、甚ダ堅キ岩ノ出張リタル處ニテモ、水道ノ切ラレヌコトハアルマジ、甚ダ堅キ岩ニテモ、上ヘハ底ホドニ堅キ物ニテナシト云フナレバ、深サヲ一尺五寸二尺ニシ、廣サヲ其ノ川下ノ地ヲ浸タスニ足レルホドノ水ヲ流ガス様ニスル溝ヲ切ルコト、成シ難キ手入リニテハアルマジ、金掘リノ岩ヲ切ルコトハ銀山ニテ知レタルニ、水田ノ水道ヲ切リ通スコトノ昔ヨリ今ニ至ルマデ行ハレザルハ、農事ニ心ヲ盡サレザルユヘナラン、四月ニ雨降ラザルハ、麥ニ宜シトイヘドモ、濕地ハ格別、四月ニテモ久シク雨降ラザレバ、實リ十分ニナラヌト云ヒ、秋ノ畠ノ畑物ニモ旱損多ク、芋ノ旱損尤モ多ケレバ、何レノ村々モ谷奥ニ常ニ水アル地ナラバ、水道ヲ開キ置クベキコトナリ、是州ノ浦々ノ外海ニ向キタルニハ、干出ノ濱ナケレドモ、內海ノ浦々ニハ干出ノ濱多シ、干出ノ處ニ田畠ヲ開クハ寒氣ニ成リ、木ノ性ノ堅キ時ニ、橛木ヲ長サ三尺ホドニ伐リ揃ヘ、干出ノ海ノ大潮干ツメノ限リノ處ニ、兩方ノ岸ヨリ押シ通ヲシ、常ニ水ノ流ル丶處ヲモ押シ通ヲシテ、橛木ヲ透キ間ナク打チ込ミ、高キ處モ卑キ處モ、橛木ノ頭ラヲ一尺ホドヅツ出シ置キ、流レ掛カレル土沙、木ノ葉ニ留マレル様ニシ、一尺ホドヅツ出デタル橛ノ頭ラノ埋モルベキト見ユル年ノ冬ハ、又初メニ打チ

込ミタル橛ヨリ一尺ホド引取リテ、初メノ格ニ橛ヲ打チ込ミ、初メニ打チタル橛ノ腐ツベキ年ニハ、又新ラシキ橛ヲ打チ添ヘ、濱邊ノ干出ノ平地ト同ジ高サニ成レル處ノミ、川筋ヲ定メ作處トシ、水ヲ取ルコトノ成ルベキハ田トシ、水ヲ取ルコトノ成ルマジキハ畠トシ、一畝以上ノ干出ハ惣體右ノ如クスベキコトナリ、干出ノ開キハ山中ノ木ノ葉ト土沙ヲ流シ入レ、山林、田畠、木庭ノ下知十分ニ行ナワルヽニ成リテモ、土沙ノ少シモ流レ下ラザル道理ハナク、大雨ノ時ニ水ノ濁レルハ、皆是レ土沙ナルユヘ、其ノ土沙ノ海ニノミ入レルヲ、並橛ト濱ノ間ダニモ留ムルナラバ、田ニ成リテモ畠ニ成リテモ、上上田、上上畠カ、上田上畠ナルベシ、年々農隙ノ寒中ニ干出ノ地アル村々ヨリ、橛木ヲ取リテ打チ込ムコトハ輕キ手入レナルベシ、干出ノ作處一段ニ成レル時ニ、郡奉行所ノ帳面ニ記ルサレ、其年ヨリ十年マデハ作リ取リニシ、十一年ニ當タル年ヨリ出來高ノ四分ノ一ヲ年貢ニ納メ、未ダ一段ニ及バザル前ト、一段ヲ過ギ二段ニ及バザル間ダモ是レ亦作リ取リニシ、一村地ノ内ニテ濱邊ノ干出ノ作處ニ成リテ、一段ニ及バザル地ノ數ケ所ナルハ、數ケ所ヲ合セテ一段ニ及ヒタルヨリ、郡奉行所ノ帳面ニ記ルサルヽ格ニナラバ、百姓ノ作得ト年貢ノ穀物ト、共ニ增益スルニテアルベシ

五穀ヲ害スル禽獸ヲ減ラスハ、田畠少ナキ地ニテ新タニ田畠ヲ開キ、田畠ノ瘠セタル地ニテ、能ク田畠ヲ養ナフト同ジ道理ナリ、禽獸ノ穀菜ヲ害スルヲ勘ガフルニ、野猪ハ種ヘタルヲ掘リ返スコトノ最モ甚シキノミナラズ、長ケノ高カラヌ獸ナレバ、實ノラントスル作物ト、實ノリタル作物ノ處ヲハヒ

マワリ、莖ヲ抱キ伏セテ種ヲ喰フユヘ、實ノレルヲ害スルコトモ尤モ甚シ、鹿ハ麥ノ生ヒ出デタルヲ喰ヒ切リ、冬ノ內ニ喰ヒ切リタルハ、春ニ至リテ元ノ如ク生ヒ出ヅレドモ、春ニ成リ莖ノ立テルニ至リテ喰ヒ切リタルハ、生ヒ出ヅル莖ヤセイタミ、是レ害スル所ノ重キナリ、實ノレルニ成リテ穗ヲ喰ヘルハ害スル所ノ輕キナリ、雉モウヘタルヲ掘リ反シテ、穗ヲ喰ヘルヲ重キ害トシ、實ノリテ穗ノ低レタルヲ喰ヘルハ輕ロキ害トス、然レバ野猪ハ穀ヲ害スルノ第一ニテ、鹿ト雉トハ穀ヲ害スルコト野猪ノ次ナリ、山陽道ノ諸州ニテ逐鳥狩ト云フコトアリケル樣子ヲ、人ノ語リテ精シク聞キタリ、其ノ事ヲ是州ノ鄉村ニテ行ナフナラバ、村々ノ麥ヲ蒔キ終レル時ニ、並ビノ村々ヨリ人夫ヲ聚メ、其ノ聚マル人數譬ヘバ三百人ナラバ、其ノ中ニテ鐵砲ヲ好ク打ツ者廿人ニ鐵砲ヲ持タセ、二百八十人ヲ七十人ヅツ四組ニ分ケ、鐵砲持チタル者五人ヅツ加ヘ、四組トモニ二間ホドヅツ間ヲ置キテ立チ並ビ、四組ノ內二組ハ兩方ノ山ノ下ニ立チ、二組ハ兩方ノ山ノ中ニ立チ、其ノ間ヲ二三町ホド隔テ、山下ノ二組ハ六七尺ナル竹ニテモ、木ニテモ面々ニ持チ、左右ノ草木ヲ打チ、雉ヲ逐ヒ立テ狩リ上ゲ、犬ヲモツレテ逐ヒ立テサセ、山中ノ組ハ山下ノ組ヨリ逐ヒ起ス雉ヲ、音ヲ揚ゲテ逐ヒ戾ドシ、山中ノ組ヨリ逐ヒ戾シタル雉ノ落チタルヲ、山下ノ組ヨリ打執ラヘ、木ノ枝ニ舞ヒ上リタルハ、鐵砲持チタル者ヨリ打チ、山中ニ舞ヒ入リタルハ其マヽニシ、平地ニ舞ヒ落チタルハ、又左右ノ山ノ山下ノ二組ヨリ平地ニ狩リ寄リ、平地ノ中程ニテ狩リ結スビ、其ノ處ヨリ又山ニ向キテ狩リ寄セ、山中ノ二組ハ初メ立チタ

ル處ヲ下ダリ、平地ヨリ一町ホドノ處ニ立チ並ビ、平地ヨリ狩レル二組ニ逐ヒ立テラレ、山中ニ舞ヒ入ラントスルヲ逐ヒ戻シテ、平地ノ組ニ執ラヘサセ、山中ニ舞ヒ入リタルハ其ノマヽニスベシ、雉ハ作所ニ近キ山ニ多ク居ケルト云ヘルナレバ、毎年麥ヲ蒔キ終レル時ニ、人數三百人ホド聚マル村村云ヒ合ハセ、作處ニ近キ山々ヲ一ト通リ右ノ如ク狩ルナラバ、冬ノ内ニ麥種ヲ掘ルコトノ少ナク成ルノミナラズ、秋物ノ種ヲ掘ルコトモ、麥ト秋物ノ實ノレルヲ喰フコトモ、共ニ甚ダ輕ロク成ルベシ、鹿ノ作物ヲ害スル村ハ卅村ホドニテ、惣體ノ村ノ四分一ホドナリ、鹿ノ害アル村十村ホドヅツ一組ニ成リ、犬群ヲ常ニ飼ヒ置キ、鹿ヲ逐ヒ出ダス人數ト、鹿ヲ打チ留ムル人數ヲ定メ置キ、冬ノ内ニ日數何日、春ニ成リテ日數何日ト定格ヲ立テ置キ、毎年定格ノ如ク狩ルナラバ、鹿ノ作物ヲ害スルコトモ甚ダ輕ロクナルベシ、野猪ヲ除キシハ殘リナク除キシユヘ、其ノ事甚ダ難タカリシナリ、鹿雉ハ殘リナキ樣ニ除クニテハナク、多キヲ減ラシテ少ナクスルナレバ、難キコトニアラジ、假令鹿モ雉モ殘リナク除クコトヲ得ルベクトモ、作物ヲ害スルコトノ甚シキ第一ト見ヘタル野猪ニ同ジクスルハ、道理ニ於テ爲スマジキコトナリ、是ノ故ニ野猪ヲ除キシ大狩リノ時ハ、鹿モ甚ダ少ナク成リケレドモ、野猪ノミ足跡ヲ尋ネテ打チ留メサセ、鹿ハ野猪ヲ狩ル妨ニ成ラザルホドニ減リタラバ、其ノマヽニシテ捨テ置ケト下知セシナリ、是州モ他州郡ノ如ク田畠ト百姓ト相應シ、穀物ノ出來人民ノ食ニ足レル程ナラバ、野猪モ多キヲ減ラスマデニテ、殘リナク除クコトハ爲スマジキ道理ナラン、狩リハ聖君ノ始メ

タマヘル事ニテ、禽獸ノ穀ヲ害スルヲ除クト、軍法ヲ習ハシムルト兩樣ノ主意ナリ、村々ニ住スル役人ノ冬ト春トノ狩リニ精シク心ヲ盡スコトナク、鹿雉ノ作物ヲ害スルヲ憂ヘザルハ、鹿雉ノ作物ヲ害スルニテナク、村々ニ住スル役人ノ鹿雉ヲシテ作物ヲ害セシムルナリ

吾レ老衰シテ退休セシ後ニ、相ヒ知レル百姓ノ來リテ物語リシケルハ、某ケ村ハ野猪ノナクナレル後ニ、木庭ヲ明ケ過グシ、作得ノ增シハナク、種ヲ多ク蒔キケル分却テ損トナリ、木庭ノ廣クナレルヨリ手入レノ增シモ多ク、其ノ上ヘ木庭ノ土沙ノ大雨ノ時ニ流レ下ダリテ、川ニ入ルコト其ノ以前ヨリ甚シク川床高ク成リ、洪水ノ畠作ヲ損ズルコトモ增シ、野猪ノナクナレルハ、害ノミニテ利ハ見ヘザルナリト語ル、吾レ云ヘルハ、其ノ事ヲ今其方ノ語レルニテ初メテ聞キタルニテナク、近年度々聞クコトナリ、利ナク害アル事ヲ、害ナク利アラント思ヒ誤マリテ爲スコト一度ハアルベシ、利ナク害アリトヲボヘシ事ヲ、數年爲シツヅクルハ如何ナル心カ、其方ノ村ノ下知人モ知行ノ木庭、又ハ村地受ケ持チノ木庭ヲ、百姓ト共ニ明ケ過グサルヽカ、下知人ハ明ケ過グサレネ共、百姓バカリ明ケ過グスカ、百姓ニ木庭ヲ明ケ過グスナドト云ヒ付ケハナキカ、云ヒ付ケアリテモ從ガワザルカ、下知人ノ云ヒ付ケニ從ガハズバ、鄕ノ奉役ニ申シ出デラルベキコトナリ、申シ出ラレテモ奉役ヨリノ云ヒ付ケハナキカ、云ヒ付ケアリテモ從ガワザルカ、奉役ノ云ヒ付ケニ從ガワズバ、郡奉行ニ申シ出デラルベキコトナリ、申出デラレケル後ニ郡奉行ヨリノ云ヒ下ダシハナキカ、云ヒ下ダシアリテ奉役村下知人ヨ

リ云ヒ付ケラレテモ從ガワザルカ、以前百姓ノ云ヘルハ、木庭ヲ伐リ明ケ掘リ明クレバ日數多キコトナルニ、野猪ヲ防グトテ木庭ノ廻リニ牆ヲ搆フルハ、是又日數多シ、其ノ上作物ノ實ノルベキ時ヨリ刈リ取ル時マデ、假屋ヲ搆ヘ置キテ猪ヲ逐ハザレバ、猪必牆ヲ破ルユヘ、終日ノ働キニ疲レナガラ、夜ハ又猪ヲ逐ヒニ行キ、夜モ心ヨク寢ザル故、晝ノ働キ思フホドニハ成リガタシト云ヘリ、野猪ナクナリテハ、以前牆ヲ搆ヘシ手入リ、猪逐ニ行キシ苦勞ノ止ミタル力ニテ、作物ノ益ニ成ルコトヲ爲スベシト思ヘルニ、益ナキ木庭ノ明ケ過グシニ、空シク力ヲ用ヒケルト見ヘタリ、又以前百姓ノ云ヘルハ、假屋ノ搆ヘ猪ヲ逐ヒテモ、風雨ノ夜ナドハ猪シキリニ牆ヲ破リ木庭ニ入リ、作物ノ莖ヲ折リ實ヲ喰ヒ、數月ノ勞ヲ一夜ノ内ニ空シクスルコトモアリト云ヘリ、野猪ナク成リテハ其ノ益見ユベキコトナルニ、其ノ益モ見ヘザルカ、又以前百姓ノ云ヘルハ、野猪ノ作物ヲ害スルハ、木庭ノ作物ヲ害スルノミニテナク、山ニ近キ畠ノ作物ヲモ害セシト云ヘリ、野猪ナクナリテハ其ノ益見ユベキコトナルニ、其ノ益モ見ヘザルカ、又以前百姓ノ云ヘルハ、芋ハ菜ノ中ニテ民食ニ成ルコトノ最モ重キ物ナルニ、野猪殊ニ是レヲ好ミ、掘リ喰フコト甚ダシ、木綿ノ實ノヤソラカナル時ニハ、野猪コレヲ喰ヒテ木綿ヲモ害シ、栗モ野猪ノ殊ニ好ム物ニテ、人ノ行カザル時ニ落チタルハ、總テ野猪ノ食ト成リ、櫧モ野猪ノ喰ヘル分ハ、人ノ拾ヒ取ル損ト成リ、筍モ野猪ノ好ム物ナルユヘ、竹ノ茂ルベキ處ニモ茂ゲラザルト云ヘリ、野猪ナク成リテハ右品々ノ益見ユベキコトナルニ、其ノ益モ見ヘザルカト云ヒケルニ、

其ノ百姓答フルコトナシ、吾レ又云ヘルハ、野猪ノナク成リテ、郷村ニ害アル事右ニ語レル外ニモアラバ、委シク語リ聞カセヨト云フ、其ノ百姓ノ語レルハ、雉ノ卵ハ野猪ノ喰ヘル物ナリシユヘ、野猪ナク成レル後ハ雉多ク成リ、麥ノ種ヲ掘リ喰フコト甚ダシ、平ラ口ト云フ毒虫モ野猪ノ喰ヘル物ナルユヘ野猪ナク成レル後ハ平ラ口モ増シ人ヲ害スルコト甚ダシ、野猪ノアリケル時ハ、作物ノ實ノルベキ比ヨリ刈リ取ル節マデハ、暮レニ猪逐ヒニ行キ朝タニ歸ヘリ、其ノ往來ニ作處ヲ見廻ワリケレドモ、野猪ノナクナレル後ハ百姓不精ニ成リ、山中ノ作處ヲ見廻ワルコトナク、鹿雉ナド自由ニ作物ヲソコナヘリ、皆是レ野猪ノナクナレル上ヘニテノ好カラヌ事ナリト語ル、吾レ云ヘルハ、仁位郷ノ西ニアリケル十村ハ、昔野猪ヲ除カレシコトアリテ、其ノ村々ノ山ニスミタル野猪ハナク成リ、仁位村、會村ノ山ヨリ希レニ野猪ノカヨヘルモ、十村ノ内一二村ナリ、然レドモ仁位郷ノ西十村ノ山ハ、他處ニカワリテ雉多ク、平ラ口多シト云フコトヲ終ヒニ聞カズ、府中ノ東ニアリケル山々モ、昔ハ野猪ノカヨヘル山ナレドモ、是ノ山ノ北ニ掘リ切リノ川出來テ、川ノ南ニ人家ツラナレル後ハ、昔北山西山ヨリカヘル野猪、是ノ山ニ入ルコトヲ得ズ、サレドモ其ノ以來是ノ山ニ雉多ク成リ、平ラ口多クナレルト云フコトヲ終ヒニ聞カズ、野猪ノナクナレル後チ二三年ノ間ハ、府中ニテモ平ラ口多ク成リタルト云ヒフラセリ、其ノ後ハ年ニ依リテ平ラ口多シト云フ年モアリ、平ラ口ノコトヲ云ハザル年モアリ、野猪ナクナリテハ雉平ラ口多クナル道理ニテ、野猪ナクナレル初年ヨリ二三年ノ間ニ、沙汰ノ通リ多

ク成リタラバ、今ハ又野猪ノナク成レル初年ヨリ十年ヲ過ギケル故、山ニ行ク者ドモ、山々谷々ニ雉平ラ口甚ダ多ク成リタルト云フベキコトナレドモ、其ノ沙汰ハナシ、野猪ノアリケル時ニ、猪逐ヒニ行キタル勤メノ五分一カ三分一ノ勤メヲ為スナラバ、山中ノ作物ヲ鹿雉ノソコナフコト以前ヨリ甚シキト云フホドニハアルマジ、野猪ナク成リ百姓不精ニ成リタルトノミ云ヒ、イツマデモ鹿雉ノ作物ヲソコナフニ任セ置クベシト思ヘルカト云ヒケルニ、其ノ百姓答フルコトナシ、右百姓ノ云ヘル處ニテ郷村ノ人情ヲ察シ、人情ノ是ノ如クナル故ヲ勘ガフベシ

吾レ老衰シテ退休セシ後ニ、相知レル百姓ノ來レル者ニ問ヘルハ、吾等郡奉行ト成リテ下知セシ事ノ中ニ、百姓ノ為メニ好カラヌ事アルベシ、其ノ好カラヌハ何ニ事トナルゾト問フ、其ノ百姓答ヘテ下知ナサレシ事ノ中ニテ、好カラヌ事ハ猪逐詰ト酒法度ナリト云フ、吾レ云ヘルハ、猪逐詰ノ好カラヌト云フコトハ近年度々聞キタルナリ、酒法度ノ好カラヌ所ヲ委シク語リ聞カセヨト云フ、其ノ百姓ノ語レルハ、寒中ニ山ノ働キシ海ノ働キスルハ、酒ノ力ヲカラズシテ成ラヌ事ナリ、酒ヲ自由ニ飲ミ得ヌニ成リテ、寒中ノ働キ其ノ以前ノ様ニ為シ難ク、寒氣ニテナキ時モ、酒ヲ飲ミヌレバ精力増シ、耕作ノ働キニ益アリシニ、酒ヲ自由ニ飲ミ得ヌニ成リテハ、耕作ノ働キモ其ノ以前ノ様ニハ為シ難シト語ル、吾レ云ヘルハ、郷村ニテ酒ヲ自由ニ飲ミタル時ノ事ヲ聞キケルニ、寒中ニ山ノ働キスルハ蕎麥ノ粉ヲ水ニテコ子、押シ平ラメテ火ニ燒キ、又糯粉ニ大豆ヲ少シ交ヘタルヲ右ノ如クシ、火氣アルヲ

二枚モ三枚モ、布木綿ノ切レニ包ミテ懷中シ腹ニ當テヌレバ、其ノ火氣ニテ腹モ溫タカニ成、腹ノ溫タカ成ルニテ包ミタル物冷ユルコトナク、働キテ疲レケル時ハ、包ミタル物ヲ二度ニモ三度ニモ食シ、海村ノ者ノ寒中ニ海ノ働キスルハ、船ニテノ事ナルユヘ、湯ワカスニモ、飯ニ湯ツケテ喰フニモ支ヘナク、下戶ノ働キ上戶ニ劣レルコトハナカリシト聞ク、寒中ニ烏賊ヲ釣ルハ、上戶働キ下戶ニ勝サルト云コトヲ聞キタルコトモアリ、船ニテノ事ナレバ、幾度モ酒ヲ溫メテ飲ムニテアルベシ、下戶ハ溫タカナル湯漬飯ヲ喰フベキユヘ、其ノ働キ上戶ニ劣ルベシトハ思ワレズ、假令下戶ノ烏賊ヲ釣リ取ルコト少シハ上戶ニ劣ルトモ、上戶ノ醉ヒ醒メナキ樣ニ飲ミ續クル酒ノ代銀ト、下戶ノ寒ヲ凌グ樣ニ湯漬飯クフ米ノ代銀ヲタククラベタラバ、酒買フ代銀必米買フ代銀ヨリハ多ク、上戶ノ烏賊ヲ釣ルコト少シハ下戶ニ勝サルトモ、其ノ勝サレル分利益トハ見ユマジ、暖氣ノ時暑氣ノ時ニ、淸酒ヲ飲ミ燒酒ヲ飲ミテ耕作ノ働キスレバ、息セハシク咽カワキ、水アル處マデ行キテ水ヲ飲ムコト度々ナルユヘ、耕作ノ働キハ下戶却テ上戶ニ勝サルト云フヲ聞キタルナリ、右ノ通リハ吾ガ聞キ違ヘ心得違ヘナルカト云ヘルニ、其ノ百姓答フルコトナシ、吾レ又云ヘルハ、酒法度ノナキ以前ハ、家內ノ衣服ノ用ノ乏シカラヌ者バカリ、濁酒燒酒ヲ造クリ淸酒ヲ買ヒ、家內ノ夜食ノ用ノ乏シキ者ハ、濁酒燒酒ヲモ造ラズ、淸酒ヲモ買ハザルカト云ヘルニ、其ノ百姓答フルコトナシ、其ノ百姓利口者ナラバ、吾レ右ノ如クニ云ヘルトテコマルコトアルマジ、詞ヲ立テ答フルニテアラン、昔物語リニ上戶ト下戶ト議論シテ、上

戸ハ上戸ヲ好シト云ヒ、下戸ハ下戸ヲ好シト云ヒ、雙方トモニ詞ヲ盡シケル上ニテ、下戸ノ方ヨリ其ノ方ノ子ヲ上戸ニシタキカ下戸ニシタキカト云ヒケレバ、上戸コマリテ答ヘ得ザリシト語ル、是ノ上戸モ利口者ニハアラザリシト見ヘタリ、利口者ナラバ下戸ノ方ヨリ右ノ如ク云ヘルトモコマル事アルマジ、詞ヲ立テ答フルニテアラン、何事ノ論ニモ利口者ノコマルコトナキニテ、利口者ノ國家ニ害アルコトヲ知ルベシ、吾レ等郡奉行タリシ時ニ、支配ニ申シ下知ヲ受ケテ、鄉村ノ酒ノ法度ヲ立テ、嘉義ノ用、祝事ノ用、祭禮ノ用、養生ノ用ニハ申シ出ヅルニ任カセ、清酒ニテモ燒酒ニテモ分量ヲ定メ、差紙ヲ下ダシテ府中ヨリ買ヒ下ダラシメ、濁酒燒酒ヲ鄉村ニテ造レルコトヲ禁ゼシナリ、後ノ郡奉行農事ノ下知ニ心ヲ用ヒラレ、穀物出來增シアル時ニ至ラバ、吾等ガ定メシ酒ノ法度ハ不相應ト見ユベキユヘ、其ノ時ニ相應ナル法度ヲ立テラルヽニテアルベシ、

是州ノ鄉村ニテ蠶ヲ飼フ者今ハ甚ダ希レナリ、五六十年前マデハ今ヨリモ多ク、其以前ハ家々ニ飼ヒタルト云フ、是州ノ山ハ處々ニ桑アルナレバ、民家ノ近邊ニ桑ヲ植ヘ、桑ノ葉ヲ取リ易キ様ニセバ、蠶ヲ飼フニ便リアラン、蠶ヲ飼フハ麥ヲ刈リ收メ、秋物ヲ蒔キ種フル時節ニ當リ、府中ニ事多ク、鄉村ニ役繁ク、麥ヲ刈リ收ムル時公役ニ出ヅルコトアリテハ、麥ヲ收ムルコトヲ婦女モ爲サズシテ叶ワヌ様ニナリ來リ、蠶ヲ飼フ事漸々ニ衰ヘケルナラン、今ニ蠶ヲ飼フ事ノ希レニ殘レル村ハ、府中ノ關所トノ往來筋ニ當ラズシテ、公役ノ少ナキ村ナリ、源親光ノ是州ノ司タリシ一任四箇年ノ納貢三萬足ト記

シ、小國ノ納貢滿足スト記ルセルナレバ、其時代ニハ郷村ノ婦女、總テ蠶ヲ飼ヒ織物シケルト見ヘタリ、質素儉約ノ風ノ行ナワレテ、府中ニ事少ナク、郷村ニ役希レニシテ、百姓ノ婦女ノ農事ヲ助クルコトナクテモ、農事ニ缺ク所ナカリシ故ナラン、親光ノ是州ノ司タリシ時マデハ、日本ニモ朝鮮ニモ未ダ木綿ヲ種ズ、麻ハ上品ニ種フルモノニテ、村々ニ上品少ナケレバ、麻布ノ織リ出シ多カルベシトハ思ハレズ、然レバ三萬足ノ織物多クハ蠶絲ニテ織レルナルベシ、四十年前府中ノ町人、他方ノ人ヲ雇ヒテ蠶ヲ飼ハセ、絲モ綿モ好ク出來タレドモ、人ヲ雇ヒテ飼ハセケルユヘ利ナカリシト云ヘリ、是州ノ果木ノ人ニ益アルハ、櫧ヲ第一トス、豆酘山ハ櫧子ヲ産スルコト最モ多ク、志多賀、小鹿ノ間ダナル山是レニ次グ、府中ノ銀石山其ノ次ナルベシ、是レ皆海邊ノ山ト海ニ近キ山ナリ、海ニ遠キ山ノ櫧ハ實ノルコト少ナク、佐護ノ奥山櫧木多ケレドモ、海邊ニアル湊山ノ少サキ山ニ産スル櫧子ホドニハ拾ヒ得ズト云フ、仁田三根ノ山モ海ニ遠ケレドモ、南ニ向キタル山ハ櫧ヨリ實ノル處モアリト云フ、賀志山ハ殊ニ櫧ニ宜シキ山ニテ海ニ近キユヘ、銀山ヲ開カレザル以前ハ、賀志山ノ櫧子ニテ、近傍ノ七八村ニ凶年ノ患ヒナカリシト云フ、然ルニ其ノ櫧木ヲ銀山ノ度タシ炭ノ用ニ伐リ倒シ、其ノ根ヨリ生ジタルハ、種子ノ落チテ生ジタルヨリ早ク長ジ、二十年ヲ過ギヌレバ實ノレドモ、實ノルベキ時ニ至レバ又伐リ倒シ、段々ニ是ノ如クニス、惜ムベキ事ナリ、櫧木ハ農具、武具、船具ノ用ニナルナレバ、右諸具ノ用ニハ櫧ノ實ナラヌ櫧木ヲ伐リ出サシメ、櫧ノ實ノレル櫧木ハ一本モ伐ラシメザルベキコトナ

リ、栗ハ何レノ處ニ生ジタルモ、實ノラヌハナシト云ヘリ、櫧ハ大木ニナレバ、一本ニテモ實ノルコ
ト甚ダ多ケレドモ、植テ三十年ヲ過ギザレバ實ノラズト云ヒ、栗ハ植テ三年ヲ過グレバ實ノル事皆人
ノ知ル處ナリ、昔ハ山中ニ野猪アリテ、栗ハ諸果ノ中ニテ野猪ノ殊ニ好ム物ナルユヘ、人ノ行カザル
時ニ落チタルハ野猪ノ食ト成リ、拾ヒ得ルコト甚ダ少ナキニ依リ、元ヨリ有リタル栗ハ材木ニ伐リ、新
ニ植フルコトハナク、里ノ近邊ニノミ植ヘタレドモ。作處ニ栗ノ葉ノ落チタルハ、其ノ地ヲ瘠セシム
ル事ヲ知リ、老木ニ成リテ伐リタル後ニハ、重子テ植ユル事ナク、栗木漸々ニ減リタルト云ヒ、野猪
ノナクナレル後ハ、山中ニ栗ヲ植フベキコトナレドモ、山中多クハ木庭地ニテ、木庭ヲ伐リ明クルコ
ト漸々早ク成リ、木庭ニナラザル惡地ニハ、栗ヲ植フベキ様モナシト云ヘリ、木庭ヲ伐リ掛ケノ山畠
ニスル時ニ至リテ、譬ヘバ百姓一人ノ受ケ持チノ木庭五石蒔ニテ、其ノ中五斗蒔キ山畠ニ成リタラバ、
山畠ニ成リタル坪々ノ近邊ノ地ニバカリ、雜木雜草ヲ生ズルマヽニ立テ置キ、柴ヲ取リ草ヲ刈リ、山
畠ニ敷キテ燒キヌル備ヘトシ、其ノ他ノ木庭地ニハ年々ニ栗ヲ植ヘ、是ノ分ハ何ノ年ニ植ヘタルト境
ヲ別ケ置キ、數年ノ後ニ實リ少ナクナレルハ、下枝ヲ伐リテ上枝ノ實ノレル様ニシ、其後ニ老木ト
ナリ實ノリ少ナキハ、伐リテ材木トシ、其ノ境ノ內ニ實ノリ少ナキト云フホドニナク、二年三年ハ立
テ置カントト思ヘル木アリトモ、新ニ植ユル栗ニ木垂レノ害ナキ爲メニ、其ノ境ノ內ナルハ、一同ニ伐
リテ新ニ栗ヲ植ヘ、段々ニ是ノ如クシテ、栗ヲ得ル事斷絕ナカラシメ、寒中ノ食ヲ過半ハ栗ニ當テ、其

ノ分ノ穀物ヲ喰ヒ延バシ、寒中ノ食ニ餘ルベシト見ヘタル分ハ、搗栗トシテ暖氣ノ時ニモ煮食シ。村村總テ是ノ如クスルニナラバ、果ノ人ヲ利スル中ニテ、栗ノ食ヲ助ルコト第一トナリ、櫧ノ利ハ却テ第二トナルベシ、郷村ニテ云ヘルハ、日向キノ山ノ栗ハ、實小サケレドモ味ワヒ厚ク、日陰ゲノ山ノ栗ハ、實大ヒナレドモ味ワヒ薄シト云ヘリ、然レバ日向キモ日陰ゲモ能ク實ノルト見ヘタリ、栗ヲ植ヘ立ツル法ト、栗ノ一ト盛カリ實ノリテ、木ニ虫ツキ中ヲ通シ痛ミテ、實ノラヌヲ能ク實ノラシムル法ト、栗ヲ收ムル法ト、搗栗ニスル法ト、共ニ農業全書ニ詳ラカナリ

是ノ州ノ郷村ノ濱ニテ鹽ヲ焼キ鹽竈運上ヲ納メケル事、舊文書ニ見ヘタリ。沙ノ無キ濱ニハ沙濱ノ沙ヲ漕キ取リ、敷キテ鹽ヲ焼キケルユヘカ、沙ナキ濱ニモ是ノ地ニテ昔鹽ヲ焼キタルト云ヘル處アリ、鹽竈運上ハ鹽ニテ納メタルナラン、府中ノ商買人他方ヨリ諸品ヲ買ヒ取リ、郷村ニモ賣リ下ダス通用ノ易ク成レルニ至リテハ、鹽ヲ焼ク手入リニテ他ノ働キヲ爲シ、其ノ利ニテ鹽ヲ買ヒタル方ニ益アルユヘ、鹽ヲ焼クコト止ミケルナラン、諸方ノ通路ノ成リ難キ時ニハ、利益ノ多少ヲ勘ガヘズ、州中ニ無クテ叶ワヌ物ハ、州中ニテ爲シ出ダシケルト見ヘタリ、弓ハ郷士ミヅカラ作リ、其ノ中ニテ賀志弓ト云ヒ傳ヘシハ、賀志村ノ人ノ作リケル弓、州中ニテスグレタルユヘナリ、紙スク村モ多クアリケレドモ、其ノ中ニテ何ニ村ノ紙ト云ヒ傳ヘシハ、品ノスグレタルユヘナリト云フ、是州ノ海ニ産スル物ノ郷村ニ益アルハ、鰯ヲ第一トス、干シテ田畠ヲ養ナフ益アルノミナラズ鹽漬ケニシテ蓄フレバ、

凶年ニ人ヲ救フ益モアリ、凶年ニ草根海菜ノ食スベキ物ヲ煮食スル、或ヒハ鹽漬ケノ鰯ヲ交ヘテ煮食シ、或ヒハ煮食スルモノト共ニ鰯ヲ食スレバ、鰯ノ油ニテ草根海菜ノ性ヤワラカニ成リ、脾胃ヲソコナフコトナシ、生ナル鰯生ナル諸魚ヲ草根海菜ニ交ヘテ煮食スルモ同ジ益アリト云フ、吾レ京都ニ在リシ時ニ人ノ語レルハ、昔紀州ニ大凶年アリテ、郷村ノ者多ク餓死セシニ、海村ノ者ハ一人モ餓死セザリシト語ル、後ニ思ヒ合スルニ、右ニ云ク道理ナラン、然レバ鰯ヲ引キ取リタル時ニ桶ヲ作リ添ヘ、鹽漬ケノ鰯ヲ多ク蓄ワヘ置クベキ事ナラン、農事ノ下知ト備蓄ノ下知ノ能ク行ナワレシ後ニテモ、大凶年二年三年モ續クコトアルマジキトハ云ヒガタキコトナル故、右ノ類ノ下知モナクテ叶ワヌコトナルベシ、郷村ニ凶荒ノ備ヘアルト、國家ニ變故ノ備ヘアルト、共ニ是レ同ジ道理ナリ、奥州ノ貞任宗任ヲ源賴義ノ退治セラレシハ十二年ニテ功成リ、奥州ノ武衡家衡ヲ源義家ノ退治セラレシハ十年ニテ功成リ、昔東國ニ是ノ如キノ事アリタルナレバ、是ノ後ニ西國ニ是ノ如キノ事ノアルマジキトハ云ヒガタシ、是ノ如キ時ニハ是ノ州ヨリ諸方ヘノ通路成リ難タカラン、鐵ハ農具武具ノ用ニ成リ、硫黄ハ火藥ノ用ニ成リ、是州ニ產セヌ物ノ中ニテ無クテ叶ハヌ物ナレバ、諸方ノ通路ノ成リ難タキ時ノ爲メニ、郷中用銀ニテ每年買ヒ取リ、是州ノ籾ヲ蓄フル郷藏ニ納レ置カルベキ事ナリ、邊土マデ靜謐ナル時ニテサヘ、國主郡主ヨリ備蓄ノ爲メニ、他方ノ商買米ヲ町人ニ買ワシメントシタマヘバ、其ノ樣子早ク知レテ買ヒ得ザルト云フナレバ、少シニテモ靜謐ナラザル勢ノ見ヘタル時ニハ、他方ノ米ヲ

買ヒ得ルコト決シテ成ルマジ、然レバ是州ノ樣ナル穀物ノ少ナキ地ハ、郷村ノ役人ノ農事ノ下知殊ニ精シカルベキ事ナリ、農事ノ下知精シク成リテ、穀物ノ出來今時ニ半倍セシ後ニ、諸方ノ通路ノ成リ難キ時アラバ、百姓ノ公役ヲ勤ムルコト一切ニ許シタマヒ、其ノ代リニ粈、麥、大豆、小豆ヲ相應ニ上納セシメ、今時ノ年貢ニ加ヘテ、府中ヨリ郷村ニ移ルマジキノ人數ノ食用ニ當テタマヒ、百姓ノ公役銀ヲ一切ニ許シタマヒ、其ノ代リニ農家ノ婦女ノ織物ト錦トヲ相應ニ上納セシメタマヒ、府中賤民ノ中ヨリ郷村ニ移ルベキ人數ハ郷村ニ移シタマヒ、或ヒハ漁戸ト成リ、或ヒハ鹽戸ト成リ、府中ニ往來スル公役ヲ百姓ノ勤メ來レルハ、漁戸ノ者ニ勤メシメ、百姓ハ專ラ農事ヲ勤メテ、爲シ來レル海ノ働キヲ止メ、漁戸ノ者ハ鰯ヲ引キ諸魚ヲ釣リ、食用ニ成レル海草ヲ取リ、作處ヲ養ナフ藻ヲ取リ、鹽戸ノ者ハ鹽ヲ燒キ、百姓ノ作出ダセル諸穀諸菜ニ易ヘ、農戸ト漁戸鹽戸ト相助ケ相養ヒ、諸方ノ通路ノ成リ易キ時ニ、多ク他方ニ賣リ出ダセル干鰯ヲ、悉ク是州ノ田畠ノ養ナヒトシ、麥ヲ刈リ取ル働キニモ、其ノ外ノ農事ヲ急ソグ働キニモ、漁戸鹽戸ノ者ヲ雇ワシメ、下知ノ精シクシテ人事ヲ能クセシメバ、諸方ノ通路ノ成リ難キ間ニ、生レ增シタル人數ノ衣食ノ用マデ足レルニテアルベシ、然レドモ府中ノ戸數甚ダ多カラバ、右ニ云フ下知モ行ワレ難キ所アランカ

是州郷村ノ田畠木庭ヲ寬文以前ハ百姓ノ物トシ、貧シキ者ノ地ヲ貧シカラヌ者ヨリ買ヒ取リテ富民ト成リ、貧民ハ富民ノ作リ子ト成リ居ケルニ、寬文十一年ニ至リテ、百姓ノ地ヲ悉ク召シ上ゲラレ、郷

士、郷足輕ノ知行、神社、佛寺ノ知行ノ外ヲ村地ト名ケ、田畠、木庭、上上、上中下ノ處ト、川端山附ノ處ヲ其ノ村ノ百姓ノ戸數ニ應ジテ、大抵同ジホドニ分ケ、百姓面々ニ受ケ持チ、郷士モ小知行ナルハ村地ヲ受ケ持テリ、是ノ法ハ良法ナレドモ、其後ノ弊ヘニ、不精ナル百姓ハ受ケ持チノ地ニ養ナヒヲ入ル、事少ナク、草ヲ拔ク事疎カニシテ、地ヲ惡シク作リ成シ、片タ下ガリナル地ヲ耕ヤスニ苦勞ヲ厭ヒ、高キ方ヨリ卑キ方ニ耕ヤシ、土ヲ掘リ下ゲテ地ヲ薄スク作リ成シ、地分ケ不同アリト云ヒ立テ地分ケヲ改タメ、上百姓ノ好ク作リ成シタル地ノ中ヲ下百姓ニ受ケ、下百姓ノ惡シク作リ成シタル地ノ中ヲ、上百姓ニ受ケシムル弊ヘモアリ、又地分ケノ改タマル事ヲ嫌ヘル上百姓モ、長子ニ百姓竈ヲ讓リ、次男ヲツレテ別ニ居レルニ至リテハ、其ノ次男ヲモ百姓竈ニ成シタク思ヒ、其ノ類ノ百姓ヨリ共ニ云ヒ立テ、地分ノ數ヲ改メ增シテ次男ヲモ百姓ト成シ、元ヨリ少ナキ受ケ持チヲ愈イヨ少ナクスル弊ヘアリ、二男三男等ノ中ニテ好キ者ハ、實子ナキ百姓ノ養子トナリ、又ハ名子トナリテ、村中ノ耕作取リ收メノ人力ノ足ラザル方ニ雇ワレ、村中ニ當レル公役ニモ雇ワレ、又府中ノ士ノ中ニテ使ワレニ成ルベキト思ヘル方ニ使ワレタラバ、地分ケヲ改タメ增サズシテ叶ワヌト云フコトハアルマジ、是レニ依リテ吾輩郡奉行タリシ時ニ、村々ヨリ今作人帳ヲ出サセ、百姓面々受ケ持チノ田畠、木庭ノ坪數、蒔日ヲ記ルシタルヲ郡奉行所ニ留メ置キ、私ニ地分ヲ改ムルコトヲ嚴シク禁ジ置キタリ、若シ以後ニ至リテ是ノ禁ノ弛マル時アラバ、郷村ノ害ナルベシ、作リ來レル作處ヲ長子ニ讓レル分ノ元ヨリ

少ナキニ、次男ヲ百姓ニセントテ愈イヨ少ナクスルト、作リ來レル作處ニ力ヲ盡サズシテ、作處ノ多カランコトヲ求メ、漫リニ木庭ヲ明ケ過グスト、共ニ是レ惑ヒナリ、吾レ近キ比ロ始メテ農業全書ヲ見ルコトヲ得テ、是ノ書ノ中ニ其ノ詞ヲ引キ用ヒタリ、是州ノ村々ノ下知人ヨリ、農業全書ノ旨ヲ百姓ニ云ヒ敎ヘラルヽトモ、上百姓ハ格別、惣體ノ並ミ百姓ハ其ノ精微ナル所ヲ聞キ得ルコトアタワズシテ、其レハ是州ノ地ニテ成ルベキコトニアラズ、是州ノ百姓ノ爲シ得ベキコトニアラズト云ヒ、精微ナル所ヲ厭ヘル心ヨリ、切近ナル所マデ取リ用ヒザランコトヲ恐ルヽナリ、吾レ老年病身ニテ死ヲ俟ツバカリナレドモ、若シ是ノ後ニ數月ノ命ヲ保モツコトヲ得ルナラバ、農業全書ノ中ノ切近ナル敎ヘノミヲ並ミ百姓ノ爲メニ書キ拔キ、村々ノ下知人ノ並ミ百姓ニ農事ヲ敎ヘラルヽ一助ト爲スベシ

是州ヨリ朝鮮ニ往來スル關所二ツアリ、其ノ一ツハ三月ヨリ八月マデノ關所ナリ、同ジク一ツハ九月ヨリ二月マデノ關所ナリ、其ノ關所ノアリケル村ノ百姓ハ、關所ヨリ朝鮮和館ニ飛船ノ往來スル時ノ水夫ヲ勤ム、二村ノ中一村ハ人數少ナキユヘ、隣村ヨリ其ノ役ヲ助クルナリ、朝鮮人參ハ無上ノ補藥ニテ、近世日本ノ人ノ用ヒ來レルコト昔ヨリハ甚ダ多ク、其ノ直ヒ甚ダ高シ、是ノ故ヘニ彼ノ飛船ノ往來ニ水夫トナレル者ノ中ニ、往ク時ニ禁ヲ背キテ竊カニ白銀ヲ持チ渡リ、還ル時ニ禁ヲ背キテ竊カニ人參ヲ買ヒ來ルモアリ、其ノ事ヲ關所ニテ見出ダサルレバ、其ノ身ハ鄕村ノ士ニ賜ワリテ奴トナリ、妻子ハ府中ノ士ニ賜ワリテ奴婢ト成ル、關所ノ檢分嚴密ナレドモ、法ヲ犯ス術ノ甚ダ巧ミナル

ハ、見出ダサレザルモアリト云フ、其ノ二村ハ農業ヲ勤ムルコト、並ミ村ニスグレ、穀物ノ出來多キト云フ十餘村ノ內ナリ、孟子ノ語ニ「若民則無二恒產一因無二恒心一」ト曰タマヘリ、是レハ大名ニ百姓ノ恒ノ產アル樣ニ國ヲ治メタマヘト勸メ申シタマヘルナリ、利ヲ好ミ義ヲ忘ル、百姓ハ、恒ノ產ナクシテ恒ノ心ナキノミナラズ、恒ノ產アリテモ恒ノ心ヲ失フコトアリ、臨時ニ財ヲ得ルコトノ見ヘヌ地ニ居テハ恒ノ心アルガ如クナレドモ、臨時ニ財ヲ得ルコトノ見ユル地ニテハ、恒ノ產アリテモ恒ノ心ヲ失ナフコトアルナリ、右二村ノ中一村ハ、禁ヲ犯ス者甚ダ希レナリト云フナレバ、風俗ノ勝レル所アルト見ヘタリ、百姓ノ農業ニテ衣食ヲ足シ、新ニ難儀ノ見ヘ來レルニテモナキニ、財ヲ貪ボリテ禁ヲ犯スハ、奢ヲ好ムヨリ起リシコトナラン、奢ヲ好ミ禁ヲ犯シテ財ヲ得、ソノ財ヲ奢ニツカイステ、財ノ減リ奢ノ遂グマジキト思フヨリ段々ト禁ヲ犯シ、初メハ幸ヒニシテ免カレシモ、終ヒニハ罪ニ陷イルコトアリト云ヒ、又一世幸ヒニシテ免カレタル者アリテモ、其ノ者ノ幸ヒノ如クアルベキアルマジキハ知レザルニ、其ノ者ノミ日當ニシテ禁ヲ犯シ奢ヲ爲シ、禁ヲ犯ス度數ノ少ナキ內ニ罪ニ陷イルモアリト云フ、耕作ノ利ニテ衣食ノ用ヲ足シタル餘分ヲ金銀ト爲スコトヲ求ムル百姓ハ、奢ヲ好マヌモアラン、家職ノ利ニテ衣食ノ用ヲ足シタル餘分ヲ金銀ト爲スコトヲ求ムル町人ハ、奢ヲ好マヌモアラン、禁ヲ犯シ法ヲ背キテ金銀ヲ得ンコトヲ求ムル者ハ、總テ是レ奢ヲ爲サントスル心ナルベシ、吾レ京都ニ在リシ時ニ人ノ語レルハ、昔北國ノ內ノ惡地ヲ領シタマヘル郡主ト、丹波ノ龜山ノ城主ト、公義ノ命ニテ所替ヘア

リシニ、北國ノ郡主ノ家中ハ物成リノ多キ地ニ住センコトヲ悦ビテ丹波ニ移リ、龜山ノ城主ノ家中ハ物成ノ少ナキ地ニ住センコトヲ嘆キテ北國ニ移リ、二三年過ギタレバ、北國ニ移リタマヘル大名ノ家中ハ、丹波ニ在リシ時ヨリユタカニ成リ、丹波ニ移リタマヘル大名ノ家中ハ、北國ニ在リシ時ヨリセワシク成リタルト語ル、是ノ物語リノ意味ハ大名モ能ク勘ガヘタマフベキコトニテ、士モ町人モ百姓モ能ク勘ガフベキコトナリ、物成ノ少ナキ地ヨリ、物成リノ多キ地ニ移ルコトヲ悦ブハ人情ノ常ナレドモ、北國ノ郡主ノ家中ノ丹波ニ移ルコトヲ悦ベル心ニハ、奢ニ入ル機ヲ含ミケルナラン、物成リノ多キ地ヨリ、物成ノ少ナキ地ニ移ルコトヲ嘆クモ人情ノ常ナレドモ、龜山ノ城主ノ家中ノ北國ニ移ルコトヲ嘆キタル心ニハ、儉ニ入ル機ヲ含ミケルナラン、悦ベルハセワシクナリ、嘆キタルハユタカニ成レルニテ知ルベキナリ、國ニテモ家ニテモ奢ノ病アルハ、入リ方ノ増シケル度ゴトニ奢ノ病モ増シ、入リ方ノ少シ増シタル時ノ病ハ治シ安ク、入リ方ノ多ク増シタル時ノ病ハ治シ難キト見ヘタリ、奢ハ是州ノ小百姓ナドノ爲シ得ベキコトニアラズト云フ説モアレドモ、其レハ精シカラヌ説ナリ、粳米ノ飯クフヲ奢トイフベキ樣ハナケレドモ、粳米ニ雜穀ヲ交ヘテクフベキ者ノ、雜穀ヲマジヘズシテクフハ、粳米ノ飯ヲクフモ奢ナリ、雜穀ノ飯クフヲ奢トイフベキ樣ハナケレドモ、雜穀ニ諸菜ヲマジヘテクフベキ者ノ、諸菜ヲマジヘズシテクフハ、雜穀ノ飯クフモ奢ナリ、奢トイフ道理ヲ勘ガフルニハ、何ニ事モ是ノ意ヲ推シ廣メテ勘ガフベキコトナラン

土穀談　終

土穀談附錄

享保甲辰閏四月或人ノ某ニ問ヒ、某ガ其ノ人ニ答ヘシコト左ノ如シ

問フ、去年ノ夏ヨリ今年ノ春ニ至ルマデ、郡支配ノ命ニテ郡奉行所ヨリ郷村ヘ農政ノ下知アリ、其ノ中ニテ郷村ノ農人ノ殊ニ信ゼヌハ、木庭下知ナリト聞ク、其ノ信ゼヌ故ヲ尋ヌルニ、畠作ノ麥ハ大抵年貢ト種子用ト、麥取ノ間ダノ食用ニ成ルマデニテ、秋物ノ出來ルマデノ食用ニハ成ラズ、百姓ノ食用ハ木庭作ノ利ニテ足シケルニ、木庭ノ中ノ段畠ニ成ルベキ處ノミ作處トシ、段畠ニ成ルマジキ嶮岨ナル木庭ニハ栗ヲ植ヘ、栗ニヨロシカラヌ地ニハ櫧ヲ種ヘ、栗ニモ櫧ニモ宜シカラヌ地ニハ、松ニテモ雜木ニテモ、能ク育ツベキ木ヲ育テヨトノ下知ナリ、昔栗ノ能ク育チタルト云フ所ニ、或ヒハ若立テヲ育テ、或ヒハ種子ヲ種フレバ三四年目ヨリ實ノレドモ、其ノ實ノリハ少シニテモ、八九年モ十

年モ過ギザレバ、食用ノ足シニ成ルト云フホドノ實ノリハナシ、其ノ上ヘ栗ノ實ノリ甚ダ少ナキ年モアリ、其ノ實ノリ多クテモ、虫付キアリテ食用ニ成ル實ノ少ナキ年モアリ、昔栗ノ能ク育チタルト云ヒ傳ヘシ處ニ栗ヲ育テヽモ、云ヒ傳ヘニ違ヒ栗ノ育タヌ所モアリ、育チテモ實ノラヌ處モアリ、是ノ如キ考ガヘモナク、栗ノ利ヲ穀物ノ利ノ樣ニ積リ立テ、下知セラルヽハ當ラヌコトナリト云、其ノ方ハ以前郡奉行ヲ勤メタルナレバ、此ノ事ニ勘辨アルベシ、右ノ說ヲ如何ガ思ヘルカ、曰ク、畠麥ハ年貢種子ト麥取ノ間ノ食用ニ成リ、秋物ノ出來ルマデノ食用ハ木庭麥ナリト云フ說ハ、是レ以前ヨリ鄕村ニテ云フコトナレドモ、木庭麥ハ畠麥ヨリ出來ノ多クシテ、此ノ如ク云フニアラズ、木庭作ヲ好ム所ヨリ、木庭ニ利ノ多キ樣ニ云ヒ成サントテ、木庭年貢ノ麥モ、木庭ノ種子麥モ畠麥ノ中ヨリ當テ、木庭麥ノ食用ニ成ル利益ハ、畠麥ヨリモ勝レル樣ニ云ヒ立ツルナリ、木庭年貢ハ輕ルケレドモ、木庭ヲ廣ク明クルニテ種子ハ多ク入リ、種子ニ應ゼズ出來ハ甚ハダ少ナシ、栗ヲ育ツルニ、伐リ株ノ稚立ヲ育ツルハ手入リ殊ニ少ナク、種子ヲ種ヘテ育ツルモ、郡奉行所ノ下知ノ覺書ノ如クナレバ、手入レノ多キニアラズ、木庭作ノ手入レノ多キコトハ皆人ノ知ル處ナリ、栗ノ利ノ少ナキ年ノ事ノミ云ヒテ、木庭作ノ利ノ少ナキ年ノ事ヲ云ハヌハ、今度ノ栗植ヘ立テ下知ノ益アル所ヲ未ダ知ラヌ故ナリ、栗ハ長ジテ實ノルニ至リテハ、手入リナクシテ只ダ實ヲ拾フバカリナリ、栗ノ實ノリ少ナキ年モ、虫付キノ多キ年モ、手入リノ損ハナシ、木庭作損毛ノ年ハ、其ノ年ノ木庭ノ手入レ損トナル、田作畠作ニモ損毛ノ年

アレドモ、木庭作ハ常年ノ出來ハナハダ少ナク、出來ノ好キ年ノ希レナルコト皆人ノ知ル所ナリ、栗ノ出來ノ俵數ヲ郷村ノ中ヨリ云ヒ出デシヲ、積リ立テラルヽヲ當ラヌ事ト云フナラバ、穀物ノ出來ノ並シヲ積ルヲ當ラヌ事ナルベシ、栗ニ宜シキ地ト云フハ、栗ノ能ク育ツ處ヲ云フ、栗ニ宜シカラヌ地ト云フハ、栗ノ育タヌ處ト、育チテモ實ノラヌ處ヲ云フ、育ツベキト育ツマジキハ、早ク知ルヽモノナルユヘ、育ツマジキト見ヘタラバ、他ノ木ノ其處ニ育ツベキヲ育テ、栗ノ能ク育ツ處ナラバ、長ジテ實ノラズトモ育テ置キ、材ニ成ルホドニ育チタル時ニ伐リテ材トスベキコトナリ、栗ハ良材ナレバ、實ノラヌヲ育テタリトモ、他ノ木ヲ育テタルニ勝ルベシ

問フ、郷村ノ役人ノ中ニ栗植立ノ利ヲ云フコトノ精シキハ誰人ナルカ、曰ク、癸卯正月ニ佐須郷奉役ヨリ吾レガ問ヒニ答ヘシ覺書ニ、某ガ居屋敷ノ後ロノ山ニ自然生ノ栗四十本ホドアリケルヨリ、近年栗子ヲ得ル利ヲ勘ガフルニ、木庭作ノ利ニ勝レルト覺ヘタリ、栗子ハ熟セザル時ニ強キ風ニ遇ヒテモ落チカネ、穀物ト他ノ果ノ風損アル年モ損スクナク、海邊ノ潮風ノ強ク當タル處ト、高山ノ巓トヲ除キテハ栗ノ育タヌ所ナク、近年猪荒レ止ミタレバ奥山遠處ニ育テタルモ、實ヲ取ルニ障ハリナク、育ツルニ手入リ少ク、材木ノ用ニ立ツコトモ早キト知レケルユヘ、是ヲ育ツルコトヲ勘ガヘ覺ヘ、去ル辛丑ノ年ヨリ某ガ知行ノ山ニ、年々ニ植ヘ立テ、段々ト利益ヲ勘ガヘ、郷中ニ植ヘ立テサセント思ヒ寄リケレドモ某ガ一人ノ勘ガヘニテ郷中ニ新タニ勸メ、請持ノ木庭ニ植ヘ立テサスルコトヲ憚カリ、村

村ノ下知役ニ右ノ事ヲ語レルマデナリ、壬寅ノ冬十二月郡奉行所ニテ土穀談ヲ始メテ讀ミ、木庭作伐掛ノ法ト、栗植立ノ事ノ條目ヲ勘ガヘ、利ヲ分明ニ知レルニ依リ早速ニ村廻リシテ土穀談ノ旨ト、某ガ近年栗ノ利ヲ得ル事ト、植立ノ爲シ様トヲ一々ニ百姓ニ語リ知ラセ、村々ニモ希レニハ自然生ノ栗ノ利ヲ得ル者アルニ依リ、彼レ是レヲ聞キテ百姓得心シ、今年ノ秋ハ種子ヲ求メ、來春ヨリ法ヲ立テ、段段ト植立テシムルニ爲シ置キタリト記シ、栗植立ノ次第ヲモ詳ラカニ記セリ、鄉村ノ人ノ栗ノ利ヲ云ヘル說ヲ聞キケル中ニテ、最トモ精シキハ右ノ說ナリ、吾レ郡奉行ヲ勤メシ中ニ、長雨ノ繁クシテ、麥ノ穗腐レ甚シキ年ノ捨リ檢分ニ仁位鄉ニ下ダリ、仁位村ノ東泉寺ノ前ノ川端ノ畠ノ麥出來ヲ見ルニ、十分ノ出來ナリ、吾レ怪シミテ仁位鄉奉役ニ其ノ故ヲ問フ、奉役ノ返答ニ、此ノ畠ハ地ノ底マデモ小石オホク、麥ノ根ニ濕氣ノ留マルコトナシ、長雨ノ繁クシテ穗ニ當タル濕氣ノ重キハ、何レノ畠モ同ジ事ナレドモ、此ノ畠ハ根ニ濕氣ノ留ラヌニテ、出來ノ好キコト是ノ如シ、此ノ畠ノ麥出來ノ好キ年ハ、何ツニテモ麥作ノ大損毛ナリト云ヘリ、其後鄉村ニテ聞キ合ワスルニ、嶮岨ナル木庭ハ作物ノ根ニ雨濕ノ留ラザルユヘ、常年ニハ濕氣ノ足ラヌニテ出來スクナク、長雨ノ繁キ年ニ出來オホシト云ヘリ、木庭ノ地位ノ勝レテ好キ鄉村ノ木庭ニテモ、木庭ノ中ノ段畠ニ成ルベキ處ヲ段畠ト爲シ、段畠ニ成ラヌホドノ嶮岨ナル處ニ、栗ニテモ櫧ニテモ、其外ノ木ニテモ、土ニ宜シクシテ能ク育ツ木ヲ育ツルナラバ木庭作ノ利益ニ勝サラン、鄉村ノ農人ノ栗植立ノ下知ヲ謗ルハ、木庭作ノ出來ノ好キ年ノ希レニア

ルヲ日當テニシテ常年ノ出來ノ甚ハダ少ナキヲ忘レ居ケル故ナリ、博奕スル者ノ勝ツコトノ希レニアルヲ日當テニシ、負クル度數ノ多キヲ忘レテ博奕ヲ好ムガ如シ

問フ、農人ノ云ヘルハ、段畠ニ成ルベキ木庭ヲ段畠ニシ、他國ニテ爲セル伐掛ノ事ニ效ヘトノ下知ナレドモ、他國ノ沃土ニ用フルコトヲ是州ノ瘠土ニハ用ヒ難カラン、數年ノ間ダ荒シ置キタル木庭ヲ伐リテ燒キ草ニスルサヘ、灰スクナク養ナヒノ力ウスシ、然ルニ段畠ノ手寄リニ立テ置キタルニ、三年立ノ木柴ヲ伐リ寄セテ、燒キタル灰バカリニテハ養ナヒノ力ハナハダ薄ク、作物ノ出來ハナハダ少ナカラン、段畠ハ片下リナル岸ヲ切リ下ゲ、切岸ノ處ニテハ土ヲ三四尺モ四五尺モ掘ルベキユヘ、底ノ若土ヲ掘リ出シテ、地位ハナハダ惡シク成リ草モ生ゼズ、何ニヲ蒔キテモ出來ズ、岸ヲ切リ下ゲタル手入リ損ト成ルベシト云ヘリ、是ノ說ヲ如何ガ思ヘルカ、曰ク、他方ノ沃土ニ用ユルコトヲ是州ノ瘠土ニ用ヒ難キト云フハ、以前ヨリ云ヒ來タレルコトニテ、是ノ州ノ農事ノ說ノ誤マリノ根本ハ此ノ說ナリ、是州ノ農人ノ心ニ、諸州ハ總テ沃土ノミニテ、是州ハ總テ瘠土ノミナリト思ヘルト見ヘタリ、諸州ハ總テ沃土ノミナラバ、上國、中國、下國ノ位ヲ定メタマフコトハアルマジ、上國ハ總テ沃土ノミナラバ、上田、中田、下田ノ位ヲ定メラルヽコトアルマジ、是州ノ君ノ爺ヲ領シタマヘル基肄養父ノ地ハ、上國ノ肥前ノ內ナレドモ、上田ノミニテナク、中田モ下田モアリ、是州ハ下國ナレドモ、下田ノミニテナク、上田モ中田モアリ、是州ノ上田モ、作人ノ好キハ基肄養父ノ上田ノ出來ニ減ラズ、只

ダ田畠ノ廣クシテ上田ノ多ク、下田ノ少ナキヲ上國トシ、田畠ノ狹クシテ上田ノ少ナク、下田ノ多キヲ下國トスルナリ、諸州ノ農人ハ他領ノ農事マデ尋テ求メ、其ノ爲シ來レルコトアラバ、是レニ效ヘルト聞コヘケルニ、是州ノ農人ハ希レニ宜シキ農事ヲ爲セル人アリテモ、隣家サヘ是レニ效ワズ、是レ木庭作ニテ農事ノ風俗アラク成リ、農事ノ風俗ノ粗ク成レルニテ、自力ヲ高ブリテ人ノ敎ヘヲ受クルコトヲ嫌ヘル故ナリ、段畠ハ他方ニアルノミニテナク、是州ノ府中ノ山ニモ段畠アリ、苦土ノ事ハ農業全書ニモ見ヘタリ、段畠ヲ爲セルニ、譬ヘバ切岸四尺ナラバ、最初ニ其ノ段畠ニ爲ス所ノ片端、一間ノ上ハ土ノ苦土ニテナキ分ヲ掘リ取リ、其ノ續キノ處ニ移シ置キ、岸ヲ四尺ニ切リ下ゲ、苦土ニテ段ノ下地ヲ拵ラヘ、其ノ上ヘニ彼ノ移シ置キタル上ハ土ヲ敷キ、其ノ續キヲ段々ト其ノ如クスルナラバ、苦土ノ害ハアルマジ、其ノ如クシタル段畠ノ上手ニテモ、中程ニテモ、大雨ノ時ハ水筋アル處ヲ溝トナシ置カバ、雨水ノ段畠ノ上ハ土ヲ洗ヒ流スコトナク、年々ニ木柴ヲ燒ク灰ト、作物ノ根莖葉ノ腐チタルニテ、段畠ノ土ノ增シニ成リ、地位漸々ニ好クナルベシ、木庭作ヲ止メタル手間ノ增シニテ、草糞、燒糞ヲ多ク蓄ヘ、草ヲ取リ土ヲ寄スル度數モ增シ、藻ヲ取リ鰯ヲ引キ得ルニ、手遠キ村モ、干鰮ヲ買ヒ得ル代銀ヲ持タザル貧民モ、草糞、燒糞ニテ養ナヒノ不足ナカラン、木庭ノ明ケ前ヲ段々ト早メ、明クベキ程ニ木ノ長ゼヌヲ伐リテ燒キ糞トスル故、灰スクナク養ナヒノ力ウスク、作物ノ出來漸々ニ減リ、伐リ明ケノ廣キニテ、手間ハ漸々ニ增シケル誤マリハ思ヒ付ケズ、段畠ノ手寄リノ二三年立チノ木

柴ヲ運ビ寄セテ、燒キタル灰ニテハ養ナヒノ力ノ薄カランド云ヘリ、段畠ノ上手左右廿間ヅツヲ燒草ノ伐リ寄セ處ニ當テ、木柴ヲ立テ置キテモ燒草不足ナラバ、廿間ヲ卅間ニスルモ、四十間ニスルモ、何ノ障ワリアルベキヤ、海邊ニテ草茅バカリ生ジ居ケル木庭ハ、元ヨリ草茅ヲ燒キタル灰ヲ養ナヒトシ、干藻ヲモ養ナヒトスルナレバ、段畠ト爲セル時ノ養ナヒモ元ノ如ク、木庭作ヲ止メシ手間ノ増シニテ、草糞・燒糞ヲ入ルヽハ新タナル益ナルベシ

問フ、去年ノ木庭下知ニ海邊ヨリ五町ノ處マデハ、木庭作ヲ成シ來タリノ如クセヨトノ下知アリシハ、如何ナル故ナランカ、曰ク、其ノ下知ハ農人ノ好ム木庭作ヲ一度ニ總テ改メヨト下知アリテハ、甚ハダシキニ成ルベキヲ量ラレケル故ナラン、何レノ木庭モ嶮岨ナル處ハ、種子ヲ多ク蒔キテモ生ズルコト少ナク、大雨ニハ上ワ土ヲモ洗ヒ流シ、海邊ノ上木庭モ嶮岨ナルハ作得ハナハダ少ナキト聞ク、上木庭ナラバ、横幅三四尺ノ段ニシテナリトモ、段畠トナスニ益アラン、横幅三四尺ノ段畠ニモ成ラヌホドノ嶮岨ニテ、屋鋪葺用、苫用ノ茅ヲ育ツル處ニテモナク、薪用ノ雜木ヲ育ツル處ニテモナクバ、雜木草茅ヲ切リ除ケ、土ヲ少シヅツ掘リ浮カシ置キ、松ノ種子ノ吹キ來リテ松ノ生ズル樣ニシ、其ノ邊ニ種子松ノナキ處ニハ、段々ト小松ヲ植ヘ立ツルナラバ、材木ト爲ス時ニ伐リ下シ、舟ニ積ムニ手易ク、海ニ遠キ處ノ材木ヲ取ルヨリハ、利益ノ勝レル所アルベシ

問フ、鄕村ノ人ノ云ヘルハ、今度郡奉行所ノ下知ニ、木庭ノ中ノ段畠ト爲ルベキ處ハ段畠ト爲シ、段

畠ト爲ルマジキホドノ嶮岨ナル木庭ニハ、其ノ土ニ宜シキ木ヲ育テヨトアルヲ受ケ用フルナラバ、段畠ニ成ル木庭ノ少ナカラヌ村ハ障ハリナクトモ、段畠ニ成ル木庭ノ少ナキ村ト、段畠ニ成ル木庭ノ少シモナキ村ハ、木庭年貢ヲ納ムルコト成リ難カラント云ヘリ、此ノ事ハ如何ガ思ヘルカ、曰ク、木庭作ヲ止メテモ畠作ノ出來ノ增スコトナクバ、其ノ云フ所ノ如クナレドモ、木庭作ヲ止メタル手間ノ增シニテ草糞燒糞ヲ多ク蓄ワヘ、草ヲ取リ土ヲ寄スル度數モ增シ、養ナヒニ不足ナク、手入レニ不足ナラバ、必畠作ノ出來增シアルベシ、鄕村ノ人ノ云ヘルヲ聞クニ、上百姓ノ一升蒔キヨリ取ル穀物ヲ、下百姓ハ二升蒔三升蒔ヨリモ取リ兼ヌルト云ヘリ、上百姓ト云フハ其ノ身ノ働キ人並ニ勝サリ、下百姓ト云フハ其身ノ働キ人並ニ劣リタルニテアルベケレドモ、大抵ハ家內ニ作處ノ働キヲスル年比ノ人ノ多クシテ、農事ノ人力ノ足リ、作物ノ出來ノ勝サレルニテ、在リ付キノ好キヲ上百姓トシ、家內ニ作處ノ働キヲスル年比ノ人少ナクシテ、農事ノ人力ノ足ラズ、作處ノ出來ノ劣レルニテ、在リ附キノ好カラヌヲ下百姓トスルト云フナレバ、手入レノ多ク、作得ノ少ナキ木庭作ヲ止ムルハ、働ク人ノ足ラヌ家ニ、働ク人ノ增シタルト同ジ道理ナリ、畠物成ト木庭物成ノ多少ノ分數ハ、村ニ依リ違ヒアリテモ、八鄕ノ木庭物成高ハ畠物成高ノ三分ノ一ニモ及バズ、木庭ノ手入リノ止ミタルニテ、畠作ノ手入レ養ナヒ精シク成リテ出來增シアラバ、木庭成物ヲ畠出來ノ中ヨリ納ムルニ、何ニノ障ワリアルベキヤ、以前ヨリ農人請持チノ木庭ノ中ニ竹木ヲ育テ置クハ、其ノ處ノ木庭ニ耕作セズシテモ、其ノ

處ノ物成ヲ麥ニテ納メ、郷村ノ茶園物成ヲ麥ニテ納ムルト同ジ道理ナリ、假令段畠トナルベキ木庭ノ少シモナキ村ノ希レニアリテモ、木庭ノ床トテ、木庭山ノ麓ノ畠ニ成ルベキ地ノ少シモナキ村ハアルマジ、假令木庭ノ床ノ少シモナキ村ニテモ、木庭ニハ全體ソノ地ニ宜シキ木ヲ育テ、畠ノ狹クテモ畠作ノ手入レ養ナヒヲ專ハラニスルナラバ、以前畠木庭兩樣ノ耕作シタル時ヨリハ作物ノ取高オホク、木庭物成ヲ木庭作セズシテ納テモ、農家ノ食用ノ穀物ハ其ノ以前ニ勝リ、木庭ニ育タル木ノ長ズルニテ、其ノ村ノ作處ノ外ノ利益ノ增シニ成ルベシ、風當テニテ櫨松ヲ育ツル處モ、風隱レニテ栗竹ヲ育ツル處モ、最初ハ段々ト木庭ニ明ケ、其ノ上ニテ育ツル物ヲ育ツベキナレバ、木庭作ノ止ムモ九年十年ヲ經テ漸々ニ止ミ、栗竹ヲ育テタル處ハ木庭作ノ止ム時節ニハ、栗竹ノ利ヲ得ルニテアルベシ、栗竹櫨松等ヲ育ツル爲ニ木庭ヲ明クルハ、育ツル物ヲ其ノ翌年ニ植ヘ立ツルコトノ成ルホドニ伐リ明ケ、雜木ヲ立テ置ク處ハ伐リ明ケザルベキユヘ、木庭下知ノ行ワルヽニ成リテ、八九年十年ノ間ダ木庭ヲ明クルハ、以前ノ三分ノ一カ四分一ナラン

問フ、去年郡支配ノ命ニテ、郡奉行所ヨリ八郷本役ニ麥取下知、木庭下知、畠作下知、備蓄下知、川筋下知、水利下知ノ覺書ヲ渡サレタルト聞ク、是ノ如クナルハ下知ノ混雜ニハ成ルマジキカ、曰ク、麥取リ下知アリテモ木庭下知ナクバ、爲シ來レル通リニ木庭ヲ廣ク明ケ、麥取リノ時節ニモ、壯年ノ者ハ秋物ヲ蒔クベキ木庭ヲ伐リ、麥取リハ老人、少年、婦女ニ任セ置キ、麥取リ延引シテ梅雨ニ逢ヒ、諸

作ノ蒔付ケ種付ケ時ニ後クルヽコト止ムマジ、諸作下知アリテモ木庭下知ナクバ、木庭ニ手入リ多クシテ諸作ノ粗ク、出來ノ劣レルコト止ムマジ、木庭下知、麥取リ下知諸作ノ行ナワレ、穀物ノ出來シアリテモ儲蓄下知ナクバ常年ノ穀物ノ出來増シヲ其ノ年其ノ年ニ用盡シテ、凶年ノ益ニハ成ルマジ、然レバ右ノ四ツノ下知ハ相關カリタル事ナリ、川筋下知、水利下知ハ農隙ノ普請ノ事ナレバ、右ノ四ツニ混雜スベキ樣ナシ、去年覺書一通ヲ渡サレシ後ニ、若シ時勢ノ障ハリ出來セバ、五通ノ覺書ヲ渡サレ難キコトモアルベシ、若シ是後ニ時勢ノ障ハリ出來シ、今度ノ下知ノ行ナワレズトモ、六通ノ覺書ハ八郷奉役代々ノ引渡シニ成ルベキユヘ、奉役ノ中ニ覺書ノ旨ヲ實ニ得心スル人アラバ、其ノ郷ニ益アラン、六通ノ覺書ヲ八郷ニ渡サレ、是非利害ノ批判ヲ聞カルヽ中ニ、少シニテモ道理ノ勝レル說アリテ、其ノ所ヲ改メラルヽナラバ、郡奉行所ノ下知ニ其ノ分ノ益アラン、郷村ノ役人ノ俊秀ナルモ、大ヒニ秀デタルハ世々ニアルモノニテハナケレドモ、後ノ郡支配ノ衆議ヲ聞キ集メラルヽニ、今ノ郡支配去年ノ聞キ集メホドニナキコトモアルベシ、今度ノ下知ノ若シ行ナワレズトモ、以後ニ至リ下知ノ行ナワレヌトモ、以後ニ至リ下知ノ行ナワルヽニ障ワリナキ時ノ郡支配ノ農政ヲ起サルヽニ、今度ノ下知ヲ考ヘラレ、今ノ郡支配ノ農政ノ端ヲ開キ置カレタルニ成ラン、然レバ去年六通ノ覺書ヲ渡サレシハ、郡支配深慮ノアル所ナルベシ

右ノ條々ハ或ル人ノ問ニ答ヘシ辭ニテ、木庭ノ事ト栗山ノ事ハ、曾テ撰セシ土穀談ニ記シ置クユヘ、

此度辭ヲ土穀ノ附錄トナスナリ

土穀談附錄 終

土穀談附說

享保甲辰五月或ル人ノ某ニ問ヒ、某ガ其ノ人ニ答ヘシコト左ノ如シ

問フ、此度郡支配ヨリ農政ヲ發セラレテモ、郷役人ノ信ズルハ希レニシテ、信ゼヌハ多キト聞ク、是ノ如クナル時ノ郡支配ノ處置ハ如何ナルヲ宜シトセンカ、曰ク、此度郡支配ヨリ農政ヲ發セラル丶ニハ、郷役人ノ思ヒ寄リヲ尋ネラレ、郷役人ノ申シ出ズル事ノ中ニテ、益アルベキト見ユル事ト、益ナクテモ害アルマジキト見ユル事ハ、郡支配ノ云ヒ出ダサレシ所ヲ改タメラレ、郷役人ノ申シ出ヅル所ヲ用ヒラレテモ、其ノ心ニ滿足セズ、農政ノ主意ノ所マデ弊事ヲ用ヒタキト思ヒ當ラヌコトヲ申シ出デ、郡支配ヨリ不審ヲ蒙ムリ答フルコトノナラザル上ヘニテ、道理ニ屈シタルトハ云ハズ、內證ニテ州府

ノ人ニ對シテハ、以前ヨリノ弊事ヲ郡支配ノ下知ニ勝サレル樣ニ云ヘルモアリト聞ク、然レドモ郡支配ノ下知ヲ不同意ニ思ヘル所ヨリ、實ナキ辭ヲ作リ立テ、郡支配ノ下知ノ主意ヲ云ヒ掠メントスル書付ヲ、郡奉行所ニ差シ出セル鄕役人トハ違ヒタル所アルナレバ、役ヲ除ケラルベキ樣ナシ、是ノ如クナル時ニ、譬ヘバ郡支配ノ下知同意ト見ユル鄕役人ノ鄕ハ二鄕ニテ、不同意ト見ユル鄕役人ノ鄕ハ六鄕ナラバ、二鄕ノ役人ニバカリ、此度ノ下知ノ通リニ取リ行ナヘト命ゼラレ、六鄕ノ役人ニハ農事ヲ爲シ來リノ通リデ爲サセヨ、此度ノ下知ヲ用フベカラズ、是レ又鄕支配ノ下知ナリト命ゼラレ、六鄕ノ鄕役人ノ中ヨリ、若シ郡支配ノ農事ノ下知ヲ、其ノ鄕中ニ用ヒサセタキト申シ出ヅル鄕役人アリトモ、容易ニハ許サレズ、不同意ヲ改メ同意シタル所ノ樣子ヲ精シク考ヘラレ、實意ヲ以テ二度モ三度モ申シ出デシ上ヘニテ、許サルベキコトナラン

問フ、郡支配ノ農事ノ下知ヲ同意ト見ユル鄕役人ノ鄕ニハ、其ノ鄕中ノ村々一同ニ、此度ノ下知ノ通リニ取リ行ナワセヨト命ゼラルベキコトナルカ、曰ク、其ノ鄕ノ村々ノ中ニテ、郡支配ノ農事ノ下知同意ト見ユル村役人ノ村バカリ、此度ノ下知ノ通リニ取リ行ナワセ、其ノ外ノ村ハ農事ヲ爲シ來リノ通リニ爲サセヨト命ゼラルベキコトナラン、此事ハ農政問答ニ記ス所ニ異ナレドモ、時勢ニ應ズル道ハ右ニ六所ノ如クナルヲ勝サレルトスベシ、栗、孝行芋植立下知覺書ヲ肝煎役ノ者ニ渡サシメラルルモ、此度ノ農事ノ下知ヲ同意ニ思ヘル村役人ノ、村ノ肝煎役ニバカリ渡サシメラルベキコトナラン

問フ、郡支配ノ農政ノ下知ヲ受ケ用ユル村々ハ、木庭ノ地分ケアルベシ、其地分ケハ如何カト知アルベキコトナルカ、曰ク、最初ノ地分ケノ後ノ度々ノ地分ケハ、其ノ村々ノ役人ト百姓ノ相談ニテ分ケタルナリ、郡支配ノ農政ノ下知ヲ受ケ用ユル村々ノ木庭ノ地分ケモ、村役人ト百姓ノ相談ニテ分ケ直セト命ゼラルベキコトナリ、海邊ノ段畠ニ成ルベキ木庭ト、海邊ノ嶮岨ナル木庭ト、山奥ノ段畠ニ成ルベキ木庭ト、山奥ノ嶮岨ナル木庭ト、四様ヲ村中ノ作人ノ數ホドニ分クルニテアルベシ

問フ、郷村ノ百姓ノ心アル者ハ、一同ニ夫使帳、出銀帳ノ相續スマジキカト云ヒテ、相續ヲ願ヒ思ヘルト聞ク、如何カアラバ相續スベキヤ、曰ク、夫使帳、出銀帳ノ上ヘニ、尋子ニ及ブベキ事ノ見ヘタルヲ尋子シメラレズバ、百姓ニ益ナキ様ニ成リ行キ、帳ヲ付クル手間ト、筆紙墨ノ代銀ヲ出ストノ兩様、百姓ノ損ト見ユルニ成リテ、夫使帳、出銀帳ヲ出ダスコトヲ許シタマヘト、百姓中ヨリ申シ出ヅルニテアルベシ、然レドモ只今帳面ノ中ノ尋子ニ及ブベキ事ヲ尋子シメラレバ、障ツル處アルベシ、只今郡支配ヨリ郡奉行ニ命ゼラレ、郡奉行ヨリ奉役ヲ以テ百姓中ヘノ云ヒ渡シニ、夫使帳、出銀帳ノ上ヘニ尋子ニ及ブベキ事ノ見ヘタルハ、書キ抜カセ置キ、癸卯、甲辰、乙巳三ケ年分ノ書キ抜キノ事ヲ、丙午ノ春ニ至リテ尋ヌベキ村々ノ役人ニ尋ネシメ、其ノ以後モ右ノ格ニスベシ、百姓中其ノ旨ヲ心得ヨト云ヒ渡サシメ置カルヽナラバ、尋子ニ及ブベキ事ハ年々ニ減リ、最初ノ四年目ニモ尋子ニ及ブコト少ナク、其後ノ四年目ニハ尋子ニ及ブコト彌イヨ少ナク、尋子ニ及ブコトノ希ニアルモ輕キ事ナルベシ、

是レ夫使帳、出銀帳ノ相續スル道ナランカ、穀物ニテモ栗、孝行芋ニテモ、村々ノ取高ノ帳ヲ郡奉行所ニ出ダサシメラルヽハ、宜シカラヌ事ナリ、取高ヲ聞カルヽ上ヘニテ、如何ナル新規ノ上納ノ事ヲ命ジラルベキカト思ヘル疑心ヲ生ジ、實ノ取高ヲ記サズ、拵ラヘテ記スモノナルユヘ、取高ノ帳ハ出サシメラレズ、別ノ筋ヨリ取高多少ノ大畧ヲ聞カルヽニテ濟ムベキコトナリ、村役人ヨリ百姓ニ取高ヲ尋ヌル隙入リト、帳ヲ書キ立ツル隙入リト、筆紙墨ノ入目ト、村役人ヨリ郷役人ニ帳ヲ出ダシ郷役人ヨリ郡奉行所ニ帳ヲ出ダス夫使ト、皆是レ無益ノ費ヘナルベシ

問フ、三根郷ノ老農ノ云ヘルハ、去年ヨリ郡支配ノ下知シタマヘル次第ヲ承ツルニ、郷村ノ爲メニ宜シキ事ニテ、木庭ノ下知ヲ殊ニ宜シト思フナリ、木庭ニ爲シ來リタル處ヲ一切ニ作處ニセザレト命ジタマフニテハナク、段畠ニ成ルベキ所ハ段畠ニセヨト命ジタマヘルナレバ、木庭地ノ中ニモ耕作スル所アルナリ、假令木庭地ニ耕作セズシテ、其ノ地ニ宜シキ木ヲ育テ置キテモ、木庭作ノ利ニ劣ルコトナク、木庭作ヲ止メタル手間ノ增シヲ以テ、畠作ノ手入レ養ヲ精シクスルナラバ、畠作ノ出來增シ木庭作ヲ爲セル時ノ畠作ノ出來ニ倍シ、是レ別シテ利益ナラン、其ノ儀ニ付キ某ガ思ヘルニ、郡支配ヨリ新ニ久田村ノ下知役ヲ立テタマフハ、此度ノ下知ノ事ヲ久田村ニテ試ロミサセタマヒテ、下知ノ旨ヲ落チ着キ得ヌ村々ノ百姓ニ證據ヲ見セタマフ爲メナルベシ、誠ニ深キ爲サレ樣ナリト云ヘリ、八郷村々ノ農人ノ中ニ、右ノ老農ノ心得ノ通リニ心得タル者ノ希レニハ有ルベキニ、府中ニテ郷村ノ者ノ云ヘ

ルトテ語レル說ニ、右ノ類ノ說ノ希レニモ聞ヘザルハ、如何ナル故ナランカ、曰ク、當ラヌ事ヲ云フ人ノ甚ダ多キ時ハ、當レル事ヲ思ヒ寄リテモ、多キ人ノ心ニ違フコトヲ憚リテ容易ニハ云ハズ、希レニ云ヘルモ、竊カニ云ヘルユヘ、多キ人ノ憚リナク云ヘル說ノミ、府中鄉村ニ流布スルナリ、此度ノ農政ノ批判ニハ限ルベカラズ、畠作ノ精シク成リテハ、畠作バカリノ利益、以前ノ畠木庭ノ兩作シタル時ニ勝サラン、農作ノ精シクナレル利益ハ證據ヲ示シ、村々ノ木庭山ヲ廿區ニ分ケ、木ノ立チ居ケル山ハ、木ノ殊ニ長ジタル一區ノ栗欟ノ外ハ、初年ニ殘リナク伐リ、其ノ跡ハ稚立ヲ育テ、伐リタル木ノ薪ニナルベキハ薪トナシ、材木ニ成ルベキハ材木ト爲シ、板ニ成リ屋板ニ成ルベキハ、板ト爲シ屋板ト爲シ、年々ニ段々ト其ノ如クシ、茅山ハ屋禰葺用、苫用ニ足レルホド茅ヲ立テ置キ、其ノ餘ハ燒キテ松ノ生ズル樣ニシ、其ノ邊ニ種子松ノナキ處ナラバ、松ノ種子ノ散ルベキ時節ニ松栗ヲ取リ、俵ニ入レテ運ビ、燒キタル處ノ高キヨリ卑キ方ニ轉バシ、種子ノ落ツル樣ニシ、其ノ如クシテ松ノ生ゼヌ處ハ、小松ヲ植立テ育ツルナラバ、木庭作ノ利ニ劣ルコトアルマジ、久田村ノ下知役ノ此事ニ眼ヲ着ケシハ、奇特ナリト謂フベシ

問フ、上鄉ノ鄉役人ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、栗ノ實ノリ少ナキ年ハ、上納ノ分サヘ出ダシカヌルニ、木庭ニ栗ヲ植ヘヨトノ下知ハ當ラヌコトナリト云ヘル由語レリ、此事ハ如何カ思ヘルカ、曰ク、栗ノ實ノリ甚ダ少ナキ年ハ、商買人ノ栗ヲ買フ直段高直ナレドモ、上納ハ栗ニ限ラズ、何物モ定マリ

ノ直段ニテ上納スルユヘ、其年ノ出來ノ少ナキ物ハ、少シノ上納ノ分ヲモ出ダシカヌルコト皆人ノ知ル處ナリ、栗ハ少年ノ者ノ好ム物ナルユヘ、出來ノ少キ年ニテモ、初メヨリ常年ノ如ク燒キテ食シ、少年ノ者ノ好ミニテ其ノ母ノ煮テ食セシムルコトモ、始メヨリ常年ノ如クシ、出來ノ少キ年トテ上納ノ分ホド除ケ置キ、其餘分ヲ食スルニテハナク、出來ノ少キヲ云ヒ立テニシテ、常年ヨリハ內端ニ出サントスル所ヨリ、村役人ノ催促ニ及ブハ是レ又知レタル事ナルニ、栗ノ實ノリ少キ年ハ農家ニテ食スルコトナク、出來タル分ヲ總テ上納ニ當ツルニモ、上納ノ分ホド有リカヌル樣ニ云ヒ成シ、中分ノ出來ノ年ト、出來ノ多キ年ノ事ハ云ワズ、出來ノ少キ年ノ事ヲ云ヒ立ツルハ、定メテ故アルコトナルベシ

問フ、川普請ノ事ヲ百姓ノ惡シク云フニ、早ク止メラレヌハ如何ナル故カト怪シム人アリ、川普請ノ事ハ如何カ思ヘルカ、曰ク、川普請ニ疎略ナケレバ、損ジ居ケル處モ、土沙ノ留マルニテ作處ノ增シニ成リ、川普請ニ怠タリアルカ、川普請ノ爲シ樣ノ好カラザレバ、常年ニモ漸々ト作處ノ損ズルハ歷然ノ事ナリ、然ルニ川普請ヲ止メラレヌトテ怪シムハ是非ノ考ガヘナク、只ダ百姓ノ惡シキト云フ事ヲ一偏ニ惡シキト思ヒ、又ハ川普請ノ爲シ樣ノ好カラス處アルヲ見聞キテ、益アル處ノ多キヲモ一切ニ益ナキト思ヘル故ナラン、知者ノ一失ト謂フ事アルナレバ、功者ニモ希レニハ失アルベシ、百姓ノ愚カナルハ地面ノ破損ヲ只ダ天災トノミ心得テ憂ヘズ、川普請ノ夫使ヲ嫌フナリ、川普請ヲ命ゼラレ

ザルヲ是トシ、川普請ヲ命ゼラル丶ヲ非トスル州郡ガ何ヅクニアルベキヤ、心ヲ平ラカニシテ考ガフベキコトナリ

問フ、或ル人ノ云ヘルハ、郡支配ヨリ木庭下知アリテモ、其ノ下知ノ行ナワレテ木庭作ヲ止ムルコトハ、三十年ヲ過ギズシテハ成ルマジ、三十年ヲ過ギタラバ、只今ノ中年ノ農人ノ木庭作ヲ好ム人數ハ、老ヒ死スルニテアルベキユヘ、其ノ時ナラデハ木庭下知ノ行ナワル丶コトアルマジト云ヘリ、此ノ說ヲ如何カ思ヘルカ、曰ク、只今ノ少年ノ者ノ中年ニ成ルマデ、只今ノ中年ノ者ノ老年ニ成レルニ附キ從ガヒ居テ、木庭作ヲ好ム風俗ニ馴レケルナラバ、只今ノ少年ノ者ノ中年ニ成ンルモ、木庭作ヲ好ムベシ、三十年ヲ過ギシ後ニハ、木庭作ヲ知ラザル中年ノ農人ノ新タニ出來ベキ樣ナシ、右ノ說ハ漫リニ云ヒ出ダセル說ナリ、去年郡奉行ヨリ八郷ノ奉役ニ渡リシ六通ノ覺書ノ下知ハ、總テ是州ノ農人ノ嫌フ事ナレドモ、郡支配ノ下知ノ止ムコトナクバ、數年ノ後ニハ下知ノ行ナワレテ、農人ノ好ム事ト成ルベキニ、種々ノ說ノ起コリテ郡支配ノ端ヲ開カレシ主意ヲ貶譏スルハ、土地人民ニ利アラザル舊弊ノ何ツマデモ存續シテ、土地人民ニ利アルベキ農政ノ何ツマデモ興起セザルヲ喜コブガ如シ、是州ハ如何ナル州カ、心ヲ平カニシテ考ガフベキコトナリ

右ノ條々ノ辭ハ土穀談附錄ノ餘意ナルユヘ、是レヲ記シテ土穀談附說ト名付クルナリ

土穀談附說終

老農類語

老農類語序

享保壬寅正月十二日、郡支配ヨリ書ヲ以テ某ニ示サルヽハ、余レ君命ヲ蒙リテ郡支配ヲ兼帯スルコト二十六年ナレドモ、郷村ニ功ナク百姓ニ益ナク、其ノ上近來ハ病身ト成リテ兼帯ノ職ヲ勤ムルニ堪ヘズ、今年ノ夏君主ノ武城ヨリ州府ニ歸リタマヘルヲ待チテ、郡支配ヲ辭スベシト思ヘルニ依リ、舊臘郡奉行ヲシテ八郷ノ奉役ニ告ゲシメ、奉役ヨリ其ノ郷ノ中ニテ農事ニ鍛錬セシ老農五三人ヲ撰ビ、其ノ鍛錬ノ道ヲ説キ述ルヲ聞キ、精シク書シテ今春年禮上府ノ時ニ持チ來レリ、願クハ是レヲ披閲シテ言辭ノ繁多ナル所ヲ省キ、意旨ノ混雜セル所ヲ分チ、八郷ノ老農ノ鍛錬セシ道ヲ明白ニ開發シテ、郷村ノ農民ノ鍛錬ナキ徒ニ村下知人ヨリ云ヒ聞カスルニ便リアラシメヨ、農業全書ニ農事ヲ記スコト精詳ナレドモ、是州ノ農民ニ專ハラ他方ノ農事ヲ效ヘトノミ勸ムルニハ、信用セザル所モアルベキナレバ、是州ノ老農ノ爲シ得タル事ヲ效ヘト勸ムルニ如カザルベシ、是レ余ガ多年郡支配ヲ勤メテ、今年職ヲ辭スル時ニ郡中ニ道スベキ寸志ナリト示サレ、紀聞八卷ヲ送リ來セリ、某老衰シテ病身ト成リ居ケレドモ、其ノ示サルヽ所ニテ其ノ心ヲ用ヒラルヽ所ヲ知リ、辭セズシテ示シニ從ガヒ、紀聞ヲ人ニ讀マシメ是レヲ聞キ、編錄ノ文句ヲ云ヒ聞カセテ草案ヲ書セシメ、月ヲ經テ書ヲ成シ、其書ヲ名ヅケテ老農類語ト謂フ、因テ惟ミルニ、天ノ人ヲ生ジタマフニ、初メヨリ智愚賢不肖ヲ差別シタマフコトハナケレドモ、既

ニ形氣アル時ハ智愚賢不肖ノ差別ナキコトアタワズ、是皆自然ノ道理ナリ、民間ニテ農事ニ鍛練セシハ農中ノ賢智ナル者ナリ、其ノ農事ニ鍛練セザルハ農中ノ愚不肖ナル者ナリ、鄉村ニ農政ノ行ワルヽ時ハ、農事ニ愚不肖ナルモ、面々ノ分ニ應ジテ農事ニ賢智ナル者ノ爲ス所ニ效ヒ、鄉村ニ農政ノ行ワレザル時ハ、農事ニ愚不肖ナルモ、面々ノ心ニ任セテ農事ニ賢智ナル者ノ爲ス所ニ效ワズ、是亦自然ノ情勢ナリ、下愚ハ移ラザルノ道理ニテ、農政ノ行ワルヽ時モ、老農ニ效ワザル者アルベケレドモ、其レハ希レナルコトナラン、老農ニ效ヘル農人ノ多キ時ト、老農ニ效ヘル農人ノ少キ時トハ、穀菜ヲ生ズルニ甚キ多少アリテ、生民ノ損益ニ繋ガルコト殊ニ大ヒナルベシ、凡鄉村々ノ下知人ノ心ニ此ノ道理ヲ辨ヘ、農ヲ勸ムルニ心ヲ用ヒ、此ノ旨ヲ段々ト新シキ村下知人ニ傳ヘ、郡支配ノ示セル心ヲ無窮ニ遺サバ、只ダ郡支配ノ心ニ背カザルニ成レルノミナラズ、村下知人ノ職分ヲ守レルニ成ラン、村村ノ下知人其ノ職分ヲ守リテ農ヲ勸メント欲スルトモ、州府ヨリ農民ヲ使ヒタマフコト繁多ナラバ、農ヲ勸ムルコトノ成リ難キ所アラン、彼ノ農事ニ鍛練セシ老農ト謂ヘルモ、其ノ戶ニ生長ノ子弟アリテ、州府ヨリ農民ヲ使ヒタマフ時ハ、其ノ子弟ノ中ヨリ其ノ戶ニ當タレル役ヲ勤メシムル者ナリト見ヘケルテレバ、成長ノ子弟ナクテ其ノ戶ニ當レル役ノ繁多ナルハ、老農ニ效フコトモ成リ難タカルベシ、古ノ聖賢ノ民ヲ使フニ時ヲ以テシ、農ノ時ニ違ワズト敎ヘタマヘル旨ニ、郡支配ノ心ヲ用ヒラルヽトハ聞ヘヌレドモ、州府ヨリ農民ヲ使ヒタマヘル事ハ其事目前ニ見ヘ來タリ、鄉村ニテ農ノ時ヲ失ヘル害

ハ其害目前ニ見ヘ來ラズ、見ヘ來レル事ハ事ノ小キナルモ省キ難ク、見ヘ來ラザル害ハ害ノ大ヒナルモ辨ヘ難ク、畢竟ハ州府ニ節儉ヲ尊ビタマフコトノ深キ時ニハ、鄕村ニ役スクナク、州府ニ節儉ヲ尊ビタマフコトノ深カラザル時ニハ、鄕村ニ役オホキト見ヘタリ、郡支配ノ元ヨリ心ヲ用ヒラルヽ上ヘニモ愈イヨ深ク心ヲ用ヒラレ、交代ノ日ニハ新シキ郡支配ニ其ノ事ヲ切實ニ告ゲラレンコト、是レ某ガ此ノ書ヲ撰スルニ依リテ、八鄕村々ノ下知人ノ爲メニ郡支配ニ願ヒ申ス所ナリ、村々ノ下知人ハ農民ノ役ノ減ルコトアランコトヲ願ヒ、減ルコトアルノ時ヲ待タズシテ先ヅ自カラ志ヲ立テ、鄕村ノ中ニテ府中ト關所ノ往來ノ路筋ニ當タリ、送リノ役ノ繁キ村々ニテモ、元ヨリ農業ヲ勵ム百姓ハ、諸穀ノ作得却テ送リノ繁カラザル村ノ百姓ニ勝サリ、府中ト關所ノ往來ノ道筋ニ當タラズ、送リノ役ノ繁カラザル村々ニテモ農業ヲ勵マザル百姓ハ、諸穀ノ作得却テ送リノ繁キ村ノ百姓ニ劣トリ、作得ノ多少ハ殊ニ農業ヲ勵ムト勵マザルトニ在ルコトヲ思ヒ辨ヘ、躬自カラ務メテ村中ノ百姓ヲ引立テ、村中ノ百姓ヲシテ農業ヲ勵マシメンコト、是レ某ガ此ノ書ヲ撰スルニ依リテ、郡支配ノ爲メニ八鄕村々ノ下知人ニ望ミ請フ所ナリ、村下知人ハ自カラ其ノ職分ヲ盡スコトヲ求メテ、郡支配、郡奉行、奉役ヲ責メズ、奉役ハ自カラ其ノ職分ヲ盡スコトヲ求メテ、郡支配、郡奉行、村下知人ヲ責メズ、郡奉行ハ自カラ其ノ職分ヲ盡スコトヲ求メテ、郡支配、奉役、村下知人ヲ責メズ、郡支配ハ自カラ其ノ職分ヲ盡スコトヲ求メラレ、郡奉行、奉役、村下知人ヲ責メラルヽコトナクバ、八鄕ノ村々ニ農政必行ハルベシ、

郡支配其ノ氏ハ大浦、其ノ名ハ倫之、俗字ヲ忠左衞門ト稱ス、同職ノ郡支配平田氏ハ今武城ニ在リ、郡支配ハ郡事ヲ管領スルノ職名ナリ

享保壬寅三月朔旦　陶山存謹序

老農類語凡例

一　此ノ書ニ八鄕奉役ノ出ダセシ紀問ニ見ヘタル老農ノ說ヲ記スハ、田畠木庭ノ種ヘ物ノ內ニテ民用ニ切ナル物十二種ヲ篇目ニ立テ、其ノ次ニ田畠作得ノ事、木庭作得ノ事、木庭ヲ伐ル事、木庭ヲ燒ク事、木庭水防ノ事、木庭風防ノ事ヲ篇目ニ立テ、老農ノ說ヲ分チ記シ。奉役ノ說ヲモ加ヘ記スナリ

一　八鄕奉役ノ撰ベル老農ハ、豐崎鄕ニテ、舟志村市右衞門、大增村善右衞門、濱久須村又右衞門、西泊村兵左衞門、鰐浦村市兵衞、佐護鄕ニテ、仁田內村六郞右衞門、井口村源右衞門、佐須奈村長左衞門、伊奈鄕ニテ、下櫪瀧村利左衞門、田濱村惣三郞、鹿見村兵右衞門、伊奈村八郞右衞門、三根鄕ニテ、三根村利右衞門、佐賀村平兵衞、木坂村助右衞門、仁位鄕ニテ、田村吉衞門、佐保村三吉、

與良郷ニテ、雞知村才兵衛、蘆浦村源右衛門、賀谷村茂左衛門、大山村儀兵衛、佐須郷ニテ、小茂田村清右衛門、阿連村平助、久根村市左衛門、豆酘郷ニテ、豆酘村喜右衛門、内院村傳右衛門、瀬村善右衛門ナリ、伊奈郷久原村ノ六郎右衛門ハ後ニ加ヘシ者ナリ、右ノ老農ノ說ヲ考フルニ、淺深ノ次第段々ニ見ヘタリ、得ルコト深クシテ說クコト精シカラヌモアラン、說クコト精シクシテ記スコト詳カナラヌモアラン、得ルコト深ク、說クコト精シク、記スコト詳カナルハ、八郷村々ノ下知人ノ農事ヲ村中ニ敎フルニ益アリテ、郡支配ノ志願ヲ補佐スルト謂フベシ

一　某曾テ土穀談ヲ撰セシ後ニ、聞キ及ビ思ヒ出デケル事ヲ書キ述ベ、續土穀談ト名ヅケ置キタリ、今春此ノ書ヲ編スルニ今按ノ文段ヲ附シ、其ノ文段ノ中ニ彼ノ續土穀談ノ語ヲ殘ラズ書キ入レケルナリ、某元ヨリ愚カニシテ事理ヲ明ラメ得ザルナレバ、農事ノ道理ヲ述ブルモ定メテ當ラザルコトナラント思ヘドモ、愚者ノ一得ヲ奉役、村下知人ノ取ルコトアランコトヲ望ミ、若シ一得ノ取ルベキモ無クバ、是州ニ生レテ是州ノ農事ヲ重ンジケル心バカリヲ奉役、村下知人ノ取リ用ヒンコトヲ望ムナリ

一　八郷奉役ノ出ダセシ紀聞ハ平假名ヲ交ヘテ記セリ、平假名ハ一行ノ字數ヲ定ムルコト成リ難ク、段段ト傳ヘ寫スニ至リテ、落字衍字ノ有リ無シヲ見出スコト易カラズ、是レニ由リテ此ノ書ハ片假名ヲ交ヘ、一枚二十行一行二十字ニ定ムルナリ

一　此書ノ草案既ニ成レル時ニ、奉役ヲシテ此書ノ書述ノ旨ノ奉役ノ書述ニ違ヘルカ違ハザルカヲ考

ヘシメテ、違ヘル所アルヲ覺書ニシ、郡奉行所ニ出ダサシメ、郡奉行所ヨリ其ノ覺書ヲ某ニ送リ來タリ、違ヘル所ヲ書キ改メシ後ニ、定木ヲ八鄉ニ頒タレンコトヲ郡支配ニ願ヒ申シ置キケルナリ、郡奉行ハ内野市郎左衞門、中江藤介、佐役渡邊十郎左衞門、奉役ハ豐崎鄉大浦貞右衞門、武本九左衞門、佐護鄉佐護茂左衞門、佐護金右衞門、伊奈鄉豐田長右衞門、小野十右衞門、三根鄉松村彌三兵衞、平田彌次右衞門、仁位鄉山上半兵衞、梅野作右衞門、與良鄉俵孫之介、大山治部之介、佐須鄉齋藤四郎次、一宮藤馬、豆酘鄉山下清右衞門ナリ

一　今度八鄉老農ノ說ヲ奉役ノ記セシヲ見ルニ、老農ノ鍛錬ノ精シクシテ深キコト、曾テ思ヘルニ甚ダ勝サレリ、然ルニ木庭ヲ廣ク明クルヲ利益アリトスル誤リヲ悟レルハ、佐須鄉阿連村ノ老農一人ニテ、麥ノ實ノリ八九分十分ノ時ニ刈リ掛カルヲ利益アリトスル誤リヲ悟レルハ、與良鄉雞知村ノ老農一人ナルト見ヘタリ、其ノ外ニモアルベケレドモ、今度奉役ノ撰ベル老農ノ中ニハ右ノ二人ノミナリ、木庭作ノ事ニ阿連村ノ老農ノ說ヲ用ヒ、麥取收ノ事ニ雞知村ノ老農ノ說ヲ用ヒテ村々ニ下知アラバ、惣體ノ農人ノ心ニ甚ダ嫌ヒテ下知ヲ譏レルニテアラン、然レドモ道理ノ勝レルヲ同意ノ者ノ少ナキトテ用ヒズ、道理ノ劣レルヲ同意ノ者ノ多キトテ用フルハ宜シキコトニアラジ、郡奉行奉役ノ勸辨アルベキコトナリ

老農類語篇目

稻　麥　大豆
小豆　粟　蕎麥
芋　孝行芋　大根
蕪菁　麻　木綿
田畠作得ノ事　木庭作得ノ事　木庭ヲ伐ル事
木庭ヲ燒ク事　木庭水防ノ事　木庭風防ノ事

老農類語上卷

稻

豐崎鄕舟志村ノ市右衛門、大瀨村ノ善右衛門、濱久須村ノ又右衛門云ヘルハ、田百步ニ種子糀三升當テニ蒔キ、苗代地ノ養ニハシノ子葉タヅノ木葉ヲ埋ミテ好シ、干鰯ヲ粉ニシテ用フルモ宜シ、蒔キ

時分ハ春ノ土用ノ中過ニ蒔キ、田ノ耕ハ二月末比一番ガヤシ、三月末比二番ガヤシ、四月末比三番ガヤシスルナリ、梅雨ノ初比中田下田ヲ種ヘ、梅雨ノ中比上田ヲ種ヘ、水ヲ包ミ置キ苗直リシ、四五日過ギ水ヲ落シ、干シテ後ニ又水ヲ入レ、土用ノ中比ニ草ヲ取リ、七月ノ中比ニ草ヲ取ルナリ、養ハ百歩ニ上田ハ馬糞三駄ホド、中田下田ハ四五駄、干鰯ナラバ上田ハ二斗桶ニテ二盃ホド、中田下田ハ三盃ホド、居糞ナラバ上田ハ三荷ホド、中田下田ハ四荷ホド入レ、干鰯ハ何ツニテモ粉ニシテ用フルナリ、養ヲ入ルヽハ苗ヲ種フル時分ニ入レ、苗ニ蟲ノ付タルト見フル時モ、干鰯ノ粉ヲ振リ掛クレバ蟲除クナリ、田ノ畛ハ幅二尺ホドニ仕置キテ、二番ガヤシノ時ニ畛ノ草ヲケヅリ田ノ中ニ入レ、新土ヲ上ヘ下タヨリ塗リ、水ノ通ラザル樣ニ仕置キ、二番ガヤシヲシテ水ヲ包ミ置クナリ、刈シホハ九月ノ節ノ初比宜シト云ヘリ

佐護郷仁田内村ノ六郎右衛門、井口村ノ源右衛門、佐須奈村ノ長左衛門云ヘルハ、上上田上田ノ耕ハ、春ノ土用中過ギ比ヨリ苗ヲ種フル前マデ鍬ニテ三遍カヤシ、三遍目ノ時ニ田ノ上ヘ高下ナキ樣ニ並ラシ、半夏生ノ前後ニ種付ルナリ、養ハ馬糞ニテモ柴草ニテモ、二番ガヤシノ時ニ入置キ腐ラカシ、冷氣田ハ廻リニ畛ヲ高ク掛ケ廻ワシ、冷氣ノ水ノ田ニ入ラザル樣ニ仕置クナリ、苗代地ハ少シ餘計ニコシラヘ、養ハ過ギザル樣ニ入レ、種子ハ薄ク蒔キテ宜シ、厚ク蒔キタルハ蠅氣シテ痛ムナリ、苗ヲロシノ時節ハ、五十日目ニ半夏生ニ當タル積リニシテヲロスナリ、苗代地ノコシラヘハ春ノ土用ノ中過ニ打

カヤシ、草木ノ芽立チ次第ニ早ク柴草ヲ蹈込置キ、種子ヲ蒔ク前ニ鍬ニテ並ラシ、種子ヲ蒔キテ水ヲ宜キホドニ入レ、三日目ニ當タル日ヨリ水ノタヽヘザル樣ニ水ヲ落トシ、芽ノ青ム時マデ毎日水加減ヲ宜キホドニスルナリ、苗ヲ種フルハ種子ヲ蒔タル日ヨリ四十六七日目ホドニ種フルナリ、苗ヲ種フル時ノ水ハ苗ニ四五分ホド水ノカヽル樣ニシ、苗ヲ種ヘ終リテハ苗ニ六七分ホド水ノカヽル樣ニスルナリ、水少ナケレバ苗ニ風アタリテ、腰ヲ吹キ弱メ生育遲シ、草ヲ取ル時節ハ苗ヲ種ヘテ二十日目ホドニ取リ、田ヲアセリ水ヲ濁ラシ、其後ハ草ノ生ズルヲ見ハカラヒ、夏ノ土用ノ過グル比マデ三度草ヲ取リ、實ノル時分ニハ稗ノ生ジタルヲ取リ捨ルナリ、刈リ取ル時節ハ秋ノ土用過ギ十日目ホドヨリ刈リ取ルナリ、實ノル時分ヨリ水ヲ干シテ好シ、中田下田ノ耕シハ牛ニテ三遍犂カヤシ、三遍目ニ杷ニテカキ塊ナキ樣ニシ、苗ヲ種フル時ノ水ノ仕掛ケハ上上田上田ニ同ジ、苗ノ科數上上田一歩ニ八十五科九十科ホド、下田一歩ニ百十科百廿科ホド種ヘ、上田中田ノ科數モ上上田下田ノ科數ニテ加減シ種フルナリ、種子ヲ水ニ漬ルハ、半夏生ヨリ五十六七日前ニ種子籾ヲ桶樽ナドニ入レ水ニ漬ケ置キ、蒔ベキ日ヨリ六七日前ニ引キ揚ゲ、サフケテボニ入レ置キテ水氣ヲ去リ、土間ニ莚ヲ敷テ其ノ上ニ置キ、俵薦青草ニテ覆ヒ溫タメ、二三分ホド芽ノ出ヅルヲ見テ蒔クナリ、種子籾ムラモヘノ時ハ手ニテマゼカヤシ、又初ノ如クシテ溫ムルナリ、種子籾ヲ俵カマギニ入レテシカト結ビ、池川ナドニ漬ケ置キタルモ好シ、桶樽ニ漬ケタルハ度々水ヲ替フルナリ、佐護郷ノ田ハ惣體天水田ナルユヘ、損毛ノ年

多シ、中田下田ノ水ノ掛ケ引キ自由ナラズ、上上田上田モ雨ノ繁キ年ハ水ヲ落スコト自由ナラズト云ヘリ

伊奈郷下樫瀧村ノ利左衞門、田濱村ノ惣三郎云ヘルハ、田ノ養ヒ上上田上田ハ柴草ニテ養ヒ、中田下田ハ居糞、馬糞、藻搗、和布ニテ養フナリ、陰田ハ少シ早ク種フルナリ、種子ヲ蒔クハ三月ノ節ノ末八十八夜ヲ待テ蒔キ、上上田ハ百歩ニ三升、上田ハ三升二合、中田ハ三升五合、下田ハ四升ニ當ツルナリ、耕シハ春ニ成リテ數遍カヤシ、苗ヲ種フルハ半夏生ノ五七日前ヨリ種ヘ、刈リ取ルコトハ秋ノ土用ノ中比ニ刈リ取ルト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衞門云ヘルハ、冷氣田ハ溝ヲ掘リ冷氣ノ水ヲ落スナリ、水ヲ落スコトノ成リ難キハ、其溝ニ冷氣ノ水ヲ受ケ置ク樣ニスルナリ、養ハ灰糞ニテ宜シト云ヘリ

仁位郷田村。彥右衞門、佐保村ノ三吉云ヘルハ、田ニ苗ヲ種ヘテ後ニ三四遍程水ヲカキ濁ラシ、草ヲ數遍拔キテ養ニ入ル迄ニテ別ニ養ヲ入ルヽコトナシ、苗代地ノ養ハ草糞カ流シ糞ヲ用ルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衞云ヘルハ、田坪ノ內處々ヨリ冷氣ノ水ノ湧キ揚ルハ、水ヲ拔キ落スベキ樣ナキユヘ、牛馬糞ヲ入ルレバ冷氣減リ損毛輕シ、籾種子ヲ水ニカシテ引キ揚ゲタル時ニ雨降リテ濕メガタキハ、土間ニテモ座ノ內ニテモ莚ヲ敷キ、其上ニ種子籾ヲ厚サ五寸ホドニヒロゲ、蕨ノワカバエノ葉ヲ種子籾ノ見ヘザルホドニ厚ク覆ヒ、其ノ上ヘニ莚ヲキセ宜キホドニ濕メ、毎日種子ノ萠フル樣子ヲ

見ルナリ、苗ヲ種ヘ初ムルハ種子ヲ蒔キタル日ヨリ四十八九日目五十日目ホドニ種ヘ初メ、半夏生ノ前後二三日ノ間ニ種ヘ終ルナリ、上上田ハ五六寸ホド間ヲ置キ苗五六本ヅヽ種ヘ、下田ハ四寸ホド間ヲ置キ苗十本モ十四五本モ種フルナリ、刈リ取ルコトハ早稲ハ九月ノ節ノ初比ニ刈リ、晩稲ハ九月ノ節ノ中比末比ニ刈ルナリ、青米ノナキホドニ悉ク實ノレル時ニ刈リタルガ宜シケレドモ、風ノ當リ強ク霜ノ早ク降ル處ハ急ギテ刈リ取ルヲ宜シトスルナリ、揚田ニ養ヲ能クシテ麥ヲ作レバ麥ノ出來モ好ク、稻ヲ作ル時モ草生ヒカネ、稻ノ出來モ好キト覺ヘタリ、然レドモ稻ノ出來ノ晩ク刈リ取ル手廻シモ後レテ、麥ノ蒔付ケ晩ケレバ麥ノ出來モ晩ク、稻ノ種ヘ付マデ晩ク成ルユヘ、揚田ニテモ稻一作シテ麥作セザル者アリ、揚田モ深田モ稻ヲ種ヘ養ヲ入ルヽ仕形ニハ替ルコトナシ、揚田ハ水ノ絶ヘザル樣ニ心ヲ用フルコト第一ナリト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衞門云ヘルハ、田ノ養ヒハ柴草ニテ宜シ、中田下田ハ柴草ノ養ヒ最モ宜シ、一段ノ田坪ハ柴十五六束ニテ養フナリ、籾種子ノ俵ヲ水ニカシテ水ヨリ取リ揚ゲタル時ハ、俵ヲ少シ解キ緩ルメ日向ニ置キテ、夜ハ莚ヲ覆ヒ晝ハ除ケ、俵ヲ上ヘ下タニ成セバ三四日ニテ芽出ヅルナリ、種子ヲ蒔キタル日ヨリ五十日餘ニテ種フルナリ、其ノ日數ノ内ニ種フレバ虫蝿ノ損毛アルト云ヘリ

佐須郷小茂田村ノ清右衞門云ヘルハ、籾種子ノ取リ收メハ稻ヲ刈干シタル内ニテ、能ク熟シタルヲ種子ガワリ無キ樣ニ撰ビテコギ取リ收メ置クナリ、苗代地ノコシラヘハ二月彼岸ノ比一番犂シ、水ヲ仕

掛ケ、十日ホド過テ二番犂シ、又十日ホド過ギテ把ニテ竪横三遍粗カキシ、種子ヲ蒔ク三日程ニ草ヲヒロゲ犂カヤシ、水ノ上ヘムラナキ樣ニ並ラシ、水ヲ落シテ干置キ、種子ヲ蒔ク少シ前ニ水ヲ仕掛クルナリ、種子ノ川カシハ二月彼岸ノ終リニ水ニ漬ケ置キ、廿日カ廿二三日シテ取揚ゲ俵トモニ一日干シ、翌日苗代地ニ蒔付ケ、三日目ニ水ヲ落シ、一晝夜ホド過テ又水ヲ仕掛ケ、四日ホド過テ又一晝夜水ヲ落セバ、種子少シ萠出デ白ク見ユルナリ、其後ハ水ヲ淺クシ、種子半分水ニヒタルホドニ仕置キ、苗ノ長ジテハ水ノ深サ二寸ホドニ仕置クナリ、田ノ耕シハ二月ノ節ノ初比ニ一番犂シ、草少シ生出ル時ニ二番犂シ水ヲ仕掛ケ置キ、五六日過テ把ニテ竪横三遍粗カキシ、草糞、馬糞等ノ糞ヲムラナクヒロゲ犂カヤシ、水ヲ仕掛ケテ腐ラカシ置キ、苗ヲ種フル日ニ把ニテ竪横三遍カキ、水ノ上ヘヲムラナク並ラシテ種付クルナリ、苗ヲ種付クル時節ハ夏至ノ前後十日ホドノ間宜シ、種子ノ分量ハ百歩ニ二升七合當テホドニ蒔キ、田ノ肥ヘ瘠セト糞ノ多キ少キト、種付ノ早キト晩キトニテ少シヅツ加減スルナリ、種付ノ加減ハ上上田上田ニハ間ダ七八寸ホド置キ苗六七本取リテ種ヘ、中田下田ハ間ダ六七寸ホド置キ八九本十本ホド種ヘテ宜シ、晩ク種フルニハ苗數ヲ増シテ種フルユヘ苗多ク入ルナリ、草ヲ取ル時節ハ苗ヲ種ヘテ廿日ホド過テ一番草ヲ取リ、又廿日ホド過テ二番草ヲ取ルナリ、刈シホハ穗熟シ青穗少ク成リ、莖ハ未ダクタレヌ時ニ刈リ取リテ宜シ、日陰ノ田ハ實ノリ好カラズ、日向ノ田ト日陰ノ田ハ作リ樣ニ違ヒ有ベキ事ナリ、日陰ノ田ハ未ダ作リ覺ヘズ、冷氣ノ田モ作リ覺ヘザルト云ヘリ

豆酘郷豆酘村ノ喜右衛門云ヘルハ、苗代地ハ正月ノ節ノ末比一番犁シ、二月ノ節ノ中比二番犁シ、種子ヲ蒔ク前ニ三番犁シ、其上ヘニテ水ヲ仕掛ケ代ガキ、シタドリ草ニテモウバ木ニテモ踏ミ込ミ、其上ヘヲ手ニテナル(ホノマヽ)メ水ヲ仕掛ケテ蒔クナリ、種子ヲ蒔ク時節ハ春ノ土用ノ初比種籾ヲ桶ノ水ニ漬ケ、十五六日目ニ揚ゲ莚ヲ覆ヒ、六日目ホドニ芽二三分モ出ヅル時ニ、苗代地ニ水ヲ仕掛ケテ蒔キ、四日目ヨリ七八日ボドハ夜ハ水ヲ落シ昼ハ水ヲ掛ケ、苗立チタルヨリ種付クルマデハ手タヽキ水ホドニ仕置キ、其ノ内ニテ見合セテ水ヲ落トスコトモアリ、苗代地百歩ニハ種子六斗九升五合蒔キ、田百歩ニ種子三升三合ボドナリ、上上田上田ノ養ニハ百歩ニ馬糞廿駄ホド麥ヲ蒔ク時ニ入レ置キ、麥ヲ取リタル上ニテ一遍犁キ置キ、雨天ヲ待チ粗カキ三遍シ置キテ、又中犁トテ一遍犁キ、四五遍代カキシ苗ヲ種ヘ付クルナリ、種ヘ付ケテ廿五日目ホドニ一番草ヲ取リ、又十五日目ホドニ二番草ヲ取リ、又廿日目ホドニ三番草ヲ取ルナリ、水ハ手タヽキ水ニコスホドニ絶ヘズ仕掛ケ置キ、雨天ノ時ハ水ヲ落スナリ、苗ヲ種フル時節ハ五月ノ節ノ中比ヨリ半夏生ノ時分マデ種ヘ、苗數ハ七八本取リテ七八寸ホド間ヲ置キテ種フルナリ、刈取ル時節ハ秋ノ土用ノ末頃ニ取ルナリ、中田ノ養モ上田ニ同ジ、苗數ハ十本ホド取リ六七寸ホド間ヲ置テ種ヘ、下田ノ養ハ百歩ニ馬糞卅四五駄、苗數ハ中田ニ同ジ、冷氣田ハ種子ヲ蒔ァ早速水ヲ落シ置キ、クルミノ木ノ柴ヲ入レテ種ヘ付ケ、苗數ハ十二三本取リテ五六寸ホド間ヲ置キ種フルト云ヘリ、瀬村善右衛門云ヘルハ、種子ヲ蒔キテ後ニ苗四寸ホドニ成ルマデハ、三日ニ一夜ヅ

ツ水ヲ落シ、種フルマデハ手タヽキ水ニ仕置キ、折々ニ見合セテ水ヲ落シ、種ヘ付ケテ後ニ六月土用ノ前マデハ水ヲ流シ通ジ、土用ノ内ハ水ヲ包ミ、其後ハ又流シ通スト云ヘリ

佐須郷奉役藤四郎次知行ノ田ト、久根ノ濱ノ開田ニ近年農業全書ヲ考ヘテ耕作セシメケル事ヲ云ヘルハ、籾種子ヲ收メ置クハ來年ノ種子用ホドヲ量リ、中分ニ出來タル稻ノ能ク實ノレルヲ、其ノ田ニテ種子替リナキ様ニ一科ヅツ撰ビテ刈リ取リ輕クコナシ、四五日モ其ノ餘モ能ク干シテ收メ置クナリ、是ノ如ク立チ穂ニテ一科ヅツヲ撰ビテハ種子替リナク、庭ニテ撰リ穂ニスルヨリハ手間入リモ少ナシ、籾種子ヲ川ニ漬クル時節ハ、早稻ヲ五月ノ節ノ中ヨリ百日ホド前ニ川ニ漬ケ、中稻晩稻ハ其レヨリ五日七日ホド間ヲ置キテ川ニ漬クルナリ、川ニ漬ケ置ク日數ハ早稻ヲ廿四五日ホド、中稻晩稻ヲ廿日ホド漬ケ置キテ取リ揚ゲ、川ニ漬ケタル俵ノマヽニテ一日干シ、其ノ後ハ上ヘニ莚ヲ一重覆ヒ、晴レタル日ニハ毎日外ニ出ダシテ温タメ、暮ニハ取リ入レ下ニ莚ヲ敷キ上ニ莚ヲ覆ヒ置クナリ、若シ三四日ノ内ニ芽少シモ出デズ、籾乾キ芽ノ出カヌル様子ニ見ヘタル時ハ、手引ガンノ湯ヲ俵ノ上ヘヨリ籾ノシメリワタルホドニ掛ケ、莚ヲ覆ヒ置ケバ必芽出ヅルナリ、芽ノ二分ホド出デタル時ニ苗代ニ蒔キ付クルナリ、芽ノ長ジ過ギタルハ蒔キ付ケシ時ニ或ハ水ニ浮ビ、或ハ風ニテ一所ニ寄リムラ生ジ、芽ノ短カキハ泥ニ覆ワレ生育シガタシ、苗代地ノコシラヘハ正月ノ内ニ一遍犂キ、其ノ後ニ草ノ少シ生ジタル時ニ又一遍犂キ水ヲ仕掛ケ置キ、籾種子ヲ川ヨリ取リ揚グル一二日前ニ一遍シロ犂キシカキコナシ、

草ヲ攤ゲ能ク蹈ミ込ミ、水ノ上ヘヲムラナク並ラシ、水ヲ落トシテ干シ置キ、苗ヲ蒔キ付クル少シ前ニ水ヲ仕掛ケ包ミ置キ、水ノ澄ミタル時ニ苗ヲ蒔キ付ケ、其レヨリ三日目ニ水ヲ落トシ、晝夜二日ホド干シ、又元ノ如ク水ヲ仕掛ケ置キ、常ニハ水ヲ淺ク仕掛ケ、雨ノ降ル時ハ水ヲ深クシ、泥ノ覆ヒテ苗ノ生育ニ障ハルベキト見ヘタル時ハ、折々ニ水ヲ落トシテ宜シ、農業全書ニハ苗ヲ蒔キ付ケ十日ホド過ギテ初メテ水ヲ落トスト見ヘタレドモ、此ノ方ニテハ水ヲ晩ク落トセバ、泥ノ深ク覆ヒケルニテ苗ノ生育ニ障ワルナリ、小茂田村ニテハ揚ゲ蒔キトテ、籾種子ヲ川ヨリ取リ揚ゲ一日干シ、翌日苗代ニ蒔キ付クレドモ、其ノ仕形ハ宜シカラズ、能ク萠ヤシテ蒔キ付ケタルガ宜シキナリ、揚ゲ蒔キハ芽ノ出ヅル様子十五日モ廿日モ過ギザレバ知レガタク、萠ヤシ蒔キハ川ヨリ取リ揚ゲテ四五日ノ内ニ芽ノ出ヅルト出デザルトノ様子早ク知レ、芽ノ出デカヌルハ種子ノ餘計ヲ置キタルヲ、桶ニ水ヲ入レテ漬ケ日ニ當テ毎日水ヲ替ヘ、五七日過ギテ芽ノ出デタルヲ蒔キ付クルナリ、是ノ如ク種子ヲ追カシニスルモ萠ヤシ蒔キニシテ宜シ、追カシノ籾種子ハ水ニ漬ケ置ク日數ノ少ナキユヘ、同ジ時節ニ苗ヲ種ヘテモ實ノリ晩ク、虫氣ノ痛ミモ強キト云ヒ習ワセリ、苗代地ハ一畝ニ二斗四五升、一歩ニ八合蒔キノ積リニ繩張リシテコシラヘタルガ宜シキナリ、見ハカラヒテコシラヘタルハ廣狭ノ不同アリテ苗出來カ子、或ハ厚過ギテ莖細ク弱ク、種ヘ付ケテ後ニ痛ミ、或ハ薄過ギテ菖蒲苗ニ成リ節虫生ズルナリ、節虫ヲ中サシトモ云フ、種ヘ物ハ稻ニ限ラズ、苗ノ好シ惡シニテ出來ノ違ヒアル内ニ、取リ分ケ稻ハ苗

ニテ生育ノ樣子大ヒニ違ヒアルナリ、籾種子ヲ收メ置ク初ヨリ蒔キ付クル時マデノ仕置キ宜シカラズ、手入レ精シカラザレバ生ジカヌルコトアルナリ、以前ハ籾種子ヲ萌ヤシ損ジタルコト折々アリケレドモ、六七年以來ハ農業全書ヲ考ヘケルユヘ、近年種子ヲ十種モ廿種モ蒔キ付クルニ、萌ヤシ損ジタル事少ナシ。田ヲ耕スニ水田ハ春ニ至リ草少シ青ミタル時ニ一遍犂キ、其後草ノ少ジ生シ出デタル時ニ二番犂キシ水ヲ仕掛ケ置キ、苗ヲ種ヘ付クル時ヨリ廿四五日卅日ホド前ニ竪横三遍粗カキシ、養ニ或ハ山草或ハ木ノ芽立チヲ伐リテ攤ゲ犂キ込ミ、水ヲ仕掛ケ包ミ置キ、苗ヲ種ヘ付クル日ニテモ、二三日前ニテモ勝手ニ任セ一遍シロ犂キシ、耙ニテ竪横三遍カキ水ノ上ヘヲムラナク並ラシ苗ヲ種ヘ付クナルナリ、馬糞ナド養ニ用フルニハ、能クカレタルヲシロカキノ上ヘニムラナク攤ゲテ苗ヲ種ヘ付クル也、水田ノ内ニテ地高ナル所ノ干シ田ニ成ルベキト見ヘタルハ、一番犂ヨリ二番犂マデハ水ヲ落トシ、土ヲ能ク干シテ後ニ水ヲ仕掛ケ、常ノ如ク犂カキスレバ土肥ヘテ稻ノ實ノリ好シ、水田ヲ三月ニ入リ草ノ長ジタルヲ鎌ニテ刈リ干シ一番犂シ、其レヨリ段々ト法ノ如ク犂カキシテ苗ヲ種ヘ付クレバ、田ニ生ジタル草ノ養ニ成レルニテ土肥ヘ稻ノ出來好シ。然レドモ田ヲ廣ク作クル者ト、秋ノ畠作ヲ多ク仕付クル者ハ、犂カキノ時節一度ニツドヒ手廻シ成リガタク、其ノ上ヘ草ノ根ハビコリ、カキコナシニ手間入リ多キユヘ、作人仕オホセ得ザルナリ、農業全書ニ水田ハ春ノ耕シ宜シ、春モ草ノ少シ青ミタルヲ見テ耕スベシト記セルハ、勘ガヘアリテノコトナラン、苗ヲ種ヘ付クル時節ハ五月ノ節ノ初ヨ

リ夏至マデノ間ニ段々種ヘ付クルナリ、晩ク種ヘ付ケタル稲ハ莖弱クシテ、出來ノ好キホド早ク伏シ實ノリ好カラズ、六月土用ノ内ニテモ、土用ノ盡クル比ニテモ、虫氣スルコトノアル時ニ、早ク種ヘ付ケタル稲ハ、苗茂リ莖堅キニ依リ痛ミ輕ク、夏至ノ後ニ晩ク種ヘ付ケタル稲ハ、六月土用ノ比マデモ苗茂ラズ、莖ヤワラカナルニ依リ虫氣ノ痛ミ重シ、土用ノ内カ土用ノ盡クル比ニ虫氣アルヲ細糠虫トモ云ヒ、ハイケトモ云フ、基肄養父ニテハテノコ虫ト云ヘル由聞キケルナリ、此ノ虫氣ハ二年ニ一年ハ必アルコトニテ、肥タル田ホド虫氣重ク、晩ク種ヘタル稲ハ年ニ依リ悉ク腐チ損ズルナリ、苗ヲ種ヘ付クル仕形ハ肥田ニハ一科ニ四五本ヅツ間ヲ七八寸ヅツ置キテ種ヘ付ケ、瘠田ニハ一科ニ七八本ニテモ十二三本ニテモ間ヲ五六寸ヅツ置キテ種ヘ付ケ、時節ノ早シ晩シニ依リ、種子ニ依リテ段々ト增減スルナリ、厚ク種ヘ付ケタル稲ハ莖弱ク穗小サクシテ實ノリ好カラズ、薄ク種ヘ付ケタル稲ハ莖健カニ穗太トクシテ實ノリ好シ、田ニ水ヲ仕掛クル加減ハ、高田水田トモニ苗ヲ種ヘ付ケテ十四五日ノ間ハ水ヲ深クシ、苗半分隱モ水ニヒタルホドニ仕置キ、苗ノ在リ附キタル後ニハ、水田ハ水ヲ淺ク仕掛ケ、高田ハ水ヲ少シ深ク仕掛ケテ宜シ、高田水田トモニ苗ノ在リ附カザル内ニ水ヲ淺ク仕掛ケテハ、風ノ吹ク時ニ稲葉損ジ生育晩シ、苗ノ茂ラザル前ニ若シ半日モ水ヲ落トシ日ニ當ツレバ、土ノ居付キテ堅クナレルニテ草多ク生ジ、土地甚ダ瘠スルナリ、水田ハ苗ノ長ジタル後ニ見合セ折々水ヲ落トシテ宜シ、草ヲ取ル次第ハ苗ヲ種ヘ付ケテ十八九日廿日ホド過グレバ、苗能ク在リ附クユヘ一番草

ヲ取リ、其後六日七日ホドヅツ間ヲ置キ、三遍ニテモ四遍ニテモ力ノ及ブホドハ草ヲ取リテ宜シ、右ノ日積リニ草ヲ取ルニ、初メ苗ヲ種ヘ付ケタル手間ニテ草ヲ一遍取ルナリ、中ヨリ以上ノ水田一段ニ苗ヲ種ヘ付クルハ、一人半手間二人手間ホド掛カルナリ、若シ一番草二番草三番草トモニ晩ク取リ、草二三寸ニモ長ジ手ニ掛ルホドニ成レバ、土ノ居付キテ堅クナレルニテ手間多ク掛カリ、一人ニテ種ヘ付ケタル所ヲ三四人手間モ其ノ上ヘモ掛カリテ草一遍取ルナリ、麥跡ノ田ハ草ヲ取ルニ油斷アリテハ殊ニ手間入リ多ク、草モ取リ盡シガタク、草ヲ取ルコト晩ケレバ苗ノ生育ニ障ワリ、彼レ是レ損多シ、田ノ草ヲ取ルコトハ其ノ外ノ働キヲ差シ置キテモ、右ノ日積リニ取ラズシテ叶ワヌコトナリ、麥跡ノ田ノ地ゴシラヘハ、麥ヲ取リテ早速犂カヤシ三四日干シ、二番犂シ又三四日干シ、土ノ能ク干タル時ニ水ヲ仕掛ケ竪横三遍粗カキシ、苗ヲ種ヘ付クベキ時節ヲ考ヘテ、十日モ其ノ餘モ前ニ一遍シロ犂シ、苗ヲ種ヘ付クル日ニ水田ト同ジ樣ニ竪横三遍シロカキシ、水ノ上ヘヲムラナク並ラシ苗ヲ種ヘ付クルナリ、養ニ草ヲ入ルヽハ苗ヲ種ヘ付クベキ三十日モ四十日モ前ニ、山草ニテモ木ノ芽立チニテモ伐リ田ノ畔ニ積ミ置キ、木草ノ葉ノ悉ク枯レ、過半ハ腐チタルヲシロカキシタル上ヘニ攤ゲ踏ミ込ミ苗ヲ種ヘ付クルナリ、麥跡ノ田ハ草ノ生ズルコト多ク、土ノ居付キテ堅ク成レルユヘ、草ヲ養ニ入ルレバ草ノ生ズルコト少ナク、土モヤワラギ草ヲ取ル手間モ少ナク掛リ、麥跡ノ田ノ養ニハ取リ分ケ草ヲ用ヒテ宜シ、青草ヲ養ニ入レテハ六月土用ノ内ニ土湧キテ苗甚ダ痛ムユヘ、能ク枯ラシテ入レタルガ宜

シキ也、麥跡ノ田ノ草ヲ取ル次第ハ、苗ヲ種付ケテ十四五日ヨリ一番草ヲ取其後六七日宛間ヲ置キ二番草三番草ヲ取リテ宜シ。麥跡ノ田ノ犂カキ精シカラズ、草ヲ取コト精シカラザルハ、水持チ好カラズ實リ少シ、高田ニ麥ヲ作ルハ早麥ヲ作リテ宜シ、實リ晩キ麥ヲ作テハ、苗種付ル地拵モ心ノ及ホドニハ成リカネ。其ノ上ヘ麥ノ穗腐サレアル年ニハ田麥ハ濕氣ニテ殊ニ腐サレ多ク、早麥ヲ九月ノ節ノ初ヨリ十月ノ節ノ初マデノ間ニ蒔キ付ケタルハ、四月ノ内ニ早ク實ノルユヘ、五月ノ長雨ニ逢ワズ、穗腐サレノ難ナク、稻ヲ種ヘ付クル手廻シマデモ宜シク、彼レ是レ益アルコトナリト云ヘリ

今按ズルニ、農業全書ニ田作ノ事ヲ記スコト、詳カナレドモ、是州ノ郷村ニテ試ミ用ヒシ人アルコトヲ聞カズ、今春此ノ書ヲ撰スルニ依リテ、齋藤四郎次農業全書ノ田作ノ道ヲ試ミ用ヒシコトヲ知リ、其ノ道ノ段々ト行ナワレテ田作ノ精シクナランコトヲ喜ビ思フナリ、四郎次久根ノ濱ノ開田ノ内ニテ、近年耕作スル四町七段ニ損毛ナキ年ノ籾ノ出來百六七十石ホドト云ヘリ、小茂田ノ開田ノ内ニテ西ノ方ノ開田ノ主ニ昔年某問ヘルハ、此ノ田ハ一段ニ籾何ホド出來ルゾト問フ、其ノ人ノ答ヘニ、一段ニ籾四石出來、米ニシテ二石ナリ、此ノ田ヲ小茂田ノ村人ノ下作スルニハ半分ヲ納メサセケルト云ヘリ、今度佐須郷奉役ヨリ郡奉行所ニ出ダセシ書付ヲ見ルニ、小茂田開田ノ内ニテ上上田ハ一段ヨリ籾六斗六升入リ三俵納メ、上中下ノ田ノ並シハ一段ヨリ籾六斗六升入リ二俵半ニ當タリ、下田ハ一反ノ歩數三百歩ノ上ヘニ、見合セニ少シヅヽノ步數ヲ増シテ一段ト定メ、右ノ通リニ物成ヲ納

メサセ、東ノ開田ニハ地位上上ニ及ビテ一段ヨリ三俵ノ物成ヲ納ムル坪ハナシト書セリ、昔年聞ク所ニ異ナラズ、或人ノ語レルハ、山田ハ高キ所ニ水ヲ受ケ段々ト流レ下ダリ、上手ニタヽヘシ水ハ地ノ底ヲスギテ、下手ノ田ノ上畛ノキワナル地ノ底ヨリ湧キ出ヅルユヘ、冷氣アリテ田ノ出來好カラズ、是ノ如キ所ハ上畛ノキワニ水道ヲ付ケ、冷水ヲ下ノ水口ニ流レ出ヅル樣ニスルナリ、是レヲ名ヅケテハギカヘシト謂フ、田ノ脇ニ水道ヲ付ケ水口一ツヨリ水ノ出デ入ル樣ニスレバ、水タヽヘテ動クコトナキユヘ、夏日ニ水ヨク熱シ、田ノ出來各別ニ好シ、山田ハ冷水ニテアクテモ成ルベキ所ハハギカヤシニシテ宜シ、少シ田ハ狹ク成リテモハギカヤシニスレバ利多シト語レリ

麥

豐崎郷舟志村ノ市右衛門、大増村ノ善右衛門、濱久須村ノ又右衛門云ヘルハ、麥ノ種子蒔キ畠百歩ニ上上畠ハ三升五合ホド、上畠ハ四升ホド、中畠ハ四升五合ホド、下畠ハ五升ホドニテ宜シ、蒔付ノ早シ晩シニテ種子ヲ增シ減スコトアル也、麥作ノ養ヒ畠百歩ニ上上畠ハ藻四駄程、干鰯ナラバ二斗桶六盃程、居糞ナラバ八荷ホド、上畠ハ藻五駄ホド、干鰯ナラバ七盃ホド、居糞ナラバ九荷ホド、中畠ハ藻七駄ホド、干鰯ナラバ八盃ホド、居糞ナラバ十二荷ホド、下畠ハ藻九駄ホド、干鰯ナラバ十盃ホド、居糞ナラバ十四荷ホド、麥蒔付ノ時節ハ陰畠ナラバ、秋ノ土用ノ中比ヨリ、日向ナラバ十月ノ節ノ初

比ヨリ蒔キ付テ宜シ、麥ヲ刈リ取ル時節ハ早麥ノ九分ホドノ實ノリト見フル時ヨリ取リ掛ケ、川寄畠ノ麥ハ梅雨ノ中比ヨリ前ニ取リ收ムルナリ、種子麥ハ畠麥ノ實ノリ好キ所ヲ殘シ置キ雨ニ逢セ、中分ニサレタル時ニ取リ收ムレバ、蒔キテ後ニ生ヒ出デ早シ、川寄畠ハ麥ヲ取リ收メテモ畠ヲ犁カヤサズ、梅雨ノ後ニ秋作ヲ蒔キ付クル時節ニ至リテ犁カヤスナリ。三月麥、小麥、裸麥ノ蒔キ付ノ時節ハ、八月彼岸ノ終リヨリ十日ホド過テ蒔キ付ケ、畠百歩ニ三月麥ハ四升六七合ホド、小麥ハ二升五合ホド、裸麥ハ三升五合ホド、三種トモニ畦ヲ立テ種ヘ麥ニシ、土ヲ二三遍ホド掛ケテ宜シ、三月麥ハ畠百歩ニ上畠ハ居糞十荷ホド、干鰯ナラバ八盃ホド、中畠下畠ハ居糞十三荷ホド、干鰯ナラバ十二盃ホド、小麥ハ畠百歩ニ上畠ハ居糞五荷ホド、干鰯ナラバ四盃ホド、中畠下畠ハ居糞七荷ホド、干鰯ナラバ五盃ホド、裸麥ハ畠百歩ニ上畠ハ居糞七八荷ホド、干鰯ナラバ五六盃ホド、中畠下畠ハ居糞十荷ホド、干鰯ナラバ七八盃ホド、干鰯ハ何レモ粉ニシテ用フルナリ、取リ收メノ時節ハ三月麥ハ大麥ヨリ廿日ホド早ク取リ掛ケ、小麥ハ大麥ノ取掛ノ時ニ同ジ、裸麥ハ大麥ヨリ十日ホド早ク取リ掛カルナリ、木庭百歩ノ麥種子上上木庭、上木庭ハ五升ホド、中木庭、下木庭ハ四升ホドニテ宜シ、蒔付ノ早シ晩シニテ增シ減ラスコトアルナリ、木庭麥ノ養ヒ百歩ニハ上上木庭、上木庭、中木庭、下木庭トモニ干鰯四盃ホドニテ宜シ、麥蒔付ノ時節ハ畠麥ノ蒔付ノ時ニ同ジ。木庭ノ伐リ枯ラシハ陰木庭ナラバ、七月中比ヨリ伐リ枯ラシ、日向ナラバ七月末ヨリ伐リ枯ラスト云ヘリ、鰐浦村ノ市兵衛、西泊村ノ兵左衛門云ルハ、麥ノ種子ハ畠百歩ニ上上

畠ハ五升五合ホド、上畠ハ六升ホド、中畠ハ六升五合ホド、下畠ハ七升ホド、蒔付ノ早シ晩シニテ增シ減ラスコトアルナリ、麥作ノ養ヒ畠百歩ニ上上畠ハ藻五駄、干鰯ナラバ八盃ホド、居糞ナラバ十荷ホド、上畠ハ藻六駄ホド、干鰯ナラバ九盃ホド、居糞ナラバ十一荷ホド、中畠ハ藻八駄ホド、干鰯ナラバ十一盃ホド、居糞ナラバ十三荷ホド、下畠ハ藻十駄ホド、干鰯ナラバ十三盃ホド、居糞ナラバ十五荷ホドニテ宜シ、麥ヲ取リタル跡ニ秋物ヲ仕付ザル畠ヲ麥仕付ノ前ニ耕スハ、川寄畠ナラバ八月ノ節ノ中比ヨリ一二遍耕シ仕付ケ、川寄ニテナキ畠ニハ三四遍耕シテ仕付ケ、段畠ハ川寄畠ノ仕樣ニ同ジ、麥仕付ノ畠ハ二月三月ノ間ダ麥ノハザマニ生ズル草ヲ取リ、麥ノハザマノ土ヲカキウゴカセバ麥ノ出來好キナリ、畠麥ノ作リ樣ハ西風ノ强ク當タル所ハ、畦ヲ立テ藻ヲ敷キ埋メ、畦頭ニ種子ヲ蒔キ鍬ニテ作レバ、種子畦溝ニ生ヒ付キ、風ハ畦頭ニノミ當タリ、畦溝ノ麥ノ痛ミニナラズ、風當リニテナキ所ハ、畦ヲ立テザル前ニ種子ヲ蒔キ畦ヲ立テ、藻ヲ敷キ畦ヲ稈キワリテ作レバ、畦溝ニモ畦頭ニモ種子ムラナク生ヒ付クナリ、種子ヲ蒔テ五六日ノ内ニ作リ終ラザレバ、種子萠ヘ出ヅルナリ、白根サスマデハ妨ゲナシ、三月麥、小麥、裸麥ノ種子蒔キ畠百歩ニ三月麥ハ五升ホド、小麥ハ三升ホド、裸麥ハ四升ホド、三月麥ノ養ヒ畠百歩ニ上畠ハ居糞十二荷ホド、干鰯ナラバ十盃ホド、中畠下畠ハ居糞十六荷ホド、干鰯ナラバ十四盃ホド。小麥ノ養ヒ畠百歩ニ上畠ハ居糞六荷ホド、干鰯ナラバ六盃ホド、中畠下畠ハ居糞九荷ホド、干鰯ナラバ七盃ホド、裸麥ノ養ヒ畠百歩ニ上畠ハ居糞十荷ホド、干鰯ナラバ八盃ホド、中畠下畠ハ居糞十

二荷ホド、干鰯ナラバ十盃ホド、右何レモ干鰯ハ粉ニシテ用フルナリ、蒔付ノ時節ハ陸木庭ハ秋ノ土用ノ十日前ヨリ蒔付ケ、日向ハ土用ニ入リテ蒔付クルナリト云ヘリ、舟志村、大増村、濱久須村、比田勝村、大浦村ハ麥作其外ノ諸作トモニ同ジ仕形ニテ、豐村、鰐浦村、河内村、西津屋村、泉村、西泊村、網代村、富浦村、唐舟志村、五根緒村ハ麥作其外ノ諸作トモニ同ジ仕形ナリト奉役云ヘリ

佐護郷仁田内村ノ六郎右衞門、井口村ノ源右衞門、佐須奈村ノ長左衞門云ヘルハ、上上畠、上畠ニ種ヘタル蕪菁大根ヲ十月ノ節ニ入リ十日ホド過タル時分ヨリ取リ收メ、其跡ニ畦ヲ立テ藻ヲ敷キ、畦ノ頭ヲ藻ノ上ヘニ引キ並ラシ、其ノ上ヘニ麥種子ヲ散ラシ蒔キニシテ牛ニテ犂キ込ミ、其跡ヲ鍬ニテムラナキ樣ニ塊ヲタヽキ、又ハ鍬ニテタヽカザル前ニ麥種子ヲ少シヅツ二重ニ蒔クモ宜シ、一番蒔ノママニテ生ヒ付ノ足ラザル時ノ爲メニ二重ニ蒔クナリ、是ノ麥畠ニハ來春彼岸ノ内ニ里芋ヲ種フルナリ、是ノ畠ハ百姓ノ大節ニスル畠ナルユヘ疎略ニセズ、心ノ及ブホドハ念ヲ入ルヽナリ、是ノ畠ノ麥種子百歩ニ八升ホドナリ、蒔付ノ早シ晩シニテ蒔目ノ增シ減ラシアリ、蒔付ノ時ノ地ノ乾キタルト濕ヒタル樣子ニテモ蒔目ノ增シ減ラシアリ、養ノ多キハ種子ヲ厚ク蒔キ、養ノ少キハ種子ヲ薄ク蒔キ、上畠ニ養ノ多ク入リタルニハ種子ノ厚ツ過ギタルカト思フホドニ蒔クヲ宜シトス、薄ケレバ思フホドニ出來ズ、上畠ニ養ヒ多ク種子モ厚クセリアヒタルト見フルホドナレバ實ノリモ好キナリ、中畠下畠ハ三年口ニ其ノ畠ノ内三分一ホド麥仕付ヲ止メ、冬春ノ間ダ地ヲ休メ、或ハ夏マデモ休メテ、秋ニ至リテ

麥ヲ蒔クナリ、是ノ如ク耕スヲ活カヤシト云ヒテ、冬春夏ノ間ダ力ノ及ビ數遍耕シ、草ノ根ノ少シモテキ樣ニ取リ除ケ、冬春ノ間ダ休メタルニハ半夏生ノ前後ニ大豆ヲ蒔キ付クルナリ、中畠、下畠ノ散ラシ蒔ハ、百歩ニ麥種子四升ホド養ヲ入レズシテ蒔クナリ、養ヲ十分ニ入ルレバ百歩ニ六升ホド蒔クナリ、養ヲ入レザル畠ノ小畦作リニハ、百歩ニ麥種子三升七合ホド蒔クナリ、春ノ内ニ地ノ乾キタル時ヲ見量ラヒ土ヲ二三度掛ケ、力ニ及ブナラバ其ノ上ヘニモ度々土ヲ掛クルニシクハナシ、然レドモ小畦作リハ地ゴシラヘ手間入リ多キユヘ、小畦作リニスル者ハ少キナリ、川寄畠ハ水ノ掛カル所ナルユヘ、耕シト草カシメニ念ヲ入ルヽコト成リガタシ、其ノ故ハ八月末比ヨリ前ニ耕セバ必浮土ヲ水ニテ洗ヒ流シ、八月ノ雨ノ時分ヲ過ギテ耕セバ、麥蒔付マデノ間ダニ日數少ク、地ゴシラヘ心ノ及ブホドニハ成ラズ。地ゴシラヘニ念ヲ入レントスレバ麥作リ付ケノ時節晩ク成リ、地ゴシラヘニ念ヲ入レテモ生ヒ付キ好カラズ、一番ガヤシマデニテ二番ガヤシノ時ハ種子ヲ蒔キ付クルユヘナリ、川寄畠ノ土ハ本ノ土ニテナク、大水ノ時ニ流レ寄リタル土ニテ土ノ性灰ノ如クナルユヘ、麥種子ノ蒔付ヲ秋ノ土用ノ入リ時分ヲ最中ニシテ蒔付ケタルガ宜シキナリ、地ヲ如何ホド能クコナシテモ、右ノ時節ヲ過グレバ定マリテ出來好カラズ、麁草ニ作リテモ早ク作リタルニ益アリ、其年ノ氣候ニヨリ晩ク作リテ出來好キコトモアレドモ、其レハ希レナルコトナリ、右ノ畠ハ百歩ニ種子八升ホド蒔キ、地ノ好シ惡シニテ增シ減ラシアルナリ、右ノ畠ニ濕氣アルカ、又ハ陰地ナレバ八月彼岸ノ過ギ時分ニ早ク作リ付ケ

テ宜シ、上上畠、上畠、中畠、下畠ノ麥ノ蒔付ケ上畠ホド晴天ノ續キ土ノ乾キタル時ヲ宜シトス、種子麥ヲ蒔キ込ミ鍬ニテ塊ヲ打チ、土烟ノ立ツホドニ乾キタル時ニ蒔キ込ムニシクハナシ、乾キタル時ニ塊ヲ打チ碎ケバ畠ヨク肥フルナリ、麥ノ蒔キ初メ陰畠、川寄畠ナラバ、秋ノ土用ノ入リヨリ四五日前ニ蒔キ初メ、其外ハ西風ノ強ク當タル所ヨリ作リテ宜シ、日向ノ所ハ十月ノ節ヲ限リニ作リテモ、養サヘ入ルレバ妨ゲナシ、養ヲ入レザル中畠、下畠ハ秋ノ土用ノ後チ十四五日ノ内ニ作リ終ル積リニ作リ付ケテ宜シ、麥木庭ハ海邊ノ木庭ナラバ、七月ノ中過ヨリ木庭ノ内ノ瘠地ヨリ伐リ初メ、肥地ノ方ヲ晩ク伐リ、木庭ノ内ノ上上ノ所ハ一二年休メ、又ハ續ケテ二年作ルモアルユヘ、ケ様ノ所ト瘠地ノ所ヲ暑氣强キ時ニ耕シ、瘠地ノ所モ暑氣强キ時ニ柴草ニテ久シク蒸シ置キナバ其ノ木庭ノ養ト成ルナリ、是レニ由リテ木庭ノ内ノ瘠地ヲ早ク伐リ、肥地ニテモ作リ枯ラシテ燒草ノナキ所ヲ早ク耕シ、數遍耕シテ養トスルナリ、是ノ如キ所ヲ秋風涼ク成リテ伐リ耕セバ、作物ノ出來甚ダ減ルナリ、海邊ノ木庭ニ麥ヲ作ルハ、秋ノ土用ノ入リ十四五日前ヨリ作リ初メ、土用中比ニ作リ終ル積リニシテ宜シ、海邊ハ西風强ク成リテハ働キ難ク、麥ヲ蒔テモ生ジ難キユヘ、是ノ如ク早ク作ルナリ、海邊ノ木庭ハ上上木庭ヨリ下木庭マデ並ラシ、百歩ニ麥種子五升ホド蒔クナリ、奥山附ノ麥木庭モ陰木庭ヨリ早ク伐リ早ク燒キ、作リ付ケハ秋ノ土用ノ過ル比マデニ作リ終ルナリ、日向木庭ハ冬至ヲ限リニ作リ終リテモ妨ゲナシ、麥ノ草ヲ取ルニ畠ハ正月二月ノ内ノ天氣ノ晴レタル日ニ、麥畠ノ中ニアル草ヲ掘

リ捨テ、麥木庭ハ春ノ土用ノ中比麥ノ穂バラミノ時分、下タ葛ナドノアルヲ伐リ除ケ、二番草ハ四月ノ中過ギニ麥ノ色付タル時分、穂サラヘトテカツラ木ノメダチ、其外マキツキ物ナドヲ伐リ捨ルナリ、種子麥ハ梅雨過ギ天氣ノ晴レタル日ヲ撰ビテ取リ收メ、少モシメリ氣ナキ樣ニ三日ホド干シ、其後天氣ノ晴レタル日ニアヤシ、日陰ニテ能クサマシ俵ニ入レ、底ニモ口ニモニガ桃ノ葉ヲ敷キ、麥種子ノ中ニモニガ桃ノ葉ヲ入レ俵ヲ堅ク結ビ置クナリ、ニガ桃ノ葉ヲ入ルヽハ虫ノ付カザルタメナリ、白カチ種子麥ノ仕形ハ右ノ如クニスルナリ、毛切レ種子麥ノ仕形ハ種子ノ日ニハツケ過ギタルハ、燒ク時ニ麥粒マデ燒クルユヘ、少シバカリシメラカシ麥ノ毛ヲ燒キ除ケ、晴レタル日ニアヤスナリ、收メ置ク仕形ハ白カチ種子麥ニ同ジ、白カチ種子麥ハムラナク生ヒ、毛切レ種子麥ハ生フルニムラアルユヘ、白カチ種子麥一斗蒔ク地ニハ、毛切レ種子麥ナレバ一斗一二升蒔クナリ、白カチ種子麥ニコシラヘタルハ自然ト穂長麥ニ成ルユヘ是レヲ嫌ヒ、毛切種子麥ニコシラフルナリ、穂長麥ハ穂短麥ヨリ出來少ナキト云ヒ傳フレドモ、霧長雨ニモ痛ミ輕キユヘ、奥山附ノ村々ニハ穂長麥ヲ作リ來リ、穂短麥ハ霧長雨ニ痛ミ强ケレドモ、穂長麥ヨリ出來多キト云ヒ傳フルユヘ、海邊ノ風能ク吹拂フ村々ニ穂短麥ヲ作リ來レルナリ、小麥ハ揚田ノ水洩レ易キ田ニ作リテ宜シ、秋ノ土用ノ前ニ稻ヲ刈リ、其跡ヲ耕シ溝ヲ深ク立テ、畦ノ頭ヲ高クシ水ノ溜リナキ樣ニ念ヲ入レ、畦ノ溝ヲ深クサラヘ土クレヲ細カニカキクダキ、其ノ上ヘニ種子ヲ蒔キカキナラシテ宜シ、小麥ヲ揚田ニ作クルハ百歩ニ二升五合ホド蒔キ、畠ニ

作ルモ濕氣アル畠ヲエラビ、田ニ作クル様ニ揚ゲ作クリニシテ宜シ、小麥ハ濕氣ノ痛ミ大麥ヨリ輕キユヘ、濕氣地ハ小麥ヲ作クリテ益アリ、小麥ノ養ハ冬ノ内ニ糞ヲ掛ケ、地ノ乾キタル時ニ熊手ニテ中ヲアセルナリ、春ニ成リテ糞ヲ入レ養ヒタルハ出來悪シ、揚田、濕氣畠ニ散ラシ蒔キスルハ右ノ如クスルナリ、濕氣ナキ畠ニ小麥ヲ作クルハ小畦作リニシ、秋ノ土用ノ中比ニ小畦ニ種ヘ、中畠、下畠ナラバ冬ノ内ニ養ヒ土ヲ掛ケ、春ニナリテ又二度モ三度モ土ヲ掛ケテ手入レシタルガ宜シキナリ、上上畠、上畠ニ養ヒ過グレバ出來悪ク實入リ薄キユヘ、肥ヘ過ギザル様ニ心ヲ用フルナリ、小麥ノ肥ヘ過ギタルハ大麥ノ肥ヘ過ギタルヨリモ損多シ、刈リ取ル時節ハ梅雨ニ入ル四五日前ニ刈リ取リテ宜シ、雨ニ逢ヘバ藁痛ムナリ、小麥藁ハ俵薦ニ用フルユヘ、殊ニ雨ニ合セザル様ニ早ク刈リ取リテ干シ置クナリト云ヘリ

伊奈郷鹿見村ノ兵右衛門、伊奈村ノ八郎右衛門云ヘルハ、麥一升蒔ノ養ヒ上畠ニハ藁六束入レ、下畠ニハ藁十二束入ルルナリ、上上畠ナラバ上畠ノ半分ホド、中畠ナラバ上畠ノ五割増シホドニテ宜シ、干鰯其外ノ養ノ分量モ右ニ同ジ、麥ノ蒔キ付ケ畠百歩ニ上上畠ハ五升ホド、上畠ハ五升五合ホド、中畠ハ六升ホド、下畠ハ七升餘ニテ宜シ、養ノ品ニ依リ增シ減スナリ、陰畠ハ九月ノ土用前ヨリ蒔キ付タレバ、藁鰯トモニ養ヒ能ク廻リ出來好ケレドモ、極月正月ノ間ニ雨繁ク寒氣強ク、地凍リ大雪モ降レバ、早麥ニテ生ヒ抜クルユヘ、腐チ切レテ益ナシ、九月ノ土用過ギ十月ノ十日前ニ蒔キ付クレバ、陰畠ハ少

シ晩キ樣ニ見ヘテ生ヒ付キ少ク、出來ノホドモ其レニ應ズレドモ、寒氣大雪ニ逢ヒテ早麥ノ損ズル年ニ却テ益アルコトモアリ、日向ハ土用過ヨリ十月中比マデノ間ニ蒔キタルハ養モ能ク廻リ、生ヒ付キモ好ク出來モ好シ、土用ノ前ニ早ク蒔ケバ、カラニ生ヒ拔ケ穗小サク、十月中比ヲ過ギテ蒔キタルハ、日向ニテモ時節ヲクルヽ故養モ廻リカネ出來少ナシ、然レドモ秋作ノ出來好キ年ハ、取リ收メニ其ノ分ホド手間入ルユヘ、心得居ナガラ時節ニ後クレザル樣ニ蒔キ付タルコト成ガタシ、刈リ收メノ時節ハ梅雨ノ前ニ刈レバ麥ミダレズ、假令ミダレテモ莖强クシテ取リ手間多ク掛ラザレドモ、山木庭ニ養ナク作リ置キタル麥ハ、木草ノ根モ悉ク掘リ除ケタルニテナク、實ノリノ時節木草ノ若バヘ麥ニ生ヒマジリ、麥ノ莖ニモ長短アレバ鎌ヲツカフコト成リカヌルユヘ、穗チギリニシ手間多ク込ミ、其ノ内ニ畠麥ミダルレバ心得居ナガラ好キ時節ノ取リ收メ成ガタシ、川寄畠ノ麥ハ早ク蒔付ケ早ク取リ收メテ宜シ、梅雨ニ入リ莖弱ク成レル時ニ大水出ヅレバ、麥流レ捨タルユヘナリ、麥ヲ木庭ニ作クルニ上上木庭ハ四五年ホド荒ラシテモ、木生ゼズ草ノミ生ズルユヘ、大抵ハ耜鍬ニテ七月下旬ニ一番カヤシヲシテ、八月下旬ニ二番カヤシヲシ、陰木庭ハ九月ノ土用ノ中比ヨリ前ニ干鰯ヲ養ニシ蒔キ付ケテ好シ、日向ニテモ耕シハ陰木庭ノ耕シニ同ジ、九月ノ土用過ギニ干鰯ヲ養ニシテ蒔キ付クレバ、常ノ出來ニ一倍ノ增シアレドモ、干鰯ヲ買フコト成ガタシ、干鰯ナクテモ六月ノ土用ニ一番カヤシヲ仕置キ、七月末ニ二番カヤシヲシテ、陰木庭、日向木庭トモニ右ノ時節ニ蒔キ付クレバ、干鰯ヲ入レタルホ

ドニナクテモ大抵ハ出來好シ、是ノ如ク心得居ナガラ爲シ得ザルナリ、木庭ノ種子蒔ハ畠ニ違ヒ、上上木庭ハ百歩ニ六升五合ホド、上木庭ハ五升五合ホド、中木庭ハ四升五合ホド、下木庭ハ四升ホド蒔クナリ、上上木庭ハ土深ク耕シテモ深クシ、種子ノ埋モリ深ク生ヒ出デザル種子モアリテ、生ヒ付キ薄キニ依リ多ク蒔クナリ、下木庭ハ土淺ク麥ノ生育其レニ應ジテ少ナキニ依リ、厚ク蒔ケバ穗小サク取リ收メニ手間入ルユヘ薄ク蒔クナリ、上中ノ木庭ノ蒔目ノ厚サ薄サモ、其ノ心持ナリト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衛門云ヘルハ、上上畠、上畠ニ麥ヲ作クルハ晴天ノ日ニ念ヲ入レテ地ゴシラヘシ、大畦ヲ立テ畦溝ニ馬糞ヲ敷キ、畦頭ニ種子ヲ蒔キテ犂キ埋ムナリ、其ノ畦頭ノ來春畦溝ニ成リタルニ芋ヲ種フルナリ、畦溝ニ種ヘタルハ養ノ力ヨクトドクナリ、中畠、下畠ハ小畦ニシテ、糞水ヲ掛ケ、其ノ上ヘニ種子ヲ蒔付ルナリ、中畠マデハ馬糞ノ養ニテモ宜シ、麥蒔付ノ時節ニ養ノ力ノトドキカヌルハ、年内ニテモ正月二月ニテモ、糞水又ハ馬糞ヲ上ワ糞ヘニスルナリ、畦作リハ麥ノ生ヒ出デ三ツ葉ホドニ成レル時ヨリ穗ニ出ヅル前マデノ間ニ、土ノ乾キタル日ヲ見合セ、二三遍モ中打スレバ養ニモ成リ出來モ好シ、佐賀村ノ平兵衛云ヘルハ、東目ノ畠ハ上中下トモニ土底沙石ナルユヘカ、藻ヲ埋ミテハ養ニ成リガタキユヘ、正月二月ニ藻ヲ取リテ引キ散ラシ上ワ糞ヘニスルガ宜シキナリ、糞水ハ小石交リノ地ト沙地ニ用ヒテ宜シキト云ヘリ、木坂村助右衛門云ヘルハ、畠麥ノ養ニ上ワ糞ヘハ養ノ力トドキカヌルナリ、上上畠モ上中下ノ畠モ種子ヲ蒔キ大畦ヲ立テ、馬糞ニテモ藻ニテモ敷キ、畦頭ヲ

犂キ藻ヲ埋ミテ宜シト云ヘリ

仁位郷田村ノ吉右衛門、佐保村ノ三吉云ヘルハ、麥ノ種子蒔キ畠百歩ニ上上畠ハ四升ホド、上畠ハ五升ホド、中畠ハ六升ホド、下畠ハ七升ホド蒔クナリ、薄キト思フ樣ニ蒔キ付ケテ宜シ、養ハ干鰯、干藻、馬糞、流シ糞ヘ此ノ品々ヲ用フルナリ、陰畠ハ九月ノ節ノ中比ニ作リ、日向畠ハ十月ノ節ノ初ヨリ霜月ノ節ノ中比マデ作クリ、刈リ取ル時節ハ五月ノ節ノ初ヨリ早出來ヲ段々刈リ取リ、種子麥ハ穗チギリニシ、半燒ニシテコシラヘ置クナリ、木庭百歩ノ種子蒔キ、上上木庭ハ四升ホド、上木庭ハ三升五合ホド、中木庭ハ三升ホド、下木庭ハ二升五合ホドナリ、畠ト同ジ事ニテ薄キト思フ樣ニ蒔キ付ケテ宜シ、養ハ干鰯ヲ用ヒテ利アレドモ、干鰯ヲ買フコト力ニ及ビガタク、多クハ養ナシニ作クルナリ、陰木庭ハ九月ノ節ノ初ヨリ作クリ付ケ、日向木庭ハ十月ノ節ノ初ヨリ作リ付ケ、刈リ取ル時節ハ畠麥ニ同ジ、小麥ハ畠百歩ニ種子一升ホド蒔キ、養ハ大麥ニ同ジ、蒔付ノ時節ハ陰畠ニ大麥ヲ蒔クニ同ジ、取リ收メハ五月ノ節ノ中比ニ取リ收ムルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衛云ヘルハ、上上畠、上畠、中畠、下畠トモニ其地位ニ應ジタル養ヲ入ルヽコト力ニ及ハズ、馬糞、居糞トモニ甚ダ足ラザルユヘ、毎年ノ出來其レニ應ジテ少ナク、十分ニ出來ルコトナシ、然レドモ養ノ仕形ハ畦溝ニ糞ヲ敷キ種子ヲ蒔キ、畦頭ノ土ニテ薄ク覆ヒ、牛馬糞、干藻糞ヲ敷キテ蒔キタル種子ナラバ、少シ厚キホドニ覆ヒテ宜シ、藻糞ハ畦溝ニ兼テ敷キ置キ、一二度モ雨ニ

逢ワセ、潮ノ氣ノ少シ去リタル時ニ種子覆ヒスレバ、麥ヨク生ヒ出ヅルナリ、牛馬糞ハ新シキヲ敷キ、早速種子ヲ蒔キテ覆ヒタルガ宜シキト覺ヘタリ、又上ワ糞トテ麥ヲ蒔キ付ケ置キ、年内ヨリ正月中比マデノ間ニ居糞ニテモ、牛馬糞ニテモ、藻糞ニテモ生ヒ出デタル麥ノ上ニ掛クルナリ、二月ニ入リ麥ニ莖立チテ後ニ上ワ糞ヲスレバ、草シゲリ麥ノ科立チ少ナク、實ノリモ薄キト覺ヘタリ、上ワ糞ヨリハ敷キ糞ノ方ニ益アリ、上ワ糞ハ十分ニ用ヒテモ六七分ニ當タルナリ、上ワ糞モ敷キ糞モ土ノ白ク干タル時ニ用ヒテ宜シ、濕ヒアル時ハ宜シカラズ、陰畠ハ諸作トモニ日向畠ホドニ出來ルコトナキ故早ク仕付ルナリ、日向畠ハ十分ニ養ヒ、陰畠ハ少シ内端ニ養フナリ、陰畠ノ養ヒ過ギテ肥ヘタルハ實ノリ甚ダ好カラズ、日向畠ノ養ナクテ瘠セタルモ實ノリ甚ダ好カラズ、下畠ニテ養ノ力ノ及バザルハ秋物ヲ作ラズ、夏秋ノ間ニ早ク耕シ置キ、八月ノ末九月ノ初メニ早麥ヲ作ルナリ、總テ麥作ハ八月ノ彼岸ノ後ニ、一日モ早ク蒔付テ宜シキト覺ヘタレドモ、秋物ノ出來タルヲ刈リ取リ、其跡ニ作リ付ルユヘ、出來好カラヌナリ、種子ノ分量ハ百歩ニ五升ホド上畠ニ養ヲ入レタルハ少シ薄ク蒔キ、下畠ニ養ヲ入レザルハ六升餘モ蒔クナリ、麥ヲ刈ルニ手後レニ成リテハ手間入ルユヘ指シ急ギ、少シニテモ實ノリ色付キタルヲ青穗マジリニ刈取ルナリ、同日ニ作リタル畠ノ内ニテモ、土地ノ位ヒ日陰日向ノ違ヒニテ出來ノ早シ晩シアルユヘ、早ク實ノリタル所ヨリ刈取リ、肥地ト陰地ナドノ出來ノ晩キハ殘シ置キ、別ノ畠ノ内ニテ大抵ニ出來タルヲ刈リ取ルナリ、木庭麥ハ殊ニ一日ニテモ早ク取リ、草

本ノ生ヒ立チノ未ダ長ゼザル内ニ秋物ヲ仕付クル樣ニ心ニ掛ケズシテハ、木庭ニ秋物ヲ仕付ケテモ出來好カラズ、仕付ケノ手間入リ損分ト成ルナリ、川寄畠ハ麥蒔付ノ時ヨリ洪水ノ損毛アランコトヲ考ヘ、蒔付ヲ早クスルユヘ出來モ其分ホド早ク刈取ルコトモ早シ、是レハ常ニ十分ノ洪水ヲ凌グ了簡ニテ爲スコトナレドモ、十分ニ餘リタル洪水ニテハ考ヘノ及ブコトニテナシ、種子麥ヲ取リ收ムルコト、以前ノ仕形ハ麥ノ出來ノ殊ニ勝レタル畠ヲ種子麥ニ當テ、麥ヲ取リ終レル時分其ノ畠ノ麥ヲ一穗ヅツ撰ビ取リ、莖ヲ短クツメ能ク干シ少シ燒キ、棒ニテ打タダキ種子ニ收メ置キケレドモ、其仕形ハ宜シカラザルト覺ヘ、其ノ以後ノ仕形ハ出來ノ殊ニ勝レタル畠ノ麥ヲ、餘リ實ノリ過ギズ、亂レザル内ニ中刈ヨリ少シ穗頭ニ寄セテ刈リ取リ能ク干シ、少シモムセザル樣ニ輕ク燒キ、臼カチニシテ收メ置クナリ、又早麥トテ裸麥ヲ少シヅツ作クルニ、其ノ種子ヲ取ル仕形ハ莖ノ少シモ付カザル樣ニ刈リ取リ能ク干シ、棒ニテモ臼ニテモカチクダキ、夏ノ内ニ折々干シ虫ノ付カヌ樣ニシテ收メ置クナリ、虫ノ付キタルハ生ヒ付キ好カラズ、川寄畠ノ麥跡ニ秋物ヲ作クルハ、梅雨ヲ過ゴシ、地ノ濕ヒノ未ダ乾キ過ザル内ニ早ク犂カヤシ、犂タル翌日ヲ限リニ秋物ヲ仕付クルナリ、川寄畠ニ麥ヲ仕付クルモ、其外ノ畠木庭ヨリ先キニ仕付ケ早ク出來テ梅雨ノ前ニ刈リ取リ、秋物ノ仕付ノ延引セザル樣ニ心掛ケ、川寄畠ノ麥ハ刈リ取リタル跡ノ麥カラヲ、梅雨ノ過ギザル内ニハ引キ除ケズ、梅雨ノ過ギタル後ニ引キ除クルナリ、洲藻村ニハ毎年洪水アルユヘ、川寄畠ニハ秋物ヲ仕付ケズ、麥バカリ作レルト見ヘタレド

モ、雞知村ニハ其ノ如クスル畠ハナシ、雞知村ハ木庭ノ地位悪シキユヘ、中木庭、下木庭ニハ麥ヲ作ラズ、上上木庭、上木庭ニノミ麥ヲ作クリ、中木庭、下木庭ニハ粟、蕎麥ヲ作クルナリ、陰木庭ハ麥ニ宜シカラザルユヘ、日向バカリ麥木庭ニスルナリ、若シ陰木庭ニ麥ヲ作クル年ハ差シ急ギ、七月末比ヨリ九月中比マデノ間ニ仕付クルナリ、日向木庭ハ仕付ケ少シ晩クテモ妨ゲナシ、麥作ノ仕付ケハ陰木庭、日向木庭、畠トモニ力ノ及ビ早ク仕付ケテ宜シキト覺ヘタレドモ、手後レニナルコト多クシテ心ニ任セ得ザルナリ、蒔付ノ時節ハ裸麥ノ類ヲ八月初メ比ヨリ九月中比マデノ間ニ蒔キ、常ノ大麥ハ八月初比ヨリ霜月中比マデニ蒔キテモ苦シカラズ、霜月ニ入リテ蒔クコト宜キニテハナケレドモ、手後レニナレバ已ムコトヲ得ズ霜月ノ末比マデモ作クルナリ、其ノ分ホド出來少キト覺ヘタリ、種子ノ分量ハ木庭ヲ畠ヨリ少シハ餘分ニ蒔クユヘ、百歩ニ七八升ニモ當タルベシ、早麥、晩麥トモニ以前ヨリ散ラシ蒔キニ仕來リ、畦種ヘニハセザルユヘ、兩樣ノ中ニテ何レガ宜シキト云フコトヲ辨マヘズ、養ノ仕掛ケハ早麥モ晩麥モ同ジ、種子ハ常ノ大麥一升蒔ク地ニ早麥ナラバ五六合蒔キテ宜シ、早麥、晩麥トモニ蒔付ノ時節ノ後レタルハ其分ホド出來少キユヘ、蒔種子ヲ餘分ニ蒔クナリ、早麥ヲ刈ルニハ實ノ堅クナレル時ニ刈ルナリ、餘リニ早ク刈レルハ實少クシテ損アリ、小麥ハ木庭ニ作ラズ畠ニノミ蒔クナリ、晩ク蒔キテハ殊ニ出來惡キユヘ、九月初比ヨリ十月中比マデニ蒔キ、畠ノコシラヘ糞ノ仕掛ケ早麥ニ同ジ、小麥ヲ散ラシ蒔ニスル種子ノ分量、常ノ大麥一升蒔ク地ニハ五六合蒔キテ宜シ、畠ノ上

中下トモニ撰ビナク作タリ、上畠ハ輕ク養ヒ、中畠、下畠ハ強ク養フナリ、養ノ過ギテ葉莖ノ出來過ギタルハ實ノリ好カラズト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衞門云ヘルハ、麥ヲ刈リ取ルコト、靑穗三分一ト見フル時ニ取リ掛リテ宜シ、種子ハ白カチヨリハ輕ク燒カチニシタルガ宜シキト云ヘリ
佐須鄕阿連村ノ平助云ヘルハ、麥種子ヲ取リ收ムルニハ、畠麥ノ内ニテ出來好キヲ十分ニ實ノラセ、靑穗少シモナキ時ニ晴天ヲ見合セテ刈リ、其畠ニテ二日ホド干シ、好ク干タル時ニ取リ入レ、雨露ノ掛カラザル樣ニ圍ヒテ積ミ置キ、總體ノ麥ヲ刈リ終レル後ニ穗チギリニシテ輕ク燒キ、フリニテ打チ收メ置クナリ、麥ノ地ゴシラヘハ上中下ノ畠トモニ秋物ヲ刈リ取リタル跡ヲ一日モ早ク耕シ、一番犂ハ如何ニモ深ク犂キ、塊ヲ細カニ碎キ置キ、蒔付ノ時節ニ成リ土ノ乾キ灰ノ如ク成リタル時ニ二番犂シ、畦ヲ立テ糞ヲ敷キ、種子ヲ蒔キ付ケ、種子覆ヒノ土ヲ淺ク犂キ掛ケ、其ノ上ヘヲ鍬ニテ並ラシ、草ノ根ヲ精ク取リ除ケテ宜シ、糞ハ上上畠ニ一遍、上畠ニ二遍、中下ノ畠ニ三遍、其ノカラ次第多ク糞シタルホド好シ、赤土ト沙地ニハ馬糞宜シ、黑クシテ深キ地ニハ藻搗、和布宜シ、雨ノ繁キ年ニハ藻搗、和布ノ糞ニテ好ク、旱年ニハ馬糞、居糞ニテ好シ、種子ヲ蒔ク時節ハ十月ノ節ノ初メヨリ冬至ノ比マデ蒔キ、陰地ハ九月ノ節ノ初メヨリ段々ト蒔キ、種子ノ分量ハ大抵百歩ニ五升ホドナレドモ、地ノ肥ヘ瘠セト、糞ノ多キ少キ強キ弱キト、蒔付ケノ早キ晩キニテ種子ノ分量ヲ增シ減スナリ、能ク糞シテ早ク蒔キ付クルハ薄ク蒔キ、陰地ニハ少シ厚ク蒔クナリ、草ヲ取ルハ麥ノ生ヒ出デ五六寸ニ成リ

タル時ヨリ、段々見合セ二遍ホド取リテ宜シ、麥ヲ刈リ取ルコトハ九分ノ實ノリノ時ニ取リ掛クルナリ、十分ニ成リテ取リ掛クレバ、取リ終ラヌ前ニ莖クタレ折レテ草ニ入リ、段々手入リ多ク成リ、其ノ上風雨ノ難モアリ、跡ノ作マデモ後クレ、彼レ是レ勝手ニ惡シキナリ、川寄畠ノ麥ハ洪水ノ難アルユヘ、麥ヲ蒔クニ川寄畠ヨリ早ク蒔キ、刈リ取ルコトモ早ク刈リ取ルナリ、川寄畠中分以下ノ洪水ニモ水揚リ畠ニ掛カルベキト思フ處ニハ、麥一作シ秋物ヲ作ラズ、荒ラシ置キテ宜シ、麥木庭ヲ伐ルハ七月中過ギヨリ八月彼岸ノ比マデノ間ニ一日モ早ク伐リ、其ノ伐リ置キタル柴ハ能ク枯レテ、伐株ヨリ出ヅル若立ノ長ジタル時分ニ晴天ヲ見合セテ燒キ、上上木庭、上木庭ノ土ノ厚キハ種子ヲ蒔カザル前ニ一遍耕シ、中木庭、下木庭ノ土ノ薄キハ耕サズシテ土留ノ木ヲ間近ク置キ、直グニ種子ヲ蒔テ宜シ、木庭ニ麥ヲ蒔ク時節モ畠ニ同ジ、日陰木庭ハ日向木庭ヨリ廿日モ廿五日モ早ク蒔テ宜シ、種子ノ分量モ畠ニ同ジ、木庭麥ヲ晩ク取レバ莖クタレテ草ニ入リ手間多ク掛ルニ依リ、畠麥ヨリハ木庭麥ヲ早ク取リテ宜シ、早麥ノ養ハ二遍ニテモ三遍ニテモ年内ニ用ヒテ宜シ、春ニ成リテ糞ヲ入ルレバ實ノリ晩シ、蒔付ノ時節ハ秋ノ土用ノ初ニ早ク蒔キ付ケ、種子ノ分量ハ百步ニ二升五合ホドナリ、小麥ハ小沙ノ交リテ土ノ深キニ宜シ、養ハ一遍ニテ宜シ、養ノ過ギテ肥ヘ過ギタルハ實入リ好カラズ、一遍ノ養モ年内ニ用フルナリ、春ニ成リテ養フハ宜シカラズ、蒔付ノ時節ハ秋ノ土用ノ五日カ十日ホド前ニ蒔キテ宜シト云ヘリ

豆阪郷豆酘村ノ喜右衛門云ヘルハ、上上畠、上畠ノ秋物ヲ取リタル跡ヲ早速平犂ニ仕置キタルヲ又畦犂ニシ、藻搗、和布ヲ敷キテ畦頭ニ麥種子ヲ蒔キ、藻搗、和布ノ隱ルヽ樣ニ蹈耙ニテ犂キ掛クルナリ、養ヲ入レザル畠ハ平犂ニ仕置キ、麥種子ヲ蒔キテ犂キ込ミ、後ニ上ヘヨリ養ヲスルナリ、居糞ニテ養フ畠ハ小畦ヲ立テ溝ニ居糞ヲ敷キ、麥種子ヲ蒔キ畦頭ノ土ニテ覆フナリ、小畦作リノ麥ハ、二月彼岸ノ時分ヨリ三月マデノ間ニ一二度中打スルナリ、小畦作リニテナキ麥ハ、二月彼岸ノ過ギ時分ヨリ艾草ヲ取リ、三月中比ヨリ小草ヲ取リ、青穗ノ出ヅル時分ジ子ヲ取ルナリ、畠ノ養ノ分量ハ一升蒔ニ藻搗、和布ナラバ一駄半ホド、居糞ナラバ二荷ホド入レ、馬糞ハ地ヲ浮ス爲メニ見合セテ入ルヽナリ、麥種子蒔付ノ時節ハ陰畠ナラバ十月ノ節ノ初比ニテ宜シ、西向ノ日向畠ナラバ是亦十月ノ節ノ初比ニテ宜シ、其外ノ日向ノ畠ハ十月ノ節ノ中過ノ比ニ蒔キ付ケテ宜シ、刈取ノ時節ハ五月ノ節ニ入ル時分ヨリ取リ掛クルナリ、中畠ノ養ハ一升蒔ニ藻搗、和布二駄ホド入レ、下畠ニハ一升蒔ニ藻搗、和布三駄ホド入ルヽナリ、麥種子ノ分量ハ日向畠百歩ニ五升ホド、陰畠ニハ分量ヲ增シテ厚ク蒔キ、下畠ノ土薄キニ分量ヲ減ラシテ薄ク蒔キ、十一月十二月ニ麥ヲ蒔ク畠ハ厚ク蒔クナリ、種子麥ハ穗ヲチギリ好ク干シ、毛ヲ燒キ臼ニテ輕ク打チ、好ク曬ラシテ俵ニ入レ置クナリ、川寄畠ハ川端ニ藪ヲ立テ置キ、三尺ホド引キ取リテ作物ヲ仕付ケ、濕氣アル所ハ大畦ニシテ畦頭ニバカリ麥ヲ作クルナリ、麥木庭ハ陰木庭ナレバ七月末比ニ伐リ、八月末比ニ燒キテ耕シ置キ、九月ノ節ノ中比ヨリ十月ノ節ノ初

比マデニ蒔キ、日向木庭ナレバ八月初比ニ伐リ、九月中比ニ燒キテ耕シ置キ、西向ノ木庭ハ九月ノ節ノ中比ヨリ蒔キ、其外ハ十月ノ節ノ中比前後ニ蒔クナリ、種子ノ分量ハ日向木庭ナラバ百歩ニ五升五合ホド蒔キ、陰木庭ナラバ其レヨリ厚ク蒔キ、刈リ取ルニハ五月ノ節ノ初比ヨリ取リ掛クルナリ、早麥ハ麻跡ニ作クルユヘ麻ノ養ヲ用フルナリ、蒔付ノ時節ハ八月ノ節ノ內ニ蒔キテ宜シ、種子ノ分量ハ百歩ニ四升ホド、刈リ取ルコトハ四月ニ取ルナリ、小麥ハ秋物ヲ取リタル跡ノ上中ノ畠ヲ早ク二遍ホド犂テ一升蒔ニ馬糞十二三駄入レ、種子ヲ蒔キ淺ク犂キ込ムナリ、蒔付ノ時節ハ九月ノ節ノ末比ニ蒔キテ宜シ、百歩ニ種子四升ホド蒔キ、刈取リノ時節ハ五月ノ節ノ初比刈リ取ルト云ヘリ、內院村ノ傳右衞門云ヘルハ、早麥ハ蕎麥ニ交ヘテ蕎麥ニ蒔付ルト云ヘリ

今按ズルニ、農業全書ニ云ヘルハ、田ニ小麥ヲ蒔ケバ其ノ跡ノ稻ノ出來好カラズ、小麥ノカラ田ニ入レバ毒ナルユヘナリト云ヘリ、佐護鄕ノ老農ノ說ヲ見ルニ、田小麥ヲ作クルト見ヘタリ、辨ヘテ爲スコトナルカ、未ダ辨ヘズシテ爲スコトナルカ、去年ノ秋伊奈鄕女連村ノ老農ノ云ヘルトテ或ル人ノ語レルハ、農人ノ耕作ニ利多キハ、作所ノコシラヘ宜シクシテ蒔付ノ時ヲ失ワズ、手入レ宜シク養ノ足レルニ依ルナリ、作所ノ廣ク蒔付ノ多キモ、時ヲ違ヘテ手入レ薄ク、養ノ足ラヌハ作得少ナシ、吾等ガ流ハ他村ノ地ヲ錢ヲ出シテ買ヒタルニモ、地位ノ惡シキ所ハ除ケ置キ、好キ所バカリヲ開キ、明ケ時ヲ違フルコトナク、手入レニ怠タルコトナク、去年モ高直ナル鰯ヲ入レケルユヘ、今年ノ樣ナ

ル凶年ノ麥ノ取リ高モ他人ヨリ多シ、麥ヲ蒔ク前ニ畠ノ內ヲ殘ル所ナキ樣ニ一遍踏ミ通シ、麥ヲ鰯ク時ニハ筋ヲ立テ蹈ミ通シ、鍬ニテカキナラシ、小鰯、中鰯ナラバ尾ニ頭ヲ引キ付クルホドニ敷キ、大鰯ナラバ尾ト頭ノ間ヲ四五寸ヅツ明ケテ敷キ、先キニ蹈ミ揚ゲタル畦ノ頭ニ種子ヲ蒔キテ、彼ノ敷キ通リタル鰯ノ上ヘニ種子ノ落ツル樣ニ犂キ掛ケ、其ノ蒔キ通リタル筋ヨリ隣ノ筋ノ間ヲ一尺ト定メ、又右ノ如ク筋ヲ立テ鰯ヲ敷キテ蒔キ通リ、麥生ヒ出デタル時ハ、鰯糞ニ蒔キタルモ、藻糞ニ蒔キタルモ、一尺ト定メタル筋ノ間ダ五寸ニ成リ、後マデ五寸ノ筋ハ立チテ有リケルユヘ、土ヲ掛ケ草ヲ取ルニモ障ワリナシ、麥ノ生ヒ出ルコトハ糞ノ入ラザルカラ蒔キニ、五日モ七日モ早ク生ヒ出デ、鰯糞ニテ蒔キタルハ藻糞ニテ蒔キタルヨリ二三日モ早ク生ヒ出ヅルナリ、藻ヲ糞ニシテ作クルモ、筋ヲ立テ蹈ミ通リ、鍬ニテ並ラシ藻ヲ敷キ、先キニ蹈ミ揚ゲタル畦ノ頭ニ種子ヲ蒔キテ、敷キ通リタル藻ノ上ヘニ種子ノ落ツル樣ニ犂キ掛ケ、段々ト其如ク蒔クナリ、藻モ土ニ掩ワルレバ、程ナクシナヤケルユヘ生ヒ出ルニハ滯ルコトナシ、然レドモ鰯糞ニテ一升蒔キタル地ニハ、藻糞ニテハ一升三合モ蒔クナリ、麥ノ生ヒ出デタル後ハ土ヲ二度カケ、草ヲ取ルコトハ鰯糞ノ畠モ藻糞ノ畠モ同ジ樣ニ取ルナリ、二度ノ土ヲ掛クレバ、始メ畦ノ頭ト見ヘタル所ハ溝ノ如ク深ク成リ、麥ヲ蒔キタル根通リハ畦頭ノ如クニ高クナルナリ、居糞モ鰯糞モ藻糞モ地ニ由リ相應不相應アルユヘ、最初ニ作ル年ニ其ノ考ヘヲ爲ス也、鰯ハ藻ヨリ肥ヘケルユヘ、纔カニ一ツナラビニ入レテモ其ノ畠ノ

內ハ總テ油氣アリ、藻ハ鰯ニ劣レルガ如クナレドモ、モタフルコト强クシテ麥作ノ後ノ秋物ノ糞シニモ成ルナリ、平地ノ畠ニ作クル麥ハ秋物ヲ取リタル跡ニ作クルユヘ、十月ニ入リテ麥ヲ作クルトイヘドモ、土ヲ掛ケ草ヲ取ルニ依リ麥ノ出來ルコトハ、八月九月ニ蒔キタル木庭ヨリハ早ク出來ルナリ、麥ヲ取ルハ半分ハ黄ニ成リ半分ハ青ミアル時ヨリ取リ掛カルナリ、麥粒半分青キ時ニ取リ掛カリテハ、實入リ薄キ粒ノ多カラント皆人ノ云ヒテ、吾等モ初メハ左モアランカト思ヒケレドモ、取リ掛カルヨリ一日一日ト色付キケルユヘカ、實入リ薄キ粒ハ少ナシ、每年其ノ通リニ取リケルユヘ、他人ノ半分取リト云ヘル時分吾等ガ麥ハ取リ終リ、梅雨ニ腐チ捨タルコトナシ、麥ヲ取ルニ穗チギリモ、中刈リ根刈リニ劣ラザルト覺ヘタリ、刈リ取ルハ早キ樣ニアリテモ、作所ヨリ村マデ運ブニ一倍ノ手間入ナリ、干スニモ一倍ノ手間入ナリ、燒クニモ穗バカリ燒クト、莖トモニ燒クトハ違ヒアリ、刈リタル麥ヲ燒クニハ、一斗ノ內ニテ三四合ノ損アルナリ、穗ノ未ダ亂レザル時ニ取レルハ、一穗ヅツ取レルモ手廻シ宜シト云ヘル由語レリ、某郡奉行ト爲レル初年ノ五月ニ、佐護鄕ニテ奉役ト共ニ麥ノ穗チギリ中刈リ根刈リノ手入リヲ試ミントテ、同ジ樣ニ出來タル麥畠ノ中ニテ步數ヲ同ジ程ニ分ケテ取リ收メサセケルニ、中刈リ最モ早ク、其次ニ根刈リ、其次ニ穗チギリナリ、中刈リニハ後レ穗ノ少シ殘レドモ、其ノ分ヲ穗チギリニスルニハ手間入ラズ、是州ノ內ニテモ麥ヲ根刈リニ仕來リ、燒クコトモ藁トモニ燒キ覺ヘタル村ハ取リ收メ最モ早ク、麥粒ノ燒クル損失

少シモナキ様ニ燒キケルト聞ク、兎角仕覺ヘタルコトニ益アリト見ヘケルナレバ、元ヨリ利益ノ勝レルコトヲ仕覺フル様ニアリタキコトナリ、與良鄕鷄知村ノ老農ノ麥ノ少シ實ノリ色付キ青穂マジリノ時ニ、大抵ニ出來タル所ヨリ取ルト云フハ最モ精シキ仕形ナリ、少シ實ノリ色付クトハ、女連村ノ老農ノ云ヘル半分ハ黃ニ半分ハ青キ時ノコトナラン、是ノ如ク仕覺ヘシ老農ハ甚ダ希レニシテ、九分十分ノ實ノリノ時ヨリ取リ掛カルニ利アリト覺ヘシ農人ハ甚ダ多シト聞ク、梅雨ノ節ニテモ間々ニ晴天ノ日アリテ麥ヲ取リテ干シケルニ、障リナキ年ハ九分十分ノ實ノリノ時ヨリ取リ掛カルニ利アルユヘ、其ノ利アル年ノミヲ見テ、梅雨ノ降リ續キケル年大水ノ出ヅル年ノ多キヲ忘レケルナラン、農業全書ニ云ヘルハ、麥ヲ刈ルニハ初メハ先ヅ少シ青穂ヲ交ヘテ刈ルホドニナクテハ、終リニ梅雨ノ恐レ有リト云ヘリ、是州ハ麥ノ實リ他ノ諸州ヨリ晩キ故、少シ青穂ノ交リタル時ヨリ刈リ初メテハ、刈ルコトノ未ダ半バナラヌ前ニ梅雨ニ逢ヘリ、終リニ梅雨ノ恐レアリト云フニテハナキト見ヘタリ

大豆

豐崎鄕舟志村ノ市右衞門、大增村ノ善右衞門、濱久須村ノ又右衞門云ヘルハ、大豆ヲ蒔クニ上上品、上品百歩ニハ一升五合ホド五月末比ニ蒔キ、中品、下品百歩ニハ二升ホド五月中比ニ蒔キ、木庭百歩ニハ二升八合ホド梅雨ニ入リテ蒔キ、取リ收メハ大豆ノ葉半分ホド落タル時ニ取リ掛リテ宜シト云ヘリ、

鰐浦村市兵衛、西泊村兵左衛門云ヘルハ、大豆ヲ蒔クニ上上畠、上畠百歩ニハ二升ホド蒔キ、中畠、下畠ニハ二升五合ホド蒔キ、木庭百歩ニハ三升ホド蒔キ、春畠ニ大豆ヲ作クルハ四月末比ヨリ五月初比マデ作クリテ宜シト云ヘリ

佐護郷仁田内村ノ六郎右衛門、井口村ノ源右衛門、佐須奈村ノ長左衛門云ヘルハ、冬春夏ノ間ダ中畠、下畠ヲ活カヤシニ仕置キタルニ、半夏生ノ前後ニ大豆ヲ蒔付ケ、上ニ近キ畠ニハ夏ノ土用ノ初マデニ蒔付タルモ妨ゲナシ、下下ノ畠ヨリ早ク蒔付ケテ宜シ、大豆ノ草ヲ取ルハ土用過ギニ一番草ヲ取ルナリ、八月ノ節ノ内ニ二番草ヲ取レバ、大豆ノ出來殊ニ好ケレドモ手ニ及ビ難キユヘ、二番草マデ取ルコトハ希レナリ、大豆ヲ取リ收ムルハ秋ノ土用過ギ十四五日比ヨリ取リ收ムルナリ、其ノ時ヲ失ヘバハツケ捨リテ損多シ、大豆畠ニハ養ヲ入ル丶コトナシ、宜キ時節ニ蒔キ草ノナキ様ニ手入レスルマデナリ、大豆ヲ蒔クニ日陰ハ少シ薄ク蒔クナリ、日陰大豆ハ葉晩ク落ツルユヘ、薄ク蒔クニテナケレバ、大豆ノサヤニ落葉ノ掛ルニテ實ノリ好カラズ、大豆ニ限ラズ、秋物ノ類ハ肥地ニ種子薄ク蒔キ、瘠地ニ種子厚ク蒔キ、大豆ハ殊ニ上畠ニハ別シテ薄ク蒔キ、下下ノ畠ニハ別シテ厚ク蒔クナリ、上畠ニ厚ク蒔ケバ實ノリナク、下下ノ畠ニ薄ク蒔ケバ大豆フトラズ、草多ク生ジテ出來甚ダ少ナシ、地ニ應ジ加減シテ蒔クコト肝要ナリ、上上畠、上畠百歩ニハ大豆種子三升ホド蒔キ、下畠ニハ七升ホド蒔キ、中畠ニハ上畠、下畠ノ考ヘニテ蒔クナリ、大豆ヲ蒔クニ春畠ハ少シ濕ヒアル時ニ蒔キ、下畠ハ別シテ濕ヒア

ル時ニ蒔キテ宜シ、麥跡ニ大豆ヲ蒔クモ好キホドノ濕ヒノ時ニ蒔キテ宜シ、地ノ乾キタル時ニ蒔キテ其後五六日モ雨降ラザレバ、大豆ノ帶キレテ生ヒ出デズ、蒔キ付ケタル日ニ若シ大雨ノ降レバ、土ヲタヽキ付ケ大豆生ヒ出デズ、其レモ土地ニ依ルナリ、沙ノ交ラズ土バカリナル處ハ右ノ通リナレドモ、沙地ハ左ノミ妨ゲザルト云ヘリ

伊奈郷鹿見村ノ兵右衛門、伊奈村ノ八郎右衛門云ヘルハ、大豆ヲ蒔クハ百歩ニ一升五合ホド半夏生ヨリ六月土用ノ前マデ蒔クナリ、取リ收メハ九月末ヨリ十月初マデ取リ收ムルト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衛門云ヘルハ、大豆ヲ作クルニハ養ヲ入ルヽコトナシ、陰地ニ作クレバ實ノリ好カラヌユヘ、日向ニ蒔クヨリハ早ク蒔クナリ、蒔付ノ時節ハ麥ヲ刈リ取リタル後梅雨ノ入リ時分ニ耕シ置キ、木庭大豆ハ半夏生ノ前後ニ蒔キ、畠大豆ハ梅雨ノ晴レタル後チ土濕ヒ未ダ去ラズ、宜キホドノ濕ト思ヘル時ニ蒔クナリ、種子ノ分量ハ百歩ニ上上畠ハ一升二三合ホド、上畠ハ一升五合ホド、中畠ハ二升ホド、下畠ハ二升五合ホド蒔クナリ、取リ收メハ大豆ノ葉落チテサヤ莖トモニ青キ色ノ去リタル後チ、九月下旬ヨリ十月中旬マデノ間ニ取リ收ムルト云ヘリ

仁位郷田村ノ吉右衛門、佐保村ノ三吉云ヘルハ、大豆ノ種子ノ分量ハ百歩ニ上上畠ハ一升ホド蒔キ、上中下ノ畠ハ段々ト厚ク蒔クナリ、養ヲ入ルヽコトハナシ、蒔ノ時節ハ五月中比ヨリ蒔キ付ケ、取收ノ時節ハ十月中比ヨリ段々取リ收ムルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衛云ヘルハ、大豆ヲ作クルハ麥跡ノ畠ニテモ木庭ニテモ、四月末ヨリ六月ノ土用ニ入ル四五日前マデ作クルナリ、雨ノ降ル時ニ蒔クハ宜シカラズ、晴天ニナリテモ土ニ濕ヒ强ク、土ネバリカタマリタル時ニ蒔クハ宜シカラズ、蒔キ樣ハ散ラシ蒔キニスルナリ、木庭ノ穩ナル處ト草ナキ處ハ、麥跡ニ大豆ヲ蒔キテ即チ牛ニテ犂キ置クコトモアレドモ、其ノ仕形ハ宜シカラズ、梅雨ノ內ニサラサラト一番犂ヲ仕置キ、十日カ十四日過ギテ種子ヲ散ラシ蒔キニシ、又牛ニテ犂キ其ノマヽデ置クナリ、若シ草ノ多キ畠木庭ナレバ熊手ニテサラサラトカキ草ヲ除クルナリ、種子ノ分量ハ百歩ニ四五升ホド蒔クト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衛門云ヘルハ、大豆ヲ蒔クハ半夏生ノ前後ニ蒔キテ宜シ、大豆ヲ蒔クベキ畠ハ麥跡ヲ一遍カヤシ、十日カ十五日過ギテ蒔付ケ、草ヲ取ルコトハ力サヘ及ブナラバ二三遍モ取リテ宜シ、養ヲ入ルヽコトハナシ、刈リ取ルハ十分ニ實ノリタル時ニ取ルナリ、種子ノ分量ハ百歩ニ上畠ハ一升五合ホド、中畠下畠ハ二升ホド蒔クト云ヘリ

佐須郷阿連村ノ平助云ヘルハ、大豆ヲ作クルハ麥ヲ刈リ取リタル跡ヲ早ク犂カヤシ、十日ホド間ヲ置キ又犂カヤシ種子ヲ蒔クナリ、蒔付ノ時節ハ夏至ヨリ半夏生ノ間ニ一日モ早ク蒔タルホド實ノリ好シ、種子ノ分量ハ畠ノ上中下トモニ百歩ニ一升ホド蒔クナリ、草ヲ取ル時節ハ苗六七寸ノ時ヨリ花ノ開ク前マデ、力ノ及ビ一二遍モ取ルナリ、刈リ取ルハ十分ニ實ノリ葉ノ悉ク落チタル後ニ取リテ宜シ、畠木庭トモニ大豆ハ陰ノ處ノ出來好シ、木庭ノ床ト山畠ノ二三年モ荒シ置キタル處ハ、三月四月ノ間ダ一

二遍モ力ノ及ビ穉カヤシ、夏至ノ時分ニ蒔キテ宜シ、是レヲ春作クリト謂フ、種子ノ分量ハ百歩ニ一升五合ホド蒔クナリ、草ヲ取ルモ刈シホモ畠ニ同ジ、麥跡ノ本庭ノ床ト山畠ニ蒔クハ、麥ヲ刈リ取リタル跡ヲ早ク穉カヤシ、十日ホド間ヲ置キ又穉カヤシ、直グニ種子ヲ蒔キテ宜シ、是レヲ夏作クリト謂フ、種子ノ分量モ刈リ收ムル時節モ春作クリニ同ジ、中本庭、下本庭ニハ大豆ヲ作クラズト云ヘリ

豆酘郷豆酘村ノ喜右衛門云ヘルハ、大豆ヲ作クルハ、麥跡ヲ犂キ置キテ作クリ、七月ニ一遍草ヲ取ルナリ、蒔付ノ時節ハ半夏生時分ヨリ蒔キ、種子ノ分量ハ百歩ニ二升二合ホド蒔キ、下畠ノ土淺キ所ハ種子ヲ厚ク蒔クナリ、取リ收メハ九月ニ取リ收ムルト云ヘリ

今按ズルニ、八郷ノ内ニテ西海ニ出タル所ニ作所アル村々ハ、秋ニ至リテ西風ノ當タリ強ク、秋物ヲ種ヘテモ利ヲ得ルコト少シ、曾テ某肆養父ノ農人ノ云ヘルヲ聞クニ、夏大豆ハ三月ノ節ノ中比ニ蒔キテ、七月ノ節ノ中比ニ刈取ルト云ヘリ、農業全書ニモ夏大豆ヲ蒔クハ三月ノ節ノ初比ヲ上時トシ、四月ノ節ノ初比ヲ下時トスト云ヘリ、然レバ秋風ノ強ク當タル作所ニハ麥ヲ畦種ヘニシ、麥ノ間ニ夏大豆ヲ蒔キ出來ヲ考フベキコトナリ、或人ノ語レルハ、豊崎郷西津屋村ヨリ毎年賣リ出ダス多葉粉ハ大分ノ斤數ナリ、八郷ノ内ニテ多葉粉ヲ府中ニ賣出スコトノ多キハ、西津屋ニ過ギタル村アルマジ、秋ノ大風ニ多葉粉損毛セシト云ヘルコト廿年以來度々ナレドモ、彼ノ村ノ多葉粉ノ損毛セシト云フコトヲ終ヒニ聞カズ、彼ノ村ニテ多葉粉ノ種ヲ蒔クハ、日當テノ好キ地ニ前年ノ冬ヨリ土

ヲ細カニコナシ、糞ヲ入レ、何遍モ其ノ如クシ、雨ノ當ラヌ圍ヒヲ仕置キ、春ニ至リテハ彼岸ヲ待タズシテ長閑ナル日ニ種子ヲ蒔クユヘ、他ノ村ノ種子蒔ニ十日モ十五日モ早ク、苗ノ少シ生ヒ出ヅレバ厚キ所ヲ間引捨テ、段々手入レシケル故他ノ村ノ苗ヨリハ早ク成長シ、種フルモ他ノ村ハ麥ヲ取リタル跡ニ種フレドモ、彼ノ村ニテハ四月ノ中比ニ成レバ麥ノ間ニ種ヘ、麥ノ實ノリテ取ル時分ニハ苗ノ在リ附キタシカニ成リ、其レヨリ草ヲ取リ土ヲ掛クル手入ヲ精シクスルユヘ、六月中比ハ葉ヲカグホドニ成リ、段々ト取リ掛ケテ七月ノ初比ハ取リ終リ、度々ノ風損ヲ免ルヽト語レリ、西津屋村モ西海ニ出張リテ秋風ノ強ク當タル村ノ内ナレドモ、人事ニテ天災ヲ防グナレバ、郷村惣體ノ農人心得アルベキコトナリ

小豆

豐崎郷舟志村ノ市右衛門、大增村ノ善右衛門、濱久須村ノ又右衛門云ヘルハ、小豆ノ種子ノ分量ト蒔付ノ時節ハ、百歩ニ上畠ハ二合五勺ホド夏ノ土用ノ入リ時分ニ蒔キ、中畠、下畠ハ三合ホド梅雨ノ過ギタル時分ニ蒔キ、木庭ハ四合五勺ホド梅雨ノ中過ギ時分ニ蒔キ、取リ收メノ時節ハ、小豆ノ葉ノ半分ホド落チタル時ニ取リ掛カルト云ヘリ、鰐浦村ノ市兵衛、西泊村ノ兵左衛門ト云ヘルハ、小豆ノ種子ノ分量ハ百歩ニ上畠ハ三合五勺ホド、中畠、下畠ハ五合ホド、木庭ハ六合ホド蒔クナリ、大豆畠

モ小豆畠ヲ畦作リニシ、馬牛ニテ土ヲ二三遍カクレバ、草ヲ取ルニ及バザルト云ヘリ

佐護郷ノ老農云ヘルハ、小豆ハ麥跡ノ木庭ニ梅雨ノ内ヨリ土用ノ内迄作ル也、種子ハ百歩ニ二升ホド蒔キ、草ヲ取ルハ土用過ギテ取リ終ルナリ、肥地ハ薄ク蒔キ、瘠地ハ厚ク蒔クナリ、小豆ノ出來ノ好キト云フ年ハ希ナリ、取リ收メノ時節ハ秋ノ彼岸ノ過ギ比ヨリ土用ノ初比マデニ取リ收ムルト云ヘリ

伊奈郷鹿見村ノ兵右衛門、伊奈村ノ八郎右衛門云ヘルハ、小豆ヲ蒔ク時節ハ大豆ニ同ジ、百歩ニ五合ホド蒔キ、九月初比取リ收ムルト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衛門云ヘルハ、小豆ヲ作クルニ養ヲ入ルヽコトナシ、陰地ハ宜シカラズ、蒔付ノ時節ハ夏ノ土用ノ入リ時分ノ晴天ノ日ニ蒔キ付ケ、種子ハ百歩ニ一升ホド蒔キ、中畠、下畠ニ作クルナリ、牛猝ノ木庭ナレバ一升五合ホド蒔キ、晴天ノ時ニテモ小雨ノ降ル時ニテモ障リナシ、取リ收メノ時節ハ八月下旬九月上旬小豆ノ葉黃色ニ成リ、サヤ十ノ内ニテ四ツ五ツハ黑ク、五ツ六ツハ黃ナル時ニ取リ收ムルト云ヘリ

仁位郷ノ老農云ヘルハ、小豆ハ畠百歩ニ種子五合ホド蒔キ、養ハ入レズ、五月中比ヨリ蒔キ付ケ、大豆ト同ジ時節ニ取リ收ムルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衛云ヘルハ、小豆ヲ作クルモ大豆ヲ作クルニ同ジ、木庭ハ少シ早ク蒔キ、畠ハ少シ遲ク蒔クナリ、大抵四月末ヨリ六月土用ノ三日ホド前マデ作クルナリ、早ク作クレバ實入リ好カラ

ズ、晩ク作クレバ實入好シ、養ヲ入ルヽニハ及バズ、種子ノ分量ハ畠百歩ニ一升二三合蒔クナリ、肥地ニ作クリテハ宜シカラズ、瘠セ過ギザル下畠ニ作クリテ宜シ、木庭ニ作クルモ右ニ同ジ、中下ノ畠木庭ニ作クルハ、先ヅ下ノ畠木庭ヨリ作クリ、其ノ後ニ中ノ畠木庭ニ作クルト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衞門云ヘルハ、小豆ハ麥跡ノ畠ヲ一遍カヤシ置キ、五月ノ中過ギニ蒔クナリ、刈リ取ルハサヤ三分二ホド黑ミタルト見フル時ニ刈ルナリ、養ハ入ルヽコトナシ、木庭ノ床ノ麥跡ニ作クル時ハ鍬ニテ作クリ、或ハ半ニテ犂キ込ムナリ、百歩ノ種子ハ七合ホド蒔クト云ヘリ

佐須鄕阿連村ノ平助云ヘルハ、小豆ヲ作クルハ大抵大豆ヲ作クルニ同ジ、半夏生ノ比ヨリ土用ノ入リノ比マデ作クリ、百歩ニ種子六七合ホド蒔クナリ、刈シホハ十分ニ實ノリ能ク枯レタル時ニ刈リテ宜シ、中下ノ木庭ニハ小豆ヲ作ラズト云ヘリ

豆酘鄕豆酘村ノ喜右衞門云ルハ、小豆ヲ作ルハ木庭ノ諸作ノ跡ノ好キ地ヲ、春犂トテ三四月ニ犂キ置キ半夏生ノ過ギ時分ニ作リ、百歩ニ種子一升五合程蒔キ、草ハ七月ニ一遍取リ九月ニ刈收ムルト云ヘリ

今按ズルニ、鄕村ノ人ノ云ヘルハ、壯年ニテ强健ナルハ大麥、粟、蕎麥ヲ飯トシテ脾胃ノ養ヒ足リヌレドモ、老年ニテ虛弱ナルハ甘味ノ足ラザルト覺フルコトモアリ、是ノ如クナル時ニ小豆ヲ大麥ニ交ヘテ食スレバ、脾胃ノ養ヒ足レルト云ヘリ、然レバ稻ノ乏シキ州ニテハ、小豆ヲモ民用ニ切ナルモノト爲スベキコトナリ

粟

豐崎鄕舟志村ノ市右衛門、大増村ノ善右衛門、濱久須村ノ又右衛門云ヘルハ、畠粟ハ五月下旬ニ蒔キ、上畠百歩ニ種子一合五勺ホド木庭粟ハ五月中旬ニ蒔キ、百歩ニ種子三合五勺ホド、麥跡ニハ四合ホド蒔クナリ、取リ收メハ八月中比ヨリ刈リ取ルト云ヘリ、鰐浦村ノ市兵衛、西泊村ノ兵左衛門云ヘルハ、畠粟ハ上畠百歩ニ二合ホド蒔キ、木庭粟ハ百歩ニ四合ホド、麥跡ニハ五合ホド蒔クト云ヘリ

佐護鄕仁田内村ノ六郎右衛門、井口村ノ源右衛門、佐須奈村ノ長左衛門云ヘルハ、木庭ニ粟ヲ作クルハ昔ヨリ陰ノ深ク地ノ惡シキ木庭ヲ粟木庭ト定メ置キテ作クルナリ、冬木アル處ハ冬ノ内ヨリ伐リ掛ケ、夏木アル處ハ春ニ成リ木ノ芽ノ出ヅルヲ待テテ伐リ明ケ、四月末五月初ニ木庭ヲ燒キ、梅雨ノ内半夏生ノ過グル時分粟ニ辛子ヲ加ヘ蒔キ付クルナリ、生ヒ立チテモ晴天ニ成レバ消フルコトアルユヘ、梅雨ノ内ニ蒔キ終リテ宜シ、種子ハ木庭百歩ニ一升ホド、辛子種子一合五夕ホド交ヘテ蒔クナリ、六月土用ノ内ノ晴天ノ日ニ草ヲ拔キ、其後ハ八月ノ中比穗ニ出デ實ノ入リカヽルヲ見合セテ穗サラヘシ草ヲ除ケ、早粟ハ八月彼岸ノ過グル比ヨリ實ノルユヘ段々取リ收ムルナリ、粟ハ粒ノ殊ニ小サキ物ナルユヘ、取リ分ケ十分ニ實ヲ入レタルガ宜シキト云ヘリ

伊奈鄕鹿見村ノ兵右衛門、伊奈村ノ八郎右衛門云ヘルハ、粟ハ梅雨ノ終ル時分ニ蒔キ、春粟ハ梅雨ノ前

ニ蒔キテ宜シ、種子ハ百歩ニ五合ホド蒔キ、取リ收メハ九月ノ初ヨリ取ルト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衛門云ヘルハ、粟ヲ畠ニ作クルハ麥跡ニ地ゴシラヘヲ仕置キ、梅雨ノ過ギテ晴天ニ成リ、濕氣ハ未ダ乾カザル時ニ耕ジテ種子ヲ蒔キ、鍬ニテ地ヲ並ラシ塊ナキ様ニシテ宜シ、上畠ナレバ養ヲ入レズ、下畠ナレバ糞水ノ養ニテ作クルナリ、刈リ取ルハ十分ニ實ノリ、穗莖葉トモニ黄ニ成リタル時ニ穗ヲ切リ取ルナリ、畠ハ請持ノ分ノ不足ナルユヘ、粟ヲ畠ニ作クルコトハ少シ、粟木庭トテ木庭ヲ伐リ作クル者モアリ、麥跡ノ木庭ニ作クル者モアリ、晴天ノ日ニ蒔キテ宜シケレドモ、梅雨ノ內ニ作クルナレバ小雨ノ降ル時ニテモ障リナシ、百歩ニハ五六合蒔クト云ヘリ、佐賀村ノ平兵衛云ヘルハ、畠少ナキ故ヘ粟ヲ畠ニ作クルコト希ナリ、木庭ニ作クリテ養ハ入レズ、畠ニ作クルハ上畠ニ作クルユヘ、是亦養ヲ入ルヽコト希レナリ、木庭百歩ニハ種子五合ホド蒔クト云ヘリ

仁位郷田村ノ吉右衛門、佐保村ノ三吉云ヘルハ、粟ヲ作クルハ百歩ニ三合ホド蒔キ養ヲ入ルヽコトナシ、五月ノ節ノ初ヨリ段々ニ作クリ、九月ノ節ノ初ヨリ段々ニ取リ收ムルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衛云ヘルハ、荒ラシ畠ニ粟ヲ作クルハ、四月ノ比ヨリ幾度モ犂置キ、麥跡ニ作クルニ二三度犂クナリ、兩様ノ畠トモニ六月ノ土用ニ入ル四五日前ニテモ後ニテモ、地ノ濕ヒ未ダ乾カザル時ニ作クルナリ、早ク作クレバ、草多ク生ジ手入リ多ク、其ノ上ヘ實ノリモ好カラズ、粟ハ畦種ヘニシテ宜キト聞キタレドモ、畦種ヘニシタルコトハナク、散ラシ蒔キニシ薄ク間引キ、折々草ヲ取

ルナリ、木庭ニ作クル粟ハ梅雨ノ内ニ蒔キ、厚ク蒔カズサラサラト作クルナリ、木庭粟ヲ梅雨ノ前ニ作クレバ實ノリ好カラズ、梅雨ノ後ニ作クレバ生ヒカヌルコトアリ、畠粟ニテモ木庭粟ニテモ養ヲ用ヒタルコトナシト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衞門云ヘルハ、畠粟ハ畠ヲ耕シ杷ニテカキナラシ、草ヲ除ケ土ヲシヅメ、種子ヲ蒔キテ杷ニテカキ込ムナリ、村ニ依リ畦作クリニスルモアリ、木庭粟ハ春ノ内ニ木庭ヲ伐リ置キ、時分ヲ見合セテ燒キ、梅雨ノ内ニ蒔付ルナリ、力サヘ及ベバ六月ニ草ヲ二遍ホド取リテ宜シ、畠百歩ニハ種子五合ホド、木庭百歩ニハ種子六合ホド蒔クト云ヘリ

佐須郷阿連村ノ平助云ヘルハ、粟ノ種子ハ十分ニ實ノリテ色ノ好ク穗ノ大キナルヲ撰ビ、能ク干シカチテ收メ置キ、前年蕎麥ヲ作クリタル木庭ニ作クルナリ、種子ヲ蒔カザル前ニ耕スコトハナシ、蕎麥跡ニ直チニ作リテ宜シ、蒔付ノ時節ハ二月ノ節ノ内ヨリ四月マデ段々蒔付ルヲ春作クリト云フ、種子ハ百歩ニ五合ホド、草ヲ取ル時節ハ粟ノ苗五六寸ノ時ヨリ段々ト二遍ホド取リ、刈リシホハ十分ニ實ノリ青穗少シモナキ時ニ刈リ取ルナリ、粟ヲ麥跡ノ木庭ニ作クルハ、麥ヲ刈リ取リテ段々夏至ノ後廿日比マデ作クルナリ、是レヲ夏作リト云フ、種子ノ分量モ取收メノ時節モ春作クリニ同ジ、粟ハ陰地ノ出來却テ日向ヨリ好シト云ヘリ

豆酘郷豆酘村ノ喜右衞門云ヘルハ、粟ハ麥跡ノ木庭ヲ犂キ置キ、半夏生ノ前後ニ作クリ、犂キ置カザル木庭モ同ジ時節ニ作クルナリ、種子ハ百歩ニ六合ホド蒔キ、取リ收メハ九月ニ取リ、畠ニハ粟ヲ作

クラザルト云ヘリ

佐須鄕奉役ノ云ヘルハ、鄕中ニテ老農モ畠粟ヲ作クリ覺ヘザルト云ヒケルユヘ、先年試ミニ作クラセシナリ、其ノ作クリ樣ハ麥跡ノ畠ヲ早ク犂カヤシ、十日ホド間ヲ置キ又犂カヤシ、半夏生ノ時分晴天ノ日ニ耙ニテ竪横三遍カキ、麥藁ヲ悉ゴトク取リ除ケ、塊ヲ細カニ碎キ、畦筋ノ幅一尺五寸ホドニ切リ、溝ニ種子ヲ蒔キ、畦筋ノ頭ヲ鍬ニテ輕ク並ラセバ、溝ニ土ノ散リ落ツルニテ種子ヲ覆フナリ、其ノ上ヘヲ輕ク踏ミ付ケ置キ、苗生ヒ出デ三四寸ノ時ニ一遍中打チシ、苗六七寸ノ時ニ厚キ所ヲ草ニ取リ添ヘテ間引キ、三四寸ヅツ間ヲ置キ苗一本ヅツ立テ、其時ニ又一遍中打チシ、其後モ苗ノ長ゼザル前ニ見合セテ一遍中打チシケルニ、秋ニ至リテ九分ホドノ出來ト見ヘ實ノリ好ク、上上畠一段ノ出來高三石ニ少シ餘レリ、近年ハ鄕中ニテ久根村、上槻村ナド段々畠粟ヲ多ク作クルト云ヘルナリ

今按ズルニ、佐須鄕ノ農人ノ畠粟ヲ作クリ覺ヘザルトテ奉役ヨリ試ミニ作クラセ、以前畠粟ヲ作クラザル農人モ段々ニ多ク作クレルナレバ、畠粟ニ利アルコトヲ覺ヘシナラン、奉役ノ是ノ如クナルハ農事ヲ敎フルニ心ヲ用フルト謂ベシ

蕎麥

豐崎鄕舟志村ノ市右衞門、大增村ノ善右衞門、濱久須村ノ又右衞門云ヘルハ、蕎麥ハ七月中旬ニ蒔キ、

上畠百歩ニ種子二升ホド、中畠、下畠ハ三升ホド、木庭百歩ニ四升ホド、木庭ノ地位ニ應ジテ增シ減ラスナリ、取リ收メハ蕎麥ノ實ノ半分ホド黑ミタル時ニ刈リ取ルト云ヘリ、鰐浦村ノ市兵衞、西泊村ノ兵左衞門云ヘルハ、蕎麥ハ上畠百歩ニ二升五合ホド、中畠、下畠ハ五升ホド蒔クト云ヘリ

佐護郷仁田內村ノ六郎右衞門、井口村ノ源右衞門、佐須奈村ノ長左衞門云ルハ、蕎麥木庭ヲ伐ルニ下木庭ハ四月ノ中比ヲ過ギ、木ノ若立チ若葉ノ少シ强ク成ル時分ヨリ伐リ、上上木庭、上木庭ハ夏ノ土用ノ半迄伐テモ妨ナシ、下木庭ハ梅雨ノ中比ヨリ前ニ伐終ラザレバ、木庭ノ養ニ成ラズ、蕎麥木庭ヲ燒クハ土用ノ過ル時分ニ燒キ終リ、霜ノ早ク降ル處ハ七月ノ節ノ中比ヨリ前ニ作リ終ル樣ニスルナリ、蕎麥ヲ作ルハ七月ノ節ノ中ヨリ、五日前ヘ五日後チ合テ十日ノ內ニ作リ終ル積リニ心當テ、其ノ十日ノ內ニテ晴天ノ日ノミ作リ、雨降ル日ハ小雨ニテモ宜シカラズ、蕎麥木庭ハ木ノ多ク立チタル木庭ヲ撰ビ、四月ヨリ五月迄ノ間ニ伐置キ、暑氣ニ久シク蒸シテ養トスルナリ、燒ケカ子タル木庭ハ必ズ出來好カラズ、日陰ニハ種子ヲ薄ク蒔ク也、早ク作リテモ出來ハ晩シ、木庭ノ肥タル處ニハ種子ヲ薄ク蒔キ、瘠セタル處ニハ種子ヲ厚ク蒔キテ宜シ、蕎麥木庭ノ草ヲ取ルハ蕎麥ヲ作リ終リテ後廿日目ホドニ、シタノ木ノ芽立チ其ノ外ノ草アルヲ取リ捨ツルナリ、刈リ取ルニハ早蕎麥ヲ秋ノ土用ノ中比ヨリ取リ掛ケテ段々ニ取ルナリ、蕎麥ヲ七月ノ節ノ中ヨリ前ニ作クリタルハ實ノ數少ナク、中ヨリ後ニ作クリタルハ實ノ數多シ、然レドモ晩蕎麥ハ實ノ入リ揃ハザル內ニ實入リ止ミ、早蕎麥ハ實ノ數ノ少ナクテモ殘

ラズ實ノルユヘ、早蕎麥ニ利益アリ。其年ノ氣候ニヨリ晩蕎麥ノ利益ノ勝サル年モアレドモ、其レハ希レナルコトナリ、兎角早キガ宜シキト覺ヘタルト云ヘリ

伊奈鄉鹿見村ノ兵右衛門、伊奈村ノ八郎右衛門云ヘルハ、蕎麥ハ七月ノ中比ニ蒔キ、百歩ニ種子三升五合ホド秋ノ土用ノ末比ニ取リ收ムルナリ、旱年ニハ陰地ノ出來好ケレドモ、雨多キ年ニハ陰地ノ實入リ好カラズ、蕎麥ニテモ粟ニテモ其外ノ諸作ニテモ、陰地ニハ蠅氣スルコトアリテ害多シ、日向ハ大旱ニ痛ミアレドモ害少ナク、同ジ出來ノ樣ニ見ヘテモ五割ホドハ增シアリ、陰地日向ノ蒔付ノ時節ハ麥ノ蒔付ノ時節ニ同ジト云ヘリ

三根鄉三根村ノ利右衛門云ルハ、蕎麥ヲ畠ニ作ルニ上畠ナレバ養ヲ入レズ、下畠ナレバ馬糞ヲ入レ、又ハ糞水ヲ掛ケ地拵ヘヲ仕置キ、晴天ノ日蒔付クルナリ、上畠ナレバ百歩ニ種子一升五合二升程蒔キ、下畠ナレバ三升モ四升モ蒔キ、地ノ位ト作人ノ心ニテ增シ減ラスナリ、蕎麥木庭ニハ養ヲ入レズ、蕎麥蒔付ノ時節ハ七月ノ中ヲ眞中ニ立テ、陰畠、陰木庭ト地位惡キ處ハ、七月ノ中ノ五六日前ニ作リ、日向ハ七月ノ中ノ前後ニ掛テ作ル也、刈取ル時節ハ蕎麥粒ノ莖一本ノ內ニテ、三分ノ二モ其餘モ好ク實ノリ、蕎麥ノ葉ノ黃色ニ成レル時ニ刈取ル也、陰木庭ハ實ノリ晩キユヘ、蒔付ケテ後八十日程過ギタル時ニ取掛カリ、日向木庭ハ六十五日七十日程過ギタル時ニ取掛カル也ト云ヘリ、木坂村ノ助右衛門云ルハ、蕎麥ハ畠ニ作ルモ木庭ニ作クルモ養ヲ入ルル事ナシ、地位ノ甚ダ惡キ處ニハ希レニ馬糞

ヲ入レ糞水ヲ掛ル事モアリ、好キ地ニハ百歩ニ種子三升程、惡キ地ニハ四升程蒔キ、好キ地ニハ七月ノ中ノ前後ニ作リ、惡キ地ト西風ノ強ク當ル處ハ、七月ノ中ノ七八日前ニ作リ掛カルナリ、早ク作レバ作得少ナケレドモ、晩ク作リテハ西風ノ冷氣ニ過ヒ風ニ痛ム故早ク作クルト云ヘリ

仁位郷田村ノ吉右衛門、佐保村ノ三吉云ヘルハ、蕎麥ヲ木庭ニ作クルニ百歩ニ種子六升ホド蒔キ、養ヲ入ルヽコトハナシ、七月ノ中ノ十日前ヨリ段々ニ蒔キテ、蒔キタル日ヨリ七十五日八十日ホドニ當タル時ニ取リ掛カルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衛云ヘルハ、荒シ畠ニ蕎麥ヲ作ルハ五月ヨリ二三度犂カヤシ、麥跡ニ作クルハ一度犂カヤシ、七月ノ中ヨリ十四五日前ニ作クリ掛カルナリ、種子ハ麥一斗蒔ニ五升ホド蒔クナリ、木庭ニ作クルハ畠蕎麥ヲ作クリ終リテ、七月ノ中ノ前後十五日ノ間ニ作クルナリ、種子ハ木庭ニ蒔ク麥種子ノ半分ト心得テ宜シ、蕎麥木庭ハ日陰ニテモ日向ニテモ差シテ替ルコトナシ、畠木庭トモニ蒔キ時分ノ早過ギタルハ實ノ數少ナク、晩キハ風霜ニ損ズルナリ、早蒔ノ好キ年モアリ、晩蒔キノ好キ年モアリ、蕎麥ヲ作クル木庭ハ陰ニテモ日向ニテモ、四月ヨリ五月ノ梅雨マデノ間ニ伐リ終リ、久シク枯ラシ置キタルヲ六月ノ土用ノ内晴天ノ續キタル時分ニ燒キ、木庭ゴシラヘヲ仕置キテ作クル時節ヲ待ツナリ、蕎麥ニ限ラズ、秋物ノ木庭ハ木庭ノ畔ニ木ノ葉ヲ留ムル防ギヲ仕置キテ宜シ、作物ノ内ニ木ノ葉ヲ吹キ入ルレバ、作物ノ根ニ日當ラズシテ宜シカラズト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衛門云ヘルハ、蕎

麥木庭ニハ養ヲ用ヒズ、中下ノ畠ニ養ヲ入レズシテ作クレバ出來甚ダ少ナキユヘ、蕎麥畠ニハ少シヅツ養ヲ入ルヽナリ、七月ノ中ノ十日ホド前ヨリ畠ノ蕎麥ヲ作クリ掛ケ、七月ノ中ノ後ヨリ木庭ノ蕎麥ヲ作クリ掛ケ、刈リ收メハ蕎麥ノ粒ノ三分二ハ黑ク三分一ハ白キ時ヲ刈シホト定ムルナリ、上畠百歩ニ種子四升ホド蒔キ、中下ノ畠ハ相應ニ增シ、木庭ノ蒔種子モ大抵畠ニ同ジト云ヘリ

佐須鄕阿連村ノ平助云ヘルハ、蕎麥ヲ作クルハ麥跡ノ畠ヲ頓テ犂カヤシ、草ノ少シ生ヒタル時ニ又犂カヤシ、其ノ後モ天氣ノ好キヲ見合セ、力ノ及ビ數遍犂カヤシ、土ノ乾キテ灰ノ如クナルニ蒔キテ宜シ、蒔付ノ時節ハ七月ノ中ノ十日ホド前ヨリ七月ノ中ノ十日ホド後マデノ間ニ蒔クナリ、風ノ强ク當タル處ハ右ノ時節ヨリ少シ早ク蒔キテ宜シ、種子ノ分量ハ百歩ニ上上畠、上畠ナラバ二升ホド、中畠、下畠ハ段々ト多ク蒔クナリ、蕎麥畠ハ草ヲ取ル事ナシ、刈シホハ粒ノ半分ホド黑ミタル時ニ刈リ、風ノ强ク當タリ霜ノ早ク降ル所ナドハ、三分一黑ミタル時ニ刈リテ宜シ、蕎麥木庭ノ明ケ前モ麥木庭ニ同ジ、奥山ノ冬木多キ庭ノ木庭ハ二月ヨリ四月マデ段々ニ伐ルナリ、是レヲ春伐リト云フ、尾崎山ノ夏木多ク水草ノ多キ所ノ木庭ハ、五月ノ節ノ初ヨリ夏至ノ前マデ伐ルナリ、是レヲ夏伐リト云フ、手後クレニ成レバ六月ノ土用ノ比マデモ伐レドモ、晩キホド出來好カラズ、木庭ヲ燒ク時節ハ春伐リハ夏至ノ後ニ天氣ヲ見合セテ燒キ、夏伐リハ伐リ置キタル木柴ノ干タル時ニ燒クナリ、蒔付ノ時節ハ畠ニ同ジ、土留ノ木ヲ置クコト麥木庭ニ同ジ、種子ヲ蒔カザル前ニ掘リ耕スコトナク、燒キテ直グニ蒔キ

付クルナリ、西向北向ノ風當テノ所ヨリ段々ト早ク蒔キ、木庭ハ畠ヨリ早ク蒔キテ宜シ、種子ノ分量ハ百歩ニ上木庭ハ三升ホド中木庭、下木庭ハ少シヅツ增シテ厚ク蒔キ、同木庭ノ内ニテモ土ノ深キ所ハ種子ヲ薄ク蒔キ、土ノ淺キ所ハ種子ヲ厚ク蒔クナリ、草ヲ取ルハ苗ノ長ジテ二三寸ニ成レル時ニ一遍取リテ宜シ、刈シホハ畠蕎麥ニ同ジト云ヘリ

豆南郷豆殿村ノ喜右衛門云ヘルハ、蕎麥ハ麥跡ノ畠ヲ早ク犂キ、六月ノ内ニ犂キ、七月ノ節ニ入リテ二遍犂キ馬糞ヲ入レ、陰ニテモ日向ニテモ西風ノ強ク當タル處ハ、七月ノ節ノ中ヨリ前ニ蒔キ、日向ハ七月ノ節ノ中ヨリ後ニ蒔キ、種子ハ上畠百歩ニ二升五合ホド、下畠ハ相應ニ厚ク蒔クナリ、上木庭ナレバ陰ニテモ日向ニテモ、六月土用ノ初メ比ヨリ伐リ置キ、七月ノ節ニ入ル時分ニ燒キ、中下ノ木庭ナレバ春伐リトテ四月ノ内ヨリ伐リ掛ケ、六月ノ土用ニ燒クナリ、日向ノ上木庭ハ七月ノ節ノ中比ヨリ蒔キ、陰ノ中木庭、下木庭ハ七月ノ節ニ入リテ四五日目ヨリ蒔クナリ、上木庭ハ百歩ニ種子四升ホド、中木庭、下木庭ハ五升ホド蒔クト云ヘリ

今按ズルニ、農業全書ニ云ヘルハ、山中ニ蕎麥ヲ蒔クハ夏ノ土用ノ中ニ早ク蒔クベシ、晩ケレバ風霜ニ逢ヒテ損ズルコトアリ、必ズ早ク蒔クベシト云ヘリ、蕎麥木庭ヲ四月ニ伐リ置キ、六月土用ノ中ニ燒キテ蒔キ付クルコトヲ試ミタル農人ハ八郷ニ無ト見ヘタルナレバ、試ミアルベキコトナリ、近ゴロ郷村ノ人ノ語レルハ、茶園ノ間ヲ六月土用ノ内ニ耕シテ蕎麥ヲ作クルニ出來ノ早キニテ畠木庭

ノ蕎麥損毛ノ年モ損毛セズ、實ノリモ好キト語レリ

老農類語上卷 終

老農類語下卷

芋

豐崎郷舟志村ノ市右衞門、大増村ノ善右衞門、濱久須村ノ又右衞門云ヘルハ、芋ヲ種フルハ上中下ノ畠何レモ百歩ニ切芋四斗五升ホド、二月初比ニ種フルト云ヘリ

佐護郷仁田内村ノ六郎右衞門、井口村ノ源右衞門、佐須奈村ノ長左右衞門云ヘルハ、麥ヲ蒔キタル上上畠ニ來春彼岸ノ内ニ芋ヲ種ヘ、百歩ニ種子芋七斗五升ホド種フルト云ヘリ

伊奈郷鹿見村ノ兵右衞門、伊奈村ノ八郎右衞門云ヘルハ、芋ハ畠百歩ニ種子三斗ホド二月彼岸ノ内ニ種ヘ、十月初比取リ收ムルト云ヘリ

三根鄕三根村ノ利右衞門云ヘルハ、芋ハ二月彼岸ノ入リ時分ニ種子ヲ出ダシコシラヘ置キ、晴天ノ續キテ土ノ乾キタル時ニ種フルナリ、麥蒔付ノ時ニ馬糞ナド多ク入レ置キタル畠ニ種フルユヘ、別ニ養ヲ入ルヽコトナシ、生ヒ出デタル莖ノ細キ處ニハ糞水ヲ掛クルコトモアレドモ、上ヘヨリ養フハ希レナリ、陰地ニ作クル芋ハ芋ノ子モ細ク長ク柔ラカニシテ出來モ少シ、陰ニテモ日向ニテモ百歩ニハ五斗ホド種フルナリ、八月末比ヨリ大抵實入ルユヘ、段々ニ取リテ食シ殘リタルハ、種子用モ食用モ十月中比晴天ノ續キテ畠ニ濕ヒナキ時ニ取リ收ムルト云ヘリ

仁位鄕田村ノ吉右衞門、佐保村ノ三吉云ヘルハ、芋ハ畠百歩ニ種子五斗ホド種ヘ養ハ入レズ、二月中比ニ種ヘ、九月初比ヨリ十月マデ取ルト云ヘリ

與良鄕雞知村ノ才兵衞云ヘルハ、芋ハ二月ノ彼岸ニ種子ヲ取リ出ダシ、芽ノ出デタルバカリヲ撰ビ取リ、芋ノ末ヲ少シヅツ切リ、麥畠ノ畦ノ通リニ千鳥足ニ五六寸ホド間ヲ置キ杭ヲ突キ、其穴ノ中ニ芋一ツヅツ入レ少シ土ヲ覆ヒ置キ、麥ヲ取リ終リテ早ク麥カラト草ヲ抜キ、地ノ濕ヒアル内ニ土ヲ掛クルナリ、五月梅雨ノ内ニモ土ヲ掛ケテ宜シ、梅雨ノ過ギテ土ヲ掛クレバ、年ニ依リ芽ノ痛ムコトアルユヘ、梅雨ノ内ニ手入レヲ早クシタルガ宜シキナリ、牛馬糞、柴木ノ芽立チナドニテ養フテ宜シケレドモ手ニ及バザルユヘ、芋ヲ種ヘント思フ畠ニハ、麥ヲ作クル時ニ藻ニテモ牛馬糞ニテモ餘分ニ入レ置クナリ、居糞ハ芋ノ養ニハ成リカヌルト覺ヘタリト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衞門云ヘルハ、芋ハ二月彼

岸ノ前後ニ畠麦ノ間ニ四五寸ヅツ間ヲ置キテ種ヘ、梅雨ノ内ニ草ヲ取リ一番土ヲ掛ケテ宜シ、別ニ養ヲ入ルヽコトナシ、一番土ヲ隨分早ク掛ケ、其後段々ニ二番土三番土ヲ掛ケ、草ヲ精シク取リテ宜シ、種子芋ハ十月ニ取リ日向ノ好クシテ暖タカナル處ニ囲ヒ置クナリ、種ブルニハ麦一升蒔ノ畠ニ五六升ホド種ヘ、日ノ強ク當ラズ少シ影アル畠ノ土深キ處ト、木庭ノ床ナドニ種ヘテ宜シト云ヘリ

佐須郷久根村ノ市左衛門云ヘルハ、芋種子ハ十月ニ入リ未ダ霜ノ降ラザル前ニ掘リ起コシ、畠ニテ直グニ撰ビテ形ノヨクウルワシキヲ揃ヘ、日向ノ暖カナル切岸ヲ掘リ穿チ、其日ニ直グニ彼ノ穿チタル穴ニ入レ、上ヘニ稲藁ニテモ麦藁ニテモ置キ、其ノ上ヘニ土ヲ厚サ二三寸モ水ハシリニタヽキツケ置クナリ、種フル土ハ赤土ニ沙ノ少シ雑リテ、土ノ深キ所ニ種ヘテ宜シ、前年ニ麦ヲ作クル畠ノ畦ヲ幅二尺ホドニシテ馬糞ヲ多ク入レ置キ、正月末比ヨリ二月マデ麦ノ間ニ段々種ヘ置キ、麦ヲ刈リ取リテ頓テ麦藁ヲ引キ除ケ、芋ノ五六寸ニ生ヒ立チタル時ニ一番土ヲ掛ケ置キ、其ノ後ニ見合セ草ノ生ヒタルヲ取リ除ケ二番土ヲ掛ケ、其外ニハ別ニ手入レナシ、八月末比ヨリ十月末比マデ掘リ取ルト云ヘリ

豆酘郷豆酘村ノ喜右衛門云ヘルハ、芋ハ麦ノ養ヲ用ヒテ麦ノ間ニ種ヘ、其ノ後ハ馬糞ヲ少シ入ルヽナリ、麦ヲ刈リ取リテ早ク麦カラヲ引キ除ケ土ヲ掛ケ、六月土用ノ過ギ比ニ二番土ヲ掛クルナリ、種子ハ百歩ニ四斗ホド二月彼岸ノ過ギ比ニ種ヘ、九月末比ニ取ルト云ヘリ

今按ズルニ嘗テ郷村ノ人ノ語レルハ、菜ノ類ヲ飯ノ代リニ食スルニハ、穀類ヲ交ヘズシテ叶ワズ、穀

類ヲ交ヘズシテモ飯ノ代ニ成ルハ芋ノミ也ト語レリ、然バ穀ニ次ギテ尊キ菜ハ芋ナルト見ヘタリ

孝行芋

伊奈鄕久原村ノ六郎右衛門云ヘルハ、孝行芋ノ地ゴシラヘハ日當テ好ク濕氣ノ無キ所ヲ年內ニ一番カヤシ仕置キ、居糞、馬糞ニテ隨分養ヒ置キ、春ニ成リ正月末比カ二月初比ニ二番カヤシヲシテ、二月ノ彼岸過ギ十日目十五日目ホドニ畦ヲ立テ、一尺二三寸ヅツ間ヲ置キテ種子芋ヲ淺ク種ヘ付クルナリ、生ヒ出デツルノ延ビタル時ニ種ヘ付クル所ハ、畠ニテモ木庭ニテモ、東向キ南向キノ日當ノ好キ片タ下ガリナル地面ニ宜シ、濕氣アル所ト日陰ノ所ハ、畠ニテモ木庭ニテモ宜シカラズ、ツルヲ種フル時分ハ梅雨ノ內ニ種ヘテ宜シ、六月ノ土用マデ二番苗ヲ種フレドモ、梅雨ノ內ニ種ヘザルハ芋小サク出來少ナシ、是レニ由リテ苗芋ヲ餘分ニ種ヘ付クルナリ、ツルヲ種フル畠木庭ハ麥ヲ取リ收メタル跡ヲ耕シ置キ、種ヘ付クル時分ニ畦ヲ立テ、雨中ニ種ヘテ宜シ、濕サヘアレバ雨ノ止タル翌日マデハ種フルナリ、苗ツルノ延タル根付ヨリ切ハナシ、三節四節ヅツ續ケテ切リ分ケ、三節アルハ二節ヲ土ニ種ヘ、一節ヲ土ノ上ヘニ出ダシ、四節アルハ二節ヲ土ニ種ヘ、二節ヲ土ノ上ヘニ出ダシ、節ノ多キモ少キモ此格ニシテ種フルナリ、種子芋ハ九月末比ヨリ十月初比マデノ間ニ霜ニ逢ワザルヲ取リ收メ、其ノ內ノ大キナルニテモナク小サキニテモナキ中分ノ芋ヲ撰ビ、南向ノ日當ノ好キ所ヲ掘リ乾キ

タル土ニ籾糠ヲ交ヘテ、其ノ中ニ種子芋ヲ置キ土ニテ覆ヒ、麥カラ粟カラナドヲ覆ヒ掛ケ、風ノ少シモ通ラヌ様ニシテ宜シ、其上ニモ寒ヲ痛ミ濕氣ヲ痛ムコトアルユヘ、隨分念ヲ入レ寒氣濕氣ノ防ギヲ厚クスルナリ、食用ノ芋ハ九月ヨリ以後段々ト食用ニシ、霜ノ降ラズ寒氣ノ輕キ内ニ取リ收メテ宜シ、蓄ヘ置クハ日當テ好キ所ヲ大キニ掘リ、是又乾キタル土ニ籾糠ナドヲ加ヘ、風モ雨氣濕氣モ通ラザル様ニスレバ、翌年二三月マデモ食用ニ成ルナリ、此ノ芋ヲ正德五年以來毎年種フルニ、諸作物ノ風損、水損、旱損アル年ニモ損スルコトノ輕キ物ニテ、少シノ畠木庭ヨリ四五十俵ヅツ作得アリト云ヘリ

三根郷本坂村ノ助右衛門云ヘルハ、孝行芋ノ種子ヲ種フル畠ハ日當テ好キ所ヲ臘月ヨリ正月マデノ内ニ耕シ、中畦ニ畦ヲ立テ、馬糞ヲ畦ノ溝ニ埋ミ、又一二遍モ耕シ土ヲヤワラゲ置キ、二月彼岸ノ内ニ種ヘ付クレバ、四月中比ハ芽生ヒ出デ、其後又糞水ニテモ干鰯ニテモ養ニスルナリ、日陰ハ宜シカラズ、苗ヲ種フルハ梅雨ニ入リ苗ノ一二三尺四五尺ニノビタルヲ三節四節ヅツニメテ伐リ取リ、地ゴシラヘヲ中畦ニシ、畦頭ニ二節ホド種ヘ埋ミ、七八寸間ヲ置キテ種ヘ、百歩ニハ三千本ホド種フルナリ、種フル地ハ地高ナル畠ノ日當テ好ク片サガリナル畠ニ種ヘテ宜シ、黑ク赤キ土ヲ相應ト覺ヘタリ、雨天ノ時ニ種ヘ、雨止ミテモ濕氣ノ去ラザル内ニ種ヘテ宜シ、種子芋ハ九月初比霜ノ未ダ降ラズ寒氣ノ强クナラザル内ニ取リ置キ、食用ハ九月末比取リ收ムルト云ヘリ

三根村ノ利右衛門云ヘルハ、海遠キ山附ノ村ハ陽氣ノ薄キ故カ、孝行芋ノ種子ヲ種ヘテモ芽ノ生ヒ出

ヅルコト晩ク、苗ノ種ヘ付ケ時ニ後クレ、西ノ村々ホドニハ作得ナシト云ヘリ、佐賀村ノ平兵衞云ヘルハ、孝行芋ヲ種フルニ西ノ村々ト東ノ村々ハ氣候ノ違ヒアルカ、土地ノ違ヒアルカ、種子芋ニ芽ノ生ヒ出ヅルコト晩ク、種ヘ付ケノ時節後クレ作得少ナキニ依リ作ラザルト云ヘリ

與良鄕大山村ノ儀兵衞云ヘルハ、孝行芋ヲ畠ニ種ヘタルコトハ無シ、二三年ホド諸作ヲ仕付テ荒ラシ前ニ成リタル木庭ノ内ニテ、土深ク日當テ好ク濕氣ノ無キ所ハ、眞土ニテモ沙地ニテモ撰ナク種フルナリ、日陰地ト濕氣地ニハ宜シカラズ、種ヘ様ハ苗ノツルノ延タルヲ一尺ホドヅツニ切リテ、竪テ横コ共ニ間ヲ一尺ホドヅツ置キテ種フルナリ、其外ニハ手入レナシ、九月初比ヨリ末比マデニ掘リ取ルナリ、種ヘ付クルハ隨分早ク種ヘテ宜シ、梅雨ヲ過ギテ種ヘタルハツルノ延ビ様ノ早種ヘニ替ラザルマデニテ芋ノ出來ハ好カラヌユヘ、苗地ヲ能ク養ヒ肥シ置キ、種子芋ヲ種フルニ念ヲ入レ、ツルノ早ク延ブ様ニシ、梅雨ノ内ニ種ヘ終ワルナリ、種子芋ヲ種フルハ日當ノ好キ上畠ヲ年内ヨリ正月マデ一二度耡カヤシ、居糞ヲ二三遍ホド掛ケ、又馬糞ナド置キ、隨分土ヲカヤシ、二月彼岸ノ内ニ種子芽ヲ出ダシ性好キヲ撰ビ、種子芋ト種子芋ノ間ヲ一尺ホド隔テ、深サ一寸ホドニ種ヘ置キ、芽二三寸延タル時ニ種子芋ト種子芋ノ間ヲ少シ掘リ、居糞ヲ餘分ニ入レ置ケバ、ツル能ク成長スルナリ、種子芋ハ八月末比九月初比霜ノ未ダ降ラザル前ニ掘リ取リ、大ニテモナク小ニテモナキ中芋ヲ種子芋ニシ、牛馬糞ヲ箱ノ底ト四方トモニ一寸餘リニ箱ナリニ置キ上ゲ、其ノ中ニ籾糠カ麥ノハシカ糠ヲ一重ニ入レ

種子芋ヲ一並ビ置キ、又籾糠カ麥ノハシカ糠ヲ入レ種子芋ヲ一並ビ置キ、段々ト是ノ如クニシテ箱ノ内ニ透間ナキ樣ニ十分ニツメ、其ノ上ヘニ又牛馬糞ヲ敷キ並ベ箱ノ蓋ヲタシカニシテ、天井ノ上ヘ竈ノ火氣ノ近キ所ニ置キテ宜シト云ヘリ

今按ズルニ、農業全書ニ云ヘルハ、古ヘ無カリシ木綿ノ後世ニ至リテ出來タルハ、天ノ人ヲ愛シタマフ道理ナリト云ヘリ、近來孝行芋ノ新タニ出來テ風損、水損、旱損アル年ニモ、毎年他ノ作物ニ增シタル作得アリケルコト、是亦木綿ノ新タニ出來タルト同ジ道理ナラン、是州ニテ初メテ孝行芋ノ種子ヲ他方ヨリ求メ來タリ、種フル道ヲモ傳ヘ來タレルハ、伊奈郷久原村ニ生レテ其後府中ニ住セシ三郎右衞門トイフ者ナリ、是ノ者モ州ニ功アル人ノ徒ナリト云フベシ、三根村佐賀村ノ老農孝行芋ノ作得少ナキト云ヘルハ、土地ニ應ズル作リ樣ヲ作リ覺ヘザルカ、土地ニ宜シカラザルニ極マレルカ、是レ未ダ知ルベカラズ、府中モ東ニ向キタル地ナルニ、海邊ヨリ十町ホド隔テタル山中ニテ日向ノ好ク片下ガリナル所ニ孝行芋ヲ種ヘテ作得多カリシト、其ノ人ノ語レルヲ聞キタリ

大根

豐崎郷ノ老農云ヘルハ、大根ハ上品、中品ノ麥跡ヲ三四遍ホド耕シ、居糞ヲ掛ケ置キ、夏ノ土用二三日過ギテ蒔キ付ケ、春麻ヲ取リタル跡ニモ蒔クナリ、麻ヲ取ル時分ノ延ビタル時ハ、麻ノ中ニ種子ヲ

散ラシ置キ、其後ニ麻ヲ取リテモ宜シト云ヘリ

佐護郷ノ老農云ヘルハ、上上畠、上畠ニハ先ヅ麻ヲ作クリ、其ノ跡ニ大根ヲ作クルナリ、夏ノ土用ヲ三日掛ケテ蒔キタルガ宜シキト昔ヨリ云ヒ傳ヘシコトナレドモ、手後レニ成リテ土用ノ十日モ十五日モ過ギタル時ニ蒔キ付ケテモ能ク出來ルコトアルナリ、種子ハ百歩ニ一合ホド蒔キ、十月ノ節ニ入リ十日ホド過ギテ取リ收ムルト云ヘリ

伊奈郷ノ老農云ヘルハ、大根ハ六月ノ土用ノ過ギタル時ニ蒔キ、種子ハ百歩ニ一合五勺ホド、十月初比ニ取リ收ムルト云ヘリ

三根郷ノ老農云ヘルハ、大根ヲ麻跡ニ作ルハ麻ノ養ヲ仕置タル地ナル故、大根ノ爲ニ養ヲ入ルル事ハ希也、若シ麻ノ養ノ殘ニテハ養ニ足ルマジキト思フ所ニハ、糞水ヲ掛テ作クルナリ、麥跡ニ作クル大根ハ、畠ヲ耕シ地ゴシラヘヲ仕置キ、夏ノ土用過ギ一二日ノ内ニ作クルナリ、養ハ糞水、馬糞ニテ宜シ、陰畠ニ作クルハ宜シカラズ、麻跡ニ作クルハ土中ニ種子ノ深ク入ル樣ニ鍬ニテ作ルナリ、晴天ノ續キタル時ハ右ノ通リニ作クリ、雨ノ後ナラバ晴天ニ成リタル時ニ耕シ、其ノ上ヘニ種子ヲ蒔キ、草抓ニテカキナラシ作クルナリ、種子ハ百歩ニ二合餘蒔キ、十月末ヨリ十一月初ニ掛ケ段々ニ取リ收ムルト云ヘリ仁位郷ノ老農云ヘルハ、大根ハ畠百歩ニ二合ホド蒔キ、養ハ流シ糞バカリ用ヒ、七月ノ節ニ入リテ蒔キ、十月中比ヨリ取リ收ムルト云ヘリ

與頁郷雞知村ノ才兵衛云ヘルハ、大根ハ沙地ニテモ眞土ニテモ、上畠ニ藻、牛馬糞ヲ養ニ入レタル麥跡ニ作クリテ宜シ、作クリ樣ハ麥跡ヲ二三遍犂カヤシ置キ、六月ノ土用ノ末ヲ三日ホド掛ケテ蒔キ、熊手ニテサラサラトムラナクカキ、糞水ヲ餘分ニ打チ、其上ヘニ牛馬糞ヲ地ノ見ヘヌホドニ覆ヒ置キ、種子ヲ蒔ク二三日前ニ糞水ヲ餘分ニウチ、干シ付ケ置キテ作リタルモ宜シ、又藻、牛馬糞ヲ薄ク土ニ埋ミ其ノ上ヘニ種子ヲ蒔キ、サラサラト熊手ニテカキテ糞水ヲウチタルモ宜シ、種子ヲ餘リ厚ク蒔キテハ後ノ間引ニ手間入ルユヘ、ムラナク薄ク蒔キ、長ズルニ應ジ段々五六寸間ニ間引キ、若シ大根ノ勢ヒ好ク太トルベキト見フルハ、七八寸間ニ間引キテ宜シ、陰地ニ作クルハ宜シカラズ、三ッ葉四ッ葉五ツ葉ニ成ル時分ニ葉ノ色ノ赤ク瘠セタルト見フルニ、糞水ヲ朝夕ニ打テバ段々ト葉色好ク成ルト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衛門云ヘルハ、大根ハ上上畠、上畠ノ麥跡ヲ二三遍カヤシ、夏ノ土用ノ過ギタル時ニ早ク作クリ、肌糞ニ干鰯、居糞、牛馬糞ヲ餘分ニ用ヒテ宜シ、麻跡ニ作クルモアリ、養ハ麥跡ニ作クルニ同ジ、陰地ハ宜シカラズ、百歩ニ種子三合餘蒔キ、生ヒ出デテ一番草ヲ取リ、其後モ草ノ見ヘタルヲ取リ、八九月ニハ枯葉見フルユヘ、其ノ枯葉ヲ取リ除ケ、厚キ所ハ間引キ、若シ出來ノ好カラヌト見フルニハ、糞水ヲ小雨ノ降ル時ニ掛ケテ宜シト云ヘリ

佐須郷阿連村ノ平助云ヘルハ、大根種子ハ形ノ好ク根葉ノウルワシキヲ撰ビテヒゲヲ除ケ、根先キ葉先キトモニ伐リ二三日ホド干シ、日向ノ所ニ一尺ホドヅツ間ヲ置キテ種ヘ付ケ、居繭ニ蒔キタル茶ニ

テモ居糞ニテモ一遍養ニ用ヒ、實ノ熟シタル時ニ刈リ取リテ干シ、カチ落トシテ收メ置クナリ、蒔キ付ケハ麻跡ノ品ニ麻ノ葉ヲヒロゲ置キ、葉ノ枯レタル時ニ犂カヤシ、糞水ヲウチヒタシ直グニ蒔キ付クルナリ、六月土用ノ終ル比ニ蒔キテ宜シ、草ヲ取ルハ苗二三寸ニ成リタル時ノ晴天ニ取リ、厚キ所ヲ間引キ草取リ、間引キノ遍數ハ二三遍ニテモ其ノ上ヘニテモ、草ノ生ジタルト苗ノ厚サ薄サノ様子ヲ見合セテ取リ間引キ、霜月中比ニ抜キ取ルナリ、麥跡ニ作クルハ麥ヲ刈リタル跡ヲ頓テ二三遍犂カヤシ、馬糞ニテモ藻ニテモ埋ミテクサラシ置キ、土用ノ終ル時分ニ犂カヤシ種子ヲ蒔キ付ケ、其ノ上ヘニ馬糞ニテモ居糞ニテモ用ヒテ宜シ、種子ハ百歩ニ二三合蒔クト云ヘリ

豆酘郷豆酘村ノ喜右衛門云ルハ、大根ヲ作ルハ麥跡ヲ犂キ置キ、六月土用ノ中比ニ又犂キ、土用ノ末比ニ又犂キ、麥ヲ作レル時ノ養ヒ足ラザルト見ヘタルハ、居糞ニテモ馬糞ニテモ見合セニ入レ、土用ノ終ル前後ニ蒔キ、八月初比ニ草ヲ一遍取、其後段々ニ間引クナリ、種子ハ百歩ニ一合三勺程蒔クト云ヘリ

今按ズルニ、集義和書ニ鰯ヲ稱シテ仁魚ト云ヘルハ、產スルコト多クシテ人ヲ養フコト廣キユヘナリ、諸菜ノ中ニ煮テ食スルニモ漬物ニシテ食スルニモ、賤民マデ廣ク及ベル菜ハ大根ト見ヘタルナレバ、菜ノ大根アルハ魚ノ鰯アルガ如シト云フベキカ

蕪菁

豐崎、佐護、伊奈、三根、仁位、與良、佐須ノ老農ノ云ヘルハ、蕪菁ヲ作クルコト大根ヲ作クルニ同ジト云ヘリ、其ノ中ニテ三根郷ノ老農云ヘルハ、蕪菁ヲ麻跡ニ作クルハ、麻ノ葉ヲ二三日干シ置キ、土用ノ過ギ土ノ乾キ居ケル時ニ早ク蒔キ付ケ、草抓キニカキナラシ置キテ宜シ、種子ハ百歩ニ一合餘蒔クト云ヘリ、與良郷雞知村ノ才兵衞云ヘルハ、蕪菁ノ蒔クハ大根ヨリ二三日晩ク蒔キテ宜シキト云ヘリ、豆酘郷豆酘村ノ喜右衞門云ヘルハ、豆酘村ニハ蕪菁ヲ作クルコトヲ用ヒズト云ヘリ、內院村ノ傳右衞門云ヘルハ、蕪菁ハ大根ニ交ヘ少シヅツ作クルト云ヘリ

今按ズルニ、農業全書ニ云ヘルハ、蕪菁ハ常ニ種子ヲ多ク蓄ヘ置キ、秋ニ成リテ損毛アラバ犂カヤシ、地ゴシラヘ好クシテ蕪菁ヲ多ク蒔キ、手入レ糞シニモ心ヲ用ヒ、麥ヲ蒔ク前ニ一作ノ利ヲ得ルベシト云ヘリ、是ノ事モ鄕村ノ人ノ取リ用フベキコトナリ

麻

豐崎鄕舟志村ノ市右衞門、大增村ノ善右衞門、濱久須村ノ又右衞門云ヘルハ、春麻ヲ畠ヲ荒ラシ置キ、年內ヨリ四五遍耕シ、春ノ土用ノ中過ギ比ヨリ蒔キ付ケテ宜シ、上畠、中畠百歩ニ種子二升五合ホド蒔キ、養ハ麻種子一升蒔キニ馬糞七八駄ホド入レテ宜シ、干鰯ニテモ居糞ニテモ用フルナリ、夏麻ハ早麥ヲ取リタル跡ノ上畠、中畠百歩ニ種子二升一二合ホド蒔キ、養ハ春麻ニ同ジ、糞シノ上ヘニ麥藁

ヲヒロゲ置ケバ生ヒ付キ宜シト云ヘリ、鰐浦村ノ市兵衛、西泊村ノ兵右衛門云ヘルハ、春麻ハ百歩ニ種子三升ホド蒔キ、麻種子一升蒔キニ馬糞十駄ホド入レテ宜シト云ヘリ

佐護郷仁田内村ノ六郎右衛門、井口村ノ源右衛門、佐須奈村ノ長左衛門云ヘルハ、上上畠、上畠ニハ年々先ヅ麻ヲ作クルナリ、麻畠ノ地ゴシラヘハ寒中ニ二度程犂カヤシ、二遍モ三遍モ草ヲコロシ、正月二月ノ内ニモ晴天ノ續キテ土ノ乾キタルヲ見合セ度々犂カヤシ、塊ナキ樣ニクダキ、春ノ土用ノ十日ホド前ヨリ蹈耜ニテ片ハネニハネヲコシ、深サヲ膝節ノ隱ルヽ深サニ蹈ミ、塊ノ少シモナキ樣ニクダキ、春ノ土用ノ中過ギ比ニ麻種ヲ百歩ニ五升ホド蒔キ付クルナリ、麻畠ハ何遍ニテモ多ク耕シテ宜シ、種子ヲ蒔クハ散ラシ蒔キニシサクリ込ミ、其ノ上ヘニ馬糞ヲヒログルナリ、糞ノ多ク入リタルホド種子モ厚ク蒔キテ宜シ、養ノ足ラザルニ種子ヲ厚ク蒔ケバ麻ノビカヌルナリ、然レドモ風ノ強ク當タル處ハ其ノ心持ニテ厚ク蒔キテ宜シ、薄ク立チタル麻ノ風ニ當タリテハ折ルルコト多シ、厚ケレバ風折レ少ナシ、刈リ取ルハ夏ノ土用ノ三日四日殘リ居ケル時ニ刈リ取リテ干スト云ヘリ

伊奈郷ノ老農云ヘルハ、麻ハ三月土用ノ過ギタル時ニ畠百歩ニ種子三升五合ホド蒔キ、六月土用ノ末ニ取リ收ムルト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衛門、木坂村ノ助右衛門云ヘルハ、麻ハ上上畠、上畠ヲ極月正月ヨリ段々ト地ゴシラヘ仕テ、三遍モ四遍モ犂キ塊ヲ碎キ置キ、春ノ土用ノ過ギタル時ニ晴天ヲ見合セテ早ク作クリ、

山畠ニハ土用ノ二三日殘リ居ケル時ニ晴天ヲ見合セテ作クルナリ、養ニハ糞水ヲ掛ケ其ノ上ヘニ種子ヲ蒔キ鍬ニテ掻均シ、其上ニ馬糞ヲ一面ニ置キ、種子ハ百歩ニ四升程蒔クナリ、取收メハ夏ノ土用二三日殘リ居ケル時ニ取ル村モ有、土用ノ過ル時分ニ取ル村モアリト云ヘリ、佐賀村ノ平兵衞云ヘルハ、麻ヲ作クルハ上々畠、上畠ヲ極月正月ヨリ地拵ヘ仕置キ、春ノ土用ノ前ニ藻ヲ取リテ埋ミ、其ノ藻ノ腐サレタル時ニ耕シ、土用ノ終ル時分ニ晴天ヲ見合セテ作クリ、上ハ糞ヘニ馬糞ヲ置クト云ヘリ

仁位郷ノ老農云ヘルハ、麻ヲ作クルハ畠百歩ニ種子五升ホド蒔キ、養ニハ馬糞ト藻ヲ用ヒ、春ノ土用ノ內ニ蒔キ付ケ、夏ノ土用ノ過ギタル時ニ取リ收ルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衞云ヘルハ、麻ヲ作クルハ前年上畠ノ秋物ヲ刈リ取リタル跡ニ麥ヲ作クラズ荒ラシ置キ、正月ニ早ク犂カヤシ、三四遍耕シ塊ヲ碎キ置キ、藻ニテ作クルハ春ノ土用ノ初比藻ヲ取リテ餘分ニ敷キ、土ヲ覆ヒ置キテ種子ヲ蒔キ付ケ、牛馬糞ニテ作クルハ土用ノ中比ニ居糞ヲ餘分ニ掛ケ置キ、種子ヲ蒔キタル上ヘニ牛馬糞ヲ厚サ三四寸ニ覆フナリ、麥種子一斗蒔ホドノ處ニ麻種子三四升ホド蒔クナリ、蒔キ時分ハ春ノ土用ノ三日ホド殘リ居ケル時ニ蒔キ、刈リ取ルコトハ夏ノ土用ノ三日ホド殘リ居ケル時ニ刈リ取ルト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衞門云ヘルハ、麻ノ養ハ生藻、居糞ヲ肌糞ニシ、牛馬糞アクタ糞ノ類ヲ上ワ糞ニシテ宜シ、麻ヲ作クルハ日陰日向ヲ分ケズ地ノ好キ畠ニ作クリ、百歩ニ種子七升ホド蒔キテ宜シ、夏ノ土用ノ中比ヨリ末比ニ掛ケテ刈リ收ムルト云ヘリ

佐須鄉阿連村ノ平助云ヘルハ、麻種子ヲ取リ收ムルハ麻ヲ刈リ取ル時ニ翌年蒔クベキ種子ノ分量ヲ大抵見合セ、麻畠ノ端シニ殘シ置キ、十月初比ニ十分ニ實ノリタルヲ刈リ取リ、俵ニ包ミ木ノ枝ニ掛ケ、少シモシメリナク干シタル時ニカチテ收メ置クナリ、麻畠ノ地ゴシラヘハ上上畠ヲ前年ニ麥ヲ作クラズ荒シ置キ、正月ヨリ三月マデノ間ダ見合セテ三四遍ホド耕シ、蒔付ノ時分ヨリ十五日ホド前ニ藻ヲ埋ミ腐ラシ置キ、蒔付ノ時分ニ犂カヤシテ種子ヲ蒔キ作クリ付ケ、其ノ上ニ馬糞ヲヒロゲ置クナリ、初メニ馬糞ヲ埋ミタルニハ蒔付ノ時ニ居糞ヲ用フルナリ、種子ハ百步ニ二升五合ホド蒔キ、草ヲ取ルコトハナシ、刈シホハ六月ノ土用ノ入リテ頓テ刈リ取ルナリ、日陰日向トモニ蒔付ノ時節モ、出來ノ好シ惡シモ異ナルコトナシト云ヘリ

豆酘鄉豆酘村ノ喜右衞門云ヘルハ、麻ヲ作クル畠ハ正月ニ踏耜ニテカヤシ置キ、二月ノ彼岸ノ過ル比ニ畦犂キシ、麻一升蒔ニ生藻七駄ホド入レテ埋ミ置キ、三月ノ土用ノ初比ニ二三遍犂キテ、土用ノ初比ヨリ中比マデノ間ニ蒔キ付ケ、其ノ上ヘニ馬糞四五駄ホド覆ヒ置クナリ、畠百步ニ種子三升ホド蒔キ、七月末比ニ取リテ蒸シ剝ギスルト云ヘリ、瀨村ノ善右衞門云ヘルハ、麻一升蒔ニ居糞五荷、馬糞五駄ホド入レ、春ノ土用ノ初比ニ作クリ、夏ノ土用ノ初比ニ取ルト云ヘリ

今按ズルニ、麻ヲ蒔ク畠ハ極月ヨリ耕スト云フコト、豐崎、佐護、三根ノ老農ノ說ニ見ヘタリ、農業全書ニ云ヘルハ、寒中ニ耕セバ土ノ氣カルヽト云ヘリ、三鄉ノ老農ノ辨ヘテ爲スコトナルカ、未ダ辨

ヘズシテ爲スコトナルカ

木綿

豐崎郷ノ老農云ヘルハ、木綿ノ種子ヲ蒔クハ早麥ヲ取リタル跡ニ蒔キテ宜シ、養ハ居糞ニテモ干鰯ニテモ用ヒ土ヲ二三遍掛ケ、莖五六寸延タル時ニシンヲ留ムルナリ、上畠ニ作リテハ宜シカラズト云ヘリ

佐護郷ノ老農云ヘルハ、木綿ハ百歩ニ種子五升ホド蒔キ、早麥ノ跡ニ作クリテ宜シ、冬春ヨリ耕シ置キタル畠ニ作クリタルハ必ズ蟲切ルナリ、麥跡ニ作クリタルハ蟲ノ切ルコトナシ、五月ノ節ノ初比ニ作クリ付ケ、日數十五六日目ニ土ヲ掛ケ、其後ハ草ノ生ズルヲ見テ取リ除ケ、夏ノ土用ノ過ル比マデ土ヲ三度モ四度モ掛ケ草ノ生ゼザル樣ニシ、七月ノ節ニ入ル時分梢ノ芽ヲ留メ、其後三日ニ一度カ五日ニ一度ヅツ段々手入レヲスレバ、桃多ク付クト云ヘリ

伊奈郷ノ老農云ヘルハ、木綿ヲ蒔クハ四月ノ末比五月ノ初比ニ蒔キテ宜シ、百歩ニ種子六升ホド蒔キ、九月中比ヨリ十月末比マデ取リ收ムルト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衛門、佐賀村ノ平兵衛云ヘルハ、木綿ノ養ハ干鰯ニテ宜シ、山付ノ所ニ作クレルハ糞水ヲ掛ケテ宜シ、日陰畠ニ作クリテハ桃フカズ、木綿ヲ作クル畠ハ麥ヲ小畦作クリニシ、四月下旬麥ノ間々黄色ニ成レル時ニ畦溝ヲ鍬ニテ精シクコシラヘ置キ、晴天ニ成リ土ニ濕氣ノ去ラザルト見

ヘタル時ニ畦溝ニ種子ヲ蒔キ、養ヲ入レテ作クルナリ、早麥ヲ刈リ取リタル跡ニ作クルモ宜シ、養ハ生出デタル後ニ上ワ糞ニシテモ宜シ、百歩ニハ種子六升ホド蒔クナリ、赤土ハ宜シカラズ、小石交リノ畠相應ナリ、取ルニハ十月下旬マデ取ルト云ヘリ、木坂村ノ助右衞門云ヘルハ、木綿ハ四月中比作クリ付ケ、養ハ干鰯ヲ用ヒテ宜シケレドモ、思フホドニハ用ヒ得ザルユヘ、四月中旬蒔付ノ前ニ晴天ニ藻ヲ干シ打碎キテ養ニ入ルレバ草モ生ゼズ、木綿ノ出來モ好シ、百歩ニ畠ハ種子六升餘蒔キ、木庭ハ七升ホド蒔クト云ヘリ

仁位郷ノ老農云ヘルハ、木綿ハ畠百歩ニ種子七升ホド蒔キ、養ハ干鰯ニテモ藻ニテモ用ヒ、四月中比ニ蒔キ、八月末比ヨリ段々ニ取リ收ムルト云ヘリ

與良郷賀谷村ノ茂左衞門云ヘルハ、木綿ヲ作ル地ハ風ヨケノ日向ノ所ノ眞土ノ地ニ作クリテ取リ分ケ宜シ、木綿ヲ作クル地ニハ前年ニ早麥ヲ種ヘ能ク養ヲ仕置キ、冬ヨリ春マデノ間ダ麥ニ土ヲ二三度掛ケ置キ、木綿蒔付ノ時節ハ三月ノ土用ノ二三日殘リ居ケル時ヨリ、種子ヲ二粒ヅツ千鳥足ニ五六寸ヅツ間ヲ置キテ種フルナリ、麥ノ畦ノ間ヲ種ヘ代トテ底廣ニカキナラシ其ノ日ニ種ヘ付ケ置キ、麥ノ大抵ニ實ノリタル時ニ早ク刈リ取リ、麥藁ヲ引キ除ケ一番土ヲ早速ニ輕ク掛ケ。養モ一番土ヲ掛クル時ニ養ヒテ宜シ、其後花袋ノ一本ニ一ツ二ツ見フル時ニ一番先ヲツミ切リ、其後モ延ビ過ギタルヲ見合セテツミ切リ、草ハ少シモナキ様ニ幾度モ取リ除ケ、土ヲ掛クルコトハ木綿ノ延立ヲ見合セ、二番三

番マデ段々ニ掛クルナリ、右ノ如ノ作クレバ一番吹ハ八月中比ヨリ取リ掛カルナリ、麥跡ニ木綿ヲ作クルハ五月入梅ノ時分宜シ、二月土用ノ末ト入梅トノ間ニ作クリタルバ蟲付アルト覺ヘタルユヘ、春作クリハ土用ヲ掛ケテ作クリ、夏作クリハ五月ノ節入梅ノ時分ヲ立テヽ作クルナリ、木庭ニ木綿ヲ作クル蒔付ノ仕樣モ、草ノ取リ樣モ、芽ノ留メ樣モ、養ノ仕樣モ畠ニ作クルニ異ナルコトナシ、然レドモ木庭ハ畦作クリニスルコト成リガタキユヘ散ラシ蒔キニシ、畠木庭共ニ風ノ當タリ輕ク、日向ノ好キ所ヲ撰ビテ種ヲフルナリ、種子ハ畠百歩ニ三升ホド蒔キ、木庭ハ散ラシ蒔キニスルユヘ百歩ニ四五升モ蒔クナリ、土地ノ好シ惡シニ應ジ、木綿ノ勢ヒ樣子ニ應ジ、枝ト枝ト交リ合ワザル樣ニ間引クナリ、畠木庭トモニ是ノ如クスルト云ヘリ

豆酘郷豆酘村ノ喜右衛門云ヘルハ、木綿ヲ種フルハ早麥ノ跡ニテモ、麥ヲ作ラザル地ニテモ平スキニ一遍スキ、又小畦スキニスキ、畦溝ニ馬糞ニテモ居糞ニテモ入レ置キ、麥ヲ作クラザル地ナレバ四月初比ニ作クリ、麥跡ナレバ麥ヲ取リ終レル時ニ作クリ、又ハ麥ノ中ニモ作クルナリ、百歩ニハ種子三升ホド蒔キ、苗四五寸ノビタル時ニ草ヲ取リ土ヲ掛ケ、其後ハ見合セニ枝先ヲ留メ、八月末比ヨリ十一月中比マデ段々取リ收ムルト云ヘリ

佐須郷奉役云ヘルハ、佐須郷ノ百姓ハ未ダ木綿ヲ精シク作クリ覺ヘザルユヘ、試ミニ作ラシメケル仕形ハ、木綿ノ初吹ヨリ中吹マデノ間ニテフサノ大キナル蟲氣ノナキヲ撰ビ取リ、二三日モ日ニ干シ種

子ニ收メ置キ、中分ノ畠ニ前年早麥ヲ筋種ヘニシ、筋ノ幅ハ一尺七八寸ニ切リ、麥ヲ作クル時節ハ秋ノ土用五七日前ニ作クリテ冬中ニ糞ヲ二三遍入レ、春ニ成リ八十八夜ノ前後麥ノ大抵色付キ、十五日カ廿日ノ内ニハ刈リ取ルペキ程ニ見ヘタル時ニ、麥ノ間ノ筋ヲ鍬ニテ輕クカキアサリ、木綿ノ種子ヲ水ニ浸シ灰ニ交ヘ、彼ノカキアサリタル筋ニ蒔付ケ鍬ニテ並ラシ置ケバ、十日程ノ内ニ生ヒ出ヅルナリ、種子ノ分量ハ百步ニ六七百目ニテ宜シ、麥八九分ニ實ノリタル時刈リ取リ、其刈リカブモ草モ取リ除ケ、其ノ跡ヲ一遍中打シ二三日ホド日ニ當テ、農業全書ニ記セシ如ク、晴天ノ時ニ木綿ノ根ノ方ニカキヨセ、一方ニ溝ヲカキ糞ヲ入レ土ニテ覆ヒ置キ、十日ホド過ギテ又一方ニ溝ヲカキ右ノ如糞シ置クナリ、其後ハ草ノ生ズベキ樣子ヲ見合セ段々ト中打スルナリ、中打ハ大抵三遍ニテ宜シ、梢ヲ留ムルコトハ農業全書ニ記セシ如ク、其畠ノ中ニテ木綿ノ桃一ツ二ツ初吹シタルヲ見當リタル時ニ、枝數ヲ十本ホド付ケ梢ヲ留メ、其後ハ綿ノ吹キタルヲ段々ニ取リ收ムルナリ、右ノ如クシテ大抵ノ出來ト云フ年ニ、百步ニテ繰リ綿十四斤餘出來タリ、糞ハ鰯糞、居糞ニテ宜シ、藻糞モ細カニ碎キテ用フレバ宜シト云ヘリ

今按ズルニ、佐須鄕奉役其ノ鄕中ニ未ダ木綿ヲ作クリ覺ヘザルトテ、農業全書ニ記ス所ニ效ヒ試ミニ作クラセテ百姓ニ知ラセシハ、職事ニ心ヲ用フルト云フベシ、郡奉行所ヨリ農業全書ヲ八鄕ニ頒タレテモ、若シ佐須鄕奉役ノ爲ス所ノ如クナラズバ彼ノ書モ空文トコソ成ルベケレ

田畠作得ノ事

田百歩豐年ノ籾ノ出來　豐崎郷ハ上田ニ七斗ホド、中田ニ五斗ホド、下田ニ三斗ホド、佐護郷ハ上田ニ一石ホド、中田ニ六斗五升ホド、下田ニ四斗五升ホド、伊奈郷ハ上田ニ六斗ホド、中田ニ五斗ホド、下田ニ四斗ホド、三根郷ハ上中下ノ田ニ七斗ヨリ三斗マデ、仁位郷ハ上中下ノ田ニ一石ヨリ二斗七升マデ、與良郷ハ上田ニ六斗ホド、中田ニ五斗ホド、下田ニ三斗ホド、佐須郷ハ上上田、上田ノ並シ一石一斗ホド、中田下田ノ並シ七斗五升ホド、豆酘郷ハ上田ニ一石ホド、中田ニ七斗五升ホド、下田ニ五斗ホドナリ

畠百歩豐年ノ麥ノ出來　豐崎郷ハ上畠ニ八斗五升ホド、中畠ニ六斗ホド、下畠ニ三斗ホド、佐護郷ハ上畠ニ一石ホド、中畠ニ八斗ホド、下畠ニ一斗五升ホド、伊奈郷ハ上畠ニ六斗ホド、中畠ニ五斗ホド、下畠ニ三斗ホド、三根郷ハ上中下ノ畠ニ八斗ヨリ二斗五升マデ、仁位郷ハ上中下ノ畠ニ一石ヨリ二斗三升マデ、與良郷ハ上畠ニ六斗ホド、中畠ニ四斗ホド、下畠ニ二斗五升ホド、佐須郷ハ上上畠、上畠ノ並シ六七斗ホド、中畠、下畠ノ並シ四五斗ホド、豆酘郷ハ上畠ニ八斗三升ホド、中畠ニ六斗二升ホド、下畠ニ三斗五升ホドナリ

畠百歩豐年ノ大豆ノ出來　豐崎郷ハ上畠ニ二斗五升ホド、中畠ニ二斗ホド、下畠ニ一斗五升ホド、佐

護郷ハ上畠ニ四斗ホド、中畠ニ三斗五升ホド、下畠ニ二斗ホド、伊奈郷ハ上畠ニ一斗五升ホド、中畠ニ一斗ホド、下畠ニ八升ホド、三根郷ハ上中下ノ畠ニ三斗五升ヨリ一斗五升マデ、仁位郷ハ上中下ノ畠ニ一石ヨリ一斗マデ、與良郷ハ上畠ニ三斗ホド、中畠ニ二斗ホド。下畠ニ一斗五升ホド、佐須郷ハ上上畠ヨリ下畠マデノ並シ一斗ホド、豆酘郷ハ上畠ニ二斗五升ホド、中畠ニ一斗九升ホド、下畠ニ八升ホドナリ

畠百歩豐年ノ小豆ノ出來　伊奈郷ハ上畠ニ一斗程、中畠ニ八升程、下畠ニ五升程、三根郷ハ中畠下畠ニ二斗四升ヨリ一斗マデ、仁位郷ハ上中下ノ畠ニ二斗五升ヨリ四升マデ、與良郷ハ上畠ニ二斗程、中畠ニ一斗五升程、佐須郷ハ上上畠ヨリ下畠マデ並シ一斗一二升程、豆酘郷ハ下畠ニ七升程也

畠百歩豐年ノ粟ノ出來　豐崎郷ハ上畠ニ三斗五升ホド、中畠ニ三斗ホド、下畠ニ二斗ホド、佐護郷ハ上畠ニ六斗ホド、中畠ニ四斗ホド下畠ニ二斗ホド、伊奈郷ハ上畠ニ三斗ホド、中畠ニ二斗ホド、下畠ニ一斗ホド、三根郷ハ上畠中畠ニ五斗ヨリ二斗マデ、仁位郷ハ上中下ノ畠ニ一石ヨリ一斗三升マデ、與良郷ハ上畠ニ三斗ホド、中畠ニ二斗ホドナリ

畠百歩豐年ノ蕎麥ノ出來　豐崎郷ハ上畠中畠ニ四斗ホド、下畠ニ二斗ホド、佐護郷ハ上畠ニ五斗ホド、中畠ニ二斗ホド、下畠ニ一斗ホド、伊奈郷ハ上畠ニ五斗ホド、中畠ニ三斗ホド、下畠ニ二斗ホド、三根郷ハ上中下ノ畠ニ五斗五升ヨリ一斗五升マデ、仁位郷ハ上中下ノ畠ニ九斗ヨリ一斗五升マデ、與良

郷ハ上畠ニ四斗ホド、中畠ニ三斗ホド、下畠ニ二斗ホド、佐須郷ハ上上畠、上畠ノ並シ九斗一石ホド、中畠、下畠ノ並シ七八斗ホド、豆酘郷ハ上畠ニ五斗ホド、中畠ニ四斗ホド、下畠ニ二斗ホドナリ

畠百歩豐年ノ麻苧ノ出來　豐崎郷ハ上畠ニ二貫目ホド、佐護郷ハ上畠ニ二貫五百目ホド、伊奈郷ハ上畠ニ一貫五百目ホド、中畠ニ一貫目ホド、下畠ニ八百目ホド、三根郷ハ上畠ニ二貫五百目ヨリ一貫五百目マデ、仁位郷ハ上中下ノ畠ニ四貫八百目ヨリ四百八十目マデ、與良郷ハ上畠ニ三貫六百目ホド、佐須郷ハ上畠ニ五百三十目ホド、豆酘郷ハ上畠ニ二貫八十目ホド、中畠ニ一貫二百八十目ホドナリ

畠百歩豐年ノ木綿ノ出來　繰綿ニシテ豐崎郷ハ中畠ニ二貫四百目ホド、佐護郷ハ上畠ニ八百目ホド、中畠ニ四百八十目ホド、下畠ニ三百二十目ホド、伊奈郷ハ上畠ニ一貫二百八十目ホド、中畠ニ九百六十目ホド、下畠ニ六百四十目ホド、三根郷ハ中畠、下畠ニ一貫百二十目ヨリ六百四十目マデ、仁位郷ハ上中下ノ畠ニ一貫六百目ヨリ三百二十目マデ、與良郷ハ上畠ニ四百目ホド、豆酘郷ハ中畠ニ一貫四百四十目ホド、下畠ニ八百目ホドナリ

今按ズルニ、農業全書ニ云ヘルハ、下々ノ土ハ力ヲ盡シテモ上ニ變ズルコト成ラズ、中下ノ土ハ瘠セタルヲ肥ヤシ、淺キヲ深クスルコト、人ノ力ニテ成ルト云ヘリ、土ノ淺キヲ深クスルコトハ成ルマジキコトノ樣ニ見ユレドモ、淺キヲ深クスル道モ農業全書ニ見ヘタリ、土地ハ深ク耕スニ利多ケレドモ糞ノ少ナキ所ニテ底ノ茸土ヲ深ク起スハ好カラスコトナリ、土ト糞ト能ク交ルホドニ耕スベシ

ト云ヒ、後ノ耕シ初ノ耕シヨリ深カケレバ、生土ノ毒氣ノ上ニ揚ガルニテ作物生ジガタク榮ヘガタシト云ヘルヲ考フベシ、作物ヲ種フルタメニ耕シ浮カス土ヲ深クスルコトノ成レル道理ヲ述ベタルナリ、某曾テ思ヘルハ、瘠土ノ底ニノミ苦土アリト思ヘルニ、農業全書ヲ見テ肥土ノ底ノ生土ニモ毒氣アリテ、是レヲ苦土ト云フコトヲ知レリ、養ヲ入レテモ作物ノ出來増シ少ナキヲ下下ノ土ト云フベシ、是州ニテ殊ニ勝レタル上農夫ノ干鰯ノ養ヲ十分ニ入レシハ、一段ニ麥五石五斗出來ルト聞ク、上國ノ殊ニ勝レタル麥出來ニ二割ホドノ劣リナリ、今度齋藤四郎次云ヘルハ、久根ノ濱ノ開田五町七段ホドノ内ニテ、一町ホドハ地卑クシテ五月ニ大水ノ折々出ヅル年ナドハ耕作ニ手入リ多キ故、四年以前ヨリ葦蒲等ノ水草ヲ種ヘ付ケ荒ラシ置キタルト云ヘリ、地卑キ田ニ土沙ヲ積ラシメテ高クセントスル時ニ用フベキ事也、田ノ卑キヲ高クスルモ、土ノ淺キヲ深クスルモ同ジ道理ナラン

木庭作得ノ事

木庭百歩豐年ノ麥ノ出來　豐崎郷ハ上木庭ニ六斗ホド、中木庭ニ四斗ホド、下木庭ニ二斗五升ホド、佐護郷ハ上木庭ニ三斗五升ホド、中木庭ニ三斗ホド、下木庭ニ二斗ホド、伊奈郷ハ上木庭ニ四斗ホド、中木庭ニ二斗ホド、下木庭ニ一斗ホド、三根郷ハ上中下ノ木庭ニ五斗ヨリ一斗五升マデ、仁位郷ハ上中下ノ木庭ニ七斗ヨリ一斗八升マデ、與良郷ハ上木庭ニ四斗ホド、中木庭ニ二斗五升ホド、下木庭ニ一

斗五升ホド、佐須郷ハ上上木庭、上木庭ノ並シ三四斗ホド、中木庭、下木庭ノ並シ二三斗ホド、豆酘郷ハ上木庭ニ四斗ホド、中木庭ニ三斗一升ホド、下木庭ニ二斗ホドナリ

木庭百歩豐年ノ大豆ノ出來　豐崎郷ハ上木庭ニ二斗ホド、中木庭ニ一斗五升ホド、下木庭ニ八升ホド、佐護郷ハ上木庭ニ三斗ホド、中木庭ニ二斗ホド、下木庭ニ一斗五升ホド、伊奈郷ハ上木庭ニ一斗ホド、中木庭ニ八升ホド、下木庭ニ五升ホド、三根郷ハ上木庭、中木庭ニ二斗五升ヨリ一斗五升マデ、仁位郷ハ上中下ノ木庭ニ五斗ヨリ一斗三升マデ、與良郷ハ上木庭ニ一斗五升ホド、中木庭ニ一斗ホド、佐須郷ハ上上木庭、上木庭ノ並シ六七升ホド、豆酘郷ハ上木庭ニ一斗ホドナリ

木庭百歩豐年ノ小豆ノ出來　豐崎郷ハ上木庭ニ二斗ホド、中木庭ニ一斗五升ホド、下木庭ニ一斗ホド、佐護郷ハ上木庭ニ三斗五升ホド、中木庭ニ二斗五升ホド、下木庭ニ一斗五升ホド、伊奈郷ハ上木庭ニ一斗ホド、中木庭ニ八升ホド、下木庭ニ五升ホド、三根郷ハ上木庭、中木庭ニ二斗ヨリ二升マデ、與良郷ハ上木庭ニ一斗五升ホド、中木庭ニ七升ホド、下木庭ニ五升ホド、佐須郷ハ上上木庭、上木庭ノ並シ一斗ホド、豆酘郷ハ上木庭ニ五升ホド、中木庭ニ四升ホドナリ

木庭百歩豐年ノ粟ノ出來　豐崎郷ハ上木庭ニ三斗ホド、中木庭ニ二斗五升ホド、下木庭ニ二斗ホド、佐護郷ハ上木庭ニ四斗ホド、中木庭ニ二斗ホド、下木庭ニ一斗ホド、伊奈郷ハ上木庭ニ一斗ホド、中木庭ニ七升ホド、下木庭ニ五升ホド、三根郷ハ上中下ノ木庭ニ四斗ヨリ一斗マデ、仁位郷ハ上中下ノ木

庭ニ八斗ヨリ一斗三升マデ、與良郷ハ上木庭ニ二斗二升ホド、中木庭ニ一斗五升ホド、下木庭ニ一斗ホド、佐須郷ハ上上木庭、上木庭ノ並シ三四斗ホド、中木庭、下木庭ノ並シ二三斗ホド、豆酘郷ハ上木庭ニ一斗五升ホド、中木庭ニ一斗ホドナリ

木庭百歩豐年ノ蕎麥ノ出來　豐崎郷ハ上木庭ニ三斗五升ホド、中木庭ニ三斗ホド、下木庭ニ二斗ホド、佐護郷ハ上木庭ニ四斗五升ホド、中木庭ニ三斗ホド、下木庭ニ二斗ホド、伊奈郷ハ上木庭ニ四斗ホド、中木庭ニ二斗ホド、下木庭ニ一斗ホド、三根郷ハ上中下ノ木庭ニ五斗五升ヨリ二斗五升マデ、仁位郷ハ上中下ノ木庭ニ六斗ヨリ一斗四升マデ、與良郷ハ上木庭ニ四斗ホド、中木庭ニ三斗ホド、下木庭ニ二斗ホド、佐須郷ハ上上木庭、上木庭ノ並シ四五斗ホド、中木庭、下木庭ノ並シ三四斗ホド、豆酘郷ハ上木庭ニ四斗ホド、中木庭ニ三斗ホド、下木庭ニ一斗五升ホドナリ

木庭百歩豐年ノ木綿ノ出來　繰綿ニシテ伊奈郷ハ上木庭ニ八百目ホド、中木庭ニ四百八十目ホド、下木庭ニ三百二十目ホド、三根郷ハ村ニヨリ、或ハ上木庭、中木庭ノ並シ六百四十目ホド、或ハ上木庭ニ四百八十目ホド、仁位郷ハ上中下ノ木庭ニ一貫二百八十目ヨリ四百八十目マデ、與良郷ハ上木庭ニ三百二十目ホドナリ

今按ズルニ、佐須郷ノ覺書ニ老農ノ云フ所ヲ述ベ、麥木庭モ蕎麥木庭モ、上上木庭ヨリ下木庭マデ今程ハ明ケ前ヘ早ク成リ居ケルユヘ、百歩ノ出來ノ積リ今度申シ出ヅル半分ニモ當タリカネ、今度

申シ出ルハ木庭ヲ相應ノ明ケ前ニ明ケシ時ノ出來ヲ申シ出ヅルト記セリ、齋藤四郎次木庭作ノ事ヲ述ベシ覺書ニモ、木庭ヲ早ク明ケ出來ノ減リタルコトヲ書キ述ベ、佐須郷ノ外ノ七郷ノ木庭作ノ出來ハ今程ノ出來ヲ記セルト見ヘ、豐崎郷、與良郷ノ奉役ノ覺書ニモ、木庭ヲ早ク明クル害ヲ四郎次覺書ノ通リナリト書キ述ベ置キタリ、然ルニ佐須郷ノ木庭百歩ニ上上木庭、上木庭ノ並シ麥ノ出來三四斗ホド、蕎麥ノ出來四五斗ホドト記シ、豐崎郷ノ上木庭百歩ニ麥ノ出來六斗ホド、蕎麥三斗五升ホド、與良郷ノ上木庭百歩ニ麥ノ出來四斗ホド、蕎麥四斗ホドト記セリ、佐須郷ハ猪荒ノ止ミシ後ニ木庭ヲ早ク明ケ、麥蕎麥ノ出來今度申シ出デシ半分ニモ當リカヌルナラバ、今程ノ出來上上木庭、上木庭百歩ノ並シ麥ハ二斗ニ及バズ、蕎麥ハ二斗五升ニ及バザルト見ヘタルニ、豐崎郷今程木庭ヲ早ク明ケテモ、麥ノ出來佐須郷ニ二倍シ、蕎麥ノ出來佐須郷ノ一倍ニ近ク、與良郷今程木庭ヲ早ク明ケテモ、麥蕎麥ノ出來佐須郷ニ倍シケルナリ、豐崎郷與良郷ニ今程木庭ヲ明ケ過シテ、出來ノ減リタルコト佐須郷ニ同ジキナラバ、木庭ヲ明ケ過サヾル時ノ麥、蕎麥ノ出來ハ、今度申シ出デタルニ倍セシカ、出來ヲ甚ダ少ク記セルモノアレドモ、其レハ道理アルコトナラン

佐護郷ノ老農云ヘルハ、上上畠、上畠、中畠、下畠トモニ三年目ニハ麥ヲ作ラズ、冬春ノ内ニ耕シ、上上畠ニハ麻ヲ作クリ、其ノ外ノ畠ニハ大豆ヲ作クリ、夏耕ス畠ハ秋物ヲ作クルコトヲ止メ、著氣ノ内ニ耕シ置キテ麥ヲ作クリ、川寄畠ニハ秋物ヲ作クラズ、毎年麥ヲノミ作クルナリ、秋物ノ種子ノ内

ニテ大豆、小豆、蕎麥ノ種子ハ日ニ干スコトナシ、稻、粟、蕪菁、大根、胡麻、木綿ノ類ノ種子ハ晴日ニ三四日ホド好ク干シテ蒔キ付クルナリ、好ク干サヾレバ生ヒ出デヽモ漸々ニ痛ムト云ヒ傳ヘ、粟種子ハ十夜ホド夜露ニ逢ワセ、晴日ニ五七日モ干シテ宜シ、干スコト足ラザレバ實ノリ惡シヽト云ヒ傳ヘタリ、何ニ物ノ種子モ好ク念ヲ入レテ干スニ如クハナシ、干鰯ヲ上畠ニ入レテハ雨ノ過ギタル年ナドハ養ニ成ラズ、其ノ上ヘ畠ノ土カタマリ畠ノ瘠スル様ニ覺ヘタリ、上畠ニハ畦ノ溝ニ干鰯ヲ粉ニセズ其ノマヽニ入レ、散ラシ蒔キニ作クルナリ、然レドモ木庭ニ入レタルホドニハナク、秋物マデノ養ニハ成ラザルト覺ヘタリ、干鰯ハ中畠、下畠ヲ好ク耕シテ入レタルニ利益アリ、上畠ニハ藻ヲ入ルヽニ如クハナシ、藻ハ年ニ依リ當分ハ肥ヘザルト見ヘテモ、其後ノ作物段々ニ好ク肥ヘ、土地ノ養ハ藻ニ越ス物ナシト覺ヘタリ、日當テノ好キ木庭ニ念ヲ入レ地ゴシラヘ仕置キテ干鰯ヲ粉ニシ、麥種子ヲ散ラシ蒔キニ仕タル上ヘニ、干鰯ノ粉ヲフリテ作リ込ミタルガ宜シキナリ、干鰯ハ畠ニ入ルヽヨリハ木庭ニ入レテ利益多シ、木庭ニ入レテハ麥作ノ跡ニ作クル秋物マデ好ク肥フルナリ、新タニ明ケタル木庭ニテモ日當テノ好キ木庭ニハ、干鰯ヲ入ルヽニ利益ヲ覺ヘシト云ヘリ

仁位郷ノ老農云ヘルハ、川寄畠ニハ秋物ヲ作クラズ、八月ノ中比ヨリ九月マデ麥ヲ作クルト云ヘリ

佐須郷奉役ノ云ヘルハ、川寄畠ヲ夏荒シトテ荒ラシ置キ、麥一作スレバ草ノ生ズルコト厚キニテ地ヨクシマリ、洪水ノ時ニテモ上ワ土ノ流レ捨タル害ハ少ナシト云ヘリ

今按ズルニ、佐護郷ノ老農ノ說ニ、川寄畠ハ水ノ掛カル所ナルユヘ、八月ノ雨ノ時分ヲ過ギ秋ノ土用ノ入リ時分ヲ最中ニシテ、麥ヲ蒔キ付ケタルガ宜シト云ヘリ、然ルニ仁位郷ノ老農ノ說ニハ、川寄畠ニハ秋物ヲ作クラズ、八月ノ中比ヨリ九月マデ麥ヲ作クルト云ヒ、豐崎郷ノ老農ノ說ニハ、川寄畠ニハ八月ノ節ノ中比ヨリ一ニ遍耕シテ麥ヲ仕付クルト云ヘリ、八月中比マデハ霖雨ノ時分ヲ過ギシニテナク、佐護郷ノ川寄畠ノ麥仕付ノ時分ニ異ナルガ如シ、豐崎郷佐護郷ノ老農ノ說ハ、麥ノ篇ニ記シ置キタリ、豐崎郷ノ老農ノ云ヘルハ、川寄畠ハ麥ヲ取リ收メテモ畠ヲ稃カヤサズ、梅雨ノ後ニ秋物ヲ蒔キ付クル時節ニ至リテ稃カヤスト云ヒ、與良郷雞知村ノ老農ノ說モ是レニ同ジ、佐護郷仁位郷ノ老農ノ說ニテハ、川寄畠ニ秋物ヲ作クラザルト見ヘ、佐護郷奉役モ川寄畠ニ秋物ヲ作クラザルヲ宜シトスルト見ヘタリ、郷々ノ仕來リヲ奉役吟味ノ上ヘニテ利益ノ勝レル方ヲ用ヒ、百姓ニ下知ヲ加フベキコトナリ、作物一種ヅツノ說ハ十二種ノ篇ニ記シケレドモ、右ニ記ス數段ハ諸作ノ說ナルユヘ、田畠木庭作得ノ篇ノ末ニ加ヘ記スナリ

木庭ヲ伐ル事

豐崎郷舟志村ノ市右衞門、大增村ノ善右衞門、濱久須村ノ又右衞門云ヘルハ、上木庭ハ七八年荒ラシテ伐リ明ケ、中木庭ハ十一二年荒ラシ、下木庭ハ十八九年荒ラシテ宜シキト云ヘリ、鱒浦村ノ市兵衞、

西泊村ノ兵左衛門云ヘルハ、上木庭ハ六七年荒ラシテ伐リ明ケ、中木庭ハ十年ホド荒ラシ、下木庭ハ十五六年荒ラシテ宜シキト云ヘリ

佐護郷仁田内村ノ六郎右衛門、井口村ノ源右衛門、佐須奈村ノ長左衛門云ヘルハ、上上木庭、上木庭ハ三年目ホドニ伐リ、中木庭ハ五年目ホドニ伐リ、下木庭ハ八九年目ニ伐ルト云ヘリ

伊奈郷鹿見村兵右衛門、伊奈村ノ八郎右衛門云ヘルハ、上木庭ハ十年目ホドニ伐リ、中木庭ハ十五年目ホドニ伐リ、下木庭ハ十八九年二十年目ニ伐レバ作得多ケレドモ、作所不足ナルユヘ、上木庭ヲ五六年目ニ伐リ、中木庭ヲ八九年目ニ伐リ、下木庭ヲ十二三年目ニ伐ルナリ、是レニ由リテ木庭作ノ出來以前ヨリハ少ナシ、上中下ノ木庭ヲ只今ノ如ク早ク伐リテモ、以前ノ通リノ猪荒レナキユヘ、干鰯ヲ養ニ入レナバ上上木庭程ノ大益アレドモ、干鰯ヲ買フ代銀ナキ者ハ養ヲ入ルコト成ラザルト云ヘリ

三根郷三根村ノ利右衛門云ヘルハ、上木庭、中木庭ハ七八年目ニ伐リ、下木庭ハ十二三年目ニ伐リ、奥山木庭ハ村ヨリ手遠キユヘ、遠キ下木庭ハ十五六年目ニ伐ルト云ヘリ、佐賀村ノ平兵衛云ヘルハ、上中下ノ木庭ノ内ニテ、海邊ニアル日向ノ木庭ノ麥作ニ宜キハ五六年荒シテ伐リ、奥山木庭ハ八九年荒シテ伐ルナリ、元ヨリ木庭少ナキユヘ久シク荒スコト成リガタシト云ヘリ、木坂村ノ助右衛門云ヘルハ、海邊ニハ木庭少ナキユヘ久シク荒スコト成リガタク、西風强キユヘ多クハ麥一作シテ粟ヲ作クリ、其ノ跡ヲ荒シ蕎麥ヲ作クル、木庭ハ少ナク五六年ナラデハ荒シ得ザルト云ヘリ

仁位郷田村ノ吉右衛門、佐保村ノ三吉云ヘルハ、上木庭ハ六年ホド荒シテ伐リ、中木庭ハ七年ホド荒シテ伐リ、下木庭ハ十年ホド荒シテ伐ルト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衛云ヘルハ、上中下ノ木庭何レモ久シク荒シタルハ作物出來好キト覺ヘタレドモ、作所ノ少ナクシテ足ラザルユヘ久シク荒スコト成リ難ク、上木庭ハ八九年荒シ、中木庭ハ十二三年荒シ、下木庭ハ十四五年荒スナリ、以前ノ木庭ノ事ヲ老人ノ語レルハ、上木庭ヲ十四五年目ニ伐リ、中下ノ木庭ハ十八九年二十年目ニモ伐リケルユヘ、其ノ節ノ木庭ノ出來ハ今程ノ木庭作ノ出來ヨリモ多ク、今程ハ伐リ明ケノ早キニテ出來少ナキト語リ、吾等モ其ノ通リニ覺ヘタルト云ヘリ、蘆浦村ノ源右衛門云ヘルハ、上上木庭、上木庭ハ十年ホド荒シ、中木庭下木庭ハ十四五年ホド荒シタルガ宜シケレドモ、請持ノ地面ノ少ナキユヘニ、上木庭ヲ五年目七年目ニ伐リ、中下ノ木庭モ其レニ應ジテ早ク伐ルト云ヘリ

佐須郷阿連村ノ平介云ヘルハ、上上木庭ハ十二年ホド荒シ、上木庭ハ十四五年荒シ、中下ノ木庭ハ二十二三年荒シ置キテ伐リタルガ宜シケレドモ、今程ハ木庭ヲ荒ス年數少ナクシテ不相應ニ早ク伐リ明クルユヘ、久シク荒シ相應ニ伐リ明ケタル出來ノ半分ニモ及バザルト云ヘリ

豆酘郷豆酘村ノ喜右衛門云ヘルハ、上木庭ハ十年ホド荒シテ伐リ、中木庭ハ十五年ホド荒シテ伐リ、下木庭ハ二十年モ三十年モ荒シテ伐ルト云ヘリ

佐須郷奉役齋藤四郎次云ヘルハ、猪荒ノ害ノ止ミケル後ハ諸作ニ猪防ノ牆ヲ構フル手入リモナク、夜分ニ猪ヲ防グ苦勞モナク、諸作ノ手入レ養マデ精シク成リ、穀物出來增スベキコトナルニ、猪荒ノ止ミタル最初ニ心付モナク、漫リニ木庭作ヲ廣メ手間入リ增シ、田畠ノ手入レ粗ク成リ、木庭ヲ明クルコトハ段々早ク成リ、作得ノ少ナキホド木庭作ヲ廣メ、農業全書ニ見ヘタル農事ノ用フベキコトヲ諭シ教ヘテモ取リ用フベキ樣ナシ、猪荒ノ時ハ木庭ニ生ズル木ノ牆トスベキホドニ成ラザル內ハ、伐リ明クルコト成リカ子、跡作スルコトモ初メニ構ヘタル牆ノ損ゼザル間ノコトナレバ、何ホドニ地位好キ木庭ニテモ二年ヨリ多ク跡作スルコト成ラズ、是レニ由リテ上上木庭、上木庭ハ十一二年モ十二三年モ荒ラシ、中木庭、下木庭ハ二十二三年モ二十四五年モ荒シ、上上木庭、上木庭ハ土厚クシテ耕ス時ニ木ノ根ヲ掘リ除ケ、跡作スル年限モ多キユヘ木立薄ク、跡作ノ後ニ荒シ立テテモ二三年ノ間ハ草多ク生ジ馬草ヲ刈リ取ルユヘ、十一二年十二三年荒シ置キテモ其木庭ノ內ニ生ズル木バカリニテハ牆ヲ構フルコト成リカ子、地位ノ好キ木庭ナルニ依リ、手間入リヲ厭ワズシテ牆杭ノ足ラザル分ヲ近邊ノ山ヨリ伐リ寄セテ牆ニ用ヒ、中木庭、下木庭ハ土薄ク耕ス時ニ木ノ根ヲ掘リ除クルコト成リカ子、跡作モ大抵一作ニテ止メケルユヘ、木立チハ厚クテモ地位ノ好カラヌニテ、二十二三年モ二十四五年モ荒サズシテハ其ノ木庭ノ內ニ生ズル木ニテ牆ヲ構フルコト成リカ子タリ、麥木庭ハ何レノ村モ尾崎山ニ多ク、奥山ニハ少ナク、猪荒ノ時モ尾崎山ニハ猪少ナク、猪ノ害モ麥作ハ秋物ホドニ甚シカラザル

ユヘ尾崎山ノ麥木庭ニハ猪防ノ牆ヲ構フルコト少ナシ、然レドモ蕎麥木庭ノ牆ヲ構フル時節ハ麥木庭ヲ伐ル時節ナルユヘ、麥木庭ニ牆ヲ構フルコト少ナクテモ、木庭ヲ廣ク伐リ明クルコト成リカネ、蕎麥木庭ヲ廣ク明クル者ハ麥木庭ヲ狹ク明ケ、麥木庭ヲ廣ク明クル者ハ蕎麥木庭ヲ狹ク明ケタリ、右ハ老功ノ農人ノ語ル所ナリ、近年ハ上上木庭、上木庭ヲ八九年荒シ、或ハ六七年モ荒シテ伐リ明ケ、中木庭、下木庭ハ十二三年或ハ十四五年ホド荒シテ伐リ明クルニナレリ、右ハ今作人ノ語ル所ナリ、以前猪荒ノ時ハ上上木庭、上木庭ノ土厚キ所ニテモ跡作ハ二年ヨリ多ク成ラザリシニ、猪荒ノ止ミタル後ハ土ノ厚ク地ノ穩ナル所ヲ一二年ホド荒シ置キ、一二年モ續ケテ耕作スルユヘ、大雨ノ時ニ土沙ノ流レ下ダルコト其以前ヨリハ多ク、川床モ其ノ分ホド高ク成レリ、郡奉行所ヨリ吟味ノ上ヘニテ村々ノ木庭ヲ作人一人前ニ毎年伐リ明クル分數何程ト定メラレ、村々ノ下知人其ノ下知ヲ守リ、木庭作ノ法令能ク立チタラバ、田畠木庭ノ手入レ精シク成リ、木庭モ頓テ段々荒レ立チ、作所ハ狹ク成リテモ作得ハ多ク成リ、猪荒ノ止ミシ利益莫大ノコトナルベシト云ヘリ

今按ズルニ、齋藤四郎次木庭作ヲ論ズルコト右ノ如クナルニテ、必ヲ用フルコトノ精シキヲ見ルベシ、其ノ論ズル所ノ條數ノ多キ中ニテ切要ノ文段ノミヲ記スナリ、其ノ覺書ノ寫シヲ郡奉行所ヨリ七鄕ニ送ラレ、七鄕ノ奉役ニ僉議セシメラレ、四郎次覺書ヲ郡司配ヨリ某ニ送ラレケル後ニ、七鄕奉役ヨリ出ダセシ覺書ヲモ送ラレ、記シ置クベキ所ハ記シ置ケト示サルユヘ、其ノ大略ヲ左ニ記シ

某ガ思ヒ寄リヲモ書キ述ブルナリ

豐崎鄉奉役云ヘルハ、今度齋藤四郎次申シ出シ通リニ吾等モ先年ヨリ心付キ居ケレドモ、未ダ申シ出デザルナリ、木庭明ケ前ノ仕形ヲ改タムベキト村下知人中ニ內談シ居ケル折リ節シ、四郎次ヨリ精シク書キ付ケ差シ出ダセリ、宜シク法令ヲ立テラルヽニテアルベシ、豐崎鄉ノ內ニテモ畠木庭不足ナル村多シ、其ノ類ノ村ハ猪荒ノ節ヨリ只今マデ蒔キ付ケノ分數ノ別シテ增シタルニテハナシ、豐崎鄉ハ關所ヨリ百姓ヲ召シ使ワルヽコト殊ニ多キユヘ、畠木庭ニ精シク力ヲ用フルコト成リガタシ、村下知人ニ內々耕作ノ仕形ヲ申シ諭シテモ百姓ヲ召シ使ワルヽコトノ多キニテ、村下知人ヨリ耕作ノ仕形ヲ下知スルコト成リガタシ、去冬耕作鍛練ノ百姓ヲ召シ寄セ、諸作ノ仕形申サセ精シク書キ付ケ差シ出ダシ置キタリ、木庭作ノ事ハ四郎次申シ述ノ外ニハ別ニ申シ出ヅベキ事ナシト云ヘリ

今按ズルニ、豐崎鄉奉役ヨリノ申シ出デニ、關所ノ用ニ百姓ヲ召シ使ワルヽコトノ多キニテ耕作ヲ精シクスルコト成ガタク、村下知人モ村中ノ百姓ニ耕作ノ仕形ヲ下知スルコト成リガタシト申シ出デシハ誠ニ當然ナル申シ樣ニテ、某ガ心ニ感ズルコト甚ダ深シ、關所ノ當用ニ百姓ヲ召シ使ワルヽハ定メテ召シ使ワレズシテ叶ワザル事ナルベケレドモ、州府ヨリ百姓ヲ召シ使ワルヽコトヲ重ク思ヒタマヘル時節ニハ、召シ使ワレズシテ叶ワザルト見ヘタル事ニテモ深ク吟味ヲ加ヘタマヒ、是ノ如クナル時節ハ關所ニ勤ムル役人モ百姓ヲ使フコトヲ重ク思ヒ、召シ使ワズシテ叶ワザルト見ヘタ

ル事ニテモ心ヲ用フルコト深カラン、州府ヨリ百姓ヲ召シ使ワルル事ヲ輕ク思ヒタマヘル時節ニハ、召使ワレズシテ叶ワザルト見ヘタル事ニハ深ク吟味ヲ加ヘタマワズ、是ノ如クナル時節ハ關所ニ勤ムル役人モ百姓ヲ使フコトヲ輕ク思ヒ、召シ使ワズシテ叶ワザルト見ヘタル事ハ心ヲ用フルコト淺カラン、召シ使ワズシテ叶ワザル事ノ中ニテモ、役人ノ心ヲ用フルコト深キト心ヲ用フルコト淺キハ、使ワルヽ人數ノ多少ニ大分ノ違ヒアルベシ、百姓ヲ召シ使ワルヽ條目ノ增シ易クシテ減リ難キ勢ナレバ、郡支配ノ心ヲ用ヒラルヽコト深カラズバ百姓ノ患ヒ量ラレザル所アルベシ、是レニ由リテ豐崎郷奉役ノ申シ出デシ所ヲ某ガ心ニ感ズルコト甚ダ深シ、猪荒ノ止ミテハ牆ヲ構ヘシ手間入リト、夜中ニ猪ヲ防ギシ苦勞ノ止ミケルニテ其ノ分ホド民力ノ增シニ成リ、猪ニ害ナワレシ穀菜ヲ害ナワレザルニテ其ノ分ホド作得ノ增シニ成ルコトハ、吟味ニ及バズ知レタルコトナリ、然ルニ百姓ノ考ヘ愚カニシテ漫リニ木庭ヲ明ケ過シ、利ニ成ルベキコトノ利ニナラザルノミナラズ、害ニ成ル樣ニ仕成シケルト奉役ノ心ニ思ヒナガラ、敎フルコトモナク制スルコトモナク、殊ニ木庭ヲ明ケ過スハ見ヘ易ク知レ易キ事ナルニ、一年ナラズ二年ナラズ其ノ仕形ニ任セ置クハ如何ナル故カ、齋藤四郎次ハ佐須郷木庭作ノ事ヲ再三申シ出デケルト見ヘタリ、佐須郷ニ猪荒ノ止ミシハ去年マデ十二年ナレドモ、豐崎郷ニ猪荒ノ止ミシハ去年マデ二十年ニ及ベリ、然ルニ今度ノ覺書ニ先年ヨリ四郎次申シ出デシ通リニ心付キ居ケレドモ、未ダ申シ出デザルト云ヘルハ如何ナル故カ、豐崎郷ハ關

所ノアリケルニテ百姓ヲ召シ使ワルヽコト殊ニ多キト思ヘルナラバ、木庭ノ明ケ過シニ民力ノ費ヘアルコトヲ勘ヘ、木庭作ヲ廣ムル害ヲ他郷ノ奉役ヨリハ別シテ早ク僉議シ、奉役ノ力ニテ制シ得ルコト成ルマジキト思ヘルナラバ、別シテ速カニ郡奉行所ニ申シ出デ、申シ出デテモ下知ナクバ、再三申シ出ヅベキ事ナルニ、其ノ事ノナキハ如何ナル故カ、某其ノ故ヲ察シ得ルコトアタワザルナリ、

佐護郷奉役云ヘルハ、佐護郷木庭作ノ事ハ先年モ申シ出デ置キタリ、木庭ノ明ケ前ヘ五六十年以前ヨリ段々ト早ク成リ來レルニ依リ、作物ノ出來以前ホドニハナク段々ニ減ズル勢ト見ヘ、百姓モ其ノ事ヲ語リヌレドモ、木庭ノ明ケ前ノ早キヲ改ムベキ仕形ヲ今ニ心得ザレバ申シ出ヅルコト成リガタシ、佐護郷ハ田畠ノ手入レ如何ホド精シク成リテモ、木庭ヲ廣ク明ケザレバ作得減ズル積リニ見ヘ、田畠ニ出來ル穀物ハ少シニテ、木庭ヲ廣ク明クルハ以前ヨリノコトニテ、猪荒ノ止ミタル後ハ田畠木庭トモニ耕作ノ仕形タシカニ成リタリ、木庭ノ明ケ前ヘ早ク成リ、蒔種子ニ應ジテハ出來ノ減リタルト見フレドモ、伐リ明クル地面ノ廣キニテ穀物ノ出來高多ク成レルユヘ、木庭ノ明ケ前ヲ改メシムルコト百姓ノ心ニ落チ着キカヌル勢ナリ、然レドモ木庭ヲ廣ク伐リ明ケ、木庭ノ内ノ土厚キ所ヲ數遍耕作スルニ成リテハ地捨リノ害モアリ、土沙ノ流レ入リテ川床ノ高ク成レル害モアルナレバ、木庭ヲ相應ニ荒シ置クコトノ宜シキニ極マリタレドモ、右ニ申ス通リ百姓ノ受ケ守ルコトアルマジキ勢ナリ、木庭ノ明ケ前早ク成リテ洪水ノ時ニ土沙ノ流レ捨タル木庭ハ希レニアリ、以前數度ノ洪水ニテ溝幅一間ノ

所ハ三間ニモ成リ、惣體溝幅川幅甚ダ廣ク成リ、穩ナル木庭ノ內ノ中窪ナル所ナドハ、新シキ溝ノ立チタル所モ間々ニアリ、洪水ノ打チ續キタル時分上上木庭ノ內ノ土厚キ所バカリヲ撰ビテ度々耕作シケルユヘ、是ノ如クナルト云ヘリ

今按ズルニ、佐護鄕奉役木庭作ノ事ヲ論ジ百姓ノ情ヲ述ブルコト精シクシテ詳カナリ、思慮ニ及バザル所ヲ郡奉行所ニ申シ出デ差圖ヲ待チケルト見ヘタリ、佐護鄕ノ百姓モ木庭作ヲ漸々ニ減ラシ、手間ノ延ビアリテ手後クレナキニナラバ、木庭作ノ分量ハ減リテモ作得ノ減リタルト見ユルホドニハアルマジ、假令作得少シハ減ルトモ、領主ヨリ百姓ニ預ケ置セタマヒテ作ラシメタマフ地面ニ土沙ノ洪水ニテ流レ下ダリ、川床高ク成リテ水損アルコト昔ヨリハ少シデモ增スナラバ、其ノ害ヲ何トモ思ハズシテ只一筋ニ自分ノ作得ノ少シモ減ラザル樣ニノミ思フベキ道理ナシ、然レドモ佐護鄕ニ限ラズ、木庭作ノ仕形ヲ一度ニ改メヨト下知アリテハ、行ハレガタキ勢ナルベキユヘ、譬ヘバ上木庭二斗蒔キ明クベキヲ六斗蒔キ明ケ來リタルナラバ、奉役ヨリ初年ニ五斗蒔キ明ケコト下知シ、其ノ翌年ハ四斗蒔キ明ケヨト下知シ、四年目ニ相應ノ明ケ前ニ明クルニ成リ、土厚キ木庭ノ跡スル年數モ右ノ格ニテ段々ニ減ズル樣ニ下知アリタキコトナリ、何レノ道ニモ奉役村下知人ノ心ヲ用ヒズシテハ成ルマジキコトナランカ

伊奈鄕奉役云ヘルハ、伊奈鄕中ノ百姓モ木庭ノ明ケ前ヘ早ク成リテハ、作物ノ出來ノ減ルコトヲ知ラ

ザルニテナケレドモ、木庭ヲ早ク明ケ來タレルユヘ、若シ明ケ前ノ年數ヲ限リテ伐リ明ケヨトアラバ甚シキ差シ支ヘアルベシ、以前ハ山海ヨリ利ヲ得ルコト多カリケレドモ其ノ後ハ減ジ居ケルユヘ、山海ヨリ利ヲ得ルコトノ以前ノ如ク成レル時節ニ、木庭ノ明ケ前ノ早キヲ改ムルナラバ、差シ支ヘナクシテ木庭モ荒レ立ツベシ、先年以來ノ洪水ニテ伊奈鄉ノ內ニモ所々ニ山拔シタル所アリ、平地ヲ吹キホカシタル所モアリテ、川筋モ淺ク成リケレドモ、是ノ如キノコトハ其ノ以前モ折々有リケル事ト聞ク、以前猪荒ノ甚シキ山附ノ村々ニ吾等ヨリ問ヘルハ、猪荒ノ時ト猪荒ノ止ミケル後ハ、作得ニ何ホドノ違ヒアルヤト問フ、村々ノ百姓ノ答ヘニ、猪荒ノ時ニ穀物一石取リタル所ヨリ、猪荒ノ止ミケル後ハ一石五斗ホドモ作得アルベシト云フ、吾等又問ヘルハ、然レバ十俵取リタル者ハ十五俵取レルユヘ、大分ノ違ヒ家々ニアルナレバ、百姓ノ在附ニ其ノ分ノ違ヒアルベシ、違ヒヲ覺ヘケルヤト問フ、百姓ノ答ヘニ、別シテ違ヒタルコトハナシ、村ニヨリ時行(ハヤリ)ノ病モアリ、火災モアリケルユヘ、猪荒ノ時ヨリハ却テ百姓困窮セシト云ヘリ、差シ當タリタル災難ハ別段ノ事ナリ、百姓ノ習ニテ一作出來好ケレバ凶年ノ難儀ヲ忘レ、朝夕ノ營ミ緩マリ食ヒ潰レニ成リ、儉約ノ下知ヲ守ラザルユヘ、猪荒ノ止ミタル大益モ見ヘズ、畢竟ハ百姓ノ心ノ愚カナルユヘナリ、是レニ由リテ其ノ事ヲノミ諭シケルト云ヘリ

今按ズルニ、伊奈鄉奉役ノ申シ出デシ養ヒ潰レノ說ハ當然ノ議論ナラン、凶年ナリトテ作物ノ取リ

収メモ作クリ付ケモ疎略ニスルコトハナキト見フレドモ、作物ノ作クリ付ケ取リ収メノ時ノ食用、常年ハ甚シキ多食ニテ、凶年ハ甚シキ悪食ニ穀物ノ交ジルコト甚ダ少ナキト聞ク、是ノ如キノ不覚悟ヲ改メズ、其ノ外ノ事モ是レニ類スルナラバ、假令一倍ノ出來増シアルトモ損毛ノ年一年ニテ困窮ニ及ブベシ、二百石ノ禄ニテモ不覚悟ナルハ困窮シ、百石ノ禄ニテモ覚悟ノ好キハ困窮セザルト同ジ道理ナリ、然レバトテ作物ノ出來増シヲ無益ノ事トイヒ、禄ノ多キヲ無益ノ事トイフ道理ハアルマジキナリ、山海ヨリ利ヲ得ルコトノ多キ時節ニ、木庭ノ明ケ前ヲ改ムベキコトト云ヘル所ハ當否ヲ辨ヘ得ズ、某ガ思ヒ寄リハ前ノ條下ニ記シ置キタリ、伊奈郷老農ノ農作ニ力ノ及バザル所アリテ手後クレニ成リ、心得居ナガラ為シ得ザルト云ヒシ事ヲ、麥ノ篇ト木庭ヲ焼ク篇ニ記シ置キタルナレバ、精シク考ヘ深ク思フベキコトナラン、耕作ヲ分限ヨリ内端ニシテコソ手後クレニ成ルコトハ止ムベケレ

三根郷奉役云ヘルハ、吾等ノ思ヘルニハ、猪荒ノ止ミタル後ニ百姓ノ身上モ大抵立テ直シタルト思ヘルナリ、其ノ故ハ十三年以前庚寅ノ年ヨリ以後去年ノ春マデハ、打チ續キ大分ニ百姓ヲ召シ使ワレ、其ノ中ニハ凶年モ間々ニアリケレドモ、重キ救ヒヲ願ヒ上ゲズ輕キ救ヒヲ願ヒ上ゲ、拜借セシハ上納皆濟シ得ル様ニ成リ立チタリ、猪荒ノ害ノ止ミテモ木庭作ヲ廣メシユヘ、田畠ノ手入レ粗ラク成リ作得ノ減リタルトハ云ヒガタカラン、役銀ノ上納ニハ上ヨリ成シ下ダサレタル銀ヲ以テ皆濟シタル年モ

アレドモ、其レトモニ重キ差シ間ヘモナキ様ニ年々ノ役銀上納皆濟シケルハ、右ニ申ス故ナリ、佐須郷ニテ猪荒ノ時ハ上上木庭、上木庭ヲ十二三年荒シタル由シナレドモ、三根郷ニテハ猪荒ノ時ニテモ上上木庭、上木庭ヲ八九年ナラデ荒サズ、然ルニ若シ十二三年荒ラセトノ下知アラバ差シ支ヘニ成ルベシ、中木庭、下木庭ノ明ケ前モ、三根郷ニテハ猪荒ノ後ニ明ケ前ヘ早ク成レルコトナシ、奥山ノ下木庭ノ明ケ前ハ少シ早ク成リタリ、三根郷ニテ木庭作ヲ廣メタルト心付シハ、猪荒ノ時ニ伐リ寄セトテ猪牆ノ様ニ仕タル所ヲ、其ノ後ハ木庭ノ内ニ伐リ込ミ、又上木庭ノ穏ニシテ牛犂ニ成レル所ハ三年作クリ、三年目ノ秋ヨリ荒シケルニ、猪荒ノ止ミシ後ハ三年目ニモ秋物ヲ作クリ、其ノ跡ニ麥ヲ作クリ、以前三年作クレルヲ四年作クレルニ成リケルユヘ、近年ハ村々ノ役人ニ告ゲ、上木庭ノ牛犂ノ所ヲ三年ヨリ長ク作クラズ、猪荒ノ時ニ伐リ寄セニシタル牆筋ヲ木庭ノ内ニ伐リ込マザル様ニト下知スルナリ、三十年以前癸酉ノ年ヨリ以來度々ノ洪水ニテ郷中ノ畠方大分水損ノ水荒ニ成リ、其分ホド百姓請ケ持チノ作所減リ居ケルナレバ、其ノ所ノ吟味アリケル上ニテ、百姓ノ差シ支ヘニ成ラザル様ニ下知アリタキコトナリト云ヘリ

今按ズルニ、三根郷奉役木庭ノ事ヲ申シ出デシ次第意旨分明ナリ、議スベキ所ナシ、其ノ儘ニ任セ置カルベキコトナランカ

仁位郷奉役云ヘルハ、仁位郷中ニハ以前猪荒ノ時ニテモ猪防ノ牆ヲ構ヘタルコトナシ、仁位郷ノ内ニ

テ猪荒ノ強キ村ハ仁位村、曾村、田村、大綱村ナリ、右ノ四箇村ニテモ猪防ノ牆ヲ構ヘズ、面々ニ守リテ猪ヲ防ギシマデナリ、佐須郷ニテ猪荒ノ時ハ上上木庭、上木庭ヲ十一二年或ハ十二三年荒シ、中木庭、下木庭ヲ二十二三年或ハ廿四五年荒シタルトアレドモ、仁位郷ハ村々ノ木庭廣カラザルユヘ、右ノ四箇村ノ奥山ニアル木庭、猪荒ノ時ニテモ八九年ヨリ長ク荒シタルコトナク、中木庭、下木庭ハ十二三年ホド荒シ置キテ伐リ明ケシナリ、仁位郷ノ内ニテ千尋、藻鎗、川糸、瀬佐、志賀、嵯峨、小綱、銘卯、麥佐保、志多浦、十箇村ハ猪荒ノ時ニテモ猪少ナク、貝鮒、貝口、唐洲、廻四箇村ハ以前ヨリ猪荒ナシ、木庭ハ日向、日陰、深谷、淺谷、風當ノ五樣ヲ以テ諸作ヲ仕付クルユヘ、大損毛ノ年モ坪數ノ内ニテ、何レノ坪ニ成リトモ種子用ホドノ殘リアル道理ナリ、損毛ノ年ニ手狹ク伐リ明ケ置キテハ種子モ殘ルマジキト作人皆共ニ申シ出デシナリ、木庭ヲ廣ク作クリ置ケバ、風損、旱損ノ年ニモ隈岸岩陰ナドニ少シヅツハ損ジ殘リアリ、何レノ道ニモ郷々ノ仕來リヲ用ヒタキコトナリト云ヘリ

今按ズルニ、仁位郷奉役ノ申シ出デシ木庭五樣ノ事ハ、郷々ニテ木庭ヲ漫リニ廣ク明クルコトヲ好メル百姓ノ皆共ニ云フコトナリト聞ク、五樣ノ木庭ヲ手入レノ精シク成ルホドニ内端ニ明ケ、五樣ノ所ニ何レモ手入レヲ精シクシ、養ノ手廻シニモ力ヲ用フルナラバ、廣ク粗ク作クリタル時ヨリハ却テ出來多ク、損毛ノ年ノ損ジ殘リモ其ノ出來ニ應ズベシ、五樣ノ木庭ヲ一ツ減ジタラバ其ノ分ノ損アラン、五樣ノ木庭ヲ五樣トモニ作クリテ、作クレル分數ヲ五樣ノ中ニテ減ズベキコトナラン、

仁位郷ハ猪荒ノ止ミシ後モ木庭ヲ漫リニ廣ク明ケタルニテナキナラバ、其ノマヽニ任セ置カルベキコトナランカ

與頁郷奉役云ヘルハ、近年牛ニテ諸作ヲ仕付クルユヘ木庭ノ明ケ前モ早ク成リ、諸作モ出來カヌ數多ノ害アルユヘ、木庭ノ法令バカリヲ立テラルベキコトニテハナシ、畠ノ片下ガリナル所モ、木庭ノ床モ穩ナル木庭モ牛ニテ耕スコトヲ禁ジラレ、畠木庭ノ犂キ樣ノ法ヲ立テラルヽナラバ、諸作ヲ只今ノホドニハ廣ク作クリ得ズ、出來テ好ク成リ、品々ノ害モ次第ニ少シヅヽ止ムベシ、猪荒ノ止ミタル後ハ百姓ノ心ニ諸作ヲ多ク作クレバ、作得ノ増シアルトバカリ一遍ニ思ヒ入リ、人力バカリニテハ何ホドニ力ヲ用ヒテモ果敢取ラザルユヘ牛ヲ買ヒ求メ、畠モ木庭モ犂ベキホドノ所ハ牛ニテ犂キ、牛ニテノ耕シハ蹈耜（フミスキ）ノ如ク精シクスルコト成リガタク、十分ニ糞ヲ入レテモ出來ノ増スコトナク、元ヨリ耕作ニ手入レヲ精シクスルコトハ仕馴レズ、希レニ手入レヲ精シクスベシト思ヒ寄リテモ初ヨリ耕作ノ仕掛ケ精シカラズ、其ノ上ヘ作クリ付ケノ地面ノ廣キニテ、手入レノ日數モ増シ養ノ力モ足ラズ、作得ノ減リタルホド家内ノ食用足ラズ、近年ハ其ノ所ニ心付キタル作人ノ牛ニテノ耕作ヲ止メタルモ希レニハアリ、其ノ害ヲ知リナガラ仕來リヲ止メ得ザルモアリ、片タ下ガリナル畠ト、木庭ノ床ト穩ナル木庭ハ上手ノ好キ土ヲ下手ニ犂キ下ダシ地底ノ赤土ニ成リ、其ノ赤土ヲモ犂キ下ダシタル跡ハ岩ト成リ、段々ト犂キ下ダシタル土ノ作所ノ窪キ所ニ流レ込ミ、溝川ニ流レ入ルニテ洪水出拔ノ天災ナキ常

ノ年ニテモ地捨リ多ク、數十年ノ後ニハ地捨リ何ホドニ成ルベキモ量リガタシ、皆是レ牛ニテ耕作スルユヘナリ、牛ニテ耕作スル害ヲ考フルニ、其ノ外ニモ數多アリ、田方ト平ラカナル畠ハ牛ニテ耕作スルモ其ノ害ハ見ヘズ、木庭作ノ法令ニ條數ヲ多ク立テラルヽニナラバ、百姓ノ心ニ法令ヲ守ルベシト思フコトハ薄クシテ、法令ヲ難儀ナルコトヽ思フベシ、先ヅ肝要ノ法令ヲ立テラレ、其レニテ調リガタキト見ヘタラバ、其後ニ宜シカルベキ法令ヲ段々ニ立テラレタキコトナリト云ヘリ

今按ズルニ、與良郷奉役ノ申シ出デニ、木庭作ノ法令モ條數ノ多カラヌ様ニアリタキコトヽ云ヘルハ誠ニ當然ノ儀ナラン、初ノ法令ニテハ調リガタキト見ヘタラバ、其ノ後ニ宜シキ法令ヲ段々ニ立テラルベキコトヽ云ヘルモ、是レ亦タ當然ノ儀ナラン、法令ノ條數ノ多キ時ハ百姓ノ心ニ法令ヲ守ルベシト思フコトハ薄クシテ、法令ヲ難儀ナルコトヽ思フニテアラント云ヘルハ民間ノ情ヲ知リ得タルナリ、與良郷ニ牛犂ノ初マリシコトヲ草使ニ問ヒケルニ、答ヘテ云ヘルハ、與良郷ノ內ニテモ遠方ノ村々ノ事ハ知ラズ、其ノ身ノ住セシ蘆浦村并ニ近方ノ村々ニ牛犂ヲ仕來リタルハ二十四五年以前ヨリノ事ナリ、其後段々牛數增シ、十四五年以前マデ一村ニ十四五疋アリタルハ、十四五年以來ハ十七八疋ニモ成レリ、片下ガリナル畠木庭ヲ牛犂ニスレバ卑キ方ニ土下ガルユヘ、左様ノ地面ハ牛犂ニセズ、蹈耜ニテ犂クベシト肝煎ヨリ云ヒ付ケ置シナリ、然レドモ不精ナル者ハ云ヒ付ケヲ背キ、片下ガリナル地面ヲモ牛犂ニスルコト希レニハアリト云ヘリ、牛犂ノ法令ノ郡奉行所ヨリ出ヅ

ルコトハ當否ヲ辨ヘ得ズ、齋藤四郎次ノ云ヘル如ク、村々ノ木庭ヲ作人一人前ニ毎年伐リ明クル分數何ホド、土厚キ所ノ跡作スル年數何ホドト奉役ニ定メシメラル丶ヲ當然ノ下知ナラント思フナリ、洪水山拔ケノ天災ナキ年ニテモ地捨リハ年々ニ增シ、作物ノ出來ハ年々ニ減リ、其ノ外ニモ數多ノ害アルナラバ、與良鄕ノ百姓甚シク困窮シ甚シク零落シ、其ノ沙汰ヲ府中ニテモ云ヒ觸ラシ、年貢役銀ノ上納皆濟モ滯リ居ケルニテアラン、然レドモ郡奉行所ヨリ與良鄕ニ別シテ下知アリシコトヲ聞カズ、與良鄕奉役今度申シ出デシ通リニ思ヒ居ナガラ、數年ノ間ダ其ノ事ヲ申シ出デズ、今度郡奉行所ヨリ木庭作ノ事ノ尋子アリテ初メテ申シ出デシハ如何ナル故カ、某其ノ故ヲ察シ得ルコトアタワザルナリ

豆酘鄕奉役云ヘルハ、豆酘鄕ハ木庭ヲ伐リ明クル廣サノ猪荒ノ時ヨリハ增シケルニテナケレドモ、跡作スル年數ノ增シケル故木庭ノ荒レ立チ晚ク、明ケ前早ク成レルト云ヘリ

今按ズルニ、木庭ノ跡作ノ年數ノ增シケルモ、木庭ヲ廣ク明クルト同ジ道理ナリ、下知ヲ加ヘラルベキコトナラン

佐須鄕奉役齋藤四郎次云ヘルハ、鄕中村々ノ木庭ノ地位ヲ考ヘ、村下知人肝煎幷ニ農作鍛練ノ老農ヲ召シ寄セ委細ニ吟味ヲ遂ゲシ上ヘニテ、何村ハ今作人一人前ヨリ一箇年ノ夏秋兩度ニ伐リ明クル木庭何程ヅツ、上上木庭、上木庭ハ何箇年ニ一遍、中木庭、下木庭ハ何箇年ニ一遍、上上木庭、上木庭ノ土

厚キ所ノ跡作何箇年ト一村切リニ極メテ帳面ニ記シ、郡奉行所ニ差シ出ダシ置キ、木庭作ノ法ヲ守レルカ背ケルカノ檢分役ハ、奉役ヨリ郷士、郷足輕ノ内ヲ二三人撰ビテ定メ置キ、村々ノ内ニテ竊ニ人柄ヲ撰ビ隱目付ヲ定メ置キ、法ヲ背ク者アルヲ密々ニ聞キ、用捨ナク吟味ヲ遂ゲヨト郡奉行所ヨリ下知アリタキコトナリト云ヘリ

今按ズルニ、四郎次申シ出デシ次第ハ當然ノ事ナラン、郡奉行所ヨリノ尋ニテ重子テ出ダセシ覺書ノ中ニ見ヘタル肝要ノ文段ヲ是ノ如ク記スルナリ、木庭ヲ明ケ過スコトノ佐須郷ニ同ジキ郷ハ、何レノ郷トテモ四郎次申シ出デシ通リニセヨト下知アリテ宜シカランカ、頃日郡支配ヨリ某ニ示サルヽハ、木庭作ノ法ヲ背キタル作人アラバ、郷士ニテモ百姓ニテモ其ノ作人其ノ年ニ明クマジキ木庭ヲ明ケ、跡作スマジキ木庭ニ跡作シタル分ノ作物ノ出來ヲ奉役村下知人檢分ノ上ヘニテ極メ置キ、其ノ分ノ俵數ヲ差シ出ダサセ、賣リ拂ヒテ其ノ郷中ノ用銀ニ加ヘ、木庭作ノ法ヲ背キタルハ幾度ニテモ其格ニセヨト郡奉行所ヨリ下知セシメラルベシ、是ノ儀ヲ如何カ思ヘルゾト示サレ、別ニ思ヒ寄リナキ由答ヘ申シケルナリ

木庭ヲ燒ク事

豐崎郷ノ老農云ヘルハ、木庭ヲ燒クハ上手ヨリ二三間ホド伐リ下ゲ能クサラヘ、畔ヨリ火ヲ付ケ十間

ホド燒キ下ゲタル時ニ、下手ヨリ火ヲ付クルト云ヘリ

與良鄕雞知村ノ才兵衞云ヘルハ、木庭ヲ燒ク前ニ木庭ノ畔ヲ幅八九尺ホド木ノ葉ヲカキ下ダシ置キ、晴天ノ續キ風ノ靜カナル日ヲ待チ請ケ、上手ヨリ火ヲ付ケ燒キ下ゲ、風下ノ方ニ早ク付ケ、風上ノ方ハ晩ク付ケ、風下ヨリ風上ニ燒キ行キ、木庭ノ大小ニ應ジ五人カ三人ニテ燒クト云ヘリ

豆酘鄕豆酘村ノ喜右衞門云ヘルハ、木庭ヲ燒クハ木庭ノ外廻リヲ九尺カ二間ホドサラヘ、木庭ニ應ジ五人カ七人ニテ燒ト云ヘリ

佐護鄕ノ老農云ヘルハ、木庭ヲ燒クニ燒キ終レルヨリ種子ヲ蒔付ルマデ日數アリテ、木庭ノ土カタマレバ蒔キ付ケテ生ヒ出ヅル物モ痞スルユヘ、蒔キ掛カル二三日前ニ燒キテ宜シ、何ノ作物ノ木庭モ伐リ終リテ暑氣ニ逢ヘル日數ノ多キハ、柴草ヨク腐レテ木庭ノ土ヨク肥ヘ、其ノ後ニ晴天ノ續キタル時ニ燒キ、其ノ上ヘニ若シ早ク雨降レバ燒ケタル灰ヲ風ノ吹キ散ラスコトナク、愈イヨ作物ノ爲メニ宜シ、蒔キ付クル前ニ早ク燒キ置キタル木庭ハ作物ノ出來必好カラズト云ヘリ

伊奈鄕鹿見村ノ兵右衞門、伊奈鄕ノ八郎右衞門云ルハ、麥木庭ヲ燒クハ八月下旬ニ燒キ蕎麥木庭ハ六月土用ノ內ニ燒キテ宜シ、手後レニテ麥木庭ヲ晩ク伐タルハ九月ニ燒ク也、蕎麥木庭ヲ手後レニテ晩ク伐リ七月ニ燒カントスレバ、年ニ依リ雨續キテ燒キ得ザル事度々ニアリ、粟木庭ハ四月上旬ニ伐リ、五月ノ梅雨ノ前ニ燒キテ宜シケレ共、手後レニテ晩ク伐レバ、梅雨ニ入リ燒キ得ザル事有ト云ヘリ

仁位郷ノ老農云ヘルハ、粟木庭ハ四月中比ニ燒キ、蕎麥木庭ハ六月中比ニ燒キ、麥木庭ハ八月中比ニ燒クト云ヘリ

與良郷雞知村ノ才兵衞云ヘルハ、木庭ハ何ヲ作クルニモ隨分早ク伐リ久シク枯ラシテ蒸シ置キ、燒ク時ニ土マデ能ク燒クル樣ニシタルガ宜シキト云ヘリ

佐須郷奉役云ヘルハ、老農ノ説ニ下木庭ノ內ニテ殊ニ地位ノ惡シキ所ト、荒シ置ク年數ノ足ラザル所ヲ譬ヘバ三斗蒔キ、伐リタル仕來リナルニ二斗蒔キ伐リ明ケテモ、作得ハ却テ二斗蒔ノ方ニ增シアル仕形ハ、伐リ明ケノ時節ヲ仕來リノ時節ヨリ廿日モ卅日モ早ク伐リ置キ、仕來リノ燒キ時節ニ成リタル時ニハ、伐リ置キタル木草ノ葉ノ地ニ落チタルモ過半ハ腐チ、伐リ株ノ芽モ長ジ、伐リ置キタル燒キ草ハ見ヘヌホドニ木ノ葉ノ靑ミタルヲ、燒クベキ日ヨリ五七日前ニ伐リ干シ置キテ燒ケバ、初メ伐リ置キタル木ノ能ク枯レタルニテ木庭ノ土迄能ク燒ケ、其上ヘニテ掘リ耕シ、種子ヲ好キ時節ニ蒔キ付クレバ作物出來好ク、下木庭モ上木庭ノ作得ニ劣ラズト說キ、木庭ヲ燒キタル時ニ燒キ殘シノ柴木ヲ所々ニカキアツメ小燒シタルハ、下木庭ニテモ作物ノ出來上上畠ニ同ジト云ヘリ

今按ズルニ、昔年某東海道ヲ行キケル時ニ、田畠アル續キニ草野ノ所々ニアルヲ見テ、彼ノ草野ハ田畠ニ成ラザル土ナルカト其ノ地ノ人ニ問フ、其ノ人ノ答ヘニ、彼ノ草野モ田畠ニ成ラザル土ニテハナケレドモ、彼ノ草野マデ田畠ニ開キテハ、田畠ノ養トスベキ草ナク、養ニ用フル爲メニ草ヲ立

テ置クハ、草野ヲ悉ゴトク田畠ニ開キタルヨリハ利益アリト云ヘリ、木庭ノ地位ノ好カラヌホド晩ク明ケ、其ノ木庭ニ生ズル木ノ枝葉ノ繁レルニテ伐リ枯ラシ、燒キタル時ノ灰モ多ク火氣モ强ケレバ、土ヲ養フコトモ厚ク、土ヲ燒クコトモ深クシテ作物出來多ク、木庭ヲ不相應ニ早ク明ケ、木ノ枝葉ノ繁ラザルニテ伐リ枯ラシ、燒キタル時ノ灰モ少ナク火氣モ輕ケレバ、土ヲ養フコトモ薄ク、土ヲ燒クコトモ淺クシテ、作物出來少ナキト同ジ道理ナラン

木庭ヲ燒ク事

佐護鄕ノ老農云ルハ、木庭ノ內ニ水遣スルハ木庭ノ形ニ應ジテ品々ニ爲セル故、分明ニハ述難シト云リ

三根鄕ノ老農云ヘルハ、木庭ノ內ニテ雨水ノ通ル所ハ、水遣ノ溝ヲ掘リ谷川ニ落スト云ヘリ

仁位鄕ノ老農云ヘルハ、木庭ニ依リ水ノ通ル所ハ竪ニ水遣ヲスルト云ヘリ

豆酘鄕ノ老農云ヘルハ、大水ノ時ニ水ノ通リ來リタル所ハ、木庭ニ明ケザル前ニ水遣ヲ仕置キテ木庭ニ明クルト云ヘリ

木庭作ノ一說ニ云ヘルハ、農人ニ依リ木庭ノ穩ナル所ト、中窪ナル所ノ上手左右ニ水遣ノ溝ヲ掘リ通シ、上手左右ヨリ流レ下ダル水ヲ防グ者モ希レニハアレドモ、其ノ仕形ハ當作ノ害ヲ防グ爲メニ宜シキマデナリ、大雨ノ時ハ上手左右ノ山ヨリ流レ下ダル雨水ノ其ノ溝ニ聚マレルニテ水ノ勢ヒ强ク成リ、

溝縁左右ノ土沙ヲ洗ヒ流スコト多ク、寒氣ノ節ハ土凍リ、暖氣ニ成リテ氷解クル節ハ、溝縁左右ノ土マデ崩レ落チ溝ニ入リ、其後ノ大雨ノ時ニ流レ下ダルコト多キユヘ、木庭作ニ水遣ノ溝ヲ掘ルハ宜シカラザルト云ヘリ

今按ズルニ、木庭ノ左右ト上手下手ニ少シノ高下アリテ、左右ノ内ノ高キ方ヨリ大雨ノ時ノ土ノ崩レ込ミ少ナク、溝ノ上手ヨリ溝ノ下手ニ流ル丶雨水ノ勢モ緩ク、溝ノ直グナラヌ所ニテ左右ノ土ヲ流シ崩スコトモ少ナキヲ穩ナル木庭トイヒ、溝ノ掘ラル丶木庭トイフベシ、當分ハ溝ヲ掘リテモ左右ノ内ノ一方ノ高キ方ヨリ大雨ノ時ニ土ノ崩レ込ミ多ク、溝ノ上手ヨリ溝ノ下手ニ流ル丶雨水ノ勢ヒ強ク、溝ノ直グナラヌ所ニテ左右ノ土ヲ流シ崩スコトモ多キハ、穩カナル木庭トモ、溝ノ掘ラル丶木庭トモイフベカラズ、是ノ如クナルハ一度ノ大雨ニモ溝ノ中ニ崩レ込ム土沙多クシテ溝ヲ埋ミ、作處ノ内ニモ雨水流レ入ルベキナレバ、當作ヲ損サスコト溝ヲ掘ラザルニ増シケルコトモアラン、穩ナル木庭ノ内ニテモ一様ニハナク、高下ノ多少ニ違ヒアルベケレドモ、溝ヲ掘リテ崩レ込ミ流シ崩シノ輕キハ、總テ穩ナル木庭トイヒ、溝ノ掘ラル丶木庭トイフベシ、穩ナル木庭ニテモ穩ナル所ト嶮岨ナル所ノ境目ヨリ一尺ホド間ヲ置キ、穩ナル地一尺通リハ作所ノ外ニシテ溝ヲ掘リ嶮岨ナル所ノ出張リ入込ミアラバ、見合セテ小坪ヲ相應ニ分ケ、溝ノ掘リ易キ様ニスベキコトナリ、木庭ノ内ノ中窪ナル所ノ水遣ノ溝モ、其ノ中窪ナル所ノ穩ナラヌニ溝ヲ掘リタラバ、溝ノ左右ノ土ノ崩

レ込ミモ多ク、流シ崩シモ多カルベシ、是レモ溝ノ掘ラレヌ木庭ナリ、穩ナル木庭ノ中窪ナル所ニ溝ヲ掘ルハ、其土ヲ兩方ニ上ゲテ兩方トモニ土手ノ如クシ、上手左右ニ溝ヲ掘ルハ其ノ土ヲ作所ノ方ニ上ゲテ、作所ノ方バカリヲ土手ノ如クスベキコトナリ、府中ニテモ山下ノ屋敷ハ大雨ノ時ニ山ヨリ流レ下ダル水ニテ。菜園ノ細土ヲ洗ヒ流シ糞養ヲ流シ取レルユヘ、水遣ノ溝ヲ掘ラズシテ叶ハヌコトナリ、一度掘リタルマデニテハ穩ナル木庭ニテモ溝ノ立居ケルコトアルマジ、大雨ノ後ニモ霜解ノ後ニモ見廻リテ溝ヲサラユルコト、畠木庭ノ溝ハ云フニ及バズ、菜園ノ溝ニテモ無クテ叶ハヌコトナリ、何事ノ造作モ一度ナシケルマヽニテ、修理ヲ加ヘズシテ事ノ濟ムコトハアルマジ、中高ニテ上手ヨリ雨水ノ流レ入ルコトナキ穩ナル木庭ハ溝ヲ掘ルニ及バズ、上手ヨリ雨水ノ流レ入ル木庭ニテモ、水筋ノ所ノ一筋バカリニ溝ヲ掘リ、上手左右ニ溝ヲ掘ラズシテ妨ゲナキ所モアルベシ、殊ニ溝ノ掘ラルヽ穩ナル木庭ハ、百姓面々請持ノ木庭ノ內ニテ十分ノ一ホドナラデハアルマジキトイフナレバ、漸々ニ溝ヲ掘ルニ力ノ及バザルコトハアルマジキナリ

木庭作ノ一說ニ云ヘルハ、以前猪荒ノ時ニハ川寄ニ木庭ヲ伐リ明ケテモ猪防ノ牆ヲ構ヘケルユヘ、大雨ノ時ニ其ノ木庭ノ中ノ土沙流レ下ダルヲ木庭ノ下手ノ牆ニテ防ギ留メ、直グニ川中ニ流レ入ルコト少ナク、其ノ牆ノ朽チ損ズル間ニハ川緣ニ木草生ジ、土沙ノ川中ニ流レ入ルコト少ナク、漸々ニ入リタルハ洪水ノ時節漸々ニ流レ下ダリ海中ニ入リ、川ノ淺ク成ル障リハ有リカ子ケルニ、近年ハ木庭ノ明ケ前

ノ早ク成レルニテ、川寄ノ木庭ヲ伐リ明クルコトモ多ク、其上ヘ牆ヲ構フルコトナキニテ、土沙ノ川中ニ流レ入ルコト多シ、川寄溝寄ニ木庭ヲ伐リ明クルト、木庭ノ穩ナル所ト中窪ナル所ニ折々耕作スルニハ、其ノ木庭ノ下手ノ所バカリ石垣ヲ高サ二尺五寸ニ堅ク築キ、大雨洪水ニ上手ノ木庭ヨリ土沙ノ流レ下リテ急ニ川中ニ流レ入ルコトヲ防ギ、川寄ノ木庭ノ川縁ニハ櫧（カシ）栗ヲ植ヘ立ツル樣ニ下知アリタキコトナリト云ヘリ

今按ズルニ、土沙ノ雨水ニテ流レ下ダルハ濁リ水ニ成リテ流レ下ダルナレバ、牆ニテ防ギ留ムベキ樣ナシ、石垣モ大抵ノ石垣ニテハ土沙ノ濁リ水トナレルヲ防ギ留ムベキ樣ナシ、郷村ニテ濁リ水ノ土沙ヲ留メ得ルホドノ石垣ヲ築クハ甚ダ成リガタキコトナラン、干出ノ開キヲスルニ干ツメノ所ニ橛ヲ打チ込ミ置キテモ、土沙ノ其ノ橛ヨリ內ニ留マルハ平ラカナル干出ノ內ニテ水ノ勢ノ緩ヤカナルユヘナリ、片下ガリナル木庭ト嶮岨ナル木庭ノ下手ニ、其ノ木庭ノ上手ヨリ流レ下ダル水ハ水ノ勢ノ强カルベキユヘ、大抵ノ石垣ニテ土沙ヲ其ノ內ニ留ムルコトハナルマジ、石垣ノ內ニ留マルハ流レ下ダリタル小石バカリニテ、土沙ノ交リタル濁リ水ハ石垣ノ透間ヨリ流レ出ヅベシ、假令土沙ヲ留ムルホドノ石垣ナリトモ、高サ二尺五寸ノ內ニ小石ト土沙ト共ニ積モリタラバ、其ノ後ノ大雨ノ時ノ濁リ水ニ交リタル土沙ハ石垣ヲ越スベシ、是ノ如クナルトテ石垣ヲ段々ニ仕添フルコトハ人力ノ及ビガタキコトナラン、假令仕添ヘ得タリトモ、石垣ト山ノ方ト少シバカリノ間ニ土沙ノ留ルマデニテ、

其ノ上手ノ作所ノ土沙ヲ保チ得ル益ニハ成ルマジ、川寄ノ木庭ノ川縁ニ櫧栗ヲ植ヘ立ツルコトハ其ノ利害ノ輕重ヲ辨ヘ得ズ、栗ノ葉ノ作所ニ落チタルハ作所ノ土ヲ瘠セシムルト云ヒ、川寄ノ穩ナル所ハ木庭ノ床トテ畠ニ仕成シ置キタル所モアルベキナレバ、木ヲ植フルコト作所ノ障ニ成ランカ

木庭作ノ一說ニ云ヘルハ、嶮岨ナル木庭ヨリ土沙ノ流レ下ダルコトハナシ、其ノ故ハ嶮岨ナル木庭ハ木草ノ根ノ除クホドニ耕スニテナク、續ケテ作クルコトモナキ故ナリト云ヘリ

今按ズルニ、木草ナキ所ノ高キ土ノ卑キニ下ガルハ定マリタルコトナリ、壹州ニテハ片下ガリナル山畠ノ土ノ漸々ト卑キ方ニ下ガリタルヲ三年ニ一度ヅツ高キ方ニ持チ上グルト聞ク、然レバ嶮岨ナル木庭ハ木柴ヲ燒キタルマデニテ耕スコトナクテモ、大雨ノ時ニ土沙ノ流レ下ダラヌコトハアルマジ、穩ナル木庭ヲ掘リ浮カシタル內ニテ、雨水ノ流レ通ル筋ハ土沙ノ流レ下ダリタル樣子見ヘ易ク、嶮岨ナル木庭ハ水筋ト見ユル所ナクテモ、上ワ土ハ總テ流レ下ダルニテアラン、穩ナル木庭ノ水筋ノ所ニ掘リ浮カシ置キタル土沙ノ流レ下ダルト、掘リ浮カサヾル嶮岨ナル木庭ノ上ワ土ノ總テ流レ下ダルトハ、多少ノ分量ノ知リガタキ所モアルベシ、鄕村ノ人ノ云ヘルハ、嶮岨ナル木庭ヲ燒キタル時ハ木草ノ根ハ見ヘザルニ、其後作物ノ生ヒ出デザル前ニ强キ雨フレバ、木草ノ根ノアラワルヽニテ上ワ土ノ流レ落ツルコトヲ知レルト云ヘリ、穩ナル木庭ハ掘リ浮カシ置キタル所ニテモ、雨水ノ通リ筋ニテナキ所ハ浮土ヲ流シ下ダサズ、水筋ノ所ノ浮土ヲ流シ下ダス分ハ、嶮岨ナル木庭ノ上

ワ土ヲ流シ下ダスヨリ少キ事モアラン、某木庭作ヲ論ズル旨ハ土穀談ニ記シ置キタリ、其論ノ大日トセシ伐掛ケノ仕形、後世ニ至テ若シ行ワル丶時アリ共、穩ナルト嶮岨ナルトノ兩様ニ附キガタク

一其間ノ地形ナラバ、溝ノ掘ラレヌヲモ强ヒテ掘リ、穩ナル木庭ノ類ニ爲スニテアルベシ、然レバ溝ノ掘ラレヌ木庭ノ内ニテ、嶮岨ナルト云フホドニナキ木庭ヲ相應ノ明ケ前ノ年ニ伐リ明ノルニハ、其木庭ノ上手左右ニ溝ヲ掘ラズ、只水筋ニナリ來リタル所計ヲ溝ニ立テ置キ、大水アルハ大抵五月カ八月ナル故、麥ヲ作ル木庭ハ八月ノ節ノ初比ヨリ中比迄ノ間ニ伐リ置キ、九月ノ節ノ初比ヨリ中比迄ノ間ニ燒キ耕シテ麥ヲ散ラシ蒔ニシ、翌年其麥ヲ刈リ取リタル跡ハ麥藁ヲ其儘ニシ置キ、五月八月ノ霖雨ニ麥藁ノ上ヘヲ雨水ノ流レ通リテ土沙ノ多ク流レ下ラザル様ニシ、秋物ヲ作クル木庭ハ春伐リニシテ、夏粟、夏大豆ヲ三月中比ニ作リ付ケ、梅雨ノ時ニハ根モ莖葉モ茂リ居ケル様ニシ、海ニ近キ木庭ナラバ、三月末比木綿ヲモ作リ、蕎麥ヲ作ル木庭モ春伐リニシ置キ、六月土用ノ初比ニ燒キ、土用ノ内ニ蒔キ付ケ、七月ノ中比末比ニハ根モ莖葉モ茂リ居ケル様ニシ、麥跡ニ蕎麥ヲ作ルハ五月ノ節ノ終マデ麥藁ヲ除ケズ、六月ノ節ノ初比ニ耕シテ是亦土用ノ内ニ作リ付クベキコトナリ、穩ナル所ノ諸作ノ爲メニ伐リ寄セテ燒クベキ雜木ヲ其近邊ニ立テ置キ、水防ギノ溝ヲ掘リ置キテ年々ニ耕作シ、嶮岨ナル木庭ノ内ニテ海ニ遠キ所ト、海ニ近クテモ風當テノ輕キ所ヲ五六區ニナリ共七八區ニナリ共分チ、其ノ内ノ一區ノ雜木ヲ農隙ニ伐リ取リ、一區ノ内ニテ二間角ノ眞中ニ栗苗

ヲ二本宛植ヘ、其ノ年ノ冬ニ至リテ勢ノ劣レルト見ヘタル一本ヲ根ヨリ伐リ除ケ、勢ノ勝レル一本ヲ育テ、年々ニ一區ヅツ是ノ如ク植ヘ立テ、早ク植ヘタル區（ツボ）ノ木ノ老ヒテ實ノラザル時ニ伐リテ屋材トシ、其ノ區ニハ其ノ年ニ又植ヘ立テ、段々是ノ如クセバ、嶮岨ニシテ作物ノ種子ノ生ヒ出ヅルコト甚ダ少ナク、出來モ甚ダ少ナク、手入レモ成リカヌル所ニ雜木ヲ立テ置キテ木庭ニ明クルヨリハ利益甚ダ勝サランカ。信濃ノ山中ニハ栗ヲ年々冬春ノ食用トスル村々モアリト聞ク、是州ニ猪荒ノ止ミケル後ニ三根郷吉田村ノ下知人ヨリ村中ノ百姓ヲシテ山中ニ栗ヲ植サセ食用ノ益ヲ得セシムルト聞ク、他ノ村々ノ下知人ノ效フベキコトナリ、風隱レハ栗ニ宜シク、風當テハ櫧ニ宜シキト云ヘルナレバ、海ニ近キ木庭ノ風ノ吹キ通ス所ノ嶮岨ナルニハ櫧ヲ植ヘ立ツベキコトナリ、栗子ヲ日向ノ所ニ埋ミ、雨ノ圍ヒヲ仕置ケバ春マデノ食用ニ成リ、夏ニ成レバ搗栗（カチ）ニモ蟲付キ多キト云ヘルユヘ、搗栗ニシテ蓄フルハ、冬春ノ間ダ栗ヲ食シテ穀物ヲ食ヒ延バスニ如カザルベシ、昔豐崎郷舟志村ノ畠ノ近邊ニ栗木多カリシ時ニ村人ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、果ノ栗アルハ菜ノ芋アルガ如ク、穀物ヲ交ヘズシテ煮食スルモ、飯ノ代リニ成リ、大根ノシボリ汁ヲ少シヅツ吸ヒテ食スレバ、日々ニ食シテモ倦テモタレザルト云ヘル由語レリ、栗ヲ食スル人ノ知ルベキコトナリ

木庭防風ノ事

與良郷蘆浦村ノ源右衞門云ヘルハ、木庭ノ畔ニ大木茂リ榮ヘタラバ、蕎麥作等ノ風損ヲ防グ益ハアルベケレドモ、麥作ノ爲メニハ風ノ吹キ通ス樣ニ仕置キテ宜シト云ヘリ、雞知村ノ才兵衞云ヘルハ、木庭ノ畔ニ木ノ立チタルハ蕎麥作等ノ風防ギニハ成ルベケレドモ、麥作ノ爲メニハ日陰ニ成リ宜シカルマジキト云ヘリ

佐須郷阿連村ノ平助云ヘルハ、木庭ノ西北ノ畔ニ木ヲ立テ、西北ノ風ヲ防ギテ宜シト云ヘリ

今按ズルニ、麥作ハ風ノ吹キ通スヲ好ミ、秋物ハ風ノ當ラヌヲ好ム道理ナレドモ、風ノ當ラザル木庭ニ秋物ノ蟲付キ多キ年モアラン、西北ノ寒風ノ强ク當タル木庭ニ麥ノ生ヒ付キ薄キ年モアラン、一偏ニハ云ヒガタカルベシ、木庭ノ畔ニ木ヲ立ツルトモ、穩ナル木庭ナラデハ風ヲ防グ益モ少ナカラン、北ノ方ハ日向ノ障リナキユヘ、木庭ノ畔ニ木垂ノ害ナキ程ニ木ヲ立テ、日向ニ障ル方ハ畔ヨリ相應ニ間ヲ隔テ木ヲ立テ置キ、其ノ作所ノ樣子ニ依リ心ヲ用ヒテ品々ニシ、利ノ重キヲ用ヒテ害ノ輕キヲ嫌ワズ、害ノ重キヲ嫌ヒテ利ノ輕キヲ用ヒザルベキコトナリ、風當テノ田ニハ稻粒ノ穗ニ付クコトノ强キ稻ヲ種ヘ、風當テノ畠ニハ夏大豆ヲ作クルモ風ニ防グ道ナリ、夏大豆ノ性味ハ秋大豆ニ及バザレドモ、三月中比ニ作クリテ七月中比ニ出來、八月ノ大風ノ難ヲ免カルヽユヘ、碁肆養父ニモ筑前ニモ夏大豆ヲ多ク作クリ、秋大豆ヲ少シ作クルト聞ク、是州ノ郷村ニテモ風當テノ畠ニハ麥ヲ畦作クリニシ、三月ノ節ノ中比ニ畦ノ間ニ夏大豆ヲ作クリ、木庭モ春伐リニシテ夏粟、夏

大豆ヲ作ノルナラバ、大豆ハ八月ノ大風ヲ防グニナリ、粟ハ晩キ大風ヲ防グニ成リ、蕎麥木庭ニ春伐リニシテ夏ノ土用ノ初ニ燒キ土用ノ内ニ作クルナラバ、早キ霜ヲ防ギ晩キ大風ヲ防グニ成リ、粟、蕎麥、大豆ノ出來早クシテ、其ノ跡ノ麥ノ作クリ付ケモ早ク出來モ早ク成ラバ、麥ノ梅雨ニ損ズルヲ防グニ成リ、麥ノ半バ黄ニ半バ青キ時ニ早ク實ノリタル所ヨリ段々ニ刈リ取リテ梅雨ノ前ニ取リ終ルハ、梅雨ヲ防グ第一ノ仕形ニテ、秋物ト麥ノ作クリ付ケ早ク成ル根本ナラン、作所ノ土ヲ細カニカヽ、ザレバ苗ノ根ト土トヲモヒアワス糞モムラマジリアルユヘ、日イタミ蟲ツキ種々ノ病ヒアリテ實ノリ好カラズト云フナレバ、土ヲ細カニカクモ旱損蟲付ヲ防グナリ、干鰯ノ夏ヲ過ギタルハ蟲ツキテ骨ノミ殘ル物ナレドモ、藁小屋ニ入レ藁ニテ包ミ置ケバ、年ヲ經テモ蟲ツカザルト云フナレバ、害ヲ防グ道ハ何事ニモアルベシ、人力ニテ防グコトノ成ルベキ損毛ハ心ヲ盡シテ是レヲ防ギ、防グコトノ成ラザル損毛ノ年ノ備ヘニハ粟ト櫧トヲ植ヘ立ツベキコトナリ、穀物損毛ノ年ニモ栗子櫧子ニ妨ゲナキ年多ケレバ、食用ヲ足スベキ備ヘ是レヨリ大ヒナルハナカラン、粟櫧ヲ植フルニ及バズ、有リ來タリタル櫧ニテ凶年ノ備ヘアルハ豆酘郷ノミナリ

老農類語下卷終

書老農類語後

此ノ書ノ草案ノ成レル時ニ、奉役ヲシテ其ノ書述ノ旨ノ奉役ノ書述ニ違ヘルカ違ワザルカヲ考ヘシメ、違ヘル所ヲ覺書ニシ一郡奉行所ニ出ダサシメ、郡奉行所ヨリ其ノ覺書ヲ某ニ送リ來タリ、郡奉行ノ吟味ニテ某ガ心得違ト見ヘタル所ヲモ覺書ニテ申シ出ダサシメラレ、其ノ覺書ヲ某ニ送リ示サレ、書キ改ムベキ所ヲ書キ改メシ後ニ定本ヲ八郷ニ頒タレンコトヲ郡支配ニ願ヒ申シ置キタリ、然ルニ此書ノ草案既ニ成リシ上ヘニテ先ヅ自カラ數遍吟味シケルハ、元ヨリ衰ヘ居ケル心力甚ダ衰ヘ、郡奉行奉役ノ吟味ノ覺書ヲ人ニ讀マセテ聞キ分ケ、書キ改ムベキ所ヲ人ニ云ヒテ書キ改メシムベキ心力モナク、前ニ期セシ如クニハ爲シ得ザルニ成レルユヘ、此ノ草案ノマヽニテ清書セシメラレ、書述ノ違ヘル所ト心得違ノ所ヲ郡奉行所ニテ書キ記シ、此ノ書ノ附錄ト名付ケ、此ノ書ニ添ヘテ八郷ニ頒タレンコトヲ重子テ郡支配ニ願ヒ申シケルナリ

享保壬寅四月十日　　陶山存書

老農類語大尾

刈麥談

刈麥談

外親ノ老人ノ病身ニテ閑居シケルガ、享保壬寅正月十二日郡支配ノ示シヲ受ケテ老農類語ヲ撰シ、其ノ書ノ草案ノ既ニ成リテ未ダ考定セザルニ氣力ノ疲レ甚シク、其ノ書ノ事ヲ手紙ニテ郡支配ニ申シ通ズルニ堪ヘズ、尋ネ申ス事モ指圖ヲ受クル事モ某ヲシテ傳ヘシメ、四月十二日考定ノ草案ヲ郡支配ニ出ダスモ、某ヲシテ出ダサシム。是年ノ五月ニ至リテ某ニ語レルハ、去月老農類語ヲ郡支配ニ出ダセシ後ニ告ゲ置カンㇳ思ヒシ事アリケレドモ、氣力ノ疲レ甚シクシテ其ノ事ヲ告グル事ヲ得ズ。月ヲ經ルマデ氣力ヲ休メ只今是レヲ語ルナリ、吾レ昔郡奉行ヲ勤メシ事九年ニテ、其ノ間ノ誤マレル事、足ラザル事ノ自カラ覺ヘシバカリモ勝テ數ヘガタキホドニ多カリケルニ、近キ比ニ至リテ殊ニ思ヒ當タレル事アリ、其ノ事ハ去年ノ秋或人ノ物語リニ、伊奈郷女連村ノ老農與三右衞門トイヘル者ノ麥取收ノ仕形ヲ語レルヲ聞キ、其ノ覺書ヲモ讀ミ、今年ノ春郡支配ノ示シニテ老農類語ヲ撰スルニ依リ、八郷奉役ノ出ダセシ農作覺書ノ中ニ、與良郷雞知村ノ老農才兵衞トイヘル者ノ麥取收ノ仕形ヲ記セルヲ讀ミテ思ヘルニ、吾レ郡奉行タリシ時ニ問フ事ヲ好ミ、邇言ヲ察スルノ古訓ヲ覺ヘ居ナガラ是レヲ用ヒズ、八郷ノ老農ニ奉役ヲシテ農事ヲ問ワシムル事ナク、才兵衞、與三右衞門ガ如キ勝グレタル鍛練

アル老農ノ云フ所ヲ聞ク事ナク、只ダ自分ノ心ノミニテ麥取收ヲ早クセヨト下知セシハ、誤アル事ノ甚シク足ラザル事ノ甚シキナリ、問フベキヲ問ワズ、聞クベキヲ聞カズ、私智ヲ用ヒテ漫リニ下知セシユヘ、其ノ驗シ少シモ無ク、當分少シノ驗シアルガ如クナルモ希レニハアリケレドモ、頓テ以前ノ仕形ノ通リニ仕成シケルナレバ、少シモ驗シナキニ同ジ、才兵衞ガ説ハ奉役ノ記セル農作覺書ニ見ヘケルユヘ、老農類語ノ本文ニ記ス與三右衞門ガ説ハ、或人ノ覺書ニ見ヘケルユヘ、老農類語ノ草案ノ内ニ記シ置キタリ、吾等郡奉行ヲ勤メシ時ニ、今度郡支配ノ爲サレシ如ク、八郷農作ノ事ヲ尋子問ヒ、今度奉役ヨリ出ダセシ如キ農作ノ覺書ヲ見タルナラバ、郷村ニ麥取收ノ法ヲ出ダスニテアラジ、其ノ下知ノ第一條ニ書スベキハ、今度八郷奉役ヨリ出ダセル農作覺書ノ内ニ、與良郷雞知村ノ才兵衞ガ麥取收ノ仕覺ヲ記セルヲ見ルニ、麥ヲ刈ル事手後クレニ成レバ手間入ルユヘ、指シ急ギ少シニテモ實ノリ色付キタルヲ青穗マジリニ刈リ取ルナリ、同日ニ作クリタル畠ノ内ニテモ、土地ノ位ト日陰日向ノ違ニテ、出來ノ早シ晩シアルユヘ、早ク實ノリタル所ヨリ刈リ取リ、肥地ト陰地ナドノ出來ノ晩キハ殘シ置キ、別ノ畠ノ内ニテ大抵ニ出來タルヲ刈取ルナリ、木庭麥ハ殊ニ一日ニテモハヤク取リ、草木ノ生ヒ立チ未ダ長ゼザル内ニ秋物ヲ仕付クル樣ニ心掛ケズシテハ木庭ニ秋物ヲ仕付ケテモ出來好カラズ、種子麥ハ種子取リ畠トテ、麥ノ出來好キ畠ヲ其ノ心當テニテ殘シ置キ、麥ヲ大形取リ終レル時ニ、其ノ畠ノ麥ヲ一穗宛撰リ取リ、莖ヲ短カクツメ能ク干シ、少シ火ニテ燒キ棒ニテ打チ碎キ、種子ニ

付置キタレドモ、其ノ仕形ハ宜シカラザルト覺ヘ、其ノ以後ハ麥出來好キ品ヲ種子用ト心當テ、餘リ實ノリ過ギズ亂レザル內ニ、中刈リヨリ少シ穗頭ニ寄セ刈リ取リ、能ク干シ少シモ蒸セザル樣ニ輕ク燒キ、臼カチニスルト云ヘル由見ヘ、伊奈鄕女連村ノ與三右衞門ガ麥取收ノ仕形ノ覺書ヲ見ルニ、麥ヲ取ルハ半分ハ黃ニ半分ハ靑キ時ヨリ取リ掛カルナリ、麥粒半分ハ靑時ニ取リ掛カリテハ、實入リ薄キ粒ノ多カラント初メニハ思ヒケレドモ、取リ掛カルヨリ一日一日ト色付ケル故カ、實入リ薄キ粒ハ少ナク、每年其ノ通リニ取リケルユヘ、他人ノ半分取リト云ヘル時分ハ麥ヲ取リ終リ、梅雨ニ腐チ捨リタル事ナシ、麥ヲ取ルニ穗チギリモ、中刈リ根刈リニ劣ラザルト覺ヘタリ、刈リ取ルハ早キ樣ニアリテモ、作所ヨリ村マデ運ブニ一倍ノ手間ナリ、干スニモ一倍ノ手間ナリ、穗ノ未ダ亂レザル時ニ取レルハ、一穗ヅツ取レルモ手廻シ宜シト云ヘル由見ヘ、此ノ兩人ノ說キケル所一致ノ主意ニテ事理ノ當然ナレバ、今年ヨリ鄕村麥取收ノ手本トナスベキ事ナリ、他方ニテハ苗代地ニ種子ヲ蒔ク日ヲ年々ニ郡奉行ヨリ下知スル所モアリト聞ク、是州ニテ郡奉行ヨリ希レニモ農事ヲ下知スレバ、百姓ノ仕覺ヘテ知リタル事ヲ知ラズ、又身ニテ下知スルト云ヒ譏ル事甚シキト聞ク、吾等ガ如キ郡奉行ノ器ニ當ラザル者ノ郡奉行ヲ勤メテ、百姓ヲ愛スル眞實ノ足ラズ、希レニ農事ヲ下知セシモ詳ラカニ聞ワズ、精シク辨マヘズ、私智ヲ用ヒテ下知セシユヘ、百姓ノ吾等ヲ譏ルモ道理アル事ナリ、今度ハ鄕村ノ老農才兵衞、與三右衞門ガ仕覺ヘシ麥取收ノ仕形ニ效ヘト下知スルナレバ、郡奉行ノ私智ヲ用ヒテ

下知スルニテハナシ、才兵衛ガ麥取收ノ仕形ヲ與良鄕中ノ百姓ノ效ワザルノミナラズ、雞知村ノ百姓サヘ效ワザルト聞ク、與三右衛門ガ麥取收ノ仕形モ、其ノ子ノ父ニ繼ギ百姓ト成レル者ノ效ヒ爲セルマデニテ、女連村中ノ百姓ハ效ワザルト聞ク、他方ノ百姓ハ其ノ州其ノ郡ノ農作ノ仕形ノ宜シキ事ヲ聞キタル時ニ、心ヲ用ヒテ效ヒ爲スノミナラズ、隣端他領ノ農作ノ仕形マデ求メ聞キケルト云ヘルニ、是州ノ百姓ハ村中ノ者ノ宜シキ事ヲモ效ワズ、一偏ニ面々ノ仕來リヲ宜シキト覺ヘ込ミケルハ、是州ノ農事ノ風俗ノ惡キ事ノ甚シキ所ナリト書シ、第二條ニ書スベキハ是州ト他方トノ麥出來ノ時節ヲ聞キ合ワスルニ、他方ハ是州ヨリ十日モ十五日モ早ク實ノリ、四月ノ節ノ中比末比ニ取リ終リ、最初取リ掛カル日ヨリ六七日八九日ノ間ニ取リ終ルト聞ク、是州ハ五月ノ節ノ初比ヨリ取リ掛カリ、六月ノ節ノ初比中比末比ニ取リ終リ、甚シキハ七月ニ入リテ取リ終レリ、麥ノ實ノリハ十日十五日ホド晩キニ、取リ終ル事ハ四五十日モ六七十日モ晩キハ、他方ニテハ麥ノ莖强クシテ亂レザル內ニ早ク取リ、是州ニテハ取リ掛カル事ノ晩キ故ナリ、雞知村才兵衛、女連村與三右衛門ガ仕形ヲ手本トスルナラバ、麥ノ出來他方ヨリ十日十五日ホド晩クテモ、麥ヲ梅雨ノ前ニ取リ終ラン、其ノ年ノ氣候ニテ麥出來ニモ梅雨ニモ早シ晩シアレドモ、大抵ヲ以テ見ル時ハ、五月ノ節ノ五日目ノ比マデハ梅雨ノ時ニアラズ、麥ノ晩ク實ノレル畠坪木庭坪モ、其ノ比マデ半ハ黃ニ成ラザルハアルマジ、其ノ內ニモ風雨アレバ莖亂ルレドモ、亂ルヽ事少ナクシテ折ルヽ事少ナク、穗ノ折レ落ツル事ナク、粒ノ散リ落ツル事ナ

キト云フナレバ。梅雨ノ前ニ取ルト、梅雨ノ後ニ取ルトハ手間ノ多少アルノミナラズ、損益ノ分數モ輕キ事ニアラジ、粒ノ散リ落ツルト、粒ノ腐ツルト。水ニ流ガストハ差シ當タリタル損ナリ、麥ノ半ハ黃ニ半ハ青キホドニ出來タル麥畠、麥木庭、譬ヘバ十ノ中ニ二ツホドナラバ、其ノ半ハ黃ニ成リタル分ヲ取レル內ニ、取リ掛カリノ時ニ青穗バカリト見ヘタル麥畠、麥木庭モ、又十ニ二ツホドハ半ハ黃ニ成ルベキユヘ、其ノ半ハ黃ニ成リタル分ヲ取リ、段々ニ是ノ如クスルナラバ、是州ノ鄕村モ四月ノ節ニ入リテ、十日目十五日目ホドヨリ麥ヲ取リ掛カルニ成ルベシ、麥畠、麥木庭ノ惣體ニテ半ハ黃ニ成ルト見フル事ハ、四月ノ節ニ入リテ十五日目廿日目ホドナル年ニテモ、海邊ノ畠木庭、日向ノ畠木庭ハ半ハ黃ニ成ル事五日モ十日モ早キ故ナリ、是レ即チ才兵衞ガ仕形ニ同日ニ作クリタル畠ノ內ニテモ、出來ノ晩キ所ハ殘シ置キ、別ノ畠ノ內ニテ大抵ニ出來タルヲ取レルニ效フナリ。是ノ如クセバ四月ノ節ニ入リテ十日目十五日目ヨリ、四月ノ節ノ終ル日五月ノ節ニ入リテ五日目マデ、日數廿日ホドノ間ニ麥ヲ取リ終ルニ成ルベシ、麥ノ取リ終リ早ク成ラバ、麥跡ノ地ゴシラヘモ大豆、小豆、粟、蕎麥ノ蒔付モ出來モ早ク成リ、其ノ跡ノ地ゴシラヘモ麥ノ蒔付モ出來モ早ク成リ、他方ヨリハ十日十五日ホド晩ク出來ルト見ヘシ麥ノ、他方ヨリハ五日十日ホド晩ク出來ルニ成ルベキユヘ、麥取收ノ下知一年行ヲレシ後ハ、四月ノ節ノ十一日目ヨリ四月ノ節ノ終ル日マデ、日數廿日ヲ以後マデノ麥取收ノ大法ノ日數ト心得ベシト書シ、第三條ニ書スベキハ、四月ハ粟、蕎麥ヲ早ク作クル木庭ヲ伐リ、粟、

大豆ヲ早ク作クル畠ヲ耕ヤシ、苗代地ニ種子ヲ蒔キ田ヲ耕ヤシ、茶園ノ多キ村ハ茶ヲ取ル手入リモアリ、奉役村下知人ニ一年ニ一日ヅツノ手使モ、多クハ四月ノ内ニ使ワレ、其ノ上ヘニ公役ノ勤メモ當タルベキナレドモ、右品々ノ事ノ内ニテ茶ヲ取ル外ノ事ハ、壯年ナル男ノ勤ムル事ナレバ、老年、小年、妻女ノ四月ニ爲セシ事ヲ、悉皆正月二月三月合セテ三箇月ノ間ニ爲シ置キ、四月ノ節ノ十一日目ヨリ專ハラ麥取收ノ事ヲ勤メタラバ、其ノ竈ノ壯年ノ者ノ四月ノ働ラキ以前ヨリノ仕來リノ如クナルトモ、四月ノ節ノ內ニ麥ヲ取リ終ラヌ事ハアルマジ、三根、仁位ノ兩鄕ハ村々ニ茶園多ク、茶ヲ取リテ拵ラフルニ、大抵四月ノ節ノ內ニテ日數十五日廿日程掛リ、茶ノ取リ初メハ芽立ノ末ノ葉マデ開ケタル時ニ取リ初ムルト云フナレバ、兩鄕ハ四月ノ節ノ十六日目ヨリ五月ノ節ノ五日目マデ、日數廿日ヲ麥取收ノ日限ニ定メ、四月ノ節ノ入リヨリ四月ノ節ノ十五日目マデ、日數十五日ヲ茶取リ茶拵ラヘノ日限ニ定ムベキ事ナリ、茶ヲ早ク取ルホド升目少ナケレドモ、風味ノ勝レルニテ價ヒ貴キユヘ、早ク取リテモ差シテ利分ノ減ル事ハアルマジ、早ク取リテ莖葉ノ柔ラカナルハ、拵ラヘノ手間入リ減ルベキユヘ、廿日ノ手入リヲ十五日ニテハ濟メ得ルニテアルベシ、近ゴロ三根鄕吉田村ノ者ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、吉田村ニテ年々ニ茶ヲ取ルニ賣リ茶ニスル好キ茶ハ十日ニテ取リ終ルナリ、取リ掛カル日ヨリ十日ヲ過グレバ、葉フトリ莖コワク成リテ中分ノ茶ニ拵ラフルニモ手間入リ多キユヘ、賣リ茶ヲ取リ拵ラヘタルマデニテ其ノ餘ノ茶ハ殘シ置キ、六月ニ至リ少シノ間ヲ見ハカラヒ、彼ノ殘

シ置キタルヲ取リテ、面々ノ飲ミ用ニ拵ラフルト云ヒケル由語レリ、四月ノ節ノ初比ハ裸麥ヲ取ル時節ナルユヘ、茶ヲ取リ拵ラフル日數十五日ニテハ、裸麥ヲ取ルニ障ワリアルト思ヘル村ハ、吉田村ノ仕形ニ效フベキ事ナリ、茶ヲ早ク取レルニテ、假令茶ノ方ニ少シ損アリトモ、麥ヲ梅雨ノ前ニ取リ終ル大益ヲ勘ガフベキ事ナラン、四月ノ節ノ内ニ五月ノ内ノ如ク長雨ノ降ル事ハナケレバ、雨天二三日ノ内ニ取リ置キタルヲ、其後ノ晴天ニ干シ得ルベシ、是ノ故ニ農書ニモ麥ヲ取ルハ晝夜油斷ナク、蓑笠ヲ著テモ刈リ取ルベシト云ヘリ、請持ノ地面ノ外ニ社領、寺領、給領ノ内ヲモ作リケル者ハ子弟ノ多キ者ナレバ、取收ノ人數モ村並ノ一竈ノ人數ヨリ多カルベキユヘ、是レ亦タ右ノ日限ニ麥ヲ取リ終ラヌ事ハアルマジ、其ノ竈ノ人數ハ少ナクシテ耕作ヲ廣クスルハ勝手ノ好キ者ナルユヘ、賃ヲ出ダシ人ヲ雇フベキナレバ、是レ亦タ右ノ日限ニ麥ヲ取リ終ラヌ事ハアルマジ、其ノ竈ニ麥ヲ取リ得ベキホドノ老年少年ノ男ナク、妻女バカリニテ麥ヲ取リテハ、右ノ日限ニ取リ終ルマジキト見ヘタルナラバ、田畠ノ方バカリヲ仕來リノ如クニシテ、四月ニ伐ル栗木庭、蕎麥木庭ヲ仕來リノ半分ホド少ナク伐リ、其ノ手間ノ延ニテ妻女ト共ニ麥ヲ早ク取ルベキ事ナリ、木庭ハ明ケ前昔ヨリハ早ク成リ、出來其ノ分ホド減リ居ケルナレバ、伐リ明ケテ半分ホド減ラシタリトモ、早ク作クル栗、蕎麥ノ作得數年ノ間ノ多少ヲ並ラシタラバ、半分マデノ損ニハ成ルマジ、數年ノ後ニハ伐リ明ケ、半分減リテモ作得ハ同ジ事ナラン、出來居ケル麥ノ取收ヲ若シ延ベ置、秋ニ至リ損毛アルベキモ知レザル栗、蕎麥ヲ蒔ク木

庭ヲ伐ル事ヲ重シトスルハ、利益ノ先後ヲ勘ガヘケルトハ云ヒガタク、假令粟木庭、蕎麥木庭ヲ伐ル事ヲ減ラサヾルニ利益アリト極マレルトモ、其ノ利益ハ麥ヲ梅雨ノ前ニ取リ終リ、長雨ニ腐ツルコトナク、麥跡ノ地ゴシラヘ早ク成リ、秋物ノ仕付ケ早ク成リ、出來早ク成リ、秋物ノ跡ノ地ゴシラヘ早ク成リ、麥ノ仕付ケ早ク成リ、出來早ク成レル利益ニハ及ブマジト書シ、第四條ニ書スベキハ、是州ニテモ裸麥ハ四月ノ節ノ初比ニ實ノリテ、實ノレル時ニ速カニ取リ收ムレドモ、多ク作クラズ少シ作クルト云フナレバ、裸麥ノ取リ收メハ今度麥取收ノ事ヲ下知スル外ト心得ベシ、是州ニテモ貧民ノ食用ノ盡キタルハ、麥ノ半黄ニ半バ青キ所ヲ刈リ取ルモアレドモ、其レハ其ノ時ノ食用ノ分ノミ取レルナレバ、是亦今度麥取收ノコトヲ下知スル外ト心得ベシ、是州ニテモ麥ヲ根刈リニシテ取收メ、取リ得ル俵數ノ多キ百姓モ十五六日ホドニテ取リ終ルト云フモアレドモ、其ノ類ハ甚ダ希ナルナレバ、是レ亦タ今度麥取收ヲ下知スル外ト心得ベシ、今度八鄕奉役ヨリ出ダセル農作ノ覺書ノ中ニ、麥ヲ刈リ取ル事ハ青穗三分一ト見フル時ニ取掛リテ宜シキト云ヘルモアリ、雞知村才兵衛、女連村與三右衛門ガ仕覺ニ較ラブレバ、其ノ仕形モ手本ト成ルベキ仕形ニアラズ、又麥ヲ刈リ取ルコトハ九分ノ實ノリノ時ニ取リ掛クルナリ、十分ニ成リテ取リ掛クレバ、取リ終ラヌ前ニ莖クタレ打レテ草ニ入リ、段々手入リ多ク成リ、其ノ上ヘ風雨ノ難モアリ、跡ノ作マデモ後クレ、彼レ是レ勝手ニ惡シキト云ヘルモアリ、九分ノ實ノリト十分ノ實ノリトハ少シバカリノ違ヒナルニ、十分ノ實ノリノ時ニ取リ掛カ

レバ風雨ノ難ニ逢ヒ、九分ノ實ノリノ時ニ取リ掛カレバ風雨ノ難ニ逢ワザルト云ヘル事道理ナキ說ナリ、農書ニ麥ヲ刈ルニハ、初メハ先ヅ少シ青穗ヲ交ヘテ刈ルホドニナクテハ、終リニ梅雨ノ恐レアリト云ヘルハ、田ニ作クル麥ノ事ニテナク、畠ニ作クル麥ノ事ト見ヘタリ、田ニ作クル麥ハ青穗勝ナルヲ刈リ取ラズシテハ、梅雨ノ前ニ田ヲ耕シ置ク事ハ成ルマジ、是州ハ麥ノ實ノリ他方ヨリ晩キユヘ、畠麥ニテモ少シ靑穗ノ交リタル時ニ取リ掛カラバ、取ル事ノ未ダ半バナラザルニ梅雨ニ逢フベシ、終リニ梅雨ノ恐レアリト云フニテハアルマジ、雜知村才兵衞ガ麥ノ少シニテモ色付キタルヲ青穗マジリニ刈リ取ルト云ヘル、女連村與三右衞門ガ云ヘル半バ黃ニ半バ青キ時ノ事ト見ヘタリ、半バ黃ニ成リタル所ニ青キ穗ノ交ジリタルハ、其ノ青キ穗モ總テ青キ所ノ穗トハ違ヒ、八九分ニハ實ノリ居ケルニテアラン、種子麥ヲ梅雨ニ逢セテ宜シキト云フハ、他方ニ無キ事ナルト聞キケレドモ、他方ノ事ハ是州ノ土地ニ用ヒ難キト一偏ニ覺ヘ居ケル者ノ多キナレバ、是州ノ老農ノ才兵衞、與三右衞門ガ仕形ヲ手本トスベキ事ナリ、麥ノ黃ニ成リタル後ニ梅雨ニ逢ハセ、畠ザラシニスルハ雨ニフクレテ太クナリタルト見フルトモ性分ハ弱クナラン、才兵衞ガ種子麥ノ說ニ、餘リ實ノリ過ギザル時ニ刈リ取ルヲ宜シキト云ヘルコソ正當ノ道理ナラン、青粒ノ交リナク全タク黃ニ成リタル最初ハ十分ノ實ノリナリ、其ノ穗ヲ取ラズシテ日數ヲ經ルヲ實ノリ過グルト說キケルト見ヘタリ、雨ニフクレテ太トク成リタルハ、春ヅクニ手入リ輕ルケレドモ、飯ニ炊シキタル時ニ飯ノフヘリ少クネバリ薄ク、食シテ腹ノヘル

コト早キト云フナレバ、早ク取リ雨ニ遇ハセザル麥ハ、晩ク取リ雨ニ遇ハセタル麥ヨリモ性分ノ强キナリ、性分ノ强キヲ種子ニシテ宜シカルマジキ道理ナシト書シ、第五條ニ書スベキハ、麥取リ掛カリノ早キト晩キトノ損益ヲ考フルニ、梅雨ノ内ニテモ間々ニ二三日ヅヽノ晴天アリテ、穗麥ヲ干スニ障ハリナキ年ハ、麥ノ穗ノ總テ黃ニ成リタル時ヨリ取リ掛カルニ益アル年ハ少ナク、梅雨ノ降リ續キテ麥ヲ干シ得ズ、長雨ニ腐ラシケル年ハ多キト見ヘタリ、假令梅雨ノ內ニ麥ヲ干シ得ル晴天二三日ヅヽ續キケル年ナルトモ、麥ノ取リ終リ晩クシテ麥跡ノ地ゴシラヘモ晩ク、秋物ノ蒔キ付ケモ出來モ晩ク、秋物ノ跡ノ地ゴシラヘ晩クシテ、麥ノ蒔キ付ケモ晩ク、早霜ノ難ヲ免カルベキ蕎麥モ、晩キ大風ノ難ヲ免カルベキ粟、蕎麥、大豆、小豆モ其ノ難ヲ免カレザル損分ト、麥ヲ晩ク蒔キ付ケ根ノ未ダ茂ラザルニ、强キ寒氣ニ逢ヒテ痛ミケル損分ハ同事ナラン、麥ヲ長雨ニ腐ラシ大水ニ流ガシ、他方ニナキ大ヒナル損失ノ是州ニテ度々ニアルハ、百姓ノ心得ノ疎ソカニシテ、麥ノ取リ掛カリノ晩キ故トハ思ハズ、其ノ損失ヲ天災ト心得テ仕來リテ改タメザル故ナリ、郡奉行ヨリ麥取收ヲ早クセヨト下知スレバ、百姓ノ損失ヲ勸ムルト云ヒ、他國ハ麥跡ノ田ニ稻ヲ種フルユヘ、麥ノ取リ收メヲ急グ道理ナレドモ、是州ハ麥一作ノ利ナレバ他國ト同ジ樣ニ思フベキ事ニアラズト云ヘル由聞ク、他方ニテモ麥ヲ蒔ク田モアリ、麥ヲ蒔ク事ノ成ラザル田モアリ、是州モ同ジ事ナリ、他方ニテモ麥跡ノ畠ニハ大豆、小豆、粟、蕎麥ヲ作レリ、是州モ同ジ事アリ、然ルニ右ノ如ク云ヘルハ、是州ニ田ノ少ナキ事ヲ云ヒ述ブル

トテ、當ラザル事ニ云ヒ成シケルナリ、六月七月ニ麥ヲ取リ終ソル百姓ニテモ、初メヨリ六月七月ニ取リ終ワルベシト心當テニシケルニテハナク、五月ノ節ノ中過カ末比ニハ取リ終ワラント思ヘルニテアルベケレドモ、梅雨ノ前ヘニ十日ホド掛カリテ取リケルホドノ麥ヲ、梅雨ノ内ヨリ梅雨ノ後マデハ三四十日モ五六十日モ掛カリテ取リケルナレバ、麥取收ノ下知ニ五月ノ節ノ中過カ末比ニ取リ終レト云フベキ道理ナク、五月ニ晴天多ク雨天少キ年ハ、五月ノ節ノ内ニ麥ヲ取リ終ルコトモアルベケレドモ、希レナル事ヲ常格トシテ下知スベキ道理ナシ、四月ノ節ノ終リカ五月ノ節ノ五日目マデハ梅雨ノ時節ニアラズ、假令其ノ内ニ風雨アリテ莖ノ少シ亂レタルトモ、莖ノ強クシテ折ルル事ノ少ナク、種ノ強クシテ落ツル事ナキ時ナレバ、大抵ハ下知ノ日限ニ取リ寄セ、少シ殘リタルモ頓テ取リ終ルニテアルベシ、輿良鄕ノ東地ニアル村々ノ内ニテ二三箇村近年以來ノ麥取收ノ仕形ハ、麥ノ三分一ハ青ク三分二ハ黃ニ成レル時ヨリ取リ掛カリ、大抵梅雨ノ前ニ取リ終リ、其ノ村々ニテノ勘ガヘニ、三分一ノ青キ粒ト、三分二ノ黃ナル粒トハ違ヒアラント思ヒテ拵ラヘタル麥粒ヲ見ルニ、是レハ青ミアリシ粒ニテアラン、是レハ黃ニ成レル粒ニテアラント見分クルホドノ違ヒハナキナレバ、青穗三分一ノ時ヨリ取リ掛カルニ利アリト、其ノ村々ノ人ノ云ヒケル由聞キ、蘆浦村源右衛門ガ仕覺ヘヲ奉役ノ記セルニモ、青穗三分一ノ時ヨリ取リ掛カルト見ヘタリ、青穗三分ノ一ノ時ヨリ取リ掛カルハ、青穗半分ノ所ヨリ取リ掛カリ、毎年タシカニ梅雨ノ前ニ取リ終ルニ如カザルベシ、青穗三分一ノ時ニ取リタル

麥ニ、是レハ青穗ノ粒ナラント見フル粒ナクバ、青穗半分ノ所ヨリ取リタル麥ニモ、是レハ青穗ノ粒ナリト見フル粒ハナカラン。今度雞知村才兵衛、女連村與三右衛門ガ麥取收ノ仕形ノ宜シキ事ヲ書キ記シテ八郷奉役ニ告グルナレバ、其ノ仕形ヲ八郷村々ノ百姓ニ效ワシムベシ、疾病事故アル竈ニテ麥ヲ取リ得ザルハ、五月ノ節ノ一二日目カ六七日目ニ、村中ノ男女老少一同ニ差シ寄リテ取リ收メ、取リタルヲ干ス事燒ク事ハ、村中ヨリ相應ニ人數ヲ出ダシテ干サシメ燒カシメ、時行ノ病ニテ村中一同ニ麥ヲ取リ收メ得ザルハ、右ノ格ニ近隣ノ村々ヨリ取リ收メシメ、殘リナク取リ收メテハ、面々ノ麥跡ノ耕作ノサヽワリ重キトト見ヘタラバ、畠麥ト木庭麥ノ出來好キ所バカリヲ取リ、木庭麥ノ出來ノ好カラヌ所ハ捨テシムベシ、雞知村才兵衛ハ麥ヲ刈リ取ルト見ヘ、女連村與三右衛門ハ麥ヲ穗チギリニスルト見ヘタルナレバ、其ノ兩樣ハ何レノ百姓モ面々ノ仕覺ニ任カセ、漸々ニハ總テ刈ルニスベキ事ナリ、今年ノ麥ノ取收ヲ才兵衛、與三右衛門ガ仕形ニ效ワザル村アラバ、其ノ村ノ下知人肝煎ヲ呼ビ登セ、村中ノ百姓ヲシテ右二人ノ仕形ニ效ワシメザル故ヲ口上書ニテ申サセ、道理ノ立タザル申シ分ケナラバ、書付ヲ以テ尋ネ極メ、口上書ニテ返答ヲ爲サシメ。道理ノ劣レル面々ノ仕來リヲ用ヒサセ、道理ノ勝レル才兵衛、與三右衛門ガ仕形ヲ用ヒサセザルニ極マレルナラバ、其ノ次第ヲ精シク書キ述ベ、奉役ニ見セシ上ヘニテ郡支配ニ差シ出ダスベシト書シ、五箇條ノ覺書ヲ八郷ノ奉役ニ一通ヅツ其ノ年ノ年始上府ノ時ニ渡タシ置ト、麥取收ノ時節ニハ郡奉行所ノ足輕ノ内三人ヲ、麥取掛カリ

ノ前ヨリ麥取終リノ日ノ五六日後マデ鄕村ニ下ダシ置キ、三人ノ内二人ハ掘切ヨリ北ノ村々ヲ廻リ、一人ハ掘切ヨリ南ノ村々ヲ廻リ、下知ノ日限ニ取リ終レル村々ヲ書付ケ、下知ノ日限ニ取リ終ラザル村々ハ、取リ殘シノ分ヲ十ノ内ニ何分ホドト書付ケ、足輕ノ廻ラザル村々モ、廻リタル村々モ、奉役ヨリ吟味シテ殘ラズ取リ終リタルト、何分ホド取リ殘シタルトノ書付ヲ出サシメ、取リ終ラザル村ノ下知人ヲ呼ビ登セ、肝煎ヨリ下知スル村ハ肝煎ヲ呼ビ登セ、取リ終ラザル故ヲ書付サセ、不審ノ所ノ吟味ヲ仕ツメ、下知宜シカラズシテ取リ終ラザルハ、不沙汰ニ極メシマデニテ、其ノ翌年ノ下知ヲ精シク諭シ、吟味ノ書付ヲ郡支配ノ披見ニ入レ。其ノ年ニ不沙汰アリシ村下知人翌年ニモ亦タ不沙汰アラバ、郡支配ニ申シ郡支配ヨリ其ノ翌年ノ下知ニ不沙汰ナキ樣ニト示サレン事ヲ請ヒ、其ノ上ヘニテ農ノ時ヲ失ナワザル道ニ、郡奉行奉役村下知人相ヒ共ニ心ヲ用フルナラバ、麥取收メ仕來リ三年目ニハ必ズ改マルベシ、雛知村才兵衞、女連村與三右衞門ハ村並ノ役ノ當タリ前ヲ有リ來リタル通リ勤メテモ、麥ノ亂レズ手入リニ成ラザル前ニ取終リケレ共、一家ニ仕覺ヘテ一家ノ風俗ト成リ、一村ニ仕覺ヘテ一村ノ風俗ト成レル事ヲ、何ニトナク村中モ是レニ效ラヘ、鄕中モ是レニ效ラヘト下知セシバカリニテハ、下知ノ通リニ成ルベキ事ニアラズ、效フベキ道筋ヲ精シク敎ヘズシテ叶ワヌ事ナリ。海邊ヲ去ル事殊ニ遠キ山村ニテ、麥ノ實ノリ總體ノ村ヨリ殊ニ晩ク、九月ノ節ノ內ニ蒔キタル麥ニテモ、五月ノ節ノ中比ニ半バ黃ニ成レルハ、土地ノ氣ノ甚ダ異ナルナレバ、是ノ如キ所ヲ總體ノ格ニ下

知スベキ事ニテナク、別段ニ立テ置キテ其ノ土地ニ相應シタル農事ヲ下知スベキ事ナリ、其ノ村ノ土地ノ氣ノ甚ハダ異ナルニテハナク、麥ノ取收ノ殊ニ晩キニテ、秋物ノ出來モ殊ニ晩ク、秋物ノ出來ノ殊ニ晩キニテ、麥ノ蒔付モ殊ニ晩ク、四月ノ節ノ中比マデモ麥ノ半バ黃ニ成レル所ナキ村ハ、其ノ村ノ下知人ヲシテ検分セシメ、足輕ニモ見屆ケサセ、四月ノ節ノ中比ニテモ末比ニテモ半バ黃ニ成レル所ヨリ取リ掛ケサセ、其ノ村ノ送リ公役ハ格別、其ノ外ノ公役ノ農事ノ時節ニ當レルヲ其ノ年ノ十月ノ節ノ初マデ一切ニ許ルシ、麥跡ノ地ゴシラヘ秋物ノ夏作クリヲ隨分差シ急ギ、麥ヲ十月ノ節ノ初ニ作クリ終リ、秋物ノ出來ノ晩クシテ、十月ノ節ノ初ニ麥ヲ作クリ終ル事ノ成ルマジキ坪ニハ、其ノ年ニ麥ヲ作クラズ、翌年ノ春作クリノ秋物ヲ作クレト下知シ、翌年ヨリ其ノ村ノ麥出來ノ時節、總體ノ村ニ後クレザル樣ニアラシムベキ事ナリ、吾レ郡奉行タリシ時ニ、州府ノ市中ニ住シケル八郎兵衞ト云ヒシ者ノ他方ヨリ炒リ茶ノ法ヲ傳ヘ來タリ、炒リ釜ヲモ買ヒ來リテ、三根、仁位兩鄕ノ茶園ノ多キ村々ニ敎ヘケルニ、其ノ仕形ハ益ナキ事ナリト云ヒ立テ、一度試ミシマデニテ廢タレリ、近ゴロ或人ノ語レルハ、三根、仁位兩鄕ノ内ニ八郎兵衞ガ敎ヘシ炒リ茶ノ仕形ヲ、宜シキ事ナラント思ヒ寄リシ者ノ二三人アリケルガ、彼ノ廢タリ居ケル仕形ヲ取リ立テヽアルニ、茶ヲ拵ラヘ終ル事早ク、麥取ル障ワリモ輕ク成リ、勝手ニ宜シキト覺ヘ、其ノ後ハ三根、仁位兩鄕ノミナラズ、兩鄕ノ外ノ村々マデ其ノ仕形ニ成レルト語レリ、茶ヲ拵ラフル好キ仕形ヲ府中ノ者ノ敎フル時ハ用ヒズ、鄕村ノ者ノ希レニ

為シケルヲ見及ビテハ、段々ト廣ク用ヒケルナレバ、麥取收ノ事モ才兵衞、與三右衞門ガ仕形ヲ見及ビ聞キ及ビテ、面々ノ心ヨリ自然ト仕習ヒ、以前ノ仕形ヲ自然ト改ムル樣ニスベキ事ナリト云フ說モアルベケレドモ、農業ノ大節ニ預カル事ヲ茶ノ拵ラヘノ事ト同ジ樣ニ論ジ、與三右衞門ガ仕形ニ女連村ノ百姓サヘ效ワズ、才兵衞ガ仕形ニ雞知村ノ百姓サヘ效ワザルト知レ居ケルニ、郡奉行ヨリ二人ノ仕形ニ效ヘト鄕村ニ下知スル事ヲ用ヒズ、自然ト效ヘルニテアラント思フベキ道理ナシ、麥取收ノ事ヲ吾レ今度聞ヲ得テ、思ヒ合セケル段々ヲ前ニ云ヒ述ベケレドモ足ラザル事多カルベシ、大事小事トモニ道理ハ窮盡ナキナレバ、事ヲ學ドル人ハ幾重ニモ尋ネ問ヒ、幾重ニモ思ヒ辨マヘ、十分ニ辨マヘシト思ヘル事モ、先ヅ只今マデノ辨マヘ是ノ如シト心得ベキ事ナリ、今度老農類語ヲ撰シテ草案ヲ郡支配ニ出ダセシ後ニ、吾ガ家ニ來レル老農ノ物語リニ云ヘルハ、春作リノ粟ニテモ、夏作クリノ粟ニテモ、粟ヲ作クル地ハ淺ク耕ヤシテ宜シ、淺ク耕シタルハ根ノ少シ茂レルモ、耕ヤサヾル所ノ堅キ土ニ根早ク差シ入リケルユヘ、苗ノ小サキ內ニ數日雨降ラズ、耕ヤシタル土ノ早ク乾キテモ、堅キ土ノ乾カザル所ニ根ノ差シ入リ居ケルニテ日枯レセズ、此ノ事ヲ仕覺ヘテ年々ニ益ヲ得ケルユヘ、村中ノ者ニ敎ヘテモ用ヒズ、今年ノ春作クリノ粟モ其ノ身ノ作クリタルハ日枯レセザレドモ、他人ノ春作クリノ粟ハ、四月ノ節ニ入リ十日ホド雨降ラザルニテ枯レタル所ノ多カリシト云ヒ、又云ヘルハ、其ノ身ノ父ノ蕎麥ヲ作クレルヲ若キ時ニ見覺ヘケルニ、夏ノ土用ノ二三日殘リケル時ニ蒔キ付ケタリ、其ノ

時節ニ蒔キタルハ實ノ粒數ハ少ナケレドモ、粉ニシタル升目ハ粒ノ升目ニ違ワズ、七月ノ中比ニ蒔キタルハ實ノ粒數ハ多ケレドモ、粉ニシタル升目ハ粒ノ升目ヨリ少ナク成ルナリ、是レニ依リテ其ノ身ハ兩樣ノ損得ヲ考ガヘ合セ、七月ノ節ニ入ル日ヲ蕎麥蒔付ノ日ト定メケルユヘ出來早クシテ、早キ霜ト晩キ大風ノ難ヲ免カルヽ事多シト云ヘリ、吾レ其ノ老農ニ云ヘルハ、蕎麥ヲ土用ノ二三日殘リケル時ニ作クルト、七月ノ節ニ入ル日ニ作クルトハ、早シ晩シノ違ヒアルト云ホドノ日數ニテハナケレドモ、土用ノ末ニ雨降ラバ一二日ノ雨ニテモ、雨ノ止ミタル後一二日ハ土シメリ居テ蒔キ付ケ成ルマジ、然レバ其ノ方ノ父ノ仕形ハ雨天ニテ心當テノ時ニ後クレタリトモ、七月ノ節ニ入リテ一二日目ニハ蒔キ付クルニテアラン、其ノ方ノ仕形ハ雨天ニテ心當テノ時ニ後クレタラバ、七月ノ節ニ入リテ五六日目ニ蒔キ付クルニテアラン、秋ノ節ニ入リテハ雨ノ繁キ年モアルナレバ、五六日ノ後クレ十日十五日ノ後レニ成ル事モアルベシ、早ク蒔キ晩ク蒔ク粒數ノ多少ト。粉ニシタル升目ノ多少ヲ勘ガフルニ、假令粒數ノ多キニ利益少シハ勝サルトモ、早キ霜晩キ大風ノ難ヲ免カルヽト免カレザルトノ損得ノ違ヒノ甚ダシキホドニハアルマジ、是州ニテ蕎麥ハ風霜ノ難ナキ年ノ希レナルト云ヒ來レルハ、大抵七月ノ節ノ中ノ前後ニ作クル故ナルベシト云ヒケルナリ、右ノ老農ノ說ハ八鄉奉役ノ出ダセル農作覺書ノ中ニ見ヘザル事ナルユヘ、是州ノ老農ノ仕覺ヲ考ガフルハ、老農類語ニテ盡キタリト思フベキ事ニアラズ、百姓ヲシテ農ノ時ヲ失ナワシメル道ニ、郡奉行奉役村下知人ノ精シク心ヲ用フル事ナク

バ、麥取收ノ事ヲ前ニ記ス五箇條ノ通リニ下知スルトモ其ノ験シアルマジ、郷村ニアル關所館舍ノ普請、神社佛寺ノ普請ト、州府ノ用ノ材木、板、車、燭香薪等ヲ郷村ヨリ取リ出ダシ漕ギ登ルト、其ノ外ノ事モ其ノ類ハ農隙ノ月ニ當ツベキ事ナリ、農隙ニアラザル月ノ內ニテモ、作物蒔付取收ノ急務ノ月アリ、急務ニテナキ月アリ、一月ノ內ニテモ中ヨリ前ノ急務ナル月アリ、中ヨリ後ノ急務ナル月アリ、田アル村ト田ナキ村トノ違ヒモアリ、木庭ノ多キ村ト木庭ノ少ナキ村トノ違ヒモアリ、郷々村々ノ樣子ヲ郡奉行ヨリ奉役村下知人ニ精シク尋ネテ書付ケ置キ、農隙ニアラザル月ニ已ム事ヲ得ザル事アリテ、農務ヲ缺ク事ヲ下知スルハ、蒔付取收ノ急務ニ當タル月ヲ避ケテ下知スベキ事ナリ、府中ヨリ普請夫ヲ差シ下ダサルヽモ普請入用ノ竹木葛等ヲ取リ出ダス事ヲ勤メ、普請奉行普請夫ノ宿人足ヲ勤ムルハ、其ノ郷其ノ村ノ者ナルユヘ、作物取收蒔付ノ時ニ其ノ事アリテハ、時ヲ失ナフ事輕キニアラズ、郡支配ハ國事ノ全體ヲ掌ドレル老臣ノ中ヨリノ兼帶ノ職ニテ、郡奉行ハ專ハラ郷村ノ事ヲ掌ドルナレバ、上使巡檢、信使來聘ノ類ノ事ハ格別、其ノ類ノ外ノ事ニ百姓ヲシテ農ノ時ヲ失ナワシムルハ、郡奉行ノ咎ナルベシ、其ノ言ノ行ナワレザルナラバ、其ノ職ヲ辭スベシト思ヒ定メ、眞實ヲ以テ申シ述ブルナラバ、其ノ言ノ行ナワレザル事ハアルマジ、奉役村下知人格式ノ上府ノ內ニテ、君主ノ參勤ニ首途シタマフ日ノ嘉儀ノ爲メニ上府スルハ、大抵二月ノ節ノ中比末比ナレバ、船ニテ送リ登スル百姓ノ作物蒔付取收ニ障ワリアル時ニアラズ、君主ノ武城ヨリ州府ニ歸リタマヘル嘉儀ノ爲メニ上府ス

ルハ、大抵四月ノ節ノ末比五月ノ節ノ初比ナレバ、船ニテ進ミ登スル百姓ノ麥取收ニ障ワリアル時ナリ、若シ麥取收ノ法ヲ立テラル、時節ニ成ラバ、歸州シタマヘル嘉儀ニ遠郷ノ在役上府スルハ、五月ノ節ニ入リテ六日目ニ居村ヲ出デ、近郷ノ奉役ハ其ノ日限ヲ考ガヘテ居村ヲ出ヅル格ニ、上ヨリ許シヲ蒙ムリ置カレタキ事ナリ、年始ノ嘉儀ト首途ノ嘉儀ハ定マレル日限アルナレバ、差シ延ブル事ヲ許シタマフベキ道理ナク、亦タ農務ノ急ナル時ニアラズ、歸州ノ嘉儀ハ定マレル日限ナク、亦メ農務ノ急ナル時ナレバ、十日十五日ナド差シ延ブル事ヲ許シタマフトモ、禮儀ニ害アルトハ云ヒガタカラン。奉役ノ年貢皆濟、役銀皆濟ノ算用ニ上府スルモ、草便ノ郷中算用ニ郷ニ下ダルモ、農ノ時ヲ避クベキ事ナリ、川普請ハ其ノ郷ノ奉役ノ心ニテ。其ノ郷中村々ノ人夫ヲ大分ニ使フナレバ、川普請ノ仕形ニハ奉役別シテ深ク心ヲ用ヒ、府中ニテ八郷ノ奉役出會ノ時ニ、郷々ノ川普請ノ仕形ノ宜ジキ事ヲ尋ネ聞キ、以前ノ仕形ノ誤マリヲ悟リシ事ヲモ聞キ合セ、無益ノ所ニ人夫ヲ使フ事ナク、若シ急グマジキ普請ヲ若シ急グ事ナキ道ニ擇ビ行ナフベキ事ナリ、川普請ノ日數段々ト多ク成リ、百姓ノ農隙ニ爲シ來タレル事ヲナシ來リノホドニハ爲シ得ズ。農ノ時ニ農事ニ交ヘテ爲スハ。奉役ヨリ其ノ郷ノ百姓ヲシテ農ノ時ヲ失ナワシムル類ナリ、一郷ノ奉役兩人ニテ他村ニ住スル奉役トノ云ヒ通シ繁ク、其ノ郷中村々ノ下知人ヘノ云ヒ通シ繁ク、農務ヲ重ンジ百姓ヲ愛スル奉役ノ一二度ニテ濟メケル事ヲ、五度モ七度モ云通シ、其ノ郷ノ百姓作物蒔付取收ノ時ニモ使ワル、コト多キナラバ、風雨ノ前ニ取リ終ルベ

キ作物ヲ、其ノ日ノ役ニ當タリテ取リ終ラズ、一日ノ延引ニテ翌日ノ風雨ニ逢ヒ、大分ノ手入リト成リ、大分ノ損失ト成ル事モアラン、種子ヲ蒔キ付クベキ時ニ、其ノ日ノ役ニ當タリテ蒔キ付ケ得ズ、其ノ翌日ヨリ雨降ラバ、一日ノ後クレ、五日十日ノ後クレニ成ル事モアラン、是ノ如キ類ノ事ニ奉役ノ心ヲ用ヒザルハ、奉役ヨリ其ノ郷ノ百姓ヲシテ農ノ時ヲ失ナワシムルナリ、時ニ依リ郷ニ依リ奉役ノ仕形ノ宜シカラザルハ、郷中用ノ走番トテ奉役兩人ノ家ニ夫ヲ一人ヅヽ召シ置キ、其ノ入日ヲ郷中ノ百姓ニ出ダサセナガラ、同職ノ奉役ト村々ノ下知人ヘノ云ヒ通シニハ、其ノ村ノ百姓ヲ使ヘルモアリト云フ、是ノ如キ事ハ何レノ時ニモ何レノ郷ニモアルベキ事ニテナケレドモ、若シ一郷ニモ其事アル時アラバ、甚ハダ好カラヌ事ナルベシ、奉役ノ家ニ走番ヲ召シ置ク事ノ始マリシハ、郷中ノ云ヒ通シニ百姓ヲ使ヒテハ、農ノ時ヲ失ナワシムル害アルユヘ、百姓ヲ使ワズ走番ヲ使フベキ事ト云フ僉議ニテアリケルナラン、是レハ宜シキ事ナリ、然ルニ郷中ヨリ走番ニ出ダスハ、名子ノ強健ナラザル者ニテ、走番ヲ勤メザル間ニ他ノ事ニ使フニ不勝手ナルトテ、人ヲ定メ召シ置ク事ヲ嫌ヒ、百姓ヲシテ廻リ廻リニ勤メシメ、遠村ヨリ勤ムルハ往來ノ時刻ノ費ヘモアリテ農業ノ妨ダゲ重シト云フ、若シ一郷ニモ其ノ事アラバ、是レ亦タ甚ハダ好カラヌ事ナルベシ、此ノ類ノ事ハ郡奉行ノ深ク察シテ速ヤカニ正ダスベキ所ナリ、郡奉行所ヨリ八郷ニ下知アリテ、郷々ノ奉役ヨリ、郷中ノ村々ニ觸レ知ラスル事ト、奉役ヨリ村々ニ急ニ云ヒ渡サズシテ叶ワザル事ノ出來タルハ格別、其ノ外ノ事ハ極月正月二箇月ノ内

ニ奉役兩人出會シ、村々ノ下知人ヲモ呼ビ寄セ、年中ノ用事ノ前廣ニ相談スル事ノ成ルベキハ、二箇月ノ内ニ相談ヲ極メ置キ、作物蒔付取收ノ時ニ一人ニテモ百姓ヲ使フ事ヲ、甚ハダ大節ニ心得ベシト嚴密ニ下知アルベキ事ナリ、村々ニテ或ハ府中ノ鍛冶ヲ雇ヒ、或ハ他郷ノ鍛冶ヲ雇ヒ、鍋釜ノ古ク成リ、農具ノ古ク成リタルヲ鑄潰サシメテ作クラシムル農具ハ、出來居ケル農具ヲ府中ヨリ買ヒタルニ勝サルユヘ、毎年鍛冶ヲ雇ヒテ作クラシムルニ、其ノ口ノ食用ノ外ニ麥一斗四升ヅヽ雇ヒ賃ニ與フル格ニ仕來リ、貧シキ百姓ハ春ニ成レバ食用乏シクシテ、鍛冶ノ債麥ヲ出ダシ得ズ、貧シカラザル百姓ノミニテ鍛冶ヲ雇ワントスレバ、仕事ノ日數ノ少ナキトテ雇ワレザルユヘ、麥ノ出來テ百姓一同ニ賃麥ヲ出ダシ得ル事ノ成ル時ニ雇ヒ、麥取收ノ方ヲ缺グ事アルト云フナレバ、是ノ如キ仕來リノ村々ハ麥取收ノ內ニ、翌年ノ春ノ農具作リ用ノ麥ヲ貧民ヨリ出シ立テサセ、下知人肝煎百姓ノ小屋ニ分ケ預カリ、毎年正月二月ノ比ニ農具ヲ作クラシムベキコトナリ、一村ノ中ニテ或ハ嫁娶ノ事アリ、或ハ屋ヲ葺キ家ヲ立ツルノ事アル時ハ、村中ノ者ノ多ク差シ寄リテ取リ持チ合力スルト云フナレバ、作物取收蒔付ノ時節ニハ、村下知人ヨリ制シテ爲サシメズ、或ハ急ギ或ハ延ベテ、日ヲ限リタル農務ニアラザル時ニ爲サシメ、薪ヲ伐リ枌ヲ片キ板ヲ割キテ府中ニ賣リ出ダス事ヲ仕來リ、作物取收蒔付ノ時節ニモ右ノ類ノ事ヲ交ヘ爲シ、農人トモ定マラズ、杣人トモ定マラズ、日ヲ限リタル農事ヲ下知シテモ下知ヲ用ヒザルト見ヘタラバ、郡奉行所ニ申シ出デ差圖ヲ受ケ、作物取收蒔付ノ時節ニモ仕來リタル働

ラキヲ爲シ、農事ノ下知ヲ用ヒザルナラバ、請持ノ作所ノ内ニテ居屋敷ノ近邊ノ作所ノミ其ノマヽニ請ケ持タセ置キ、其ノ外ノ作所ヲ取リ上ゲテ、農事ノ下知ヲ用フベキ百姓バカリニ分ケ與タフベシト云ヒ渡タシ、其ノ事ヲ難儀ナルト云ワバ、村中一同ニ作物取收蒔付ノ時節ニ他ノ働キヲ止メヨト下知シ、海邊ノ村ニテ作物取收蒔付ノ時節ニ、浦内ニ鰯ノ入リ居ケルトテ農事ヲ捨テ置キ鰯ヲ引ク事アルハ、鰯ノ入リ居ケル多少ヲ村下知人ヨリ檢分シ、鰯ノ引キ揚ゲノ多キナラバ、麥ノ取リ收メ延引スルトモ、老年、少年、妻女バカリニ麥ヲ取ラセ、壯年ノ男ニハ鰯ヲ引カセ、麥蒔付ノ時ナラバ、麥蒔付ト鰯ノ引キ揚ゲヲ二ツナガラ宜シキホドニ兼子爲サシメ、鰯ノ少シ見ヘタルニ多ク入リ來ルニテアラントテ、蒔付モ取收モ捨テ置キ、少シ見ヘタル時ヨリ引キ揚ゲニ掛カリ居ケルハ、村下知人ヨリ制スベキ事ナリ、是ノ如キ類ノ事ニ村下知人ノ心ヲ用ヒザルハ、村下知人ヨリ其ノ村ノ百姓ヲシテ農ノ時ヲ失ナハシムルナリ、吾等郡奉行タリシ時ハ、覺書ヲ以テ八郷ニ下知セシ事、其ノ以前ノ郡奉行ヨリハ多シ、下知狀ヲ八郷奉役ニ送リ下ダスニ、村々ヨリ傳ヘ送ル人夫ハ一人ヅヽト見ヘテモ、八郷奉役ニ達スルマデノ人夫ト、八郷奉役ヨリ其ノ郷中ノ村々ニ傳ヘ送ル人夫トヲ合セテハ、人數ノ高多ク成ル積リナリ、村々ノ百姓ヘノ云ヒ渡シヲ農事ノ障リニ成ラザル樣ニト下知シテモ、村下知人ノ不心得ナルハ、障リアル樣ニ云ヒ渡タシタル事モアラン、益アルベシト思ヒテ下知セシモ、思ヒシニ違ヒ益ニハ成ラズ害ニ成リタル事モアラン、是ノ如クナルハ皆是レ百姓ヲ煩ラワシ、百姓ヲ苦シメケル

ナリ、最初其ノ事ヲ下知スル時ニ心盡サズシテ早ク下知シ、或ハ云ヒ殘シノ事ヲ云ヒ足シ、或ハ云ヒ違ヘノコトヲ云ヒ直ストテ、一度ニ濟ムベキ下知ノ二度三度ニ及ビシモアリタルハ、百姓ヲ煩ラワシケル事ノ甚ダシキナリ、百姓ヲ煩ラワシケル下知狀ヲ送ル事ノ作物蒔付取收ノ時ニ當タレルハ、吾等ヨリ八鄕ノ百姓ヲシテ農ノ時ヲ失ナワシメタルナリ、吾等郡奉行タリシ時ニ、鄕村ヨリ吾等ヲ惡ミ譏リ、今ノ郡奉行ハ種々ノ事ヲ云ヒ出ダシ、百姓ヲ苦シメラルルト云ヒケル由交代ノ後ニ聞キタリ、郡奉行ヨリ鄕村ニ下知スベシト思ヘル事ハ、兼テ精ク僉議シテ吟味ヲ極メ置キ、其ノ覺書ヲ奉役村下知人格式ノ上府ノ時ニ渡シ與ヘ、口上ニテモ詳カニ云ヒ諭シ、奉役村下知人ノ異見ヲ得テ、改ダムベキ所ハ覺書ヲ書キ直シ、不時ニ郡支配ヨリ八鄕ヘ下知アル事ハ格別、鄕村ノ爲メニ利ヲ興シ害ヲ除ク事ヲ郡奉行ヨリ下知スルハ、總テ奉役村下知人格式ノ上府ノ時ニ云ヒ渡スベキ事ナルニ、吾等郡奉行タリシ時ニ、其ノ儀ヲ辨マヘザルユヘ、百姓ノ惡ミ譏レルハ誠ニ道理アル事ナリ、後ノ郡奉行モ吾等ガ誤マレル筋ノ誤マリ一度アラバ、百姓ニ其ノ分ノ害アラン、二度アラバ又其ノ分ノ害アラン、吾等ガ誤マレル筋ノ誤マリヲ一度モ爲スマジキト思ヘルニアラズバ、必數度ニ及ブベシ、吾等郡奉行タリシ時ニ、觸番薪ノ定數ヲ立テ、農務ニ障ワリナキ時ニ納メシメ、郡奉行所ノ屋敷ノ內ト、佐須鄕草使屋ノ近所ナル空地ニ積セ、草使屋ノ近所ニ積ミケルハ、相應ノ役料銀ヲ觸番殘薪買拂代銀ノ中ヨリ草使ニ與ヘテ、草使屋ニ居ケル者ノ內ヨリ守ラシメタリ、是ノ如キ事ハ吾等ガ爲セシ中ニテ惡シカラヌ

事ナリ、前ニ記ス五ケ條ヲ郷村ニ下知セシ上ニテ、右ニ云ヒ述フル所ニ郡奉行奉役村下知人相ヒ共ニ心ヲ用フルナラバ、麥取收ノ下知ニ其ノ驗シナキコトハアルマジ、然レドモ郡支配ノ心ヲ用ヒラルヽ事ナクシテ、只ダ郡奉行奉役村下知人ニノミ任セ置ルヽナラバ、心ナラザル誤マリニテ百姓ノ使ワルヽ事多ク、農業ノ障ワリノ重キ事モアラン、吾等郡奉行タリシ時モ、民ヲ使フ事ヲ輕ク思ヒタルニテハナケレドモ、交代ノ後ニ聞キ合セテ勘ガフルニ、百姓ヲシテ農業ノ時ヲ失ナハシメタル事少ナカラズ、其ノ中ノ重キ誤マリハ前ニ云フ所ナリ、其ノ後ノ郡奉行ハ吾等ガ如キ不肖ノ人ニテナキト聞キタレバ、吾等ガ誤マレルホドノ誤マリハアルマジキナレドモ、心ノ怠タリ少シモナキト云フホドノ人ニテハアルマジ、然レバ何レノ時ニテモ村々ニ夫使帳、出銀帳ヲ仕立テサセラルベキ事ナリ、帳ヲ仕立ツル事ヲ爲シ得ベキ村々ニテハ右ノ二帳ヲ仕立テ、郡奉行所ヨリノ夫使ヒ、奉役村下知人ヨリノ夫使ヒ一々ニ書キ記シ、府中ニ納ムル役銀諸品、奉役村下知人ニ出ダス錢穀一々ニ書キ記シ、奉役村下知人肝煎ニモ決シテ見セズ、郡方手代役足輕目付ニモ決シテ見セズ、毎年正月足輕目付ヲ差シ下ダスベキナレバ、其時ニ前ノ一箇年ノ帳ヲ封ジ、村中ノ相談ニテ常ニ帳面ノ事ニ預カル者ノ中ヨリ三人ヲ撰ビ、帳ノ奥ニモ、帳ノ上封ニモ、其ノ三人ノ名ヲ記シ、印判ヲ押シテ足輕目付ニ渡セ、足輕目付上府ノ日ニ郡奉行所ニモ、郡奉行ノ宅ニモ持チ出デズ、直グニ郡支配ノ宅ニ持參シテ差シ出ダサシムベシト書シ、八郷奉役ヲシテ其ノ郷ノ村々ニ渡サシメ、其ノ旨ヲ郡支配ニ申シ置キ、二帳ノ出デタル時ニ

郡支配ヨリ郡奉行ニ見セラルベシトノ事アリトモ、見ル事ヲ固ク辭スルナラバ、郡奉行手代役ノ愼シミニモ成リ、奉役村下知人肝煎ノ愼シミニモ成リ、百姓ニ利アリテ農事ニ益アラン、鄕中用トテ錢穀ヲ出ダスコト多ク成リテハ、元ヨリ貧シキ百姓ハ窮スル事彌イヨ重ク、農ノ時ニモ當分ノ食用ノ穀物ヲ買ヒ得ル爲メニ、山海ノ物ヲ取リ出ダシテ商買人ニ賣ル事ヲ交ヘ爲シ、專パラ農業ニ力ヲ盡ス事ヲ得ザルナレバ、出銀帳モ夫使帳ト共ニ仕立テサセラレズシテ叶ワヌ事ナルベシ、豐崎鄕佐護鄕ハ關所アルナレバ、是ノ二鄕ハ格別ノ事ニテ、其ノ外ノ六鄕ハ奉役一人ニテ勤メサセラレタキ事ナリ。二人ノ奉役二三里ヲ隔テタル村ニ住スルモアリ、同役ナレバ何事モ一一ニ云ヒ通シ聞キ合セズシテ叶ワヌ事ナル故、奉役居住ノ村ト其間ノ村々ノ百姓ノ、年中ニ兩方ノ書狀ヲ村繼ニシテ持チ送ル夫高ヲ積リタラバ、少ナカラヌ夫高ナルベシ、六鄕ノ奉役ヲ一人ヅヽニ定メラレ、村下知人ノ中ニテ人柄ノ勝サレルヲ二人ヅヽ撰ビ置カレ、奉役上府スベキ時ト、村廻リスベキ時ニ若當病差合アラバ、其ノ二人ノ中一人ヲ名代ニ上府セシメ村廻リセシメバ、奉役一人ニテモ差シ支フル事アルマジ、奉役ノ頻リニ村廻リスルハ、村々ニ益アルコト少ナク害アル事多ク、好キ奉役ハ村廻リスル事希レニシテ、村々ニ益アル事多キト聞ク、每年正月ニ一度ヅヽ村廻リシ、二月ヨリ後ハ村廻リセズ、鄕中ノ村ニ云ヒ渡スベキ事アル時ハ、其ノ村ノ下知人肝煎ヲ呼ビ寄セテ云ヒ渡シ、公用ノ時バカリ何レノ月ニテモ村廻リシ、鄕中ノ村ニ不意ノ事ノ出來シ、其ノ樣子ヲ見屆ケズシテ叶ワザル時バカリ其ノ村ニ行クニ成ラ

バ、百姓ノ使ワレ其ノ分ホド少ナク、奉役ヘノ手使ヒ一年ニ一日ヅツ兩人ニ取レルヲ、一人ニ取ルニ成ラバ、麥取收ノミナラズ、諸作仕付ノ急ナル時節ニ一日ノ益ヲ得ル事輕カラザル益ナラン、府中ヨヲ朝鮮ニ往來スル船ノ漕船公役ト、其ノ外ノ迻リ公役マデ精シク僉議アリテ、勤方ノ下知宜シク成ラバ、夫使ヒ多ク減リテ農務ニ益アラン、吾等郡奉行ノ時ヨリ奉役ヲ勤メケル人ノ比日吾ガ家ニ來レルニ、吾レ麥取收ノ事ヲ云ヒ出ダシ、雞知村才兵衞、女連村與三右衞門ガ仕形ノ宜キ事ヲ語リケルニ、其ノ人ノ云ヘルハ、是州ノ百姓ノ風俗ニテ以前ヨリノ仕來リヲ改ムル事ヲ嫌ヘルナレバ、才兵衞、與三右衞門ガ仕形ニ效ヘト郡奉行所ヨリ下知アルトモ、八郷ノ村々ニ殘リナク嚴密ニ云ヒ渡タサルヽニアラズバ行ナワレ難カラン、一村ニテモ下知人肝煎ノ云ヒ渡タシ疎略ニシテ、其ノ村中ノ百姓下知ヲ守ラズバ、隣村ノ百姓ヨリ見及ビ、是ノ如クニシテモ別條ナキト見ヘタルニ、當村ノ下知人肝煎ハ無理ニ百姓ノ仕來リヲ改タメサセントスルト云ヒテ下知ヲ守ラズ、段々是ノ如ク聞キ及ビ云ヒ立ツルニ成ラバ、下知ノ行ナワルヽ事アルマジキカ、何レノ村モ下知人肝煎ノ云ヒ渡タシ、少シモ疎略ナキ樣ニ嚴密ニ下知アラバ、其ノ下知ノ行ナワレザル事ハアルマジト云ヘリ、然レバ麥取收ノ時ニ百姓ヲ使ワルヽ事甚ハダ少ナク成リタルトモ、右奉役ノ云フ所ヲ辨マヘ知リテ下知スルニテナクバ、麥取收ノ仕來リノ改マル事ハアルマジ、後ノ郡奉行ノ麥取收ノ法ヲ出ダセル時ニ心得アルベキ事ナリ、三月四月ニ氣候ノ好カラヌニテ麥ノ損毛アルハ格別、五月マデ麥ヲ取リ收メズ、長雨ニ腐ラシ、大水ニ流

ガシ面々ノ仕形ノ惡シキニテ損失アルヲ、天災ノ損毛ト同ジ事ニ申シ立テ、捨タリ檢分ヲ願ヒ、年貢ノ捨タリヲ受クルハ宜シカラヌ事ナリ、然ドモ郡奉行奉役ヨリ百姓ノ麥取收ノ仕形ノ惡シキヲ改タメサセ得ル事ナク、麥取收ノ時ニ百姓ノ使ワレザル格ヲ立テ得ズシテ、只ダ梅雨ニ入リシ後ノ損毛ニハ、捨タリヲ下ダサルマジキ事ト云フベキ道理ナシ、麥取收ノ法ヲ出ダシテ麥取收ノ節ニ、百姓ノ使ワレザル格ヲ立テ得ケル時ニ至ラバ、梅雨ニ入リタル後ノ損毛ニハ、捨タリヲ受クマジキ道理ナル事ヲ百姓ニ云ヒ聞カスベキ事ナリ、凡財用ノ利害ヲ辨フルニハ、先ヅ其ノ事ノ義ニ害アルカ義ニ害ナキカ辨マフベシ、義ニ害アルハ、利アルモ眞ノ利ニアラズ、利ノ中ニ害ヲ含ミ居テ、其ノ害ノ何時ニ發スベキモ量ラレザル故ナリ、義ニ害ナキト見ヘタル事ノ內ニテ、利ノ重キヲ嫌ヒテ利ノ輕キヲ用ヒザル、是レ亦タ義ナリ、吾等ガ如キ不肖ノ者ハ自身ヨリ爲シ初メ云ヒ出ダセシ事ハ、其ノ利ヲ見テ其ノ害ヲ見ズ、其ノ害ヲ見ルモ重キヲ輕キト見成シ、他人ヨリ爲シ初メ云ヒ出ダセシ事ハ、其ノ害ヲ見テ其ノ利ヲ見ズ、其ノ利ヲ見ルモ大ヒナルヲ小キナルト見成セリ、是レ我慢ノ意地ナリ、利害ノ道理ヲ考ガフルニ、利ノミニテ害ノナキコトハアリガタキト見ヘタリ、百姓ニ君長アリテ百姓ヲ治メタマヒ、君長ニ百姓アリテ君長ヲ養ナヒ奉ツルハ民生ニ利アル事ナレバ、暴君ノ百姓ヲ虐スル事アルトテ、君長ノ始マリシヲ害アル事トハ云フベカラズ、弓矢ヲ作クリテ天下ヲ威ドシタマフハ民生ニ利アル事ナレバ、惡人ノ弓矢ヲ憑ミテ亂ヲ起コス事アルトテ、弓矢ノ始マリシヲ害アル事トハ云フベカラズ、百草

ヲ營メ醫藥ヲ敎ヘタマフハ民生ニ利アル事ナレバ、庸醫ノ藥ヲ誤マル事アルトテ、醫藥ノ始マリシヲ害アル事トハ云フベカラズ、脾胃ノ病ニテ快ヨク飮食スル事ヲ得ザル小兒アリテ、醫者其ノ病ヲ療治セシ後ニ小兒ノ過食スルハ、其ノ家ノ父母タル者ノ罪ナルカ、脾胃ノ病ヲ療治セシ醫者ノ罪ナルカ、脾胃ノ病ヲ療治セバ、其ノ小兒ノ過食スル事モアランカトテ、何ツマデモ其ノ病ヲ育テ置クベキ事ナルカ、此ノ道理ハ事ヲ謀カリ事ヲ議スル人ノ勘辨セズシテ叶ワザル所ナリ、何レノ時モ何レノ處モ、大事小事トモニ利ノ重キ事ノ興コリガタク、害ノ重キ事ノ廢タリガタキハ、事ヲ掌ドル人ニ我慢ノ意地アリテ人ノ善ヲ取ラザル故ナリ、吾等ガ如キ不肖ノ者ニハ此ノ意地最トモ深カルベキナレバ、是州ノ百姓ノ麥取收ニ面々ノ仕來リヲ宜シキトシテ、他人ノ爲セル宜シキ仕形ヲ用ヒザルヲ、吾等ニナキ我慢ノ意地ノ百姓ニノミアリケルト思フベキ事ニアラズ、吾レモ人モ共ニ此ノ意地ヲ改タメタキ事ナリ、比日或人ノ云ヘルハ、雞知村才兵衞、女連村與三右衞門ガ麥取收ノ仕形ハ、惣體ノ農人ノ手本ニ成ル事ニテナシ、才兵衞ハ家内ニ麥取リヲ務ムル年比ノ者五人アリテ、麥ヲ取收ムル俵數ハ僅カニ廿俵ホドナレバ、梅雨ノ前ニ取リ終ル積リナリ、與三右衞門モ其ノ子モ俵數ヲ多ク取レドモ、女連村ハ府中關所ノ往來筋エ當ラザル村ニテ、使ワル、事甚ハダ少ナク、其ノ上ヘ勝手ノ好キ者ニテ、作物ノ取リ收メニ賃ヲ出ダシ人ヲ雇フユヘ、俵數ノ多キ取リ收メモ梅雨ノ前ニ取リ終ル積リナリ、是ノ如キ樣子ヲモ勘ガヘ知ラズシテ、二人ノ仕形ヲ惣體ノ手本トスベキ事ト思ヘルハ、愚カナル事ナリト批判

スル人多キ由云ヘリ、是ノ說モ我慢ノ意地ヨリ起レルナリ、吾レ云ヘルハ、麥ノ莖强クシテ亂レザル內ニハ、好ク取ル者ハ一日ニ五斗ホド取リ、其ノ次ハ四斗五升モ四斗モ取ルト云フナレバ、廿俵ホドノ麥モ五人ノ手ナクテハ、梅雨ノ前ニ取リ得マジキト極ムベキ道理ナシ、麥ヲ多ク取ルハ勝手ノ好ク人數ノ多キ家ナレバ、取リ終ルマデノ日數大抵人少ナキ貧家ト似寄リタル日數ナラン、只ダ半バ黃ニ半バ靑キ所ヨリ取リ掛カルコソ、才兵衛、與三右衛門ガ仕形ノ手本ト成ルベキ所ナリト云ヒ聞セタリ、八鄕奉役ノ心ニ農事ヲ重ンズルナラバ、其ノ鄕ノ內ニテ農事ノ宜シキ仕形ヲ爲シ出ダセル者ヲ稱美シ、鄕中ノ者ヲシテ其ノ仕形ニ效ワシメ、效ワシメントシテモ從ワザル者アラバ、其ノ從ガワザル者ノ中ニテ殊ニ甚シキ者ヲ僉議シテ人罪ヲ極メ、科代ノ穀物ヲ相應ニ出ダサシメ、其ノ上ヘニモ從ガワザル者アラバ、郡奉行所ニ申シ出デ、郡奉行所ノ下知ニテ、科代ノ穀物ヲ出ダサセラレン事ヲ請ヒ、其ノ格ヲ以テ仕形ノ宜シキ事ヲ效ワシメ、仕形ノ宜シカラヌ事ヲ止シメ、八鄕ノ奉役相共ニ是ノ如クスルナラバ、他鄕ニ無キ下知ヲ爲セルト思フ者ナクシテ下知ヲ能ク受ケ、耕作取收ノ宜シカラヌ仕來リ改マリ易スカルベシ、木庭ヲ明ケ過グス事宜シカラヌト云フ故ハ、昔ヨリ知レタル事ニテ、木庭ノ明ケ前ノ大法ノ昔ヨリ定マリ居ケル事ナレバ、段々ト人多ク成リ作處ノ當タリ少ナク成リタルトモ、木庭ヲ早ク明ケ廣ク明クル事ヲ爲サシメズ、人ノ多ノ成レルニ隨ガヒテ、養ノ手廻シ草ヲ取リ土ヲ掛クル手入レ仕付ケ取收ノ手配リニ、人力ノ多キヲ用ヒヨト敎ヘズシテ叶ワヌ事ナルニ、其ノ如ク敎フ

ル事ハナク、大抵百姓ノ愚カナル仕形ニ任セ置キ、奉役ノ中ニ其ノ事ニ心ヲ用フル人アリテ、村下知人肝煎ニ相談シ下知ヲ加ヘントスレドモ、他郷ニ無キ下知ナリト思ヘル故カ、百姓ノ從ガワザルノミナラズ、村下知人肝煎モ同意セズ、其ノ奉役ヨリ其ノ事ヲ郡奉行所ニ數度申シ出デ、郡奉行所ヨリ郡支配ニ申シ達シラレ、近比ロ始メテ郡支配ヨリ木庭ノ下知アリケルナリ、吾等モ九ケ年ノ間ダ郡奉行所ニ勤メケレドモ、農事ヲ重ンズル事誠實ナラズ。其ノ以後ノ郡奉行モ吾等ガ勤メシ時ノ如クナルユヘカ、奉役村下知人モ多クハ農事ヲ重ンズル事誠實ナラザルト見ヘ、奉役村下知人ノ罪ハ郡奉行ノ罪ニテ、吾等モ其ノ中ノ罪人ナリ、吾レ郡奉行ヲ辭シ退休シテ十餘年ノ間ダ。郷村ノ事ヲ聞キケルニテ、勤役ノ時ニ職分ヲ失ナヘル罪ノ條數ノ甚ハダ多キ事ヲ知リ、職分ヲ失ナヘル罪ノ條數ノ甚ハダ多キハ、民間ノ樣子ト農事ノ樣子ヲ精シク聞カザリシ故ナル事ヲ知レリ、吾レ元ヨリ事理ニ暗ク、殊ニ老衰健忘ノ身ト成リ居ケルナレバ、聞キ違ヘ心得違ヘ多カルベケレドモ、十ニ一ツモ後ノ郡奉行ノ考ガヘニ成ル事アラバ其ノ分ノ益ナラン、願ワクハ吾ガ說ク所ヲ記シ置ケト語レリ、某其ノ說ヲ聞クトイヘドモ、節目多ク次第長クシテ一度ニ聞キ覺フル事ヲ得ズ、先ヅ聞覺ヘシ所バカリヲ書キ記シテ段段ニ尋ネ聞キ、紀聞ノ成レル時ニ讀ミテ聞カシメ、違ヘル所ヲ書キ改メテ定本ト爲シケルナリ

刈麥談　終

水利問答

水利問答

問フ、是州ハ元ヨリ田ノ少ナキニ、水ヲ掛ケ水ヲ落トス事ノ自由ナル田ハ殊ニ少ナク、大抵ハ天水田ト深田ナリ、天水田ハ地位ノ好キモ、利ヲ得ル事多カラザルト見ヘタリ、大旱ニモ水ノ涸レザル溪アル所ハ、水道ヲ掘リ明ケテ溪水ヲ引キ取ルベキ事ナレドモ、或ヒハ岩ノ出張リタル所アリ、或ヒハ甚ハダ嶮岨ナル所アリ、或ヒハ沙石ニテ土ナキ所アリ、是ノ如キ所ニテモ、水ヲ引キ得ル術アルベキヤ、

曰ク、吾レ郡奉行タリシ事九年ナレドモ、才力ノ乏シク誠意ノ薄スキニテ、土地人民ニ利アルベキ事ヲ勸役ノ中ニ僉議セザル事甚ハダ多ク、役ヲ辭セシ後チ老衰シ、閑居シテ鄉村ノ事ヲ知レル人ノ來リ訪□エルニ、段々ト尋子聞キタリ、與良鄉內山村ノ事ヲ知レル人ノ語レルハ、內山村ノ田ニ引ク水ノ井手口ノ在ル所ハ、田ヨリ十町ホド奥ナリ、井手口ノ所ニ以前ハ出張リノ岩アリテ、井手口ノ樣子ノ好カラザリシニ、先年ソノ岩ヲ燒キテ打チ碎キ、井手口ノ樣子以前ヨリハ好ク成レリ、井手口ヨリ田マデノ間ダニハ出張リノ岩ナシ、其ノ內ニ山ノ嶮岨ナル所アルモ、嶮岨ナル所ニテハ溝ヲ上手ニ掘リ寄セ、底土ノ堅キヲ切リ岸ニスルユヘ障ワリナシ　上邊ノ沙地ト見ヘタルモ、深ク掘レバ堅キ赤土ナリ、深ク掘リテモ沙地ニテ水ノ洩ル所アルハ、宜シキ程ニ土ヲ堀リ除ケ、赤土ヲ入レ替ヘ、溝ノ下手ノ緣ニハ、芝草ヲ根ノ土ト共ニ掘リ起コシタルヲ敷キ重子、水ノ通ル方ニハ赤土ヲ打チ付ケテ水ノ洩

ルヲ防グナリ、然レドモ十町ホドノ溝筋ニ木ノ繁リ多クシテ溝ヲ掩ヒ、水ニ日ノ當タル事少ナク、夏日ニモ水熱セザル水ヲ田ニ用ヒテハ、上田モ出來スクナク、田ニ成ルベキ所モ畠ニシ置キテ、蕪菁大根ヲ作クリタルニ利益マサリ、以前ハ田ニテアリケルヲ後ニ畠ニ爲シタルト見ヘ、舊キ井手溝ノ跡ノ今ニ殘レルモアルハ、其ノ故ナラント語レリ、溝ヲ掩フ木草ヲ拂フ事ハ農書ニモ見ヘタリ、井手溝ニ夏秋ノ間ダ日ノ當タリ好ク成ル樣ニ爲スハ、木數ヲ大分ニ伐リ除タルニ及ブマジキ事ナレドモ、元ヨリ田作ヲ重ンゼザルユヘ、人事ノ精シカラザルナリ、佐須郷下原村ノ事ヲ知レル人ノ語レルハ、以前下原村ノ百姓ノ開田セシ者アリケルガ、其ノ開田ニ用ユル水ヲ樫根村領ノ川ヨリ引キ取リ、其ノ溝筋ニ出張リタル小山ノ根ノ岩ヲ、高サ二尺三四寸横コ一尺二三寸ニ十三尋ホド切リ拔キテ水ヲ通ジタリ、其ノ百姓ノ耕作セシ時ハ、田ノ出來モ好カリケルニ、後ノ作人ハ不精者ニテ耕作ノ仕形アシク、彼ノ切リ拔キノ溝ニ積レル沙石ヲモ除ケズ、水ノ通ル事少ナク、田ニ用ヒテ足ラザル程ニ成レルト語レリ、百姓一人ニテ是ノ如キ切リ拔キヲナシ得タルハ、銀山アル村ニテ金掘ヲ雇ヒ易スカリシ故ナラン、豆酘村ノ事ヲ知レル人ノ語レルハ、豆酘村領ノ内ニテ水ヲ引ク事ノ成リ難キ田ニハ、向フノ川端ヨリ木樋ヲ渡タシ、川ヲ隔テタル水ヲ引ク事五箇所ニ在リ、山ノ片タ下ガリナル所ノ土ナクシテ岩ノ顯ワレタルハ、水ヲ引ク溝ヲ掘リ續クル事成ラザルユヘ、溝ノ絶ヘ間ニ木樋ヲ渡タシテ水ヲ引キ續タルナリ、豆酘村ノ北山ヨリ出ヅル水ハ、多クハ瀬村領ニ落チ下ダリ、豆酘村領ニ落ツルハ多カラザル

ニヘ、豆酘村ニ落ツル水ヲ田ニ引キ用ヒザルハナシト語レリ、木樋ハ俗ニ謂フイラカナリ、田代ニ勤役セシ人ノ云ヘルハ、基肆養父ニテサヘ水廻シノ成リ難キ所ハ、イラカニテ水ヲ引クナレバ、是州ノ如ク木山オホクシテイラカノ取リ易キ所ハ、イラカニテ水ヲ引クベキ事ナリト云ヘリ、豆酘村、内山村、下原村ノ水廻シノ様子ヲ、其ノ他ノ郷村ノ水廻シノ手本ト爲スベキ事ナリ、下原村ノ百姓ハ銀山ノ近邊ニテ金掘ヲ雇フニ入目スクナク、一人ニテ十三尋ノ岩ヲ切リ通ス入目ヲ出ダセリ、遠郷ニ金掘ヲ招クモ往來ノ入目ノ增シケルマデニテ、金掘ノ手間銀ト鑿ノ損ズル修覆ノ入目銀ヲ出ダスハ、近處モ遠郷モ同ジカラン、溝筋ニ岩ヲ切ル所アリテ其ノ入目ヲ出ダスニ、水ヲ受クル田ヲ持チタル家家ヨリ出ダスハ易キ事ナルベケレドモ、利益ノ未ダ見ヘザル事ニハ少シノ銀ヲ出ダスモ人情ノ嫌ヘル所ナレバ、道作クリ橋作クリ等ノ用ニ當テタマヘル別銀ノ中ヨリ、岩切リヲ爲サシメタマフ様ニアリタキ事ナリ、岩ノ出張リアル所モ、多クハ豆酘村ノ仕形ノ如ク木樋ニテ水ヲ引クベキユヘ、岩ヲ切ラズシテ叶ワヌ所ノ分數ハ少シバカリニテアルベシ、川ノ曲リテ田畠ノ損分オホク水損オホキ所ナドハ、或ヒハ岩ヲ切リ拔キ川筋ヲ直シ、或ヒハ岩ヲ切リ缺ギ水勢ヲ緩ムル爲メニ、是レ亦タ溝筋ノ岩切リト共ニ爲サシメタマフ様ニアリタキ事ナリ、段々ト衰微シタル銀山ナレバ、以後ニ至リテハ金掘ノ無クナル事アルベシ、他方ヨリ金掘ヲ招カルヽハ費ヘ多カルベキユヘ、金掘ノ有リケル時ニ、一年ナリトモ早ク切ルベキ岩ヲ切ラシメタマワバ、永久ノ利ト成ルベシ

問フ、廣キ川ニテハ木樋ヲ渡ス事成ルマジ、其ノ所ニテハ如何カスベキヤ、曰ク、廣キ川ニテハ橋柱ノ如クナル大木ヲ、川中ニ二ツデモ三ツデモ掘リ入レ、木樋ヲ繼ギテ渡スベキ事ナリ、若シ川底ニ平岩ノ續キテ、橋柱ノ如クナル大木ヲ掘リ入ルヽ事ノ成ラザルナラバ、木樋一本ニテ水ヲ渡ス事ノ成ルベキ所マデ、溝ヲ掘リ廻シテ水ヲ渡スベキ事ナリ、豆殿ノ水廻シノ事ヲ聞クニ、出張リノ岩廣キ所ニテハ、木樋ヲ幾クツモ繼ギテ、繼目ニ赤土ヲ籠メ、水ノ洩ルヲ防グト云フナレバ、柱ニテ木樋ヲ繼グモ其ノ如クシ、木樋ノ片端ヲ堅葛ニテ結ビ續ケ、洪水ニモ木樋ノ流レザルヤウニスベキ事ナリ

問フ、深キ溪アル所ハ大旱ニモ溪奥ノ水ノ強キニテ、田ニ引クホドノ水アルベケレドモ、溪ノ淺キハ大旱ニ田ニ引クホドハ無カラン、是ノ如クナル所ニモ水ヲ引ク術アルベキヤ、曰ク、他方ニハ二三里モ遠キ溪ノ高キ所ヨリ箱樋ニテ水ヲ引キ、廣キ田ニ用フルモアルト聞ク、然レドモ溝ト木樋ト兩樣ニテ高キ山ノ高カキ溪水ヲ引キ、卑キ山ニテハ山ノ半腹カ、半腹ヨリ上手ヲ溝筋ニシ、溝ノ水ヲ木樋ニテ受ケガタキハ、木樋ヲ二本モ三本モ並ベテ水ヲ受クベキ事ナリ、是ノ如クセバ溪ノ淺キ所ノ田ニモ水ヲ引キ得ルベシ、淺キ溪奥モ雜木ノ好ク茂レルハ、水ノ勢モ弱カラズ、深キ溪奥モ雜木ヲ伐リ荒ラシタルハ、水ノ勢モ強カラズ、是レハ皆人ノ知ル所ナリ、モトヨリ成リヤスキ事ノ成ラザルハ格別ニテ、人事ヲ盡サヾレバ成リ易キ事モ成ラズ、人事ヲ盡セバ成リ難キ事モ成ルベク見ヘタリ

問フ、水利ノ普請ハ何レノ郷ヨリ始ラレ、役人ハ如何ナル人ヲ用ヒラレペキ事ナルカ、曰ク、水利ノ

普請ハ佐護ヨリ始メラレ、用ヒラルベキ役人ハ何レノ郷ニテモ、其郷ノ奉行村下知人ヲ用ヒラレ、府中ヨリハ郡奉行所ノ足輕目付ノ內ニテ兩人ヲ撰バレ、一人宛代ル〲ニ附ケラレ、奉役村下知人ノ勤方ノ樣子ヲ郡支配郡奉行ニ申サシメラルベキ事ナリ、普請ノ始メニハ先ヅ佐護鄕ノ奉役ノ內一人、村下知人ノ內一人ニ足輕目付一人ヲ附ケ、豆酘內山下原ノ水廻シノ樣子ヲ見セシメラレ、見覺ヘノ樣子ト、佐護ノ水廻シニ用ユベキ仕形トヲ書付ニテ申出ダサシメラレ、郡支配、郡奉行吟味ノ上ニテ仕形ノ覺書ヲ調ノヘラレ、佐護鄕ノ奉役村下知人ニ見セラレ、思ヒ寄リヲ書付ニテ申シ出ダサシメラレ、郡支配、郡奉行吟味ノ上ヘニテ仕形ノ覺書ヲ調ノヘラレ、佐護鄕ノ奉役村下知人ニ見セラレ、思ヒ寄リヲ書付ニテ申シ出ダサシメラレ、其ノ上ヘニ重ネテ吟味アリテ仕形ノ覺書ヲ調ノヘ、奉役村下知人ヲシテ其ノ覺書ノ通リニ爲サシメラレ、其ノ覺書ノ通リニ爲セル中ニテ、宜シカラザル所ノ少シニテモ見ヘ來ラバ、其ノ樣子ヲ早速ニ申シ出ダサシメラレ、吟味ノ上ヘニテ其ノ所ノ仕形ヲ改タメサセラレ、佐護ハ深キ溪ノ數所ニ有ルナレバ、一筋ノ水廻シニテ田畠ニ用ユル水ノ足ラザルト見ヘタラバ、其ノ他ノ溪奧ヨリ二筋ニテモ三筋ニテモ溝ヲ掘ラセラレ、佐護鄕ノ水廻シノ普請ノ濟ミタル翌年ハ、又一鄕ノ水廻シノ普請ヲ爲サシメラレ、其ノ所ノ山溪ニ應ジタル仕形ヲ書付ニテ申サシメラレ、吟味ノ上ヘニテ覺書ヲ渡サルヽ事モ、足輕目附ヲ附ケラルヽ事モ、宜シカラザル所ノ見ヘタルヲ改タメラルヽ事モ、總テ先例ノ如ク、其ノ上ヘニテ佐護鄕ノ奉役ノ內一人、村下知人ノ內一人ヲ、其ノ鄕ノ奉役村下

知ヘノ普請下知ノ相談ニ加ヘラレ、郷々ノ水廻シノ普請ヲ段々ト右ノ辟ニ爲サシメラレ、普請ノ時節ハ毎年麥ヲ蒔キ終レル後チ、十五日ヅツト定メラレ、金掘ノ岩ヲ切ルハ一日ノ切リ出ダシ何ホドニテ、賃銀何ホドト定メ置カレ、何レノ月ニテモ切ラセ、其郷ノ村下知人ノ内ヨリ代ルガワル切リ出ダシノ分數ヲ檢分セシメ、足輕目付ニモ二箇月ニ一度ホドヅツ檢分セシメラルベキ事ナリ

問フ、郡支配、郡奉行ヨリ郷村田畠水廻シ普請ノ下知アラバ、必調ホルベキト思ヘルカ、曰ク、吾レ郡奉行タリシ時ニ、下知ノ行レシ事ノ希レニ有ルハ、其事ヲ始メヨリ精ク人ニ問ヒタルナリ、思ヒ入リノ深カリシ時ハ人ニ問フ事精シク、思ヒ入リノ淺カリシ時ハ人ニ問フコト粗ラカリケルト覺ヘタリ、水廻シノ事ヲ郡支配、郡奉行ヨリ下知アリテ、其ノ事ノ成ルベキ成ルマジキハ、是レ亦タ思ヒ入レル事ノ深キト淺キト、人ニ問ヘル事ノ精シキト粗キトニ依ルベシ、是州ノ郷村ニテ田ヲ能ク作クリ覺ヘシ百姓ノ居ケル村ハ、佐須郷ノ小茂田村ナリ、四十年以前ニ齋藤氏ノ人二人小茂田ニテ開田シ、基肄養父ノ百姓ノ子弟ノ府中人ノ二年ヲ切リ使ワレ居ケルヲ雇ヒ寄セ耕作セシメ、其ノ後チ小茂田村ノ百姓ヲ開田ノ下知人ト爲スニ至リテモ、彼ノ基肄養父ノ者ノ耕作セシ仕形ニ效ヒケルニテ、他ノ郷村ノ者ノ田ヲ作クルヨリハ作得オホク、作得ノ半分ホドヲ開田ノ主ニ納メテモ、下作人ノ得ル所ノ少ナカラヌニテ、小茂田ノ百姓ノ在附キ其ノ以前ニ勝サリ、少シニテモ田ヲ開ク人アレバ、其ノ田ノ下作人ニ成ラン事ヲ爭ソヒ求メ、物成ノ甚ハダ輕キ木庭ヲ伐リ、粟、蕎麥ヲ作ルヨリハ、田ヲ作クル事

ヲ好ムト聞ク、先年小茂田ノ開田ノ主ノ云ルトテ或人ノ語レルハ、田ニ麥ヲ蒔クハ一年ニ二作ノ利ヲ得レドモ、麥ヲ蒔カズ稻一作ニシテ、三月四月ノ間ニ數遍犂返シ。下タナル土ヲ上ヘニシテ幾度モ日ニ干シスレバ、田ノ出來格別ニ好ク、麥ヲ蒔キ二作ノ利ヲ得ルヨリハ、稻一作ノ利ヲ得ル事却テ多シト云ル由語レリ、吾郡奉行タリシ時ニ、豐崎鄕ノ中ニテ麥作ヲ專ハラニスル村々ノ事ヲ聞クニ、風ノ當タリ强ク秋物ノ利ヲ得難ク、麥一作ニ力ヲ用ル故、耕ヤシ養ヒ蒔付ケ取收メニ、他ノ作ノ手間ノ交リナク、麥作ノ得分殊ニ勝グレ、他ノ中分ノ村々ノ麥ト秋物ト兩樣ノ利ヲ得ルヨリハ、麥一作ノ利ヲ得ル事却テ多シト聞ク、小茂田ノ開田ノ主ノ云ルモ其道理ナラン、然レドモ田ヲ作ル事ヲ精ク知ラザル鄕村ハ、百姓モ村下知人モ奉役モ、一同ニ田作ハ利少ク、畠ヲ田ニスルハ有ルベキ事ニ非ズト云ヘリ、何事モ自カラ爲シ覺ヘシ事ヲノミ宜キトシ、爲シ覺ヘザル事ハ如何程ニ勝サル事ニテモ宜シカラザルニ極ムル事、凡情ノ常ナレバ怪ムニ足ラズ、然共モ百姓ノ心ノ是ノ如クナルハ、奉役村下知人ノ爲ス所ニシテ、奉役村下知人ノ心ノ是ノ如クナルハ、郡奉行ノ爲ス所ナリ、吾レ郡奉行タル事九年ナルニ、鄕村ノ益ニ成リタル事ハ甚少ク、漫リニ百姓ヲ勞セシ事ハ甚多ク、鄕村ノ人ノ惑ヒヲ解キシ事ハ少シモ無シ、交代ノ後ニ非ヲ知リテ、自カラ悔ヒ自カラ耻ヅルバカリナリ

問フ、水利ノ中ニテ畠ヲ田ニスルニ次ギタル水利ハ、何レノ事ナランカ、曰ク、草ノ莖葉ノ枯レテ腐チ、木ノ葉ト木ノ枯枝ノ落チテ腐チタルハ總テ土ト成リ。其ノ土ノ嶮岨ナル所ヨリ雨水ニ連レテ流レ

下ダリ、內海ニ流レ入ルハ、川ト海トノ間ダニ積モリテ干出ト成リ、田畠ヲ增スナリ、是レ畠ヲ田ニスルニ次ギタル水利ナリ。今ノ干出ヲ田畠ト爲セル後ハ、其ノ續キ又段々ニ干出ト成リ、其干出ヲ又田畠ト爲スナラバ、田畠ヲ開クニ盡クル時ナカルベシ、現米廿石ヲ賜ワル士ヲ新タニ一人召シ出ダサルヽニ當テタマヒ、干出アル所ノ近邊ノ百姓ヲ每年正月ノ節ノ中比末比ニ二日ヅツ使ワレ、其ノ下知ヲ爲セル奉役村下知人肝煎マデ一日ニ一升飯米受ケシメ、人數二百人ニモ飯米二石、十日ニテ二十石ナリ、是ノ如クニ爲サシメタマワバ、內海ノ濱アル村村ノ干出ヨリ、村里ノナキ谷々ノ濱ノ干出マデ、開田ト成ルベキ所ハ段々ニ開田ト成ルベシ、田畠ノ增シケルニテナキニ、浮利ヲ以テ士員祿數ヲ增シタマフハ、永久ノ謀ゴトニアラズ、議論スル人アレドモ其ノ中ニ重キ差別アルベシ、士員ハ增サズ祿數ノミ增シタルハ、祿ノ出方ノ甚ハダ足ラザルニ至リテ、祿ヲ減ラサレテモ事濟ムベケレドモ、士員祿數ノ共ニ增シタルハ、祿ノ出方ノ甚ハダ足ラザルニ至リ、祿ヲ減ラサレタルバカリニテハ事濟マズ、國君家中ノ大患ト成レル時アルベシ

問フ、士員ノ增サヾル道ハ如何ニシ給ヒテ宜シカルベキ事ナランカ、曰ク、祿米ノ出方ト年貢ノ入方ト不相應ニ成リ居ケルモ、其時迄ノ士員ヲ少シモ減ラシ給フベキ道理ハ決シテ無キ事ナレバ、只其時ヨリ後ニ士員ヲ增シ給ハザルベキ事ナリ、今時ノ例ニ士ノ實子ナク、同姓ニ養子トスベキ者ナキハ、他姓ノ士ノ次男ノ人柄ノ好キヲ養子トシ、上ヨリ實父養父ノ願ヒ上ゲ通リニ許シタマフ事アリ、然レ

パ藝能アリテモ人柄ノ好カラヌハ格別ノ事ニテ、同ジ程ノ人柄ナラバ、藝能アル者ヲ養子ニセヨト命ジタマヒ、國用ニ立ツ者ヲ養子ニスル所ヲ上ノ爲メト思召サルヽトテ、其養父ニ米穀ニテモ金銀ニテモ相應ニ賜ルベキ事ナリ、是ノ如クシ給ハバ、士員ハ增サズシテ國用ニ立ツ藝能アル者ヲ召シ使ワルル事成ルベシ、國用ニ立ツベキ藝能アルトテ、士ノ次男ニテモ庶人ノ子ニテモ新タニ召シ出ダサレ、家業ト名付ケラレ士員ノ增シニ成サルヽ共、其家業ノ人ノ子ノ父ニ劣ラヌハ希レニシテ、多クハ父ニ劣リ、父ノ程ニハ勤メ得ズ、然レバトテ段々ニ藝能アル者ヲ召出ダサルヽニ成ラバ、士員ノ增ス事止マザルベシ、士ノ次男ノ人柄ノ勝レタルハ、或ヒハ同姓ノ中ニテ實子ナキ士ノ養子ト成リ、或ハ實子ナク、同姓ノ中ニ養子トスベキ者モナキ士ノ養子ト成レル故、新タニ士員ヲ增シ給ハズシテモ、人柄ノ勝レタル次男ノ士ニ成ラザルハアルマジ、新タニ士員ヲ增給ハズシテ叶ワザルハ、其人ヲシテ本姓ヲ稱セシメタマフベキ時ノ事ナルユヘ、其ノ□ヘニハ干出開田ヲ當テフベキ事ナラン

問フ、干出開田ヲ何レノ所ハ如何カスベキト思ヒ寄レル事アリヤ、曰ク、鄕村ノ濱邊干出ノ中ニテ、其ノ所ノ樣子ヲ見覺ヘ聞キ覺ヘタルハ、吉田ノ濱ノ干出ト、雞知ノ檜濱ノ干出ナリ、吉田ノ浦ニ夷島ト云フ島アリテ、川口ヨリ流レ出ヅル土沙ノ彼ノ島ノ内ニ積レルニテ、干出デ殊ニ高シ、此ノ處ニ開田スルニハ、島ノ北ノ端ヨリ島ノ西ニ當レル山岸ニ橛ヲ打チ通スベキ事ナリ、南ノ方ハ島ノ南ノ端ヨリ東南ニ當リ、村人兩人ノ開田アル間ダニ差シ出デタル山岸アル所ニ橛ヲ打チ通スベキ事ナレドモ、先

ヅ今ノ干出ノ地高キ所ヲ開田ニスルナラバ、島ノ南ノ端ヨリ川口ノ西南十間ホドノ所ニ當テ樴ヲ打チ通シ、大抵ノ雨水ニテモ川口ノ西北ニ水ノ行ク事少ク、常ノ水バカリ川口ノ西南ニ流ルヽ樣ニ爲シ置キ、島ノ東ヨリ島ノ北マデ、殘ラズ開田ニ成リタル後ニハ、川口ノ西北十間ホドノ所ノ岸ヨリ西南ニ當テ、二三十間ホドノ土手ヲ築キ、土手ノ根ニハ樴ヲ入レ、洪水ノ時ニ川口ヨリ流レ出ヅル水當リヲ防ギ、川口ノ西南ニ土沙ノ流レ出ヅル樣ニシ、島ノ南ノ端ヨリ島ノ東南ノ山岸ニ樴ヲ打チ通シ、其ノ內ヲ開田トモ爲スベキ事ナリ、雞知ノ檜濱ハ干出ノ內ニテノ北ノ方ニ、姥ガ島ト云フ小島アリテ、其ノ小島ノ近所ニ兩方ノ山岸ノ間ダ殊ニ狹キ所アリ、其ノ所ニ樴ヲ打ツベキ事ナリ、何レノ干出ニテモ、常ニハ一通リノ水筋アリテ、洪水ノ一面ニ推シ通ル時モ、常ノ水筋ノ所ハ水勢ノ强キユヘ、土沙ノ積ル事少ナキト見ヘ、所ニ依リテ其ノ水筋ニハ水石ノミアリテ、土沙ノナキ所モアルベシ、土沙ナクテハ樴ヲ打ツベキ樣モナカルベキユヘ、土沙ナキ水筋ノ所ニハ、磯邊ノ石ヲ潮干ノ時ニ舟ニ載セ置キ、潮滿ノ時ニ彼ノ土沙ナクシテ樴ノ打タレヌ所ニ舟ヲ行リ、高サ二三尺橫幅ノ上ヘ三四尺ニ成ルホドニ石ヲ入レ、石ノ高サニ土沙ノ積リタル時ニ樴ヲ打チ、樴ノ內ニハ何レノ所モ葦ヲ種フベキ事ナリ、潮滿ニ舟ノ往來シ來レル遠干ニテモ、干切レノ所ニ三尺ノ樴ヲ二尺打チ入レ一尺出ダシ、葦ノ高ク茂リテ障ワルナラバ、舟ノ通ル筋バカリ二三間カ三四間ホド、葦ノ莖ヲ折リ〱見計ラヒ切リ置クベキ事ナリ、土沙ヲ高ク積ラセントスル所ニ葦ヲ種フル事ハ、佐須鄕奉役齋藤氏ノ久根ノ濱ノ干出開田ノ中

ノ地ノ卑キ所ニ爲セル事ナルヲ、近キ比ロ始テ聞キタリ、是ハ干出開田ニ大益アルベキ事也、吾曾テ土穀談ヲ撰ビシ時ハ、其事ヲ知ラザリシ故、干出ノ限ノ所ニ寒氣ノ節ニ橛ヲ打チ、其橛ノ頭ノ一尺程出デタルガ、埋ルベキト見ユル年ノ冬ハ、初ノ橛ヨリ一尺程引取、初ノ樣ニ橛ヲ打ツベキ事ト記シ置キタリ、葦ヲ種ル事ヲ聞キタル上ニテ勘ルニ、初度ニ橛ヲ打タル後ハ、重テ橛ヲ打ツニ及ブマジ、大抵ニ地ノ上リテ未ダ全タク上ラズ、少シ卑キト見ヘタル所ニ葦ヲ種フルハ、橛ノ助ナクテモ育ツベケレドモ、干出ノ限ノ所ニ種ヘテ、根ノ未ダ在附カズ固クナラザル前ニ洪水アラバ、根ト共ニ洗ヒ流ス事モアルベキ故、三尺ノ橛ヲ二尺打チ入レ、其ノ內ニ葦ヲ種ヘ、根ノ助ケニ橛ヲ用ヒバ正月二月ノ時分ニ種ヘタルモ、夏秋ノ洪水ニ洗ヒ流ス事アルマジ、根ノ在附キタラバ、橛ノ腐テモ害ナカラン、開田ノ成レル上ヘニテ、非常ノ高潮ノ開田ノ內ニ入ルヲ防グ爲ニ相應ノ土手ヲ築キ、非常ノ洪水ノ開田ノ內ニ滿ルヲ出ス爲ニ、土手ノ水門ヲ設ケ、常ニハ水ノ流ル事ナクシテ雨水ノミ通ル所ハ、相應ノ溝ヲ掘リ置クベキ事也、是ノ如キノ類ノ事ハ、鄉村ノ人ノ開田セシ面々ニ、其ノ爲セシ次第ヲ云ワシメ聞カルヽナラバ、法ニ爲ル事多カルベシ、府中ノ人ノ鄉村ノ濱ニ干出開田ノ普請ヲ爲セシヲ見ルニ、干出ノ中ニテ土沙ノ殊ニ高キ所ヲ早ク作處ニセントテ、土手ヲ築キ潮ヲ防グハ、土手ニ蟹穴ノ出來ルニテ潮ヲ防ギ得ズ、作處ニセントスル所ニ卑ク川筋ヲ立ツルハ、洪水ニ流レ下ル土沙モ、干出ノ內ニハ積ラズシテ、干出ノ外ノ浦ニ積ル也、土沙ノ積ル用ニ土手ヲ築クハ、大抵ノ洪水ニハ土沙ノ積テモ、

大抵ニ勝タル洪水ノ時ニ土手ヲ破リ、其筋ニ積リ居ケル土沙ヲ洗ヒ流シ、普請ノ止ム事ナク、財用ノ足ラザルニテ、普請ヲ止ムルニ成リ、財用ノ足レルモ、其成就スマジキヲ見テ、普請ヲ止ムルニ成レリ、是ノ如クナルハ速カニ成ラン事ヲ求ムル故ナラン、郷村ノ人ノ開田ニ成就シタル所ノ多キハ、十年二十年三十年ヲ經テ成就シタルナリ、府中ニテ疎カナル人ハ、郷村ノ人ノ開田ノ成就シタル所ノ多キヲ見聞キナガラ、是州ノ開田ハ入目ノ損ニナル迄也ト云ヒ觸ラシ、其ノ僞セル誤リハ云ワズシテ、干出ノ所ノ惡シキ樣ニ云ヒ成セリ、以前ヨリ府中ノ人ノ開田ノ普請ヲ爲シ掛ケテ捨テ置タル所ニ、開田ト成ルマジキ所ハ無カラン、地ノ卑カラザル所ニ土手ヲ築キ石垣ヲ築キタルハ、取リ崩シテ其所ニ幾ク所モ取立テ置キ、干出ノ限ノ所ニ橛ヲ打チ葦ヲ種ヘ、地續キノ方ノ段々ト地ノ上リタル分ニ川筋ヲ定ムルニ、彼ノ取立テ置キタル石ヲ川岸ノ地關ニ用フベキ事也、開田ノ事ノ始ニハ、先ヅ郷村ノ人ノ開田ヲ成就セシメタル面々ノ農隙ノ時ニ、郡奉行所ニ召シ寄セラレ、其爲シケル事ヲ一々ニ云ワシメラレ、法ト爲ルベキ事ハ少シノ儀ニテモ、書手ヲシテ記サセラレ、一冊ニ爲シ置カレ、其ノ上ニテ是州元祿ノ大繪圖ニ濱邊干出ノ所ハ色分ニテ知レ居ケルヲ一冊ニ寫サセラレ、其上ニテ三根ノ濱ノ干出ノ限ノ所ノ岸ヨリ岸迄ノ間數ヲ極メサセラレ、其間ダニ橛ヲ打チ通スニ、橛ト橛トノ間ヲ五寸ヅツニシテ、橛數如何ホド、橛ヲ伐リ出ダシ運寄セ打チ入ルル手間ノ人數如何ホド、干出ノ中ノ水筋ノ彼ノ橛筋ニ當レル所ノ土沙ナクシテ、橛ノ打タレヌ所ニ磯邊ノ石ヲ潮干ニ舟ニ載セ、潮滿ニ漕ギ廻シ、高

サ二三尺横三四尺ニ成ル迄、投ゲ入ル手間ノ人數如何程、葦ノ生ジ居ケル所ニテ、葦ヲ潮干ニ掘リ舟ニ積ミ、潮滿ニ槪筋ノ所ニ漕ギ廻シ置キ、潮干ニ槪筋ノ內ニ、槪ニ近付ケテ種フル手間ノ人數如何程ト、三根鄕奉役村下知人ニ積ラセ、一帳ニ記シ差シ出ダサセラレ、郡支配。郡奉行吟味ノ上ヘニテ書付ヲ調ヘラレ、三根ノ濱ノ干出ノ限ノ所ニテ普請ヲ始メサセラレ、下知ノ役人ハ三根鄕ノ奉役村下知人肝煎當テラレ、譬バ下知ノ役人二十人普請夫合八十人ナレバ、十日ニテ飯米二十石也、三根ノ干出ノ槪打チ葦種ヘ等ノ普請ノ夫數ト、下知ノ役人ノ數トヲ合セ、譬ヘバ人數千人日數五日ニテ濟ミタラバ、兼テ仁田ノ濱ノ干出ノ限ノ所ノ普請ノ積リヲモ、三根ノ格ニ記サセ置カレ、殘リ千人ノ夫飯米ニモ仁田ノ干出ノ所ノ普請ヲナサシメラレ、若シ其年ノ三根ノ普請人數二千人、日數十日飯米二十石ニテ事濟マズ、人數三千人日數十五日飯米三十石ニテ事濟ミタラバ、翌年正月ノ普請ヲ初年ノ天高ニテ勘ヘ知槪筋ノ狹クシテ人數千人日數五日ニテ濟ムベキ所ノ普請ヲ爲サシメラレ、一箇年ニ二十石ノ夫飯米ノ數ヲ合セラルベキ事也、近キ比佐護ノ百姓ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、葦ノ茂ル事土沙ノ積ル益ニハ成レドモ、其ノ所ヲ開田トスルニ至テハ、其葦ヲ掘リ除クニ甚ダ手間入リ、掘リ除ケタル跡ハ地卑ク成ルユヘ、地ヲ高クセントテ、元ヨリ葦ノ無キ所ニ葦ヲ種フルハ好カラヌ事也ト云ヘル由語レリ、昔年基肆養父ノ百姓ノ伊奈鄕田濱村ニ流人ト爲リシ者ノ、田濱ノ田ノ續キニ葦原アルヲ見テ、此ノ事原ヲ田ニ開キ添ユベキ事也ト云ヘルニ、其ノ處ノ百姓甚ダ嘲ケリ、此葦ヲ掘リ除クル事何ニトシ

テ成ルベキゾト云ヒ、彼ノ流人ノ百姓ヨリ葦原ヲ請ヒ受ケ、枯レ葉ノ時ニ火ヲ放チテ焼キ、段々ト打チ返シテ殘ラズ田ト成シ田濱ノ田高增シニ成レルハ知レ居ケル事也、以前某肄養父ニテ庄屋ヲ勤メ、數年ノ間佐護ニ流人ト爲リ、近キ比赦シヲ蒙リテ歸レル者ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、佐護ノ田ハ思ノ外ニ好キ田ナリ、百姓ノ田ヲ作クル様子ト、其出來ノ分數トヲ勘ヘ合スルニ、作リ様ノ甚ダ疎カナルニ應ゼズ、出來ハ多キト云ヘル由語レリ、葦ノ事ヲ云フノ愚ナルモ、元ヨリ田作ニ疎ナル故、近隣ノ田濱ノ事ヲ聞キテモ、聞カザルガ如ク云傳ヘニモセザリシ故ナラン、郡支配ノ郡奉行ト共ニ心ヲ用ラレ、年々正月二十日宛ノ開キ普請以後迄ノ常例ト成、奉役下知人ノ外ニ府中ノ人ヲ普請奉行ニ用ラルル事決シテ無ク、希ニ新ニ士員ヲ增シ給ニ賜ル祿ハ、以前浮利ヲ以賜リシ格ヲ捨給、成リタケ內端ニ賜リ、開田ノ物成ハ常ニ少シ宛ニテモ、餘分ト見ユル様ニナシ給バ、新ニ出ル祿程ハ、開田ノ物成ニテ濟ムベシ、其愼ミ少ニテモ怠タリタマワバ、新タニ出ヅル祿カナラズ開田ノ物成ヨリ多ク成ルベシ、惣體ノ出入ノ不相應ニ成レルモ、初メハ出方ノ過グル事少シバカリナレドモ、其ノ少シヅツノ過グル事多年ヲ重ヌル所ヨリ、出方ノ增シ甚シキニ至ルナリ、君子ノ始メヲ愼シミタマフ事宜ナルカナ

水利問答 終

告新錄

告新録

元祿十二年己卯に某を郡奉行に命じ給ひ、寳永五年戊子に交替し、正德二年壬辰に至りて郡奉行所當役の衆中より、鄕村の事を覺書にて某に尋られ、其返答の覺書六十二箇條にて二卷也、寳永三年丙戌に郡奉行の役より旅人吟味役を兼しめ給ひ、寳永六年己丑に交替し、正德二年に至りて旅人吟味役所の衆中に當て、八ヶ條の覺書を著はし置たり、是は吟味役所より某に尋らるゝ事有る時の備にて、吟味役所に遣はしたるにてはなし、右兩樣の覺書の外題を口上覺書と名付け置けるに、旅人吟味役衆に當てし覺書の外題は、後に告新録と改めたり、享保八年癸卯に至りて此告新録を著はし、鄕村の事の彼の正德二年の覺書にも記す、其後に著はせし土穀談、老農類語、刈麥談、水利問答にも記さゞりし事を記置き、郡奉行所より彼の二卷の覺書と、四部の書策の外の事を尋らるゝ時の備へとし、亦以て以後の郡奉行の考に備へ、國恩の重きを忘ざる寸心を用ひて、老年微少の氣力を此事に盡也

朝鮮に往來する大船の水夫の足しを鄕村より出せるは、海邊の村々の百姓の次男名子なるゆへ、元より水夫の業を爲せる者にてなく、役に當りて勤る也、其故に鄕村より出る水夫の上水夫となる事なく、上水夫は府中の者の自身より好みて水夫の業をなせる者の中に有りけると見へたり、船一艘に拾五六人乘れる水夫にても、風波の强き時に並水夫に勝れたる働らきを爲し、無事に浦津まで乘り取る

事を得せしむる上水夫は四五人なりと云ふ、其德あれば其病あるの道理にて、水夫の强き風波をも恐れざるは、禁を犯す事も恐れずして、白銀を持ち行き人參を持ち來り、關所にて見出さるれば、籠舍の上にて士の奴となり、段々と是の如くなるにて、上水夫は漸々に減り、新に水夫となれる中より上水夫の出來は、禁を犯し奴となりて上水夫減ずる數に及ばず、上水夫の減ずるは朝鮮に往來する諸人の爲に危き事也、百姓なくては田畠ありても穀物を生ぜざる故、百姓の次男を他の事に使はるゝにも、父兄の農業に障はれる所の輕重の樣子を精しく僉議せしめ給ひ、已事を得られざる所より使はるるも、其障の重さは決して使はる間敷事也、鄕村より水夫公役に出るは、只櫓を押す事と荷物を船に載せ、船より上ぐる事を大抵になし得る者を出だし、父兄の農業を助くる事の人並に勝り、子なき百姓の竈の潰れたる跡をも繼ぐべき次男名子等は、水夫公役に出す事なきと云ふなれば、是誠に當然の儀ならん、此事を論ずる一說に、以後に至らば百姓の次男名子の强健なる者をも、水夫公役に出さしめらるゝ樣に成行くべしと云ふ說あり、若其の如くに成行時あらば、郡支配、郡奉行の罪戾と成る而已ならず、國君の大に政道を誤まり給ふに落着し、其外にも是に類する事あるべし、凶年の時節の到來せずしては、是の如き事決してあるまじ、然るに是の如く成行くべしと論ずるは勿體なき事也、上水夫の減らずして增べき道は別に有るべし、關所にて白銀人參を見出せる時に、分量の多少に依らず總て拾物にもせよと命じ給ひ、白銀人參を見出せる役人には、見出しの分量の三分一を賜はり、人參は

定直段の三分一を賜はるべしと命じ給はゞ、禁を犯す白銀人參を見出されざる事、其以前よりは大に減ずべし、關所の役人の中に若貪ぼれる人ありて、禁をす犯す者より賴まれ銀を受けて見逃すも、其白銀人參の多少に應じて銀を受け見逃すにてあらん、見出しの三分一を賜はるに成らば、三分一を少々とし犯人より銀を受見逃がす事はあるまじ、物體の役人の貪ぼりなきは、見出して三分一を受る事を恥づべけれども、命令の詞に段々と使ひ給へる關所の役人の中に貪りて物を取る所より、禁を犯す白銀人參を見逃す事決して有るまじきとは思ひ給はず、誰は是の如き者ならんと見分け給ふ事は成らざる故、白銀人參の見出しの三分一を賜はる事を惣中に命じ給ふなれば、關所の法の爲に惣中一同に是の命令に從ひ、見出しの三分一を受けよと諭し賜はんに、辭する人は有るまじ、役人の見逃しする中に、物を取る所より見逃すは希なるべけれども、見出して案内におよび、或は流人と成らしめ、或は奴と成らしむる事を難儀におもひ、相識れる人と親しき人に若禁を犯すも有る時は、見出して案内に及ぶ事を猶以難儀に思ひ、其所よりの見逃は、貪ぼれる役人の見逃よりも多からん、若し同役の中に見逃がしする人有るを見付けても、役頭に申し案内に及ばゞ、其人を重く罸し給はん事を難儀におもひ、是又見逃して役頭に申さゞるもあらん、然ば禁を犯し白銀を持ち行き、人參を持ち來るを見出せるは、總て拾物にし取上げよと命じ給ふ事、禁を犯す者の少なく成るの便ある法ならん、禁を犯すに分量の少なきは、隱し安くして見出し難く、分量の多きは、隱し難くして見出し易き道理なれば、分量の

多きを度々に取り上げらるゝに成りては、分量の少くして見出だされざる分のみ禁を犯す水夫の利となるべし、關所の檢分の如何程精詳なるとも、見落しは有るべしと云なれば、其見落を上水夫の減らざる益となし置給ふべき事ならん、上水夫の人參を持來る事多くして、或は見出されず、或は見逃されたる中には、其利の商買の基と爲して、水夫の業を止むるも有りと云、然れば分量の多き人參を見出さるゝ事以前よりは增し、分量の少なき人參を見出さゞる事のみ以前よりの如くならば、禁を犯しても大利を難得、水夫を止め商買人に成る者は甚希ならん、禁を犯して大利を得たる水夫にてなきに、小利を得て水夫を止め、他の働きを爲すものは希にもありがたからん、白銀の異國に渡る事を公儀より禁じ給へるならば、何れの道よりなりとも、末々の者の私に朝鮮に持ち渡りたる白銀の分量の減ずる樣に下知し賜ふべき事ならん、分量の少なき白銀を持ち往き、見出されざる事の間々にあるは、國家の政道に害ありと云ふ程の事にあらじ、上水夫の增す事ありて減る事なく、州中の人の朝鮮に往來するに凌ぎがたき風波の難をも、上水夫の働の力にて凌ぎ得るにならば、人に益ありと云べき程の事ならん、海國の君の國用の足らずして簡略を用ひ賜ふにも、諸般の僉議にて、船の事と船具の事と船頭水夫の事には曾て簡略を用ひざると聞、是誠に是の如くなるべき儀也、凡賤民の勝れて强健なるは、利を得る働らきの中にて利の多少を擇らび、利の多きを取り利の少なきを捨つるなれば、朝鮮往來の水夫の賃銀を別して增し與へらるゝとも、人參を買ひ來る利なくば、强健なる者の水夫と成

る事を好む事希ならん、強健なる者の水夫と爲る事を好む程に、殊に賃銀を増し與へらるゝ事は成り難き所もあらん、水夫と爲る事を好ざる者を下知を以水夫となす事は、町奉行、船奉行の力にも及び難き所あらん、郡水夫の出る事は郡奉行所よりの下知なれば、水夫の僉議はいつとても郡奉行をも加へ賜ふにてあるべし、是によりて以前郡奉行たりし時に思ひ付けず、其後に思付けし所を以後の郡奉行の、水夫の僉議に加はれる時の考への爲めに是の如く記し置なり、三根郷の田畠の事を精しく知りし老人の語れるは、三根川の中に岡の川と云所あり、其川端に六十年前迄は、長さ五十間程横五六間程の森あり、村人其森を伐り拂ひ畠となし、以前森木の根の川端の土を堅め置しを掘り浮しけるにて、洪水の時に彼の森林の跡の畠の水損する而已ならず、其の畠の下た手の畠まで段々に水損し、度々土手を築かしめられても、洪水の時の害を防ぎ得ず、近年に至り川端を去り土手を築きける故、水當り緩く成り、洪水の害を防ぎ得たり、昔の人も畠に成るべき平地を畠にせず、森林を立て置くべき樣はなけれども、彼の岡の川と謂所は、洪水の時の水當り強き所なる事を見知り、森林を立て川端の土地を堅くし置けるならん、其後の人は其道理を辨へず、僅か一段ほどの畠を開くとて、其下た手の畠まで度々水損せしめ、水損を防ぐ土手を築くとて度々人夫を使ひ、利を得ざるのみならず害を招きけるなれば、奉役村下知人の心得有るべき事なりと語れり、近年彼所の土手を築くに川端と間を置きしは、勘辨ある仕方なりと見へたり、然れども昔彼の所を森になし置きて、村の近邊に一段程の平地ありし

は、村の用に立ちける事もありたるならん、多年の普請の上にて勘辨し、洪水の害を防ぎ得たるも、昔其所の森に成り居ける時には及ぶまじ、事を起すは後日の利害の輕重を初に能く僉議し吟味して、害の輕く利の重きに極まれると見へたる事をのみ起すべき道理なれば、田畠を開く普請も川普請も、其の鄕の奉役の心に任せず、其事を起さゞる前に、其仕形を精しく郡奉行所に申さしめられ、八鄕の奉役村下知人例格の勤に上府せし時に僉議せしめ、吟味を極めし後に普請を爲さしめらるべき事也、然れども是の如く云ふにも又其害を含めり、奉役より農隙に百姓を使ひ普請すべしとて、其仕形を申出し時に、或は奉役村下知人の僉議の一樣になく、決し難き所有りとて其普請を延引せしめ、早く普請すれば害を除き利を興すべき普請を、早く爲さしめずして害を增し利を失ひ、或は其普請の事を申出てし奉役のいへる、普請の仕形の宜しきを用ひず、他の奉役村下知人の内に郡奉行に信ぜらるゝ人ありて、其人の利發立てにて宜しからぬ仕形を宜敷きといへるを用ひ、普請の事を申出して奉役の心を屈せしめ、或は郡奉行の差圖に及ぶまじき普請の事迄一々に聞て差圖し、僉議に及ぶまじき普請の事まで每度僉議せしめて、差當りたる普請を妨げ、其外にも是の如き類の事あらば、其害却て普請を奉役に任せむよりも甚しき事もあらん、凡郡奉行より鄕村の事を正だすに、假令和漢古來の明君賢相の訓へ置き賜ひ、戒しめ置き給ふ道理を用ひて正だすとも、其郡奉行の愼しみ薄く辨へ粗らくば、鄕村百姓の害になる事多からん、是の如くならんとて事を正だす事を爲さず、在り來りの儘にて置くならば、

惣體の事も其釣合に成り、郡奉行所の手代役の中にも、鄕村の奉役村下知人の中にも、自由を爲す人ありて百姓の害に成る事多からん、兎にも角にも愼しみの薄く辨への粗くして、誤まりの少き事はあるまじ、某郡奉行を勤めし時の誤まりを交代の後に聞き知り、思ひ當たりし事勝て數へがたく、自己の誤まりを悔ゆる所より後の郡奉行の爲を思ひ、是の如く記し置也

昔郡奉行を勤めし人の某に語れるは、吾郡奉行たりし時に、天道地を開かしめし所あり、凡村の近邊に平らか成る空地ありて村の用に立つべき所は、古人僉議して空地と成し置き、後に誤まりても作所に開く事のなき爲に、天道地と名付け置きしと見へたり、始め其道理を辨へず、天道地を開かしめし所ありたるは、吾が誤也と語れり、某其云へる所を聞き居ける故、郡奉行たりし時に、其類の誤りは爲さゞりけるかと覺たり、凡鄕村の人の土地を開き作所を增す事を好むはあれども、有り來れる所の耕作を精しくする事を好むは甚希なりと見へたり、土地を開き作所を增す事、假令唯今の作所に半倍すると も、其增したる作所の地位は、元より作所と成り居ける所の地位には及間舗故、穀物の出來は唯今の出來の半倍までは增さゞるにてあらん、作所は唯今までの分なりとも、耕作の仕形の大抵にも精しくなれるならば、穀物の出來增し必ず以前に半倍すべし、若し彌精しくならば、出來增半倍などと云ふ事にてはあるまじ、此道理は郡奉行奉役の深く勘辨すべき所也、干出開田は爲すべきの事なれども、爲し樣の宜しからざるは、洪水の時に民戸、土田、船場をも害ふ事あらん、最初に勘辨すべ

き所也

佐須郷の奉役齋藤四郎治に某請へるは、干出開田の事より惣體の地利の事に至るまで、其爲し覺思付けし事を書述て示し賜らん事を請ふ、其後に四郎治より覺書一卷を送り來たせり、其條々を寫置く事左の如し

一 地の卑さく水の付く所に、地を上ぐる爲には葦蒲を栽ゆべし、二種ともに厚く生じ、莖も葉も能長ずるにて、土沙其所に積り易く、莖葉の腐つるも多きゆへ、地の上がる事早し、二種の中にて蒲は潮氣の强き所に生育しがたく、葦は潮氣の强き所をも嫌はず生育し易し、干出の地を上ぐる爲には、第一に葦を栽ゆべき事也

一 葦を栽へ付け土沙の積りて地の上りたる所を、田に開くには葦を刈り干して燒田打鍬にて打ち返やし、廻りの畛を常の畛より少し高く廣くして能く塗り、水を落し十二三日干し、畛も塊も能く干したる時に水を仕掛け、塊の見へざる程に水を深く包み置き、五七日過て草抓にて抓き碎けば、土のねばり少なきにて塊よく碎け、葦の根も多くは水に浮くゆへ、水の清みたる時に水を落せば、浮たる葦の根は水の落口に流れ寄り、取除くるに手間入り少なし、葦の根は鐵を忌むゆへ、右の如く鍬にて細かに打ち耕やせば、根の少し土中に殘りたるも再び生ずる事なし、是によりて地を上ぐる爲に葦を栽ふるには、根の連り續きたるを切れぬ樣に成たけ長く掘り取て栽る也、是の如くすれば生育する事早

し、根を短かく切りて栽へたるは生育する事をそし、右は久根濱の開田にて試み覺へし事也、蒲を栽る所は未開き明けず、試みざれども、葦の樣子に違へる事多くはあるまじきなり

一 潮氣も水氣もある所に、七島草を栽ふれば能く榮るなり、此草は農業全書に席草と記せるにて有るべきか、栽樣は藺に同じとあれども、栽へ付けにし置きても能く榮、夏秋兩度に刈り取り莚に作り、牛馬の綱にも、荷繩にも、草履にも作り藁よりは强し、土沙を積らせ地を上る爲には、葦蒲を栽るに如く物なけれども、田のなくして藁の不自由なる村の干潟の邊には、栽へ立つべき草也、某も四年以前に苗を求め得て栽へ付け置たり

一 潮入開田の地卑くして、洪水の時に水の聚まる所の內、土手と田の畛には苦蔞と謂ふ草を栽へ付けて宜し、栽樣は土手にても畛にても一尺程間を措き十本程宛取り、土手の內外にも、畛の內外にも、土手の頭にも間配りよくして栽へ付け置ては、二三年の間には根の張り續くにて土を能くからみ。水の聚る時に風强く川波の立てるに、土手も畛も損ぜず、年々に畛を塗るにも人手間の多く掛る事なし、此草も潮氣の强き所を嫌はざるなり

一 久根濱開田の水上み外構への土手に、八年以前四間口の龜甲を構へたり、龜甲の幅は土手の幅にして、高さは川水五分以上なる時に龜甲を越し、四分以下なる時は越さゞる樣にし、龜甲の內の根際より四間程の所に、長六間の蛇籠を作り横に置き石を納れ、蛇籠と龜甲の間を大きなる石と粗き石にて

詰め、石の合目に川菖蒲、苫蔞を栽へ付置けるゆへ、蛇籠の竹は損じても、草の根の張り續き石をからみけるにて石の動く事なく、洪水の時の濁水を受くるにて開田の地位段々と能くなり、卑き所にも土沙段々と積り、洪水の川に餘り土手を越しける時も、土手の內に水の早くまち居けるにて、越す水の勢ひ緩くして土手を破らず、少しの地捨りもなし、干出開田のある所により水越の龜甲を構ふべき事也、水越の龜甲を構るには、濱の土手の井樋口に念を入れ堅固にし置き、龜甲は水上の水の突當にてなき所に構ふべき事也

一 川筋水當り强き所の普請は、成たけ堅固なる石垣にし、根石を三四尺程掘り入れ、所により川床の高く成り居ける所は其れより深く、底地の堅きに當る程に掘り入れ、惣體の石を平にして入りに重る、石垣の根際に蛇籠を段々と繼ぎ合はせ石を入れ、其蛇籠に川菖蒲を大株に掘り間近く栽ゆれば、三四年の內に根の張り續き石をからむにて、蛇籠の竹は損じても根際の石は動かず、常に水氣の絕へざる石垣の根を堅くする爲には、類の無き能き栽へ物也、若蛇籠を作る事成り難きならば、石垣の根際より二尺四五寸程引き取り、三尺の並橛を一尺七八寸土中に打ち入れ、橛の頭を一尺二三寸出し柵を掛け、石垣と柵の間に石を籠み、川菖蒲を栽ゆるも宜し、常に水の掛らざる川岸には、小竹を成たけ大株に掘り間近く植へて宜し、三四年の內には根の能く張り續くにて水防ぎに成る也、高き川岸に小竹を植ゆるには、岸の中程より下に一筋にても岸の高さに應じ、堅く並橛を打ち柵を掛け、岸と柵

との間の石にて能く詰め、竹を植ゆる所の岸を掘り穿ち、岸に引き添て竹を植へ、洪水の時に根を洗はざる爲には、粗石を取り掛け竹を差挾さみて岸横に橛を二本深く打ち、堅葛にて竹の動かざる樣に結び付け置けば、四五年の內に岸の上にも下にも、竹の根の張り續くにて水當りを防ぎ、竹の根の張り續かぬ內に並橛と柵の腐ちたるは、段々に改め新にして宜し、川筋に小竹を植へ立つるは手間入少なく、水當の所にても植樣に念を入るれば根の張り續く事早し、小竹のなき村は川普請の樣に小竹を植へ置かずして叶はぬ事也、川岸に川柳を挿せば能く生育し、昔より鄕村の川普請に用ひ來たり、他方にても用ゆると聞けども、柳は根の少なく枝葉のみ榮ゆるもの成る故、洪水の時には枝葉の川中に垂れ入りたるを水にて揉み、根の動く所より岸も崩れ、水當りの防ぎには成りがたきと見へたり、水當りの强からぬ所に繁く挿し、年々に土際より伐り拂らひ、芽立ちのみ立て置かば少しの水防ぎには成るべし、他方にて川筋に柳を挿すは、土の性の强き所ならん、是州の鄕村にても眞土の性の强き所に挿したらば宜しかるべし、小石の交りてしまりなき所には益なきと見ゆる故、以前は挿したれども其の後は止めたり、川幅の相應より廣さは水の散り流るゝにて、水勢弱き所に土沙の積る事多く、次第に川床高く成る故、川幅は少し狹きと見ゆる程に極め、左右の川岸の普請を堅固にし、水涸の時に川底に顯はれたる石の、洪水の節に流るまじきと見ゆる分ばかりを左右の川岸の根に取り立て、川岸の上の惣並より卑き所にも上げ、段々と其の如くにすれば、少にても卑くなる川は水手普請なくて

も、土沙の流れ下りたるまで漸々に川深くなると見へたり、水の淀む所は格別の事にて、其外にも土沙の積りて川床の高くなれるは、川普請に怠惰ありても、川筋の定まらず段々と川幅の廣く成れる故也、水の淀みの所は土沙の積れると見へざる程に、怠惰なく水手普請をして宜しき也、手間入も少なし、惣じて川普請は當分の手間入少し增すとも成たけ堅固にし、町段の長くして一度に普請の成る間布所は、其の時に普請すべき分程に町段を減らし、普請する分は成たけ堅固にし、重て其所に手入なく、漸々と普請所の減る樣にして宜し、普請堅固ならずして洪水の時に其の所の破損すれば、初めの手間入無益と成る而已ならず、作所を損さすに至る故、川普請の堅固ならざるは鄕村の爲に宜からぬ事也、一說に言へる以前より鄕村の川普請に堅固なるはなけれども、今に川筋は立ち居ける也、洪水の時に川端の田畠水損し、高も漸々と土沙の積れるにて元の如く成る地面と成り、川筋の立ち變りたる所の古川も、多年の後は地面と成る故、川普請は大形にして濟べき事也、甚鋪洪水には如何程堅固なる普請にても、破るまじきとは極め難き故、川普請に夫手間を多く入るゝは畢竟無益の事也、普請を輕くして折々に水をあいしらいたるが宜鋪也と云へり、輕き普請にて宜鋪事もあるべけれども、某は未だ其道を心得ず

一 去年十二月郡奉行所より土穀談を借りて考へ見るに、鄕中に行ふべき事の數事有りけると思ふ也、其中に栗を植へ立つる事あり、某が居屋敷の後の山に自然生の栗四十本程ありけるより、近年栗子

を得る益を勘るに、木庭作の益には增しけると見へたり。栗は不熟の時に、強き風に逢ひても落ちかぬる故、穀物と其外の木實の風損する年も損分少なし、栗を植へ立て老木と成れる時に、其所を木庭に伐り明け耕作し、其跡を荒し置かば、伐株の根より芽の生じ出ると、栗子が落ちて自然に生ずるとの兩樣にて、以前の木數よりは多く成り、伐株の根より生じたるは早く長じ、重て植へ繼ぐに及ぶまじ、土穀談に記せる如く、栗は材木板に用ひて宜し、山々にある自然生の栗にて勘がゆるに、濱邊潮風の強く當る所と高山の嶺とを除きては、栗の生育せざる所はなく、近年猪荒れの止みたるなれば、奥山遠所に植へ立ても栗子を取るに障りなし、植へ立つる事別て其地を擇らゆるに及ばず、麥木庭、蕎麥木庭兩樣に伐り明け、麥木庭に植ゆるは、春に至り麥の中に植へ、蕎麥木庭に植ゆるは、蕎麥跡の辛子の中に植へ、目じるし杭を打立をきて跡作するならば、栗の生ひ立ちに臨時の草からめする手入におよばず、跡作の後に木庭の如く荒し立つるならば、雜木と相ひ共に生育すべき故木筋も好くして、以後老木と成れる時に、材木板に用ゆるにも宜しく、三四年の後に實のれるに至りて、相並びたる雜木を伐り除くるまでにて、始終の手入り少なく、植立ては易くして益は多き物也と近年勘がへ覺、去々年辛丑より某知行の山に植立ける故、鄉中に段々と植しむべしと思ひけれども、自心の考のみにて鄉中に勸め、屢々請持の木庭までも植立よと云ふ事は決しがたく、差當りたる利益を知りても、以後の利害を辨へざるゆへ、唯鄉中村々の下知役に語りしまで也、然る處に去冬土穀談を見て、

木庭作伐り掛の條と、栗植立の條に見へたる旨を勘がへ、利益分明也と決定し、早速に村廻りして士穀談に記せる旨と、某が近年栗子の益を得たる事と、栗植立ての次第とを一々に自ら百姓中に言ひ知らせ、村々にも希れには自然生の栗の利を少し宛得ける者あるにより、彼是勘へ合せ百姓中得心し、當年の秋に至りて種子を求め置き、來春より栫を立て段々と植しむるに極め置きたり、士穀談に櫧植立の事をも記せり、櫧の事は十年以前より同役に言ひ談じ、村々の木庭地に障らざる所に櫧木の生じ、以來銀山の炭木に伐り取らざる時に、蒔の實のりし山を吟味し、以前の伐り株の芽立ちて長じたるを段々に立てさせ、其以後に立ちたる櫧木鄕中相應と見へ、近年に至り櫧の實のれる山も多くなりけるにより、永久に相續すべき道を願ひ上げ、其通に仰せ付け置れし也

一　去年の秋八鄕に頒ち與へ給へる老農類語の中に、壹州にては片下りなる山畠の土の漸々と卑き方に下りたるを、三年に一度宛高き方に持ち上ぐると記せり、是州にても鄕村の片下りなる畠に取り用ふべき事也、是州の百姓の農作を粗くし來れる心にては、手間入りの儀にて決して成るまじき事と思ふべけれども、作物の能く出來る爲とて、養に成るべき品を遠方より取り聚むる心ならば、其畠の內の下手の土を三年に一度づつ、上は手に運び上ぐる事、人手の少なき百姓にても、其分に應じて必なし得べし、農業全書にて上方の農作の樣子を考がゆるに、惣じて畠物を作くるは揚畦を拵へ、畦幅は三四尺五六尺にも其餘にも拵らへ、地位の好きは廣く畦作りし、地位の惡しきは狹く畦作りし、其畦に竪

筋にても横筋にても筋を立て、畦種へにし、或は散らし蒔にもすると見へたり、是勝れたる良法也、揚畦にすれは溝となれる所の土は畦に揚がり、其分程畦の土の増になり、中畠は上畠の位に近か寄、土の厚く成れるにて、旱りにも作物の痛み輕く、畦の高きにて雨濕の滯もなく、草を取るにも苗を間引くにも、養をするにも、溝を立ち廻りて畦の上を踏む事なきゆへ土を踏み堅めず、彼是作物の出來の好くなる道理也、是州郷村の者も君主の參勤し給へる時の水夫と爲れると、君主の召れ給へる士衆の從者と爲れるにて、上方へ越し畦作の樣子を見及びて言へるは、溝と成れる所にて畠地の費多けれど、地面の廣き故費を嫌はざるといへる也、上方の農人は田の畛に栽物する程に地面を大切に思へるに、畠の費を嫌はず畦作りするにて、作物の爲に畦物の宜鋪事分明に知れたり、是州の郷村にても同じ手入れ養ひ、上畠一升蒔に出來る穀物は、下畠二升蒔にも出來かね、上農夫の一升蒔より取れる穀物を、下農夫は二升蒔三升蒔よりも取かぬる事を面々に知り居ながら、幸に宜しき爲し樣を見知り、農業全書を讀み聞せられ、聞知りても心を留る事なく、其宜しきに效はんと思ふ事なく、以前より爲し來れる宜しからぬ事を改めざるは、畢竟木庭作に手間入多く、田畠の手入れを精しくすべき樣なき故と見へたり、以來木庭作伐掛の法を行はれ、木庭作の手入りの減たる時に、片下りなる畠は壹州にて爲せる如くし、惣體の農作を上方にて爲せるに効へる樣に、農人中に頻に勸むべき事也、是州の郷村は山海に產する諸品の多く、臨時の働方あるにて凶年の食用を足し、木山の多きにて材木薪を取

るにも、田畠の養ひを爲すにも、牛馬を飼ひ育るにも便あり、是の如き事は他の州郡の内に是州に及ばぬ所もあるべし、他の土肥へ地廣き州郡も、凶年には百姓の竈を倒し、身を賣る事間々にありと聞く、是州は君主の百姓を憐れみ給ふ事の厚きと、山海に産する諸品の多きとの兩樣にて、凶年にも百姓の身賣る程の難儀はなし、以來農作を精しくし身持も好くならば、百姓の在附は他の州郡よりも全き所あるべき也

右八箇條は四郎治覺書の某に對せし文體なるを、記錄の文體に改めしまでにて、意旨は少しも增減せず、某が曾て書を著し鄕村の事を記せし中にて、右の覺書の意志に違へる所は某が覺書の旨を非とし、右の覺書の旨を是とするなり、曾て農業全書を考がへ約言を撰しけれども、畠作揚げ畦の事を見付ずして約言に精しく記さず、只溝の部に、畦作し筋を切ると記し、大溝の土をさらへ揚ると記しけるまで也、大溝と謂は揚畦の大溝なると見へたるに、揚畦の事を精しく記さゞるは甚だしき疎濶なる事を、此覺書を見て思ひ當れり。此覺書の條々は實に八鄕農政の軌範とも成るべき事ならん、前に鄕村普請の事を論じ、奉役に任せ置かる事、郡奉行より差圖あるとの兩樣を、何れ宜しかるべしとも決しがたきよし記し置たり、今四郎治の覺書を見て思へるに、奉役の心を盡す事是の如なるに至れるは、普請の事のみならず、農作の事より山林の事に至るまで、一切に其下知に任せ置かれ、折々に足輕目付を差下し、其下知の功の段々に成るを見屆させ聞屆け、毎度郡支配に申達した

るべき事ならん

先年雛知村の人の語れるは、雛知の流に府中の人の開田せし初には、開田と磯邊の田を流るゝ用筋を其儘に置けるゆへ、磯邊より開田の所に通ずる潮を、彼川筋の流水にて押し止めけるに、其後川筋を掘り替へ、開田と山岸の間を流るゝ様にしける故、磯邊の地底より開田に潮の通ずる事強くなれると語れり、比田仁位村の人の語れるは、昔年仁位の流に開田なされし地續耕作する程には、地のよからず潮に浸たりける所に、其年普請を爲さしめ給ひ、昔年より出來居ける潮筋の土手と溝との内に、溝を掘り土手を構へ、其内土手の内の溝には溪水を引き入れし故、外溝までは潮の通ずれども、内溝には水の入居けるにて潮を押し留め、今年より開田せしめ給ふと語れり、是先年雛知村の人の云へる道理に符合し、干出開田に用ひらるべき事なりと思ひ、是の如く記し置也、某が土穀論、水利開発に記せしは、干出の地の地續きの平地の高さに成れる分ばかり、段々と耕作すべき事なりと記しけれども、仁位の開田の如く内溝の水にて潮を防ぎ得る所ならば、大抵に地の上がりて潮溝に潮に浸さるゝをも開田となし、其上に齋藤四郎治の爲せし如く、五分以上の川水の開田の内に流れ入様に爲すならば、段々と地も上がるにてあらん、何事も商議衆議を聞きて其内を擇び用ゆべき事なり、比日琴村の人の語れるは、三年前に播州より來れる新艘の船頭の言しは、是州も近年孝行芋を植へらるゝと見へたり、吾が輩北國に行きし時に見けるに、孝行芋の根を種にする事はなし、八月の節の内に葉を三節目莖苑に切り、日當

てよく濕氣なき所に節を出ださず、南方の端ばかり出して栽へ雨覆ひし置けば、其節より根出來て寒中にも枯れず、翌年の二月に前以能く肥し置きたる苗地の所に移し栽れば、長ずる事早く、根を種とするに勝れると云し故、去年八月に試に其の如くしければ、船頭の云ひしに違事なしと語れり、此の事は孝行芋を栽ゆるに益ある事と思ひ、如是記し置く也

府中の士の佐治氏なるが、奉公の暇に居屋鋪の出畠に耕作し、鍛錬の上にて鄕村の農事を思ひ付け、某が鄕村農事の說を記す事を聞及び、比日[illegible]書を以某に告げて云へるは、是州鄕村の並百姓の宜しからぬ爲し來りを、宜しき方に改る事なきは知れ居ける事也、然ば農業を教へ導かるゝに其術あるべし、並百姓面々請け持の作所に耕作するを、其所々にて敎ゆる事は成り難からん、其の村の百姓請持の地の中より年貢地を引き分て出さしめ、年貢地に耕作する時に宜しき方を敎へ、其方の宜しきを爲し覺へて、面々の作り取りの地面の耕作をも、其の如くする樣に有度き事也といへり、某昔年より府中の人の鄕村の農事を論ずるを聞く事少なからず、しかれども佐治氏の云ふ所の如く、農を導くに益あるべき事を聞かず、是說にても用ひ樣の粗きならば、益にならざる而已ならず、必害に成るべけれども、用ひ樣の精しくして先づ二三年も一村に行はれ、宜しきに極まりたる上にて、八鄕村々に行なはるゝにならば、鄕村より府中までの益に成るべき事ならん、其下知を某が思へる次第の大略は、譬へば其の村の畠の高十五石蒔ならば、其の十分の二の三石蒔を、其村の畠の廣き所一ヶ所にて出ださ

しめ、年貢の大法は四分一なる故、十五石蒔の四分一を出ださしむべき事なれども、其の村の畠の內にての廣き所は、多くは地位の好き所なるべきゆへ、五分一を出さしめ、其にても受けがたく思ふべけれども、作り出しの麥のみ年貢に上納し、麥跡に作くる秋物は全く百姓の得分となるなれば、精しく論ぜる上にては受け難きと思ふ事あるまじ、其村の作人譬へば二十人ならば、彼三石蒔の年貢地を一斗五升蒔宛二十に分け、上農夫の農師ともなるべき者は一人半の分を受け、其次より中農夫までは一人の分を受け、下農夫は半人分を請け、農師の差圖の通を聞き用ひ、面々請け持の年貢地を耕作し、農師となれる上農夫は、自分請持の年貢地に耕作して村內の農夫に效はしめ、不精にて農師の差圖の如くせざる者には、年貢地を作らしめず、年貢地の外の請持の地に昔より掛り居ける年貢をのみ出さしめ、其者の取上げられたる年貢地は、農師の外の農人の中にて、勝れたると見ゆる者共に分け與へて作らしめ、其村の百姓請持の地の中より年貢地を分け出さしむるは、以前制禁なき時に村中の百姓云ひ合せ、村下知人肝煎の知れる迄にて、內證の地分を爲せし如くにして、村下知人肝煎と百姓と立合ひ、麥を蒔き終れる後に、先づ畑地の廣き所にて畠高の十分の二を分け出し置き、其外の畠は以前の格にして作人中に分け、其翌年麥跡の耕作より新に分けし通りに請持せ、耕も手入れも糞も取收めも先づ年貢地より事を始め、年貢地の事を濟めたる上にも、其外の請持の地の事を濟め、年貢地の出來は凶年の檢分の時の法の如く、歩例しにて極むる事を村下知人肝煎に爲さしめ、其々爲す所、或は奉役を

して検分せしめ、或は足軽目付をして検分せしめ、検分に及まじきと見へたる村下知人肝煎ならば、唯其年貢地の出来を書付にて申出しむるまでにし、年貢品の出来以前よりの品物出来高に増したる分の半分を作人中に與へ、凶年の食用の不足を足す備へとし、村小屋を早く立て、中を仕切り置き、半分には年貢の足しを入れ、半分には食用の足しを入れ、農師より年貢地に干鰯を用ひ度と思ふ時は、干鰯代銀の半分を凶年の年貢の足しを備置きし内より出だし、半分は凶年の食用の足しを備へ置し内より出だし、干鰯の外の養ひは面々より取賄へ、郷士の村地を作り來りし人の年貢地を作り、農師の差圖を受くる事を嫌へるは、年貢地を受けず其外の地のみを受け、其地に掛り居ける物成をのみ出だし、其物成も不精にて、年貢地を取り揚げられし者の請持の地の物成も、凶年の年貢の足しに加へ置き、田は田の多き村のみ右の格にて、田の少き村は元の儘にし置きて田作を教へしめ、此事の始初には村々にて爲し來れる農事の内の改むべき事を、郡奉行奉役に、村下知人の中の長功の人と、郷々の中にて殊に勝れたる老農と、其年の農事掛の役も郡奉行所に會し、農業全書、老農類語を考へ合せ、僉議を極めて條書とし、農師となれる者に渡し與へ、其通に教へ導かせらるべき事也、是の如き新規の事は記し置くも恐れあれども、能く行ひ得べき郡奉行ありて、一村にて二三年も試み、其後に八郷に行ひ、其格の定まれるにならば、永久に相續すべき良法ならんかと思へる所より如是記し置也、是は其大略なれば、委細の意味を後の郡奉行の勘辨せん事を望む也、右年貢地の事を某が記し置を、無用の説

なりと批判する人もあるべけれども、以前より凶年の捨たりを百姓に受けしめ給ひ、諸士の祿の其分程不足と見ゆるを、諸士の損分と爲し給はずして、常年の如くに受けしめ給ふは、朝鮮との交易の利分の内を凶年の捨たりの代りに當給ふ故なり、凶年の貧民に飢飯米を與給ふも、朝鮮との交易の利分の内より與賜ふなり、凶年に諸士常祿の足し、貧民飢餓の救ひを、外國との交易の利分にて濟め給ふ事、某が心には安堵なる事と思はず、是亦此事を記置く意旨の在る所也

某是州郷村の事を書述し次第は、此書の發端の條に記し置たり、郡奉行となり居けるにてもなきに、郷村の事を議し郷村の事に預り拘れる義あれば、府中の事をも湖所の事をも議し置きけり、是の如くなるは古來の人の書を著せるに先例ある事なれども、其れは賢智ある人の爲せる所にして、某が如き不肖の者の爲すべき事にあらざるに、自身の分を顧り見ざるの甚しきなり、罪を國家に得るとも辭すべき道理は少しもなし、某性質虛弱なるが、今年六十七歲にて精力の衰へ甚しく、此一卷を著はすに至りて殊に勞倦に堪へず、强て勉めて成就せり、此後は聞き得るとも記し得べからず、事を記す事是を以終りとする也、正徳二年に著せし書を、後に告新錄と名付けしに記し置きけるは、府中の人高八千餘人程なる時ならば、諸方の道路の成がたき勢の出來したるとも下知の道あるべし、府中の人高の甚多きならば、下知の屆かざる所あるべきよし記し置きたり、是は農政の大抵に行なはるゝに當て言し也

鄕村には農政の精しく行なはれて、府中には節儉を貴に尊び給はゞ、唯上方より下れる十年切年期滿の者の在附を禁じ給ひ、府中にて生れし人は、或は自身より思ひ立ち、或は父兄の思ひよりにて、上方地方に在附く者のみ是州を去り、去らざる者は其儘にし置き給ふとも、諸方の通路の成り難き時の下知の道を立て得給ふにてあるべし、戶數の減ずる法令の備はりて、農政の大抵に行なはるべき機もいまだ見へず、戶數を法令にて減じらるゝ事なくして、農政の精しく行なはれん事を國家の爲に深く願へども、其機もいまだ曾て見へず、農政の精しく行なはるべき機を見て死せん事、是某が老後の大願也

告新錄 終

甘藷說

甘藷説

甘藷ハ本草綱目ニ記ス名ナリ、農業全書ニ農政全書ヲ引キテ、蕃藷ト記シ、甘藷ノ名ヲ記サズ、然レドモ蕃藷ハ、即チ甘藷ナリト見ヘタリ、本草綱目ニ草木狀ヲ引キテ、甘藷ハ根モ葉モ芋ノ如シト記シ、農業全書ニ葉ハ菫ニ似タリト記セリ、土地ニ依リ長茄ノ種子ヲ種ヘテ圓茄ニ成リ、赤蕪菁ノ種子ヲ種ヘテ白蕪菁ニ成ルナレバ、形色ハ少シク異ナルコトアリトモ、氣味ノ異ナラズバ同物ナリト知ルベシ、甘藷ト名ヅクルハ、味ヲ以テ名ヅケ、蕃藷ト名ヅクルハ、其ノ始メ外國ニ生ジタル故ナラン、本草綱目ニ異物志ヲ引キテ、甘藷ハ交廣南方ヨリ出ルト記シ、農業全書ニ閩書ヲ引キテ、萬曆中ニ閩人コレヲ外國ヨリ得來ルト記シ、薩摩長州ニテハ琉球芋トモ云ヒ、赤芋トモ云フト記セリ、赤芋ト名ヅクルハ色ヲ以テ名ヅケ、琉球芋ト名ヅクルハ、長崎ニ種子ヲ薩摩ヨリ得來リ、薩摩ニ種子ヲ琉球ヨリ得來ル故ナラン、俗ニ孝行芋ト名ヅクルハ、昔貧家ノ孝子ノ山ニ行キケル時ニ、芋アルヲ見付ケ、掘リ取リ歸リテ種ヘ廣メケルユヘ、天ヨリ孝子ニ賜ヘル福ナリトテ、孝行芋ト名ヅクルト云ヘリ第一條

本草綱目ニ異物志ヲ引キテ、甘藷ハ二月ニ種ヘ、十月ニ收ム、根ノ形チ芋ニ似タリ、大ヒナル者ハ鵞卵ノ如ク、小サキナル者ハ鷄卵鴨卵ノ如シ、紫皮ヲ剝ギ去レバ、肌肉正白ナリ、南人コレヲ用ヒテ米穀ニ當テ果ニ當ツ、蒸シタルモ、炙リタルモ、香シクシテ美ナリ、初メテ收メヌル時ハ甚ハダ甜シ、久

シキヲ經テ風ヲ得レバ稍ヤク淡シト記シ。草木狀ヲ引キテ。甘藷ハ薯蕷ノ類ナリ。又芋ノ類ナリ。根ノ大ヒナル拳ノ如シ。[illegible]ニテ蒸シ煮テ食ス、薯蕷ト同ジ味ナリ、性ハ甚ハダ冷ナルニテナシ、珠厓ノ耕ヲ業トセザル者ハ、惟ダ此レヲ種ヘ、蒸シテ切リ曬シテ收メ、糧糗ニ充テ、薯糧ト名ヅク、海中ノ人ノ多ク壽ナルモ、五穀ヲ食セズシテ甘藷ヲ食スル故ナリト記シ、氣味ハ甘平ニシテ毒ナシ、主治ハ虛乏ヲ補ナヒ氣力ヲ益シ、脾胃ヲ健ヤカニシ、腎陰ヲ强クシ、薯蕷ト功ヲ同ジクスルト記セリ第二條

農業全書ニ農政全書ヲ引キテ、蕃薯ノ形チ山芋ニ似テ色ハ紫ナリ、皮ウスク內イサギヨク色白シ、味ワヒ山芋ヨリハ甘シ、果子ニモ成リ、種々ノ料理ニシテ宜シ、多ク作ノレバ民食ヲ足シ、久シク食スレバ命長ク、出來ノ多キニテ其ノ國ヲ賑ワシ、德ノ多クシテ損ノナキ物ナリ、根ハ地ニ依リテ大小長短アリ、蒸シテモ食シ、煮テモ食シ、生ニテモ食ス、淨ク洗ヒ細カニ切リ、精米ノ如クシテ蒸シ晒シ、貯ワヘ置キ飯ニスルユヘ、是レヲ藷糧ト云フト記セリ第三條

醫師香月氏ノ著ソセシ卷懷食鏡ニ。甘藷蕃藷ヲ二物ト爲シテ記セリ、此ノ物ノ名ハ藷ナリ。味ノ甘キヲ以テ甘藷ト謂ヒ、其ノ始メ中國ニ生ゼズ、外國ニ生ジタルヲ以テ蕃藷ト謂フ、本草綱目ニ甘藷ト記シ、農政全書ニ蕃藷ト記シタレドモ。細カニ切リテ蒸シ晒シタルハ、二書ニ同ジク藷根ト記セルナレバ、一物ナルコト明ラカナリ。是州ノ府中ニテノ說ニ、腫物アリ小瘡アル者ハ、藷ヲ食シテ害アリ、

蜜柑ト同時ニ食スレバ害アリト云ヘリ、右ノ說ハ他方ニテモ、是州ノ鄕村ニテモ、云ザルコトナリト聞ク、腫物小瘡ハ藷ニ限ラズ、禁ズル物アルナレバ、腫物小瘡アル人ハ藷ヲ食セズシテ可ナラン、蜜柑ト同時ニ食シテ害アリシト云フ說アラバ、同時ニ食セズシテ可ナラン第四條

是州ノ老農ノ云ヘルハ、藷ノ蔓ヲ種ユルニハ、早ク種ユルヲ第一ノ事トス、種子芋ヲ種ユル品ハ、冬ヨリ能ク耕ヤシ能ク養ナヒ、春ニ成リテモ耕ヤシ養ナヒ、種子芋ヲ種ヘタル後ニテモ養ナヒ、五六日モ雨フラザレバ、水糞ヲ灑ギ芽ヲ早ク出サシメ、蔓ヲ早ク延シメ、早麥ノ麥跡ヲ早ク耕ヤシテ蔓ヲ種ヘ、其ノ品ハ麥ヲ種ユル時ニ、馬糞ヲ多ク入レ、地ノ殊ニ和ラグ樣ニシテ宜シキト云ヘリ第五條

是州ノ老農ノ云ヘルハ、藷ノ蔓ノ種ユベキホドニ延タル時ハ、雨ヲ待ズシテ種ヘ、二三日ホド日暮ニ水ヲ灑ギテ宜シ、小雨ヲ待テモ小雨フラズ、雨フリテモ大雨ニテ、蔓ヲ種ユルコト成ラザレバ、時ニ後ルヽト云ヘリ、農業全書ニ藷ノ蔓ハ、旱ニ水ヲ汲ミ灑グ爲メニ、川池ニテモ井ニテモ、水ヲ汲ムベキ便リ好キ所ニ種ユベシト記セリ、大旱ノ時ニ手寄リノ水ヲ桶ニ汲ミ入レ、牛馬ニ負ヒ行キテ灑ギ活ホスハ、甚シキ手入リト云フホドノ事ニテハアルマジ、元ヨリ濕氣ヲ嫌フ物ナレバ、大旱ノ時バカリ七八日ニ一度ホドヅツ、葉ノ上ヘヨリ水ヲ灑グベキ事ナリ第六條

是州ノ老農ノ云ヘルハ、藷ハ土ノ油ヲ乾カスコト他ノ作物ヨリハ甚シキユヘ、藷ノ跡ニ作ル麥ハ出來スクナシ、干鰯ヲ麥ノ養ナヒニスレバ、藷ノ跡ニ作クル麥モ出來ノ劣ルコトナシト云ヘリ、手入レ養

ナヒ殊ニ精シケレバ、大抵ノ手入レ養ナヒニテ、穀物二石出來タル地ヨリ、三石モ出來ルト云フナレバ、畠三段ニ麥ヲ種ヘ來レル農人、三段ノ內ノ一段ニ藷ヲ種ヘ、二段ニ麥ヲ種ユルトモ、以前ノ三段ノ手入レ養ナヒヲ二段ニ用ユルナラバ、三段ノ出來ニモ劣ルマジキナリ第七條

是州ノ老農ノ云ヘルハ、藷ヲ取納タル時ニ、當時ノ食用ノ餘分ヲ洗ヒ、煮テ日ニ晒スコトヲ婦女ニ爲サシメ、鴉ノ犯スヲ兒童ニ逐ワセ、能ク乾キタルヲ俵ニ入レ、段々ニ其ノ如クシ、鼠ノ犯シ得ヌ物置所ニ積ミ置キ煮テ食シ、四月六月ニ日ニ當テ醭ヲ去レバ、暑月マデモ食スルト云ヘリ第八條

是州ノ鄉村ニテ藷ニ宜シキ土地ハ、多ク宜シカラヌハ希ナルト聞コヘ、與良鄉ノ內山村ハ、是州ニテ海ニ遠キ山村ノ第一ナル故カ、殊ニ藷ニ宜シカラヌト云フナリ、海邊ノ村ノ作所ノ中ニテモ、海ニ近キ作所ハ、寒氣輕ク暖氣ノ來ル事早クシテ、寒氣ノ來ル事晩ク、海ニ遠キ作所ハ、寒氣強ク暖氣ノ來ル事晩クシテ、寒氣ノ來ル事早カルベシ、是ノ類ノ考ガヘ年々ニ精シク成リ、種ヘ樣モ年々ニ精シク成ラバ、利益ノ及ブ所モ段々ト廣ク成ルベシ第九條

農業全書ニ農政全書ヲ引キテ、五穀ノ外ノ種ヘ物ニ、藷ニ及ブ物ナシ、昔藷ヲ未ダ作ラザル國ニ、種子ヲ求メテ廣ク作クリタルハ、其後ハ如何ナル重キ凶年ニテモ、飢饉ノ禍ナカリシト記セリ、五穀ハ諸菜ヨリ貴トケレドモ、功ハ只ダ人ヲ養ナフニアリ、藷ハ菜ノ類ナレドモ、常年ニ出來オホク凶年ニ損スクナクシテ、廣ク人々ヲ養ナフ功ハ、穀ニ勝レル所モアルナリ、藷ノ足リテ飢ヘザルハ、米ノ足

ラズシテ飢ヘタルニ勝ラン第十條、此ノ書ハ曾テ著ハシ置ケルヲ後ニ刪リ補ナフナリ

書甘藷說後

先年執事ヨリ町中ニ下知アリシハ、鄉村ノ者共ノ藷ヲ船ニ積來リテ賣ラントスルニ、藷ヲ買置キテ賣レル商賈人云合セテ下直ニ買ヒ、藷ヲ賣ル鄉村ノ者共ノ府中浦ノ滯留ヲ難儀ニ思ヒテ、捨賣リニスル事モアルト沙汰スルナレバ、其ノ如クナル事ノナキ樣ニ、町役ヨリ云聞カセヨト下知アリシヲ、末々ノ者共一同ニ議レルト聞及べリ。執事ノ下知ハ、鄉村ノ者共ニ藷ヲ種フルコトヲ勸メラレ、民食ヲ重ンゼラルヽ至意ナリト見ヘケルニ、其ノ至意ヲ信ズル者アル事ヲ聞カズ、郡代ヨリ鄉村ニ藷ヲ種フル下知アリシ中ニテ、藷ノ種子ノ乾キテ芽ノ出カネ、蔓ノ延カヌル時ニ水ヲ灑グ事ト、藷ノ蔓ヲ種フベキ時ニ、濕氣ナケレバ水ヲ灑ギテ種フル事ト、藷ノ蔓ヲ水ノ手寄リノ處ニ種ヘ、大旱ノ時ニ水ヲ灑グ事トハ、其ノ下知ノ未ダ行ワレズ、郡代ヨリ八鄉ノ中ノ一鄉ニ試ミニ下知アリシ木庭作停止ノ事ハ、山々ニ水氣ノ增シテ大旱ノ時ニモ藷ニ灑グ水ニ不足ナキ根本トナリ、物體ノ農政ノ大本ト成レル下知ナルニ、鄉村ノ諸人モ府中ノ諸人モ信ズルハ甚ダ希ニシテ、議リ惡ムハ甚ハダ多ク、木庭作停止ノ下知ノ行ワルマジキ勢ト見ヘタルヲ喜ビテ、イヨ／＼議レル由沙汰セリ、孟子ノ語ニ不仁者ハ與ニ言フ可

ケンヤ、其ノ危ウキヲ安シトシテ、其ノ蓄ワヒヲ利アリトシ、其ノ以テ亡ブル所ヲ楽シムト曰タマヘリ、以後ニ至リ諸國ニ凶年ノ續キテ、其ノ領ノ穀物ヲ他方ニ賣出サヌ時モ、府中ノ仕者ノ家々ハ、是州ト共肆養父ノ損毛ノ殘リノ年貢ニテ、飢饑ヲ免ガルヽ、ケレドモ、町中ノ諸人ト郷村ノ貧民ハ、何レノ穀物ニテ死亡ヲ免カルベキヤ、他國ニモ是州ニモ凶年ノ續クハ、百年二百年ノ中ニ無キ事モアラン。十年二十年ノ中ニ有ルベキモ量ラレズ、然ルニ盜ヲ捕ヘテ索ヲ綯フト云ヘル諺ノ旨ヲ思ワズ、譜代ノ民食ヲ重ンゼラルヽ、農政ヲ議リ惡ミ、其ノ下知ノ行ワルマジキ勢ト見ヘタルヲ喜ブハ。是レ其ノ危ウキヲ安シトシテ、其ノ蓄ワヒヲ利アリトシ、其ノ以テ亡ブル所ヲ楽シムナリ、不仁ナルコト憐レムベシ

甘藷説 終

民事紀聞

民事紀聞

享保癸卯の夏より御郡中に御支配御下知なされし事の御記錄を某に仰付られたるにて、御下知の御覺書を讀み、以前御郡役を勤めし外親の老人の著はせし數部の書の旨に考へ合せ、其上にて老人に問ひ、老人の答へし詞を書き記すこと左の如し

問ふ、木庭御下知につき仰付られたる山畠、段畠の事は、いかゞ心得べきか、云く、山畠、段畠のわかれは山のふもとの平らかなる所と、山のくぼみの平らかなる所と、山の高みの平らかなる所を作所にしたるを山畠といひ、山のかたさがりなる所に段をつけて、段の二段以上なるを段畠といふ、高みにある山畠は水やりの溝をほるにおよばず、くぼみにある山畠は、くぼみの上手左右三方に水やりの溝をほり、ふもとにある山畠は、山の方に水やりの溝をほり、段畠も上手左右に水やりの溝をほるべし、ふもとの平らかなるは、鄉村にていへる木庭の床なり、段畠の普請をするに、岸留にするほどの石ある所ならば、岸留につみさね、小さき石と苦土にて段の下地をこしらへ、そのうへにうは土のよきをしきならし、岸留にするほどの石のなき所ならば、橛木を長さ二尺にきり、三尺づつ間をおきて、内にも外にもかたむかぬ樣に打こみ、一尺はうへに出し、その橛の橫木にする木は六尺にきりてひきわたし、六尺の中ほどにて三四寸まはりの木ならば、七八本にて一尺の橛の頭の高さになる樣にし、本

と末とを一本はさみにちがへ、土のもるべき所には内より別の木を當て、土を引き掛け横木にひきつけて、又橛をうち横木を引わたし、段々そのごとくし、高さ四尺の土留ならば、橛を四通りに打ち、はじめにうちたる一番の橛の上手に二番の橛を打たず、一番の橛筋の三尺づつの間の眞中に二番の橛を打ち、三番の橛は一番の橛の上手に打ち、四番の橛は二番の橛の上手に打ち、六尺の横木三尺は橛の中にあたり、一尺五寸は橛の端に出て、その續きの横木の出たるにつきあふ様にし、一番の橛を打つに土あさくして一尺まではうちこまれぬならば、橛のかたむかぬつよみになるほどの石にて橛をはさみ、段畠岸留の橛筋の土の見ゆる所には、正月の末比むくげの枝を長さ一尺ほどづつにきり、間を七八寸づつおきてさし、小石のまじりゐてさゝれぬ所は、鐵の火ばしを深さ五六寸づつつきいれ、その穴にむくげの枝をさし根の土をおしつけおき、段畠の草を取る度ごとに、むくげの末の延び枝のしげりて作物にさはらぬ様にかりのくべし、段畠になるべき地形にて土もよき土なれども、四五寸よりしたは岩のつづきたると見ゆるならば、竪二間の土を下手一間にほりさげて段畠にし、上手の岩に段畠の土をしきかけず、小溝の様にしおき、上手の岩より雨水の流れくだるは、その溝より左右にながれ出る爲めに、その灌の中ほどをすこし淺く、左右をすこし深き様にすべき事ならん、すこしの高下もなくば、上手の岩よりながれおつる雨水の溝にあまり、段畠にながれいりてうは土をあらひとるにてあるべし、いづれの段畠も上手左右には水やりの溝をほり、石にてなき岸留にはむくげの枝をさすべ

し、段畠の上土をしくに、たとへば横幅一間長さ十間の段ならば、かたはし一間の所のうは土を、そのつゞきの所にほりのけおき、苦土にて段の下地をこしらへ、そのうへにかのほりのけおきたる土をしき、だん〳〵その如くするをよろしきといふ説あり、又一説には數段の段畠は下より、第一の段はうは土もにが土もほりまぜて段の下地をこしらへ、下より第二の段の上土をほりさげて第一の段のうは土にし、だん〳〵とそのごとく高みの一段は苦土ばかりにて段をこしらへ、そのうへに柴草をつみおき、二三年の後に至り柴草のくされてうは土の出來たる時に、耕作してよろしきといへり、兩様の中にて勝れるをもちゆべし、高みの一段の上手の嶮岨なる所に、うは土のよき土あらば、そのうは土を高みの一段のうは土にほりさぐる事もなるべし第一條

問ふ、麥取御下知諸作御下知の大意いかゞ心得べきか、曰く、麥取の事は御下知の御覺書に殊に精しく御書載なされたるなれば、八郷一同に御下知のごとくすべき事なるに、今年麥を長雨の前に取りをはりたる村々は、御郡中三分の一ほどにて、三分の二ほどは長雨に麥をくさらしたる事大分なりときく、御郡中三分二の作人の今年麥をくさらしたる總石高の實を聞くならば、皆人の耳を驚かすほどの石高なるべし、御下知を守らずして損したるといひ、後悔するといふ沙汰は希にも聞ず、奉役の下知のきびしかりしにて麥を早く取りける郷の百姓の、他郷の樣に麥をくさらさすよき下知なりしといふを聞くまでなり、あしき意地をたてゝ、損するうへにても、あしき意地をやめぬはあはれむべき事なり、

御國の郷村には干出の所ありても、他國の干出の樣なる廣き干出はなきなれば、干出開地の御下知たとひ十分に行なはるゝとも、郷村穀物の出來の增しは、農政の行なはれし石高の增しに、はなはだおとるべし、干出の開き普請を仰付らるゝには重き障りある事を、去年甲辰の冬に至りてはじめて知れり、御支配にその御吟味なされし故か、仁位の外の干出の開き普請は成さるまじきと仰渡されたり、開地には御年貢の增す御益ありて、農政の行なはれ穀物の出來增すには、御年貢の增す御益なけれども、國君の御爲と國中の爲になる實益は、御年貢の增ずしても穀物の出來增しの多きにあるべし、御國の郷村にて麥は一歩に五勺蒔といひ來れるは、ちらし蒔にする故なり、農書に麥種子の分量を、はだか麥は一段に四五升、稻麥は八九升、これ中分なりとしるせり、一段三百歩に九升なれば、三歩に九勺、一歩に三勺なり、一段に四五升とあつる時は、一歩に一勺五才ほどなり、何れの村にても其村の下知人肝煎の作所三歩づつにてこゝろみ、一歩は一尺の畦を六ッにし、一歩は二尺の畦を三ッにし、一歩は三尺の畦を二ッにし、種子は一歩に二勺五才づつまき、その二勺五才を知るは二合五勺を、はかりにてかけ、二合五勺の十分一の掛目を二勺五才としり、三樣の畦の底を藥研のごとくならぬ樣に底ひろくし、畦の底によくくされかはきたる馬糞をしき、十月上旬の晴天の日に種子に灰をまじへてまき、その上にも馬糞をおほひ、その上に土をうすくおほひ、春になりて草をすこしもおかず、土を度々よせ、その土をよする度ごとに燒糞をふりかけ、旱の時は水糞をかけ、實のる時分になりては、蒔く時の畦頭の

畦溝になる様にし、麥をかるに一歩を一度にからず、半歩づつ二度にかり、半歩は入梅の日より七日前に刈とり、半歩は入梅の日より十五日前にかりとりて、その品々の出來の程を見るべき事なり、かやうの類の事は農書に見へたる事にても、試みぬ事をはじめよりひろくするはよろしかるまじ、田作にても畠の諸作にても、初年は二三歩にてこゝろみ、農書に作物の種子の地にあふとあはざるとを試ろむるしかたを記せし様にすべき事ならん、入梅の前より雨の續きける年の麥の取納のしやうをきゝあはするに、假屋葺(カリ)と丸積の雨様をよろしきとい□、假屋葺は蕎麥假屋より明間をひろくし、穗は內によくたれ、莖葉は屋根になりてよく雨をふせぐ様にし、丸積は小高き所に薪を中高くおきて臺にし、その上に刈麥をつみ、茅にて屋根の様にふき、小竹を丸くまげたる大小の二ツにてうへ、したをおさへ重りになる程の木を長さ四五尺にきり、末をかづらにてゆひあはせ、二ゆひの木四本にて小竹の輪をおさへ、茅を風の吹ちらさぬ様にし、晴天をまちてほし收むるといふ、四月の節の中下旬より長雨のふる年もあるなれば、右の丸積假屋葺のしかたをよく心得べし、益あるしかたにてもそのしやうの精はしからざれば、益なきになる者なり、麥取の御下知に半は黃に半は青き所より取りかゝれとあるを、豐崎鄉の村の中にて肝煎をつとむる者の批判していへるよし此ほど聞けるに、半は黃に半は青き所より取りかゝれとの下知はよろしからず、半は黃なる所より取りかゝれば、五六日の後には殘らず黃になる故、早く取りかゝりたる利益すくなし、われらは靑穗がちなる時よりとりかゝり、當年の様なる入梅の前より雨

のつゞきける年にても、雨前に麥を取りしまひたり、われらが麥を取るを村中よりあやしみ、青麥を取は何としたる事ぞといひけれども、をそく取りたる麥との損得をたくらべ見るに損は少しもなく、たゞつき手間の少し增すまでなり、麥を長雨にもくさらかさず、麥跡の秋物を早くしつくる益は大分の益なりといへる由聞たり、豆酘鄉の給人も右の如くいへる由聞及べり、御國の百姓の麥粒の半は黃になりたると見るは、三分二ほど黃になりたる時なりといふ、靑穗がちといふ時分、實に半は黃になりたるにてあるべし、麥のみならず、穀物の利は科數のおほさにもよらず、穗數のおほさにもよらず、粒の多きによるなり、一本立の科にて一穗の麥粒のすくなきは、科數の多く穗數のおほくても取高はよくなく、取高のすくなくても蒔付の地のひろくして、科數のおほきは取手間のかゝる事おほし、御國の百姓のむかしより麥取に日數おほくかゝるは、木庭の蒔付のおほきゆへなり、木庭作をやめて田畠と山畠、段畠にのみ麥を作るならば、取高は增し取手間は減るべし、よく深く辨ふべき所なり第二條

問ふ、田畠の養なひの事をいかゞ心得べきか、曰く、農書に下田を上田になすは糞の力なりといへり、糞はその品おほけれども、切近なる糞は桶糞、馬糞、草糞、燒糞、灰糞、水糞なり、農書を見るに、馬糞といふも馬糞ばかりにてはなく、わら、あくた、枯葉、若草などあるとあらゆる物をあつめ、毎日馬牛にふませて糞屋にうつしおくを馬糞といふなり、草糞といふに二種あり、草木のしげりさかへたる時にかりとり、屋敷の內にても屋敷の近邊にても、日むきの所につみかさね、雨おほひをよくし

て、むせくさりにくさりたるを草糞といひ、わかき木草をとりそのまゝ田畠におほくいれ、その田畠の土のやはらぎ作物のよくさかゆる様にするをも草糞といふ、燒糞と灰糞とは、名のかはりてもおなじ灰糞なり、釜の下の灰を灰糞といひ、よろづのすたり物をつみかさねむし燒にしたる灰を燒糞といふ、右の品々の糞の外に鰯糞、藻糞あり、藻糞の事は農書に見へず、鰯糞は鰯をひく村と、干鰯をかふ代銀を持たる百姓ならではもちひ得ぬなれば、鰯をひかぬ村のまどしき百姓は、鰯糞を心あてにすべからず、その外の品々の糞をよくもちひおぼゆべき事なり、藻糞はより藻にても、きり藻にても村中一同に力をあはせてとりあげ、濱邊磯邊の地たかき所のうは手に、水やりの溝をほりて長小屋をたて、その長小屋は丸木の柱を掘立にし、椽を棟より地につづけ、茅にて地までふきさげ、兩方の端より出入する様にし、より藻きり藻をそのうちにいかほどもつみこみ、くさらかしこまかにくだくべきほどにくされたる時に、村中一同にさしより杖にて打くだき茅俵にいれ、その俵數を百姓面々に分けとりてたの小屋につみおき、もちゆべき時にもちゆべき事なり、干藻の長きをもちゆるは、藻のくされぬ前には土と藻と和合せず、春雨のすくなき年は藻のくされのをそきにて、麥のやしなひになりかね、麥を蒔きたる時分に藻の少しにても土の外に出ぬけるを、鴉の引出すにて麥種子をも引出し、土のなく藻ばかりある間に蒔入れたる麥種子は、おひ出ぬもありといふなれば、むしくされの藻のこまかにくだけたるを、しき糞にも、はた糞にも、うは糞にも、もちひてよろしかるべし、藻をとりても

ほしをさめぬ前に雨ふれば、油氣ぬけて用にたゝず、とりてすぐに長小屋にいるゝならば、雨ふりてもさゝはりなく、いづれにもよろしからん、水糞は桶にたくはゆる物にて、まどしき百姓は桶を不足なきほどに用意しおく事なるまじきなれば、郷村の中にて希にしきたりたるごとく、田畠の手よりの地高く雨水のいらぬ所に穴をほり、底と廻りを赤土にてよくかため、穴の縁を地並より高くし、洪水の時も水のいらぬ樣にし、茅にて屋根をふき桶糞をいれおき、水糞にしてもちゆる時は、手よりの川水をくみ入れかきたて、小便をもまじへてもちゆべき事なり、その水糞のために極月の水かれの時分、こゝろみに川筋の眞中に井をほり、沙石を左右にはかきあげず、川上と川下と兩方にかきあげ、川底をとほる水の見ゆる所までほりつけ、井がばには性のつよき木を楮皮にてあみて丸くし、內には丸竹をまげたる輪を二尺ほどづつ間をおき井がはにゆひ付け、その內のさしわたし三尺に成る樣にし、井の底より川床の並まで、たとへば八尺ならば、井がわの高さを九尺にし、一尺を川床のうへに出し、二尺廻りほどの木を長さ六尺ほどにきり、井がはをいるゝ時に井がわより六尺ほど川上に、その木を川床に一尺出して立て、井がわとおなじく沙石を川床の並にとりかけ、井がわの木の透間より石沙のもるべきと見へたる所には、外より別の木を當ておき、旱の時に川底をとほる水をくみて水糞をこしらゆる穴にいれ、初年極月にほりたる井にてその益あるとしれたるならば、每年極月に段々とほり、井がわの木竹の朽べきかと思へる年は、初の井がわの內にいるほどの井がわをこしらへていれ、

つるべのかよひにさゝはらぬほどは段々そのごとくし、つるべのかよひにさゝわらんと見へたる時にほりかゆべき事なり

第三條

問ふ、藷をうゆる事をいかゞ心得べきか、曰く、藷をうゆる事を聞合せて考がふるに、農書にしるせるごとく、水をくむ手寄りの所にうゆべき事なり、又種子芋より芽の早く出て、蔓のはやく延ぶる様にやしなひをすべき事なり、御國の鄕村にて藷をうゆるに、右の二事いまだそなはらざるときく、焼糞は作物の出來をはやむるとあるなれば、芽をはやく出し蔓をはやく延しむるにもちゆべし、種子芋をうゆる畠は第一に馬糞、焼糞を用ひ、植へたる後には灰糞を折々ふりかけ、五六日も雨ふらずば水糞をかけ、芽の早く出で蔓の早く延ぶ様にし、蔓の延たるをきりてうゆるに、旱の時も水の涸れぬ溪川の近邊の山畠、段畠と、淵にても井にても旱に水の涸れぬ所の近邊の畠の內の地高き所にうへて、大旱の時は八九日か十日に一度づつ水をそゝぐべき事なり、藷に旱損なきとあるは、他の畠作の物と違ひ切々に水をそゝがず、間々にそゝぎても旱損をまぬかるゝ故なるべし、麥跡に藷の蔓をうゆるに、麥を取り終りたる時分に、雨の續きて麥跡の耕やし延引する年などは、蔓のうへつけ延引すべきゆへ、水の手寄りにある下畠、山畠、段畠には麥を蒔付す、三月四月の內に地をたがやし、馬糞焼糞をいれてすきまじへおき、四月の節の末比にても蔓の延たる時に早くうへつけ、その時に雨ふらずば、水をそゝぎてうへつくべき事なり、そのごとくせば、每年の利益農書に見へたるごとくにて、鄕

村に大益あるべし第四條

問ふ、栗櫧を育つる事をいかゞ心得べきか、曰く栗をうゆるに活栗の芽の出でたるを直ぐに栗立所にうへて、鼠のとる事をほきといふなれば、活栗の芽の出たるをうゆるは家の近所にうへ、活栗たとへば百ならば、六尺角の所に長さ二尺の橛をすき間なく一尺づつ打こみ、その橛の頭に栗のいがの性のつよき時にとりおきたる竹釘にて打つけ、鼠の越し得ぬふせぎとし、六寸角の中に種子栗を一ッあへにうへ、其年におひ出たるを翌二月に栗植立所に移し植へ、移し植る所は前の年の寒中に木柴を伐り取り、廻りをほくり、其中の落葉枯草を燒き置きて植ゆべし、木庭作する事止み、栗を伐る事を櫧を伐る事と同じ格に御停止なされ、老木になりて實のらぬを伐る時は、其年の冬の內に伐るべき木數の帳面を村々の下知人より奉役に出し、奉役より御郡奉行所に出し置たる上にて伐らせ、御郡奉行所の御役人木庭檢分の時に、檢分人と奉役の目前にて其鄕の村々に鬮を入れ、鬮に當りたる時を其鄕の木庭檢分役と、御郡方足輕との立合にて栗の伐株を數へ、前以て差出し置きたる帳面に合ふと合はざるとを見とどけ、御案內申上る格に仰付らるゝ事を奉役より願上げ、栗育の御下知よく行なはれ、潮風のあてぬ所と、大谷の風の吹通しにてなき所と、濕氣石原にてなき所の風隱れの谷々に、栗の伐株を育て植付の栗苗を育つるならば、十年の後には栗子の利益のほど櫧子の利益にはなはだ勝るべし、櫧は伐株の若立を育て、以前より有り來りてよく實のる木々を實とし、種子櫧をうゆるは薪用にうゆべき事

なり、たとへば百姓一人の請持の木庭の内にて、薪を取るために雜木を育つる所二石蒔ならば、其内の木の長じたる所を二斗蒔伐り明け、其跡に種子樒を三尺角に一ッ當てに植へ、十年目に二石蒔の所に種子樒を植へ終り、初年に植へたる所の木年立の木に成り居けるを、十一年目に伐りて薪にし、其跡より生ずる若立を育て、段々とその如くするならば、二斗蒔に立たる雜木を薪にするよりは、薪利益はなはだ勝るべし、西海に向きたる平地の作所の風防に木を植へ來れり、その類の風防の木にも、種子樒を一歩五ッ當てに植へ、たとへば兩方の山の根の間だ六十間ならば、五間に六十間おし通し種子樒を植へ、海の方の端に育ちたるは一間より下に枝葉のある樣に末を伐り、その次に育ちたるは二間より下に枝葉のある樣に末を伐り、段々其格にし、外の方は枝ひくき內の方は枝たかく育て置きて、風を防ぐべき事ならん第五條

問ふ、松竹等を育つる事をいかゞ心得べきか、曰く、種子松ある所ならば、寒中に晴天の續きたる時分、種子松の廻りをほくりおき、松を育つべき地面の廻りをもほくりてその中を焼き、種子のちりて自然と生ずる樣にし、種子松なき所ならば、山の高みばかりにすこし小松をうへおき、種子松になる樣にしてよろしからん、小松をおほくうゆるは手いり多かるべし、鄉村の山々の內にて薪になるほどの木も生ぜず、屋根葺用、苫用になるほどの芽も生ぜず、小草、小茅のみ生じ居ける無益の山には、薪のために種子樒を植へ、種子松にするために小松を植へ、薪と材木の用のよく達する樣にすべき事

ならん、松の生じたるはいか程あつく生じてゝ間引ず、其中の勢のよわきは自然と枯れ、勢のつよきばかりそだつ様にすべし、間引は木のふとる益ありても、直ぐにのび長くのぶ利分間引かぬるをとり、木數のおほき利分間引かぬるをとり、大風の時に吹きたほし吹をる事のすくなき利分、間引かぬるをとりけるなれば、間引かぬる方をもちゆべき事ならん、竹は大中小ともになくてかなはず、中竹、小竹の用にたつ事誠におほければ、風がくれの地卑なる所には用の達するほどにおほく育つべき事なり、木庭の御下知をくはしく心得ず、一偏にあらく信ずる人の說に、木庭作をさへ御停止なされたらば、植立物の御下知はなくてもすむべしといひけるよし聞及べり、これあたらぬ說なり、木庭作の止みたるとも山々に木の育つ御下知なくば、水損旱損のへる事もなく、大雨の時に土沙の流れ下るもすくなからず、作所の害になる事をしてかはらず、薪材木の用も年々にともしくなるべし、他國にて山林の政道のよろしき所の事を、土穀談にしるしおきたり第六條

問ふ、木庭の御下知を得心せぬ百姓のいひふらすは、木庭作せずして畠作ばかりするならば、木庭より取り來れるほどの作物をとり得まじきといひ、田作畑作を專一にするならば、以前よりのしきたりの公役銀の爲に、山海をば働く事なる間敷といひ、中木庭下木庭こそ耕作せずしても、さして損はあるまじけれども、上々木庭、上木庭に耕作せずば、その損のほど大分ならんといへるよしきゝたり、かくの如くいふ百姓を村下知役よりさとすには、いかゞさとすべき事なるか、曰く、そのごとくいふを

さとすには、春木庭とて三月四月に秋物の木庭を伐り、五月六月にも秋物の木庭を伐り、八月九月に麥木庭を伐りたる事の止み、木庭を耕やしたる事の止みける手間の延を、田作畠作の耕やし手いれやしないにもちひず、田作も畠作も以前田畠木庭の作をかねなせる時の如くせば、田畠に出來增しなく、木庭作せぬ分の損と見ゆるにてあるべけれども、木庭作の大分の手間を止めたる手間の延にて、田作畠作を農書にある如くするならば、田畠作得、以前田畠木庭の作をかねなせる時の作得より多からん、作所を一二遍たがやしたるも、四五遍たがやしたるも同じ事になり、草をとり土をよする事やしないをなす事の、一二遍なるも四五遍なるも同じ事になるべき道理なし、以前木庭作しける時も、公役銀のためのはたらきはしけるなれば、木庭作をやめてもそのはたらきは以前の如くし、木庭作を止めたる手間の延を田作畠作にもちゆべき事なり、田作畑作に出來增し多く、以前田畠木庭の作をかねなせる時の作得にまさりたらば、その作得の勝りたる分を賣れる代銀にて公役銀を上納し、公役銀のためとて農の時にもなせるはたらきを止め、その手間の延にて田作、畠作にいよ〱念をいるるならば、田作畠作いよ〱出來增すべし、上々木庭、上木庭も平らかなる所と、片さがりなる所こそ作得あるべけれ、平らかなる所を山畠にし、片さがりなる所を段畠にして年々に耕作せば、嶮岨なる木庭に耕作せぬとて損のあるべき樣なし、中木庭、下木庭にても山畠、段畠になるべき所を山畠段畠にしなし、木柴草茅を伐りかけおかば、三四年の後には手入なくして肥土出來、其後年々に草糞、

燒糞をいれて耕作せば、上々木庭、上木庭の山畠、段畠に差立たるをとりはあるまじきと、いひさとすべき事ならん第七條

問ふ、壬寅の年に八郷の田畠木庭百歩の豐年の出來を御支配に御聞なされたる時に、豐崎郷上畠百歩豐年の麥出來八斗五升ほど、上木庭百歩豐年の麥出來六斗ほどゝしるし、土穀談に、十年目に明けて十石出來る、上々木庭を五年目に明れば五石出來、三年目に明れば三石出來るにてなく、その積より多く出來、郷村の木庭物成の高は畠物成の三分の一にも及ばざるゆへ、出來高もその積りなるべき事なれども、木庭を法の通りより早く明るにつき、木庭の作得のほど畠の作得に同じきもあり、木庭の作得のほど畠の作得より多きもあり、百姓の木庭を明け過すをこのめる道理この所にて考がふべしとしるしけるを、見たる人の此比にいたりていへるは、老農類語にしるすごとく、畠出來も木庭出來も多くのちがひはなく、土穀談にしるすごとく、木庭の作得のほど畠の作得よりおほきもあるに、木庭作をやめては百姓困窮すべしといへるよしきゝたり、かくのごとくいふ人を郡奉行よりさとさるゝにはいかゞさとさるべき事なるか、曰く、その如くいふをさとさるゝには、木庭の出來よきは雨のはなはだ勝たる年にて、濕氣畠の旱年に出來よきと同じ道理なり、常年の出來は上畠と上木庭のちがひ少しの事にてはなきをかんがへ、上畠の豐年と上木庭の豐年の年數に多少のちがひある事を勘ふべし、上木庭百歩豐年に六斗ほど出來るといふは、木庭の高み木庭のくぼみ、木庭の床の平かなる所と、嶮岨ならずし

て片さがりなる所ある故なり、その所を山畠、段畠にしなし年々に耕作し、嶮岨なる所ばかりの百歩の出來を見るならば、木庭作の豐年にてもはなはだすくなき出來ならん、木庭の多き村の貧民は隣村隣鄕に木庭を年切りに賣り、木庭知行の多き人も木庭を年切りに賣る事あるゆへ、希なる富民より買ひて耕作するは、其者の木庭より取る作得のほど、其者請持の畠の作得に一二倍なるもあり、三四倍なるもあり、老農類語、土穀談にしるせる旨を、ヶ様の所にて考がへよとさとさるべき事ならん第八條

問ふ、此比伊奈鄕の事を三根鄕の百姓の府中にていへるよし沙汰するを聞に、伊奈鄕奉役只今のとほりの下知ならば、鄕中の百姓はつぶるゝにてあるべし、百姓の身上の立居ける根本は木庭作なり、山海のはたらきもなさてかなはぬ事なり、然るに木庭作をも山海のはたらきをも差留られたり、段畠は此方の鄕に以前よりしきたりたるごとく、下手の岸の方を少しひくゝしてこそよろしきに、伊奈鄕の段畠は平らかになさしめらるゝなれば、大雨の時ほどは段畠の下手の岸よりくづるべし、岸留の植物には茶を植てこそよろしきに、伊奈鄕の段畠の岸留にはむくげの枝をさゝせらるゝといふなれば、是又よろしからず、茶を岸留にしては後日に茶園と成りて利益あり、むくげは何の用にもたゝぬものなりといへるよし聞たり、三根鄕の村下知人よりその村の百姓の右のごとくいへるをさとするには、いかにさとすべき事なるか、曰く、そのごとくいふをさとすには、御國の百姓の耕作のしかたの粗く、食用の穀物の足らぬ根本は木庭作するにあり、農業の時節に山海のはたらきをするも、是又木庭作に

ならひたるよからぬ事なり、鰯の多く見へたる時に引きあぐるは、田畑のやしなひになりてよろしき事なれども、農業の時節に鰯のすこし見へけるをひくとて農業をおろそかにし、いまだ見へぬに出しの人をかけおく事もあるはよからぬしかたなり、然れば本庭作を止めさせ、農業の時節の山海のはたらきをやめさせらるゝは、はなはだよろしき下知なり、農隙の山海のはたらきをもやめさせられ、鰯の多く見へたる時の引あげをもやめさせられ、鰯の多く見へたる時の引あげをも差留られたるにてはあるまじ、段畠を平らかになさしめらるゝとも、二尺岸ならば長さ二尺の櫟を一尺づつ打こみて二とほりに打ち、四尺の岸ならば四とほりに打べきゆへくづるゝ事はあるまじ、洪水山抜の時は下手さがりにしたる段畠も、段畠にせぬ木庭もくづるゝ所あるべし、下手さがりにしたる段畠は、漸々にひきゝ方に土さがり、折々に高き方にかきあげずしてはかなはず、山横に畦を立ても、大雨の時にひきゝ方の畦頭より畦溝の水のあまるならば、うは土の油氣を下に洗ひ流す害あるべし、段を平らかにし上手左右に水やりの溝をほりおくにしくはあるまじ、段畠といふに横幅の廣さは少なく狹さは多からん、狹き段畠の岸留に茶を植へ茶園にしなしたらば、むくげの枝を刈るやうにには刈るまじきゆへ、作物のさゝはりになるべし、三根郷、仁位郷は茶園の多きにて、麥取の時分の障はり輕からざるに、其上にも段畠の岸留に茶をうゆべき事と思ふは甚しきあやまりなり、只今まで農作の御政道おこなはれず、百姓を召し使はるゝ事の多き上に木庭作を廣くし、取高すくなき麥取に手間多くかゝり、百姓の妻女

も麥取りをつとめずしてかなはぬと見へ居けるゆへ、蠶を飼ふ事ならず、木庭作を八鄕一同に御停止なされ、農作の御下知の行なはるゝならば、丸葉の桑を村々の手寄りの所に多く植立べきゆへ、麥取高は增しても麥の取手間の減りたるにて、百姓の妻女の蠶を飼ふ事なるべし、蠶を飼ふは木綿を植ゆると同じ道理にて、なさでかなはぬ事なるに飼ひ來れる時は希なり、何事もよろしき事の行なはれがたきは、百姓の木庭作をこのむと、山海のはたらきをこのむゆへなりとさとすべき事ならん第九條

問ふ、癸卯九月儲蓄御下知の御覺書を八鄕奉役に御渡し被成たる以後、百姓のいへるは、儲蓄の出し立を仰付られしは多く成りたる時に、上に御取りなさるゝ御心にてあらんといへるよし沙汰せり、村下知人より村中の百姓のそのごとくいふをさとすには、いかにさとすべき事なるか、曰く、その如くいふをさとすには、儲蓄御下知の御覺書に、御年貢にても公役銀にても、少しも御增しなさるゝはよろしからぬと思し召さるゝ道理を精しく御書載なされ、奉役より村下知人肝煎に讀み聞せられ、其方共に云ひ知らする通りなれば、儲蓄の穀物を上に召し上げらるゝべき樣なし、猪荒の止みし後は木庭の情をかまへぬゆへ、木庭の床を畠にしなし年々に耕作する所何れの鄕にも多く、府中にて其事をしりたる人の申立てに、木庭の内を畠にしたるには、畠物成を仰付らるべき御事と申立るもあれども、左樣の說は曾て御取り揚げなされぬと聞へ居けるに、其方共のひがみたる心にて當らぬ事を推量し、御慈悲の深き御政道をうたがひ奉るは勿體なき事なり、儲蓄の御下知を仰出されし御旨を愚蒙ながら

考がへ思ふに、大抵の御吟味の御下知にてはあるまじ、御國の府中の人の食用の穀物は、十の八九ほど他方より入り來りけると聞く、御國の米の入り來る國々に凶年の五六年も打續き、その國々の食用も足りかね、他方へ少しの穀物をも出されず、その國中の食を足さるゝ下知を專一にせらるゝ時節は、百年二百年の內になき事もあるべし、十年二十年の內にあるまじきとも極めがたし、後の事の前には知れぬ世の中なり、前に備へなくては行き當りてしやうのなき事あるべし、凶年の五六年も打續き、甚肆養父よりの御年貢ゟ常年の半分ほどならては入り來らず、御國の鄕村もその通りの凶年ならば、山海のものを取り出して府中に漕登り賣り拂ふとも、その代銀にて米を買ひ下る事はなるまじ、御家中への御扶助さへ常の如く下さるゝ事のならぬ時節に、百姓に飢飯米を下さるゝ事はなされ得らるまじ、是れによりて儲蓄の御下知を仰付られ、儲蓄の御下知ばかりにて穀物の出來增すべき御下知なくては、儲蓄の益も少なからんとおぼしめされ、木庭御下知諸作御下知をも仰付られたるにてあるべし、其方共の心にも御下知の御旨の深き所をかんがへよとさとすべき事ならん、一村の百姓二三十人四五十人の中には、一二人か二三人か右の旨を聞わくる百姓あるべきなれば、其者共ばかり聞わけても、御下知の御旨の通ずる益に成るべし第十條

問ふ、此比伊奈鄕の事を聞くに、鄕中の村下知人一同に木庭の御下知を受けたるといふ。然れば伊奈鄕には御下知行なはるべく、此度もし村下知人一同に御下知を受ぬならば、奉役いかゞすべきか、曰

く、其時は奉役より居村三分一の百姓への云ひ渡しに、其方共は吾等が下知するごとくにして、請持の木庭の内の山畠、段畠になるべき所ばかり今年麥を蒔付け、山畠、段畠になるまじき嶮岨なる所には少しも麥を蒔付ず、畠の耕やしやう、麥の蒔付やう、養なひのしやう、手いれのしやうを此の方のをしゆるごとくにせよ、その如くにして來年の麥の取高、村中三分二の百姓の麥の取高よりすくなくば、吾等よりそのすくなき分ほど其方共にあたふべしといひわたし、三分一の百姓の内にて心入もよく、農作に精を出す者を二三人ゑらび、殊に念比に云ひ付け、その二三人の農作のなし樣を奉役自身に見とゞけ、その二三人より其外の者共を云ひをしへさせたらば、村中の三分一に農作の御下知の行なはるゝになり、來年の麥出來に御郡方の足輕目付を申請け、伊奈鄕の肝煎の内二三人を呼寄せ、足輕目付と肝煎の立合にて、村中三分一の百姓の作所の麥出來、村中三分二の百姓の作所の麥出來を精しく檢分せしめ、一人づつの取高を極め、その帳面に御郡方足輕目付と肝煎の證印を押しめ、御郡奉行所に差出し、御支配の御披見に入れ置き、その驗を以て鄕中への下知に、來年は木庭の片さがりなる所と、嶮岨なる所の麥跡に一切に秋物を蒔付ず、木庭の内に秋物を蒔くは、木庭の床にても、木庭のくぼみにても、平らかなる所ばかりに蒔付け、以來はその所に養なひをいれて山畠となし、年々に耕作し木庭の片さがりなる所は、來年七月畠と山畠に蕎麥を蒔終りたる後より、九月に早出來の秋物を取る前までの間に段畠にしなして麥を蒔付け、段畠にならぬほどの嶮岨なる所には、一切に耕作せざれと下

知し、來々年より三月に一度、八月に一度づつ木庭を檢分し、三月の檢分には山畠、段畠にしなさぬ木庭にりなしを見とゞけ、八月の檢分には山畠、段畠にしなさぬ木庭に、秋物の蒔付のありなしを見とゞけ、木庭作を止めたる手間の延を田畠と山畠、段畠にもちひず、山海の働にもちゆる村あらば、村下知人肝煎の云付のおろそかなるに極め、御郡奉役所に申出べしとかねて堅く云ひ渡しおき、その云ひ渡しを守らぬには宥免せずして申出るならば、御下知の行なはれぬ事はあるまじ、今年より御下知の行なはるゝは、來年より行なはるゝには勝さりたる事なり、今年より行なはれ時勢のさゝはりさへ出來せずば、來年は伊奈郷中に御下知まつたく行なはるゝにてあらん、時勢のさゝはり出來せば、今年より行なわるゝと見へたるとも頓て止むべし、伊奈郷には作所の多き村もあり、作所の少なき村もあり、山畠、段畠になる木庭の多き村もあり、山畠、段畠になる木庭の少なき村もあり、地面のよき村もあり、地面のよからぬ村もあり、在附のよき村もあり、在附のよからぬ村もあり、海邊の村もあり、山奥の村もあり、西うけの村もあり、東うけの村もあるなれば、伊奈郷に行なはれし御下知は、何れの郷にも行なはれ、時勢のさゝはりさへ出來せずば、御下知の八郷に行なはれぬ事はあるまじ、御下知五六年も行なはれたらば、百姓の木庭作を好む心も自然と止み、農作の風俗自然とあらたまるべし、御郡御支配より御郡奉行其外府中にて郷村の事を知れる人の申す旨を博く御聞なされ、農書の旨を御考がへなされて、八郷へ御下知なさるゝにも八郷の奉役村下知人肝煎一同に御下知

を信ぜず、農作の事は自身にしおぼへたる者こそしるべけれ、府中より御推量にての御下知は當らぬ事なり、農書に見へたるは他國い農作のしやうなるゆへ、御國の土地にはあはぬ事なりといひつのるならば、なさるべき様あるまじ、しかるに伊奈郷奉役より郷中の村下知人肝煎の度々にいひ出し、事を明らかにさとして御下知を受しめたるなれば、たとひ時勢のさゝはり出來して御下知の止むことあるとも、後日に時勢のさゝはりなき節の御下知の行なはるゝに大益あらん第十一條

問ふ、山畠、段畠にならぬ木庭の內にて植物する所を、木庭に明る年數は何ヶ年ほどにて止むべきか、曰く、山畠、段畠にならぬ木庭の內にて植物する所を、木庭に明る手數は八九年か十年の間にて、其後には木庭作の全く止むにてあらんと思へるよし土穀談附錄に記し置き、そのごとく記せる後に、又おもへるは、四五年の後に木庭作の全たく止む様に、奉役より郷中に下知あるべき事とおもへるに、此比に至りては初年より木庭作を全たく止めしむべき事なりと思付たり、植物を成しをはるまでは其所に木庭作するなれば、木庭の作物の中に植物して目印の橛を立て置きても、檢分に紛敷所あるべし、植立物の所の木柴を寒中に伐り明け、廻りをほくり置き、その內の落葉枯草を燒き、翌年の春に至り植物をする所に、その植物の所ばかり二尺角ほどづつ木草の根をほりのけて植へ、木柴の伐り株より生ずる若立は折々に刈しむべき事なり、百姓の好む木庭作なれば、植立物の所ばかり當分木庭作をなさしめて宜しからんといふ說ありて、その說を吾等も初めは信じ居けれども、此比にいたりて信ず

まじき事を信じたりと思ひ當れり、なしきたりの宜しからぬ事を改ためしめんとするに、少しづつはなしきたりの如くにして漸々と改たむる樣にせよといふは、改めしめんとおもひながら改ためぬ道をすすむるに同じ、奉役より村下知人肝煎へのいひさとしに、植立物をするは山畠、段畠にならぬ嶮岨なる所なれば、其所に耕作するとも耕やし蒔付取納の手間にあたるほどの作得はあるまじ、たゞ木柴を伐り取り薪とし、其跡を燒き置き、植物の所ばかり二尺角ほどづつ木草の根を掘りのけて植物したる方よろしかるべし、木庭作を好む事の風俗と成り居ける百姓なれば、植立物の所とて三年蒔木庭に明け、其内一斗蒔ならでは植物をしおかず、其しかたのもし御郡方より足輕目付の見あたりたるは、その作人の無調法になるのみならず、その鄕の木庭檢分役の油斷にもなるべきゆへ、何れにも植立物の所に耕作する事はさしとめてよろしからんといひさとし、植立物の所の木庭作を早く止めしむべき事なり第十二條

右の十二條は乙巳九月外親の老人の某が問に答へし旨なるを、一々に書き記して老人に見せけるに、披見せしうへにて某に告げていへるは、吾れ昔御郡役を勤めし事九年なれども、鄕村に益なくしてむなしく職名を蒙むりしになれり、交代の後に退休せしより以來、鄕村の事を人の語るを聞き、農書の入り來れるをも見けれども、今に至りてたしかに心得たると思ふ事は少しもなし、しかるに曾て民事の書を著はせしは、愚者も千慮すれば一得ありと說き置ける旨を思ひ、鄕村の事を吾

が聞けるほどにも、聞ざる人のためになるべきかと思ひつる故なり、今年に至りては老衰誠に甚しくなりけれども、其方の民事を問へに心をつくして答へ、其方も虚弱の身ながら疾をつとめて吾がいふ所を書き記すは、共に是れ國家の御爲に民事を重んずる寸志なりといへり、問に答へし說話を記せる奥に此一段をも書き添へ、民事紀聞と名付るなり

此民事紀聞一部の外に民事紀聞一冊あり、此一部は眞字を知らぬ人も讀得るために、平假名を交へて書述るなり

民事紀聞 終

農政問答

農政問答

問フ、洪範ノ八政ニ食貨ヲ先トシ、子貢ノ政ヲ問ヘル、孔子コレニ告ゲテ食ヲ足スヲ首トシタマフナレバ、政事ノ中ニテ農政ヲ先務トスルコト明ラカナリ、其ノ農政ノ中ニテ如何ナル事ヲ先務ト爲スベキカ、曰ク、州郡ノ領主ノ農政ヲ立タマフ先務ハ農政ヲ興起スベキ郡奉行ヲ選ビ命ジタマフニアリ

問フ、農政ヲ興起セントスル郡奉行ハ如何ナル事ヲ先務ト爲スベキカ、曰ク、孔子ハ「使レ民以レ時」ト示シタマヒ、孟子ハ「不レ違二農時一」ト示シタマヘリ、神君ノ曰タマヘルハ、書經ニ徳ハ惟レ政ヲ善クス、政ハ民ヲ養ナフニ在リト云ヘル金言ヲ吾レ常ニ忘レズ、百姓ノ事ヲ能ク吟味シ、年貢ヨリ外ニハ金銀米錢モ何物モ曾テ取ラヌト曰タマヒ、已ムコトヲ得ズシテ民ヲ使ワバ農ノ隙ヲ用フベシト曰タマヘリ、農民ハ家屋ノ修理モ其外ノ諸事モ總テ農隙ニ營ナムユヘ、農隙トテ民ヲ頻リニ使ワレテハ、農隙ニ爲シ置クベキ事ヲ農隙ニ爲シ置キ得ズシテ農時ニモ爲セルユヘ、已ムコトヲ得ベキニ已マズシテ民ヲ使フハ、農隙ニ使フモ民ヲ害ナフニ成ラン、神君ノ大訓ハ「使レ民以レ時」ノ餘意ヲ示シタマフナリ、是ノ如キ道理ヲ考ガヘテ、農政ノ先務ハ民力ヲ養ナフニ在ルコトヲ知ルベシ

問フ、民力ヲ養ナフ下知ハ如何ニスベキカ、曰ク、民力ヲ養ナフニハ、郡奉行ヨリ郡代ニ申シ差圖ヲ

受ケ、郡奉行所ノ足輕ヲ目付役ニ定メ置キ、何事ニテモ百姓ノ害ニ爲ル事アラバ、其樣子ヲ書付テ密ニ目付ニ出ダセト下知シ、一鄕ノ中ノ二三箇村ヨリ一二年代リニ夫使出銀ノ帳ヲ付ケ、出銀ノ帳ニハ銀ノミニテナク、何物ニテモ役人ニ出ス物ト、役人ヨリ物ヲ買フテ代銀ヲ拂ワヌヲモ記シ、其ノ年ノ帳ヲ翌年正月ニ目付ニ出ダセト下知シ、其ノ兩樣ノ下知ヲ鄕々ノ役人ニ云ヒ渡タシ、鄕々ノ役人ヨリ其ノ鄕中ノ村々ノ役人ニ云ヒ渡サシメ、村々ノ役人ヨリ村中ノ百姓ニ云ヒ渡サシムベキコトナリ問フ、鄕士ヲ立テ置ルヽ州ニテハ、鄕役人ニモ村役人ニモ鄕士ノ中ヲ選ビ命ゼラルヽト見ヘタリ、然ルニ郡奉行ヨリ右ノ如ク下知セバ、鄕役人村役人一同ノ申シ出デニ、是ノ如キ下知ハ鄕役人村役人ヲ甚ハダ疑ガワルヽ故ナラン、百姓ノ訴狀帳面ニ相違ナルコトアリテモ、其ノ僉議アラバ虛實アラワルベケレドモ、輕キ事ハ僉議ニ及バズ、無實ノ罪ヲ蒙ムリ居ケルコトモアルベシ、若シ役人ノ器ニ當ラヌトテ、僉議モナク役ヲ除ケラルヽコトモアラバ、尙以テ難儀ナルコトナラン、郡奉行ヨリ鄕役人村役人ヲ疑ガワレテハ、百姓ノ心ニ侈リ出來テ、役人ノ下知ヲ受クマジ、然レバ只今ノ通リニテハ何レニモ當役ヲ勤メガタシ、一同ニ役ヲ許シタマワンコトヲ願ヒ申スト申シ出ルニテアラン、其時ニ郡奉行ノ處置ヲ如何ニスベキコトナルカ、曰ク、鄕役人ヨリ其ノ如ク申シ出ルナラバ、郡奉行ノ答ヘニ、吾等ヨリ各ヲ以テ訴狀ノ事ト、夫使帳、出銀帳ノ事ヲ百姓ニ云ヒ付ルハ、各ヲ正スノミニテナク第一ニ郡奉行ノ自己ヲ正スナリ、大抵人情ハ其心ニ恐レ有レバ愼シミ深ク、其心ニ恐レ無ケレバ愼シミ淺

シ、百姓ノ訴狀ノ事モ、夫使帳、出銀帳ノ事モ、郡代ニ申シテ差圖ヲ受タルナレバ、郡代ヨリ百姓ノ訴狀帳面ヲ郡奉行ニ出サズ、前ニ直グニ郡代ニ出セト足輕目付ニ命ジラルヽコトモ有ルベシ、郡奉行ノ郷村ニ在留シ郷村ニ往來スル時ニ自身ノ愼シミニ怠タリアリテ、漫リニ百姓ヲ使フコト決シテ有ルマジキトハ極メガタク、郷役人、村役人ヨリ百姓ニ物ヲ出サセテ郡奉行ヘノ音物ニスルヲ受用スルコト、決シテ有ルマジキトハ極メガタク、百姓ノ訴狀帳面ヲ郡奉行ノ披見セヌ前ニ、郡代ノ披見ニ入ルコトモ有ルベキト思ヒテハ、郡奉行自身ノ愼シミノ爲メニ成リ、各トテモ大抵吾等ニ同ジキ人品ナルベキナレバ、恐レ有リテハ愼シミ深ク、恐レナクテハ愼シミ淺キコト吾等ニ同ジカラン、百姓ノ訴狀帳面ノ事ハ、各ト吾等ト同前ニ愼シミヲ忘レヌ藥ナリト心得ラレヨ、昔神君ノ曰タマヘルハ、善惡トモニ大ヒニ成リテハ誰モ知ルモノゾ、小シキナル時ニ具サニ聞クコト專要ナリ、家老ノ上ヘノ事ハ隱目付ヲ云ヒ付ケ日日ニ聞キ、若シ無道ナル事アラバ、異見スルガ好キゾ、吾レ殊ニ正直ナル士ヲ選ビテ家老ノ隱目付ニ用フルゾ、家老淳朴ナレバ天下淳朴ナリ、國々ノ主モ是ノ覺悟タルベシ、天下ノ隱目付ハ慈悲ノ政ゾト曰タマヘリ、是ノ大訓ヲモ能ク心得ラレヨ、百姓ノ訴狀帳面ニ各ノ惡シキ事ヲ書キタル時ニ、吟味ヲ遂ゲズシテ信ズベキ道理ナシ、郷村ニテノ事モ州府ニ來レル百姓ノ云ヒケルト、郷村ニ往來スル商人ノ語リ傳フルニテ州府ニモ知ルヽナレバ、百姓ノ訴狀帳面バカリニテ郷村ノ役人ノ事ノ州府ニ知ルヽニテハアルマジ、各ノ惡シキ事ヲ聞キタラバ、何レノ筋ヨリ聞キタリトモ、

內證ニテ各ニ其ノ虛實ヲ問ヒ、實事ナラバ異見シ、若シ無理ナル辨ヲ設ケ當ラヌ云ヒ分ケヲ致サルヽカ、又ハ其ノ過マリヲ改タメント云ヒ置カレナガラ改タメラレヌナラバ、役ノ器ニ當ラヌ人ナルユヘ、役ヲ除ケタマワンコトヲ郡代ニ請ヒ申スベシ、百姓ノ訴狀帳面ノ中ニ鄉役人、村役人ノ爲サヌ惡事ヲ僞アリテ書キ記シタルコト、內證ノ吟味ノ上ヘニテ知レタラバ、其ノ訴狀帳面ヲ取リ次ギタル足輕ニ云ヒ含メ、其ノ訴狀帳面ヲ出シタル百姓ヲ密ニ諭シ戒シメサセ、其者ヨリ再タビ僞ワリヲ書キ付ケテ出シタラバ、日數ヲ定メテ入籠セシメラレンコトヲ郡代ニ請ヒ申スベシ、鄉役人、村役人ヨリ百姓ニ云ヒ付ケラルヽコトヲ百姓ノ受ケヌ時ニハ、其ノ百姓ヘ云ヒ聞カセニ、彌イヨ決シテ受ケヌナラバ、郡奉行所ニ申シ出ヅベシト云ヒ聞カセラレ、其ノ上ヘニモ受ケヌ時ニハ申シ出デラレヨ、各ノ下知ヲ受ケヌ樣子ヲ尋子聞キ、受クベキ下知ヲ受ケヌニ極マリタラバ、其ノ棟梁ヲ日數ヲ定メテ入籠セシメラレンコトヲ郡代ニ請ヒ申スベシ、鄉役人、村役人ヨリ無理ナル下知アリテモ百姓ノ受クル樣ニ成レルハ、鄉役人、村役人ニ侈リノ出來ル道ニテ、百姓ノ君上ニ歸服セヌ道ナレバ、是レ君上ノ爲メニモ、鄉役人、村役人ノ爲メニモ甚ハダ好カラヌコトナリ、然レバ百姓ハ郡奉行、鄉役人、村役人ノ自由ニ爲ラヌ樣ニ下知ラ致シ置クベキコトナラン、是ノ如キノ道理ヲ能ク深ク心得ラレヨト眞實ニ云ヒ諭スナラバ、鄉役人、村役人ノ服セヌコトハアルマジ

問フ、郡奉行所ノ足輕ヲ目付ニ定メテモ其ノ目付ノ正直ナラヌハ、鄉村ノ役人ノ善惡ヲ郡奉行ノ聞キ

得ル益ハアルマジキカ、曰ク、郡奉行ノ心サヘ正直ナラバ、足輕目付ヨリ郷村ノ役人ノ善惡ヲ郡奉行ニ告グルニ僞ワリ飾ルコトハ成ルマジ、譬ヘバ足輕目付四人ニ郷村ノ役人ノ善惡ト村々ノ百姓ノ樣子ヲ云ワシムルニ、四人ヲ一人ヅツ郡奉行ノ家ニ召シ寄セテ尋ネ問ヒ、其ノ返答ノ申シ樣ノ趣ニテ其者ノ正直ナルト正直ナラヌヲ考ガヘ、四人ノ云フ所ノ合フト合ワザルトヲ考ガヘ、其ノ云フ所ノ引キ合ヒニ成ルベキ證據ヲ聞キ、他ノ筋ヨリモ聞キ合セ、四人ノ中ニテ正直ナルト正直ナラヌトヲ考ガヘ知リ、正直ナラヌ者ヘノ云ヒ教ヘニ、其方ノ役ハ郷村ノ役人百姓ノ樣子ト、郡奉行所ノ下役人ノ樣子ヲ郡奉行ノ知リ得ル爲メノ肝要ノ役ナルニ、若シ僞ワリ飾リテ郡奉行ヲ欺ムクナラバ、君上ヲ欺ムキ奉マツル道理ナルベシト教ヘ置キ、其ノ教ヘヲ得心シ僞ワリ飾ルコトヲ改タメタルト見ユル者ヲノミ召シ使ヒ、得心セズシテ僞ワリ飾ルコトヲ改タメズト見ユル者ハ除ケ去リ、別ニ相應ノ者ヲ選ビテ召シ使ヒ、郡奉行ノ心ヲ用ユルコト正直ニシテ、目付ヲ使フコト愼密ナラバ、四人ノ足輕目付ニテモ下知ニ益アルベシ、目付ヲ使フ人ノ正直ナラズ愼密ナラズバ、士ヲ目付ニ使フトモ下知ノ益ニ成ルコト少ナク、其目付ノ中ノ正直ナルハ却ツテ役ヲ勤メ得ズ、正直ナラザルハ却ツテ役ヲ長ク勤ムルニテアルベシ、士ハ正直ニテ足輕ハ正直ナラヌト云フベキ道理ナク、神君ノ大訓ニ主ニ忠義ヲ思フニ、大身小身上輩下輩ノ隔テ無キト心得ヨト曰タマヘル旨ヲ考ガヘ思フベキコトナリ

問フ、民力ヲ養フコトヲ下知セシ上ヘニテハ、如何ナルコトヲ下知スベキカ、曰ク、民力ヲ養フコト

コヿ知ルベシ上ヘニテハ、農作ノ事ト普請ノ事ト儲蓄ノ事ヲ下知スベキコトナラン
問フ、農作ノ事ハ如何ニ下知スベキカ、曰ク、農業全書ニ云ヘルハ、多ク田畠ヲ作クルコトヲ貪ボルハ
農人コトノ病ナリ、田畠ヲ作クルコト分ニ過グレバ、假令耕作ノ法ヲ能ク知リテモ、人力ノ足ラヌニテ
法ノ如クスルコトハ成ラザルモノナリ、耕作ハ分限ヨリ内端ニシテ、深ク耕ヤシ精シクコナシ厚ク培カフ
ニ利オホシト知ルベシト云ヘリ、此ノ一段農業全書ノ大旨ニテ、郡奉行ノ深ク考ガヘ明ラカニ辨マフベ
キ所ナリ、田畠ノ少ナク山谷ノ多キ州ノ郷村ニテハ、伐畠ト云ヒテ山々谷々ノ地位ヲ定メ、地位ノ好
キ處ハ木ヲ立テ置ク年數スクナク、地位ノ好カラヌ處ハ木ヲ立テ置ク年數オホク、段々ニ見量ラヒテ
木ヲ伐リ伏セ置キ、枝葉ノ枯レタル時ニ燒キ、其ノ灰ヲ養ナヒトシテ諸穀ヲ種フルト見ヘタリ、是レ農
事ノ甚ハダ好カラヌコトナリ、田畠ノ少ナク山谷ノ多キ州ノ郷村ニテモ、彼ノ伐畠ノ好カラヌコトヲ知
レルハ、山々谷々ノ中ニテノ平ラカナル處ヲ山畠ト爲シ、手寄リノ木柴ヲ伐リ寄セ敷キ散ラシ置キ、
枯レタルヲ燒キテ養ナヒトシ、平ラカナラズ片下ガリナル處ハ、段々ト緣ヲ付ケテ段畠ト爲シ、手寄
リニ木柴ナキハ養ナヒト爲ルベキ物ヲ運ビ寄セテ養ナヒトシ、年々ニ諸穀ヲ種フルト見ヘタリ、山々
谷々ノ內ヲ山畠、段畠ニスルヿヲ好マズシテ伐畠ヲ好ム郷村ハ、田畠ノ手入レモ養ナヒモ粗ク成ルコト
自然ノ勢ナリ、山々谷々ノ中ニテノ平ラカナル處ト片下ガリナル處ハ、其年ト翌年ノ內ニ山畠、段畠ト
爲シ得ベキ程ヲ量リテ伐リ明ケ、一作シタル跡ヲ山畠、段畠ニ致シ爲シ、雨水ノ流レ落ツル時ノ水遣

リノ溝ヲ能ク掘リ置キ、作所ノ土ヲ雨水ノ洗ヒ流スコトヲ防ギ、山畠、段畠ニ爲ルベキ處ヲ山畠、段畠ニ爲シ遂グルマデハ年々ニ是ノ如クシ、段畠ニ爲ラヌ程ノ嶮岨ナル處ハ、地位ノ好キ處ヲモ作所トセズ、以前山々ノ伐畠ノ廣キニ用ヒタル手間ヲ田畠ト山畠、段畠ニ用ヒ、手入レ養ナヒヲ精シクスルナラバ、作所ノ畝數ハ減リテ作物ノ取高ハ增シ、秋物ヲ蒔クトテ、伐畠ヲ廣ク伐ルコトヲ止メタルニテ、麥ノ手入レ精シク成リ、取リ收メ早ク成リ、麥ノ取收メノ早キニテ秋物ノ蒔付ケ種付ケ時ニ後レズ、麥ヲ蒔クトテ伐畠ヲ廣ク伐ルコトヲ止メタルニテ、秋物ノ手入レ精シク、取リ收メニ障ワリナク、麥ノ蒔付ケ早ク成リ、麥ノ蒔付ノ早キニテ麥ノ出來モ早ク成ルベシ、段畠ニ成ラヌホドノ嶮岨ナル處ト、嶮岨ナラネドモ耕作ノ利ノ甚ハダ少ナキ處ノ栗ニ宜シキ地ニハ栗ヲ種ヘ、伐株アラバ芽ヲ育テ、櫨ノ能ク實ノル地ニハ櫨ヲ育テ、其外ニハ材ニ成ルベキ木ト、薪ニ成ルベキ木ト、屋ヲ葺キ苫ヲ編ムベキ茅ヲ立テ置キ、桑、楮、竹等ヲモ育テ置クナラバ、食用ヲ足シ雜用ヲ達スルコトノ以前ニ勝レルノミナラズ、山氣ノ衰ロヘヲ補ナヒ、水旱ノ災ワヒヲ減ラスベシ、伐畠ハ雨ノ甚ハダ多キ年ニテモ、雨ノ止ミテハ早キ方ニ雨濕ノ早ク下ガルニテ、雨濕ノ損モ平地ノ畠ノ如クニハナク、雨ノ甚ハダ多キ年ノ伐畠ノ出來平地ノ畠ノ出來ニ勝リ、伐畠ノ畝數ノ平地ノ畠ノ畝數ヨリ多キニテ、穀物ヲ取高平地ノ畠ノ出來ヨリ多キコト希レニアレバ、其ノ希レナル益ヲ見テ年々ノ損ヲ忘レケルト見ヘタリ、久シク風俗ト成リ居ケル弊事ハ、愚ナラヌ人ニテモ其ノ弊事ナルコトヲ知ラザルコト伐畠ニ限ルベカラズ、

大抵人情ハ自身ノ爲シ來レル事ト覺ヘ來レル事ニ執着シ、爲シ來リ覺ヘ來レル事ハ、宜シカラヌヲモ宜シキト云ヒ、爲シ來ラズ覺ヘ來ラヌ事ハ、宜シキヲモ宜シカラヌト云フモノナルニ、弊事ニ馴レタル鄕村ニ下知スル郡奉行ノ心ニ、農作ノ下知ハ一切ニ鄕役人、村役人ニ任セ置クベキコトト思ヘルハ、心ヲ用フルコトノ精シカラザルナリ、農作ノ弊事ニ馴レタル鄕村ノ役人、百姓ノ中ノ俊秀ナル人ノ或ヒハ農書ヲ見テ弊事ヲ改タメ、或ヒハ自心ヨリ悟リテ弊事ヲ改タメ、流俗ニ違フテ宜シキコトヲ爲シ覺ヘタルヲ聞キ集メ、農書ノ意旨ニ引キ合セ、下知ノ覺書ヲ草案シ、鄕役人ヲ一人ヅツ段々ト郡奉行所ニ招キ寄セ、覺書ノ草案ヲ見セテ其ノ云ヘル旨ヲ聞キ、郡奉行ノ知慮ニ勝レルコトヲ云フ所アラバ、是レヲ用ヒテ草案ノ中ヲ書キ直シ、淸書シテ鄕役人ニ渡ス時ノ口上ニ、各ノ鄕中ノ村役人ヲ各ノ宅ニ呼ビ寄セ是ノ覺書ヲ讀ミ聞カセラレ、村役人ノ思ヒ寄リヲ云ヘルハ少シモ控ヘズ此方ニ申シ聞ケラレヨ、其ノ云ヘル所ノ此方ノ智慮ニ勝レルハ一々ニ取リ用ヒ、是ノ覺書ノ中ノ何々ノ所ハ何村ノ役人ノ申シ出デニテ改タメタルト書キ、各ニ內談ノ時ニ思ヒ寄ラレズ、覺書ノ淸書ヲ渡シタル以後ニ思ヒ寄ラレシ事アラバ、是レ亦タ少シモ控ヘズ此方ニ申シ聞ケラレヨ、其ノ申サルヽ所ノ此方ノ智慮ニ勝レルハ一々ニ取リ用ヒ、是ノ覺書ノ中ノ何々ノ所ハ何鄕ノ役人ノ申シ出デラレシニテ改タメタルト書キ、重ネテ覺書ヲ渡スベシ、今度ノ覺書ノ趣ヲ村下知人ヨリ村中ノ百姓ニ云ヒ知ラスルモ、重ネテノ覺書ノ趣ヲ云ヒ知ラスルモ、夜分ニ村中ノ百姓ヲ一所ニ呼ビ寄セ云ヒ知ラセ、晝ノ働ラキニ少シ

モ障ソラヌ様ニ致サセラレヨト云ヒ渡スベキコトナリ、其ノ上ヘニテ郡奉行ノ下知ヲ村々一同ニ守ラヌ郷アレバ、其ノ郷々ノ役人ヘ覺書ニテノ云ヒ渡シニ、各ノ郷ノ百姓ハ此方ノ下知ヲ守ラヌト見ヘタリ、百姓ノ郡奉行ヨリノ下知ヲ守ラヌハ、村役人ノ心ニ郡奉行ノ下知ヲ同意セヌ故ナリ、村役人ノ心ニ郡奉行ノ下知ヲ同意セヌハ、郷役人ノ心ニ郡奉行ノ下知ヲ同意セラレヌ故ナリ、然レバ各ノ不同意ノ事ヲ各ノ郷中ニ下知スベキ道理ナシ、是レニ依リテ今度ノ下知ヲ各ノ郷ニハ止ムルナリ、其ノ趣ヲ各ノ郷中ノ村役人ヲ以テ村々ノ百姓ニ云ヒ知ラセラレヨト云ヒ渡スベキコトナリ、其時ニ彼ノ郷役人中ヨリ郡奉行ヘノ申シ出デニ、某等郷役人ノ器ニ當ラヌ所ヨリ、郡奉行ノ下知ヲ村々ノ百姓ノ受ケ守ル様ニ、村役人ヲシテ下知セシムルコトヲ爲シ得ズ、速ヤカニ役儀ヲ許シタマワンコトヲ願ヒ申スト申シ出デ、村役人モ郷役人ノ心ニ從ガヒテ、何レモ郷役人ノ申シ出デノ如クニ申シ出ヅルナラバ、郡奉行ノ答ヘニ、郷役人、村役人ノ以前ヨリ勤メ來レル事ヲ滯リナク勤メラルヽニ、今度吾等ノ別シテ農作ノ事ヲ下知スルヲ百姓ノ受ケ守ル様ニ下知セラレヌトテ、君上ヨリ各ノ役儀ヲ除ケタマフベキ道理ナク、各ノ申シ出デラルヽトテ郡代ニ申シ達スベキ道理ナシ、各ノ心ニ以前ヨリノ爲シ來リ宜シク、今度ノ下知ハ宜シカラヌト思ワルヽト、吾等ノ心ニ今度ノ下知ハ宜シク、以前ヨリノ爲シ來リ宜シカラヌト思フトノ兩様ノ道理イヅレカ勝レルト云フコトハ各モ見極メ得ラルマジ、吾等モ見極メ得ヌ所ナリ、吾等ヨリ今度下知スルハ試ミニ下知スルナレバ、決定ノ下知ニテハナシ、吾等ノ下知同意ノ郷役

人ノ鄕ノ村々ニ吾等ノ下知三四年モ行ナワレシ時ニ、以前ヨリノ爲シ來リト今度ノ下知トノ勝劣ノ驗シ見ユルニテアルベシ、其時ニ以前ヨリノ爲シ來リ勝レルト知レタルナラバ、吾等ヨリノ下知ヲ止メ、以前ヨリノ爲シ來リニ復スベシ、其時ニ今度ノ下知ノ勝レルト知レタルナラバ、各ノ鄕中ニ以前ヨリノ爲シ來リヲ改タメ、今度ノ下知ヲ受ケ守ルコトヲ云ヒ付ケラレヨ、各モ吾等モ自分ノ我意ヲ立テズ、何レニモ君上ノ爲メ百姓ノ爲メニ宜シキ樣ニ下知セズシテ叶ワヌコトナリト云ヒ諭サバ、役儀ヲ强ヒテ辭退スル中シ立テノ詞ハ屈スルニテアラン、郡奉行ノ下知不同意ノ鄕役人中ニ是ノ如ク云ヒ諭シ置キテ、郡奉行ノ下知同意ノ鄕役人ノ鄕ノ村役人中ニ、郡奉行ヨリノ云ヒ渡シニ、各ノ鄕ノ頭役ハ吾等ノ下知同意ト見ヘタルナレバ、各モ頭役ノ下知ヲ受ケ守ラレヨ、百姓ヘノ云ヒ付ケモ上邊ノ云ヒ付ケマデニテ、百姓ニ吾等ノ下知ヲ守ラセラルヽ實意ナク、自分ノ農事ハ舊弊ヲ改タメズシテ、百姓ノ農事ニ舊弊ヲ改タメヨト云ヒ付ケラルヽトモ、百姓ノ受ケ守ルコトハアルマジ、然レバ各ノ村ノ百姓吾等ノ下知ヲ守ラヌハ、百姓ノ守ラヌニテハナク、各ヨリ百姓ニ吾等ノ下知ヲ守ラシメラレザルナリ、鄕役人ノ心ニ吾等ノ下知ヲ不同意ニ思ヘル鄕內ノ村々ノ役人ノ中ニハ、假令吾等ノ下知ヲ其村ノ百姓ニ守ラシメタク思ワルヽ人アリトモ、其ノ鄕ノ頭役ノ心ニ違フコトヲ憚カリテ、吾等ノ下知ヲ村中ノ百姓ニ守ラシメラルヽコトノ成ラヌ勢モアルベシ、鄕役人ノ心ニ吾等ノ下知ヲ同意ニ思ヘル鄕內ノ村々ノ役人ハ、吾等ノ下知ヲ村中ノ百姓ニ守ラセ得ラルマジキ道理ナシ、吾等ノ下知ヲ百姓ノ守ルカ守ラザ

ルカヲ足輕目付ニ見廻ラセ、目付ノ云フ所ヲ聞キ合セ、他ノ筋ヨリモ尋子聞キテ、目付ノ云フ所ニ考ガヘ合セ吟味ヲ極ムルニアルベシト云ヒ渡サバ、其郷ニ郡奉行ノ下知ノ行ナワレヌコトハアルマジ、其ノ郷ニ下知ノ行ナワレ利益段々ニ見ヘ、其ノ他ノ郷ニ見及ビ聞及ブニナラバ、終ニハ其ノ下知州中ノ郷村ニ殘リナク行ナワルベシ、下知ノ覺書ノ郷役人ノ中ニテ讀ミ書キニ達シタル人ノ能ク落チ著ク様ニ精シク書キ述ブベキコトナリ、粗ク書キ述ベタラバ讀ミ書キニ達シタル郷役人ニテモ落チ著キ得ザル所アリテ、讀ミ書キニ達シタルト云フホドニナキ郷役人ハ落チ著カザルコト多カルベシ、覺書ニテ云ヒ渡スハ下知ニ益アルコト多シ、口上ニハ聞キ違ヘアリ、聞キ落シアリ、其ノ時ニ聞キ得テモ後ニ忘ルヽヿアリ、下知ヲ爲スニモ書キ述ベテ見レバ、誤マレル所ヲ見出ダシ、足ラヌ所ヲ見出ダシ、過ギタル所ヲ見出ダシ、心ニ思ヒタルマデノ吟味ハ書キ述ベ置キテ吟味スルホドニハ爲ラヌモノナリ、下知ノ覺書ノ草案ニテ郷役人ト内談スル時ニモ、覺書ノ清書ヲ渡シタル以後ニ郷役人村役人ヨリ申シ出ルコトアル時ニモ、郡奉行ヨリノ口上ニ郡奉行ニ命ジタマヒテ、郷役人、村役人ノ頭役ヲ勤ムルサヘ心得ニ過マリアリテ、其ノ過マリヲ郷役人、村役人ノ申シ知ラセラルヽニテ改タムルコトアルナレバ、郷役人、村役人ノ過マリテ申サルヽコトヲ咎ムベキ道理ナシ、吾等ノ過マリハ各ヨリ申シ知ラセラレテ改タムベシ、各ノ過マリハ吾等ノ云ヒ諭スニテ改タメラレヨト云ヒ、眞實ヲ以テ相談シ、郡奉行ミヅカラ先ヅ其ノ我意ヲ戒シメ改タメテ、郷役人、村役人ノ我意ヲ戒シメ諭スベキコトナリ、上邊

ニハ下知ヲ受ケ、內心ニハ我意ヲ立テヽ下知ヲ妨タグル鄕役人、村役人ヲ郡奉行ヨリ內證ニテ戒シメ諭シテモ改タメヌカ、又ハ其ノ身ヨリ差出ス書付ニ下知ヲ妨タグル意ノ見ヘ、是レヲ正シテモ服セズ、無理ナル辯ニテ强ヒテ云ヒ分ケスルナラバ、無理ノ辯ヲ正ダシ置キ、其人ノ役ヲ除ケタマワンコトヲ郡代ニ請ヒ申サズシテ叶ワヌコトナリ、是ノ如クナラバ我意ノ少ナキ役人ハ我意ヲ改タメ、我意ノ少ナキニテモナク、甚シキト云フホドニテモナキ役人ハ、面ヲ改タメテ郡奉行ノ下知ヲ守リ、下知ノ妨タゲニ成ルト云フホドノ事ハアルマジキナリ

問フ、普請ノ事ハ如何ニ下知スベキカ、曰ク、農政ノ未ダ精シカラズ、獘事ノ未ダ改タマラヌ州ノ鄕村ニテノ普請ノ第一ニハ、村々ノ川筋川岸ノ好カラヌ所ノ好クナル普請、第二ニハ平地ノ畠ノ左右ノ山々ヨリ流レ下ル雨水ノ畠ニ流レ出ヌ樣ニ、溝ヲ掘リ川筋ニ流シ入ルヽ普請、第三ニハ平地ニ水ノ掛カルベキ溪水アル所ニ井手ヲ設クル普請、第四ニハ濕氣アル畠ニ水拔ノ溝ヲ掘リテ、川筋ニ濕氣ヲ拔キ出ス普請、第五ニハ山畠、段畠ニ成ルベキ處ニ緣ヲ付クル普請、第六ニハ山畠、段畠ニ成ルベキ處ニ石ノ多キヲ、其ノ邊ノ水筋ノ左右ニ取リ立テ川岸ノ樣ニ爲シ置ク普請、第七ニハ山畠、段畠ニ爲ルベキ處ニ木ノ根ノ多キヲ掘リ除ケ伐リ除クル普請ナリ、第一ノ川普請ノ中ニテ何鄕ノ川普請ハ何村ノ川ヨリ始メ、其次ハ何村ノ川ニ普請スベシト其鄕ノ鄕役人村役人ヨリ、鄕村ノ普請ノ下知ヲ總ベ勤ムル役人ニ相談シ次第ヲ立テ、第一ノ普請ノ濟ミタル上ヘニテ第二ノ普請ニ掛カリ、第二ノ普請ノ濟ミ

タル上ヘニテ第三第四ノ普請ニ掛カリ、差シ急ギ普請スベキ所ノ見ヘ來レル時ハ、第一ノ普請ノ濟マザル中ニ第二第三第四ノ普請ヲモ交ヘ爲シ、其ノ鄕中ノ村々ノ人夫ヲ合セテ爲スベキ普請ハ合セテ爲シ、其ノ鄕中ノ村々ノ人夫ヲ二ツ三ツカ四ツ五ツニ分ケテ爲スベキ普請ハ分ケテ爲シ、毎年ノ農隙ニ相應ニ日數ヲ定メテ百姓ヲ使ヒ、第五第六第七ノ普請ハ或ハ其ノ村ノ人數ヲ合セテ爲シ、或ハ組中ニテ爲シ、或ハ其ノ地ヲ請持チタル百姓ノ家內ノ人數ノミニテ爲シ、油斷ナキ樣ニ郡奉行ヨリ下知スベキコトナリ、川普請ニ川筋ノ曲レルヲ直グニ改タメ掘リテ利アルコトモアリ、害アルコトモアリ、大ヒニ曲レルヲ直グニセバ、曲レル處ノ田畠ト爲レル利アラントテ一偏ニ利ヲ求メタラバ、改タメ掘リタル川ニ洪水ノ時ノ水勢ハナハダ强ク成リ、新川ノ水ヲ川下ノ舊川ニ受クル所ニテ川岸ヲ突キ破リテ、其ノ川下ノ田畠ヲ害ナフコトモアラン、若シ新川ノ川床川岸ニ岩アリテ相應ニ深ク掘リ廣ク掘ルコト爲ラズ、直グナル川ノ淺ク狹キハ洪水ノ時ノ水勢ノ强キコト殊ニ甚シク、其ノ新川ノ水ヲ川下ノ舊川ニ受クル所ニテ川岸ヲ突キ破ラバ、田畠ヲ害ナフコト大ヒナルベシ、川筋ヲ掘リ替ルニハ、普請ノ下知ヲ總ベ勤ムル役人ノ心ニ任セテ掘リ替ルコトヲ制シ、其ノ鄕其村ノ役人ノ云フ所ヲ聞キ合ワスルノミナラズ、其鄕其村ノ百姓ノ中ニテノ俊秀ナル者ト、老年ナル者ノ云フ所ヲモ聞キ合セ、僉議ヲ遂ゲ吟味ヲ窮メシ上ヘニテ決スベキコトナリ、凡ソ新川ト爲サントスル處ハ、先ヅ川床川岸ニ岩ノ有リ無シヲ見セシメ、岩アルナラバ假令ソノ新川ヲ深ク掘リ廣ク掘ルコトノ成ルベキ處ニテ、洪水ノ

時ニ川下ノ田畠ニ害アルマジキ處ナリトモ、新川ニスルハ宜シカルマジ、岩ヲ切ルハ大分ノ手入リニテ、其外ノ差シ急グベキ普請ノ延引ニ成ル害アルベシ、切ルベキ岩ノ間數ノ少ナクシテ、切リ除クル手入リノ輕キト分明ニ見ヘタル處バカリ切リ除ケテ宜シカルベシ、何レニモ僉議吟味ヲ精シクスベキコトナリ、普請ノ未ダ濟マザル所ノ多キ鄕村ニテ、干出開田ノ普請ヲ先キニスルハ甚ダ宜シカラヌ事ナルベシ、干田開田ノ普請ヲ段々ニ爲サシムルニナラバ、十年ニモ二十年ニモ濟マズシテ、村々ノ川普請其外ノ普請モ爲シ得ズ、品々ノ普請ノ延引スル損分ハ、干出開田ノ段々ニ成レル利分ヨリハ多カラン、品々ノ普請ノ濟ミ居テ、只ダ不時ノ洪水ニ破損シタル所ヲ修理スルマデニ成シ置キタル州郡ノ干出開田ノ普請ト同ジ樣ニハ心得マジキコトナリ、蘆ヲ種ヘテ能ク育ツ節ニ干出ノ處ニ段々ト蘆ヲ種フレバ、年々ノ大雨ノ時ニ流レ來タル濁水ノ土沙ト、草木ノ枯葉ヲ蘆ノ莖葉ニ留ムルニテ地ノ揚ガルコト早キト云フナレバ、其ノ如クシテ干出ノ高サノ其村ノ畠地ト同ジ高サニ成リタル時ニ畠ト爲シ、川上ノ水ノ强弱ト、其ノ邊ノ出水ノ强弱ヲ精シク考ガヘ、水ノ必ラズ達スベキ處バカリ田ト爲スベキホドニ地ノ揚ガリタル時ニ、土手ヲ構ヘ潮ヲ防ギテ田ト爲スベキコトナリ、水ノ達スベク達スマジキノ考ガヘ精シカラズシテ、潮ヲ防グ土手ニ民力ヲ多ク用フルハ甚ハダ好カラヌコトナルベシ、鄕村ノ普請ヲ總ベ勤ムル役人ハ、鄕役人ノ中ニテ普請功者ノ第一ト知レタルヲ選ビ用ヒラレンコトヲ郡奉行ヨリ郡代ニ請ヒ申スベキコトナリ、鄕々ノ普請ヲ其鄕ノ役人ニノミ任セ置クハ宜シカラズ、普請功者

ノ第一ト選バレ普請ノ下知ヲ總ベ勤ムル役人ニ任セ置クモ宜シカルマジ、毎年ノ秋ノ中ニ其年ノ冬ヨリ翌年ノ春マデノ普請ノ事ヲ、郷々ノ役人ト普請下知ヲ總ベ勤ムル役人ニ、面々ノ思ヒ寄リヲ書付ニテ云ヒ出サシメ、郡奉行コレヲ考ガヘ合セ、道理ノ勝レルト劣レルトヲ吟味シ、勝レルヲ擇ビテ差圖スベキコトナリ、凡ソ才智ノ勝リ氣象ノ秀デタル人ノ中ニハ、自カラ用フルコトヲ好ミテ人ニ問フコトヲ好マヌモアリ、是ノ如キ人モ頭役ノ前ニテハ謙クダル様ニ見スレドモ、同列ノ役人ニ對シテハ謙クダラヌコト多キモノナルユヘ、是レヲ使フ頭役ノ心得アルベキコトナリ、普請功者ニテ普請下知ヲ總ベ勤ムル役人ノ云フ所ノ十事ニ八九事マデ宜シキハ其ノ宜シキヲ稱美シ、十事ニ一二事ノ宜シカラヌハ其ノ宜シカラヌヲ正ダシ、其ノ一二事ツヒニ其身ノ云フ所ヲ用ヒラレヌヲ快ヨカラズ思ヒテ病ニ託シ役ヲ辭スルコトアラバ、是レヲ諭ス詞ニ事物ノ道理ハ愚夫モ與カリ知リ、聖人モ盡シ得タマワヌトアルナレバ、普請ニ不功ナル郷役人、村役人ノ云フ所モ十ニ一二ハ道理ノ勝レルコトモアリテ、普請功者ノ云フ所モ十ニ一二ハ道理ノ劣レルコトモアラン、假令郡奉行ノ吟味ノ過マリニテ、不功ノ人ノ云フ所ノ劣レルヲ勝レルト思ヒ、功者ノ云フ所ノ勝レルヲ劣レルト思ヒ、用フベキヲ捨テ捨ツベキヲ用フルトモ、十事ニ八九事功者ノ云フ所ヲ用フルナレバ、十事ニ一二事功者ノ云フ所ヲ用ヒヌトテ役ヲ辭セラルベキコトニアラズト懇切ニ云ヒ諭サバ、強ヒテ役ヲ辭スルコトハアルマジ、其人ノ快ヨカラズ思フベキトテ、正スベキ事ヲ正サズバ、其人ノ自カラ用フルコトヲ好ミテ人ニ問フコトヲ好マヌ病ヲ助ケ長

ジ、郷々ノ役人ノ心ニ郡奉行ノ普請功者ヲ一偏ニ用フルコトヲ憤ドホリ、思ヒ寄リアリテモ云ヒ出デス、普請功者ノ過マリハ段々ニ增シ、普請下知ヲ總ベ勤メシムルコトノ爲ラヌ勢ニ成リ、天ヨリ其州ノ郷村ノ爲メニ生ジタマヘル人才ヲ、郡奉行ノ用ヒ樣ノ好カラヌニテ用ヒ遂ルコトヲ成シ得ザルベシ、是レ郡奉行ノ愼シミ思フベキ所ナリ

問フ、儲蓄ノ事ハ如何ニ下知スベキカ、曰ク、糓麥ノ出來七分以上ノ年ニ相應ニ出シ立テ、四分以下ノ年ニ相應ニ取リ用フル是レ儲蓄ノ大法ナラン、其ノ出シ立テノ格ハ、其ノ州ノ郷村ノ役人ヨリ郷村ノ俊秀ナル百姓ニ相談シテ申シ出ヅル中ニテ、殊ニ勝リテ宜シカルベキト、吟味ノ極マリタルヲ、州中ノ郷村儲蓄ノ出シ立テノ格ニ定ムベキコトナリ、財ノ餘リアルト見ヘタル時ニ用ヲ廣メズ、其ノ餘リノ分ヲ引キ除ケ置キテ、足ラザル時ノ差シ足シニスルハ人情ノ爲シガタキ所ニテ、自心ヨリ思ヒ付ケテ其ノ如クスル人ハ希レナリト見ヘタルナレバ、其ノ如クスルコトヲ郡奉行ヨリ郷役人、村役人ヲ以テ百姓ニ勸メテモ、得心スル者ハ有リガタカラン、然レバ儲蓄ノ格ヲ定メズシテ叶ワヌコトナルベシ、州府ニ米ノ蓄ワヘ多ク、郷村ニ凶年ノ續キテモ、諸士足輕ノ祿米ト郷村百姓ノ救米ニ足ラザルコトアルマジキト見ヘタルニテモナキニ、凶年ノ續キタル時ノ年貢ヲ足シ、食用ヲ足スベキ儲蓄ノ格ヲ定メズ、目前ノミヲ見テ後日ヲ量ラザル百姓ノ郡奉行ヲ譏リテ、有リ來リタルマヽニ爲シ置カズ、無用ノ新法ヲ出スト云ワンコトヲ迷惑ニ思ヒ、何事モ備ワリタル州ノ郡奉行ノ以前ヨリ行ナワレ居ケル政道ノ廢レ

ズ、新タニ宜シカラヌ事ノ起ラヌ樣ニ心ヲ用フル迄ニテ、心ヲ勞シ思ヲ苦シムルコトノ少ナキニ做ワントスルハ、其ノ州郡ト他ノ州郡ノ同ジカラヌ所ヲ辨マヘザルナリ、主君ヨリ郡奉行ノ役ヲ命ジタマヒ、郷役人、村役人ノ役頭ト爲リテ百姓ニ下知スルニ、目前ノミヲ見テ後日ヲ量ラザルハ有ルマジキコトナリ、儲蓄ノ格ヲ定メテモ七分以上ノ年ノ糴麥ノ出シ立テ、四分以下ノ年ノ取リ用ヒニ足ラザル樣ニ成リ行クハ、百姓ノ通情ニ儲蓄ノ糴麥ヲ出シ立ツル年ニハ、相應ニ出スコトヲ嫌ヒテ、不相應ニ少ナク出スコトヲ好ミ、儲蓄ヲ取リ用フル年ニハ、相應ニ取ルコトヲ嫌ヒテ、不相應ニ多ク取ルコトヲ好ム故ナリ、貧民ヘノ借米ヲ備ヘ置カレ、食用ノ盡キタル時ニ借リ用ヒ、米ノ出來タル時ニ返シ納ムル格アリテモ、借ルニハ多ク借ルコトヲ好ミ、返スニハ少ナク返スコトヲ好ム所ヨリ、其米漸々ニ減リテ、終ニハ其ノ格ノ廢ルヽト同ジ道理ナリ、儲蓄モ借米モ役人ノ差引ノ好カラヌ所アリテ、其ノ格ノ廢ルヽコトアレドモ、右ニ云フ所モ儲蓄ト借米ノ相續シ難キ道理ノアル所ナリ、其ノ相續シ難キ事ノ相續スル所ハ、郡奉行、郷役人、村役人ノ心ヲ用フル事ノ厚クシテ深キニアルナリ、先年以來甘藷ヲ種ヘ覺ヘタル郷村ノ事ヲ聞クニ、品々ノ秋物損毛ノ甚シキ村ニテモ、甘藷ハ常年ノ出來ノ半分ホドハ出來ルト云ヒ、常年ノ出來多キコト他ノ秋物ノ出來ニ甚ハダ勝レルト云フナレバ、是レ天ノ人ヲ救ヒタマヘルナリ、藷根ヲ切リ蒸シ晒シテ藷根ト爲シタルハ、夏ヲ經テモ蟲付クコトナク、腐ルコトナク、味ノ替ルコトナク、穀物ノ足ラザルヲ足シテ民食ニ益アル物ノ是レニ及ブハアルマジ、郡奉行ヨリ郷

村ニテ諸ノ種ヘ様ノ殊ニ宜シキ事ヲ爲シ出セルヲ聞キ立テサセ、村々ニ下知シテ普ネク教ヘサセ、漫リニ廣ク種フルコトヲ制シテ、手入レヲ精シクスルコトヲ勸ムルナラバ、其ノ利益段々ト大ヒニ成リ、儲蓄ノ籾麥ヲ出スニハ少ナク出スコトヲ好ミ、取ルニハ多ク取ルコトヲ好ム通情漸々ニ薄ク成リ、儲蓄相續ノ助トモ成ルベシ、蕃根ハ菜根ナレドモ、是レヲ得ルコト義ニ害ナクバ、食スル人ヲ賤シムベカラズ、粳米ハ上穀ナレドモ、是レヲ得ルコト義ニ害アラバ、食スル人ヲ賤シムベシ、自家ニ食ノ足レルトテ、他人ノ食ノ足ルマジキヲ憂ヒザルベキ道理ナク、今日ノ食ノ足レルトテ後日ノ食ノ足ルマジキヲ憂ヒザルベキ道理ナク、今日ノ食ノ足レルトテ、後日ノ食ノ足ルマジキヲ慮バカラザルベキ道理ナシ、若シ一方ノ諸州ニ凶年ノ續キテ他領ノ米ヲ買ヒ得ルコトモ爲ラズ、多キ貧賤ノ人ニ食用ノ足ラザル時アラバ、少ナキ富貴ノ人ニモ安カラヌ所アルベシ、然レバ富貴ノ人ニテモ諸ノ廣ク人ヲ養ナフ德ヲ尊トブベキコトナリ、

問フ、郡奉行ヨリ鄕村ノ爲メニ弊ヲ除キ利ヲ興サントスル下知ヲ始メシ時ニ、同意ノ郡奉行交代シ、其ノ代リヲ命ジタマヘル郡奉行ノ心ニ弊ヲ除キ利ヲ興サントスル下知ヲ不同意ニ思ヘルナラバ、下知ヲ始メシ郡奉行如何ニ處置スベキコトナルカ、曰ク、新タニ命ジタマヘル郡奉行ニ心ヲ盡シ告ゲ諭シテモ得心セズ、郡代ヨリノ諭シモナキト見ハタラバ、病ニ託シ役ヲ辭シ其ノ僉議シ吟味シタル旨ヲ書キ述べ置キテ、後ノ郡奉行ノ考ガヘニ遺スベキコトナリ、弊ヲ除キ利ヲ興サントスル道筋ノ下知ヲ始メ

置キタルヲ、其ノ主意不同意ノ人ノ其後ニ下知スルニ成ラバ、損益ニ量ラレザル所アルベケレドモ、下ヲ損ジ上ヲ益サントスル道筋ノ下知ヲ始メ置キタルヲ、其ノ主意同意ノ人ノ其後ニ下知スル時ノ害ノ樣ニハアルマジ、一州ノ鄕村ノ役人ノ中ニテ殊ニ勝リタル役人ト、一州ノ鄕村ノ中ニテ殊ニ勝リタル農民ノ爲シ覺ヘシ事ヲ聞キ集メ、僉議ヲ遂ゲ吟味ヲ窮ムルコト、郡奉行ヲ數年ツトメテ鄕村ノ大槩ヲ知リタル上ヘナラデハ爲リガタク、其ノ聞キ集メモ僉議吟味モ一年二年ナドニテハ爲リガタク、殊ニ勝リタル鄕役人ト、殊ニ勝リタル農民ハ、何レノ時ニテモ常ニ有ルモノニテハナキナレバ。郡奉行ノ聞キ集メ僉議シ吟味シタル旨ヲ書キ述ベテ、後ノ郡奉行ノ爲メニ遺シ置クコト終ニ其州ニ益アルベシ、其時ニ行ナワレヌトテ益ナシトハ云フベカラズ

問フ、郡奉行ニ鄕村ノ弊ヲ除キ利ヲ興サントスル志ザシ無ク、郡代ニ其ノ志ザシ有ラバ、其郡代ノ處置ヲ如何ニスベキコトナルカ、曰ク、郡奉行ノ下知スベキ事ヲ、郡代ヨリ郡奉行ヲ取次ニシテ下知シ、其ノ下知ノ滯レルト滯ラザルトヲ足輕目付ニ云ワセテ聞キ、郡代ヲ勤ムル人ノ足輕目付ニ事ヲ聞クハ、當ラヌ行ナヒナリト云フ譏リヲ用ヒズシテ切々ニ事ヲ聞キ、小祿ノ士ノ中ニテ愼シミアルト見ヘタル人一人ヲシテ、郡代ノ殊ニ下知スル農政ノ事ヲ記錄セシメ、百姓ヨリ出ダス夫使帳、出銀帳ノ事ヲ吟味セシメ、夫使帳、出銀帳ハ郡代ト其ノ人一人ヨリ外ハ決シテ誰モ見ルコトノ爲ラヌ樣ニスベキコトナリ、

問フ、農政ノ行ナワレテ其ノ州ニ益アルト云フ事ノ中ニテ、最トモ重キハ如何ナル事ナランカ、曰ク、民力ヲ養ナフ事ト農作普請儲蓄ノ事ヲ下知シテ、食ノ足レルハ信義ヲ敎フル基本ト成リ、兵ヲ足ス基本トモ成リ、食ヲ足シ兵ヲ足シテ民コレヲ信ズルナラバ、以後ニ至リ若シ大君ノ命令ノ一方ノ諸州ニ行ナワレズシテ、强キハ弱キヲ呑ム時アリトモ、其州堅固ニシテ長久ナラン、是レ農政ノ行ナワルヽ、益ノ最トモ重キ所ナリ、孟子ハ諸侯ノ寶三ツ、土地、人民、政事ナリト曰タマヘリ、土地人民ノ寶ナルコトハ知レル人ノ多ケレドモ、政事ノ寶ナルコトハ知レル人ノ少ナキト見ヘタリ、郡代郡奉行ノ眼ヲ着クベキ所ナラン

農政問答 終

伊奈鄉農事錄

伊奈郷農事錄

元祿寳永ノ間ダ某ニ郡奉行ヲ命ジタマヒ勤役九年ナレドモ愚蒙ニシテ下知ノ道ヲ知ラズ、郷村ニ益ナクシテ空シク職名ヲ蒙ムリシニ成レリ、享保中ニ郡支配ヨリ八郷ニ農政ヲ發セラレ、伊奈郷ノ事ハ郡奉行所ノ佐役江口正之ヲシテ折々ニ監セシメラル、某ガ親族ノ中ニ正之ニ親シキ人アリテ、伊奈郷ノ事ヲ聞キ某ニ語レルニテ、農政ノ伊奈郷ニ行ワル丶次第ヲ聞キ得タリ、某元ヨリ病身ナルニ、今年享保丙午ニ至リテ既ニ七十歲ニ及ビヌレバ、筆ヲ執リ事ヲ記スニ堪ヘ難ケレドモ、郡支配郷村農事ノ弊ヲ除カレ、國家長久ノ本ヲ養ワル丶ヲ慮パカリ、遠ク伊奈郷奉役財部德久豊田常直相共ニ農政ノ旨ヲ信ジ、職分ニ心ヲ盡シテ下知ノ處置ヲ宜シクスルコトヲ感ジ、氣力ノ勞疲ヲ扶ケテ此ノ書ヲ編錄ス、前ノ郡支配ヨリ八郷奉役ヲシテ老農ノ說ヲ聞キ集メタル覺書ヲ出サシメラレ、某ヲシテ老農類語ヲ編セシメラレシハ、農政ノ起レル時ノ考ガヘニ備ヘ置カレケルナラン

伊奈郷ノ段畠ノ下知享保乙巳ノ秋ニ始マリ、其年ノ冬ニ至リテ段畠ノ爲シ様ノ最初ニ勝レル次第ヲ聞クニ、段畠ニ成ルベキ地形ノ中ニテ少シ嶮岨ナル處ノ岸ヲ高クスレバ、段畠ノ横幅ソノ分ホド廣ク成レドモ、岸ノ高キハ崩ルベキ恐レアルユヘ相應ニ低クシ、上手ノ段ノ岸ハ少シ高クシ、譬ヘバ四段ノ

段畠ニ成ルベキ處ナラバ、一段目ト二段目トノ間ノ岸ニ成ルベキ通リニ二ツノ筋ヲ引キ、上手ノ筋ヲ二段目ノ段畠ノ端ニ極メ、其ノ筋ノ下手ニ二尺ニテモ三尺ニテモ見量ラヒ、間ヲ置キテ引キタル筋ヲ二段目ノ岸ナリニ、或ヒハ草株ヲ重ネ、或ヒハ石ヲ積ミテ岸留トスル根筋ニ極メ、其ノ根筋ノ通リト一段目ノ段畠ノ中程ニ成ルベキ通リトノ間ノウワ土ヲ底ノ苦土ノアラワルヽホドニ掘リ、中程ニ抓キ下ゲテ積ミ立テ、中程ト下手ノ端ニ成ル處トノ間ノウワ土ヲモ少シハ中程ニ抓キ上ゲテ積ミ立テ、上手ノウワ土ヲ中程ニ抓キ下ゲタル跡ノ高ミト低ミト同ジ並ミニ成ル樣ニ高ミノ苦土ヲ掘リ、其ノ苦土ヲ手モツコニ入レ、其ノ處ヨリ直グニ下手ノ方ノウワ土ノ上ヘニ投ゲ遣リテ平ラカニ敷キ並ラシ、其ノ上ヘニ初メ中程ニ積ミ立テ置キタルウワ土ヲ敷キ、苦土ヲ取リタル跡ニモ一面ニ敷キ並ラシ、一段目ヲ其ノ如ク爲シ終リテ、二段目ノ段畠ノ上手ノ端ニ極メタル筋ト、二段目ノ段畠ノ岸留ヲ根筋ニ極メタル筋トノ間ノウワ土ヲ、二段目ノ上手ノ端ニ極メタル筋ニ抓キ上ゲ、底ノ苦土ヲアラワシ置キ、其ノ段畠ノ下手ノ端ニ極メタル筋ヨリ下ノ苦土ヲ、岸ノ山手カタムキニ成ル樣ニ切リ手モツコニ切リ入レテ、立チナガラ二段目ノ段畠ノ中程ニ成ルベキ筋ニ投ゲ上ゲテ、低ミト高ミト同ジ並ミニ成ル樣ニ地ヲ揚ゲ抓キ並ラシ、上手ノ端ニ抓キ上ゲ置キタルウワ土ヲ抓キ下ゲテ敷キ並ラシ、三段目四段目ノ段畠ノ並ラシ樣モ岸ノ立テ樣モ、二段目ノ段畠ノ並ラシ樣ト岸ノ立テ樣トノ如クシ、苦土モウワ土モ新タニ置キタルハ居付キテ後ニ低ク成レルモノナルユヘ、段ノ下手ノ端ノ方ヲ段ノ上手ノ端ノ方ヨ

リモ少シ高クシ置キテ、居付キタル時ニ同ジ高サニ成レル様ニシ、段畠ウワ土ノ分量、大抵二段目ハ一段目ヨリモ薄ク、三段目ハ二段目ヨリモ薄ク、四段目ハ三段目ヨリモ薄キモノナルユヘ、二段目ノ段畠ノウワ土ノ足ラザルハ三段目ノウワ土ヲ投ゲ遣リテ足シ、三段目ノ段畠ノウワ土ノ足ラザルハ四段目ノウワ土ヲ投ゲ遣リテ足シ、四段目ノ段畠ノウワ土ノ足ラザルハ、其ノ上手ノ嶮岨ニテ段畠ニ成ラヌ處ノウワ土ヲ抓キ下ゲテ足シ、右ノ爲シ様ニテ出來タル段畠、横幅ノ最トモ狹キハ三尺ニ成リ、片下リナル中ニテノ穩ヤカナル處ノ段ハ横幅ソノ分ホド廣ク、段畠ト爲ス處ニアル草ノ根株ヲ掘リ起シタルハ、根ヲ岸ニ付ケテ岸ナリニ並ベ、重子石ヲ掘リ出ダシタルハ、岸ナリニ並ベ積ミテ土留メニシ、積ミタル石ノ段畠ノ端ノ高サニ及バスニモ、草ノ根株ヲ並ベ重子テ足シ、土ノハラケタル處ヲ段畠ト成セシハ、岸留ノ棡ヲ山手カタムキニ掛ケ、岸ニ並ベ重子タル草ノ根株ノ茂リ續キテ岸ヲカラムニ成ルマデノ棡ナルユヘ、大橛ヲ用ヒズ小橛ニテ棡ヲ掛ケ、乙巳ノ冬ノ段畠ノ爲シ様ヲ右ノ如ク爲セルニテ、乙巳ノ秋ニ爲セル段畠ヨリハ手入リ少ナク今春ニ至リテモ宜シキ爲シ様ヲ段々ト爲シ出ダシケルト聞ク、段畠ノ爲シ様ヲ某ガ思ヒ寄リシ次第ハ、嘗テ著ワセシ土穀談附錄ニ記シ、伊奈郷奉役、三根郷奉役ヨリ郷中ニ段畠ノ事ヲ最初下知セシ次第ハ、某ガ親族ノ人ノ著ワセシ民事紀聞ト民事紀聞附錄トニ記シ、兩郷奉役ノ下知セシ次第ハ、某ガ思ヒ寄リシ爲シ様ヨリモ甚ハダ宜シク、伊奈郷乙巳ノ冬ノ爲シ様ハ、乙巳ノ秋ノ爲シ様ヨリモ殊ニ宜シク、三根郷モ今春ニ至リテハ、去冬下知セシヨリ

モ宜シキコト知レタルニテアルベシ、與良鄕ノ段畠モ大抵去冬伊奈鄕ニテ爲セシニ同ジキト聞ク、伊奈鄕ノ百姓ノ云ヘルトテ是比或人ノ語レルハ、段畠ノ普請ヲ寒中ニ爲スハ土凍リ手寒ヘテ果敢取ラズ。蕎麥ヲ蒔キ終レル後ト春ノ暖ナル時トノ普請ノ日數ニ、寒中ノ普請ノ日數ヲ分ケ添ヘテ普請シタキト云ヘル由語レリ、定メテ其ノ如ク下知アルベシ、段畠ノ下知ハ諸作下知。山林下知ノ門戶ナルト見ヘタリ

伊奈鄕奉役ノ心ニ郡支配ノ農政ノ旨ヲ信ジテ鄕中ニ下知スルニ、鄕中ノ百姓ヲシテ下知ノ旨ニ心服セシメントスルナラバ、百姓ノ心服スル時節アルマジ、舊習ニ著シ先入ヲ主トシ居ケルハ、敎ヘ諭シテモ心服セシムルコトノ成リ難キモノナリ、然レバトテ初メヨリ强ヒテ下知セントスルナラバ、百姓ノ心ニ昔ヨリノ爲シ來リヲ無理ニ改タメシメントスルト思ヒ、下知ヲ受ケ用ユルコトアルマジ、伊奈鄕奉役此度ノ處置ハ村々ノ下知人、肝煎頭、百姓ニ農事ノ利害得失ヲ書付ニテ諭シ、村下知人ヨリ肝煎頭、百姓ノ思ヒ寄リヲ聞キ、面々ノ思ヒ寄リニ合セテ申シ出ヅル書付ヲ披見シ、重ネテ書付ニテ諭シ、其ノ如クスルコト再三ニ及ビテ、村下知人、肝煎頭、百姓ノ申ス所ノ盡キケル時ニ、郡支配ヨリ郡奉行所ノ佐役ヲ差シ下ダサレ、奉役ノ下知ノ力ヲ助ケシメラレ、奉役兩人ノ心ニ郡支配ノ農政ノ旨ヲ信ズルコト一致ニシテ異議ナキユヘ、下知ノ旨ニ心服シタルニテハナケレドモ。申シ立ツル道筋ノナキコトヲ心底ニ覺ヘケル所ヨリ鄕中一同ニ下知ニ從ガヘリ、右ノ段々ノ中ニ一段ニテモ缺ケタル所アラバ、

伊奈郷ニ農政ノ驗ノ見ユルコト只今ノホドニハアルマジ、伊奈郷奉役郷中ニ下知シ得ルコト只今ノ如クナレドモ、村々ノ下百姓ヲシテ上百姓並百姓ノ爲シ來リヲ改タムル如クニ改タメシムルコトハ成リ難キ勢ナルベシ、譬ヘバ百姓三十人ノ村ニ上百姓五人並百姓二十人下百姓五人ナラバ、其ノ下百姓五人ニハ農作ヲ止メサセ、請持ノ木庭ノ中ノ山畠、段畠ニ成ルベキ處ト、請持ノ田畠トヲ差シ出ダサセ、山畠、段畠ニ成ルマジキ處ノミ持チ來リノマヽニ請ケ持タセテ、薪トシ材木トスル木ヲ育テサセ、木庭ノ中ノ山畠、段畠ニ成ルベキ處ト、田畠トヲ差シ出ダセシハ、上百姓、並百姓ノ中ノ人手間ノ多キ家々ニ相應ニ請ケ持タセ、下百姓山海ノ働ラキハ薪材、木板、車ヲ取リ、板ヲ割キ、屋板ヲ片キ、苫ヲ編ミ、農家ニ用ユル竹器ト蓑笠等ヲ作クリ、佐野網方ノ鰯網ノ引子ニ成リ、面々ニモ諸魚ヲ引キ上ゲ釣リ上ゲ、藻ヲ取リ藻小屋ニテ腐ラシ、碎キタルヲ俵ニ入レ置キ、網方ヨリ引子ノ賃ニ取レル引キ上ゲ三分一ノ鰯ヲ、干鰯ニシタル俵ト同ジク上百姓、並百姓ノ穀物ニ易ヘ、觸番薪ト上納ノ諸品ト貢用ノ諸品トヲ漕ギ登リテ、上百姓、並百姓ヨリ賃ヲ取リ、陸路ノ送リ公役モ、海路ノ送リ公役モ、漕船公役モ、上百姓、並百姓ト相對次第ニ下百姓ヨリ勤メ、上百姓、並百姓ノ農業ノ時節ニ公役ヲ勤ムルハ、人數ノ多ク入ル公役バカリ勤ムル樣ニスベキコトナラン、下百姓モ上百姓、並百姓ト同ジク農業ノ時節ノ山海ノ働ラキヲ止メヨト下知セバ、甚ハダ難儀ニ及ベルモアラン、農作ノ利ハ作物ノ實ノレル月ニ至リテ見ヘ、山海ノ働ラキノ利ハ卽日ニモ見ユル故ナリ、然レバトテ下百姓ハ農業ノ時節ニモ

山海ノ働ラキヲ兼子爲セト下知スルナラバ、下百姓ノ方ニハ下知ノ驗シ何ツマデモ見ヘズ、並百姓ノ中ニモ農業ノ時節ノ山海ノ働ラキヲ以前ノ如ク兼子爲シタキト思フ者アリテ、下知ノ障ワリト成ルベシ、下百姓ハ百姓ト稱シナガラ漁人杣人ノ働ラキヲ以テ生業ト成サシメ、農事ノ下知ノ混雜セザル樣ニスベキコトナリ、昔年某ニ筑後久留米ヘノ使者ヲ命ジタマヒ、彼ノ地ニ越シケル時ニ、使者屋ニテ馳走人ノ物語リニ　筑後川ノ近處ノ村々ノ百姓ハ鵜ヲ使ヒ鮎ヲ取リテ賣レルユヘ、農作ノ利ノ上ヘニ臨時ノ利ヲ得ルト見ヘタルニ、鵜ヲ使フ村ノ在附ノ好キハナシト語レリ、百姓ノ農業ニ專一ナラズシテ在附ノ好カラヌハ、何レノ州郡モ同ジ事ナルベシ、又昔年長州安岡ノ漁人ノ是州ニ來レル者ノ語リシハ、此方ニテハ百姓ノ子ノ小魚ヲ釣ルコトヲモ禁ゼラレ、百姓ト浦人ト緣組スルコトヲモ禁ゼラルルト語レリ、農ヲ重ンゼラルヽ善政ナルベシ、長州ノ善政ノ類ノ事ヲ是州ノ郷村流俗ノ心ニテ論ズルナラバ、左樣ノ下知ハ他方ニテ行ワルヽトモ、是州ニテ何ニトシテ行ワルベキヤト云フニテアラン、是レ主意ヲ取ルコトヲ知ラザル故ナリ、他方ノ善政ノ主意ヲ取リ、其ノ爲シ樣ハ其ノ處ノ勢ニ應ジ成ルベキ樣ニ爲シテコソ宜シカルベケレ、若シ役人ノ心ニ此ノ旨ヲ辨マヘズシテ、一偏ニ爲シ來リニ從ガワバ、好カラヌ爲シ來リヲモ後々マデ爲シテ、好キ事ニ遷ル時節アルベカラズ

伊奈郷奉役ノ農事ヲ下知スルヲ謗レル說ニ、伊奈郷中ニ段畠ノ下知ヲ爲シケレドモ、大雨ノ降リテ强キ水ノ流レ落ル時ハ必崩ルベシト云ヒ、段畠ノ作物ハ二年三年ナドハ大抵ニ出來ベケレドモ、其ノ

後マデ年々ニ耕作セバ出來漸々ト劣リ、落著ハ耕作ノ手間ニ當タルホドノ作得ナクシテ、段畠ヲ爲セシ手入リ無益ノ徒ヅラ事ト成ラント云ヒ、去年ハ鰯糞ヲ用ヒテ麥ヲ蒔附クルユヘ、今年ノ麥出來ハ好カルベケレドモ、鰯ノ引キ上ゲ少ナキ年ニ鰯糞ヲ用ヒ得ズバ、作得アルマジキト云ヘル由沙汰セリ、仁位郷唐洲崎ノ南向ノ木庭ハ片下リト云フヨリモ、嶮岨ナル木庭ナレドモ段畠ト爲シ年々ニ耕作ス、其ノ處ノ作人ノ云ヘルハ、此ノ木庭ヲ昔段畠ト爲シ置カズバ、ウワ土ノ分ハ漸々ト海ニ流レ入リ堅キ苦土バカリニ成ルベキニ、段畠ト爲シ置キケルユヘ今ニ耕作スルト云ヘル由聞キタリ、與良郷大船越村ニアル低キ小山ハ片下リト云フヨリモ穩カナル地面ナレドモ、段畠ト爲サヌユヘ高キ方ノ土ハ漸々ト低キ方ニ下ガリ、某郡奉行タリシ時マデハ、高キ方モ低キ方モ、一面ニ耕作シタル作處ナルニ、其後ハ低キ方ニノミ耕作シ、高キ方ハ堅キ苦土バカリニ成リ耕作シ得ザルト聞ク、右ノ兩處ハ上郷西目ノ村々ヨリ船ニテ府中ニ往來スル者ノ見ル所ナレドモ、見ズ知ラザルガ如ク無益ナル段畠ノ事ノ伊奈郷ニ始マリタル樣ニ云ヒ成スナリ、木庭作ノ養ナヒハ其ノ處ニ立チ居ケル木ヲ伐リ枝葉ヲ燒キテ養ナヒトス、段畠ハ上手ニ雜木ノ若立ヲ相應ニ育テ其ノ内ヲ分ケ置キ、毎年四五年育チノ木ヲ伐リ寄セテ燒キタルヲ養ナヒトスベキナレバ、何ツマデモ作得アルヘシ、海ニ遠キ村ノ藻鰯ヲ得ガタキハ、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ニテ草糞、燒糞ヲ多ク拵ラヘテ養ナヒ、水糞ノ養ナヒヲモスベキユヘ、山畠、段畠バカリノ作得モ以前ノ木庭作ノ利ニ勝サラン、段畠ニ成ル木庭ノ甚ハダ少ナキ村ナリトモ、木庭

作ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠作ノ手入レ以前ヨリ精シク成リ、畠作ニ出來增シアルト木庭作ヤミ、果用、薪用、材木用ノ木ノ多ク育ツトヲ合セタラバ、以前ノ木庭作ノ利ニ勝サラン、木庭作ハ大雨ノ度ゴトニウワ土ト養ナヒトヲ洗ヒ下ス損アリ、山畠、段畠ニ水遣リノ溝アルハ其ノ損ナシ。風當ノ木庭作ハ風ニ損ズルコト多ケレドモ、段畠ト爲セシ處ハ吹上ノ風モ吹下ノ風モ岸ノ根ノ方ニハ當ラズ、風ニ損ズルコト少ナシ、草糞、燒糞ノ養ナヒハ馬糞ノ養ナヒノ足ラザル畠ニモ用ユベキユヘ、畠作ノ養ナヒヲ足ス益モ以前ニ勝サラン、畠木庭ニ鰯糞ヲ用ヒ得ヌ年ノ作得ハ、鰯糞ヲ用ヒタル年ノ作得ニ及バズトモ、其年相應ノ作得アルベシ、段畠モ其ノ如クナラン、然ルニ段畠ニ鰯糞ヲ用ヒ得ヌ年ハ其年相應ノ作得モアルマジキ樣ニ云ヒ、段畠ノ事ヲ無理ニ謗ルナリ、藻ハ海邊ニ藻木屋ヲ構ヘ置キ、切取タル藻モ風雨ノ時ノ寄藻モ、生ナガラ直グニ藻木屋ニ入レテ腐ラシ、乾キタル時ニ打チ碎キ俵ニ入レ置キ、敷糞ニモ肌糞ニモ掛糞ニモ用ユルナラバ、以前干藻ヲ長ナガラ用ヒタルニ勝サリ、藻糞ノ利益ノ廣ク及ブコトモ以前ニ勝サラン、大旱ノ時ノ水糞ノ備ヘニハ、地低クシテ濕氣アル處ト、川床ノ平ラカニ川筋ノ直クシテ土沙ノ積ルマジキ處ヲ見量ラヒ、寒中水涸ノ時ニ井ヲ掘リ、川ニ掘リタル井ハ長櫃ヲ堅葛ニテ編ミ續ケ丸ク張リ廻シ、中ニハ丸竹ノ輪ヲ間配リシテ宜シキホドニ當テ、堅葛ニテ長櫃ニ結ヒ付ケ、長櫃ノ透間ヨリ沙ノ入ルベキ所ハ外ヨリ小櫃ヲ當テ、井ヨリ五六尺ホド上手ニ二尺廻リホドノ木ヲ長櫃ト同ジ高サニ立テ、洪水ノ時ニ長櫃ニ流レ掛カル沙石ヲ防ギ、長櫃ハ川床ヨリモ一

二尺ホド高クシ、長樧ノ腐ツベキト見ヘタル年ハ、初メ長樧ヲ編ミタルヨリ少シ狹ク編ミテ初メノ長樧ノ中ニ張リ廻シ、段々ソノ如クシテ井ノ中ノ狹ク成リ、釣瓶ノ通ヒ難キホドニ成レル時ニ掘リ替ヘ、溪水ト江川トノ間ノ旱ニ水ノ涸レテ底水ノミアル處ハ井之水ヲ用ヒ、旱ニモ涸レザル溪水アル處ハ溪水ヲ用ヒ、水ニ近キ下畠ノ湯地ニハ第一ニ諸ノ蔓ヲ種ヘタラバ旱年ニ利益アラン、少シバカリノ糞水小便ニ水ヲ多ク交ヘタルハ、農書ニ云ヘル水糞ニテハナケレドモ、是レ亦タ水糞トイフベシ、水ノミ灑グモ作物ヲ養ナフナレバ、是レ亦タ水糞ナリ

伊奈郷奉役山林ノ下知ニ心ヲ用ユルコト切ナリト聞キ、其ノ見ル所ノ淺近ナラザルコトヲ感ズ、昔年或人ノ語レルハ、攝州ノ池田炭ヲ燒キ出ダス山ハ、其ノ山ヲ十二分ケ置キ、毎年十ノ一ヲ伐リ明ケテ炭ニ燒キケルト語レリ、農業全書ニ雜木ヲ伐リ取リタル跡ニ櫟子ヲ植ヘテ、櫟木ヲ薪トスル利益ヲ記スコト詳ラカナリ、是州ノ郷村ニテ薪用ノ木ヲ育ツル山ニモ右ノ格ヲ用ユベキコトナラン、山陽道ノ諸州ノ海邊ノ山ノ種子松ナキ處ニ松ヲ育ツル事ヲ是頃或人ノ語レルハ、松莍ノ中ニアル種子ノ散ルベキ前ニ取リ聚メ碓ニテ碎キ、松莍ノ碎ケタルニ種子ノ交リ居ケルヲ蒔クト語レリ、此ノ爲シ樣ヲ是州ニテ未ダ爲サヌナレバ、種子松ナキ山ニ松ヲ育ツル時ニ取リ用ヒ、松ノ性ノ强キハ赤松ナルユヘ、種子ヲ蒔キテ育ツルハ總テ赤松ノ種子ヲ蒔キ、長ジタルヲ伐リ取ル時ハ種子松ヲ高ミノ方ニ殘シ置キテ伐リ取ルベキコトナラン、櫟木ヲ伐ルハ禁制ナレドモ、農民請持ノ木庭ノ内ニ生ズル櫟木ヲ木庭伐明

ノ時ニ伐ルト、請持ニテナキ處ニ育チ居ケル櫧木ヲ農具、船具ノ用ニ伐ルトハ別段ニ成リケルナレバ、農民面々ノ請持ノ木庭ノ中ニテ、薪用ノ木ヲ取ル處ノ十分ノ一ヲ寒中ニ伐リ明ケ、落葉、枯草ヲ燒キ置キ、翌年ノ春ニ至リテ種子櫧ヲ一歩ニ四ツ當テニ植ヘ、十年目ニ植ヘ終リ、初年ニ植ヘタル十年育チノ櫧木ヲ十一年目ヨリ伐リ始メ、其後ハ毎年十年育チノ櫧木ヲ冬伐リニシ、伐リタル跡ハ若立ヲ育ツベキコトナリ、山々ノ中ノ平ラカナル處ハ總テ山畠ト爲シ、平ラカナル處ノ惡地ハ毎年ノ夏ノ中ニ若キ木草ヲ多ク伐リ掛ケ置キテ肥土ノ生ズル樣ニシ、片下リナル處ノ横幅三尺以上ノ段畠ト成ルベキハ段畠ト爲シ、山畠、段畠ニ成ラヌ處ノ風隱レ風當テヲ見量ラヒ、栗ト櫧ト松トヲ多ク育テ、栗櫧ノ實ノル處ニ育チタルハ果ヲ食用トシ、實ノラヌ處ニ育チタル栗ハ木筋ノ好キ分ヲ材木トシ、板トシ、屋板トシ、木筋ノ好カラヌ分ト枝トヲ薪トシ、實ノラヌ處ニ育チタル櫧ハ木筋ノ好キ分ヲ農具、船具トシ屋板トシ、木筋ノ好カラヌ分ト枝トヲ薪トシ、櫧木ノ薪ト屋板トヲ府中ニ漕ギ登リテ賣ルコトハ、農民請持ノ木庭ニテナキ處ノ櫧木ヲ伐リタルニ紛ルベキ事ニテ許シアルマジキナレバ、觸番用ノ薪モ、賣用ノ屋板モ薪モ他ノ木ヲ漕ギ登リ、櫧木ノ屋板ト薪ハ農民面々ノ家ニノミ用ヒ、楮木ハ自然ト生ズルヲ育テ、伐リタル跡ニモ植ヘテ紙ヲ漉ク用ニ當テ、村ノ近邊ニハ丸葉ノ桑ヲ育テ蠶ヲ飼フ用ニ當テ、陰地ニハ杉、竹ヲ育テ、川岸ニハ小竹ヲ育テ、屋禰葺用、苫用ノ茅ヲ育ツベキ處ニハ相應ニ茅ヲ育テ、岩原石原ニテナキ處ニ小草ノミ生ジテ、無用ノ山ト成リ居ケル處アルヲモ總テ利益アル山ト爲

シ、木ヲ伐ルニハ其年ノ冬ニ伐ルベキ境ノ内ニアル分ヲ、一度ニ殘ラズ伐リテ拔キ伐リニセズ、材木ト成ルベキハ材木ト爲シ、薪ト成ルベキハ薪ト爲シ、伐リタル跡ノ株ヨリ生ズル若立ニ、高キ木ノ木垂レナクシテ若立ノ長ジ易キ樣ニシ、右ノ段々ノ下知ヨリ行ワルヽニナラバ、山ノ荒レタル處ノ無キニテ溪水ツヨク成リ、畠ノ中ノ田ニ成ル益モアラン、先ヅ村々ノ谷奥ノ旱ニモ水ノ涸レザル處ノ手寄リニアル、木庭ノ床ノ平ラカナルニ井手溝ヲ付ケ、溝筋ニアル岩ハ水ノ通ルホドニ切ラセ、谷奥ニ田坪ヲ二坪三坪ヅツ年々ニ拵ラヘサセ、其ノ村ノ上百姓ニ請ケ持タセ、奉役ヨリ農書ノ田作ノ文ヲ段讀ミ聞カセ、若キ木草ヲ糞ト爲サシメ、二三年ノ後ニハ鰯糞ヲモ用ヒシメハ山畠ノ利ニ勝サラン、右ノ如クスルコトヲ初メヨリ村中ニ下知セバ、百姓ノ心ニ木庭ノ床ヲ山畠、段畠ニシテ耕作スルニハ、以前ヨリノ木庭定免ノ分バカリ上納シ、山畠、段畠ノ年貢トテ上納スルコトハナキニ其ノ處ヲ田ニシテハ穗見免ニテ十ノ三ヲ上納スルニ成リ、百姓ノ損ナルト思ヒ下知ヲ受ケザルベキユヘ、一村ノ上百姓ノ中ニテ聞キ分ケアルベキ百姓二三人ニ奉役ヨリ田作ノ利ヲ能ク諭シ、田坪ヲ拵ラヘサセ田作ヲ爲サシメ、田作ノ利ヲ村中ニ見セタラバ、村中モ遂ニハ得心シ、田作ヲ爲シ覺ヘザル村ノ多キモ漸々ニ爲シ覺ユベシ、畠ヲ田ニシタル二三年ハ出來ヨカラヌト云ヘドモ、穗見免ニテ十ノ三ヲ上納スルナレバ差立タル損ハナク、二三年ノ後ハ畠作ノ秋物ノ利益ニ勝サラン

奉役ヨリ下知ヲ爲スニ何年ニテ成ラント當テ、短カク當テタルハ、來年爲スベキコトヲ今年爲シ、來

月爲スベキコトヲ今月爲シ、長ク當テタルハ、今年爲スベキコトヲ來年爲シ、今月爲スベキコトヲ來月爲シ、共ニ是レ事ノ成ルニ害アリ、爲スベキ時ヲ失ナソズ、成ルベキ時ヲ待ツコソ宜シカルベケレ、春役ノ第一ニ制スベキハ高滿ノ心ナリ、高滿ノ心ノ生ズレバ吾ガ云フコトハ劣レルヲモ用ヒ、人ノ云フコトハ勝レルヲモ用ヒヌユヘ、事ノ成ルニ甚ハダ害アリ、春役ニ高滿ノ心ノ生ゼズバ、百姓ノ不心得ナルコトハ遂ニ自然ト止マン、伊奈郷ニテ勘辨アル百姓ハ是度ノ下知ノ事ヲ前以テ爲サントセシニ、總百姓ヨリ爲サシメズ、只今其者共ハ時ヲ得タリト云ヒ、總百姓ハ下知ニ從ガヒナガラ下知ヲ謗ルト聞ク、數年ノ後ハ其ノ謗リモ止ムベシ、老衰ノ某ナレバ來月ヲモ期シ難ク、今春三月マデノ間及ヲ記シ、愚者ノ一得モアルベキカト思フ所ヨリ鄙說ヲモ記シ、農政ノ終リアランコトヲ死後ニ當テテ望ムナリ

伊奈郷農事錄 終

鄉村農事錄

幷同附說

鄉村農事錄

某昔年郡奉行を辭して退休し、享保庚子より今年丙午の春迄、郷村農事の書を著す事拾部なるは、勤役の時に郷村に益なくして、職名を空しくせし罪の萬一を贖はん事を求て也、著せし拾部は、土穀談一冊、老農類語二冊、刈麥談、水利問答、告新祿、農政問答、土穀談附錄、土穀談附說、甘藷說、伊奈郷農事錄各一冊、其中にて老農類語は、前の郡支配の某をして編せしむる所也、今の郡支配の農政の記錄を命ぜらるゝ人より郷村の事を某に問ひ、某が答へし所を記して民事紀聞二冊附錄一冊を編す、丙午の夏秋は郷村の物語を聞く事をも辭し居けれども、冬に至りておもへるは、郡奉行所の役人郷村の役人の中にて、郡支配の農政の旨を信ずる人の、今年夏秋の間に心を用ひし功効を聞出し書記す事を示さず、當否と知れざる自己の所見を記せる迄にて、止むべき事にあらずと思ひ、疾を力め求聞て書述、中比思出せる事をも書添る事左の如し

伊奈郷奉役養龍豐田友右衞門 鹿見村住居 丙午の冬上府して、親しき人の語れる次第を傳聞けるに、鹿見、久原、女連三ヶ村の百姓畠作に專ら心を向け、養にする物を蓄る大桶を用意すべしと云ひ、請持の畑の川端等に損じ居ける所は、面々より修覆すると見へ、是農政の行はるべき機也、其外の村々は今年の麥蒔付

を、山畠、段畠になるべき木庭の中にて、一人に三斗蒔づつ許し、來年丁未の麥蒔付より木庭を停止すると云渡せしなり、鹿見、久原、女連は遠く隔らぬ村なる故、高き所の中に三ヶ村の作り所を見渡所有り、今年の麥蒔付に朝の出立を急がする爲に、毎朝早く其所に登り、三ヶ村の百姓の出立の遲速を見ける也、此の如く手狹く手近き三ヶ村に木庭作を止させ、木庭作を止たる樣子を考へ見ずしては、鄕中村村木庭作を止よと下知すべき事にあらず、其年の秋より今年の秋迄の普請にて、鄕中の山畠の高の三分一程普請は爲し得たり、畠の請持の多き村は、段畠の普請を爲べき村々來々年戊申の秋に至りて、三普請大抵出來揃ひ、其年の麥蒔付より木庭作を止しむるとも、畠作を精しくなし覺へぬ百姓なれば、三年の間は以前畠木庭の作を兼ねなせし程の作得の無き者共もあるべし、然は來年丁未の麥蒔付より、鄕中の村々一同に木庭作を止めしめ、畠作に專ら心を向しめずしては叶はぬ事也、鄕中の百姓の牛馬を飼ふ小草を刈り來る勞を厭て、野飼にする事あるにて、柴草を踏ませ糞を多く蓄へる事ならず、是に依て牛馬の野飼を禁じ、其禁を全く守れる村々も有り、守る事の未だ全からぬ村々もあれ共、段々下知せば一同に全く守るべし、此一事にても糞養の用を足す事輕からず、草糞、燒糞の拵樣と、水糞の備樣と、藻糞の用ひ樣とを吟味し、段々に試べき故、來年は其樣子の知るにてあらん、蠶を飼ふ事も郡奉行所より渡されし條書の中に見へ、其類は以後の事を示し置るゝと見へたれ共、試む事は早く試むべしと思ひ、今年の夏我家にて飼せけるに、手廻し好ければ麥取收に障らず、繭を綿にするは麥取

収に障る處ある故、何とぞ府中に賣出し、府中の町の貧家にて綿にする様に有度事也、蠶の糞は烟草の養ひに宜きと農業全書に見へたれ共、今年秋物の養ひに用ひ見るに、他の作物にもよろし、川端の土手の上に丸葉の桑を植立しむべし、田の無き村々田作を拵へ、畠の中になるべき所を田になさしむる事を試むる爲に、山畠の中にて水の掛るべき所を見立置たり、今年の麥蒔付に大畦の筋種へ、中畦の筋種へ、小畦の筋種へ三様を、所々にて少しづつ試みに種させ、惣躰は大抵小畦の筋種々なさしめたり、百姓の功者なるは、大畦の筋うへに利益の勝さるにてあらんと云へり、今年山々を検分するに、猪の無き故か栗子櫧子の地に落て生出て、新たに植立に及ざる所多し、今年植立物所の木庭作を許せし所を見るに、栗櫧松の生じ居けるを伐りたると見ゆるなれば、植立物を題にして、木庭作を主意にすると知れたり、來年より植立物所の木庭作を止させ、栗櫧松の自然生の無き所には、郡奉行より渡し置れし書物に記せる通り、植立物をなさしむべし、山畠、段畠の普請をなさしむる事を議れ共、面々請持の地面成故、普請を疎略にはせず、稀に疎畧にし置たる所あれば、改めなさしむる也、郷中村々の木庭百姓受持居けるに、山畠になるべき地面の多きもあり、少きもあり、輕き多少は其分にて濟べけれ共、輕からざる多少は其分にて濟まじきと僉議し、村々の地分の様子を考へ見るに、以前の地分の時に心を用ひたるとは見へ、畠の受持の少きは、木庭の請持の中にて、山畠、段畠になるべき地面多く、その受持の多は、木庭の受持の中にて、山畠、段畠に可レ成地面少なし、其所を考當れるに依り、木

の地分を改めなすに及ばざるに極めたり、山畠、段畠の普請は受持の面々よりなさしむ、村中の力を合せて普請するに成ては、手間の多くかゝる所をも、片端より段々に普請すべし、面々より普請するは、手間の少なくかゝる所より早く普請し、手間の多くかゝる所は殘し置き、數年の後まで漸くに少しづつ普請し、面々の普請なれば、妻女も少年の子供も、普請の力を助くる益あり、如レ此き類の事は、其鄕の人情に應じて下知あるべき事ならん、同役の先輩（財部吉左衛門）は勤役年久敷役に馴れし人なれ共、役に馴し所を挾まず、後輩に諸事を相談するゆへ、隔意なく勤る也、木庭檢分役（川本惣右衛門）は鄕中の人情の木庭を好む事の甚しきを考へ、輩密を以勤役の主意とし、役に當れる初より自分の木庭作を止めたり、村下知人の中にも農政の旨を信ずる人の段々と出來るなれば、時勢の障りさへなくば、農政の行はれぬ事は有まじきとかたれるよし傳へ聞き、其後奉役先輩上府して親しき人に語れるは、同役の後輩我等が及ばざる才なれば、其才を挾まず一々先輩に相談する故、隔意なく勤んと語れる由傳聞たり、役人の心の如レ此にありてこそ役功なるべけれ（第一條）

伊奈鄕に農政の行はるゝ事は享保乙巳（十年）秋に初まり、與良鄕に農政の行はるゝ事は丙午の春に始り、伊奈鄕に行はれし樣子は伊奈鄕農事錄に記し置たり、與良鄕に行はるゝ樣子を聞及郡奉行（內野一郎左衛門）郡支配の農政の旨を深く信じ、鄕村の人情時勢を察し、先づ與良鄕緒方村に段畠の事を始めて下知せり、與良鄕奉役（佐々木平兵衛　大山松之允）元より農政の旨を信じ居けると聞へけれ共、隣鄕の奉役に信ずる人の未だ出

來ず、鄉中の村下知人、肝煎頭、百姓の心も量り知り難き所の有ける故か、下知の端を開かざりしに、郡奉行先輩の端を開きたるにて、奉役も興起し、段々と下知をなし、丙午の冬に至りては府中より北の二十四ケ村の中にて、十四ケ村の農政の下知を請け、郡奉行先輩より與良鄉奉役をして下知せしむる大筋目は、伊奈鄉奉役の乙巳の秋より下知せし次第を精く尋ね置て、その如く下知せしめ、郡奉行の佐役江口傳右衛門に伊奈鄉下知の事を命ぜらるゝ以後、佐役の下知する大筋目も、伊奈鄉奉役の下知する次第を尋ね置て、其如く下知すると聞及べり、本役先輩も佐役も鄉村百姓の情を、鄉村に住居して見る事聞事の熟したるにてはなきなれば、推量て下知するには當らぬ事もあるべし、本役先輩も佐役も其所を辨へける故、農政の下知に自己の見識を不レ用、農政の旨を信ずる奉役の其鄉中に下知する大筋目を取用ひて、自己の下知と成す事所當の宜きを得たるとも稱すべし、或人の問へるは、伊奈鄉の百姓は農政の下知を議り、與良鄉の百姓は農政の下知を議らぬと聞、得心せぬ故に議り、得心せし故に議らぬならん、得心せぬは當らぬ下知に從ひても、以後は下知を背くべし、其所を如何おもふぞと問へり、某が答に、與良鄉の百姓農政を議らぬは、村下知人最初より奉役に同意して村中に下知せし故ならん、伊奈鄉の百姓の農政を議るは、最初村下知人一同に奉役に同意せざりし時に、村下知人と共に議りし意地を、村下知人段々と奉役に同意せし後にても改めざるならん、伊奈鄉と與良鄉の百姓の風俗の元より異る故にてもあるまじ、農政の旨を得心したる百姓の稀なるは、伊奈鄉も與良鄉もさし

て替る事あらじ、多くは得心せずして下知に隨ひ、其中にて譏ると譏らざるとの替りある迄ならん、伊奈郷の百姓の農政を譏るも多年の後には自然と止にてあるべし、先賢の改革の旨を示し給へる語に、小人は其心を化するにてなけれども、其面を革めて上の教令に從也、君子の其心を革め、小人の其外を革めたるは、革(ママ)の道の成れるになすべし、面を革めたる小人に、心をも革めしめんとするは甚き也、甚しきは道にあらず、革りて守らざればまた續ず、始めは革り難き事を患ひ、已に革る時は守る事あたはざるを患ふと曰へり、百姓の中にて農政の旨を得心したる者の稀にあるは、こゝろを改めたる也、得心せずして下知に從ふは、面を改めたる也、面を改めたるも守る事の久しからば、自然と風俗となり、心を革めたるに異成事はあるまじきと答へたり、其人の又問へるは、伊奈郷奉役より最初郷中への言渡しに、農作の下知を請ぬ者あらば、請持の地面を取揚げ、百姓の名を潰し、名子の部に入るべきよし云渡せしと聞く、如レ此事は甚しきにてはあるまじきかと問へり、某が答に八郷の名子は、次男のみ名子に成りたるにてはなし、身上零落し年貢公役銀の上納ならざる百姓の請持の地面を差出し、名子に成たるも有、奉役、村下知人、肝煎僉議の上にて地面を取揚げ名子になしたるもありと云ふ、地面を請持しむるは賞也、地面を取揚るは罰也、賞罰は大小輕重の段々ある中にて、地面を請持せ地面を取揚る賞罰の權は、昔より奉役に與へ置れし權也と聞、先賢の發蒙の旨を示し給へる語に、下民の昏蒙を發くは、刑禁を明らかにし畏る事をしらしめて。後に敎へ導くべし、刑禁を以率ゆれば、心

にいまださとらずといへ共、威を畏れて隨ひ、善教も出りて入るべし、專刑を用ひて治をなす時は、まぬかれんとして恥なし、治化の成る事なしと云り、伊奈鄕奉役より地面取揚げの事を云渡し置き、其上にて自身村々を廻り、農作の道にをしへ導く事親切なりと聞へ、是先賢の示し給へる旨に叶へり、某が昔年郡奉行を勤し初頃の下知に、村々に用心穀物を出させ置き、其中を下百姓の種不足成と、耕作急務の時の食用不足なるに、相應に借渡させ、作物の出來の中より返させよと下知しけるに、其後豐崎鄕奉役大浦頭有衛門の諫に、只今の下知にては、百姓の心に身上の成らぬ者は身上の好き者より救せらるゝと思ひ、元よりの不精の上に不精を增し、借りたる穀物を返し得ず、上百姓並百姓は面々に與へらるゝなれば、迷惑なる事也と云ひ、心を屈する樣子に見へたり、上百姓並百姓の心屈せぬ樣に不知有度事也と諫めけるにて、前非を曉り不知を改めたり、民の事を緩くせざる下知の行はれぬ所にては、救ひに害有事もあり、禁を明らかにし、畏るゝ事を知らしめざれば、救に益なき事もあり、精く考ふべき所ならんと答ける也(第二條)

此州の農政の重き所は木庭作停止に有事を、顯豪成某も近年に至りて辨へけれども、奉役より如何と下知して宜しかるべきとの辨へはなかりしに、乙巳以來伊奈鄕中に奉役より下知するは、木庭の中の平地を山畠にし置き、畠と同じく耕作し來れる地面迄にて、作所の足れる村は、山畠、段畠の普請をなさしめずして木庭作を停止し、山畠、段畠の普請をなさしむべき村々は、乙巳の年の麥蒔付に、山

畠、段畠に成べき木庭の中の三分一に木庭作せしめ、丙午の年の麥蒔付には、殘り三分二の半分に木庭作せしめ、丁未の年の麥蒔付より、殘り三分一にも木庭作せしめず、前二年の普請にて山畠、段畠に成置きたる地面に、元よりの畠と山畠とを合せて耕作せしめ、山畠、段畠に成べき三分一の所は、山畠段畠になし置きて耕作せよと下知しける由傳へ聞、是木庭停止の良法ならんとおもふ也、何れの郷の百姓にても木庭作停止の後迄、何卒元の如く木庭作する事を許されよかしと願ひ、其願の心の止む事は拾餘年の後ならではあるまじ、木庭作停止のはじめ此の心に畠作に念を入たらば、木庭作を許されざるに決定すべき故、見量ふべき事也とおもふ者の、稀にもあるまじきとは極め難からん、然ば木庭作停止の法を堅く立る事肝要の儀なるべし、山畠、段畠にてなき山々作物の蒔付のあるは、見出しに他の紛なくして、犯さんとする者の犯し難き事なり、許を受ずして少しにても木庭作したる者は、立山の樹木を伐りたると同格に命ぜられん事を申上置、村々の下知人肝煎より、村中の者の法を犯したるを見遁さず申出よと堅く云渡し置き、木庭作檢分役嚴密に檢分するならば、法を犯す者あるまじ、其時は百姓の云觸れに、鰯糞と藻糞は行渡らぬもの也、茶糞、燒糞の類の養を山畠、段畠に用ひ、土を耕し塊を碎き、茶を取土を寄る念を入ても廣く木庭作せし時程の作得は無しと云觸すべし、畠作を未た精くなし覺ぬ一兩年の間は廣く木庭作せし時程の作得のなき者共も有べけれども、其分は作物の出來の常年より少なき年の一兩年も有けるに當べき事也、其類の者共の畠作をなし覺ゆる迄、木庭作

停止を延べ置べき事にあらず、百姓皆々の畠作を精くなし覺たる後に、木庭作を停止すべしと云ふ奉役あらば、其郷の百姓の心に畠作に念を入れ出來増有らば、木庭作を止しめらる事もあらん、如ㇾ此勢ひと見へたるなれば、畠作を未だ精くなし覺へずとも、山畠、段畠に成べき木庭の中を三分一程山畠、段畠となしたる時に木庭作を停止する事伊奈郷奉役の下知の如くし、不精なる下百姓一村に一二人など、其下知人に百姓の名を潰し名子の部に入る者あらば、其者請持の地面を上百姓の次男の農作を能くする者に請持すべき事也、前の郡支配の猪逐詰を命ぜられしには、霜月極月に五十日程、正月二月に五十日程十ヶ年百姓を使へる故、郡奉行より百姓を潰すと云て譏れり、是無理なる惡口にてはなし、如ㇾ此云べき事也、木庭作の分數を定る事は、紛はしくて成まじ、假令木庭の明け方を古法の如く明るとも、木庭作する間農作の粗き風俗の改る事有まじ、猪逐詰なくば猪を防ぐに手間入りの多きにて、農作を精くする事成まじ、前の郡支配の爲に農作の基を立て置れたる也、元祿乙卯の春某を郡奉行に命じ給ひ、其年の五月佐護郷にて前の奉役佐藤四郎左衛門の語りしを聞くに、二十年程以前より木庭を明る事早く成、昔十二年目に明けたる上木庭を六年目にも明る樣に成れると語れり、己卯の年は麥作の豐年也と云けれ共、八郷其年の麥出來高と、前年の麥種蒔付高とを書出させ、種と出來との當りを極めしに八升穗に當れる、其時は古升四斗入を一俵とし、四升蒔に壹俵出來たるを四升穗と云ふ、麥作の豐年には、畠木庭の並し三升穗にも、二升穗にも當るべきことなり、八升穗に當り、種一粒より五粒出來

たる並し也、其年仁位鄕奉役の語れるは、仁位村の上畠小畦作の麥は、五合蒔より一俵出來たると語れり、是穗の八十倍也、然に惣躰の並し八升穗にて種の四倍に當れるは、木庭の明け方早く成廣く成居けるにて、木庭の蒔種の多く種に應じては出來の甚少き故也、其年の五月府中より北の鄕々を廻るに、緺蕢を用ひたる木庭は別段にて、其外の木庭は莖も穗も疎かに、一穗一粒も甚少なく、一斗穗壹斗四五升穗の出來ならんと云へる木庭の多かりけるなれば、畠木庭の並し八升穗に當れるは、其如く有べき事なり、猪逐詰以前の木庭の明方は昔より一倍程早く、猪逐詰以後の明方は猪逐詰以前より一倍程早く、只今より上には木庭の明方を早くすべき様なしと云、鄕村にての諺に、木庭を伐盡したると云へる由聞及べり、木庭の中の山畠、段畠となすべき所を、山畠、段畠になさば畠のましたるに成り、木庭作の止みたる手間の延にて、田畠の耕作に段々精くならば、穀物漸々に出來增すべし第三條木庭を古法の如くには明ず、早く明け廣く明る事を好む風俗と成來れる故を考るに、譬へば上木庭十二石蒔にて、物成三石を法の如く拾貳年目に壹石蒔伐り明れば、種の十倍の出來にて、拾壹石出來、其中より種壹石を引、物成三石を引ば得分七石成を、五年目に參石蒔付れば、種の五倍の出來にても拾八石出來、其中より種參石物成參石を引ても、得分十二石になれる故ならん、利益の一筋もなき事を八鄕一同に好むべき様なし、鄕村より鄕村の事を申出るにも、信ずべき事のみはなく、疑べき事もあり、老農類語編修の事に、八鄕より差出せし田畠木庭百步の豐年の出來の書付の中にて、佐須鄕の申出に、

猪荒の止し後に木庭を明け過し、以前の出來の半分にも及ばす、木庭百歩豐年の麥出來、上々木庭上木庭の並し三四年程と申出しは、以前の猪荒の時の出來を申出る也と云へり、他の七郷は田畑木庭共に其比の出來を申出て、與良郷は上木庭百歩豐年の麥出來四斗程と記せり、與良郷の上木庭百歩豐年に四斗程出來に、佐須郷は一斗に及ばざる樣なし、猪逐詰以後の木庭作の出來、猪逐詰以前の木庭作の出來の半分にも及ばぬならば、與良郷の上木庭百歩豐年の出來、猪逐詰以前は八斗餘成べし、與良郷上畠百歩豐年の麥出來さへ六斗程と申出けるなれば、猪逐詰以前にても上木庭百歩豐年の出來八斗成るべき樣なし、如ㇾ此類の事は信ぜられざるまでにて、事濟に正ざるに及ざる事ならん、今程四年目に明け壹石蒔に四石出來る木庭を昔十二年目に明けて一石蒔に拾石出來たるとゝ猪の垣を破りて掘返し、踏み倒し、食潰しせし木庭の損失を並したらば、惣體にては二三割の減にも成り、今程一石蒔に四石出來る木庭の、昔の出來の並しも壹石蒔に七八石出來には過ぎざるべし、上木庭十二石蒔を、古法の如く明れば一石蒔となり、下木庭廿五石蒔を古法の如く明れば一石蒔と成、山畠、段畠に成べき木庭を山畠、段畠になし置きて、畠とおなじく耕作する分數は、上木庭高の十二分の一、下木庭高の廿五分の一ツ抔と云ふ分數にてはあるまじ、然れば此度の農政にて、山々の作所は昔よりも甚だ增し、片下り成作所も平らか成作所と成、昔の如き猪荒の害は無く、木庭を明け過し、水旱の災の增居ける患も止み、山々に櫨木の多く育つ利益も段々に出來べき故、此度の農政は此州の郷村にて不易の法となすべき事ならん、甲辰三月

廿八日條書に、木庭穂見免の事を示し置れしと聞及にて考るに、麥木庭に明けしは麥を穂見し、秋物の木庭に明しは秋物を穂見する事、昔よりの法の如くし、初作にて物成を上納し、跡作にては物成を上納せぬとて、初作を粗くし跡作を精くする時は、農作の上にての惡事なる故、其村には跡作の平か成處と、穏か成所の地位の如きを毎年畠と同じく耕作し、物成は木庭仕付の物成を上納し來るも、穂見にて十の三を上納せしめられ、農政の下知を受け用ざる郷々の中にて、一郷の木庭穂見を郡奉行に穂見せしめられ、其他の郷々の木庭穂見の手本となさしめらるべしと命ぜらるゝにてあらん、其如く命ぜられたらば、農政の下知を受け用ひざる郷村の農人の考へに、木庭の明け方の早く成りて、種蒔付は多く種に應じて出來の少き穂見を受け、十の三を上納せば、物成の上納は定めの時よりも増し、種を引とも殘りの得分の減るべきに、其上木庭の中を畠になし置き、木庭仕付の物成を上納し來れる地面よりも、出來の十の三を上納せば、作人の得分彌以減るべしと考へ、其時に至りて農政の下知を受け用ひ度と申出にてあらんと、勘辨ありて示し置れし事なるべし、某が勤役の時に、其心附なくして木庭を明け過させ、木庭の明け過しは某が罪なる事を、甲辰三月の條書の旨を聞及に至りて始て思ひ知れり、郡奉行の中に若農政の旨を信ぜぬ人あらば、農政を信ぜぬ奉役の郷に木庭穂見免の事を命ぜられても、農政の下知を受け用とは申出すまじ、其郷の木庭を穂見免に命ぜられし後の穂見の格も定り難からん、郡支配は郡奉行の頭役なれば、奉役に遠くして疎く、郡奉行は郡支配の下役なれども、奉役に近して親

しく奉役の信ぜぬ農政を郡奉行も信ぜざるに、其奉役より郡支配の心に叶度迚受け用ゆる勢ひとは見へず、譬へば郡奉行三人の中の二人は、郡支配の下知を信じ、一人は信ぜぬならば、奉役も郡奉行二人の心に叶はん事を求べき事の樣に見ゆれども、我意は大抵流俗の通病にて、自己の爲來りし事を他より正されて改むるを、恥べき事の樣におぼへ居ける故、郡奉行三人の中にて二人の信ずるは從はず、一人の信ぜぬに隨て我意を遂んとする勢ひ也、昔年某が郡奉行たりし時に、郡支配より猪逐詰を命ぜられしに、初年より二年目迄は、奉役の中に信ずる人只一人也、三年目四年目に信ずる人二人出來、某等三人奉役三人の信ぜしにて事をなせり、今の郡支配の農政は、伊奈、與良兩郷の奉役四人相共に信じて郷中に下知するなれば、郡奉行所の當役一同に信ぜば、何れの郷にも下知の行はれぬ事はあるまじき也（第四條）

享保乙巳の夏郡支配より干出開田の下知を止られ、仁位の濱の開田の普請をのみなさしめらるゝは精當の事ならん、干出開田に成るべき所のすべて開田に成たるとも、有り來れる作所耕作のなし樣の精くなれる利益には甚だ劣るべし、仁位の濱の開田は先君天龍院公の命じ給へる開田なれは、今の公の其事を成し給ふは繼述の道理成事を、郡支配の勘辨有て前段に立られけると見へたり、此州の郷村常年の徭役を考るに、府君の參勤下向し給へる時の水夫公役と、府中關所の間の海陸の送公役漕船公役と、上納の諸品取出し漕登りの公役と、奉役村下知人の郷中用の夫使と、奉行村下知人への手使とを、

農時にも農隙にも勤るなれば、川普請・溝普請、山畠、段畠普請の外に、干出開田の普請迄命ぜられば、民力の堪難きにて、農作を精くする事をなし得ざるべし、百姓の農隙に使はるゝ事多ければ、農隙になし置べき事をなし置ずして農事にもなし、農業の妨げあり、佐須鄉樫根の開田は昔の田畠の損じ居けるを、舊に復せしめらるゝなれば、其類は命ぜられずして叶はざる事ならん、何れにも農隙の普請は夫使の日數を相應に定め置き、其日數にて先きに爲べき普請を先にし、後にすべき普請を後に爲べき事也、佐護の深山川に流れ入川を龍口川と云、近比龍口川の川上に新川の出來たるを際神川と云、其際神川の事は民事紀聞附錄に見へたり、此比際神川の事を聞くに、古川の曲り一龍口川に入水當りに山の根の岩有り、其岩に古川より突當りつる水は強けれども、新川の龍口川に流れ入處の西岸に岩ありて其の岩に當り、川向ふの下手に突當る水勢にて其所の川幅廣く成り、其の所より少し下た手に彼山の根の岩有る故、岩の根の川床深く成り、西の土手の根の川床は淺くなり、何れにも新川に利有りと云說を聞きたり、右の說は曾て聞し說に異所あれ共、大筋目は同じ事也、只今古川新川二筋共に立て置きける故、利害の實は知れ難からん、以後に至り古川を塞ぎて新川一筋になさば、古川より龍口川に流れ入水勢の無くなれるにて、山の根の岩の所の川床深く成、西の土手の根の川床深くなる事も有べし、土手の根の川床深く成れるは、段々に根柵を爲すにて害を除くべけれ共、大曲りの古川より洪水の溢れたるは、溢れる所の長さにて、溢れし水の勢も強からざりしにて有べきに、古川を塞ぎ新

川下筋になさば、以前大曲りなる長き川を溢れし洪水、以後龍口川ばかりより溢れ、大曲りなる古川より流れ下りし洪水の、直ぐなる新川より流れ下るにて、溢るゝ水の緩急の勢の異なる所も有べし、洪水の時の利害の知れ難くは、古川も新川も共に立置き、新川の川床の岩の切れ残るは、農隙に他の所の川普請を爲る人夫の中を相應に分、暑季の時節に雨に當り日に當りて、岩の性の弱り居ける分を漸くに切除けさせ、何れにも有來りたる地面の損ぜぬを主意として普請をなさしむべき事ならん、八郷の中にて佐須郷小茂田、久根のみ、田作の爲様のよろしきにて稻の出來も多く、種を能く擇ぶにて米の性も好く、其他の郷村は田作の道の未開けざると見へたり、郷村惣體の畠作爲様の精く成、作物出來增ありても、定めの上には物成をも少しも增れず、百姓の作得の增しとし置るゝ事當然の政道なるに極り、年貢の增にも成り百姓の作得の增にも成べきは、田作の道の未た開けざる郷村に、田作の道の開るに在り、田作の出來增し穗見免にて、定格の通十の三を上納せしめられば、年貢も百姓の作得も共に增すべし、丁未閏正月朔日郡支配より、郡奉行先輩と佐役と兩人に佐護の田作の下知を命ぜられ、仁位の濱の開田に居ける基肄養父の者共を佐護に移らしめられ、田作の農師に立らるべしとの事也と聞及べり、時勢の障りさへ出來ずば、下知の功効段々に著はるべし、佐護にて田作の功効の著はれたるを以て、他の郷村の中にて井手溝より引取る溪水ある村々に及ぼされ、農師には佐須郷小茂田の百姓表向の子に地面を讓り居ける者共を用ひられ、木庭停止の下知の廣まり、山々の水氣强くなる

に應じて田作する事廣まり、畠を田となせし二三年は草糞を養とし、其後は草糞干鰯を養とし、畠作は水の掛らぬ畠、山畠、段畠にのみなさば、畠作の多く田作の少なき時の利益に甚だ勝らん、何々の鄕も山々の風隱れの所の栗の育つ地には專ら栗を育て、栗のよく實のるは栗子を得に當て、實のらぬ木あるは、長く直なる分を村木とし、短く直なる分を板とし屋板とし、直ならぬを薪とし、櫧のよく實ると知れたる地に櫧を育てたるは、いつ迄も育置き、櫧の實り少きと知れたる地に育ちたるは、其所を十區か十五區に分け置き、毎年一區を伐り、長く直ぐなる分を船具とし武具の柄とし、短かく直なる分を農具の柄と屋板とし、直ならぬを薪とし、栗櫧を育ざる山に第一に松を育て、田にならざる畠、山畠、段畠の中の水を灑ぐ手寄りの陽地には第一に萵を種、右の如くせば食を足し用を利するに大益あらん、農政の下知を開きしは、伊奈鄕奉役後輩の功を殊に稱すべし、川普請の道を開きしは、地方普請奉行（齋藤四郎治）の功を殊に稱すべし（第五條）

右の條々は丙午十月より丁未閏正月の初比迄書述所也、其間聞及ぶ事の中に猶も書付置度事の有りけれども、氣力の甚だ疲れたるにて書述る事を得ず、右の分にて編を爲せり、謹んで按ずるに、農政の廣りて相續すべきは、郡奉行一同に農政の旨を信ずる所ならん、癸卯以來郡支配の心を盡し、僉議を窮め下知せられ、下知の功効八鄕の中の二鄕に見へ來れるに、其農政の若し廣まる事なく相續すまま敷勢にならば、以前より鄕村に行はれ來りて、鄕村の益となり居ける宜き格も、段々に破れ廢り、奉

役村下知人の中にて實義の勝れるは心を屈して憂ひ憤り、實義の劣れるは、心を伸べて喜び敖るべし、然ば此度の農政の廢りて相續すると、廢まる事無く相續せざるとの兩樣は、鄉村惣體の政道の興廢に關る所也、農政の旨を郡奉行の一同に信ずるにあらずしては、郡支配の力にも及ばれざる所あるべければ、郡奉行の愼みて思ひ明らかに辨ふべき事也

鄉村農事錄 終

鄉村農事錄附說

是州ハ大海ノ中ニ在リテ、地續ノ諸州ヲ去ルコト殊ニ遠ク、農民ノ爲ス所ノ諸州ノ農事ニ似ズシテ舊弊ニ從ガヒ居ケルコト甚ハダ多シ、今ノ御代ニ至リ農事ノ舊弊ヲ除カルベシトノ志願ヲ起サレケルト

見ヘ、享保癸卯ノ夏ヨリ甲辰ノ夏マデ鄕役人、村役人ノ云フ所ヲ聞キ集メラレ、乙巳六月農政ノ下知ヲ伊奈鄕ニ始メラレ、去年丙午ノ春ヨリ與良鄕ニモ下知ヲ受ケ、今年丁未ノ春ヨリ仁位鄕ニモ下知ヲ受ク、郡代ノ處置ニ農政ノ旨ヲ信ゼヌ鄕役人ノ鄕ニハ强ヒテ下知ヲ及ボサルヽコトナク、農政ノ旨ヲ信ゼシ鄕役人ノ鄕ニノミ下知ヲ及ボサルヽコト當然ノ處置ナラン、下知ヲ受ケシ鄕々ニ三四年ノ後ニ下知ノ功效ノ分明ニ見ヘタル時ニ至リテ、下知ヲ受ケヌ鄕々ノ鄕役人、村役人ニ郡役人ヲ以テ命ゼラルヽ詞ニ、此度ノ農政ノ旨ノ宜シキコトハ下知ヲ受ケシ鄕々ニテ其ノ功效分明ニ見ヘタリ、是ノ上ヘニテモ此度ノ農政ヲ不同意ニ思ヘル鄕役人、村役人ハ役ヲ辭スベシ、若シ不同意ニ思ヒナガラ役ヲ辭セズ、僞ワリテ同意ナルト申出デ、農政ノ旨ヲ下知スルコト眞實ナラズバ、勤方ヲ考ガヘ見ラレケル上ヘニテ、除ケラルベキ役人ヲ除ケラレン代リニハ、才器ノ劣リタルト見ユルトモ、我意ヲ立テズシテ郡役人ノ下知ヲ實ニ受ケ用ユベキト見ヘタルヲ役人ト爲サレ、下知ノ功ヲ立テシ鄕役人ヲ郡役人ニ副ヘ、折々ニ其ノ鄕ニ差下サレ下知セシメラルベシト命ゼラルヽニテアランカ、只今ノ下知受ケ居ケル鄕ノ中ニテモ、以後一同ニ下知ヲ受ケシメラルヽ鄕ノ中ニテモ、村中ニ下知ヲ受ケ用ユル農人ハ甚ハダ少ナク、上邊ノミ下知ヲ受ケ、内心ニハ下知ヲ用ヒヌ農人ハ甚ハダ多キモ、木庭作ヲ堅ク停止アラバ遂ニハ田、畠、山畠、段畠ノ耕作ニ念ヲ入ルヽニ成ルベケレドモ、農人ノ風俗ノ殊ニ惡シキ村々ヲ其ノ如クシ置カレタラバ、農作ノ爲シ樣ノ改マルコト晩ク、其中ニハ實ニ下知ヲ受ケ用ヒ居ケル農人ノ

妨ダケニ成ルコトモ出來ベシ、近世ノ人ノ賞罰ノ事ヲ論ゼシ說ニ、賞スベキ者ノ甚ハダ多ク、罰スベキ者ノ甚ハダ少ナキ時ハ、賞スベキ者ヲ賞セズシテ、罰スベキ者ヲ罰シ、罰スベキ者ノ甚ハダ多ク、賞スベキ者ノ甚ハダ少ナキ時ハ、罰スベキ者ヲ罰セズシテ、賞スベキ者ヲ賞セヨト云ヒ置キケレドモ、是州ノ鄕村ニテ此度ノ農政ノ下知ヲ受クルルト受ケザルトノ賞罰ニ、其ノ旨ヲ用ヒラルヽナラバ障ソリアラン、譬ヘバ百姓卅人ノ村ニ農政ノ下知ヲ實ニ受ケ用ユル者ハ三人ニテ、用ヒザル者ハ廿七人ト見ヘタルニ、其ノ三人ヲ相應ニ賞セラレバ、廿七人ノ心ニ其ノ三人ノ賞ヲ得ルコトヲ妬ミ惡ムノミナラズ、鄕役人、村役人ノ中上ノ宜シカラザルトテ內々ニテ惡口シ、下知ノ行ハルヽ益ニハ成ルマジ、其ノ村ノ隣村ニ彼ノ賞ヲ受ケタル三人ニ及ブホドニナクテモ、其ノ次ニ立ツベキ者アルニ是レヲ賞セラレズバ、自分ノ心ニ彼ノ賞ヲ受ケタル三人ニ及バザルコトハ辨マヘズ、同ジ樣ニ下知ヲ受ケ實ニ勵ミ勤メテモ、吾等ニ賞ナケレバ彼ノ三人ヘノ賞ハ贔負ナリト云ヒ、若シ其者マデ賞セラレバ、又其ノ次ニ立ツベキ者ヨリ右ノ如クニ云フベキユヘ、何レニモ益ナクシテ障ソリアラン、罰スベキ者ノ多クテモ少ナクテモ、其ノ中ニテ殊ニ甚シキ一人ヲ罰シ、其ノ罰ハ請持ノ地面ヲ取上ゲ名子ト爲スヲ罰トシ、殊ニ甚シキ者ヲ一人名子ト爲シテモ、其ノ類ノ者其ノ下知ヲ受ケヌ心ヲ改タメズバ、又其ノ次ノ名子ト爲スベキ者ヲ一人名子ト爲サシメラレテ宜シカラン、其ノ如クナラバ村中一同ニ下知ヲ受クルニ成ルベシ、彼ノ名子ト爲スベキ者ハ不精者ナルベシ、不精者ハ右ノ格ニ罰シ、或ヒハ重キ怪我アリテ片

輪ト成リ、或ヒハ大病ノ後ニ病身ト成リ、農作ノ働ラキヲ爲シ得ザル不幸者アラバ、幼少ノ直子成長スルマデカ、相應ノ者ヲ養子ニスルマデハ、其ノ不幸者ノ請持ノ地面ヲ村中ノ者共ヨリ耕作シ、年貢ノ餘分ニテ其ノ家内ヲ養ナヒ置キ、其ノ如クスルニハ平生不精ナルト知レタル者ニテモ、不精ナラザル不幸者ト同ジク介抱スベキコトナリ、不精者ヲ不精ノ罪ニテ地面ヲ取上ルコトナク、不幸ニテ片輪ト成リ、病身ト成レル時ニ地面ヲ取上ルハ宜シカルマジキコトナリ、鄕役人、村役人ノ此度ノ農政ノ下知ニ勤功アルハ、郡代ヨリ折々ノ詞ノ稱美アルト、下人ヲ拜領セシメラル丶マデニテ濟メ置カレ、農政ノ下知ノ行ハレ畠山、畠ノ中ニテ田ト成レル處ノ穗見免、以前ノ畠木庭ノ物成ノ盛付ヨリ增シタル增シノ分ノ中ヲ以テ相應ニ賞セラレ、郡役人モ此度ノ農政ニテ臨時ニ出方ノ增シ居ケル分ヲ段々ト減ラシ、以來出方ノ臨時ニ增スコトナキ樣ニ心ヲ用ヒ、其ノ如クスル所ヨリ障ワリアルトモ、其ノ障ワリノ輕ク成ル樣ニ處置シ、大抵ノ障ワリハ其分ニシ置キテ宜ロシカラン、農政ノ下知ニ付キ利益ノ未ダ見ヘザル前ニ臨時ノ出方ノ少シニテモ增スハ、只今ノ時勢ニ甚ハダ悖リ、其ノ所ヨリ種々ノ妨タゲ出來テ、郡代ノ處置ヲ爲シ得ラレ難キコトモアルベシ、此ノ旨ヲ郡役人ノ能ク勸辨シ、假令面々ノ心ニ難儀ニ思ヘル所アリトモ、君上ノ爲メ百姓ノ爲メニ其ノ難儀ヲ忍ブベキコトナリ、農政ノ下知ニ上下ノ利益ノ見ユベキハ、畠、山畠ノ中ノ田ト成ルベキ處ヲ田ト爲スニアリ、只今マデ水氣ノ弱キ溪ニ水氣ノ强ク成ルハ、山々ニ木ノ多ク育チタル後ノ事ナレバ、近年ノ中ニハ其ノ驗シ見エマジ、然レ

バ暑月ニモ溪水ノ涸レヌ處ニバカリ井手普請シ、水ヲ引キ田ト爲スベキ山田ヲ一年ニテモ早ク田ト爲シ、天水田、深田ヲ一年ニテモ早ク水ノ掛引ノ成ル田ニ爲サシメラレタキコトナリ、佐護郷ニハ今年ノ春ノ下知ニテ畠方ヲ段々ト田方ト爲スニ成リ、山畠ノ中ヲ今年ノ春ヨリ田ニ爲シ始メシト云フナレバ、其ノ外ノ郷モ農政ノ旨ヲ信ジテ下知スル郷役人ノ郷ニハ、豆酘ノ山田ト樫根ノ山田ノ爲シ樣ニ倣ヒテ溪水ヲ引ク普請ヲ始メ、山畠、段畠ノ普請ノ日數ノ中ヲ四カ一ホドハ井手普請ノ方ニ用ヒシメ、三年ニテ成就スベキ山畠、段畠ノ普請ハ四年ニテ成就スル樣ニシ、暑月ニ溪奥マデ水涸レ川水ニ成ルホドノ水ノ見ヘザル村々バカリ、山畠、段畠ノ普請ノ日數ヲ減サシメザルベキコトナラン、他方ニテ農人ノ云ヘルハ、畠ヲ田ト爲スニ三年ノ間ハ藁ノ利ノミ得ルト心得ヨ、四年目ヨリ漸々ト作得アルベシ、水ト土ト能ク和シタル後ハ、畠ノ秋物ニ田作ホド出來ノ多キハナシト云ヘル由ヲ聞キ、是州ニテ田作ヲ爲シ覺ヘタル農人ノ云フモ、他方ニテ云フニ同ジ、木庭地ノ物成ノ盛付ハ甚ハダ輕キニテ、木庭地ノ中ヲ山畠ト爲シ置キタル處ノ、田ト爲レル分ノ木庭物成引方ノ日數モ甚ハダ少ナク、田ト成レル山畠ノ水ト土ト和セヌ間ノ出來ノ少ナキ十分ノ三ノ物成モ、其ノ他ニ盛付置キタル木庭物成ヨリハ多カルベシ、畠ノ中ノ田ト成ルベキ處ヲ田ト爲スモ、二年三年ナドニテ爲シ終ルベキ事ニテナク、先ヅ下畠ノ田ト成ルベキ處ヲ段々ト田ト爲シ、其ノ後ニ中畠、上畠ノ田ト成ルベキ處ヲ段々ト田ト爲スベキユヘ、早ク田ト爲シタル坪々ノ水ト土ト和セヌ間ノ十分ノ三ノ物成、以前ノ畠物成ヨリ少ナキハ、

元ヨリ有リ來レル天水田、深田ノ水ノ掛引自由ナル田ト成リテ出來增シアル物成ノ增シニテ補ナヒ、後ニ田ト爲シタル坪々ノ水ト土ト和セヌ間ノ物成以前ノ畠物成ヨリ少ナキハ、早ク田ト爲シタル坪々ノ水ト土ト和シテ出來增シアル物成ノ增シニテ補ナヒ、段々ト其ノ如クナラバ當分モ物成ノ惣高ハ少シヅツ增シ、以後ハ彌以テ增シアルベシ、百姓ノ方モ畠ノ田ト成レル坪々ニテハ畠ノ秋物ニ違ヒ、損毛ノ少ナキ麥ヲ作リ取リニシ、田方ノ少ナキ村々ヨリ田方ノナキ村々マデ、最初ヨリ藁ノ利ヲ得ルベキユヘ、畠ノ田ト成リ水ト土トノ和セヌ間ニテモ損分ナク、漸々ニ作得ノ增シアルベシ、樫根ノ山田ニ耕作スル者ノ云ヘルハ、山田ノ出來ハ風ノ吹キ通シノ好キ處ノ田ノ出來ニ及バズ、小茂田ノ田ノ一段ニ米六俵出來ル年ニ、樫根ノ山田ハ四俵ナラデ出來ズ、山田ハ米ノ粒ノ細ケレドモ性ノ堅クシテ飯ノフヘルコト、山田ニテナキ田ノ米ニ勝レルト云ヘル由聞キタリ、他方ニテ山田ノ横幅二三尺ナルモアルト云フナレバ、段畠モ水ノ掛カルベキ分ハ山田ト爲ルベシ、干出ノ田ハ普請成就ノ年數ノ期シ難キ所アリ、成就シテモ洪水ノ土手ヲ破リ、高潮ノ土手ヲ越スコトアリ、普請ニ手入リ多キニテ、日傭ニ爲サシメラルヽ普請ニハ財ノ費ヘ多ク、百姓ニ爲サシメラルヽニハ、川普請、溝普請其外農隙ニ爲ス働方ニ障ワリアリ、他方ノ干出開田ノ事ハ別段ノ樣子アルベシ、是州ニテハ溪水ノ強クシテ平地ノ畠ノ田ト爲ルベキ處アルハ水ヲ引キ田ト爲シ、溪水ノ弱クシテ山谷ニ木ノ育ツヲ待ツ處ハ、著月ニ涸レヌ水ノ少シニテモアルヲ山畠、段畠ニ引キテ山田ト爲スコトヲ命ゼラルヽニ如クコトアルマジ、是比沙汰ス

ル說ナリトテ或人ノ語レルハ、伊奈鄕ノ起方ノ地面ニ物成ヲ盛付タルニ、其ノ物成ヲ伊奈鄕中ニ十箇年成下サルヽト命ゼラレシハ疑ガフベキコトナリ、起方ト云フハ以前ヨリ有リ來リタル地面ノ水損ニテ減リ居ケルヲ、元ノ如クニ起シ立テシナレバ、新開トハ替リタル地面ナルニ、其ノ地面ノ物成ヲ十箇年成下サルヽハ、現物成ノ中ヲ成下サルヽト同ジ事ナリ、其レトモニ成下サルヽナラバ、去年佐須鄕ノ起方ニ物成ノ盛付アリシヲモ、伊奈鄕ノ如ク仰付ケラレズシテ叶ワヌコトナルベシト沙汰スル由語レリ、此度ノ農政ハ鄕村ノ大益ト成ルベキ農政ナレドモ、鄕役人ノ我意アリテ勘辨ナキ鄕ハ下知ヲ受ケズ、伊奈鄕ハ鄕役人ニ勘辨アリテ農政ノ旨ヲ最トモ早ク得心シ、段々ト下知ヲ爲セルナレバ、起方ノ物成ヲ十箇年鄕中ヘ成下サレ、鄕役人ノ心ニテ救フベキ者共ヲ救ワセラルヽハ、鄕役人ノ勤メノ賞ナリ、他鄕モ伊奈鄕ノ如ク下知ヲ受クル鄕ニ起方アラバ、伊奈鄕ノ如クニ命ゼラレ、其ノ格ハ伊奈鄕起方ノ物成ヲ伊奈鄕ノ百姓ノ數ニ割付シメラレ、一人ノ當リ何程ト極メラレ、他鄕ノ起方ノ物成ヲ其鄕ノ百姓ノ數ニ割付シメラレ、一人ノ當リ伊奈鄕ノ當リヨリ少ナキハ、其分ニテ十箇年成下サレ、一人ノ當リ伊奈鄕ノ當リヨリ多キハ、多キ分ヲ成下サレズ、伊奈鄕ノ當リノ分ホド成下サルヽニテアルベシ、爲シ來リノ宜シカラヌ事ニ執著シ、宜シキ下知ヲ受ケザル百姓ニ鄕役人ノ能ク下知ヲ受ケシムル鄕ニハ、年々ニ上納シ來レル現物成ノ中ヲ其ノ賞トテ成下サルヽトモ、道理ナキコトトハ云ヒ難カラン、然レ共年々ニ上納シ來レル現物成ノ中ヲ成下ルヽコトハ爲サルマジキ時勢ナルユヘ、起方ノ物成ヲ成下

サル丶コト當然ノ處置ナルベシ、山畠、段畠ニテナキ山ニ耕作スルハ見ヘ易ク知レ易キユヘ、農政ノ下知ノ行ワレシ鄕ニ木庭作ノ禁ヲ犯スコトハ成リ難カルベケレドモ、諸木ヲ育ツル山々ヲ或ヒハ十區ニ分ケ、或ヒハ廿區ニ分ケ、毎年一區ヅツノ木ヲ伐レトノ法アリテモ、山林マデ田畠ト同ジク村ノ請持ニ命ジ置カレタラバ、其ノ年ニ伐ルマジキ處ノ木ヲ伐ル者ノ多キニテ、山林ノ法ノ破レト成ルベシ、山林ノ法ノ破ル丶ニ成ラバ、木庭作ノ禁ハ立チ居テモ、山ノ働ラキヲ兼子爲ス所ヨリ耕作ノ務メ專バラナラズ、山々ニ諸木ノ育ツコト疎ソカナラン、然レバ木庭ノ山畠、段畠ニ成ラヌ處ハ上ノ立山ニ定メラレ、其ノ法ヲ命ゼラルニハ木庭ノ中ノ山畠、段畠ニ爲シタル處ノ上手左右ヲ、其ノ山畠、段畠ノ廣狹ニ應ジテ、或ヒハ二三十間ヅツ、或ヒハ四五十間ヅツ、伐寄ノ燒草ノ用ニ其ノ山畠、段畠ニ附ケ置キ、外海内海ノ方ニテモ浦内ニテモ潮滿ノ限リト見ユル處ヨリ、三町マデノ山々ト谷川ノ左右卅間ヅツト、牛馬飼用ノ草木ヲ育テ苦用、屋鋪葺用ノ茅ヲ育テ置ク處トヲ除キ、其ノ外ヲ廿區ニ分ケ、毎年一區ヅツノ木ヲ冬伐リニシ、其ノ伐リ始メハ廿區ノ中ニテ木ノ殊ニ長ジタル一區ヲ伐リ、其翌年ハ其ノ次ニ木ノ殊ニ長ジタル一區ヲ伐リ、段々ト其ノ格ニシテ終ニハ年々ニ二十年立ノ木ヲ伐ルニ致シ成スベシ、山分ケハ農隙ニ郡役人、鄕役人、村役人立合ニテ定ムベシ、潮滿ノ限リト見ユル處ヨリ三町マデノ山ニ立テ居ケル木ハ何ツマデモ伐取ザルニ定メ、元ヨリ大木ノ立チ居ケルハ其マ丶ニ立テ置キ、小木、草茅ノミ生ジ居ケルハ小木ヲ伐リテ薪トシ、冬ノ中ノ晴天ノ續キタル時ニ草茅ヲ燒キ拂ヒ、

翌年ノ二月ニ至リテ眞櫧ノ種子ヲ植ユベシ、海邊ノ櫧ハ能ク實ノルト云フナレバ、長ク育テ置クニ櫧子ヲ多ク得ル利アラン、海邊ニ大木ノ連ナリ育チ枝葉ノ厚ク茂リテハ、諸魚ノ地近ク寄リ來ルト云フナレバ、鰯ノ引揚ノ多ク成ル利アラン、若シ外國ノ賊船ノ侵シ來リテモ大木ノミ立チ居テ、草茅小木ノ立テ居ザルハ、外ヨリ火ヲ放チテモ火ノ炎ヘ上ガラザル利アラン、內ヨリ大木ヲ楯トシ大木ノ間ヨリ鐵砲火矢ヲ放チテ賊ヲ防グ利アラン、谷川ノ左右卅間ヅツニモ眞櫧ノ種子ヲ植ユベシ、其ノ櫧ヲ育テ何ツマデモ伐取ザルニ成リテハ、川筋ニ水氣ノ强ク成レルニテ田ニ用ユル水ニ不足ナク、田ニ成ルベキ畠ハ段々ト田ニスル利アラン、廿區ニ分チタル山ニ草茅ノミアル處ハ燒拂ヒ、風當テニハ松ト櫧トヲ育テ、風隱レニハ栗ヲ育テ、陰地ニハ杉竹ヲ育テ、元ヨリ薪ニ成レホドノ雜木ノ立チ居ケレハ、其ノ一區ノ木ヲ伐ル年ニ殘ラズ伐リ取リテ伐株ノ若立ヲ育テ、栗、櫧、松等ノ立チ居ケルハ其ノマヽニ育テ置キ、廿年ノ後ニ其ノ區ノ木ヲ伐ル時ニ、栗ハ實ノレル木ノミ立テ置キ、實ノラヌ木ヲ伐リ、櫧モ實ノラヌヲ伐リ、櫧ノ直グナル所ハ農具、船具、武具ニ用ヒ、直グナラザル所ハ薪ニ用ヒ、其ノ跡ニハ伐株ノ若立ヲ育テ、實ノラヌ栗ヲ伐リタルモ若立ヲ育テ、松ノ直グナル所ハ材木ニシ、直クナラザル所ハ薪ニシ、種子松ヲ立テ置キ、自然生ヲ育テ、松ノ殊ニ木筋好ク育チタル處アルハ、其ノ處バカリ廿年目ニモ伐ラズ、大キナル材木ヲ用ユル時ノ爲メニ殘シ置キ、陰地ニ杉ヲ育テタルモ其格ニシ、桑ハ村近邊ノ川端ト南向ノ山附ノ畠ノ北ノ端ニ植ヘ、楮ハ何レノ處ニテモ自然生ノ能ク育ツ處ニ育ツ

ルコト宜シカラン、公領ノ木山ト社領、寺領、給人領ノ木山ト相交リ居ケルモ、別段ニ立テズシテ二十區ノ區數ノ中ニ入レ、社領、寺領、給人領ノ木ヲ村人ヨリ伐リテ村ニ運ブハ、其ノ木ノ四分一ヲ地主ニ渡シ、四分ノ三ヲ村人ノ伐手間、運手間ノ賃ニ取ルベシ、是レ年貢ノ大法出來高ノ四分一ヲ上納スル道理ナリ、木庭ノ中ノ山畠、段畠ニ成ラヌ處ヲ上ノ立山ニ定メラレテモ、木ノ利ヲ臨時ニ少シモ上ニ上納セシメラルヽニテナク、木ヲ育ツル處ヲ百姓ノ請持ニシテハ、不覺悟ナル百姓ノ請持ノ處ハ木ヲ法ノ如クニ伐ラズ、木ノ育ツコト成リ難カラントノ僉議ニテ上ノ立山ニ定メラルヽ也、農隙ニ廿區ノ中ノ一區ノ木ヲ殘ラズ伐リ、材木ト爲シ薪ト爲シテ村ニ運ビ、材木ト薪トヲ分ケ置キ、公用ノ材木ト闔番薪トヲ漕登リテ上納スルハ、以前ヨリ定マリ居ケル直段ニテ公役銀ノ差引ニ成ルベキナレバ、上ノ爲メニ成ル所ハ以前ヨリノ通リニテ、木ヲ伐ル法ノ立チ木ノ能ク育ツコト、上ト百姓トノ利益ニ成ラン、若シ木庭ノ中ノ山畠、段畠ニ成リシ處ノミ耕作シテ、以前ヨリノ木庭物成ヲ上納スベキ事ニアラズト云フ村アラバ、畠ト山畠、段畠トヲ應見セシメ、例ノ通リニ出來高ノ十ガ三ヲ上納セシメラルベシ、立山ノ山廻役ハ村々ニテ撰バレ、鄉士ニテモ、鄉足輕ニテモ、百姓ニテモ疎略アルマジキ人柄ヲ一村ニ一人宛定メラレ、毎年二月八月府中ヨリ目付ヲ差下サレ、鄉ノ大中小ニ應ジ一人ニテ二鄉　鄉四鄉ノ立山ヲ檢分セシメラレ、郡役人ノ鄉村ニ往來スル序ニモ通リ筋ノ立山ヲ檢分スベシ。村々ノ名子モ其ノ村ノ木山一區ノ木ヲ冬ノ中ニ伐ル時バカリ、百姓ト共ニ伐リ、百姓ト共ニ分ケ取リ、毎月ノ働

ラキハ海ノ働ラキヲ爲シ、迨公役、漕船公役ヲ百姓ノ勤ムル分モ百姓ヨリ賃ヲ取リテ勤メ、海遠キ村ニテハ板ヲ割キ、屋板ヲ片ギ、苫ヲ編ム類ノ事ヲ兼テ爲スベシ、村々ニ用ユル材木、薪ヲ年中ノ用ノ不足ナキホドニ備ヘ置キ、上納用ノ材木、薪モ仕者町人ヘ賣リ用ノ材木薪モ、村々ノ濱邊ニ閣ヒ置キ、漕登スルニハ村々ノ名子ノ海ノ働ラキヲ爲ス者ト、府中ノ小船持ノ鄕村ニ往來スル者ヲシテ船賃漕ニ爲サシメ、船賃ハ材木、薪ノ直段ヲ相應ニ定メテ船賃トシ、賣リ用ノ薪ヲ積置タルハ、其肆養父ノ貢米ヲ積ミシ船ノ東日ノ浦ニ薪積ニ來レルニモ賣渡スベシ、上納物ト賣拂物ヲ村船ニテ漕登リテハ、農時ニハ農ノ時ヲ缺キ、農隙ニハ農隙ニ爲シ置クベキ事ノ障ソリニ成リ、農隙ニ爲シ終ラザル事ノ差延ガタキヲ農時ニ爲サバ、其ノ分ホド農ノ時ヲ缺グベキユヘ、材木、薪ノ漕登リノミナラズ、年貢ノ漕登リモ府中ノ小船持ニ船賃漕ニ爲サシメテ、船揚ゲ藏入レハ駄賃馬ニ負セ、船賃、駄賃ヲ麥ニテ渡ス相談ヲ濟メタラバ、府中ノ小船持ノ數モ增シ、年貢上納ニハ村役人バカリ附登リ、其外ノ上納物ニハ百姓隱居ノ中ノ相應ノ者ヲ差登セ、百姓ノ農業ニ益アラントノ趣ノ樣ナル次第ヲ命ゼラルニテアルベキカ、伊奈、與良、仁位三鄕ノ鄕役人ハ農政ノ旨ヲ深ク信ジ、鄕中ノ下知ニ宜キ事ノ多キト聞ヘシナレバ、其ノ思寄リヲ郡役人ヲシテ聞キ集メシメラレ、其ノ中ヲ撰ビ取ラルヽニテアルベキユヘ、宜シキ下知ノ道筋如何樣ニモ立ツニテアラン、是比郡奉行所佐役ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、鄕士ノ中ヲ村役人ニ命ゼラルヽ撰ビニ、物云ヒ好ク立廻リ好ク當用ノ埒明クベキ樣ニ見ユルヲノミ撰バレテハ、

此度ノ農政ノ如クナル郷村ノ實益ニ成ルコトヲ下知セシメラルヽニハ宜シカルマジ、村役人ノ撰ビニ入ルマジキト見ヘタル人ノ中ニ、此度ノ農政ノ旨ヲ實ニ下知スベキ人柄間々ニ見ヘタリ、年貢取立、公役銀取立、公役差引ノ樣ナル當用ハ以前ヨリノ定格アルユヘ、肝煎ノミ村役ヲ勤ムル村モ郷士ノ村役ヲ勤ムル村ニ異ナルコトナシト云ヘルコシ語レリ、物云ヒ好ク立廻リ好ク讀ミ書キヲモ並ニ勝サリテ能クセシ郷役人ニハ、其ノ郷ニテノ惡シキ事ヲモ詞ヲ飾リテ惡カラザル樣ニ云述ベ、書述ベ其ノ郷ノ事實ト下知トハ其ノ云フ所ト書ク所ハ甚ハダ違ヘルモアリシナリ、是ノ如キ郷役人ハ必ラズ高滿アルユヘ、宜シキ下知ニテモ郡代ノ下知ヲ受クルコトヲ嫌ヒ、上邊ニ受ケ上邊ニ上知シ、內心ニハ其ノ下知ノ行ワレザランコトヲ願ヒ、村役人モ其ノ郷役人ノ心ノ如クニ成リ、其ノ郷ニ農政ノ行ワルベキ樣ナシ、郷役人、村役人ノ撰ビノ格ノ改マルニ成ラバ、農政ノ行ワルヽニ益アルノミナラズ、村々ノ百姓ノ心入リモ少シヅツハ宜シキ方ニ改マルベシ、又是比或人ノ語レルハ、伊奈郷瀨田村ノ役人ヨリ村中ヘノ云渡シニ、農作ヲ下知ノ如クニセヌ者アラバ、其ノ中ニテノ殊ニ甚シキ者ヲ先ヅ申上ゲ、府中ノ土業ヘ身賣リニ出スベシト云渡セシ由語レリ、瀨田、樫瀧、飼所ノ樣ナル海ノ働ラキヲ爲サズ、村ノ不精者ヲ名子ニスベシト云渡サバ、元ヨリ爲シ來レル山ノ働ラキヲ專一ニシ、耕作ヲ粗クシ山ノ働ラキヲ兼テ爲セシ時ノ生業ニ劣ラズ、並百姓ノ心ニ山ノ働ラキハ海ノ働ラキノ樣ナル風波ノ日ノ障ワリモナク、勝手ニ宜シキ事ナリト思ヒ、地面ヲ取揚ラレ名子ト爲サルヽコトヲ恐レズ、却テ農政ニ害アルベシ、

身賣リト云渡セシハ其ノ故ナラン、海ノ働ラキヲ多ク爲シ來レル村ハ、其ノ村ノ樣子ニ依リ百姓ト浦人トヲ兩樣ニ立テラルヽコトモアルベケレドモ、山ノ働ラキヲ多ク爲シ來レル村ニ、百姓ト浦人トヲ兩樣ニ立テラルヽハ決シテ宜シカルマジキコトナリ、何レニモ作處ノ外ノ山々ハ立山ニ命ゼラルヽコト宜シカラン、昔年佐護ノ鄕役人ノ云ヘルハ、佐護ノ地ハ眞土ノミニテ堅マリ易キユヘ、川沙ヲ運ビ入レテ和ラゲタラバ利益ノ勝サレルニテアラント云ヘリ、眞土ノミニテ堅マリ易キハ、稻ヲ刈リタル跡ノ麥作ノ地拵ラヘニ手入多ク、畠作ノミスルモ雨止ミテ土ノ全タク乾カザル前ニ畠ニ入レバ、土ヲ蹈ミ堅メテ耕ヤシ難キト云フハ何レノ鄕村モ同ジ事ナレバ、其ノ類ノ土ニハ毎年田作ノ跡ト、畠ノ秋物ノ跡ヲ耕ヤス前ニ川沙ヲ運ビ入レ置キテ耕ヤシ、川下ノ濱ニ沙アルハ沙ヲ舟ニ積ミ、舟ノ行ク處マデ漕ギ寄セ置キ、其ノ處ヨリ牛馬ニテ田畠ニ運ブベキコトナリ、久田、南室、小浦ニハ別ニ命ゼラレタキ事アリ、以前ハ府中ノ人家ノ正月ノ門松ヲ借屋マデ松ノ本木ヲ立テケルニ、其後法令アリテ上士ノミ松ノ本木ヲ立テ、其外ハ總テ枝松ヲ立テシメラル、是レ松ヲ育テシメラルヽ旨ト見ヘタレドモ、枝松ヲ立テ木末ノ直グニ立タズ傾ムキタルハ、年始祝事ノ形ニ相應セズ、人情ノ嫌ヘルコト道理ナキニアラズ、久田山ノ中ト小浦山ノ中ニテ、七十間角ノ處ヲ一箇所ヅヽ門松用ノ松ヲ育ル地ニ定メシメラレ、七十間角ヲ十間ニ七十間ヅヽ七ツニ分ケ其一ツニ毎年二月小松ヲ一間角ニ四本ヅヽ植ヘタラバ、十間ニ七十間ニハ二千八百本ナリ、一人一日ニ五十本ヅヽ植ユルニ當ツレバ、二十八人二日ニテ二千

八百本ヲ植ユベシ、久田ノ山ニ久田村ヨリ植ヘ、小浦ノ山ニ南室、小浦兩村ヨリ植ユルナラバ、七箇年目ノ冬ヨリ七年立ノ門松ヲ三ケ村ノ百姓取出シテ賣ルベキユヘ、永々マデ盡ルコトアルマジ、六年ノ間ハ諸方ヨリ門松ノ本木ヲ取リ、七箇年目ヨリ兩所ノ松ヲ取始メヨト命ゼラレタキコトナリ、是ノ州ニ田畠、山林ノ政道ノ行ワルヽハ甚ハダ難キコトナラントト見ヘタレドモ、其ノ外ニ國家永久ノ道ニ成ルコトハアルマジ、郡代ノ志ザシ近來彌以テ堅固ナルト聞ユルナレバ、甚ハダ難クトモ成シ得ラルベシ(丁未之夏五月作)

郷村農事錄附說　終

農書輯略

幷同後語

農書輯略

某が退休せし後に郷村の物語を聞合、農書を著せし事十部にて、某が語る所の農事の說を親近の人の記せるは貳部なり、去年丙午には某が年七十に及び殊に老衰を覺ける故、退休の名に隨ひ一切に休息すべしと思ひ、夏秋の間郷村の物語を聞事もなし、農書を著す事もなかりしに、冬に至りて思へるは少にても精力の殘れる日までは、國恩を忘れざる寸心を用ゆべき事ならんとおもひ、去年の冬より今年の夏まで猶亦郷村の物語を聞き農書貳部を著し、親近の人の記せるは一部なり、初秋の比より右拾五部の文段を撰び、新に增す文段もありて七條に分ち、農書輯略と名附く、匹夫の賤敷も其君を君とし、其民を民とする事其分內にありと示し置れし旨に、國家の長久を祈る道をおもひ合するばかりあり

享保丁未九月九日　　西丘老夫謹識

國家の大慶は其長久なるにあり、西海道の諸州の中にて長久なる家は是州の君と島津、松浦の家也、

是其地の在る所の邊隅なるが故なるべし、只其領の武力の代々他領に劣らぬ故而已にては有まじ、諸州の中にて其府の人口を養ふ米穀の他方より入來れるは是州のみなりと聞へ、此州の其如くなるも四百年以來の事にて、府中の戸數の殊に多くなれるは七拾年以來の事也、是後に諸方の通路の難ㇾ成時あらば、昔の諸方の通路のなり難かりし時と異なるべきは、筑前肥前より是州を見る所ならん、是州は日本六十八州の中の下國と定められし九箇國のうちにて殊に劣れる下國なりと見へ、其上大海を隔居ける故、諸方の通路のなりがたき時にも是州を見る事輕るかりしに、七拾年以來は朝鮮との交易の道の廣くなれる事昔には甚増りたり、其所より筑前肥前の此州を見る事昔とは大に異なるべし、是州の主君の家の幾久しく相續し給はん事を求るには、今に言ふ所に眼を着くべき事也、是州に若し諸方の通路の難ㇾ成時あらば、朝鮮より此州に接遇するも昔とは異るべし、府中の戸數を減さるゝ令は行る間敷勢と決定せり、食の足らざる時は兵ありても用に立ず、信義の教もたるまじ、府中の戸數を減ぜられず、自身よりおもひ立て他方へ有り附く者あるに任せ置かるゝまでなりとも、農政さへ能く行はれば、諸方の通路の難ㇾ成時の食用を足し得らるべき事を近年に至りて考へしれり、其大目は木庭作を止め山林を養ひて水氣を増し、田方を廣め木庭作を止めたる餘力を以て田畠の手入れ養を精敷する事と、地の高き水の近き所に藷を植、山谷の曲折ある風隱に栗を育つる事との二事也、此の二事の下知は府中の戸數を減さるゝ令の行はれざる代りに成るべき下知にて、其下知の行はるゝならば是州に益あ

る事、府中の戸數を減さるゝ令の行はれ戸數の減たるに甚増ならん、是州府中の人の以前よりいへる壹州の土地是州の領に成り居けるならば、以後に至り諸方の通路の難成時ありても年貢の運漕に障なく、是州の爲に甚宜敷事なるべしと言へり、壹岐は肥前よりの海路程近く山岡の穩か成るにて、作所と成る地は多けれども寇を防ぐに利あらず、壹州の土地此州の領に成り居けるならば、彼の地の年貢の多きとて府中の戸數を増給ふ事なく、彼の地の年貢を參覲し給ふ用と諸役所の用に當給ひ、其餘分を家中へ祿に給はり、府中より郷村の者を水夫公役に召使はるゝ代りは、彼の地の浦人を召使はれ、是州の田畠山林の政道を精敷命じ給ひ、是州の百姓にも彼地の百姓にも同仁政を施され、是州より彼の地に差渡され居住せしめらるゝ諸士足輕の、少しも百姓を犯し侮らざる樣に嚴密に命じ給ひ。若し静謐ならざる時に至らば、彼の地の年貢の彼地居住の諸士足輕の祿となれる餘分を總て彼の地の百姓に分ち與へ給ひ、彼地の百姓面々に持ち得る程の鐵砲を静謐の時に張らせ置給ひ、鉛丸火藥を多く備置給ひて、彼の地の百姓を農兵とし給ひ、將帥に任ぜらるべき人を差渡さるゝならば、彼地を是州より領し給へる事此州の爲に甚よろしからん、若此州の田畠山林の政道を精しく命じ給ふ事なく、彼地政道を右の如くし給ふ事なく、府中の人の心に彼地を此州に續きたる州郡の樣におもひ、彼地の年貢の基肄養父の年貢より甚多にて、府中の戸數唯今よりも多く、不圖静謐ならざる時に至て、肥前の大領が筑前の大領より多勢を差渡し、走路を西北に開き置て東南より攻入り、是州より差渡置れた

る士卒にて彼地を守り得ざるにならば、靜謐ならざる時の患に此州より彼地を兼領し給はざるよりも甚大ならん、府中の人の浮利の多きを悦び、實利の少きを卑しんずるは常に鄕村農政の說を惜み、是州は下國なれば農政をいか樣になさるゝとも、府中の人口を養ふ程の穀物の何として出來增すべきやと言へり、一人一日の食の五合に當らぬは、二三合に當れるも三四合に當れるも、食の足らぬは同じ事と言べき樣なく、鄕村に農政の行れて九割十割の出來增しなくば、二三割四五割の出來增ありても出來增のなきに同じきと言べき樣なし、今の郡代癸卯の夏より甲辰の夏迄農政の主意大綱を八鄕の奉役に示され、其中出る所を聞集られ、乙巳六月伊奈鄕に始て木庭下知を開かしめられ、去年丙午の春は與良鄕に下知を開かしめられ、今年丁未の春は仁位鄕に下知を開かしめられ、佐護鄕には畠の田となるべき所を田となす下知を請たると言ふなれば、是又木庭下知も開くにてあらん、農政の主意大綱を得心すべき奉役に得心せしめられたるは郡代と郡奉行の功也、主意大綱計知れても、其鄕中の村々に應ずる下知の條目を奉役勘辨するに非ずしては、一鄕にも農政の行はるべき樣なし、然ば下知の開けし鄕あるは某の鄕の奉役の功なり、農政の開けし鄕にて農政の功效の分明に見る年に至らば、農政の下知を受ぬ鄕々の奉役に郡奉行よりの言ひ渡しに、農政の功效の見べき鄕の下知の大綱に違はぬ樣に下知し、條目も村役人との僉議の上にて農政の功效の見へたる鄕々の如くに下知せよと言ひ渡さば、八鄕一同に農政の行はるゝにならん、しかれば郡代の心を勞せらるゝ事の中にて條目は事濟たり、是後の

事は上は邊に農政を信ずる樣に言ひて、内心には農政を惡み勘辨の淺くして我意の强き奉役と出合たる時に、密に農政を識るべき郡奉行を壹人も交へられず、其類の奉役を壹人も交へられざるこそ肝要ならん、此度の農政を識れる人は奉役の農政を信ずるをも識り、或は郡代に諂ふと言ひ、下知をなし得たる所は少しも言はず、未だ下知をなし得ぬ所を言ひ立、是の如くなるに下知をなし得たる樣に郡代に申て郡代を欺くと言ひ、農政を受ぬ奉役を郡代に諂らはぬ剛直の人の樣にいへるよし沙汰せり、是皆流俗の凡情より出たる惑ひなれば、哀れむべくして惡むべからず第一條

此度郡代の命にて郡奉行より郷村へ農政の下知ありしにて、郷村の人の云ると沙汰するを聞に、畠作の麥は大抵年貢と種用と麥取の間の食用に成るまでにて、秋物の出來るまでの食用にはならず、百姓の食用は木庭作の利にて足しけるに、木庭の中の段畠に成るべき所のみ作所とし、段畠に成る間敷瘠細なる木庭には栗を植て、栗に宜からぬ地には櫨を育て、栗にも櫨にも宜からぬ地には、松にても雜木にても能く育べき木を育よとの下知あるは、當らぬ事なりといへるよし沙汰せり、畠麥は年貢種と麥取の間の食用なり、秋物の出來る迄の食用は木庭麥也と言ふ說は、是以前より郷村にて言ふ事なれども、木庭麥に畠麥より出來の多くして是如く言にあらず、木庭作を好む所より木庭に利の多き樣にいひなさんとて、木庭年貢の麥も木庭の種麥も、畠麥の中より當木庭麥の食用になる利益に、畠麥よりも勝れる樣に言ひ立る也、木庭年貢は輕けれども木庭を廣く明るにて種は多く入り、種に應ぜず出

來は甚少し、鄕村にて聞けるに、嶮岨なる木庭は作物の根に雨濕の留らざる故、當年には濕氣の足らぬにて出來少なく、長雨の繁き年に出來多しといへり、木庭の地位の勝れて好き鄕村の木庭にて、木庭の中の段畠成るべき所を段畠となし、段畠にならぬ程の嶮岨なる所に栗にても楮にても、其外の木にても土に宜敷して能育つ木を育るならば、木庭作の利益に勝さらん、鄕村の農人の木庭下知を誇るは、木庭作の出來の好き年の稀なるを目當にして、當年の出來の甚少きを忘れ居ける故也、博奕する者の勝つ事の希にあるを目當にし、負る度數の多きを忘れて博奕を好むがごとし、是州にて以前よりの言ひ來に、他方の沃土に用る事を是州の瘦土に用ひ難きと言來れり、是州の農事の說の誤りの根本は此說也、是州の農人の心に諸州は總て沃土のみにて、此州は總て瘠土而已也と思へると見へたり、諸州は總て沃土而已ならば、上國、中國、下國の位を定め給ふ事はあるまじ、上國總て沃土而已ならば、上田、中田、下田の位を定めらるゝことはあるまじ、是州の君の兼領給へる基肄養父の地は、上國の肥前の內なれども、上田而已にてなく中田も下田もあり、是州は下國なれ共、下田而已にてなく上田もあり、此州の上田も作人の好きは基肄養父の出來に減らず、唯田畠の廣くして上田の多く下田の少きを上國として、田畠狹して上田少く下田の多きを下國とする也、諸州の農人は他領の農事迄尋ね求め、其なし來に勝される事あれば是に效へると聞へけるに、是州の農人は稀に宜敷農業をなせる人ありても、隣國さへ是に效はず、是木庭作にて農事の風俗荒くなり、農事の風俗の粗くなれるにて、自

ら高ぶりて人の教を受る事を嫌へる故也、木庭を止めたる手間の増にて草糞、焼糞を多く蓄へ、草を取土を寄る度數も增し、養ふに不足なく手入に不足なくば、必畠作の出來增あるべし、郷村の人のいへるを聞に、上百姓の一升蒔より取る穀物を、下百姓は二升蒔三升蒔よりも取り兼ぬといへり、上百姓と言は其身の働人並に勝り、下百姓と言は其身の働人並に劣りたるにて有るべけれ共、大抵は家內に作所の働をする年比の人の多くして、農事の人力の足り作物の勝れるにて、在附の能きを上百姓とし、家內に作所の働をする年比の人の少くして、農事の人力の足らず作物の出來の劣れるにて在附の好からぬを下百姓とすると言なれば、手入の多作得の少き木庭作を止るは、働く人の足らぬ家に働人の增したると同じ道理也、畠物成と木庭物成の多少の分數は村により違ひありても、八郷の木庭物成高は畠物成高の三分の一にも及ばず、木庭の手入の止たるにて畠作の手入れ養ひ精敷なりて出來增あらば、木庭物成を畠出來の中より□□□何の障あるべきや、以前より農人請持の木庭の中に竹木を育置くは、其所の木庭に耕作せずしても其所の物成を麥にて納め、郷村の茶園物成を麥にて納ると同じ道理也、假令段畠となるべき木庭の少しも無き村の稀にありても、木庭の床とて木庭山の麓の畠成るべき地の少しもなき村はあるまじ、假令木庭の床の少しもなき村にても、木庭には全體其地に宜敷木を育、畠の狹ても畠地の手入れ養を專らにするならば、以前畠木庭兩樣の耕作したる時よりか作物の取高多く、木庭物成の木庭作せずして納ても、農家の食用の穀物は其以前に勝り、木庭に育てたる木の長ずるに

て、其村の作所の外の利益の増に成るべし第二條

上郷の給人の府中にて郡代の農政の下知を批判せしとて沙汰する一說に、此度の下知の惡敷にてはなければども、何かに障る所ある下知なる故行はる間敷と言へる由沙汰せり、村々家々の爲に少しも障なく、百姓面々の勝手に能き事のみなりと言ふ下知は有間敷事にて、益の多く障の少きは其少しの障を用ゐず、益の多を用べき事也、郡代の木庭下知も麥取下知も障りあるといへる給人は、以前よりなし來る木庭にも麥取納にも障なきと思へると見へたり、木庭作には木庭を明土を掘り浮し置たる時に大雨の降れば、土沙を流し下し川筋に土沙の滯れる所より水勢惡敷成り、川岸を突き崩し田畠を突き破り當作を損さす害あり、木庭に明けたる所の多ければ、山氣の薄くなり夕立の雨の少きにて、田畠の旱損を増し木の葉に雨を含事少く、俄水の出るにて是又田畠にも當作にも害あり、木庭作は出來の少くても壤の廣く手間の多く掛るにて、田畠の手入れ養ひ粗くなり、田畠に出來べき程の穀物を作り出さぬ害あり、麥取納も以前よりもなし來には晩く、取掛り晩く取終り梅雨を經る故、其中に麥を腐らかす害あり、木庭麥を晩取れば草繁りて取手間の多く掛り、麥跡の大豆蒔も付けも晩成るとて木庭麥を早く取り掛り、其中に大水の出れば川近邊の上畠の麥を流し失ふ害あり、麥の取納の晩きにて麥跡の秋物の蒔付け常に晩く、蒔付の早くして根の早く茂れるは旱に枯ざるも、蒔付の晩にて旱に枯れ、蒔附の早くして實のりの早きは風に損ぜざるも、蒔付の晩きにて風に損ずる害あり、晩く蒔に損なき年

もあれども夫は稀成る事也、以前よりのなし來りには此のごとく重き害ありても、其害を輕き害とも言はず。近年郷村の人の説に、洪水山拔けの時は木庭作せずとも水損あるべし、洪水山拔なき時は木庭作するとも水損あるまじ、大旱の時は山の茂り居ける共旱損あるべし、大旱のなき時は山の茂り居ず共旱損あるまじ、上百姓は木庭作しても田畠の作を粗くせず、下百姓は木庭作せずとも田畠の作を粗くすべし、氣候の能年は麥を晩く取掛りても損なし、氣候の好からぬ年は早取掛るとも損あるべしといへるよし聞及べり、人事の惡敷より生ずる害を、人事の能きにも免かれざる天災と一ッに言ひ立て、家内の人手間も多其身の働も勝される上百姓の木庭作しても、田作、畠作の並百姓程には粗からぬを以て、並百姓の田作、畠作の粗きは木庭作する故にては無きと言ひ成す也、木庭作を止め田畠と山畠、段畠にのみ耕作せば、上百姓も並百姓も下百姓も面々の分に應じて作得の增あるべし、下郷の百姓のいへるとて沙汰する一説に、木庭作を止めて田畠と山畠、段畠にのみ耕作し、手入れ養ひを精しくするならは、作物の出來增しあるべけれども、貧き百姓は農の時にも公役銀の爲に山海を働き、公役の夫使にも當り、作所の手入れ養の手廻し力に及ざる所あり、鰯を引く村々は作所の手入れの力に及ばぬ所ありても、畠木庭の養ひに干鰯を用ゆれども、鰯を引かぬ村々は干鰯を買ふ代銀を持たる百姓のみ干鰯の養ひを畠木庭に用ひ、並百姓は用ひへず、何れにも惣體に行渡りて利益となるは木柴を燒きて養ひとする木庭作なりといへるよし沙汰せり、他方にても公役の夫使なく、年貢の外の納物なき

州郡はあるまじ、他方にて山の遠き郷村は、田畠に成るべき平地の中に草を育置草糞となし、塵芥の類燒糞となしけるに、是州の百姓は木柴、草茅の多き山谷の間にある村々に居ながら、草糞燒糞を拵へず、田畠の手入れ精からぬは、木庭作に手入り多き故なるを其事は言はず、只公役銀の爲の働と公役の夫使にて、手入れ養ひ遂せぬと計言なす也、此州の作取は瘠土の多く沃土の少なくても、養にする木柴草茅の多きにて、草糞、燒糞を他方より多く用ひ、其上に水糞を拵て相應に用るならば、諸作の出來增輕き事にてはあるまじ（第三條）

郷村の人の上府して此度の農政を議れる說に、木庭の中の田畠、段畠になるべき所の並しは木庭畠の十の一なるべし、木庭を甚早く明くるは上木庭を三四年目にも明け、中木庭を五六年目にも明け、下木庭を八九年目にも明る故、其並し五年目に明るにしては、拾石蒔の木庭を每年貳石蒔宛明るになり、是十の貳也、跡作するを加へたらば十の三にも當るべし十の一を山畠、段畠にして耕作するとも、藻糞、鰯糞を用ひずば作物の出來年々に劣り、落着は一年耕作して貳年も地を休めずしては叶ふまじ、しかれば一石蒔の山畠、段畠も三年蒔程に當るになり、作所の減る事甚敷、以前の木庭作の作得の分を山畠、段畠の作にて取得る事何として成るべきぞといへるよし聞及べり、山畠、段畠の上は手左右には作所に伐り寄すべき木柴を育て、其分を三ッ四ッに分け置、年々に山畠、段畠の作物の跡を耕し、筋を切り畦を立たる上に上は手左右より、三年立四年立の木柴を伐り寄、數積てよくからしたる時に燒

き、作物を蒔付るならば、年々に耕作しても出來の減る事あるまじ、木柴、草茅を敷き積て燒は其灰の土を養ふ益よりも、木柴草茅を燒火にて土の燒土の性の新敷なれる殊に重きと以前より言ふ事也、手寄の木柴、草茅のみならず、作所に生じたる草を取りて作物の根に寄すにも、作所を刈たる跡の莖と根を土に耕し交ゆるも、總て作所の土の增しになり養になり、木庭作せし時は大雨に上は土の流れ下れる損あれども、平らかなる山畠、段畠になりては其損なし、上々木庭、上木庭を三年目程に明け、中木庭を五年目程に明け、下木庭を八九年目に明ると言ふは佐護郷也、他の七郷に佐護郷程木庭を早く明る郷はなきと言ふ、上木庭は少なく中木庭下木庭は多ければ、跡作する年を合ても上中下の木庭を明る並し、五年に一度より多は當るまじ、猪荒の時さへ上中下の木庭の出來の並しを一斗穗と言ひ、壹斗蒔を四斗蒔に當しなれば、猪荒の止みて木庭を彌明通し、出來の彌減たらば一斗蒔に三斗より多くは出來まじ、木庭一石蒔を五年に一度明け、出來の並三石に當りても、種壹石を引けば作得貳石になり、其貳石を五年に割付れば四斗也、木庭壹石蒔の中の山畠、段畠に成るべき壹石蒔を山畠、段畠となし、手寄の木柴、草茅を每度伐り寄せ刈寄せて燒き、平蒔を改め筋植にせば、出來の並しを內端に當たる共六斗には當り、種を引て五斗也、去年丙午の伊奈郷麥出來の書付に、段畠になるべき木庭を段畠になしたる所の出來の並しは種の十一倍五割にて、段畠になるべき木庭を未段畠になさぬ所の出來の並しは種の六倍七割なりと見へ、兩樣の所に何れも觸糞を養ひに用ひしと言、地面を平かにするに

利益の增る事を知るべし、郡代の農政の旨を伊奈郷にて下知するは乙巳の秋に始り、與良郷にて下知するは丙午の春に始り、伊奈郷の下知は鹿見組の村々に早く行れ、今年に至りては農作のなし來を改めたる事少なからず、伊奈組の村々に農政の行るゝ事、鹿見組の村々に行るゝに次ぎ、仁田組と東組の村々には農作のなし來を曾て改ざるもの共の多して、山の働を生業の樣におぼへ居ける故、奉役より兩組の村々の下知人に相談し、農務の急成る時節の山働きを先づ止させ、耕作の出來增あるに應じて段々と山の働を減らさせ、落着は農隙に而已山の働をなしむるに定め置ると聞、其如せば仁田組東組にも下知の効し著はるべし、鹿見村居住の奉役のいへるは、仁田組東組の百姓段畠の普請を下知の如くにせず、庭の苦土を掘出したる者共も多けれども、段畠の形を下知の如くしけるあれば、是亦農政の行はれたる也、段畠の上は手の險岨なる所上は土を掘下げしめて段畠の面に敷かしむるは、後日にも成安き事也、段畠は新に拵へたる畠なれば、普請に念を入れても少しも交らざる事はあるまじ、普請に念を入ざるは苦土の交り多からん、假令苦土の交りなくても年々に耕作し來れる畠の地位の樣にはあるまじき故、此以後段畠の地位の好くなるまでは、畠の養に馬糞草糞の類をのみ用ひさせ、段畠の養ひに鰯糞を用ひさせ、鰯の油氣にて生土の能く熟する樣に下知するにてあらん、上は土を置ぬ苦土計の段畠にても、木柴、草茅を厚く敷積て腐らしたるを上は土にする道もあり、苦土を犂き返し木柴、草茅を厚く敷積み枯したる時に燒き、火氣にて苦土の性を變化せしめ、其灰に埋にて拵へたる

燒糞、草糞を運び加へて上は土とする道もあり、村々の役人と村々の百姓の中の老功の者と相談せば、下知のなし樣の宜敷事幾重にもあるべし、差急ぐべき下知を先にする故一度には成りがたし、漸々には全く行はるゝにてあらんといへるよし傳聞たり、伊奈、與良兩鄕の奉役の下知の條目は異る所もあれども、主意大綱は一致なりと聞へ、仁位鄕奉役も農政も深く信じ心を用る事切實にして、伊奈、與良兩鄕の奉役の下知する樣子を聞き合せ、村々の役人と精しく相談して鄕中に下知すると聞ゆるなれば、右の三鄕には農政の効段々と見ゆるにてあるべし第四條

山林の政道は農政の本源なるべし、山畠、段畠にてなき山に耕作するは見へ安き故、農政を信じて下知する奉役の鄕々に木庭作の禁を犯す事は成り難かるべけれども、諸木を育つる山を二十一區に分け、每年一區宛の木を伐れと奉役より下知しても、山林迄田畠、山畠、段畠と同く作人面々の請持にし置かば、其年に伐る間敷所の木を伐るものありて、禁制の力の及ばざるにて山林の政道の破れともなり、木庭作の禁は立ち居ても、農時に山の働を兼なす所より農作の務疎かならん、しかれば木庭山の山畠、段畠にならぬ所は村々の作人仲間の請持に定め、其法は木庭の中の山畠、段畠に成たる所の上は手左右を、其山畠、段畠の廣狹に應じ、或は二三十間宛、或は四五十間宛、伐寄せの燒草の用に其山畠、段畠に附け置き、外海、內海の方にても潮滿の限りと見ゆる所より三町迄の山々と、谷川の左右三十間宛の地と、牛馬飼用の草木を育て、苫用、屋根葺用の茅を育て置く所とを除き、其外の山々を二十區

に分け、毎年一區宛の木を冬伐にし、其伐始めは貮拾區の中にて木の殊に長たる一區を伐り、其翌年は其次に木の殊に長じたる一區を伐り、段々と其樣にして終には年々に貮拾年立の木を伐るに致したし。山分けは農隙に郷役人、村役人立合にて定め、潮滿の限りと見ゆる所より三町迄の山に立居ける木は、何迄も伐り取らざるに定め、元より大木の立居けるは其儘に立置き、草茅、小木のみ生じ居けるは小木を伐りて薪とし、冬のうちの晴天の續きたる時に草茅を燒拂ひ、翌年の二月に至りて眞櫧の種を植しめ、海邊の櫧は能く實のるといへるなれば、長く育置き櫧子を多得るに利あらん、海邊に大木の連なり育枝葉の厚く茂りては、諸魚の地近く寄來ると言ふなれば、鰯の引揚の多くなる利あらん、若外國の賊船の侵し來りても大木のみ立居て草茅、小木の立ち居ざるは、外より火を放ちても火の炎へ上がらざる利あらん、內より大木を栖とし大木の間より鐵砲を放ちて賊を防ぐ利あらん、谷川の左右三十間宛の地にも眞櫧の種子を植しめ、いつまでも伐り取らざるになりては、川筋に水氣のつよく成れるにて田に用ゆる水に不足なく、田になるべき品は段々と田にする利あらん、貮拾區に分けたる山に草茅而已なる所は燒拂ひ、風當には松と櫧とを育て、風隱れには栗を育て、陰地には杉竹を育て、元より薪に成る程の雜木の立居けるは其一區の木を伐る年に殘らず伐り取りて、伐株の若立を育、栗、櫧、松、杉の立居けるは其儘に育置き、貮拾年の後に其區の木を伐る時に、栗は實のれる木のみ立置き、實のらぬ木を伐り、櫧も實のらぬを伐り、櫧の直なる所は農具、船具、武具に用ひ、直ならざる

時は薪に用ひ、其跡には伐株の若立を育て、實のらぬ栗を伐りたるも若立を育、松の直なる所は材木にし、直ならざる所は薪にし、種松を立置きて自然生を育て、松の殊に木筋よく育ちたる所あるは、其所ばかり貳拾年目にも伐らず、大きなる材木を用ふる時の爲に殘し置、陰地に杉を育たるも其杜にし、桑は村近邊の川端と南向の山附の畠の地の端に植、楮は何れの所にても自然生の好く育つ所に育る事よろしからん、公領の木山と社領、寺領、給人領の木山と相交り居けるも、別段に立ずして廿區の區數の中に入れ、社領、寺領、給人領の木村人より伐りて村に運ぶは、其木の四分一を地主に渡し、四分の三を村人の伐手間運び手間の賃に取らば、是年貢の大法出來高の四分一を上納する道理ならん、吾昔て問ひに答、八鄕の海邊の山に他方の州郡にてなせるごとく松を育てしめられ、小材木にして隣國に賣出さしめらるゝ利益の事をいへるに、此比に至りて其誤り甚敷事を悟れり、用木を他國に賣出す端を開かれたらば、遂には山林の政道の破れとならん、山林の政道の少しにても破るゝならば、水氣增益して田方の增し元よりの天水田源田の井手より水を引く田となりて、出來增ある道も塞がるべし、田作の師に佐須鄕小茂田久根農人の年老たる者を郡奉行所に願ひて招き寄、山田の田作の師には佐須鄕樫根の山田の作人の年老たる者を願ひ寄せ、田方は穗見免にて定法のごとく十の三を上納し、其事の廣まるにならば、年貢上納の增も、百姓作得の增も、輕き事にてはあるまじ、八鄕の中にて山田の多出來べきは佐護鄕なりと言ひ、佐護の谷々數個所なれども、山畠の多出來べき地形にて、唯今とて

も水氣の强さは中山の內也と言ふ、中山の內を成るたけ田となし、佐護の畠方の田となるべき所を田となす普請を、奉役より地方普請奉行に尋聞き、得心して普請をなし、只今にも大旱に水の涸ぬ溪ある所は、何れの鄕村もその如くありたき事也、木庭地の物成の盛附けは甚輕にて、木庭地の中を山畠となし置たる所の田となれる分の木庭物成引方の石數も甚少く、田となれる山畠の水と土と和せぬ間の出來の少き十分の三の物成も、其地に盛附け置たる木庭物成りよりは多かるべし、畠の中の田と成るべき所を田となすも、二年三年抔にてなし終るべき事にてなく、先づ下畠の田となるべき所を段々と田となし、其後に中畠、上畠の田となるべき所を段々と田となすべき故、早く田となしたる坪々の水と土と和せぬ間の十分の三の物成、以前の畠物成より少なきは、元より有來れる天水田源田の水の掛引自由なる田となりて出來增しある物成の增しにて補ひ、後に田となりたる坪々の水と土と和せぬ間の物成、以前の畠物成より少なきは、早く田となしたる坪々の水と土と和して出來增ある物成の增にて補ひ、段々と其如くならば當分も物成の總高は少し宛增し、以後は彌以增あるべし、百姓の方も畠の田となれる坪々にては、畠の物に違ひ損毛の少なき麥を作り取りにし、田方の少なき村々より田方のなき村々まで最初より藁の利を得るべき故、水と土と和せぬ間も損分なく、漸々に作得の增しある也、地方にて農人のいへるは、畠を田となせし二三年は出來好からず、水と土と好く和したる後は畠の秋物に田作程出來は多きはなしと言ひ、是州にて田作をなし覺へし農人の言ふも他方にて言ふに

同じ第五條

穀物、菜果の利益にも撰あるべき事也、上郷の奉役のいへるとて或人の語れるは、畠作の秋物の中にて麥に及ぶものはなし、蕎麥、粟は稀に出來の好き年あれども損毛の年多し、稀成出來を目當にし廣く作り、取納に手間の多く掛るにて、麥作の地拵粗く蒔付も時に後れ、殊に蕎麥、粟の俵數の麥の同きも食用にしたる時は麥の利に甚劣り、大豆相應に作らずして叶はぬ物也、蕎麥粟はなるたけ蒔付の數を減さしむるにてあらんといへるよし語れり、是以前も聞ける事也、上郷の百姓のいへるとて或人の語れるは、郡代より下知ありし栗育の事を近き比までは其故を落著かず、此比に至りて落著たり、諸木の中にて早く長ずる木は栗也、稀には栗の育たぬ地もあれども、能く育つ地の多きと見へ、鴉の取りて土に埋む事もある故種子を植て育る事なくても、木庭作さへ止たらば、以後は何れの山にも自然と生ずべし、只今にも伐株の若立ある所と自然生ある所は多くして、伐株も自然生もなき所は少なし、若立の栗は十年程經過れば小材木に用ゆる程の木になり、曲みたる所と末と枝とは薪に成り、直にして短かき所は屋根板になり、材木にするも、屋根板にするも、薪にするも性の强き利ある故、實のらぬ木にても其益ある事他の木に勝れり、實のる木も毎年實のるものにてはなけれども、其樫も同じ事也、木庭作の止みて山畠、段畠にならぬ所に諸木の育つならば、栗子の利の多き事繙に勝るべし、只今迄は木庭作するにて栗を育てず、木數の多き繙と木數の少なきと較らべて、栗の利の繙に及ばぬと

おもふは誤也、栗子を煑て干せば腐る事なく、澁皮は粗皮に付きける故、冬の内に粗皮を舂き碎き、實を俵に入置き、煮て食せば四時の食の助けとならんと言へる由語れり、勘辨有る百姓の言ふ所ならん、藷の事を聞及ぶに、食し樣を精敷勘辨したる者は、寒氣の節より翌年の春夏迄の食用の分を蓄ゆるに、老人と少年の者をして藷を洗、中まで煮ゆる程に能煑て筵にひろげ日に晒し、雨天の時は筵を棚の如くにして其上にて乾かし、晴天を待て日に晒す事を勤しめ、少年の者に鴉の犯すを逐はせ、中迄能く乾たる時に俵に入れ、段々と其如くして鼠の犯し得ぬ物置處に積置き、食するには生なるを食する樣に煑て食し、四月の節の初比と六月の節の初比に日に當醭を去れば、新藷の出來るまでも食するよし聞及べり、其なし樣の廣まり種子芋の芽のはやく出て、蔓の早く延ぶ樣に養ひ、手入れをなし覺へし村々のごとく八鄕一同になし覺、農業全書に藷は濕氣なき所の中にて水を汲て灑事の成るべき手寄の所に作れば、損毛の年なしと見へたるを取り用ひ、大旱にも涸ざる水の手寄に植、大旱の時は十日か十五日に一遍宛水を運びて灑ぐ事をなし覺たらば、藷の利益只今には甚勝さらん、殊に稀成大旱の時は藷に灑ぐつき水迄も涸るゝ事あるべけれども、山林の政道の行はるゝにならば其患もなからん、農政の能く行はれし後に若諸方の通路の成り難き時あらば、百姓の公役を勤る事を一切に許し給ひ、其替り籾麥豆を相應に上納せしめ、以前の年貢に加へて府中より鄕村に移ろ間敷人數の食用に當て給ひ、百姓の公役銀を一切に許し給ひ、其替り農家の婦女の織物と綿とを相應に上納せしめ給ひ、府中

賤民の中より郷村に移るべき人數は郷村に移し給ひ、或は漁戸となり、或は鹽戸となり、府中に往來する公役を百姓の勤め來れるは漁戸の者に勤めしめ、百姓は專ら農時を務て成し來れる海の働を止め、漁戸の者は鰯を引き諸魚を釣り、食用になれる海草を取り、作所を養ふ藻を取り、鹽戸の者は鹽を燒き、百姓作り出せる諸穀諸菜に易へ、農戸、漁戸、鹽戸と相助け相養ひ、諸方通路の成り易き時に多く他方に賣出せる干鰯を悉く此州の田畠の養ひとし、麥を刈取る働にも、其外の農事を急ぐ働にも、漁戸と鹽戸の者を雇はしめ、下知の精しくして人事を能くせしめば、諸方の通路の成難き間に生れ増したる人數の衣食の用まて足れるにてあるべし、東照神君の大訓無智なる者は利發立てして一寸先をしらず、夏の温かなれば冬の寒氣を考へぬぞ、末を考脊を絶つべしとの給へり、國を憂る人のおもひを致すべき所也第六條

是州に譬へば以前より壹州の土地を兼領し給ひ、以後に至り若靜謐ならざる時あらば、彼地の年貢彼地居住の諸士足輕の祿となれる餘分を總て彼地の百姓に分け給ひ、彼地の百姓を農兵とし給ふべき事ならんと思へる次第を或人に語る、其人のいへるは、壹州は是州より半日の順風にも渡海する海路にて、穀物の多く出來る地なる故、壹州を是州より兼領し給はば、是州の郷村に出來る穀物の少なくして府中の人口を養ひ得ざるも、壹州の地の穀物にて養ひ得べし、然るに靜謐ならざる時に壹州の年貢の彼地居住の諸士足輕の祿となれる餘分を、總て彼地の百姓に分ち與へ給はば、彼地の穀物の是州に

入來る事なく、朝鮮より年例貿易の買米も靜謐の時の如く入來らずば、府中の人口は何れの穀物にて養はるべきや、靜謐ならざる時に彼地の年貢の彼地の居住の諸士足輕の祿となれる餘分を、半は是州に取寄られ半は彼地の百姓に分ち與へられても、農兵となし給ふに障あるまじ、其方の語る所は偏見ならんと言へり、此の說は某がおもふ所に異なり、壹州の人高は三萬人程にて、內檢の石高は六萬石程なりと聞く、年貢を出來高の半分程上納し來りたるにしても三萬石程也、其三萬石の中より彼地居住の諸士足輕の祿となれる餘分を見ゆるならば、彼地の百姓の男女老少に分ち與らるゝ米穀の分數一人一石に當らず、其內端ならん、如ㇾ此見へたる米穀の分數なるに、總て分ち與らるゝは過分なるにて、其中を少しにても是州に取寄らるゝ樣なる事にては、其外の所置も夫に應ずべき故、彼地の百姓を農兵に養ひ立給ふ事は成るまじ、彼地に農兵を養ひ立給はずしては、靜ならざる時に保ち得給ふ事なるまじ、譬へば基肄養父の地に府中の諸士の中を相應に居住せしめ給ひ、靜謐なる時に福岡、佐賀、久留米の領主に親切に通行し置給ひて、靜謐ならざる時に三所の領主の中にて信義の勝れると見へたる領主に基肄養父の事を賴み給はゞ、彼地居住の諸士は其領主の旗下の人數のごとくに成り居けるにてあるべし、肥前筑前と海を隔てたる壹州の事を福岡、唐津、平戶の領主に賴み給ふべき樣なく、彼の三所の中の領主の心に是州の土地には望みなくても、朝鮮との交易の道の是州にあるを望に思はれ、先壹州に兵船を渡され、是州に向きたる方を明けて置て攻め入るならば、府中の諸士を半分程彼地に居

任せしめらるゝとも、百姓一同に農兵となれるにあらずしては防ぎ得る事成るまじ、防ぎ得ざるに成りては諸士此州に歸り來るべし、彼州を是州より兼領し給へるにて府中の戸數の只今よりも多く、其上に彼地居住の諸士も歸り來らば、其時の患彼地を兼領し給はずして靜謐ならざる時に遇給へるよりも大ならん、何れにも是州には農政を興起し給ひ、靜謐ならざる時は是州の郷村に出來る食物にて、府中の人口を養ひ得る道筋を立給はずして叶はぬ事なるべし、朝鮮は壬辰の變に懲り邊海防禦の制法嚴密也と聞へけるなれば、若靜謐ならざる時に至れるとも昔の海賊の利を得し樣なる事あるまじ、是州の郷村の者共の若昔の海賊に效はゞ、初度に敗走して二度の渡海はなし得まじ、若昔の如く隣國の海賊と共に朝鮮の海邊を侵さんとせば、是州の郷村の中を隣國の海賊に奪はれ、州府の兵を動かすに至らん、山の險敷して木の茂れるは、外より寇するに利あらずして内より防に利あり、山の險敷して木の茂らざるも、山の隱にして木の茂れるも、寇を防ぐに利有る事は山の險敷木の茂れるに及ぶまじ、是州は山の險事尋常よりも甚しけれども、木庭作するにて海に近き山々に木の茂らざる所の多ければ、不圖靜謐ならざる時に至りて、他方より此州を侵す兵船、以來商買釣漁に來れる者共を案内者として、東目の南北の浦々に未明早天に乘り入れ、海邊の山々の草茅、小木を燒き立、路を分ちて山々に攻め登るならば、敵を防に利あるべき險岨を敵に奪はるべし、木庭停止下知の行はれ山々に諸木の能育なら ば、唯山々に水氣を增して水損、旱損の害を減らし、畠方の田方となる利を起し、木庭作の止みたる手間

の延を田作に用ひて穀物の出來まじあるのみならず、靜謐ならざる時の外寇を防にも大に利あらん、然ば木庭作停止の下知は食を足さるゝ政道の基本ともなり、郡代より主君の家の幾久敷相續し給はん事を祈り求めらるゝ基本ともなるべきに、府中流俗の人情は郷村にて勘辨の淺き者の言ふ所を揚げ、郷村にて勘辨の深き者の言ふ所を抑へ、勘辨の淺き者は甚多く、勘辨の深きものは甚少なき事天下古今の定りたる道理なるに、多き方に力を合せて、少なき方を破らんとする勢なりと聞へ、唯今の郡代の交替の時に至れるか、唯今の郡奉行のうちにて木庭作停止の旨を信じ用ゆる人の交替の時に至れるか、唯今の奉役の中にて木庭作停止の下知を實に能く受け用ゆる人の交代の時に至れるならば、農政の斷續に甚量りがたき所あらん（第七條）

農書輯略　終

農書輯略後語

十穀談にも農書輯略にも、以後に至り若地方の米穀の此州へ入來らざる時の事を書述し所あれども、其事の大略を述しと言程の書述にてはなし、因て玆に且大略を述置也

凡平易の時の心を以艱難の時の事を論じ、富者の家の心を以貧窮の家の事を論じ、其信に素して行ひ、其外を願がはざるの道を信ぜず、其如くには何として可成ぞといへば、人の自分説く所の艱難貧窮に處する道は、好からぬ事をもなし、危き事をもなして、艱難貧窮を免かれんとする道也ときこへ、此道は相悖りて疑ひ行はれざると見へたり、或人の語れるは、京都の町人の貧敷を見るに、吾の家は一日の飯米を壹升五合に當て、蕪菁大根の葉と苣の葉と芋の葉とを其時節に剉み干て、段々に米に交飯とし雜水とし、一日壹人五合に當る飯米を三合に當、其如くする家々の少なからずと語り、又或人の語れるは、長門の海村の農家を見るに、食用の俵物拾俵あれば、其中にて麥二三俵大豆葉七八俵也、其如する大豆葉の柔かなる時に刈干すと語り、又或人の語れるは、肥後の問屋にて朝夕の飯に干葉を交ゆるを見たり、貧窮ならぬ町人も飯に干葉を交ゆる所の多きと聞及よし語れり、是州にては成さぬ事也、此州此度の農政の行はれ儲蓄も備りし後に、若他方の米穀の此州に入り來らざる勢に見へたら

ば、町人末々の者の心に食用の盡ん事を恐れ、米麥求め買ふ事頻にして、米麥の直段日々に增益すべし、其時に米藏より米麥を賣らさしめらるゝには、先づ町中の家々の口數と家々に買ける米麥の分數とを、廿五町の町乙名に目付廿五人を添られ、町々を一日に檢分せしめられ、米は一日一人を三合に當、粗麥は五合に當、誰には何日の飯米あり、誰には何十日の飯米ありと帳面に記させられ、米藏の米麥の直段を相應に定められ、食用の盡る積りと見へたる家々は、其日より二三日前に三十日宛の飯米を米藏より買はしめられ、米を餘分に買置ける家には其家の口數に應じ、六ヶ月百八拾日の飯米より多分は賣上げよと命ぜられて、米藏に買取り收められ、末々の者どもへの賣出しに當られ、祿を受け居ける家には其家々の常祿に構はず、一日一人を米は五合に當、粗麥は七合に當る積にて、三十日分宛の飯米を渡され、扶持切米を合たる祿の高の、其家の口數に當たる飯米の高より少なきは、祿に應ずる分ばかり一日一人五合積にて渡され、祿に過たる口數には一日一人に貳合五勺の積にて加扶持を賜はり、祿を受ざる家々の者どもの米藏より飯米買代銀の盡たるは、一日に米五合の賃にて傭役を勤よと命ぜられ、傭役を勤得ざる老少、婦女、病者は一日一人に米貳合五勺の飢飯米を賜はり、六拾人格の町人の貧窮なるは、其家の口數に應じ一日に三合宛の飯米を賜はり、町醫、神職、出家、山伏等の貧窮なるも其類に加られ、傭役を勤むべき部類の者どもの府中の境内の山谷のうちにて、段畠になるべき所を普請の傭役に當られ、仕者の菜を種る地を持ざる家に段畠を相應に分け與へられたらば、枯草、塵

芥を焼たる灰と土の乾きたるに用ゆる水とを代る〲に桶に入、馬に負せ行きて段畠の作物の養ひとし、塊を碎き土を浮かし土を寄する手入れを精敷して、藷芋、蕪菁、大豆等の其所の土に宜きを植、秋物の跡には麥を植るにてあらん、府中の境内の山畠、段畠にならぬ山には、仕者町人の家々に相應に分かち預られ、木なき所には、栗を植、本より立居ける木の下枝を伐、薪として本木を育する事を奉役をして下知せしめられたらば、薪の用を足にてあらん、段畠の普請の勤は水夫日傭の働き、山海の働をなせし者共奉役の下知を受て勤め、鍛冶、大工、木挽、桶屋、紙漉、陶□等も役人の下知を受て面々のなし來る事を勤べし、是州は鄕村の年貢と基肄養父の年貢と、朝鮮より入來る買米送使米と、隣國より入來り町人の商買用に買へる米と　朝鮮より歸る船頭水夫等の買ひ來れる米とを合せて、府中の人高一萬貳千人程の每年食用となり居ける故、米藏にある米と町中にある米にては壹萬貳千人の六七ヶ月の食用になる也、一日の食用を米三合に當るもあるならば、六七ヶ月の食用は八九ヶ月の食用にもなるべし、府中より鄕村の海邊に移り漁戶鹽戶となるべき者共五百戶程を、六七ヶ月の內に海邊の村々百村程の大中小に應じ、一村二三戶四五戶六七戶宛移らしめられたらば、一戶を四鄕に當て貳千人程は鄕村に移り、府中の人高壹萬人程になるべし、右五百戶の者共は多は米を買ふ代銀を持間敷なれば、長ぜる者と幼少なる者とを合せ一日一人に三合の飯米を賜はり、其助けにて鄕村に戶を移さしめられ、三合の飯米に簇鹿角菜等を交て食用を足し、鄕村に移れる後は漁戶は海より得る物を農

家の穀菜に易へ、鹽戶は燒出す鹽を農家の穀菜にかへて食を足すべし、府中の食用の鹽は府中に有來れるを總て賣上よと命ぜられ、町人二三人の家より府中の家々の口數に應じて元直段に賣らしめられ、鄕村は鹽の少き家々より、鹽の多き家々の當分の食用に餘れる分を買はせよと命ぜられ、其鹽の盡ざる內に府中も鄕村も鍋釜にて鹽を煑て鹽の代りとする事をなし畢、六七ケ月を經し後は府中より鄕村に移りし鹽戶の者より燒出す鹽を、農人の年貢の格にて上納せしめられ、仕者の家々と町人の家々に分ち與られ、鄕村に移せし漁戶の者どもには、百姓より上納する物を漕ぎ登る事を公役に當られ、其の年の麥出來秋物の出來より村地の麥粃の年貢は、定格の三ッの兒に一ッを增され四ッの兒に定められ、畠方の十分の一は大豆年貢に定められ、大中小の給人領足輕領の小を除かれ、中と大とには二ッの兒にて年貢を上納せしめられ、府士の祿の藏前知行になれる後は、以前の地方知行の時より穀數の多く增しけるゆへ、府士に借り上ゲを命じ給ふとて、鄕士にも借り上ゲを命じ給ふべき樣なく、只命は他方の穀物の入來らず、府士の祿を以前の借り上ゲの殘り高より少々給はるなれば、鄕士の祿のみ以前の儘にして賜はるべき樣なし、百姓は水夫公役、漕船公役、上納物漕登り公役等を漁戶の者共より勤めしめられ、惣體の公役の勤め以前よりは少なくなるなれば、兒を一ッ增さるゝ事道理なきにあらずと諭され、損毛の年は豐年の餘慶を儲蓄の方に出し置たるにて足さしめらるゝにてあるべし、是州の南北は廿六里と見へたれ共、昔年國繪圖を命給ふ時に海上にて平地を積りたるは、南北十七里

の平地と積れる山間及ぶ、しかれば東西の並しは二里半程なるべし、二里半に十七里は一里角の坪四十二坪半也、昔より在り來れる田畠は田二百町程、畠千六百町程、田畠を合千八百町程なれば、一里角の坪にして一坪半程ならん、在り來たる田畠の外は四十一坪程と見へ、木庭の中の山田となり山畠、段畠となるべき分は、木庭高の十分の一ならんと言なれば、其十分一は壹里角の坪四坪程なり、有來りたる田畠と木庭の中の山田、山畠、段畠となりたるに、村地は四ッ兎にて年貢を納めしめられ、給地は二ッの兎にて年貢を納めしめらるゝならば、府中の人口を養ひ得べし、儲蓄の備はりは田畠、山林の政道の行はれて穀物の出來増すにあり、田畠、山林の政道の行はれず儲蓄の備はらぬならば、鄉村の凶年の食用も他方よりの入來りの米なくては足し得まじ、田畠にならぬ山々一里角の坪三拾六坪程と見へたるに、栗櫧松等を土地の宜敷に應じて育るならば、栗子櫧子當年の食用にもあり、凶年には猶以食用を利し、栗の實のらざる木の柱になり屋根になり、曲れるは薪になり、櫧の實のらざる木は農具、武具の柄になり、船具になり屋根になり、曲れるは薪になり、松は柱になり板になり、栗薪は段々に伐採り若立を育て、松は種の散たる自然生を育て、村々近邊に桑を植て蠶を飼用を利し、楮は自然生を育て、麻木綿を植る事精敷ならば、府中鄉村の用を足し得べし、田畠、山林の政の行はるるは、久敷勤しめらるべき郡奉行奉役を久敷勤しめられ、速に替らるべき郡奉行奉役を速に替へられ、藥に毒を交へられざる所なるべし、府中にて以前より言來れる一說に、諸方の通路の難成時に府中の

食用を足さるゝ道は、朝鮮との交易の利分の內を年々に引除け置、其分を以米穀を買儲蓄とし、每年舊米を新米に取替、年々石高の增して府中の人口數年の間の食用になれる樣になさしめらるべき所ならんと言へり、國郡の領主の儲蓄にて年貢の餘利を當置候事古今ともに定れる事也、若此州にて交易の餘利の金銀を儲蓄をし置れ、他國の米を漸々に買ひ取らるべきとあれども、其樣子の知れたらば買取らる事難レ成勢出來べし、靜謐ならざる時には他國の米穀を買取らるゝ事彌以成るまじ、また言ひ來れる一說には、諸方の通路の難レ成時に末々の者共の食用の盡べきと見へたらば、昔の海賊の事に效ひ朝鮮に渡海して穀物を奪ひ取るべし、朝鮮より防禦に苦しみて、昔もありたる如く彼方より每年米穀如何程づつ合力すべしとの相談に及ぶにてあらん、若又是州より朝鮮に對せられ常に誠信の道交あらば、朝鮮より此州を憐愍し食用不足の分を合力すべき故、海賊の事には及ぶまじといへり、右に言ふ所は自分の家に食用の不足なる時あらば、他人の家の飯米を强盜すべきと心當にし置、自身の家に食用不足なる時にも他人の家より合力得べき迚、常に其屋主の氣に入る樣にすると同じ事也、五六百人の口を養ふ者にても心ある者は、言ふべき事にてなし、なすべき事にてなきに、此州府中の足食の事に言ひ立、救を期して他に交るを誠信の交りと覺へて居けるは甚當らぬ事也、是州は日本六十八州の內なれば、日本を內とし朝鮮を外とすべし、卑劣なる事を言ひ掛けなしかくるも可レ恥事なるに、外に對して卑劣なる事有は別て可レ耻事ならん、昔建武の亂後に此州より朝鮮に盜賊せしに、西國の邊

海にて海賊をなし覺へたる者共の此州に入來り、是州の者をも引連れたる故盜賊の利を得し事ありたると聞へ、文祿慶長の亂後は朝鮮の諸臣邊海の武備心を用ゆる事精敷と聞ゆるなれば、若以後に至昔の海賊に效はんとする事あるとも、盜賊の利を得る事甚難からん、假令賊の利を得るとも畢竟唯是飯米を盜取り晝盜人なり、其領の末々の者他方へ行て飯米を盜ば其領主の羞辱にこそ成べけれ、唯今にても是州府中の人口を養米穀過半は朝鮮より入れり、藥物布帛は外國の物を用ゆるも義において害なし、毎日の食として身命を保つ米穀に朝鮮の米穀を食する者は、其身此州にありても朝鮮の民に同じ、他方より米穀の入來らざる時の爲に農政を起さるべきと言ふは一端の說也、靜謐治平の時の爲に彌以農政を起されずして叶はぬ事あるべし、外國の米にて州府食用を足さるゝ事、治平の時には殊に羞辱となるべきなり、郡代の農政の功效十年の中に著はれ畠方の田方となれば、木庭の中の山田となれる分と、以前よりの天水田の水掛り好き田となれる分の三ッの免の物成を基肄養父の年貢米に加へられ、畠、山畠、段畠の定めの分を米壹石の代りに粗麥貳石と當られ、其家の祿數の其家の口數に當る分を米麥にて賜り、祿數の口數に餘れる分を其の相場に米代祿にて賜り、其米代は朝鮮にての買米に當置かれ、綿布を賣らしめらるゝ代銀を賜はるにならば、外國の米を諸士の食用に加へらるゝ舊弊も改り、畠、山畠、段畠の出來增の穀物を公役銀の諸品貢調の代銀にするとて百姓より町人に賣れる分は、町人隣國より穀物を買取る分數の中の減りにもなり、若諸方の通路の難成時に至らば、諸と粟とを米

麥に交へて食を足さん、藷の蔓の早く延ぶ養ひを村々一同になし覺、大旱の時に水を灑ぐ事をもなし覺て藷の出來る事多く、山林の政道の行はれて、山々の中にて栗の育つ所に栗を廣く植立て、其中の風陰の所に栗の實のる木數も多きならば、鄕村の米麥の府中の末々の者迄食用に足らずとも、藷栗を交ゆるにて足し得べし

鄕村にての防禦の備へは、昔年郡役所より相談ありて編修せし鐵砲格式僉議條の中に記し置たり、府中にての防禦の備へは老臣の僉議を遂られし書付ありと聞及べり、定て法制の委く備居けるにて有るべし、鄕村にての防禦の格を以府中にての防禦を考へ、大略を今玆に記すなり、西國筋の靜謐ならざる時に賊兵是州に犯し來れるを防がしめらるゝ舟は、府中の兵を以府中の防に備られ、鄕村の兵を以鄕村の防に備らるゝにてあらん、海上の穩成時節に隣國の賊船多勢にて豆酘浦、淺藻浦、內院浦に入來りて陸より急に府中に攻め登るべき勢に見せ、鄕村の兵計にては防ぐ事を得まじきとて、府中の兵を多く分ち下されたらば、陸に上り居ける賊兵夜分に多小船に乘りて府中浦に來り、府中の濱と久田の浦より急に攻入らんと謀る事も有るべし、賊船の來り居ける時は十里十五里の間の浦に安堵は成るまじ、鄕村の鐵砲貳千六百挺と定め置けるは、貳拾歳以上六拾歳以下の男の三千九百人程と見へたる中より貳千六百人を鐵砲を持人數に立、千三百人を貳千六百人の附人に立し也、拾六歳より拾九歳まで、六拾壹歳より六拾五歳までを加へたらば、附人となるべき人數七八百人程は增し、右千三百人に合せて貳千一二百人

もあるべし、以後に至り若西國筋の靜謐ならざる時に、府中の人高唯今の如く壹萬貳千人程ならば、其中より郷村の海邊に移り漁戸となり鹽戸となるべき五百戸程、男女老少貳千人程を除られし殘り壹萬人程の中より、拾六歳以上六拾五歳以下の男子三千人に近く、郷村より府中に上りて逗留ナ居ける者どもを直に留め被レ置たらば三千人に餘り、郷村にて鐵砲を持人數の附人の高は其分程減るべけれ共、府中より郷村に移りて漁戸鹽戸となれる中の拾六歳以上六拾五歳以下の男を合せられたらば、附人となるべき人數貳千六七百人にもなり、鐵砲を持つ貳千六百人に壹人宛の附人と當られても不足あるまじ、府中の三千人程の中より鐵砲を持つ人數を千五百人に定められ、其附人をも千五百人に定められ、鐵砲を持つ千五百人には上士、中士、下士と、其嫡子次男と、諸組役付と、其嫡子次男と、六拾人格の町人と、六拾人格に準ぜらるべき平町人と、其嫡子次男とを當られ、附人千百人には上士の餘慶の下男と、平町人の中の六拾人格に準ぜられ間鋪者と、町人の餘慶の下男とを當られ、自分の下男を連れたるにも附人と稱せしめ、附人にも刀脇差を指さしめられ、三千人を五百人宛六備に分けられ、其中一備を旗元に立られ、三千人に餘れる人數あるは旗本に添られ、上士は旗本の人數に入られ、其外の人數を五備に組合せられ、一と備五百人を五拾人宛拾組に分けられ、五拾人の中二拾五人は鐵砲を持、二拾五人は其附人になり、五拾人を拾人宛五組に分けられ、拾人の中五人は鐵砲を持、五人は附人になり、鐵砲持五人也、中壹人を其拾人の小頭に立られ、拾組に分けられたる一組五拾人を小組と名附け、上士の

中より壹人宛を小組の頭に定められ、小組を拾組合せたるを大組と名附、老臣大身の中より壹人宛を大組の頭に定められ、大組一備に目付弐人宛添られ、大組の頭と小組の頭と小頭と其組中の人數の動方働方を檢分せしめられ、鐵砲を持たる弐百五拾人の中にて鎗を得たるは附人に鎗を持せ、弓を得たるは附人に弓を持せ、鐵砲を持べき町人は素より鐵砲を打習はせ被置、久田浦と南室浦小浦の浦に府中よりの防禦の中に加へ被置、西國筋の靜謐ならざるを知られたる時には、府中浦の濱邊を飯盛山の麓の岸より高札場由岸迄押通し隍を掘らしめられ、掘揚げたる土にて隍の通に土手を築、土手の上に柵を結、柵の外面の根には小竹を密して植續け、賊船より大筒にて土手を打破たる時に急に補備には、土手の内に土俵を多積置き、防禦の普請に障はる人家と土手の外に成るべき人家は別所に移らしめ、久田に越道筋は往來自由になる樣に路造し、久田に越す中路の麓は石垣にし、石垣のうちに土を籠め竹を植、岸下の險しからぬ所は總て岸の上の路端に柵を設、路を往來する人を浦中の船より見掛ざる樣に竹を植通し、濱邊の土手の所には往來の爲に門を設る事なく、江川より小船にて入る計りにし、土手の江川に當る所は土手を江川の左右弐拾間程宛折廻して築き、弐拾間の中程に當る所の川中に亂橛を打、亂橛の中程に當る所の川中に木戸を設、木戸の開閉は木戸の内に番人を小船に乘置て勤させ、郷村より船にて來る者共は、村役人より請取し船中人數の證文を番人に出して改を請けしめ、江川にてなき川の土手筋に當る所は亂橛を密しく打、小船にても徒にても往來せしめず、久田と南室小浦の

濱は土手を設けず、濱邊の家と濱の左右の山々を守り、籏木の外の五ッ備の中の一備は府中の濱より久田浦の北の山岸までを守り、一備の久田浦南の山岸より尾浦の境までを守り、一備は那良崎より鶴舞崎迄を守り、一備は南室小浦の浦口の左右の山々を守り、一備は曲崎より根緒の境までを守り、人數の不足なるは人數の餘りある方より足し、根緒より北と尾浦より南は郷村の鐵砲にて守れるに當置かれ、賊船の犯し來れる時に防禦に出るは皆々飯と水と粮とを腰に付ケ、水は大竹を上下一節宛籠たるに、入口の穴より直に飲得る樣に拵置、防禦の中に粮水の盡たるは附人より取り來らしめ、外海に向たる山を堅めしめ、鐵砲にて磯邊に近き所迄來れる賊船に打掛るも、浦内に向きたる山を堅しめ、鐵砲にて浦内に來り居ける賊船に打掛るも、鉛丸の達すべき所まで近き、木を楯として木の陰にて鐵砲に火藥鉛丸を込み、木陰より少し身をあらはし打放して木陰に寄り、賊兵の磯邊に上り山中に攻入らんとする時は賊兵に近付ず、前なる者は鐵砲打放して、速に後へなる者の後へにある木の陰に退き、鐵砲に鉛丸火藥を込み、後成ものは前なるものゝ鐵砲を打放て退くを追はんとする賊兵に鐵砲を打掛て、速に前成者の退き居ける後へにある木の陰に退き、段々と其の格にし賊兵の退き時は隨ひ進みて鐵砲を打掛、賊兵の濱より攻入らんとする時は、土手の上なる柵の中より鐵砲を打掛、頻りに進み入柵を破らんとする時は、鎗にて防、鎗脇より矢を射かけ鐵砲を打掛、鎗を取り弓を取れる人の持居たる鐵砲は附人請取て、是又鎗脇より鐵砲を打掛け、鎗下を心掛るは鐵砲を附人に渡し刀にて鎗下を働

き、持ッ物なき附人も刀にて第下を働けと前以命じ被ㇾ置、郷村には一郷に一人宛其器に當れる人を下して被ㇾ置、遠見の事と防禦の事を下知せしめ給ふにてあるべし、郷村の防禦に村里をも保たんとせば、村里を保事を得ざるのみならず、賊船に勝利を得せしめ山々を保勢にも害あらん、郷村は兵器の備はらずして短兵にて防ぐに利あらず、郷村の地の廣さに應ぜずして守兵の少なきゆへ也、久田浦と阿須南室小浦に賊船の來る時の防の爲には、四ヶ所の濱に向たる家々を取離しの置床にして入口を後に明け、外向の壁の下に矢狹間を設、床の下の地を人の立て頭の地並より低き程に掘らせ置、賊船の犯し來れる時は火矢大筒を打人數を右の家々に早く差出され、置床を家の後ろに除け土を掘たる中に立て、矢狹間より火矢大筒を打掛しめられ、浦中濱邊の左右の山々の守兵には鐵砲を打掛けしめらるべし、山々にて賊兵を防第一の利は木の能く育居けるにあり、楯となるべき木なく草茅小木而已□□譬へ守兵百人にて堅め、賊兵千人にて攻め、百人の守兵十間に一人宛立並び、千人の賊兵一間に一人宛立並び、守兵より賊兵一人を鐵砲にて打殪す中には、賊兵九人より守兵一人を打殪す、其山を守り得る事なるまじ、楯となるべき木の育居ける山ならば、十間に一人宛の守兵の木を楯とし、木陰にも鐵砲に薬丸を込め火縄をかけ火蓋を明、木陰より少し身を露はし、十間に十人の賊兵に打掛るならば、外るゝは少く中るは多からん、少し身を露はす守兵を賊船より早速に目當に載せんとする間には、守兵木陰に寄るべし、賊兵進み來り半町程近付きたる時に、守兵は段々と後へなる木陰に移りて鐵砲を放つ事を前のご

とくせば、百を以千を防得べし、山々に木の育居けるならば、假令兵の甚弱き所ありて、賊兵より海邊の山々峯々を攻取りて籠りたるとも、其峯を攻ず其廻りの山の麓の所と、其廻りの谷々の左右の山と、路筋の左右の山を持ち堅め、賊兵の其近旁を働くを遮り、溪水を汲取るをも遮るならば、數日を經ずして退き去り船に乘るべし、西國筋の靜謐ならずと知れたる時には、久田の船屋を南室島の內か、小阿須の內の防禦の爲に宜しかるべき所に移され、遠見岳の火藥の倉を淸水山の古城の二の丸の東向きの處に移され、番所を構番人を添置かれ、當用の火藥鉛丸は鐵砲を持つ面々に預け置るゝにてあらん、

肥前の佐賀領の事を或人の語れるは、領中に急を告る相圖に竹筒の吹物を用ひ、長崎に急船の來れる時と、領中に火災ある時と、領中に盜賊ある時の三事を告る吹樣ありて、人々每に吹覺聞覺居ける由語れり、此州には府中より手寄の村に至るも、村より村に至るも、山を隔て程遠き所の多きなれば、竹筒の吹物も人家より人家に直ちに聞ゆるは稀なるべき故、吹物の聞ゆる程を極め知り、靜謐ならざる時には吹物の聞ゆる限りの所々に小屋を設、老人壹人少年壹人宛の番人を置、吹物の相圖の早くしれ渡る樣になさしめおかれ、海上穩成時節に賊船夜中に渡海し、未明に府中久田南室小浦の浦口に乘り來り、賊進み乘りよるとも、相圖の吹物にて守兵早速に濱邊の土手と、磯邊の山々を持堅め、防の鐵砲を賊船に打掛け、鄕村に早く知らせらるも相圖の吹物にて早くしらせらるべき故、府中の南北の東日の村々の人衆は其村々の山を堅、西日の村々の人衆半分は、其手寄の東日の村々の山を堅めし人

數に加り、府中に近き西口の村々の人華の半分の府中に馳せ來るには、久田の南の山岸より尾崎の境迄を堅め、曲崎より根緒の境迄を堅め、府中の兵に加はらしめらるゝにてあるべし、如此き時に君上は棧原の公居の地面の要害を宜敷設しめ給ひ、公居には相應に番兵を置れ、金石山と成相山の中間の高みの中にて、南方の谷の水源に近く清水山の古城の本丸に近き所に陣城を構へさせ給ひて陣し給ひ、使番を以諸手への下知をなし給ひ、目付を以諸手の働を聞給ひ、勇怯の賞罰を行ひ給ひ、元より諸士足輕町人百姓への仁愛と信義を保ち得給ふにてあるべき故、假令ひ敵の侵し來れる共守兵の勝利とならん、郷村に賊兵の來れる時に村々を捨て山に依ても、患の輕き事を鐵砲格式僉議條目の中に記置き、府中の米藏は棧原に改築しめ、成相山の谷奥の水源と、金石山の西北西南の兩谷の中にての西北の谷奥の水源に移され、賊船より矢掛りの人家に鐵砲火矢を打掛る時に、仕者町人の婦女老少をして其難を避けしめらる爲には、前以仕者家々中を金石山の西南より流出る谷川の谷口より的山の東表の麓迄移され、其家々の主の其家々に住し居けるならば、婦女老少をして急に移らしめらるゝ便あらん、若外國の賊船の多く西目の浦々に犯し來り、府中の兵を其防に用給こと有とも、村里の家々を保ち得給ふには備を立しめ給はず、府中の人數と郷村の人數にて打掛けしめられ、陸に揚れる賊兵ありても山々より矢を射かけ、鐵砲を打掛る迄の働になさしめ置るゝにて有べし、若隣國の賊兵の海上の穩なる時に多勢にて侵し來り、豆酘郷の浦々と佐須郷の西海の陸に近き所に船を繫ぎ、陸の樣子を見量りて、佐須郷の西

海に繋ぎし船を外淺海に乘り入れ、内淺海にも入來り、内淺海外淺海の村々を攻取て府中と上郷の通路を遮り、上郷の方にも府中の方にも陸より攻寄せ、豆酘郷の浦々に繋ぎし船の人數は豆酘郷を責め取りて、陸より府中に攻寄せんと謀る事もあらん、賊船の犯し來れる樣子の右の如くなる時の事を前以郷村に下知しおかれ、下輿良と豆酘郷と佐須郷の人數も、輿良淺海、仁位淺海より北の西目の村々の人數も相圖の吹物を聞、面々の村の海邊の山々を持堅め、婦女老少は海邊にてなき村々に移、内淺海の村々の人數と、東淺海の三分の一の人數は貝鮒島山の間の瀬戸と、島山黃浦の間の瀬戸と、鋸割の瀬戸との左右の山を堅めし人數に加はり、瀬戸口に近き淺海に入らんとする賊船に繋ぐ鐵砲を打掛け瀬戸口にて遮り、仁位郷より北の東目の村々は相圖の吹物を聞、村々の人數の三分一を分け遣して外淺海の北東の山々を堅めし人數に加勢せしめられ、府中の六備の惣人數三千人鐵砲千五百挺の中より、人數六百人鐵砲三百挺を分けて外淺海の南の山々の堅めし人數に加勢せしめられ、人數四百人鐵砲貳百挺を分て、豆酘郷の海邊の山々を堅めし人數に加勢せしめらるゝにてあらん、守兵の山々より船に打掛る鐵砲火矢は、賊兵の船より山々に打掛る鐵砲火矢の勢に勝り、賊兵の磯邊濱邊より山に攻登るは梯ありても、守兵の山より打つ見下の矢と山の折り曲りより打横矢を防ぎ難からん、賊兵の守兵を攻め疲れ船に乘らんとする時も、濱邊にて合戰をなさしめられずば討死する守兵は少く、敵を討留る事多からん、此州は平地の長さ一里に餘れる所ありても、平地の横は廣さと言所も纔に五六町なれ

ば、何れの平地も兩方の山々よりの矢掛也、是世上の靜謐ならざる時に此地を保得給ふに大利ある所なりと見へ、其中の大事は山田、山畠、段畠とならん所に木の能く育にあり、山々の多して田畠の少きは人に利ある事薄と見へたれども、山田、山畠、段畠の普請の事を、山畠、段畠とならぬ所に利ある木を育る事を、今の郡代の下知せらるゝ如に成し遂にあらば、山々の多き利の平地の多き利に劣ると言所も輕き違とならん。靜謐ならざる時代にも、君上の此地を保ち得給ふ大利ある所は甚重き事なる也、享保丁未九月に農書輯略を著し、戊申四月に至て右の兩條を書述んと思へる所より重て此書を著し、其後九月まで聞所の說の中にて農政に益あるべき說を段々と左に書添るなり、或人の物語に伊奈郷鹿見村居住の奉役の言へるは、木庭作停止の下知を並百姓の嫌へるなれば、山畠、段畠の普請の成就しても、木庭作を止めたる手間にて、田畠、山畠、段畠の耕作手入れ養を精しくする事なく、其比一二年は並百姓の作得の少しは減ずる事もありても、木庭作停止故作得以前に劣り、百姓の難儀に及べると言立つべし、耕作を精しくしては作得の多なり、耕作を粗くしては作得の少なく成る事を、好き百姓と好らぬ百姓の上にて目前に見へ居けれども、並百姓一同に木庭作を甚好む所より、何とぞして以前のごとく木庭作するになれかしとおもふにて、木庭停止に害ありと言立つべき勢也。常年に麥貳拾俵程取れる百姓の、輕き損毛に麥拾七八俵程取たるは、常年に及ばぬ損分二三俵なれども。重き損毛にて作得大分減ぜし時とは違ひたる事なり、並百姓の身上は一年の凶年にても衰へ、一年の豐年にて

も成り立つ物なる故、輕き凶年一二年に作得壹割貳割など減りたる迚、成立事の難と言程の衰へには可ゝ及様なく、木庭の明け過しは先年以來一同に明過しの至極となり居ける故、百姓の心に任せ置ても、先年の明け來りより廣く明け得べき様なし、先年以來の通に木庭を明けて、百姓の身上只今の通の在附なれば頼なき事也、木庭作を止たる手間を田畠、山畠、段畠の耕作手入れ養ひに用ゆるにならば、得の增し身上の成り立ち木庭作を心の儘になせし時の様なる事にてはなく、其上に山林の能く育利益も多からん、木庭停止の時に至りて、若郡奉行の心に木庭作停止にて百姓の作得壹貳割も減じて、鄕村の衰微にもなるべしと思はれ、木庭停止の良法に少しにても疑を起さるゝ様子あらば、農政の本源の破とならん、其時に少しの疑をも起されずば、並百姓の心に木庭停止の下知は堅く決定したる事なりと思ひ、作得の長く減る事は並百姓の心にも甚嫌る事なれば、其時に至りて以前木庭作せし時の手間を、專ら田畠、山畠、段畠の耕作手入れ養に用ひ、農政の行はるゝにならん、是農政の上にて大切の意旨也といへる由語れり、右の意旨奉行の精しく考へて明らかに辨ふべき所也、或人の物語に佐護鄕の奉役鄕中の畠方の田方となるべき處を、段々に田方となさしめらるゝ下知を請、溪水を引く井手溝を掘らせ、深田には水拔の溝を掘らせ、麥蒔にてなき田を麥蒔にしたる所も多、其普請の出來ける分を郡代より郡奉行所の佐役をして檢分せしめられし時に、惠古村居住の奉役の佐役に對して言へるは、此度の農政の旨を我等同役より村々の下知人迄能能得心して下知すれども、百姓のなし來

を改めしむる事なれば、奉役村下知人の力計にては下知成就すべしとは思はず、郡奉行所より力を添られ折々檢分に下らるゝならば、奉役村下知人の力の强くなれるにて下知成就すべし、郡奉行所より力を添らるゝ事の衰へて、某共の下知の力の弱りにならん事を恐るゝならば、其ごとくにならざる樣に力を添られん事を望み申と言へるよし語れり、佐護郡奉役の心に成し難きをなすは、役頭と役下の者を同くするにある事を辨へ、自ら勤て役頭の怠ざる樣にと勤しは稱すべき事也、或人の物語に、伊奈郷奉役より郡奉行所への申出に、伊奈郷の中にて仁田三ケ村と、志多留村琴村の下百姓の耕作殊に不精成者の身上困窮し、公役上納を成し得間敷と極りたる人數を、郷中の給人へ年切の身賣に被ニ仰付ニて宜からん、其ごとく被ニ仰付ニたらば耕作に不精成者共見懲に成、農政に益あらんと申出ける時に、郡奉行先輩の言へるは、伊奈郷奉役の申出る主意に不精成者共を懲す主意にて宜哀なれども、公役銀取立の時節に身賣にせば、耕作に不精成所を咎らるゝとは沙汰せず、公役銀を人並に上納し得ざる所を咎めらるゝと沙汰し、山海の働き精を出し耕作を疎略にしても、公役銀さへ人並に上納すれば、咎めらるゝ事なきと心得違ゆる者共も有りて宜しかるまじ、此節には彼耕作に殊に不精成者共の上納し得ざる公役銀の分を、奉役の才覺を以何れの銀にてなりとも差足し上納を皆濟せしめ、數月の後に彼者共を農作に不精成とて身賣にせば、身賣にする主意にかなひて宜からんといへるよし語れり、右の段は事理を辨ゆる事委敷、人情を察する事明らかにして農政に益あるべき說也、或人の物語に仁位郷

唐洲村居住の本役のいへるは、是州の百姓は養の力にて作物の出來ることを知り、手入れの精敷にて作得の增す事をしらず、養とする物の足らざるか、養とする物運び寄する事の手遠き畠は荒し置て、三年に一度程づつ耕作し、里近き畠は養を用ひ年々に耕作すれども、用ひ樣の精しからぬにて、養の力の程には作物出來兼る也、手入れを委敷するは養の足らぬ作所にても、養の足りて養の用ひ樣の粗き作所よりは、作得多き事分明に知れ居けれども其事を考へず、手入の精きは即ち養ひ也、養に用ゆる物は手入れの養ひの助けなりと言ふ、三根鄕吉田村の肝煎の言へるは、吉田村は藻を取り鮪を取る事の不自由成故、專ら手入れを精敷する也、手入れを精敷すれば輕き養ひを用ひても作得は多し、吉田村は面々受持の地面の少なき故手入れを精敷する事なり安し、養を用ゆるに濃き養を一度用ゆるは、水を多く交へて薄くなして數度に用ゆる事利益增されり、作物の養のきく時あり、きかぬ時ありと見へたれども、其考は心を用ひても考難き也、薄き養ひを數度用ゆれば、數度の中にて其作物のきく時に用ひ合する故利益ありといへると語れり、右の兩段は農事の上にての重き所を能く辨、農政に益あるべき說也、伊奈鄕鹿見村居住の本役吉田村の農作の精敷事を稱し、鹿見村の農事を下知するに心を用ひ農事以前に勝りたれども、また吉田村の農事の精舖には及ばざると言ける由聞及也、或人の物語りに、三根鄕志多賀村の肝煎に同鄕吉田村の肝煎にいへるは、其方の村は先年以來段々と困窮し、去年丁未の夏秋の大旱に秋物損毛し、村中一同に甚難儀に及べるとて飢飯米を願上、公役銀の半分を當

時郷中の村々に蒙らしめられん事を願出けると聞及べり、志多賀村は以前より山海の働を第一とし、耕作を甚疎にする所より困窮に及、去年の秋物の損毛にて村中一同の難儀に及べる様に成り、是畢竟は村役人の愚かなる故也、吉田村の地面の位は志多賀村の地面の位に勝りたれども、養とする藻鰯を取る事の不自由なるは志多賀村に劣り、然れども手入を第一にし薄き養にても養のなし様に心を用ゆる故、差立たる難儀はなし、今度志多賀村の願により、假令壹ヶ年分の年貢公役銀を免るし給ふとも村中の百姓身上の成立べきとは思はれず、風俗の悪しき百姓に少しにても上納を免し給ひて救ひ給はば、村中の心に難儀にさへ及べばいつにても救ひを受ると心得て彌耕作を疎かにし、身上の成立事あるまじ、志多賀村の肝煎を我等が勤るならば、救を賜はらずしては餓死に及べきに極りたる者共計救を受けさせ、其餘は此節の難儀を面々の働にて凌がしめ、難儀に懲て耕作に心を能用ゆる様にする事を、村下知人と相談するにてあらんといへるよし語れり、吉田村の肝煎の言所は精當の說なれども、是州の流俗の百姓は此の如く成る說を嫌へり、土地を咎、氣候を咎、面々の人事の粗さを咎ざるは流俗の百姓の通病なり、此比或人の語れるは、近年以來の時勢にて世間に流通する銀は段々と減じ、銀の位は貴くなり、米穀諸品の直段は賤く成り、是州の鄕村より公役銀上納の爲に賣出す大豆、辛子、椎茸、おご、若和布、干鰯等の品々の物上方にての直段の甚下直なるにて、商賣人の鄕村より買取る直段も殊に下直に成り、府中にて賣れる諸品は下直に賣りても、以前の程には賣れ兼るを强て賣らんとする

所より彌下直になり、近年は諸品の上納の甚少なきにて、公役銀の高の內より上納の諸品の直段の分程引け方に成る分數も甚少く、以前は公役銀上納不足の分を府中の町人より利付に借りて上納を皆濟しけれ共、唯今の時勢なれば町人より借さず、依レ之伊奈鄉の外の七鄉の奉役より、昔年の如く薪船の入來る事を郡奉行所に願出けると聞及ぶよし語れり、薪船の入來て鄉村害あるは精しく知れ居ける事也、昔年薪船の入來りしは以前より年久鋪育たる木を伐けるゆへ、薪船の入來れる年數も多かりけれども、唯今には薪船の入來の止みし後に育ちたる木なれば、一年か二年にて伐り荒すべし、夫ともに海邊より遠き山の木をも伐るならば、伐り出しの續く事一年二年抔と言ふ年數にても有るまじけれども、遠き所より伐り出すは百姓に利なし、海邊に近き山の木の數年の間育ちたるを一年か二年の間に伐荒し、一二年の公役銀の差足にしたる共、其後の差足しには成るまじ、殊に以前さへ薪船の薪州より積登る薪を大坂にて賣れるに利益あり兼るとて、以前に許ありて是州に來るべき薪船の今に來らぬも數拾艘なると言ふなれば、今度の願出の薪船鄉村にての薪直段を、以前の直段にて賣ると聞けるは入來る事有るまじ、薪船來る事を肝煎町人より若此度は薪船に利益あるべしと言ひ遣して入來るとも、薪船の利は百姓の損なるべき故、入來る時に百姓より異議を言て受ず、薪船の船頭と肝煎と町人との言ふ事の出來る事も有るべし、農政の根本は木庭作停止に有と見へ、百姓の農政を嫌根本も木庭作停止に有と見へ、農政を受し鄉の中にて木庭作停止の旨を百姓に言渡し、當分畤目の分數を定め、段

畠に成るべき所と、植立物の所許木庭作をなさしむるは伊奈郷奉役而已也、伊奈郷の百姓の言へるは、今年は雨の能降りける上に大風の吹かざりしにて、他郷の木庭作の粟、蕎麥常年に勝りて出來の多きに、當郷は木庭作を以前のごとく成得ざる故其分の損あり、他郷は薪船を願はるに、當郷は其願に入れられず、去年の公役銀を何として濟すべきや、身上の潰を待より外の事はなきといへるよし沙汰せり、以前のごとくに木庭作する七郷も公役銀上納を皆濟する事なり兼て、其爲薪船も願出けるなれば木庭作の利益の程も知たり、伊奈郷の百姓の情は、木庭作を止めし手間の延びを、田畠、山畠、段畠の耕作手入れ養に用ひて出來增しある樣にはせず、田畠、山畠、段畠の耕作手入れ養を以前の儘にし置き、木庭作を廣くせし時よりは作得の減りて百姓の身上の衰るを、木庭作停止の害と言ひ立、其所より木庭作を以前のごとくせよとの許しあるべきとおもひ、木庭作の許しを待居けると見へ、其勢にては伊奈郷の去年の公役銀皆濟の取立て成難からん、伊奈郷の内にても鹿見村は木庭作停止の下知を殊に早く受て堅く守り、牛馬の野繫の禁をも堅く守り、作所の養を足しけるゆへ、鹿見村は其外の村村の上百姓と同く公役銀の上納を皆濟せしと聞へ、是木庭作停止の利益の見へたる所也、此比聞及に豐崎佐須二郷の外六郷に命じらるべき農作の下知の條目こそ、郷々により異なることもあるべけれ、木庭作停止を農政の根本とする事は何の郷も異なるべき樣なし、農作の下知を受し六郷は木庭作の分數を段々に減じて三年目より一切に止めさせよ、公役銀上納皆濟の算用を立るは、以前より公役銀上

納の爲に貢來れる諸品を下直になりとも賣り、銀高不足の分は未收手形帳にて算用を立、木庭作の止み農作のなし樣の改りて穀物の出來增しある時より、年々に未收手形帳に分けさせよ、豐崎佐須は農政を受ぬなれば以前よりの如くせよと命ぜらるべきかとの議あるよし聞及べり、老臣一同に其議に決せられ農政相續すべし

農書輯略後語　終

農書輯略後語の淸書を外從姪に賴置き、因て子姪等に遺言する旨を玆に記す也、我世を辭して十三ケ月を經し時に、此書を箱に入れ、八幡宮の宮司の宅に持參し、御宮への奉納を賴み、他に見せられざれと言達すべし、此書を宮司へ持參する前の日に先郡支配の宅に持參し、御宮へ奉納の事を郡支配の許を受て奉納し、若奉納無用とあらば子孫に傳る迄にすべし、我等は意氣の短小にして心胸の狹隘なる事、尋常の不肖者よりも甚鋪、人情を知り得ず、時勢を察し得ざる事尋常の愚者よりも甚けれ共、君上の爲州人の爲に此度の農政の成就を願へるのみ、尋常の愚不肖に劣らざるべし、是此

事の爲に書を著はす事を憚らざる所也

享保戊申九月十日

西丘老夫謹識

農書輯略 大尾

食兵宗旨

食兵宗旨

國家ノ大慶ハ其ノ家ノ長久ナルニアリ、西海道ノ諸州ノ中ニテ長久ナルハ、是州ノ君ト島津、松浦ノ家也、是レ其地ノ在ル所ノ邊陬ナルガ故ナルベシ、只其ノ領ノ武力ノ代々他領ニ劣ラヌ故ノミニテハアルマジ、諸州ノ中ニテ其ノ府ノ人口ヲ養ナフ米穀ノ他方ヨリ入リ來レルハ、是州ノミナリト聞コヘ、是州ノ其ノ如クナルモ四百年以來ノ事ニテ、府中ノ戸數ノ殊ニ多ク成レルハ七十年以來ノ事ナリ、是後ニ諸方ノ通路ノ成リ難カリシ時ニ異ナルベキハ、筑前肥前ヨリ是州ヲ見ル所ナラン、コノ州ハ日本六十八州ノ中ノ下國ト定メラレシ九箇國ノ中ニテ、殊ニ劣レル下國ナリト見ヘ、其ノ上ヘ大海ヲヘダテ居ケルユヘ、諸方ノ通路ノ成リ難キ時ニモ是州ヲ見ル事輕カリシニ、七十年以來ハ朝鮮トノ交易ノ道ノ廣ク成レルコト昔ニハ甚ハダ勝サリ、其所ヨリ筑前、肥前ノ是州ヲ見ル事昔トハ大ヒニ異ナルベシ、是州ノ主君ノ家ノ幾久シク相續シタマハンコトヲ求ムルニハ、右ニ云フ所ニ眼ヲ著クベキコトナリ、是後ニ若シ諸方ノ通路ノ成リ難キ時アラバ、朝鮮ヨリ是州ニ接遇スルモ昔トハ異ナルベシ、戸數ヲ減サルヽ令ハ行ハルマジキ勢ト決定セリ、食ノ足ラザル時ハ、兵アリテモ用ニ立タズ、信義ノ敎ヘモ成ルマジ、府中ノ戸數ヲ減ラサレズ、自身ヨリ思ヒ立チテ他方ニ在リ附ク者アルニ任カセ置カル

ル迄也共、農政サヘ能ク行レバ、諸方ノ通路ノ成リ難キ時ノ食用ヲ足シ得ラルベキ事ヲ近年ニ至テ考ヘ知レリ、其大目ハ木庭作ヲ止メ、山林ヲ養テ水氣ヲ増シ、田方ヲ廣メ木庭作ヲ止メタル餘力ヲ以テ、田畠ノ手入レ養ヒヲ精スル事ト、地ノ高ク水ノ近キ所ニ藷ヲ植ヘ、山谷ノ曲折アル風隱レニ栗ヲ育ツル事トノ二事也、此二事ノ下知ハ府中ノ戸數ヲ減ラサルル令ノ行レザル代リニ成ルベキ下知ニテ、其下知ノ行ハルヽナラバ、是州ニ益アルコト、府中ノ戸數ヲ減ラサルヽ令ノ行ハレ、戸數ノ減リタルニ甚ハダ勝サラン、是州府中ノ人ノ以前ヨリ云ヘルハ、壹州ノ土地是州ノ領ニ成リ居ケルナラバ、以後ニ至リ諸方ノ通路ノ爲リ難キ時アリテモ、年貢ノ運送ニ障リナク、是州ノ爲メニ甚ハダ宜シキコトナルベシト云ヘリ、壹州ハ肥前ヨリノ海路程近ク、山岡ノ穩ヤカナルニテ作處ト成ル地ハ多ケレドモ、寇ヲ防グニ利アラズ、壹州ノ土地是州ノ領ニ成リ居ケルナラバ、彼ノ地ノ年貢ノ多キトテ、府中ノ戸數ヲ増シタマフコトナク、彼ノ地ノ年貢ヲ參勤シタマフ用ト、諸役所ノ用ニ當テタマヒ、其ノ餘分ヲ家中ノ祿ニ賜ハリ、府中ヨリ郷村ノ者ヲ水夫公役ニ召シ使ハレル代リニハ、彼地ノ浦人ヲ召シ使ハレ、是州ノ田畠山林ノ政道ヲ精シク命ジタマヒ、是州ノ百姓ニモ彼地ノ百姓ニモ同ジク仁政ヲ施サレ、是州ヨリ彼地ニ差渡サレ居住セシメラルヽ諸士足輕ノ、少シモ百姓ヲ犯シ侮トラザル樣嚴密ニ命ジタマヒ、若シ靜謐ナラザル時ニ至ラバ、彼地ノ年貢ノ彼ノ地ニ居住スル諸士足輕ノ祿ト爲レル餘分ヲ、總テ彼ノ地ノ百姓ニ分チ與ヘタマヒ、彼ノ地ノ百姓面々ニ持チ得ルホドノ鐵砲ヲ靜謐ノ時ニ張ラセ置キ

タマヒ、鉛丸火藥ヲ多ク備ヘ置キタマヒテ、彼ノ地ノ百姓ヲ農兵トシタマヒ、將帥ニ任ゼラルベキ人ヲ差シ渡サルヽナラバ、彼地ヲ是州ヨリ領シタマヘルコト是州ノ爲メニ甚ハダ宜シカラン、右ノ次第ヲ或人ニ語レルニ、其ノ人ノ云ヘルハ、壹州ハ是州ヨリ半日ノ順風ニモ渡海スル海路ニテ、穀物ノ多ク出來ル地ナルニヘ、壹州是州ヨリ兼子領シタマフハ、是州ノ郷村ニ出來ル穀物ノ少ナクシテ、府中ノ人口ヲ養ヒ得ザルモ、壹州ノ地ノ穀物ニテ養ヒ得ベシ、然ニ靜謐ナラザル時ニ壹州ノ年貢ノ彼ノ地ニ居住スル諸士足輕ノ祿ト爲レル餘分ヲ、總テ彼ノ地ノ百姓ニ分チ與ヘタマフハ、彼ノ地ノ穀物ノ是州ニ入リ來ルコトナク、朝鮮ヨリ年例貿易ノ買米モ靜謐ノ時ノ如ク入來ラズバ、府中ノ人口ハ何レノ穀物ニテ養ハルベキヤ、靜謐ナラザル時ニ、彼ノ地ノ年貢ノ彼地ニ居住スル諸士足輕ノ祿ト爲レル餘分ヲ、半ハ是州ニ取リ寄セラレ、半ハ彼ノ地百姓ニ分チ與ヘラレテモ、農兵ト爲シタマフニ障ハリアルマジ、其ノ方ノ語ル所ハ偏見ナラント云ヘリ、此ノ說ハ某ガ思フ所ニ異ナリ、壹州ノ人高ハ三萬人ホドニテ、內檢ノ石高ハ六萬石ホドナリト聞ク、年貢ヲ出高ノ半分ホド上納シ來リタルニシテ三萬石ホドナリ、其ノ三萬石ノ中ヨリ彼地ニ諸士足輕ノ祿ト爲レル餘分ヲ見ルナラバ、彼地ノ百姓ノ男女老少ニ分チ與ヘラル米穀ノ分數、一人一石ニ當ラズ、其ノ內端ナラン、是ノ如ク見ヘタル米穀ノ分數ナルニ、總テ分チ與ヘラルヽハ過分ナルトテ、其ノ中ヲ少シデモ是州ニ取リ寄セラルヽ樣ニナル事ニテハ、其ノ外ノ處置モ其レニ應ズベキユヘ、彼地ノ百姓ヲ農兵ニ養ヒ立テタマフコトハ成ルマジ、彼ノ

地ニ農兵ヲ養ヒ立テタマハズシテハ、靜謐ナラザル時ニ保チ得タマフコト成ルマジ、譬ヘバ基肄養父ノ地ニ府中ノ諸士ノ中ヲ相應ニ居住セシメタマヒ、靜謐ナル時ニ福岡佐賀久留米ノ領主ニ親切ニ通交シ置キタマヒテ、靜謐ナラザル時ニ三所ノ領主ノ中ニテ、信義ノ勝サレルト見ヘタル領主ニ基肄養父ノ事ヲ賴ミタマフハ、基肄養父ニ居住スル諸士ハ其ノ領主ノ旗下ノ人數ノ如クニ成リ居ケルニテアラン、肥前筑前ト海ヲ隔テタル壹州ノ事ヲ福岡唐津平戶ノ領主ニ賴ミタマフベキ樣ナク、彼ノ三所ノ中ノ領主ノ心ニ是州ノ土地ニハ望ミナクテモ、朝鮮トノ交易ノ路ノ是州ニ在ルヲ望ミニ思ハレ、先ヅ壹州ニ兵船ヲ渡サレ、是州ニ向キタル方ヲ明ケ置キテ攻メ入ルナラバ、府中ノ諸士ヲ半分ホド彼ノ地ニ居住セシメラルヽトモ、百姓一同ニ農兵ト爲レルニアラズシテハ防ギ得ルコト成ルマジ、防ギ得ザルニ成ラバ、諸士是州ニ歸リ來ルベシ、彼ノ地ヲ是州ヨリ兼テ領シタマヘルニテ、府中ノ戶數ノ只今ヨリモ多ク、其ノ上ヘニ彼ノ地ニ居住スル諸士モ歸リ來ラバ、其ノ時ノ患ヘ彼ノ地ヲ兼テ領シタマハズシテ、靜謐ナラザル時ニ過ヒタマヘルヨリモ大ヒナラン、何レニモ是州ニハ農政ヲ興起シタマヒ、靜謐ナラザル時ハ是州ノ鄕村ニ出來タル食物ニテ、府中ノ人口ヲ養ナヒ得ル道筋ヲ立テタマハズシテ叶ハヌコトナルベシ、朝鮮ハ壬辰ノ變ニ懲リ、邊海防禦ノ制法嚴密ナリト聞ヘケルナレバ、若シ靜謐ナラザル時ニ至レルトモ、昔ノ海賊ノ利ヲ得シ樣ナルコトアルマジ、是州ノ鄕村ノ者共ノ若シ昔ノ海賊ニ效ハバ、初度ニ敗走シテ二度ノ渡海ハ爲シ得マジ、若シ昔ノ如ク隣國ノ海賊ト共ニ朝鮮ノ海邊ヲ侵

サントセバ、是州ノ郷村ノ中ヲ隣國ノ海賊ニ奪ハレ、州府ノ兵ヲ動カスニ至ラン、山ノ險シクシテ木ノ茂レルハ、外ヨリ寇スルニ利アラズシテ、內ヨリ防グニ利アリ、山ノ險シクシテ木ノ茂ラザルモ、山ノ穩ヤカニシテ木ノ茂レルモ、寇ヲ防グ利アルコト、山ノ險シク木ノ茂レルニ及ブマジ、是州ハ山ノ險シキコト尋常ヨリモ甚シケレドモ、木庭作スルニテ海ニ近キ山々ニ木ノ茂ラザル所ノ多ケレバ、不圖靜謐ナラザル時ニ至リテ、他方ヨリ是州ヲ侵ス兵船、以前商賈釣漁ニ來レル者共ヲ案內者トシ、東目ノ南北ノ浦々ニ未明早天ニ乘リ入レ、海邊ノ山々ノ草茅小木ヲ燒キ立テ、路ヲ分ケテ攻メ上ルナラバ、敵ヲ防グニ利アルベキ險岨ヲ敵ニ奪ハルベシ、木庭作停止下知ノ行ハレ、山々ニ諸木ノ能ク育ツナラバ、只山々ニ水氣ヲ增シテ水損ノ害ヲ減ラシ、畠方ノ田方ト成ル利ヲ興コシ、木庭作ノ止ミタル手間ノ延ヲ田作畠作ニ用ヒテ、穀物ノ出來增シアルノミナラズ、靜謐ナラザル時ノ外寇ヲ防グニモ大ヒニ利アラン、然レバ木庭作停止ノ下知ハ食ヲ足サル丶政道ノ基本トモ成リ、寇ヲ防ガル丶政道ノ基本トモ成リ、郡代ヨリ主君ノ家ノ幾久シク相續シタマハンコトヲ祈リ求メラル丶基本トモ成ルベキニ、府中流俗ノ人情ハ郷村ニテ勸辨ノ深キ者ノ云フ所ヲ抑ヘ、勸辨ノ淺キ者ハ甚ハダ多ク、勸辨ノフカキ者ハ甚ダ少ナキコト、天下古今ノ定マリタル道理ナルニ、多キ方ニ力ヲ合セテ、少ナキ方ヲ破ランストスル時勢ナリ（第一條農書輯略ノ中ヨリ拔キ錄ス）

諸州ノ農人ハ他領ノ農事マデ尋ネ求メ、其ノ爲シ來リニ勝レルコトアレバ、是レニ效ヘルト聞コヘケ

ル、是州ノ農人ハ稀レニ宜シキ農事ヲ爲セル人アリテモ、隣家サヘ是ニ效ハズ、是レ木庭作ニテ農事ノ風俗ノ粗ク成リ、農事ノ風俗ノ粗ク成ルニテ、自カラ高ブリテ人ノ教ヲ受クルコトヲ嫌ヘル故ナリ、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ニテ、草燒糞ヲ多ク蓄ハヘ、草ヲ拔キ土ヲ寄スル度數モ增シ、養ナヒ不足ナク、手入レニ不足ナクバ、必ラズ畠作ノ出來增シアルベシ、鄉村ノ人ノ云ヘルヲ聞クニ、上百姓ノ一升蒔ヨリ取ル穀物ヲ、下百姓ハ二升蒔三升蒔ヨリモ取リ得ヌト云ヘリ、上百姓ハ其ノ身ノ働キ人並ニ勝リ、下百姓ハ其ノ身ノ働人並ニ劣リタルニアルベケレドモ、大抵ハ家內ニ作所ノ働ラキヲスル年比ノ人ノ多クシテ、農事ノ人力ノ足リ、作物ノ出來ノ勝サレルニテ、在附キノ好キヲ上百姓トシ。家內ニ作處ノ働ラキヲスル年比ノ人ノ少ナクシテ、農事ノ人力ノ足ラズ、作物ノ出來ノ劣レルニテ、在リ附キノ好カラヌヲ下百姓トスルト云フナレバ、手入リノ多ク作得ノ劣ナキ木庭作ヲ止ムルハ、働ラク人ノ足ラヌ家ニ、働ラク人ノ增シタルト同ジ道理ナリ、下鄉ノ百姓ノ云ヘルトテ沙汰シケル一說ニ、木庭作ヲ止メテ田畠ト山畠、段畠ニノミ耕作シテ、手入レ養ナヒヲ精シクスルナラバ、作物ノ出來增シナルベケレドモ、貧シキ百姓ハ農ノ時ニモ公役銀ノ爲メニ山海ヲ働ツキ、公役ノ夫使ニモ當リ、作處ノ手入レ養ナヒノ手廻シ力ニ及バザル所アリ、鰯ヲ引ク村々ハ作處ノ手入レノ力ニ及バヌ所アリテモ、畠木庭ノ養ナヒニ乾鰯ヲ用ユレドモ、鰯ヲ引カヌ村々ハ、乾鰯ヲ買フ代銀ヲ持チタル百姓ノミ乾鰯ノ養ナヒヲ畠木庭ニ用ヒ、並百姓ハ用ヒ得ズ、何レニモ惣體ニ行キ渡リテ利益トナルハ、木柴ヲ燒

キテ養ナヒトスル木庭作ナリト云ヘル由沙汰セリ、他方ニテモ公役ノ夫使ナク、年貢ノ外ノ納メ物ノナキ州郡ハアルマジ、他方ニテ山ノ遠キ郷村ハ、田畠ニ成ベキ平地ノ中ニ草ヲ育テ置キテ草糞トナシ、塵芥ノ類ヲ燒キ糞ト爲シケルニ、是州ノ百姓ハ木柴茅ノ多キ山谷ノ間ニアル村々ニ居ナガラ、草糞燒糞ヲ拵ラヘズ、田畠ノ手入レ精シカラヌハ、木庭作ニ手入リ多キ故ナルヲ、其ノ事ハ云ハズ、只公役銀ノ爲メノ働ラキト、公役ノ夫使ニテ手入レ養ナヒ達セヌトバカリ云ヒ成スナリ、是州ノ作處ハ瘠土ノ多ク沃土ノ少ナクテモ、養ナヒニスル木柴草茅ノ多キニテ草糞燒糞ヲ他方ヨリ多ク用ヒ、其ノ上ニ水糞ヲ拵ラヘテ相應ニ用ユルナラバ、諸作ノ出來增シ輕キコトニテハアルマジ、伊奈郷鹿見村居住ノ本役ノ云ヘルハ、仁田組東組ノ百姓段畠ノ普請ヲ下知ノ如クニセズ、底ノ若土ヲ掘出シタル者共モ多ケレドモ、段畠ノ形ヲ下知ノ如クシケルナレバ、是又農政ノ行ハレタルナリ、段畠ノ上手ノ險阻ナル處ノ上土ヲ掘リドゲシメテ、段畠ノ面ニ敷カシムルハ、後日ニモ爲シ易キコトナリ、段畠ハ新ニ拵ラヘタル畠ナレバ、普請ニ念ヲ入レテモ若ガ士ノ少シモ交ラザルコトハアルマジ、普請ニ念ヲ入レザルハ若土ノ交リ多カラン、假令若土ノ交リナクテモ、年々ニ耕作シ來レル畠ノ地位ノ様ニハアルマジ、上土ヲ置カヌ若土バカリノ段畠ニテモ、木柴草茅ヲ厚ク敷キ積ミテ腐ラシタルヲ上土ニスル道モアリ、若土ヲ犂キ返シ、木柴草茅ヲ敷キ積ミ、枯レタル時ニ燒キ、火氣ニテ若土ノ性ヲ變化セシメ、其ノ灰ニ里ニテ拵ラヘタル燒糞草糞ヲ運ビ加ヘテ上土トスル道モアリ、漸々ニハ全ク行ハル、ニテア

ラント云ヘルヨシ傳ヘ聞キタリ、山林ノ政道ハ農政ノ本源ナルベシ、山畠ニテナキ山ニ耕作スルハ、見ヘ易ク知レ易キユヘ、農政ヲ信ジテ下知スル奉役ノ郷ニ、木庭作ノ禁ヲ犯スコトハ成リ難カルベケレドモ、諸木ヲ育ツル山ヲ二十區ニ分ケ、毎年一區ヅツノ木ヲ伐レト奉役ヨリ下知スルニ、山林マデ田畠ト同ジク作人面々ノ請持ニシ置カバ、其年ニ伐ルマジキ處ノ木ヲ伐ル者アリテ、禁制ノ力ノ及バザルニテ、山林ノ政道ノ破レトモ成リ、木庭作ノ禁ハ立チテモ、農時ニ山ノ働ラキヲ兼テ爲ス所ヨリ、農作ノ務メ疎ソカナラン、然レバ木庭山ノ山畠、段畠ニ成ラヌ處ハ、村々ノ作人仲間ノ請持ニ定メ、其ノ法ハ木庭ノ中ノ山畠、段畠ニ爲シタル處ノ上手左右ヲ、其ノ山畠、段畠ノ廣狹ニ應ジテ、或ハ二三十間ヅツ、或ハ四五十間ヅツ伐リ寄セ、燒草ノ用ニ其ノ山畠、段畠ニ附ケ置キ、外海内海ノ方ニテモ浦内ニテモ、潮滿ノ限リト見ユル處ヨリ三町マデノ山々ト、谷川ノ左右ノ卅間ヅツト、牛馬飼用ノ草木ヲ育テ、苫用、屋根葺用ノ茅ヲ育テ置ク處トヲ除キ、其ノ外ノ山々ヲ二十區ニ分ケ、毎年一區ヅツノ木ヲ冬伐リ、始メハ二十區ノ中ニテ木ノ殊ニ長ジタル一區ヲ伐リ、其ノ翌年ハ其ノ次ニ木ノ殊ニ長ジタル一區ヲ伐リ、段々ト其ノ格ニシテ、終ニハ年々ニ二十年立ノ木ヲ伐ルニ致シ成シ、山分ケハ農隙ニ役人村役人立合ニテ定メ、潮滿ノ限リト見ユル處ヨリ三町マデノ山ニ立テ居ケル木ハ、何ツマデモ伐取ザルニ定メ、元ヨリ大木ノ立チ居ケルハ、其ノママニ立テ置キ、草茅小木ノミ生ジ居ケルハ、小木ヲ伐リテ薪トシ、冬ノ中ノ晴天ノ續キタル時ニ草茅ヲ燒キ拂ヒ、翌年ノ二月ニ至リテ眞櫧ノ種子

ヲ植ヘシメ、海邊ノ櫧ハ能ク實ノルト云フナレバ、長ク育テ置クニ櫧子ヲ多ク得ル利アラン、海邊ニ大木ノ連リ育チ、枝葉ノ厚ク茂リテハ、諸魚ノ地近ク寄リ來ルト云フナレバ、鰯ノ引揚ノ多ク成ル利アラン、若シ外國ノ賊船ノ侵シ來リテモ、大木ノミ立チ居テ、草茅小木ノ立チ居ザルハ、外ヨリ火ヲ放チテモ火ノ炎ヘ上ガラズ、内ヨリ大木ヲ楯トシ、大木ノ間ヨリ鐵砲ヲ放チ、賊ヲ防グ利アラン、谷川ノ左右三十間ヅツノ地ニモ眞櫧ノ種子ヲ植ヘシメ、何ツマデモ伐リ取ラザルニ成リテハ、川筋ニ水氣ノ强ク成レルニテ、田ニ用ユル水ニ不足ナク、田ト成ルベキ畠ハ田ニスル利アラン、二十區ニ分ケタル山々ニ草茅ノミアル處ハ燒拂ヒ、風當ニハ松ト櫧トヲ育テ、風隱レニハ栗ヲ育テ、陰地ニハ杉竹ヲ育テ、元ヨリ薪ニ成ルホドノ雜木ノ立チ居ケルハ、其ノ一區ノ木ヲ伐ル年ニ殘ラズ伐リ取リテ伐株ノ若立ヲ育テ、栗櫧松等ノ立チ居ケルハ、其ノ儘ニ育テ置キ、二十年ノ後ニ其ノ區ノ木ヲ伐ル時ニ、栗ハ實ノレル木ノミ立テ置キ、實ラヌ木ヲ伐リ、櫧モ實ノラヌヲ伐リ、櫧ノ直グナル所ハ農具、武具ニ用ヒ、直グナラザル所ハ薪ニ用ヒ、其ノ跡ニハ伐株ノ若立ヲ育テ、實ノラヌ栗ヲ伐リタルモ若立ヲ育テ、松ノ直グナル所ハ材木ニシ、直グナラザル所ハ薪ニシ、種子松ヲ立テ置キテ自然生ヲ育テ、松ノ殊ニ木筋好ク育チタル處アルハ、其ノ處バカリ二十年目ニモ伐ラズ、大キナル材木ヲ用ユル時ノ爲メニ殘シ置キ、陰地ニ杉ヲ育テタルモ其ノ格ニシ、桑ハ村近邊ノ川端ト、南向ノ山附ノ畠ノ北ノ端ニ植ヘ、櫧ハ何レノ處ニテモ、自然生ノ能ク育ツ所ニ育ツルコト宜シカラン、公領ノ木山ト、社領、寺領、

給人領ノ木山ト交リ居ケルモ、別段ニ立テズシテ二十區ノ區數ノ中ニ入レ、社領、寺領、給人領ノ木ヲ村人ガ伐リテ村ニ運ブハ、其ノ木ノ四分ノ一ヲ地主ニ渡シ、四分ノ三ヲ村人ノ伐リ手間ノ賃ニ取ラバ、是レ年貢ノ出來高ノ四分一ヲ上納スル道理ナラン、上鄉ノ奉役ノ云ヘルトテ或人語レルハ、畠作ノ秋物ハ麥ニ及ブ物ナシ、蕎麥粟ハ稀レニ出來ノ好キ年アレドモ損毛ノ年多シ、稀レナル出來ヲ日當ニシ廣ク作クリ、取納ニ手間ノ多ク掛カルニテ麥作ノ地拵ヘ粗ノ、蒔付モ時ニ後レ、殊ニ蕎麥粟ノ俵數ニ同ジキモ、食用ニシタル時ハ麥ノ利ニ甚ハダ劣レリ、大豆ハ相應ニ作クラズシテ叶ハヌ物ナリ、蕎麥粟ハ成ルタケ蒔付ノ分數ヲ減ラサシムベキコトナリト云ヘル由語レリ、是以前モ聞ケルニトナリ、上鄉ノ百姓ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、郡代ヨリ下知アリシ栗育テノ事ヲ、近キ比マデハ其故ヲ落チ著カズ、是比ニ至リテ落チ著キタリ、諸木ノ中ニテ早ク長ズル木ハ栗ナリ、稀レニハ栗ノ育タヌ地モアレドモ、能ク育ツ地ノ多キト見ヘ、鶉ノ取リテ土ニ埋ムコトアルユヘ、種子ヲ植ヘズ育ツルコトナクテモ、木庭作サヘ止ミタラバ、以後何レノ山ニモ自然ト生ズベシ、只今ニモ伐リ株ノ若立アル處ト、自然生アル處ハ多クシテ伐リ株モナク、自然生モナキ處ハ少ナシ、若立ノ栗ハ十年ホド過レバ、小材木ニ用ユルホドノ木ニ成リ、曲ミタル所ト末ト枝トハ薪ニ成リ、直グニシテ短キ所ハ屋根ニ成リ、材木ニスルモ性ノ强キ利アルユヘ、實ノラヌ木ニテモ其ノ益アルコト他ノ木ニ勝レリ、實ノル木モ年ゴトニ實ノル物ニテハナケレドモ、其レハ橘モ同ジ事ナリ、木庭作ノ止ミテ山畠、段畠ニ成ラ

ス所ニ櫨木ノ育ツナラバ、栗子ノ利多キ事櫨子ノ利ニ勝サルベシ、只今マデハ木庭作スルニテ栗ヲ育テズ、木數ノ多キ櫨ト木數ノ少ナキ栗ヲ較ベテ、栗ノ利ノ櫨ニ及バヌト云フハ誤マリナリ、栗子ヲ煮テホセバ腐ルコトナク、澁皮ニ付ケルユヘ、冬ノ中ニ粗皮ヲ舂キ砕キ、實ヲ俵ニ入レ置キ、煮テ食セバ、四時ノ食ノ助ケトナラント云ヘル出語レリ、勘辨アル百姓ノ云フ所ナラン、藷ノ事ヲ聞キ及ブニ、食シ様ヲ精シク勘辨シタル者ハ、寒氣ノ節ヨリ翌年ノ春夏マデノ食用ノ分ヲ蓄ハユルニ、老人ト少人ノ者ヲシテ藷ヲアラヒ、中マデニユルホドニ能ク煮テ、筵ニヒロゲ日ニ晒シ、雨天ノ時ハ筵ヲ棚ノ如クニシテ其ノ上ヘニテ乾カシ、晴天ヲ待テ日ニ晒スコトヲ勤メシメ、少年ノ者ニ鶏ノ犯スヲ逐ハセ、中マデ乾キタル時ニ俵ニ入レ、段々ト其ノ如ニシ、鼠ノ犯シ得ヌ物置キ所ニ積ミ置キ、食スルニハ生ナルヲ食スル様ニ煮テ食シ、梅雨ノ終リケル時分ニ日ニ當テ濕ヲ去レバ、新藷ノ出來ルマデモ食スル由聞及べリ、其ノ爲シ様ノ廣マリ、種子芋ノ芽ノ早ク出デ、蔓ノ早ク延ブ様ニ養ナヒ手入レヲ爲シ覺ヘシ村々ノ如ク、八鄕一同ニ爲シ覺ヘ、農業全書ニ藷ヲ濕氣ナキ處ノ中ニテ、水ヲ汲ミテ灑グコトノ成ルベキ手寄リノ所ニ作クレバ、損毛ノ年ナシト見ヘタルヲ取リ用ヒ、大旱ニモ涸レザル水ノ手寄リニ種ヘ、大旱ノ時ハ十日カ十五日ニ一遍ヅツ水ヲ運ビテ灑グコトヲ爲シ覺ヘタラバ、藷ノ利益只今ニハ甚ハダ勝サラン、殊ニ稀レナル大旱ノ時ハ、藷ニ灑グベキ水マデ涸ル丶コトアルベケレドモ、山林ノ政道ノ行ハル丶ニ成ラバ、其ノ患ヒモナカラン、農政ノ能ク行ハレシ後ニ、若シ諸方ノ通路ノ成リ

難キ時アラバ、百姓ノ公役ヲ勤ムルコトヲ一切ニ許シタマヒ、其ノ代リニ籾、麥、豆ヲ相應ニ上納セシメ、以前ノ年貢ニ加ヘテ、府中ヨリ鄕村ニ移ルマジキ人數ノ食用ニ當テ給ヒ、百姓ノ公役銀ヲ一切ニ許シタマヒ、其ノ代リニ農家ノ婦女ノ織物ト綿トヲ相應ニ上納セシメタマヒ、府中ノ賤民ノ中ヨリ鄕村ニ移ルベキ人數ハ鄕村ニ移シタマヒ、或ハ漁戶ト成リ、或ハ鹽戶ト成リ、府中ニ往來スル公役ヲ百姓ノ勤メ來レル海ノ働ラキヲ止メ、漁戶ノ者ハ網ヲ引キ諸魚ヲ釣リ、食用ニ成レル海草ヲ取リ、作處ヲ養ナフ藻ヲ取リ、鹽戶ノ者ハ鹽ヲ燒キ、百姓ノ作リ出セル諸穀諸菜ニ易ヘ、農戶ト漁戶鹽戶ト相ヒ助ケ相ヒ養ナヒ、諸方ノ通路ノ成リ易キ時ニ多ク他方ニ賣出セル乾鰯ヲ、悉ク是ノ州ノ田畠ノ養ナヒトシ、麥ヲ刈取ル働ラキニモ、其ノ外ノ農事ヲ急グ働ツキニモ漁戶ノ者ヲ雇ハシメ、下知ノ精シクシテ人事ヲ能クセシメバ、諸方ノ通路ノ成リ難キ間ニ生レ增シタル人數ノ、衣食ノ用マデ足レルニテアルベシ、東照神君ノ大訓ニ、無智ナル者ハ利發立デシテ一寸先キヲ知ラズ、夏ノ溫タカナレバ冬ノ寒キヲ考ガヘヌゾ、末ヲ考カヘ者ヲ絕ツベシト云ヒタマヘリ、國ヲ憂フル人ノ思ヒヲ致スベキ所ナリ、

第二條農書輯略ノ中ヨリ拔キ錄ス

十穀談ニモ農書輯略ニモ、以後ニ至リ若シ他力ノ米穀ノ是ニ入リ來ラザル時ノ事ヲ書述シ所アレドモ、其ノ事ノ大略ヲ述シト謂フホドノ書述ニテハナシ、因テ茲ニ其ノ大略ヲ述ベ置クナリ、凡ソ平易ノ時ノ心ヲ以テ艱難ノ時ノ事ヲ論ジ、富有ノ家ノ心ヲ以テ貧窮ノ家ノ事ヲ論ジ、其ノ位ニ素シテ行ナヒ、

其ノ外ヲ願ハザルノ道ヲ信ゼズ、其ノ如クニハ何ントシテ成ルベキゾト云ヘル人ノ自カラ說ク所ノ艱難貧窮ニ處スル道ハ、好カラヌ事ヲモ爲シ、危ウキ事ヲモ爲シテ、艱難貧窮ヲ免カレントスル道ナリト問コヘ、此ノ二ツノ道ハ相悖リテ並ビ行ハレザルト見ヘタリ、是州此度ノ農政ノ行ハレ、儲蓄モ備ハリシ後ニ、若シ他方ノ米穀ノ是州ニ入リ來ラザル勢ヒ見ヘタラバ、町人末々ノ者ノ心ニ食用ノ盡キン事ヲ恐レ、米麥ヲ求メ買フ事頻リニシテ、米麥ノ直段日々ニ增益スベシ、其時ニ米藏ヨリ米麥ヲ賣リ出サシメラルヽニハ、先ヅ町中ノ家々ノ口數ト、家々ニ買ヒ置ケル米麥ノ分數トヲ、二十五町ノ町乙名ニ目付二十五人ヲ添ヘラレ、町々ヲ一日ニ檢分セシメラレ、米ハ一日一人三合ニ當テ、粗麥ハ五合ニ當テ、誰ニハ何日ノ飯米有、誰ニハ何日ノ飯米有ト帳面ニ記サセラレ、米麥ノ直段ヲ相應ニ定メラレ、食用ノ盡クル積リト見ヘタル家々ハ、其ノ日ノ二三日前ニ三十日分ヅツノ飯米ヲ米藏ヨリ買シメラレ、米ヲ餘分ニ買ヒ置ケル家ニハ、其ノ口數ニ應ジ六箇月百八十日ノ飯米ヨリ多キ分ヲ賣リ上ゲヨト命ゼラレ、米藏ニ買ヒ聚メシメラレ、末々ノ者共ヘノ賣出シニ當テ置カレシ米ニ加ヘラレ、祿ヲ受ケ居ケル家々ハ、其ノ家々ノ常祿ノ分數ニ構ハレズ、一日一人ヲ米ハ五合ニ當テ、粗麥ハ七合ニ當テタル積リニテ三十日分ヅツノ飯米ヲ渡サレ、扶持切米ヲ合セタル祿ノ高ノ、其ノ家ノ口數ニ當テタル飯米ノ高ヨリ少ナキハ、祿ニ應ズル分バカリ一日一人五合ノ積リニテ渡サレ、祿ニ過ギタル口數ニハ一日一人二合五勺ノ積リニテ加扶持ヲ賜ハリ、祿ヲ受ザル家々ノ者共ノ米藏ヨリ飯米ヲ買フ代銀ノ

盡キタルハ、一日ニ米五合ノ賃ニテ傭役ヲ勤メヨト命ゼラレ、傭役ヲ勤メ得ザル老少、婦女、病者ハ一日一人ニ米二合五勺ノ飢飯米ヲ賜リ、六十八格ノ町人ノ貧窮ナルハ、其ノ家ノ口數ニ應ジ一日ニ三合ヅツノ飯米ヲ賜リ、町醫、神職、出家、山伏等ノ貧窮ナルモ其ノ類ニ加ヘラレ、傭役ヲ勤ムベキ部類ノ者共ヲ府中ノ境内ノ山谷ノ中ニテ、段畠ニ成ルベキ所ノ普請ノ傭役ニ當テラレ、仕者ノ菜ヲ種ユル地ヲ持ザル家々ニ、段畠ヲ相應ニ分チ與ヘラレ、枯草塵芥ヲ燒キタル灰ト、土ノ乾キタルニ用ユル水トヲ代ル〲桶ニ入レ、馬ニ負セ行キ段畠ノ養ナヒトシ、塊ヲ碎キ土ヲ浮カシ土ヲ寄スル手入レヲ精シクシテ、諸芋蕪菁大豆等ノ其ノ土ニ宜シキヲ植ヘ、秋物ノ跡ニハ麥ヲ種ヘ、府中ノ境内ノ山畠、段畠ニ成ラヌ山々ハ、仕者町人ノ家々ニ相應ニ分チ預ケラレ、木ナキ處ニハ栗ヲ植ヘ、元ヨリ立居ケル木ノ下タ枝ヲ伐リ、薪トシテ本木ヲ育ツルコトヲ奉行ヲシテ下知セシメラレ、段畠ノ普請ノ勤メハ、水夫日傭ノ働ラキ山海ノ働キヲ爲シケル者共奉行ノ下知ヲ受ケテ勤メ、鍛冶、大工、木挽、桶屋、紙漉、陶工等モ役人ノ下知ヲ受ケテ面々ノ爲シ來レル事ヲ勤ムベシ、是州ハ鄉村年貢ト、基肄養父ノ年貢ト、朝鮮ヨリ入リ來ル買米送使米ト、隣國ヨリ入リ來リ町人商買用ニ買ヘル米ト、朝鮮ヨリ歸ル船頭水夫等ノ買ヒ來レル米ヲ合セテ、府中ノ人高壹萬二千人ホドノ毎年ノ食用ト成リ居ケルユヘ、米藏ニアル米ト、町中ニアル米ニテハ一萬二千人ノ六七ヶ月ノ食用ニ成リ、一日ノ食用ヲ米三合ニ當ツルモアルナラバ、六七ヶ月ノ食用ハ八九ヶ月ノ食用ニモ成ベシ、府中ヨリ鄉村ノ海邊ニ移リ、漁戶鹽戶ト

成ルベキ者五百戸ホドヲ、六七ヶ月ノ中ニ海邊ノ村々百村ホドノ大中小ニ應ジ、一村ニ二三戸四五戸六七戸ヅツ移ラシメラレタラバ、一戸ヲ四口ニ當テ、二千人ホドハ郷村ニ移リ、府中ノ人高一萬人ホドニ成ルベシ、右五百戸ノ者共ハ多クハ米ヲ買フ代銀ヲ持ツマジキナレバ、長ゼル者ト幼少ナル者トヲ合セ、一日一人ニ三合ノ飯米ヲ賜リ、其助ケニテ郷村ニ戸ヲ移サシメラレ、三合ノ飯米ニ簇鹿角菜等ヲ交ヘ食用ヲ足シ、郷村ニ移レル後ハ、漁戸ハ海ヨリ得ル物ヲ農家ノ穀菜ニ易ヘ、鹽戸ハ燒キ出ス鹽ヲ農家ノ穀菜ニ易ヘテ食ヲ足シ、最初府中ノ食用ノ鹽ハ、府中ニ有リ來レルヲ總テ買上ゲヨト命ゼラレ、町人二三人ノ家ヨリ府中ノ家々ノ口數ニ應ジテ元直段ニ賣ラシメラレ、郷村ハ鹽ノ少ナキ家々ヨリ、鹽ノ多キ家々ノ當分ノ食用ニ餘レル分ヲ買ハセヨト命ゼラレ、其ノ鹽ノ盡キザル前ニ、府中モ郷村モ鍋釜ニテ潮ヲ煮テ鹽ノ代リトスルコトヲ爲シ覺ヘ、六七ヶ月ヲ經シ後ハ、府中ヨリ郷村ニ移リシ鹽戸ノ者共ヨリ燒キ出ス鹽ヲ、農人ノ年貢ノ格ニテ上納セシメラレ、仕者ノ家々ト町人ノ家々トニ與ヘラレ、其ノ年ノ麥出來ヨリ村地ノ麥粮ノ年貢ハ、定格ノ三ツノ免ニ一ツヲ增サレ、四ツノ免ニ定メラレ、畠方ノ十分ノ一ハ大豆年貢ニ定メラレ、大中小ノ給人領、足輕領ノ小ヲ除カレ、中ト大トニハ二ツノ免ニテ年貢ヲ上納セシメラレ、府士ノ祿ノ藏前知行ニ成レル後ハ以前ノ地方知行ノ時ヨリ石數ノ多ク增シケルユヘ、府士ニ借リ上ゲヲ命ジタマフトテ、郷士ニモ借リ上ゲヲ命ジタマフベキ樣ナク、只今ハ他方ノ米穀ノ入リ來ラズ、府士ノ祿ヲ以前ノ借リ上ゲノ殘リ高ヨリ少ナク賜ハルナレバ、郷士ノ

祿ノミ以前ノマヽニシテ賜ハルベキ樣ナシ、百姓ハ水夫公役、漕船公役、上納物漕登公役等ヲ漁戸ノ者共ヨリ勤メシメラレ、惣體ノ公役ノ勤メ以前ヨリハ少ナク成レルナレバ、免ヲ一ツ增サルコト道理ナキニアラズト諭サレ、損毛ノ年ニハ豐年ノ餘計ヲ儲蓄ノ方ニ出シ置キタルニテ足サシメラルヽニテアルベシ、是州ノ南北ハ二十六里ト見ヘタレドモ、昔年國繪圖ヲ命ジタマフ時ニ、海上ニテ平地ヲ積リタルハ、南北十七里ノ平地ト積レル由聞及ベリ、然レバ東西ノ平地ノ並シハ二里半ホドナルベシ、二里半ニ十七里ハ一里角ノ坪四十二坪半也、昔ヨリ有リ來レル田畠ハ田二百町程、畠千六百町程、田畠ヲ合セ千八百町ホドナレバ、一里角ノ坪ニシテ一坪半ホドナラン、有リ來リタル田畠ノ外ハ四十一坪ホドト見ヘ、木庭ノ中ノ山田ト成リ、山畠、段畠ト成ルベキ分ハ、木庭高ノ十分ノ一ナラント云フナレバ、其ノ十分一ハ一里角ノ四坪ホドナリ、有リ來リタル田畠ト、木庭ノ中ノ山田、山畠、段畠ト成リタル村地ハ四ツノ免ニテ年貢ヲ納メシメラレ、給地ハ二ツノ免ニテ年貢ヲ納メシラルヽナラバ、府中ノ人口ヲ養ナヒ得ベシ、儲蓄ノ備ハルハ田畠、山林ノ政道ノ行ハレテ穀物ノ出來增スニ在リ、田畠、山林ノ政道ノ行ハレズ、儲蓄ノ備ハラスナラバ、鄕村凶年ノ食用モ他方ヨリノ入リ來リノ米ナクテハ足シ得マジ、田畠、山田、山畠、段畠ニ成ラヌ山々一里角ノ坪三十六坪ホドト見ヘタルニ、栗、橡、松等ヲ土地ノ宜シキニ應ジテ育ツルナラバ、栗子、橡子ハ常年ノ食用ニモ成リ、凶年ニハ猶以テ食用ヲ利シ、村々ノ近邊ニ桑ヲウヘ蠶ヲ飼フ用ヲ利、麻木綿ヲ種ユルコト精シキナラバ、府中鄕村ノ衣食

ノ用ヲ足シ得ベシ、田畠、山林ノ政道ノ行ハルヽハ久シク勤メシメラルベキ郡奉行奉役ヲ久シク勤メシメラレ、速ヤカニ代ラルベキ郡奉行奉役ヲ速ヤカニ代ヘラレ、藥ニ毒ヲ交エザル所ナルベシ、府中ニテ以前ヨリ云ヒ來レル一說ニ、諸方ノ通路ノ成リ難キ時ニ府中ノ食用ヲ足サルヽ道ハ、朝鮮トノ交易ノ利分ノ內ヲ、年々ニ引キ除ケオキ、其ノ分ヲ以テ米穀ヲ買ヒ儲蓄トシ、毎年舊米ヲ新米ニ取リ替ヘ、年々ニ石高ノ增シテ、府中ノ人口數年ノ間ノ食用ニ成レル樣ニ爲サシメラルベキ所ナラント云ヘリ、國郡ノ領主ノ儲蓄ニハ年貢ノ餘分ヲ當テ置カレ、町人ノ儲蓄ニハ交易ノ餘利ヲ當テ置ク事、古今トモニ定マレル事ナリ、若シ是州ニテ交易ノ餘利ノ金銀ヲ儲蓄トシ置カレ、他方ノ米ヲ漸々ニ買ヒ取ラルベキトアルトモ其ノ樣子ノシレタラバ買ヒ取ラルヽ事成リ難キ勢ヒ出來ベシ、靜謐ナラザル時ニハ、他方ノ米穀ヲ買ヒ取ラルヽ事彌以テ成ルマジキ事ナリ、又云來レル一說ニ、諸方ノ通路ノ成リ難キ時ニ、末々ノ者共ノ食用ノ盡クベキト見ヘタラバ、昔ノ海賊ノ事ニ效ヒ朝鮮ニ渡海シテ穀物ヲ奪ヒ取ルベシ、朝鮮ヨリ防禦ニ苦ミテ昔モ有タル如ク、毎年米穀如何程宛合力スベシトノ相談ニ及ニテアラン、若又是州ヨリ朝鮮ニ對セラレ常ニ誠信ノ交リアラバ、朝鮮ヨリ是州ヲ憐愍シ、食用不足ノ分ヲ合力スベキユヘ、海賊ノ事ニハ及ブマジト云ヘリ、右ニ云フ所ハ、自分ノ家ニ食用不足ナル時アラバ、他人ノ家ノ飯米ヲ强盜スベキト心當テニシ置キ、自分ノ家ニ食用不足ナル時ニハ、他人ノ家ヨリ合力ヲ得ベキトテ、常ニ其ノ家主ノ氣ニ入ル樣ニスルト同ジ事ナリ、五六人ノ口ヲ養ナフ者ニテモ心アル

者ノ云フベキコトニナク、爲スベキ事ニテナキニ、是州府中ノ足食ノ事ニ云ヒ立テ、救ヲ期シテ他ニ交ハルヲ誠信ノ交リト覺ヘ居ケルハ、甚ハダ當ラヌ事ナリ、是州ハ日本六十八州ノ内ナレバ、日本ノ内トシ朝鮮ヲ外トスベシ、卑劣ナル事ヲ云ヒ掛ケ爲シ掛クルハ、誰ニ云ヒ掛ケ誰ニ爲シ掛クルモ耻ヅベキ事ナルニ、外ニ對シテ卑劣ナル事アルハ、別シテ耻ヅベキコトナラン、昔建武ノ亂後ニ、是州ヨリ朝鮮ニ盜賊セシハ、西國ノ邊浦ニテ海賊ヲ爲シ覺ヘタル者共ノ是州ニ入リ來リ、是州ノ者ヲ引キ連レタル故、盜賊ノ利ヲ得シ事アリタルト聞ヘ、文祿慶長ノ變ノ後ハ、朝鮮ノ諸臣邊海ノ武備ニ心ヲ用ユルコト精シキト聞ユルナレバ、若シ以後ニ至リ昔ノ海賊ニ傚ハントスルコトアルトモ、盜賊ノ利ヲ得ル事甚ハダ難カラン、假令盜賊ノ利ヲ得ルトモ畢竟只是レ飯米ヲ盜ミ取ル米盜人ナリ、其領ノ末々ノ者共ノ他方ニ行キテ飯米ヲ盜ムハ、其ノ領主ノ羞辱ニコソ成ルベケレ、唯今ニテモ是州府中ノ人口ヲ養ナフ米穀過半ハ朝鮮ヨリ入リ來レリ、藥物、布帛ハ外國ノ產ヲ用ユルモ義ニ於テ害ナシ、毎日ノ食トシテ身命ヲ保ツ米穀ヲ食スル者ハ、其ノ身是州ニ在リテモ朝鮮ノ民ニ同ジ、他方ヨリ米穀ノ入リ來ラザル時ノ爲メニ、農政ヲ起サルベキコトヽ云フハ一端ノ說ナリ、靜謐治平ノ時ノ爲メニ、彌以テ農政ヲ起サレズシテ叶ハヌコトナルベシ、外國ノ米ニテ州府ノ食用ヲ足サルヽコト、治平ノ時ニハ殊ニ羞辱トナルベキコトナリ、郡代ノ農政ノ功效十年ノ中ニ著ハレ、畠方ノ田方トナレル分ト、木庭ノ中ノ山畠ト成レル分ト、以前ヨリノ天水田ノ水掛リ好キ田ト成レル分ノ三ツノ免ノ物成ヲ、基肄養父

ノ年貢米ニ加ヘラレ、畠、山畠、段畠ノ定免ノ分ヲ米一石ノ代リニ粗麥二石ト當テラレ、其家ノ祿數ノ其ノ家ノ口數ニ餘レル分ヲ、其年ノ相場ノ米代銀ニテ賜リ、其米代銀ハ朝鮮ニテノ買米ニ當テ置カレシ綿布ヲ賣ラシメラル丶代銀ヲ賜ルニ成ラバ、外國ノ米ヲ諸士ノ食用ニ加ヘラル丶、舊弊モ改マリ、畠、山畠、段畠ノ出來增シ穀物ヲ公役銀ト諸品買調ノ代銀ニスルトテ、百姓ヨリ町人ニ賣レル分ハ、町人ノ隣國ヨリ穀物ヲ買ヒ取ル分數中ノ減リニモ成リ、若シ諸方ノ通路ノ成リ難キ時ニ至ラバ、藷ト粟トヲ米穀ニ交ユルニテ、末々ノ者マデ食用ヲ足シ得ベシ（第三條幷略後語中ヨリ拔キ錄ス）

鄕村ニテノ防禦ノ備ヘハ、昔年郡奉行所ヨリ相談アリテ編修セシ鐵砲格式僉議修目ノ中ニ記シ置キタリ、府中ニテノ防禦ノ備ヘハ老臣ノ僉議ヲ遂ゲラレシ書付アリト聞及ベリ、定メテ法制ノ精シク備ハリ居ケルニテアルベシ、鄕村ニテノ防禦ノ格ヲ以テ、府中ニテノ防禦ヲ考ガヘシ大略ヲ今茲ニ記スナリ、鄕中ノ鐵砲二千六百挺ト定メ置キケルハ、二十歲以上六十歲以下ノ男ノ三千九百人ホド丶見ヘタル中ヨリ、二千六百人ヲ鐵砲ヲ持ツ人數ニ立テ、千三百人ヲ二千六百人ノ附人ニ立テシナリ、十六歲ヨリ十九歲マデ、六十一歲ヨリ六十五歲マデヲ加ヘタラバ、附人トナルベキ人數七八百人ホドハ增シ、右ノ千三百人ニ合セテ二千一二百人モアルベシ、以後ニ至リ若シ西國筋ノ靜謐ナラザル時ニ、府中ノ人高唯今ノ如ク一萬二千人ホドナラバ、其ノ中ヨリ鄕村ノ海邊ニ移リ、漁戸ト成リ鹽戸ト成ルベキ五百戸ホドノ男女、老少二千人ホドヲ除カレシ殘リ、一萬人ホドノ中ヨリ十六歲以上六十五歲以下

ノ男三千人ニ近ク、郷村ヨリ府中ニ上リテ滯留シケル者共ヲ直ニ留メ置カレタラバ三千人ニ餘リ、郷村ニテ鐵砲ヲ持ツ人數ノ附人ノ高ハ其ノ分ホド減ルベケレドモ、府中ヨリ郷村ニ移リテ漁戸鹽戸ト成レル中ノ十六歲以上六十五歲以下ノ男ヲ合セラレタラバ、附人ト成ルベキ人數二千六七百人ニモ成リ、鐵砲ヲ持ツ二千六百人ニ一人ヅツノ附人ト當テラレテモ不足アルマジ、府中ノ三千人ホドノ中ヨリ鐵砲ヲ持ツ人數ヲ千五百人ニ定メラレ、其ノ附人ヲモ千五百人ニ定メラレ、鐵砲ヲ持ツ千五百人ニハ上士、中士、下士其ノ嫡子次男ト、諸組役附ト、其ノ嫡子次男ト、六十人格ノ町人ト、六十人格ニ準ゼラルベキ平町人ト、其ノ嫡子次男トヲ當テラレ、附人千五百人ニハ上士餘計ノ下男ト、平町人ノ中ノ六十人格ニ準ゼラルマジキ者ト、町人餘計ノ下男トヲ當ラレ、自分ノ下男ヲ連レルヲモ附人ト稱セシメ、附人ニモ刀脇指ヲサヽセシメラレ、三千人ヲ五百人ヅツ六備ヘニ分ケラレ、其ノ中一備ヲ旗本ニ立テラレ、三千人ニ餘レル人數アルハ旗本ニ添ヘラレ、上士ハ旗本ノ人數ニ入レラレ、其ノ外ノ人數ヲ五組ニ組合セラレ、一備五百人ヲ五十人ヅツ十組ニ分ケラレ、五十人中二十五人ハ鐵砲ヲ持テ、二十五人ハ其ノ附人ニ成リ、五十人ヲ十人ヅツ五組ニ分ケラレ、十人ノ中五人ハ鐵砲ヲ持チ、五人ハ附人ニ成リ、鐵砲ヲ持ツ五人ノ中一人ヲ其ノ十人ノ小頭ニ立テラレ、十組ニ分ケラレ、一組五十人ヲ小組ト名付ケ、上士ノ中ヨリ一人ヅツヲ小組ノ頭ニ定メラレ、小組ヲ十組合セタルヲ大組ト名付ケ、老臣大身ノ中ヨリ一人ヅツ大組ノ頭トシ、小頭ト其ノ組中ノ人數ノ勤方働方ヲ檢分セシメラレ、鐵砲

ヲ持タル二百五十人ノ中ニテ、鎗ヲ得タルハ附人ニ鎗ヲ持タセ、弓ヲ得タルハ附人ニ弓ヲ持タセ、鐵砲ヲ持ツベキ町人ハ、元ヨリ鐵砲ヲ打習ハセ、附人ニモ鐵砲ヲ打チ習ハセ置カレ、久田浦ト南室小浦ハ府中ヨリノ防禦ノ中ニ加ヘ置カレ、西國筋ノ靜謐ナラザルト知レタル時ニハ、府中浦ノ濱邊ヲ飯盛山ノ麓ノ岸ヨリ高札壤ノ山岸マデ押通シ隍ヲ掘ラシメラレ、掘リ上ゲタル土ニテ隍ノ通リニ土手ヲ築キ、土手ノ上ヘニ柵ヲ設ケ、柵ノ外面ノ根ニハ小竹ヲ密シク植ヘ續ケ、賊船ヨリ大筒ニテ土手ヲ打チ破リタル時ニ急ニ補ナフ備ニハ、土手ノ内ニ土俵ヲ多ク積ミ置キ、防禦ノ普請ニ障ハル人家ト、土手ノ外ニ成ルベキ人家ハ別處ニ移ラシメ、久田ニ越ス道筋ハ往來ノ自由ナル樣ニ路作リシ、久田ニ越ス中道ノ麓ハ石垣ニシ、石垣ノ内ニ土ヲ籠メテ竹ヲ植ヘ、岸下ノ險シカラヌ處ヲ總テ岸ノ上ノ路端ニ柵ヲ設ケ、路ヲ往來スル人ヲ浦中ノ船ヨリ見掛ケザル樣ニ竹ヲ植ヘ通シ、濱邊ノ土手ノ處ニハ往來ノ爲メニ門ヲ設クルコトナク、江川ヨリ小船ニテ入ルバカリニシ、土手ノ江川ニ當リタル處ハ、土手ヲ江川ノ左右ニ十間ホドヅツ折リ廻シニ築キ、間ノ中ホドニ當リタル處ノ川中ニ木戸ヲ設ケ、木戸ノ開閉ハ木戸ノ内ニ番人ヲ小船ニ乘セ置テ勤メサセ、郷村ヨリ船ニテ來ル者共ハ、村役人ヨリ請取リシ船中人數ノ證文ヲ番人ニ出シテ改タメヲ請ケシメ、江川ニテナキ川ノ土手筋ニ當レル處ハ、亂杭ヲ密シク打チ、小船ニテモ徒ニテモ往來セシメズ、旗本ノ外ニ五備ノ中ノ一備ハ、府中ノ濱ヨリ久田浦ノ北ノ山岸マデヲ守リ、一備ハ久田浦ノ南ノ山岸ヨリ尾浦ノ境マデヲ守リ、一備ヘハ耶良崎ヨリ鶴舞崎マデ

ヲ守リ、一備ハ南室小浦ノ浦口ノ左右ノ山々ヲ守リ、一備ハ曲崎ヨリ根緒ノ境迄ヲ守リ、人數ノ足ラザル方ニハ人數ノ餘アル者ヨリ足シ、根緒ヨリ北ト尾浦ヨリ南ハ、郷村ノ鐵砲ニテ守レルニ當テ置カレ、賊船ノ使シ來レル時ニ防禦ニ出ルハ、皆々飲水ト粮トヲ腰ニ付テ、水ハ大竹ヲ上下一節充籠メタルニ入レ、口ノ穴ヨリ直ニ飲ミ得ル樣ニ拵ヘ置、防禦ノ中ニ粮水ノ盡キタルハ、附人ヨリ取リ來ラシメ、外海ニ向キタル山ヲ堅シ鐵砲ニテ、磯邊ニ近キ處迄來レル賊船ニ打掛ルモ、浦内ニ向キタル山ヲ堅メシ鐵砲ニテ、浦内ニ來リ居ケル賊船ニ打チ掛ルモ、鉛玉ノ達スベキ處迄近ヅキ、木ヲ楯トシ木ノ陰ニテ鐵砲ニ火藥丸ヲ込ミ、木陰ヨリ少シ身ヲ露ハシ打チ放シテ木陰ニ依リ、賊兵ノ磯邊ニ上リ山中ニ攻メ入ラントスル時ハ、賊兵ニ近ヅカズ、前ナル者ハ鐵砲ヲ打放シテ、速カニ後ヘナル者ノ後ヘニアル木陰ニ退ゾキ、鐵砲ニ火藥鉛玉ヲ込ミ、後ヘナル者ハ前ナル者ノ鐵砲ヲ打放シテ、退クヲ追ハントスル賊兵ニ鐵砲ヲ打掛ケテ、速ヤカニ前ナル者ノ退ゾキ居ケル後ヘニアル木陰ニ退ゾキ、段々ニ其ノ格ニシ賊兵ノ退ク時ハ隨ヒ進ミテ鐵砲ヲ打チ掛ケ、賊兵ノ濱ヨリ攻メ入ラントスルハ、土手ノ上ヘナル柵ノ中ヨリ鐵砲ヲ打チ掛ケ、頻リニ進ミ柵ヲ破ラントスル時ハ鎗ニテ防ギ、鎗脇ヨリ矢ヲ掛ケ、鐵砲ヲ打チ掛ケ、鎗ヲ取リ弓ヲ取レル人ノ持チ居タル鐵砲ハ附人請取リテ、是又鎗脇ヨリ鐵砲ヲ打チ掛ケ、鎗下ヲ心掛ルハ鐵砲ヲ附人ニ渡シ刀ニテ鎗下ヲ働ラキ、持物ナキ附人モ刀ニテ鎗下ヲ働ラケト前以テ命ジ置カレ、久田浦ト阿須南室小浦ニ賊船ノ來レル時ノ防ギノ爲メニハ、四箇所ノ濱ニ向キタル

家々ヲ取リ離シノ置床ニシ、入口ヲ後ロニ明ケ、外向ノ壁ノ下ニ矢狭間ヲ設ケ、床ノ下ノ地ヲ人ノ立チテ頭ノ地並ヨリ低キホドニ掘ラセ置キ、賊船ノ使シ來レル時ニ火矢大筒ヲ打ツ人數ハ、速ヤカニ右ノ家々ニ行キテ置床ヲ家ノ後ロニ除ケ、土ヲ掘リタル中ニ立チテ矢狭間ヨリ火矢大筒ヲ打チ掛ケト命ジ、浦中濱邊ノ左右ノ山ノ守兵ニハ鐵砲ヲ打チ掛ヨト命ジ置カレ、鄕村ニハ一鄕ニ一人ヅツ其ノ器ニ當レル人ヲ置カレ、遠見ノ事ト防禦ノ事ヲ下知セシメタマフニテアラン、肥前佐賀領ノ事或人ノ語レルハ、領中ニ急ヲ告グル相圖ニ竹筒ノ吹物ヲ用ヒ、長崎ニ賊船ノ來レル時ト、領中ニ火災アル時ト、領中ニ盜賊アル時トノ三事ヲ告グル吹樣アリテ、人每ニ吹覺ヘ聞覺ヘ居ケル由語レリ、是州ハ府中ヨリ手寄リノ村ニ至ルモ、村ヨリ村ニ至ルモ、山隔テ程遠キ處ノ多キナレバ、竹筒ノ吹物モ人家ヨリ人家ニ直グニ聞ユルハ稀ナルベキ故、吹物ノ聞ユル程ノ極ヲ知リ、靜謐ナラザル時ニハ吹物ノ聞ユル限リノ處々ニ小屋ヲ設ケ、老人一人少年一人ヅツノ番人ヲ置キ、吹物ノ相圖ノ早ク知レ渡ル樣ニ爲サシメ置カレ、海上ノ穩ヤカナル時節ニ賊船夜中ニ渡海シ、未明ニ浦口ニ乘リ來リ、磯近ク乘リ寄スルトモ、相圖ノ吹物ニテ守兵ノ早ク出立ツ樣ニ定メ置カレ、若シ賊兵多勢ニテ使シ來リ、豆酘鄕ノ南海ト、佐須鄕ノ西海ノ陸ニ近キ處ニ船ヲ繫ギ、陸ノ樣子ヲ見量ラヒテ、佐須鄕ノ西海ニ繫ギシ船ヲ外淺海ニ乘リ入レ、內淺海ニモ入リ來リ、內淺海外淺海ノ村々ヲ攻メ取リテ、府中ト上鄕ノ通路ヲ遮ギリ、上鄕ノ方ニモ府中ノ方ニモ、陸ヨリ攻メ寄セ、豆酘鄕ノ南海ニ繫ギシ船ノ人數ハ豆酘鄕ヲ攻メ取

リテ、陸ヨリ府中ニ攻メ寄セント謀ルコトモアラン、賊船ノ使シ來レル樣子ノ右ノ如クナル時ノ事ヲ前以テ郷村ニ下知シ置カレ、與良ト豆酘郷ト佐須郷ノ人數モ、與良淺海ヨリ北ノ西向ノ村々ノ人數モ相圖ノ吹物ヲ聞キ、面々ノ村ノ海邊ノ山々ヲ持チ堅メ、婦女老少ハ海邊ニテナキ村々ニ移リ、内淺海ノ村々ノ人數ト東淺海ノ三分一ノ人數ハ、貝鮒島山ノ瀬戸ト、畫浦ノ間ノ瀬戸ト、鋸割ノ瀬戸トノ山ヲ堅メシ人數ニ加ハリ、瀬戸口ニ近ヅキ内淺海ニ入ラントスル賊船ニ繁ク鐵砲ヲ打チ掛ケ、瀬戸口ニテ遮ギリ、仁位郷ヨリ北ノ東向ノ村々ハ相圖ノ吹物ヲ聞キ、村々ノ人數ノ三分一ヲ分ケ遣ハシテ、外淺海ノ北東ノ山々ヲ堅メシ人數ニ加勢シ、府中ノ六備ノ總人數三千人鐵砲千五百挺ノ中ヨリ、人數六百人鐵砲三百挺ヲ分ケテ、外淺海ノ南ノ山々ヲ堅メシ人數ニ加勢セシメラレ、人數四百人鐵砲二百挺ヲ分ケテ、豆酘郷ノ海邊ノ山々ヲ堅メシ人數ニ加勢セシメラレ、假令守兵ノ甚ハダ弱キ所アリテ、賊兵ヨリ海邊ノ山ノ峯ヲ攻メズ、其ノ廻リノ山ノ麓ノ處ト、其ノ廻リノ谷々ノ左右麓ヲ持チ堅メ、育チ居ケル大木ノ陰ニ據リテ鐵砲ヲ打チ掛ケ、賊兵ノ其ノ近傍働ラクヲ遮ギリ、溪水ヲ汲取ルヲモ遮ギレト前以テ命ジ置カレ、西國筋ノ靜謐ナラザルト知レタル時ニ、久田ノ濱ノ船屋ヲ南室島ノ内カ、小阿須ノ内ノ防禦ノ爲メニ宜シカルベキ處ニ移サレ、遠見岳ノ火藥ノ倉ヲ清水山ノ古城ノ二ノ丸ノ東向ノ所ニ移サレ、番所ヲ構ヘ番人ヲ定メ置カレ、當用ノ火藥鉛丸ハ鐵砲ヲ持ツ人數ニ預ケ置カレ、米藏ハ金石山ノ西北ノ谷口ト、成相山ノ谷口ノ兩所ニ移サレ、賊船ヨリ矢掛リノ所ニ大筒火矢ヲ打チ掛ル時

ニ仕者町人ノ婦女老少ヲシテ其ノ難ヲ避ケシメラル、爲メニ、前以テ仕者ノ家々ノ中ヲ金石ノ城壘ノ奥ニ移サシメラレ、町人ノ家々ノ中ヲ金石ノ南西ヨリ流レ出ヅル谷川ノ谷口ヨリ、的山ノ東面ノ麓マデ移サシメラレ、其ノ家々ノ主居住シケルナラバ、婦女老少ノ急難ヲ避クルニ便リアラン、賊船ノ侵シ來レル時ニ君上ハ金石山ト成相山ノ中間ノ高ミノ中ニテ、兩方ノ溪水ニ近ク清水山ノ古城ノ本丸ニ近キ處ニ陣城ヲ構ヘサセタマヒテ陣シタマヒ、使番ヲ以テ諸手ヘノ下知ヲ爲シタマヒ、目附ヲ以テ諸手ノ働ラキヲ聞キタマヒ、勇怯ノ賞罰ヲ行ヒタマヒ、元ヨリ諸士、足輕、町人、百姓ヘノ仁愛信義ヲ保チ得タマフニテアルベキユヘ、假令大敵ノ侵シ來ルトモ守兵ノ勝利ト成ラン、是州ハ何レノ所モ平地ノ横ノ狹クシテ、兩方ノ山々ヨリノ矢掛リナレバ、來寇ヲ禦グニ利アルベシ、其ノ中ノ大事ハ山畠、段畠ニ成ラヌ山々ニ木ノ能ク育ツニアルナリ（第四條輯略後語ノ中ヨリ抜キ錄ス）

此ノ一巻ハ親族ノ老人ノ著ハセル農書輯略ト輯略後語ノ節要ナリ、己酉三月老人ニ請ヘルハ、右二部ノ節要ノ文段ニ付紙シテ吾ニ與ヘハ、其ノ分ヲ鈔錄セント請フ、老人是ニ應ジ吾ガ請フ所ノ如クシケルユヘ、鈔錄シ終リテ書名ヲ請ヘルニ、食兵宗旨ト名ヅク、其ノ時老人ヨリ吾ニ語レルハ、府中流俗ノ人情ハ朝鮮トノ交易ニ浮利ノ多キヲ尊ブト云ヒ、郷村ノ農作ニ實利ノ少ナキヲ卑シンズルユヘ、凡ソ農政ノ出ヅルハ、其ノ當否ヲ辨マヘズシテ一偏ニコレヲ譏リ、他人ノ譏レル說ヲ聞キ出

シテ共ニ議ランコトヲ求ム、郷村流俗ノ人情ハ郷士百姓一同ニ木庭作ノ粗キニ馴レ、田作、畠作ヲモ精シクスルコトヲ厭ヘルユヘ、此度郡代ヨリ是州ノ稀レナル良農ノ云フ所ヲ聞キ立テラレ、他方ノ農事ノ說ヲ聞キ合サレ、農業全書ノ大旨ヲ考ヘ合サレ、木庭作停止ノ下知ヲ伊奈郷ニ發セラレシヲ郷士百姓一同ニ惡クミ、府中ノ罵リノ沙汰ヲ聞キ及ビテコレヲ喜コビ、府中流俗ノ人ハ郷士百姓ノ惡ムヲ聞キ及ビテコレヲ喜コベリ、右ノ如ク府中郷村ノ諸人ヨリ惡クミ譏レルハ、木庭作停止ノ下知ノ妨ゲト成ルコト輕ク、木庭停止ノ下知ヲ信スベキ人ノ中ニ信ゼズシテ譏レル人アリト沙汰スルハ妨ゲト成ルコト重ク、下知ノ止入レ養ナヒニ用ヒヌ田畠、山畠、段畠ノ作物ニ出來增シナクテ、木庭作セシ時ノ作得ノ分ノ減リタルヲ、木庭作停止ノ害ト云ヒ立ツル所ニアリト云ヒ、木庭作停止只今ノ如クナラバ、伊奈郷ノ百姓ノ身上只今ノ潰レノ上ヘノ大潰レニ成ラント云ヒ、稀レニ木庭作停止ノ旨ヲ信ジ居ケル百姓ノアルヲ、百姓總中ヨリ惡ムコト甚シキト沙汰セリ、最初木庭作停止ヲ八郷一同ニ命ゼラレザルハ、諸人ノ稱スル人ノ中ニ木庭作停止ハ宜シカルマジキト頻リニ論ヲ立ツル人アリテ、其ノ論ニ道理ナケレドモ、諸人ノ稱スル人ノ心ニ違ハレテハ障ハリアルベシトノ事ナル由聞キ及ベリ、伊奈郷ノ奉役木庭作止ノ下知ヲ爲シ、農作ノ下知ヲ爲セルヲ郷士百姓一同ニ譏リナガラ受ケ從ガヒ、畠、山畠、段畠ノ耕作ヲ精シクセサセ、一同ニ精シクセザルニテハナク、村ニ依リ百姓ニ依リ段々ノ次第アリテ、村々一同ニ農作ヲ爲シ來リヲ改タメタルコトモアル

ト聞フルナレバ、是レ草ニ風ヲ加フル時ハ必ズ偃スル道理ナリ、君上ヨリ郷村ノ全體ヲ任セタマヒシ郡代ナレバ、志ヲ勵マル、コト彌々堅ク、心ヲ用ヒラルル事彌々深ク、「治レ人不レ治反ニ其智一、行有レ不レ得者皆反求ニ諸己一」ノ訓ト、「好レ問則裕、自用則小、無ニ念ニ疲子頑一」ノ戒ヲ守ラル、ナラバ、妨タゲノ勢ヒ漸々ニ弱ク成リ、下知ノ勢ヒ漸々ニ強ク成ルベシト語レリ、今年六月伊奈郷鹿見村居住ノ奉役ノ語レルハ、是比伊奈郷與良郷ノ外ノ郷ニ木庭ヲ古法ノ如ク明ケテハ、今マデ明ケ來レル高ノ二三分ニ當タルユヘ、奉役内々ノ願ヒニ險阻木庭ハ古法ノ如ク明ケ、山畠、段畠ニナルベキ木庭ハ心ニ任セテ明ケヨト下知アリタキコトナリト願ヘル由シ聞キ及ベリ、若シ其ノ沙汰實說ニテ若シ其ノ如ク命ゼラレバ、土地ヲ害ナフニ成ラン、山畠、段畠ニ成ルベキ木庭ハ面々請持ノ木庭ノ中ニ多クアルモノニテナケレバ、毎年耕作スルニテアラン、毎年耕作スレバ土ノ子バリ無クナルモノナルユヘ、其ノ折節ニ大洪水アラバ、山ノ手ヨリ流レ落ツル水ニテ子バリナキ浮土ヲ悉ク突キ流シ、苦土底岩ノミニ成リ、其ノ作所ハ廢ルベシ、其ノ如クナル所ノ多キナラバ莫大ノ害ナラン、今マデハ山畠、段畠ニモ成ルベキ木庭モ、毎年耕作スルコトナケレバ、土ノ子バリ盡ツシテシマリアルユヘ、大洪水アリトモ上土ヲ洗ヒ流スマデナルベシ、十年以來ハ大洪水ト云フホドノ水ノ出デザレドモ、當年ノ中ニ大洪水アルベキモ量リ難シ、山畠、段畠ニ成ルベキ木庭ニ毎年耕作シケル後ノ大洪水ハ、以前ノ大洪水ニ違アラン、殊ニ山々ヲ伐リ荒シ水ヲ保ツホドノ木ノ少ナキコト昔ヨリモ甚ハ

ダシケレバ、大洪水ノ勢ヒ昔ヨリモ强カルベキユヘ、山々ニ掘リ浮カシ置キタル土沙ヲ一度ニ川ニ突キ出シ川中ヲ塞ギ、溢レ上ル水ニテ田畠ヲ多ク害ナヒ、其ノ時ハ川普請アリシ川筋モ、其ノ中ノ堅固ナル處ヲ破ラヌマデ、常ノ洪水ニ水ノ當ラヌト見ヘタル所ヲ破ルベシ、木庭作停止ノ下知ノ行ハレズシテハ、川普請モ遂ニ無益ノコトヽ成ラン、山畠、段畠ノ普請アリトモ面ヲ平ラカニスルコトナクシテ、片下リナル山畠、段畠ノ普請ニシタラバ、右ニ云フ所ノ莫大ノ害ナルベシ、穩ヤカナル木庭ニ緣ヲ付テ平ラカナル段畠ニスレバ、地面ノ減リテ大ヒナル損ナリト、農人一同ニ云ヒ立ツル由聞キ及ベリ、片下リナル所ニ緣ヲ付ケテ地面ヲ平ラカニシテ、作所ノ減ルハ知レタルコトナレドモ、其ノ地面ノ減リハ三分一マデノ減リニテナク、一度段畠ト成シタル後ハ重子テ地面ノ減リハ三分シ、片下リナル山畠、段畠ニ每年耕作セバ、中程ヨリ上ヘハ土薄ク成リ作物出來カ子、中程ヨリ下タモ漸々ニ地位アシク成ルベシ、此ノ旨ヲ辨マヘズシテ叶ハヌコトナリ、何事モ心ノ用ヒ樣ノ精粗ニテ利益ノ勝劣アリ、今年ノ春ハ雨ノ稀レニ降シニテ、諸ノ種子ヨリ出タル蔓ノ延カ子ケルユヘ、水ヲ灑ゲト村中ニ下知シ、下知ニ從ガフ者一人アリテ水ヲ灑ギ、其ノ者ノ諸ハ蔓ノ肥ヘテ延ブコト他ノ諸ニ倍シ、蔓ノ多キ事ハ他ノ諸ニ數倍セリ、諸穀菜ヲ作クルニ是ノ如ク心ヲ用ヒテ下知セバ、諸穀諸菜ノ出來增シ大分ナラント語レリ、是比親族ノ老人ノ云ヘルハ、木庭作ノ停止ナク、農行ノ行ハレズ、穀物ノ出來增シナクバ、儲蓄ノ下知モ何ニ由リテカ相續セン、木庭作ノ停止ニ決定

シテ其ノコトノ永ク行ハレバ、利益ノ興起スルコト莫大ナラン、先聖ノ「其人存則其政擧、其人亡則其政息」ト曰タマヘル旨ヲ郡代ノ深ク信ゼラレ、郡役ニ其ノ人ヲ得ラルヽナラバ、農政必ズ行ハルベシト云ヘリ

此奥書ノ外ニ食兵宗旨附錄アリ、後ニ奥書附錄ヲ一ツニシテ改メ定ムル事、右ノ如シ

食兵宗旨 終

訥庵文草

并同續集

訥庵文章目錄

忠功忠節辨　　幹利務財論
無信不立説　　實名通字辨
農政興起論　　知罪知量說

訥庵文章

忠功忠節辨

吾ガ先君ノ是州ヲ領シタマヒシヨリ以來ノ事ヲ考ガフルニ、君ノ家ノ危カリシハ、柳川調興ガ光雲院公ヲ大猷大君ノ執政ニ愬ヘシ時ナリ、柳川氏ガ惡心ハ調信ニ起リテ調興ニ成ル、光雲院公十二歳ニテ封ヲ襲ギタマヘルニ、平田左京光久最初ヨリ公ノ傅ト爲リ、誠心ヲ盡シテ勤仕セリ、調興ガ黨ノ光久

ヲ殺サントスル由州人ノ密ニ云フコトヲ、公ノ聞キ及ビタマヒシ後チニ、光久ガ私宅ニ行カントスルヲ涕泣シテ留メタマヒ、久シク公居ニノミ在リシト語リ傳フルナレバ、誠心ヲ盡シテ勤仕セシコトヲ知ルベシ、公ノ既ニ長ジタマヒ、調興ガ公ヲ執政ニ愬ヘシ初ヨリ、大猷大君ノ親カラ調興ガ愬フル所ヲ決斷シタマヘル後マデ、多年武城ニ在リテ公ノ爲メニ事ヲ勤ムル事ノ宜シカリシハ古川右馬智次ニテ公ノ知慮ヲ助ケ申セシ事ノ勝レルハ、智次ノ子ニ式部成春ナリト云ヒ、寛重ヲ以テ事ニ處シ、家中ノ人ノ殊ニ服セシハ、光久ノ子ノ將監成幸ナリト云フ、然レバ平田古川ヲ公ノ殊ニ重ンジタマヒ、今ニ至リテ定格トナルコト宜ベナルカナ、二氏ト同ジク杉村氏ヲ重ンジタマヘルハ、杉村ノ先祖世々是州ノ守護代ト爲リ、慶龍院公ノ時ニ、宗盛治ガ肥前ヨリ來リ侵シ府城ヲ襲ヒ取リシヲ、其ノ時ノ守護代宗兵部盛廉尅復ノ功ヲ成シ、盛廉ノ弟宮内盛貞先登シ、萬松院公ノ時ニ至リテ、守護代佐須兵部景滿ヲ殺シタマヘドモ、景滿ニ罪アリシニアラズ、柳川調信ガ自カラ權ヲ執ランコトヲ求ムル所ヨリ、景滿ヲ讒セシコト後ニ知レケルユヘ、盛貞ノ嫡孫杉村采女智廣ヲ平田古川ノ二氏ニ加ヘタマヒテ、老臣三氏ノ格ヲ立テタマヘルナラン、調興ガ未ダ敗レザル時ニ、奸惡ヲ爲スコト至ラザル所ナシ、州ノ連判吉川藏人某ノ心ニ調興ガ陰カニ異圖ヲ蓄フルコトヲ覺リ、數回コレヲ諫メ斥ゾケテ詞色ヲ假サズ、調興コレヲ害アリトシ、陰カニ其ノ黨ノ大浦權左衛門島川內匠等ト相ヒ謀リ、僞ワリテ本多上野介公ノ命ナリトシコレヲ公ニ搆フ、公コレヲ然リトシテ、先ヅ佐須鄉阿連村ニ竄ス、藏人阿連村ニ到リ後命

アリト聞キ、奸黨ノ爲メニ構殺セラルヽヲ憤ホリ、鐵炮ヲ挾サミテ待チ、來使ヲ殺シテ死セントス、使者ノ姓名ヲ詢ヘバ津江太兵衞ナリト云フ、藏人嘆ジテ太兵衞ハ公ニ忠アル士ナリ、吾レ一時奸黨ヲ憤ホルノ故ヲ以テ、公ニ忠アル士ヲ殺スベカラズト云ヒ、乃チ禮請シ命ヲ聞キテ死ス、後ニ公コレヲ覺リテ、コレガ爲メニ恨惜シタマヘリ、平田左京吉川右馬ハ其ノ時ノ忠功ノ臣ナリ、吉川藏人ハ其ノ時ノ忠節ノ臣ナリ、忠節ニ功ナシトスベカラズ、其ノ時ニ當リテ公ニ忠ヲ盡ス心ノ決定セヌ徒ガラ、藏人ノ忠節ヲ感ジテ自心ノ決定セザルヲ羞惡シ、忠義ニ進ミシモアリツラン、一人ニテモ其ノ事アラバ、是レ藏人ノ功ナリ、藏人ノ忠義アリテ大禍ニ遇ヘルヲ見テ、決定セヌ心ノ不忠ニ退キシモアリツラン、其ノ類ハ何レニシテモ義ニ就クコトハアルマジ、假令藏人ノ忠節ニ他人ヲシテ忠義ニ進マシムル功ナクトモ、其ノ忠ノ尊トキニハ、毫末モ損スル所アルマジキナリ

幹利務財論

慶安三年是州下縣郡佐須鄕ノ銀山ノ開ケショリ、連判役天野勘左衞門コレヲ支配シテ銀ヲ出スコト多シ、慶安四年勘定役佐護式右衞門朝鮮ニ到リ、季同知洪同知ト相ヒ議シ、公貿ノ綿布ノ內ヲ白米ニ換ヘテ是州ノ利ヲ增セリ、萬治元年ヨリ大浦權大夫錢穀ノ事ヲ支配シ、朝鮮トノ交易ノ利分往昔ニ勝レルコト多シ、然ルニ三人共ニ遂ニ誅戮セラレテ子孫斷絕セリ、大禍ハ忠臣義士ニモアルコトナレドモ、

三人ノ共ニ利ヲ幹スル才アリ財ヲ增ス功アリテ、同ク誅戮セラレシハ、國家ノ爲メヲ思フ人ノ眼ヲ着クベキ所ナリ、三人ノ中ニテ式右衞門ハ專バラ國家ヲ利シテ自己ヲ利セズ、儉約ヲ務メテ奢侈ヲ好マズ、後ニ裁判役ト爲リケルニ、朝鮮ニテ受クル所ノ米穀布帛ヲ少シモ取リ歸ラズ、譯官通事ノ中ノ貧ナル者ニ與ヘ、急アル者ヲ救ヒ、譯官通事ニ信ゼラレテ、國家ノ爲メニ利ヲ謀ル助ケトセシト云フ、是レ勘左衞門權大夫ニ異ナル所ナリ、然レドモ「生レ之者衆、食レ之者寡、爲レ之者疾、用レ之者舒」ノ大道ニ心ヲ用ヒズ、財ヲ務メテ害ヲ種ユル罪ハ、勘左衞門權大夫ニ異ナル所ナシ、是州ヲ平地ニシタル積リハ、縱十七里ホド橫二里半ホド、一里角ノ坪ニシテ四十二坪ホド、其中ニテ田畠ト成リ居ケル分ハ一坪半ホド、其ノ殘リ四十坪ホドノ中ニテ、山田、山畠、段畠ト成ルベキ分ハ四坪ホドナラント云フ、其ノ四坪ホドヲ年々ノ農隙ニ普請シテ、山田、山畠、段畠ト爲シ、其ノ殘リ三十六坪ホドニ利アル木ヲ育テ、元ヨリノ一坪半ホド普請シタル、四坪ホドノ作物ノ養ナヒニハ、生草若柴ヲ牛馬ニ蹈セテ腐タルト、枯草塵芥ヲ燒キタル灰ト、藻ト鰯トヲ用ヒ、耕作鋤芸ニ念ヲ入レシムル下知ノナキ所ヨリ、百姓一同ニ廣ク木庭作スルコトヲ好ミ、木庭作スルニテ農業ノ風俗ノ粗ク成リテ、出來ベキホドノ穀物ヲ作リ出サズ、山々ニ自然生ノ木ノ育ツコトモ少ナク、水旱ノ災ヲ增シ、田トナルベキ處モ田ト成ラズ、利ヲ幹スル才アル人ノ田畠山林ノ事ニハ心ヲ用ヒズシテ、末利ニ心ヲ用ユルハ歎クベク惜ムベキコトナリ

無信不立說

寶永三年是州ノ府中ニ、旅人吟味役ヲ立テタマヒシ後ニ、諸組ノ者ノ弟妹次男次女ヲ諸士ノ召使ニ出セト、旅人吟味方支配ノ老臣ヨリ諸組ノ頭役ヲ以テ命ゼラレシニ、諸組ノ者共ノ受カ子ケル故ハ、老臣最初ノ僉議ニ、諸組ノ者ノ弟妹次男次女以前ヨリ心次第諸士ノ召使ニ成レルニ、年ヲ切リ身代銀ヲ取レルモアリ、身代銀ヲ取ラズ、賴込ノ召使ニ成レルモアリ、然ルニ賴込ノ召使ニ出セトノミ命ゼラレテハ、難儀ニ思フ者モアルベキト僉議アリテ、身代銀ヲ取ルト、身代銀ヲ取ラザルトノ兩樣ヲ心次第ニセヨト命ゼラレケルニ、何者ノ云ヘルトモ知レズ、落著ハ身賣ニノミ出サシメラル、命ナリト云ヒ聞セシ故ナリ、其ノ後ニ又何者ノ云ヘルトモ知レズ、初ハ身賣ト命ゼラレタレドモ、受カヌルニ依リ賴込ト身賣トヲ心次第ニセヨト命ゼラレ、初ヨリ賴込身賣ヲ心次第ト命ゼラレタル樣ニ、書付ヲ書キ替ヘラレタルト云ヒ聞セシニ依リ、諸組ノ者ヨリ命ヲ受クル口上書ヲ頭役中ニ出スニ、身賣トアリシヲ替ヘラレ、賴込ト命ゼラレシトノ意ニテ、結構ニ仰付ラレ辱キト書キ、諸士町人マデノ沙汰ニ、老臣ヨリ諸組ノ頭役ニ渡サレシ書付ヲ竊カニ書キ替ヘラレシト云ヒ觸セリ、初ノ云ヒ渡シニ誤マリアラバ、後ニ其ノ誤マリヲ改メラレ、初ノ通リニテハ障ワル所アルユヘ、重子テ吟味ノ上ヘニテ是ノ如ク改メラレタルト云ヒ渡サル、コソ當然ナルベケレ、初ノ書付ヲ竊カニ書キ替ヘラル、ハ、君上ヨリ州中

ノ人ヲ治メシメタマウ老臣ノ爲サルベキコトニアラズ、然レバ初ノ書付ヲ竊カニ書キ替ヘラレシト云ヒ觸シタルヲ、聞キ捨テニシ置カルベキ樣ナシ、因テ老臣ヨリ諸組ノ頭役ト、旅人吟味役中ニ命ゼラル丶覺書ニ、諸組ノ者ノ結構ニ仰付ラレ等キト申出タルハ、心得違ナル由書述フレ、諸組ノ頭役ヨリ組中ニ云ヒ渡シ、旅人吟味役ヨリ町乙名中ニ、右ノ覺書ノ寫ヲ町人中ニ讀ミ聞セヨト云ヒ渡セリ、諸組ニ其ノ事ヲ聞キ、我等ガ心得違ヲ町人マデ知ラセラレ面目ナキト云ヒテ憤ホリ、頭役ニ異議ヲ申シ出デ、頭役種々ニ諭シテモ得心セズ、弟妹次男次女ヲ諸士ノ召使ニ出スコトヲ許サル丶トアリテ事濟ミケリ、右ノ一件ヲ批判スル說ニ、旅人吟味方支配ノ老臣ノ心ノ狹隘ナルニテ、末々ノ者ノ何箇ト云ヒ觸スヲ聞捨ニシ得ラレズ、其ノ誤マリヨリ旅人吟味方ノ下知ノ勢ヒ甚ハダ弱ク成レルト云ヘリ、竊カニ命ヲ替ヘラレタルト云ヒ觸スハ、虛說ナルコトヲ町人ニ示サレ、諸士百姓モ聞及ブ樣ニ爲サレズバ、虛說ヲ實說ト心得ベキユヘ、諸士町人百姓ニ不信ヲ敎ヘラレタルニ成フン、州中ノ人ニ不信ヲ敎ヘラル丶ニ成ラバ、假令旅人吟味方ノ法ノ當分ハ立居ケル樣ニ見ユルトモ不信ヲ以テ立ラレシ法ノ相續スベキ樣ナク、其ノ外ノ法令ニモ害アラン、右ノ事ニテ旅人吟味方ノ下知ノ勢ヒ甚ハダ弱ク成リタルトモ、主意ヲ用ヒラル丶道筋ヲ何レノ方ニテナリトモ立テラルベシ、此ノ事ノ論ニ「人不レ知而不レ慍」ト
アル聖語ヲ引キ、老臣ノ竊カニ命ヲ替ヘラレシコトナクバ、夫々ノ者ノ竊カニ命ヲ替ヘラレタルト云ヒ觸ストモ、慍ラルベキコトニアラズト云フモアリ、老臣ノ自分ノ言行ニ惡事ノ虛說ヲ受ラレタルト

テ、諸人ニ對シテ辨ゼラルベキ道理ナシ、國家ノ政道ニ害アルコトヲ云ヒ觸ス虚說ヲ其ノマヽニシ置カレ、諸人ノ實說ト思ヘルナラバ、老臣ノ職分ヲ失ソルヽコトノ甚シキニ成ラン、用ユマジキ所ニ用ユレバ、聖語モ害ニナルコト昔ヨリアルト見ヘタリ、其ノ比武城ヨリ歸レル人ノ語レルハ、公義ノ執政ヨリ武藏八王子ノ千人組ニ、其ノ組ノ頭役ヲ以テ命ジタマウコトノアリケルニ、千人組一同ニ異議ヲ申シテ命ヲ受ケズ、遂ニハ執政ヨリ頭役ヘノ命令ニ、此度千人組ニ仰付ラルヽコトヲ組中難儀ニ思ヘルナラバ、難儀セヌ樣ニ云渡サレヨト命ゼラレテ事濟ミタルト語レリ、帝舜ノ禹ヲシテ有苗ヲ征セシメタマヘルニ、三十日ヲ經ルマデ武威ニ服セズ、師ヲ班シ文德ヲ敷キタマフニ成リテ來服セリ、魯ノ三家ノ都城ヲ隳タルベキコトヲ孔子ノ定公ニ申シタマヒ、三家モ同意シ、季孫氏ノ費ノ城ト、叔孫氏ノ郈ノ城トハ隳タケレドモ、孟孫氏ノ成ノ城ハ、家臣公斂處父ガ持堅メケルニテ隳チ得ラレズ、人情時勢ハ聖人モ知リ盡シ得タマワザル所アルコトヲ考ガフベシ、孔子ノ子貢ニ政道ヲ敎ヘタマフニ、「足レ食足レ兵、民信レ之矣」ト曰タマヒ、已ムコトヲ得ズシテ三ツノ中一ツヲ去テハ兵ヲ去テン、已ムコトヲ得ズシテ二ツノ中ノ一ツヲ去テハ食ヲ去テント曰タマヒ、結語ニ「自レ古皆有レ死、民無レ信不レ立」ト曰タマヘリ、信ハ政道ノ大本ナルコトヲ知ルベシ、「好レ信不レ好レ學、其蔽也賊」ト曰タマフハ、信ヲ用ユル流弊ヲ正シタマヘルナリ、孟子ノ「大人者言不レ必レ信」ト曰タマフハ、是非ヲ擇バズシテ信ヲ必トスルヲ戒シメタマフナリ、「無レ信不レ立」ノ信ヲ說キタマフニアラズ

實名通字辨

諱ニ通字ヲ用ユルコト中國ニハナケレドモ、本朝ニハアリ、本朝ノ天子第六十九代マデハ、御諱ニ通字ヲ用ヒタマワズ、第七十代ヨリ第九十五代マデノ中ニテ、二十一代ハ通字ヲ用ヒタマヒ、四代ハ通字ヲ用ヒタマワズ、第九十六代ヨリ通字ヲ用ヒ續ケタマヒ、最初ヨリ仁ノ字ヲ御諱ノ下ノ字ニ用ヒタマヘリ、諸家ノ諱ハ通字ヲ用ヒラル丶モアリ、通字ヲ用ヒラレザルモアリ、通字ヲ諱ノ上ノ字ニ用ヒラル丶モアリ、通字ヲ諱ノ下ノ字ニ用ヒラル丶モアリ、或ハ上ノ字ニ用ヒ、或ハ下ノ字ニ用ヒラル丶モアリ、東照神君ノ先公ハ廣忠君ト申シ、廣忠君ノ先公ハ淸康君ト申シケルニ、廣忠君モ神君モ先公ノ諱ノ字ヲ通字ニ用ヒ給ワズ、台德大君モ神君ノ諱ノ字ヲ通字ニ用ヒタマワズ、大猷大君嚴有大君ハ神君ノ諱ノ字ヲ用ヒタマヘドモ、通字ト申スベキコトニアラズ、是レニ由リテ常憲大君繼統ノ後ニ、以前嚴有大君ノ諱ノ下ノ字ヲ受ケタマヒテ、諱ノ上ノ字ニ用ヒタマヘルヲ改メタマワズ、當大君繼統ノ後ニ、以前常憲大君ノ諱ノ下ノ字ヲ受ケタマヒテ、諱ノ上ノ字ニ用ヒタマヘルヲ改メタマワズ、若シ神君ヨリ諱ニ通字ヲ用給ヘルナラバ、常憲大君モ當大君モ繼統ノ後ニハ、其通字ヲ用ヒ給フコトニテアラン、然レバ文昭大君繼統ノ後ニ、以前常憲大君ヨリ受ケ給ヒシ諱ノ下ノ字ヲ、諱ノ上ノ字ニ用ヒタマヘルヲ改メタマヒ、神君大猷大君嚴有大君ノ諱ノ上ノ字ヲ用ヒタマヘルトテ、通字ヲ用ヒタマフト申

スベキコトニアラズ、吾ガ先君ハ長壽院公ノ前ニ通字ヲ用ヒタマヘルコトナシ、長壽院公萬松院公ノ諱ノ上ノ字ニ、義ノ字ヲ用ヒタマヒシヨリ以來通字ト成レリ。長壽院公ハ德義ノ勝リタマヘル君ナリト今ニ至ルマデ申シ傳ヘ、萬松院公ハ吾ガ君ノ侍從ニ任ジ、從四位下ニ敍シタマヘル始マリニテ、肥前ノ基肄養父ノ地ヲ兼子領シタマフモ萬松院公ニ始マリ、龍源院公ハ長壽院公ノ四世ノ祖ニテ、吾ガ君ノ家ノ屋形號アルハ、龍源院公ニ始マリ、龍源院公ノ諱ヲ義盛君ト申シケルナレバ、義ノ字ヲ通字ニ用ヒタマヘルコト重々ノ道理アリ。今ノ公襲封ノ初ニ、先君以來ノ通字ヲ用ヒタマワザルハ、大衍院公捐館ノ前ニ、公儀ニ願上置タマヘル旨アリテ、岩丸君生長シタマフマデノ代任ナリト思召ル丶所ヨリ、先君以來ノ通字ヲ用ヒタマワザルト聞コヘ、岩丸君早世シタマフ年ノ翌々年ニ至リテ、先君以來ノ通字ヲ用ヒタマフベキト思召サル丶由家中ニ承ワリ及ビ、主君ノ爲メニ其ノ事ノ當否ヲ思慮シケルニヤ様々ノ說アリ、因テ恐レナガラ按ズルニ、今ノ公此度先君以來ノ諱ノ通字ヲ用ヒタマワンコトヲ公儀ニ願上タマワバ、若シ執政ノ思召ニ、先年今ノ公ニ家督仰付ラレシコト、先公ノ實子ノ幼少ニオワシマスニ依リ、當分家督仰付ラル丶トノ事ナラバ、先君以來ノ通字ヲ用ヒ難キト今ノ公ノ思召ルベケレドモ、先公ノ願上ノ通リニ今ノ公ヲ養子ニ仰付ラレ、遺跡相違ナク下サル丶トアリテ早速任官仰付ラレ、對馬守ト稱シタマヒ、常ノ家督ノ仰付ラレニ替ルコトナシ、先公ノ願上ノ旨モアルコトナレバ、以後ニ至リテ今ノ公ヨリ其ノ旨ヲ願上タマワバ、如何様ニモ仰付ラルベケレドモ、其レハ其ノ時ノ

事ニテ、元ヨリ上ノ思召次第也、然ルニ今ノ公當分ノ家督ト思召シ、先君以來ノ通字ヲ用ヒ給ワズ、只今ニ至リテ通字ヲ用ヒタマヒ度ト願上タマフハ、如何ナル故ナランカト思召レ、其ノ事ヲ尋子タマフコトモアラバ、其時ニ答ヘ申上タマフベキハ、先公在世ノ時ニ岩丸君ヲ嫡子ニ定メタマヒ、病氣差重リタマヘルニ至リテ、公儀ヘ願上タマヒシ旨モアリケルユヘ、今公ヲ當分ノ家督ト仰付ラレザルトテモ、岩丸君成長シタマワバ、家督ヲ岩丸君ニ仰付ラルヽコトヲ願上タマフベシ。其ノ如ク思召レテハ先君以來ノ通字ヲ用ヒタマフベキコトニアラズ、今ノ公ノ不幸ニテ岩丸君早世シタマフユヘ、先君以來ノ通字ヲ用ヒタマワンコトヲ、只今願上タマフ由申シ上タマフニヤアラン、當分ノ家督仰付ラレザルトテ、老年ニ及ビタマフマデ表向ヲ勤メタマワント思召レ、初ヨリ先君以來ノ通字ヲ用ヒタマフ道理ハアルマジキカ、先君ニ諱ノ通字ヲ用ヒ給ワズバ、岩丸君早世シタマヘル後ニモ、大行院公ヨリ受ケタマヒシ諱ノ一字ヲ改メタマフベキ様ナシ、先君ニ諱ノ通字ヲ用ヒタマヒシナレバ、岩丸君早世シタマヘル後マデ、先君以來ノ通字ヲ用ヒタマワザルベキ様ナシ、初ハ岩丸君成長シタマフマデノ代任ト思シ召サルヽナレバ、先君以來ノ通字ヲ憚カリタマフニ道理アリト見ヘタレドモ、岩丸君早世シタマヒテ年ヲ經シ後マデ、先君以來ノ通字ヲ用ヒタマワズバ、通字ヲ道理モナクテ捨テタマヒタルニ成ルベキカ

農政興起論

前ノ郡代ノ昔年八郷ニ猪逐詰ヲ命ゼラレ、其ノ事ノ成リシハ農政興起ノ基ヲ設ケラレタルナリ、今ノ郡代ノ伊奈郷ニ木庭作停止ノ事ヲ命ゼラレ、佐護郷ニ畠ノ中ヲ田ト爲ス事ヲ命ゼラレ、伊奈郷、仁位郷、與良郷、豆酘郷ニ山畠、段畠ノ普請ノ事ヲ命ゼラレシハ、農政興起ノ端ヲ開カレタルナリ、猪逐詰ナクバ農政ノ大益ノ見ユルコトアルマジ、農政ナクバ猪逐詰ノ大益ノ見ユル事アルマジ、然ルニ流俗ノ人ノ説ニ、以前猪逐詰ナクバ、今ノ農政ナクテモ何ノ害カアラン、今ノ農政ハ以前ノ猪逐詰ノ過マチヲ補ナワルヽ迄ノ下知ト見ユレドモ、其ノ補ナヒハ成リ難カラント云ヒ、是州ノ農人ノ身上ハ木庭作ノ利ニテ立チ居ケルニ、木庭作セズバ身上ノ潰レトナラン、農作ヲ他ノ州郡ノ樣ニ爲シ來ラヌ農人ナレバ、木庭作ヲ止メタルトモ、農作ノ爲シ來リヲ何ニトシテ改タムベキヤト云ヒ、右ノ類ノ惑ヒノ説ヲ辨ズル人有テモ曾テ聞入レズ、最初ヨリ譏レル意地ヲ遂ゲ度トノミ思ヘル樣子ナル由沙汰セリ、昔年ノ猪逐詰ヲ流俗ノ人ノ譏レルハ、此度ノ農政ヲ譏レルヨリモ甚シカリケレ共、郡代ノ心ノ決定シ、郡奉行所ノ役人三人ノ心ノ一致シテ、八郷奉役ノ中ニ猪逐詰ヲ深ク信ジ、堅ク下知スル人三人ヨリ力ヲ合セシニテ事成レリ、此度ノ農政ヲ深ク信ジ堅ク下知スル人ハ、奉役ノ中ニ數人也ト云ヒ、郡代ノ心ハ元ヨリ固キト聞ユルナレバ、郡奉行所ノ役人ノ心サヘ一致セバ、農政ノ行ワレザルコト有マジ

知レ罪知レ量說

知レ罪ハ自己ノ罪戾ヲ知ルナリ、知レ量ハ自己ノ分量ヲ知ルナリ、吾等ハ自己ノ分量ヲ知ル者ニアラズ、自己ノ罪戾ヲ知ル者ナリ、自己ノ罪戾ヲ知ルモ、知リ盡シタルニテハ決シテアルマジ、自カラ罪戾ト知ラザル所ニ、如何ホドモ罪戾アルベシ、然レドモ知リ得タル罪戾ノ多キナレバ、未ダ曾テ罪戾ヲ知ラザルニアラズ、吾レ聖賢ノ書ヲ讀ミケルニ、聖賢ノ懲シタマヘル惡ヲ改メ得ズ、聖賢ノ勸メタマヘル善ニ遷リ得ズ、然レドモ聖敎ノ恩ヲ蒙ムリタルト思フ所ハ、自己ノ罪戾ヲ知レル所ノミナリ、吾レ若シ自己ノ罪戾ヲ知ラズバ、罪戾ノ多キ事只今ノ多キヨリモ甚シカラン、只今マデノ罪戾ノ中ニテ、自己ノ分量ヲ知ラザルヨリ出デタル罪戾ノ殊ニ多キトコソ覺ユレ、先年以來是州ノ爲メニ農政農事ノ書ヲ著ワセシコト十餘部ナルヲ以テ、自己ノ分量ヲ知ラザル驕慢ナリトノ譏リヲ受ケ居ケレドモ、此ノ一事ハ其ノ譏リニ服セズ、是州ニテ才智アリト稱スル人ノ、農政農事ノ書ヲ著ワセシコトヲ聞カザルニ依リ、不才不智ノ吾等農政農事ノ書ヲ著ワシケルナリ、其ノ書ニ述ル所ハ、鄕村ニテ俊秀ナル人ノ云フ所ヲ或ヒハ直チニ聞キ、或ヒハ傳ヘ聞キテ書キ述ベ、間々ニ自己ノ所見ヲモ述タレドモ、俊秀ノ人ノ說ヲ聞ケルヨリ出デタル所見ナレバ、是又自己ノ所見ニアラズ、俊秀ノ人ノ證ヲ聞得タルト思ヒテ書キ述ルニ、聞ク事詳ラカナラズ、辨ヘラルル所事精シカラズシテ、意旨ノ違ヘル所モアルベケ

レドモ一々ニ違ヘルニテハアルマジ、農政ヲ信ズル郡奉行ノ其ノ書ヲ見ルハ、重子テ郷村ノ俊秀ノ人ニ聞キ合セ、取ルベキヲ取リ、捨ツベキヲ捨ツルニテアラン、聖賢ノ農政ヲ重ンジタマフコトハ經傳ニ見ヘ、吾レ是州ニ生レテ是州ノ爲メニ農政ノ興起ヲ願ヒ、萬一ノ補ナヒニモナランカト思フ所ヨリ、十餘部ノ農書ヲ著ハセシハ、下愚不肖ナル吾身ノ中ニテ自カラ許セル好事ナリ、其ノ他ノ事ハ悉皆常人ニ劣レリ、其ノ他ノ事ノ悉皆常人ニ劣ラバ、農書ヲ著ワス事モ憚カルコソ相應ナラント思フ人モアルベシ、其ノ如ク思フ人アラバ、其ノ人ノ心得違ナラン、百事ノ中ニテ九十九事マデ好カラヌナラバ、好キ事ヲ一事モ爲サズ、百事ヲシテ總テ相應セシメヨト云フ道理ハアルマジキコトナリ、聖賢ハ好キ人ノ希レニ爲ス好カラヌ事ヲモ害ナシトシタマワズ、好カラヌ人ノ希レニ爲ス好キ事ヲモ益ナシトシタマワズ、考ガヘ思フベキ所ナリ(戊申九月廿八日成編)

訥庵文草 終

訥庵文草續集目錄

木庭停止論
地方普請說

納庵文草續集

木庭停止論

郡代ヨリ伊奈郷ニ下知アリシ木庭停止ノ事ヲ、郷士モ百姓モ府中ノ人モ信ゼヌハ甚ハダ多ク、信ズルハ甚ハダ希レナリ、信ゼヌ人ノ曰ク、郷村ノ人ノ上府シテ語レルヲ聞クニ、木庭作停止ヲ若シ八郷ニ命ゼラルヽニ成ラバ、中分以下ノ百姓一同ニ潰ルヽニテアラン、只今マデ作リ來レル畠バカリサヘ、養ナヒノ足ラザル村ノ多キニ、山畠、段畠ヲ加ヘタラバ、養ナヒ甚ハダ足ルマジ、畠作木庭作ニテ得來レルホドノ作得ヲ、畠、山畠、段畠バカリニテ何ントシテ得ルベキヤト語ル、是レ誠ニ此ノ如クアルベキコトナリ、信ズル人ノ云ク、農人ノ三月四月ニ栗木庭ヲ伐明ケ掘明ケ蒔付ルコトヲ止メタル手間

ノ延ニテ畠、山畠、段畠ノ麥ノ草ヲ拔キ土ヲ寄セ、四月五月ニ木庭ノ廣キニ薄ク出來居ケル麥ヲ取納メ、麥跡ヲ耕ヤシ、大豆ヲ蒔付ルコトヲ止メタル手間ノ延ニテ畠、山畠、段畠ノ麥ヲ早ク取終リ、麥跡ノ秋物ヲ早ク蒔付、六月七月ニ蕎麥木庭ヲ伐明ケ掘リ明ケ蒔付ルコトヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ秋物ノ手入レ養ナヒヲ致シ、八月九月ニ麥木庭ヲ伐明ケ掘明ケ蒔付ルコトヲ止メタル手間ノ延ニテモ、畠、山畠、段畠ノ秋物ノ手入レ養ナヒヲ致シ、十月霜月ニ木庭ノ廣キニ薄ク出來居ケル秋物ヲ取納メ、秋物跡ヲ耕ヤシ、麥ヲ蒔付ルコトヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ秋物ヲ早ク取終リ、秋物跡ノ麥ヲ早ク蒔付ケ、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ノ中ヨリ、木柴草茅ヲ多ク刈取リ運寄セ、牛馬ヲ野飼ニセズシテ、木庭草茅ヲ多ク踏マセ、塵芥枯草ヲ取聚メテ燒置キ、右ノ兩種ノ養ナヒニテ作物ヲ肥ヤシ、旱ニテ土ノ乾キタル時ハ作リ水ニテ養ナヒ、作リ水ノ足ラザルハ、手寄リノ川水溪水ヲ汲運ビテ養ナヒタラバ、畠、山畠、段畠ノ作物ノ出來増シノ分數、以前ノ木庭作ノ作得ニ劣ラズ、年々ニ能ク爲シ覺ヘタラバ、出來増シ彌以テ多カラン、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ作物ノ蒔付ケ植付ケ早ク成ラバ、出來モ早ク成リ、出來ノ早キニテ跡作ノ蒔付ケ植付モ早ク成リ、田ニ苗ヲ植付ル手廻シモ早ク成リ、麥ノ取納ノ早ク成リテハ、梅雨ニ麥ヲ腐ラス事モナク、木庭作ノ止ミ、山々ニ木ノ育チタル處ノ多ク成リテハ、大雨ノ時ニ土沙ノ流レ下ルコト少ナク、木ノ葉ニ雨水ヲ含ムコトノ多ク成リテハ、遽水ノ出ヅルコト少ナク、山々ノ草葉落葉ニ雨水ヲ含ムコト

多ク成リテハ、雨後ノ旱ニ水ノ涸ル丶コト晩ク、山氣ノ厚ク成リテハ、夕立ノ雨ノ降ルコト山氣ノ薄キ時ニ勝サリ、土沙ノ流レ下リノ少ナキニテ、川床漸々ニ深ク成リ、川筋修理普請ノ手間入リ段々ニ減リ、山々ニ木ノ多ク育チテハ、薪材、木板、屋板ノ用ヲ足シ易ク、山々ニ利アル木ヲ植立チ自然生ヲ育ツル中ニハ、其實ヲ食用ニ當ツルモアリテ穀物ヲ喰ヒ延シ、以前溪水ノ涸レ易カリシ處モ水氣ノ增シケルニテ、井手溝ヲ掘リテ水ヲ引キ、堤ヲ築キテ水ヲ蓄ワヘ、畠、山畠ノ內ノ田ト成ルベキ處ハ段々ト田ト成リ、木庭作ノ止ミタル利益ハ輕カラザル事ナルベシ、下鄕ノ奉役ノ云ヘルハ、農作ニ手入レヲ精シクスレバ、養ナヒノ足ラヌ作所ニテモ、養ナヒノ足リテ手入レノ粗キ作所ヨリハ、作得ノ多キコト分明ニ知レ居ケレドモ、其ノ考ガヘアル作人ハ希レナリ、手入レノ精シキハ即チ養ナヒナリ、養ナヒニ用ユル物ハ、手入レノ養ナヒノ助ケナリト云ヒ、上鄕ノ村ノ肝煎ノ云ヘルハ、吾等ガ村ハ藻ヲ取リ鰯ヲ取ルコトノ不自由ナルユヘ、手入レヲ精シクスルナリ、手入レヲ精シクスレバ、輕キ養ナヒヲ用ヒテモ作得ハ多シ、吾等ガ村ハ面々請持ノ作所ノ少キユヘ、手入レヲ精シクスルコト成リ易シ、養ナヒヲ用ユルニ濃キ養ナヒヲ一度モチユルハ、水ヲ多ク交ヘ薄ク成シテ數度モチユル益ニ及バズ、作物ノ養ナヒノキク時アリ、キカヌ時アリト見ヘタレドモ、其ノ考ガヘハ成リ難シ、薄キ養ナヒヲ數度モチユレバ、數度ノ中ニテ養ナヒノキク時ニ用ヒ合ワスルユヘ利益アリト云ヘリ、右ノ類ノ事ヲ郡代ヨリ鄕々ノ奉役村下知人ニ郡役ヲ以テ精シク示サレ、郡役一同ニ木庭作停止ノ旨ヲ得心シテ、

夫役村下知人ヲ眞實ニ諭シ、夫役村下知人ヨリ村々ノ上百姓ニ精シク教ヘ、上百姓自分ノ耕作ヲ其ノ敎ヘノ如クニシテ、並百姓下百姓ヲ引廻ス樣ニ下知スルナラバ、農政ノ行ナワレザルコトハアルマジ、信ゼヌ人ノ云ク、伊奈鄕ノ鄕士ノ上府シテ語レルヲ聞クニ、此方ノ鄕ハ木庭作停止ニテ百姓一同ニ潰レタリ、百姓ヨリ難儀ヲ云立ントシテモ夫役村下知人取揚ゲズ、鄕士マデ難儀ニ及ブト語ル、郡代ハ如何ナル事ニテ此ノ下知ヲ止メラレザルヤ、此ノ上ニモ下知ヲ止メラレズバ、伊奈鄕ノ百姓大潰レニ成ルベシ、信ズル人ノ云ク、伊奈鄕ノ夫役村下知人ノ心ニ、木庭作停止ヲ良法ナリト思ヒ入レル事段々ト深ク成リケルユヘ、去年戊申ノ冬ニ至リテハ、百姓ノ心モ其ノ以前トハ替リ、難儀ナガラ畠、山畠、段畠ノ耕作ニ念ヲ入レズシテハ、叶フマジキト思ヘル樣子ニ見ヘ、其ノ中ニハ瀨田村個所村ハ最初ヨリ殊ニ木庭作停止ヲ嫌ヘルユヘ、去年ノ冬ニ至リテ木庭作ノ許シヲ受ケ度ト願出デ、夫役ノ返答ニ木庭作ヲ古法ノ如クスベシ、年貢ハ穗見ニテ定法ノ如ク上納セシムベシト返答シケレバ、二箇村ノ百姓迷惑シ、然ラバ鄕中惣體ノ村々ト同ジク下知ヲ受ケ度ト重テ願出デケレドモ、初ノ願出ノ通リニ云渡シ置キテ、程モナク後ニ願出タル通リニハ云付ケ難キトテ、返答ヲ差延置キケルト聞ク、此ノ一事ニテモ伊奈鄕ノ下知ノ勢ヲ考ガヘ思フベキコトナリ、損ヲ嫌ヒ得ヲ好ムハ人情ノ常ナルニ、夫役ノ下知ノ堅キコトヲ知リナガラ、數年ノ後マデモ木庭作ヲ止メタル手間ノ延ヲ、畠、山畠、段畠ノ耕作手入レ養ナヒニ用ヒズ、畠、山畠、段畠ニ出來增シアラバ、木庭作停止ニ決定スベキトテ、永ク損ヲ招クハ

アルベキコトニアラズ、仁田ノ兩村ノ事ハ奉役ノ心ニ前廣ニ思慮シケルユヘカ、二箇村ノ木庭ヲ古法ノ如ク明ケシムル次第ヲ檢分シ置キケルト云フ、其ノ如クセシユヘニ、木庭作ヲ古法ノ如クセヨトノ云渡シヲ、二箇村ノ百姓ノ心ニ當分上邊ノ云付ト思ワズ、木庭作停止ノ下知ヲ、鄕中ノ村々ノ通リニ受ケ度キト重ネテ願ヒ出タルナラン、木庭ヲ古法ノ如ク明ケシムル下知ハ、伊奈鄕奉役ノ仁田ノ兩村バカリニ下知スルモ、年々ニ遂ゲテ爲シ得ベキコトニアラズ、佐護鄕ノ奉役モ鄕中八箇村ノ木庭作ヲ段々ト狹ク爲サシメントテ、先ヅ鄕中ニ木庭作ヲ古法ノ如クセヨト下知シ、八箇村ノ百姓迷惑ナルト云ヘル由聞キ及ベリ、是レモ思慮アリテ云渡セシコトナルベシ、佐護鄕惠古村居住ノ奉役ハ才氣アル人ナリ、丁未閏正月郡代ヨリ佐護鄕ノ畠方ノ田ニ成ルベキ所ヲ、田ト爲サシムルコトヲ命ゼラレシニ、此ノ人ノ勉メ勵ムコトノ切實ナルニテ、事ヲ成シ得ベキ勢ヒ見ヘ來レルト云フ、此人モ木庭作停止ニ成ラズシテハ、農政ノ行ナワルマジキコトヲ勘辨シ、先ヅ木庭作ヲ古法ノ如クセヨト下知シケルナラン、信ゼヌ人ノ云ク、木庭作停止ノ下知ノ宜シカラヌコトハ伊奈鄕ノ樣子ニテ知レタリ、丁未ノ夏秋ノ大旱ニテ秋物ノ甚ハダ損毛シタルト、百姓ノ山海ヨリ取出シテ賣拂フ諸品モ、畠木庭ニ作リテ賣出ス大豆辛子等モ、直段ノ甚ハダ下直ニ成リタルト、公役銀ノ差引ニ當ツル上納ノ諸品ハ少ナク、現銀上納ハ多キト、公役銀皆濟ノ時ニ翌年ノ出來物ニ當テ、町人ヨリ銀ヲ借ルコト以前ノ樣ニハ成ラザルトノ故ニテ、丁未ノ年ノ公役銀ノ皆濟延引シタレドモ戊申十二月ニハ皆濟シ、皆濟ノ成ラズシテ未

收手形ヲ郡奉行所ニ出シタルハ、三根郷志多賀村ノ未收手形三百目、伊奈郷仁田組ノ樫瀧飼所兩村ノ未收手形六百五十目ノミナリト聞ク、志多賀村ハ昔年ヨリ知レ渡リタル困窮村ナレバ、左樣ニモアルベシ、樫瀧村飼所村ハ知レ渡リタル困窮村ニテハナキニ、其ノ如クナルハ木庭作停止ノ故ナリ、信ズル人ノ云ク、仁田三箇村ハ山ノ働ラキヲ第一ニ爲シ來レル村ナルニ、木ヲ伐ル働ラキ處ノ年々ニ遠ク成リ、働ラキノ利分年々ニ減ジケルニテ、丁未ノ年ノ公役銀ヲ、戊申ノ年ニ皆濟シ得ザルト聞ク、元祿年中丙子丁丑兩年ノ大損毛ニテ、飢飯米ヲ拜受シ、種子物并飯米ヲ拜借シタルハ大分ノ事ナルニ、其ノ上ヘニ丁丑ノ年ノ公役銀皆濟ノ算用ヲ、郡奉行所ヨリ勘定所ヘ出ス事戊寅ノ年ニハ出シ得ズ、己卯閏九月ニ出シ。戊寅ノ年ノ算用ヲ庚申十二月ニ出シ、數年ノ間ダ其ノ通リニテ、寶永二年丁酉ヨリ前年ノ算用ヲ翌年差出スニ成レリ、是ノ如キ次第ヲモ考ガヘ思フベキコトナリ、若シ仁田三箇村ノ百姓ノ耕作ヲ大抵ニ爲シ覺ユル間ダ、一兩年モ公役銀ヲ皆濟シ得マジキ樣子ナラバ、佐護郷ノ佐護六箇村、佐須奈村久須村ノ百姓身上ノ盛衰ヲ、毎年正月奉役村下知人肝煎頭百姓僉議ノ上ヘニテ改タメ、本役ト合役トヲ定ムル格ヲ用ユルニナラン、村々ニ受居ケル公役銀割付ノ銀高ヲ、村ノ盛衰ニ依リテ改ムルハ障ワリアルコト見ヘタリ、信ゼヌ人ノ云ク、與良郷ノ百姓ハ段畠ヲ拵ラヘテモ、苦土ノ交レルニテ作物出來カ子、間々ニ崩レタル段畠モアリテ、無益ノ手間入リニ成レルト聞ク、何レニモ木庭作ヲ止メ、山畠、段畠ニ耕作セヨトノコトハ行ワルマジキコトナリ、信ズル人ノ云フ、伊奈郷ノ段畠

ハ長雨ノ降リテモ崩ルヽ所ナク、年々ニ段畠ノ拵ラヘ樣ノ好ク成レルニテ乙巳丙午ノ比ニ出來タル好キ段畠モ、戊申ノ年ニ出來タル段畠ニハ甚ハダ劣リ、年々ニ宜シキ爲シ樣ヲ爲シ出シケルト聞ク、與良郷ノ段畠ハ段畠ノ拵ラヘ樣ニ殊更不同アリテ出來ノ好キ段畠ヲ手本ニセルモノアリト云ヘドモ、總テ好カラヌニテハナキニ、好カラヌ段畠ノミ擧ゲ、段畠ヲ一切ニ無益ノ手間入リト論ズルハ當ラヌコトナルベシ、信ゼヌ人ノ云ク、豐崎郷ノ郷士ノ上府シテ語レルヲ聞クニ、此方ノ郷ニハ畠ノ甚ハダ少ナク、木庭作ニテ百姓ノ身上ノ立居ケル村ノ四五箇村モアルナレバ、若シ此方ノ郷ニモ木庭作停止ヲ命ゼラルヽニ成ラバ、右ノ四五箇村ハ潰ルヽニテアルベシト語ル、是レ誠ニ此ノ如クアルベキコトナリ、信ズル人ノ云ハク、畠ノ甚ハダ少ナキ木庭ノ多キ村ニテモ、其ノ木庭ノ嶮岨ナル處ニ作得アル年ハ少ナク、常年ニ作得アルハ其ノ木庭ノ内ニテ山畠、段畠ニ成ルベキ處ナラン、是レ何レノ郷モ同ジ事ナリ、豐崎郷ニテ畠ノ甚ハダ少ナク、木庭ノ多キ四五箇村モ、其ノ木庭ノ山畠段畠ニ成ルベキ分ヲ山畠、段畠ニ拵ラヘ、嶮岨木庭ノ耕作ヲ止メタル手間ノ延ヲ、畠ト山畠、段畠ノ耕作手入レ養ナヒニ用ユルナラバ、畠、山畠、段畠ノ出來增シノ並シ、嶮岨木庭ノ出來ノ並シニ劣ラズ、年々ニ精シク爲シ覺ヘタラバ、以前ノ畠木庭ヲ合セタル作得ニ勝ルベシ、畠ノ少ナク木庭ノ多キ村々ハ、木庭ノ内ノ山畠、段畠ニ成ルベキ處モ、畠ノ多ク木庭ノ少ナキ村々ノ山畠、段畠ヨリハ多カラン、其ノ所ヲモ考ガフベキコトナリ、上上木庭上木庭ハ嶮岨ナルモ、作得ノ少ナカラヌト云フコトナレドモ、中木庭

下木庭ハ多ク、上々木庭上木庭ハ少ナキナレバ、其ノ少ナキ上々木庭上木庭ノ中ニテ、山畠、段畠ニ成ラヌ處バカリ耕作セヌ損分ハ輕キ損分ナラン、利アル木ヲ育ツルニ、上々木庭、上木庭ハ木ノ長ズル事、中木庭下木庭ニ勝ルベシ、信ゼヌ人ノ云ク、與良郷尾浦村ノ如ク畠ハ甚少ナク、木庭ハ嶮岨ニシテ山畠、段畠ニ成ルベキ處ノ甚ハダ少ナキ村ノ、八郷ノ内ニハ六七箇村モアリト聞ク、其ノ類ノ村々ニ木庭作停止ヲ命ゼラレタラバ、大ヒナル難儀ニ及ブベシ、信ズル人ノ云ク、木庭停止ハ益アルベキコトナレバ、百十餘村ノ中ニテ六七村ニ障ワリアルトテ、百十村ホドニ益アルコトヲ命ゼラルマジキ樣ナシ、八郷一同ニ木庭作停止ヲ命ゼラルヽ時ニ至リ、其ノ六七箇村ニ障ワリアルニ極マリタラバ、其ノ村々ノ百姓ノ竈數ヲ畠地相應ニ定メラレ、餘リノ竈ヲ其ノ郷ノ内ニテ、畠、山畠、段畠ノ殊ニ多キト見ヘタル村ニ移サレ、其ノ村移リハ火災アリシ村ノ小屋掛ヲ郷中ヨリ合力スル格ニテ、合力ヲ得セシメラルベシ、其ノ六七箇村ハ八郷ノ内ニテ殊ニ小シキナル村ナレバ、其ノ村々ノ中ヨリ竈ヲ移サシメラルヽ竈數ハ少シ計ニテアラン、山畠、段畠ニ成ルベキ木庭ノ別シテ甚ハダ少ナキ村ナレバ、其ノ村ノ木庭ノ作得ハ甚ハダ少ナキ分數ナルベシ、作得ノ甚ハダ少ナキ嶮岨木庭ニ、自然生ノ雜木ヲ育テ、其ノ木山ヲ十五區ニ分ケ、十五區ノ中ニテ木ノ殊ニ長ジタル一區ヲ初年ニ伐始メ、段々ト其ノ格ニシ、府中ニ近キ村ハ薪ニシテ賣リ上セ、府中ニ遠キ村ハ或ヒハ小材木ニシ、或ヒハ屋板ニシ、農隙ニ賣リ上セ、其ノ利分ト木庭作ヲ止メタル手間ノ延ヲ、少ナキ畠ノ耕作手入レ養ナヒニ用ヒテ、

相應ニ出來增シアル利分トヲ合セタラバ、以前ノ畠ノ作得ト、木庭ノ作得トヲ合セタル利分ヨリモ多カラン、然ラバ餘リノ竈トテ村移リヲ爲サシメラルヽニハ及ブマジ、居ヲ移スハ好ムマジキ事ナレバ、當分二三年ノ間ダ少シ計リ以前ノ利ニ劣レルコトアラント思フトモ、村移リハ爲サザルニテアルベシ、右ノ段々ハ戊申十二月ヨリ己酉二月マデノ間ニ聞及ブ所ナリ、木庭作停止ノ旨ヲ信ズルトモ、信ゼヌトモ知レヌ人ノ說ニ兩樣アリ、其ノ一ツハ百姓ノ心ニ悖レルト悖ラザルトヲ構ワレズ、決定シテ命ゼラルベキコトナリト云ヒ、其ノ一ツハ百姓ノ心ニ悖ラレズ、得心セシ上ヘニテ命ゼラルベキコトナリト云ヘリ、共ニ是レ當ラヌ說ナリ、郡代ヨリ郡役人鄕役人ヲシテ得心セシメラレ、上邊ニ得心シタル樣ニ申シ、實ハ下知ヲ妨グル樣子ト知レタルヲ速ヤカニ除ケラレ、村役人ハ郡役人鄕役人ヲシテ右ノ格ニ正サシメラレ、村役人ニ其ノ人ノナキ村ハ、肝煎ヨリ下知セシメラレ、鄕役人ニ其人ノナキ鄕ハ、才ノ劣リタルトモ、郡役人ノ下知ヲ堅ク守ルベキヲ撰ビテ、鄕役人ニ爲サルヽコソ下知ノ行ナワルヽ道ナルベケレ、己酉二月中比或人ノ物語リニ、伊奈鄕鹿見村居住ノ奉役ノ云ヘルハ、今度上府シテ他鄕ノ鄕士ノ相ヒ識レル人ニ出逢ヒ、其人ヨリ吾等ヘノ問ヒニ、今度郡代ヨリ伊奈鄕ノ外ノ七鄕ニ、木庭ヲ古法ノ如ク明ケサセヨト命ゼラレタリ、定メテ段畠ヲ自然ニ拵ラユル樣ニ奉役ヨリ下知アルベシ、段畠ノ多ク出來ザル前ニ木庭作ヲ古法ノ如クセバ、百姓ハ潰ルヽニテアラン、其方ハ木庭作停止ノ命ヲ受テ下知スルト聞ク、百姓ノ食用ハ不足ナキヤ、公役銀ハ何ヲ以テ上納スルヤ、其方モ木庭作ヲ止

メタルニテ、作得ノ俵數ノ減リタルト沙汰セリ、其ノ如クアリテモ木庭作停止ヲ害ナキト思ヒテ、郷中ニ下知スルハ如何ナル故カト問ヘリ、吾レ其人ヘノ答ヘニ、段畠ヲ自然ニ拵ラユルト云フハ、段畠ニ成ルベキ處ヲ耕ヤス度ゴトニ、高キ方ノ上土ヲ低キ方ニ下ゲ、自然ト緣ヲ付ケ段畠ト爲スコトナラン、其ノ如クセバ段畠ノ拵ラヘ樣ノ粗クシテ、上土ニ苦土ノ交レルト云フニテハナク、高キ方ノ上土ノ除キタル跡ハ苦土ノミニ成リ、地面ノ費ヘ甚ハダ多カラン、此方ノ郷ニ畠、山畠、段畠ヨリ得ル所ノ麥秋物ニテモ食用ニ不足ナシ、畠、山畠、段畠ノ耕作手入レ養ナヒヲ、吾等ガ下知ノ如クニ何レノ村モ爲シ得ル時ニ至ラバ、何レノ村ノ作得モ、他郷ノ畠作木庭作ヲ兼子爲セルニ劣ルマジ、以前猪荒ノ時ニ猪ノ通ヨフ處ノ畠ニハ、耕作セザル處ノ多カリシニ、其後猪荒ノ止ミテ、以前ノ耕作セザル畠ヲ作リ詰メタルハ、何レノ郷モ同ジ事ナラン、猪荒ノ時ヨリハ其ノ分ホド畠ノ增シタルナレバ、耕作手入ノ養ナヒサヘ好ク爲シ覺ヘタラバ、假令山畠、段畠ヲ拵ラヘズ、木庭作ヲ一切ニ停止シタリトモ、百姓ノ差支ヘニ成ルベキ樣ナシ、吾等木庭作ヲ止メテ作得ノ俵數ノ減リタルニテハナシ、父ノ隱居セシ後ハ取高ノ內ヲ隱居ニ分チケルコトヲ考ガヘズ、作得以前ヨリハ減リタルト云フナラン、此方ノ郷モ以前ヨリノ困窮ノ村々ハ、公役銀ノ取立テ成カヌルナリ、以前ヨリ差シテ困窮セヌ村々ハ、木庭作ヲ止メテモ公役銀ノ取立テ滯リナシ、公役銀皆濟ノ取立テ成リ難キニテ、何レノ郷ノ役人モ種々ノ心使ヒアルト聞ク、猪荒ノ止ミシ以後ハ、上中下ノ百姓ノ麥ト秋物トノ取高ノ、猪荒ノ時ニ增シタルハ輕キ分

數ニアラズ、今程ノ百姓ノ家内ノ過シ方ヲ、以前ノ猪荒ノ時ノ如クスルナラバ、公役銀皆濟ノ取立テニ役人ノ心使ヒハアルマジ、中下ノ百姓マデモ取高ノ增シタル分ヲ使ヒ捨ルナレバ、假令只今ノ取高ノ上ヘニ、又一倍ホド取高ノ增シタルトモ、役人ヨリ公役銀皆濟ノ取立テノ成リ難キハ同ジ事ナラン、此ノ所ニ眼ヲ著ケテ宜シク下知セバ、公役銀皆濟モ滯ラズ、百姓ノ在附モ好クナラン、猪荒ノ時ニ筵ヲ敷キタル百姓、猪荒ノ止ミシ以後ハ薄緣ヲ敷キ、薄緣ヲ敷キタル百姓ハ疊ヲ敷詰メ、其レニ應ジテ屋作器物ニ至ルマデ侈リヲ成セリ、久シク馴レタル侈リナレバ、容易ニハ改マリ難カルベケレドモ、心ヲ用ヒテ下知セバ、終ニハ改ムルニテアラント答ヘタリ、去年ノ秋ハ他郷ノ木庭作ノ蕎麥ノ好ク出來タルニテ、此方ノ郷ノ百姓他郷ヲ羨ヤムト聞キ、村廻ノ序デニ勸辨アル百姓ヲ二三人ヅツ呼出シテ諭セシハ、木庭作ノ蕎麥ノ出來ノ今年ノ秋ノ如クナルハ希ナルコトナリ、今年他郷ノ木庭ニ出來タル蕎麥ヲ刈取リ收納スル手間ハ、輕キ手間ニテハ有間舗故、麥ノ蒔付ケ其ノ分ホド延引シ、蒔付ノ地拵ラヘ常年ヨリハ粗ク、來年ノ麥出來ノ其ノ分ホド少ナキニテアラン、其方共ハ蕎麥ヲ多ク取ラザル代リニ、麥ノ地拵ラヘニ念ヲ入レ、早ク蒔付タラバ、來年ノ麥ノ取高ニ其ノ分ノ增シアラン、其ノ分ノ增シハ今年他郷ニ蕎麥ヲ多ク取リタル俵數ニ及ブベキ樣ハナケレドモ、其方共ノ知レル如ク、麥一俵ハ蕎麥二俵ホドニ當タルナレバ、食用ニスル分量ハ差シテ劣ルコトアルマジキト諭セシ也、下知ノ條目數々ナレドモ漸々ニハ爲シ得ベシ、最初ニ下知セシ時ハ、種々ノ障リ見ヘケレドモ、樣々ニ思慮ヲ

盡クシケルニテ道筋ヲ開キタリ、事ノ滯リタル時ニ成ルマジキトノミ思ヒテハ、事ノ成ルベキ樣ナシ、郷中村々ノ耕作ノ爲シ樣ヲ見ルニ、何レノ村モ以前ニ勝レリ、郷中ニ牛馬ノ踏草ヲ多ク蓄ユルコトヲ下知セシニ、去年ノ冬ノ麥蒔付ニハ、牛馬ノ踏草ヲ六斗蒔ニ用ヒタル者アリ、其ノ如クナルハ以前ニ無キコトナリ、仁田三箇村ノ耕作ノ爲シ樣ハ、今トテモ他ノ村々ニ劣リタレドモ、是亦以前ニ勝レリ、仁田ニテ筋植ノ麥ニ中打シテ、水遣所ノ泥水ヲ掛クルヲ見、及ビ間々ニ水遣所ノ下ヲ掘リテ泥水ヲ蓄ユルヲモ見タリ、是レ亦以前ニ無キコトナリト云ヘル由語レリ、右ノ物語リニテ伊奈郷ノ下知ノ勢ヒヲ察スベシ、木庭ノ古法ハ上々木庭ヲ十ニ分ケ置キ、十ノ一ヲ年々ニ明ケ、上木庭ヲ十二ニ分ケ置キ、十二ノ一ヲ年々ニ明ケ、中木庭ヲ十七ニ分ケ置キ、十七ノ一ヲ年々ニ明ケ、下木庭ヲ廿五ニ分ケ置キ、廿五ノ一ヲ年々ニ明ケ、寛文四年甲辰ノ地分ケ以前ハ、田畠モ木庭モ百姓ノ持傳ヘニテ、富民作所ヲ多ク持チ、地主ノ少ナキニテ木庭ノ分レモ少ナカリシニ、甲辰ノ地分ケ以後ハ、百姓一同ニ作所ヲ請持チ、木庭ノ別レモ多ク成レリ、山畠、段畠ノ外ノ木庭地ノ耕作ヲ禁ゼラルヽハ、禁ヲ犯スコト見ヘ易カルベケレトモ、木庭ヲ古法ノ如ク明クルト、其レヨリ廣ク明クルトノ檢分ヲ、作人面々ノ木庭ニテ見極ムルハ成ルベキコトニアラズ、然ルニ今度伊奈郷ノ外ノ七郷ニ、木庭ヲ古法ノ如ク明ケサセヨト命ゼラレシハ、別ニ故アルコトナラン、猪逐詰ヲ論ズルニ、猪ノ木庭ノ牆ヲ破リテ作物ノ草生ヒヲ掘リ返シ、實ノラントスルヲ喰ヒ潰シ、山ニ近キ畠ハ畠作マデ掘返シ喰潰セシニ、猪荒ノ止ミテ其ノ損ノ

ナキ所ハ云ワズ、猪荒ノ時ハ前ノ年ノ木庭ノ牆木ニテ薪ノ用ヲ足シケレドモ、猪荒ノ止ミテハ別ニ薪ヲ伐リ取ルニ成リ、百姓ノ爲メニ宜シカラザルト云ヒ、木庭ヲ廣ク明クレバ、種子ニ應ジテハ出來ノ少ナクテモ、作所ノ廣ク種子蒔ノ多キニテ、種子ヲ引キタル殘リノ作得ノ以前ニ勝レルコトハ云ワズ、種子ニ應ジテハ出來ノ少キ事ノミヲ云ヒ、寛文甲辰ノ前ハ富民ノ方ニ、並百姓、下百姓勝手ノ支タル時ニ賣レル地面ヲ買聚メ、並百姓下百姓ハ富民ノ作子ト爲レルユヘ、富民ノ勝手ノ支ヘナキニテ木庭ヲ明過サズ、作子ニ差圖シテ大抵古法ノ通リニ明ケサセ、木庭ヨリ土沙石ノ流レ下ルコト少ナカリケルニ、甲辰ニ富民持來リノ地面皆々取上ゲニ成リ、並百姓下百姓マデ大抵地面ヲ同ジ程ヅツ請持チケル後ハ、凶年ノ作得ノ不足ヲ取リ足ストテ、木庭ヲ段々ト廣ク明ケ、其ノ所ヨリ種子ニ應ジテノ出來ハ少ナク成リ、木庭ノ土沙石ノ大雨ノ時ニ流レ下ルコトハ増シ、元祿十二年己卯ノ春某ヲ郡奉行ニ命ジタマヒ、其年ノ五月佐護ニテ、昔ト其時トノ替リアルコトヲ老人ニ問ヒケルニ、廿年ホド以前ヨリ木庭ヲ明過シ、郷子淵ノ深サ、昔ハ九尋ナリシニ今ハ五尋ニ成リ、志多內川ノ昔ハ直グナリシニ、其後ニ段々ト北ノ岸ヲ洗ヒ崩シ、曲レル川ニ成リ、上畠ノ多ク損ゼシモ木庭ノ明過シニテ、土沙石ノ多ク流レ下リ、沙石ノ淵ニ積リ川中ニ積レル故ナリト答ヘ、何レノ郷モ其ノ類ノ多キト見ヘ、元祿己卯ハ寛文甲辰ヨリ卅五年ニ當リ、甲辰ノ地分ケ以後十餘年ノ間ダ、漸々ニ木庭ヲ明過シ、元祿己卯ヨリ廿年ホド以前ニ至リテ、明過シト見ヘ渡ルホドニ廣ク明ケタルト聞コヘケルニ、木庭作ノ出來ノ種子

ニ應ジテハ少ナク成レルコトモ、土沙石ノ多ク流ガレ下ルコトモ、猪逐詰以後ハ猪逐詰以前ニ增シタルトハ云ワズ、猪逐詰アリシニテ新タニ始マリタル樣ニ云ヘリ、以前猪荒ノ時ハ、夜ノ猪逐ヲ務ムベキ年比ノ者ノ三人アル家ハ、三箇所ニ木庭ヲ明ケ、四人アル家ハ四箇所ニ木庭ヲ明ケ、石原モ惡地モ入レ交ヘテ廣ク明ケタルナレバ、猪アリテハ山畠、段畠ニ成ルベキ處ヲ、何箇所ニテモ山畠、段畠ニシテ耕作シ得ベキ樣ナリ、猪ヲ防グ手間ノ費ヘ甚ハダ多クシテ、田畠ノ耕作手入レ養ナヒヲ精シクシ得ザルユヘ、猪逐詰ハ農政ノ先務ナリ、猪逐詰アリテモ木庭作ノ停止ナケレバ、木庭ヲ彌ヨ廣ク明ケ、田畠ノ耕作手入レ養ナヒヲ精シクシ得ザルユヘ、猪逐詰アリシ後ノ農政ノ先務ハ木庭停止ナリ、古訓ニ「罔下咈二百姓一以從中己之欲上」ト云ヒ、「罔下違レ道以干中百姓之譽上」ト云ヒ、「擧レ直錯二諸枉一則民服」ト云ヒ、「道不レ同不二相爲謀一」ト云ヒ、「敏則有レ功」ト云ヒ、「欲レ速則不レ達」ト云ヘリ、損ヲ嫌ヒ益ヲ好ムハ百姓ノ常情ニテ、此ノ常情ハ是ノ如クアルベキコトナリ、百姓ニ下知スル役人ヨリ、百姓ノ物ヲ取リテ自己ノ物トスルハ、是レ百姓ニ咈リテ己レガ欲ニ從ガフナリ、郡役人ノ鄕村ヲ廻リケル時ノ止宿ノ村ニテ、村役人ヨリ好カラヌ馳走シテ慰サマスルモ、上府スル時ニ受ケ上ラシムルモ、鄕役人村役人ノ上府ノ時ニ郡役人ニ贈ルモ、山海ノ物ヲ百姓ニ取リ出サセ、其ノ事ヲ知ルニ道アリテ知ルヽニ至リテモ、郡代ヨリ正サズ一通リ敎訓シケルマデニテ、改タメタルト改タメザルトヲ精シク察セズ、上邊ハ改タメタル樣ニ見セ、實ハ改タメザルヲ其ノマヽニシ置ケバ、百姓ノ心ニ郡代ヲ重ンゼズ、郡代ヨリ百姓ノ

爲シ來リノ宜シカラヌ事ヲ改タメシムル下知アリテモ、從ガワザルニ成ルベシ、爲シ來レル事ハ損ヲモ益トシ、爲シ來ラヌ事ハ益ヲモ損トシ、今日ノ安佚ヲノミ願ヒ、後日ノ禍患ヲ恐レザルモ百姓ノ常情ニテ、此ノ常情ハ是ノ如クアルマジキコトナリ、アルマジキコトヲ改タメシムル、是レ郡代ノ百姓ヲ治ムルナリ、然ルニ百姓ノ心ニ面々ノ利益ニ成ル下知ヲ嫌ヒ惡ミ、郡代ヲ嘲ケリ譏ルヲ郡代ノ心ニ安カラズ思ヒ、只ダ一偏ニ百姓ノ譏ラズシテ譽ムルヲ快ヨク思フハ、是レ道ニ違ガヒテ百姓ノ譽ムルヲ干ムルナリ、郡代ニ百姓ノ譽ムルヲ干ムル心アラバ、百姓ノ心ニ面々ヨリ譏ル事ハ、郡代モ遂ニハ下知ヲ止メラルヽニテアラント考ガヘ、其ノ下知ヲ云ヒ破ラントノミ思フベシ、枉レルヲ錯クハ、枉レル人ヲ役人トセズシテ捨テ置キ、役人ノ中ニ枉レル人アルハ、精シク察シテ速ヤカニ除クナリ、枉レルトハ貪欲ナルト放侈ナルトヲ謂フ、知慮ノ足ラザル所ヨリ過失アルハ、枉レルニアラズ、其ノ如クナルハ宥免シ教訓シテ使フヲ宜シトス、郡代ノ見違ヘニテ、枉レルヲ枉ラザルト思ヒ、主君ニ申上ゲ郡役人ニ用ユルハアルマジキコトニアラズ、見違ヘハ過マチナレバ、速ヤカニ改ムルコソ宜シカルベケレ、若シ役人ヲ問モナク代ユルハ宜シカラヌトテ、其ノマヽニシ置クカ、其ノ代リニ見違ヘアラバ、重々ノ見違ヘニ成ラントテ、其ノマヽニシ置クナラバ、役人ノ心ニ一度役人ニ爲リテハ、容易ニ代ヘラレヌト思フ所ヨリ、恐レテ改タムヘキ惡事ヲモ改タメズ、百姓ノ心ニ郡役人ヲ賤シンズル所ヨリ、郡代ノ下知ニ服セザルベシ、道ノ同ジカラザレバ相ヒ爲メニ謀ラザルハ、主意ノ違ヒアル人ニ事ヲ相

談セザルナリ、主意ノ同ジキニ相談スルハ、條目ノ思寄リ一様ナラヌコトノ多キホド、相談ノ益アルモノナリ、主意ノ同ジカラズニ相談スルハ、少シ益アルモ大ヒニ害アリ、郡代ノ下知スル事ヲ主意ノ違ヒアル人ニ相談セバ、郡役人郷役人ノ心ニ、郡代ヲ疑ガヒテ下知ヲ信ゼズ、郡役人郷役人ノ信ゼヌ下知ハ、百姓ノ從ガフコトアルマジ、敏ナル時ハ功アリトハ、下知ニ手後クレナケレバ、下知ノ功アルナリ、今月ノ内ニ下知セズシテ叶ワヌコトヲ、來月下知スベシトテ差延ベ、今年ノ内ニ下知スベキコトヲ、來年下知スベシトテ差延ベ、下知ノ時ヲ失ナヒテハ、下知ノ功ノ見ユベキ様ナシ、速ヤカナランコトヲ欲スル時ニ達セズトハ、事ノ速ヤカニ成ルコトヲ欲スルハ、事ヲ成シ得ザルナリ、來年下知スベキコトヲ今年下知シ、急務ニテナキコトヲ、急務ニ交ヘテ下知シ、十年ニテ成ルベキコトヲ五年ニテ成サント下知スルハ、速ヤカナランコトヲ欲スルナリ、下知相應セズシテハ、下知ノ達スベキ様ナシ、何レノ州ノ郡代ニテモ、右ノ古訓ニ違ヘルナラバ、農政ヲ爲シ得ベカラズ、明日ヲモ知ラヌ老衰ノ吾身ナレドモ、是州ノ郡代ノ下知ノ勢ヒ強ク成リテ、妨タゲノ勢ヒ弱ク成リ、木庭停止ノ法令ノ早ク立チテ、田、畠、山林ノ政道ノ永ク行ナワレンコトヲ、身後ニ當テ、願ヒ思フバカリナリ

地方普請說

八郷地方普請奉行ノ覺書ニ記セルハ、他方ニテ溪水ノ出ル處ニハ、昔ヨリ堤ヲ築置キ、田ノ水ノ不足

ヲ足スト云フ、是州ニテハ堤ニ成ルベキ溪水ノ多キ處モ、昔ヨリ堤ヲ築クコトナキハ、農人田作ヲ重ンゼズ、他方ノ農事ノ樣子ヲ知ラザル故ナラン、他方ノ堤ノ築キ樣ハ、是州ニテ用ヒ難キコトアルトモ、是州ノ山川ノ形ニ應ズル築キ樣ヲ用ヒタラバ、堤ノ段々ト出來ルニテ益アラン、因テ他方ノ堤ノ事ヲ知レル人ニ問ヘルニ、其人ノ云ヘルハ、堤ヲ築クニハ四時トモニ水ノ涸レザル溪ノ內ニテ、左右ノ山口ノ狹クシテ、土手ヲ築キ通スコトノ爲リ易キ處ニ築クナリ、處ニ依リ溪水ハ流レザレドモ常ニ地水アル處ニモ築キテ、雨水ヲ蓄ユルナリト云ヘリ、今案ズルニ、雨水ヲ賴ミテ堤ヲ築クハ、土ノ性ノ強キ處ニテ爲ス事ナラン、又云ヘルハ、堤ヲ築ク時節ハ冬ヲ宜シトス、寒中ニ築キタル土手ハ、土ノ能ク居付クニテ土手堅固ナリ、春秋ニ築キタル土手ハ、土ノ能ク居付カザルニテ土手堅固ナラズト云ヘリ、今案ズルニ、寒氣ノ時節ハ土ノ凍ルニテ、土ノ情ノ堅キト見ヘテモ、暖氣ニ成ラバ解ケ和ラグベシ、土手ノ堅固不堅固ハ、築ク時節ニハ依ラジ、築キ樣ノ精粗ニ依ルベシ、春秋ハ雨多キナレバ、堤普請ノ中ニ、大雨ノ降リ溪水ノ增シ、其ノ水ノ底樋ヨリ拔クル餘リ、土手ノ上端ヲ越ヘテ、上端ノ土ヲ洗ヒ流シ、其ノ外ニモ普請ノ障ワリアルベシ、因テ冬ノ水涸ノ時節ヲ第一ノ時節トスルナラン、又云ヘルハ、堤ノ土手ノ根幅ハ其ノ土手ノ高サニ應ジ、譬ヘバ土手ノ高サ三間ホドナルハ、根幅ヲ十二間ホドニ築クト云ヘリ、今案ズルニ、他方ノ堤ハ土手ノ內外ヲ芝土ニテ築キ、根幅ノ廣ク、築立ノ形ノ穩ヤカナラズシテハ高ク築立テ難ク、土手モ弱キユヘ、根幅ヲ廣クスルナラン、是州ニテ堤

ヲ築クナラバ、土手ノ內外ヲ石ニテ築立テ、水ノ洩レザルホドヲ考ガヘテ、根幅ヲ他方ノ土手ノ根幅ヨリモ狹クスベキコトナリ、然ラバ高サ三間ノ土手ハ、根幅五六間ニシテ、土手ノ上幅ニテ二三間ニ成ルホドニ築クベキコトナラン、又云ヘルハ、底樋ノ木ハ松ニテモ何木ニテモ、丸木ニテ用ヒ、譬ヘバ九尺廻リノ木ナラバ、其切口ノ度リ三尺ホドナルベキユヘ、其ノ三尺ノ四分一ノ所ニ墨ヲ引キ、竪テニ長ク割離シ、其ノ割離シノ殘リノ四分ノ三ヲ樋ニ成ル樣ニ切通シ、彼ノ割離シタル四分一ノ木ヲ本ノ如クニ合セ、長キ釘ニテ打付ケ、底樋ノ長サハ土手ノ根幅ニ應ジ、何本ニテモ續合セ、土手横ノ根ニ埋ミ、性ノ强キ土ヲ置立テ、水ノ洩レザル樣ニ打堅メ、底樋ノ端ヲ土手ノ內ノ方ニ三四尺程出シ置キ、底樋ノ口ニ戶ヲ指シ、戶ヨリ水ノ洩レザル樣ニシテ、戶ノ形ハ童女ノ玩ブ羽子板ノ如クニシテ柄ヲ付ケ、柄ノ長サハ尺八ノ木ノ水出ノ穴ヲ塞グ木ノ長サニシ、水中ノ戶ヲ明クル時ハ、彼ノ柄ヲ動カシテ明クルナリ、尺八ノ木ハ何木ニテモ丸木ニテ用ヒ、譬ヘバ六尺廻リノ木ナレバ、其ノ切口ノ度リ二尺ホドナルヲ、四分一ノ所ヨリ割離シ、四分ノ三ヲ切通シ、彼ノ割離シタル四分一ノ木ヲ合セテ打付ケ、長サハ土手ノ高サニ應ジテ續立テ、二三尺ヅツ間ヲ置キ、水出シノ穴ヲ一尺二三寸廻リニ丸ク明ケ、其ノ尺八ノ木ヲ、底樋ノ木ヲ土手ヨリ內ノ方ニ出シ置キタルニ穿チ立テ、尺八ノ木ヨリ出ヅル水ノ、底樋ノ木ニ移リ流ル樣ニ拵ラヘ、尺八ノ木ノ水出シノ穴ヲ常ニハ木ニテ塞ギ置キ、其ノ木ニハ柄ヲ付ケ、其ノ柄ノ長サハ尺八ノ木ノ水出シノ穴ノ間ダノ長サニシ、其ノ塞ギタル木ヲ拔クニハ、柄

ヲ動カシテ抜クナリ、水ノ多キ節ト雨天洪水ノ時ニ、堤ニ餘ル水ハ土手ノ左右ノ山ノ内ヲ、何レノ處ニテモ見合セ水越ヲ構ヘ、水越ハ土手ノ上端ヨリ三四尺モ低クシテ、餘リ水ヲ落スナリト云ヘリ、今案ズルニ、堤ノ土手ノ洪水ノ時ニ破ルヽト破レザルトハ、水越ノ構ヘ樣ノ善惡ニ依ルベシ、堤ヲ築ク人ハ以後ニ至リテ、破損アルベキカ、水ノ洩ルヽ處アルベキカヲ專パラ考ガフルニテアルベキユヘ、最初ニ堤ノ處ヲ見立ツル時ニ、先ヅ水越ノ處ヲ能ク見合セ、相應ヨリハ水越ヲ廣クシ、下地ニ平岩アル處ニ越水ヲ落トシ、其ノ越水ノ土手ノ根ニ少シモ掛カラザル樣ニスルニテアラン、平岩ノ上ヘヨリ直グニ石垣ヲ築キ、石ヲ入リ長ニ二重ニ置立テタル土手ハ、土手ノ根ニ越水ノ落掛テモ害アルマジ、土手ヲ築ク處ニ元ヨリ有リ來レル性ノ弱キ土沙ヲ掘除ケ、底土ノ性ノ强キ處ニ掘付ケ、又ハ下地ノ平岩ニ掘付ケ、土手ヲ築ク左右ノ山ノ土手ニ築キ合スル處モ、性ノ弱キ土沙ヲ掘除ケ、性ノ强キ土ヲ置立テ、水ノ洩レザル樣ニスベキコト也、水持ノ善惡ハ土手ノ根際ト、左右ノ山ノ土手ニ築キ合スル處ノ爲シ樣ノ精粗ニ依ルベシ、又云ヘルハ、堤ヲ築ク時ニ土ト芝土トヲ運ブ人夫ニハ、土手ノ土ヲ置キタル上ヘヲ遍ネク歩マセテ、置土ヲ踏ミ堅メサセ、堤ヲ築立タル時ニハ、升ニ米ヲ十分ニ入レ堤ノ中ニ置キ、其ノ上ヘニ鍋ヲ覆ヒ置クコト是レ堤ノ鎮守ヲ祭ル法ニテ、昔ヨリ爲シ來レル事ナリト云ヘリ、右ノ段々ハ肥前基肄郡ノ池田ノ堤ヲ築カレシ時ノ、普請ノ次第ヲ始メヨリ終リマデ見タル者ノ云フ所ヲ記シテ、某ガ思フ所ヲモ書付ルナリ、是州ニテ堤ヲ築カシメラルヽナラバ、先ヅ土石ノ普請ヲ爲シ

覺ヘタル者一人ニ、上大工一人ヲ添ヘラレ、某雖養父ノ大小ノ堤ノ樣子ヲ見セラレ、彼ノ地ノ功者ニ聞カセラレ、堤ノ水源ノ水ノ强弱ト、其ノ山ノ山形ト、水ノ面ノ廣サ何程ニテ、深サ何程ノ堤ニテハ、何程ノ田ヲ浸シ、大旱水涸ノ時ニ其ノ堤ノ水ヲ田ニ引クニ、何日ホドニテ引キ盡スト云フヲ精シク聞カセラレ、底樋尺八ノ拵ツヘ樣ヲ大工ニ見セラレタル上ヘニテ、是州ノ山川ノ形ニ應ズル爲シ樣ヲ考ガヘサセ、築立サセラル丶ナラバ、全タク調フルニテアラン、是州ノ奥山ノ川ハ、大抵川底平岩ニテ、水ノ流レ强ケレドモ、溪口ノ平地ニ近キ處ヨリ川底ハ沙ナルユヘ、其ノ沙ノ中ヲ水ノ通ルニテ留ムベキ樣ナシ、平岩ノアル限リノ處ニテ留ムベキモ、井手溝ノ遠ク成レルニテ、有リ來リタル川水バカリニテハ、水涸ノ時ニ平地ノ處マデ行渡ルマジ、與良鄕ノ雞知村、久田村、內山村、內院村ト豆酘鄕ノ豆酘村、瀨村ト、佐須鄕ノ久𥜿村、瀨村等ノ村々ハ平地ニ近キ處迄、川底平岩ニテ水ヲ留メ易キユヘ、昔ヨリ井手掛リノ田アルト見ヘタリ、其ノ村々ノ川ノ內ニテ、瀨川ハ極著ノ時モ水アルユヘ、水掛リノ處ヲ大抵ハ田ト爲シタレドモ、其ノ他ノ村々ノ川ハ極著ノ前ニ水アル時ハ、有リ來レル田ノ五倍十倍ノ田ヲモ浸スベキ水アリテモ、極著水涸ノ時ハ、其ノ水ノ乏シク成レルユヘ、田ト爲シタル處ハ少ナシ、田ト成ルベキ處ノ多キ村々ニ堤ヲ築カル丶ナラバ、當ニ水ノ强ク流ル丶川筋ヲ除キ、其ノ川筋ノ外ノ溪ノ內ニテ水ノ流ル丶處ト、流レノ强カラザル水源ノ處ニ堤ヲ築キテ、溪水ト雨水トヲ蓄ソヘ置キ、川水ノ減リタル時ニ、堤ノ水ヲ川ニ流シ入レテ用水ノ不足ヲ足シタラバ、昔ヨリ有リ來レル井

手掛リノ田ニ續キタル畠モ田ト成ラン、井手掛リノ田ノナキ村モ、川底ニ平岩アル限リノ處ヲ見合セ段々ニ堤ヲ築キ、其ノ處ヨリ井手溝ヲ掘リ續クルコトノ成ルベキ地ハ漸々ニ田ト成リ、川ノ左右ニアル山畠ト、木庭ノ內ノ穩ヤカナル處モ、多クハ田ト成ルベシ、他方ノ平地ノ廣キ處ハ山ノ勢ヒ穩ヤカナルニテ、堤ヲ築クベキ溪口モ狹カラザルユヘ、土手ノ長サ六七十間八九十間ナルモアリト云フ、是州ハ平地ノ廣カラザルニテ、山ノ勢ヒ穩ヤカナラズ、堤ヲ築クベキ溪口モ狹ク、溪口ノ狹クシテ溪中ノ溪口ヨリハ廣キ處モアリ、其ノ類ノ處ハ水ヲ蓄ユルニ宜シクシテ、溪口ノ土手ノ長サ大抵十間カ十五間ニテ、二十間ニ及ブハ稀ナラン、其ノ上ヘ他方ノ堤ハ、土手ノ內外ヲ芝土ニテ築クユヘ、根幅ヲ廣クセザレバ堅固ナラザルト云フ、是州ハ土手ノ內外ヲ築クベキ石ノ多クシテ、土手ノ中ニ築キ入ルベキ性ノ強キ赤土ノ多キナレバ、土手ノ根幅ノ狹クトモ、水ノ洩レザル程ヲ考ガヘテ築クベキユヘ、他方ノ堤ヨリハ人手間ノ入ルコト少ナクシテ、堤ノ堅固ナルコトハ却テ他方ノ堤ニ勝ラン、是州ノ水田ハ水拔ノ溝ヲ掘ザルユヘ、水ヲ干スベキ時節ニモ干スコト成ラズ、水ノ多キニテ熱カラズ、元ヨリ冷氣アル田ハ冷氣ヲ拔去ラザルニテ、猶以テ熱カラズ、是州ノ農人ハ田ヲ請持ツコト少ナク、田作ヲ第一ノ業トセザルユヘ、田作ノ樣子ヲ考ガヘ知ラズ、天災ノ外ニ損毛ノ年多シ、佐須鄕ノ奉役ヲ某ガ勤メシ時ニ、以前ヨリ鄕ノ中ノ爲シ來リヲ考ガヘ見ケルニ、水損シタル地ニ其後年々ニ草ノ生ジテ、土ノ少シ出來タル處アレバ、洪水ヲ防グベキ川普請ナキ前ニ、其ノ處ノ中ニテ川水ノ浸サザル分

ニハ、農人ノ願出デ耕作シ、穂見ヲ請クル成シ來リアリ、是レ宜シカラヌコトナリ、水損地ハ水當リ強キ處カ、地形ノ低キ處カ、川床ノ高ク成リタル處カ、何レニモ故アリテ水損シタルナラン、然ラバ川普請アルマデハ、成ルタケ草ヲ生ジサセ、漸々ト寄土ノ聚マル樣ニスベキコトナルニ、其ノ普請アルヲ待タズシテ、掘リ耕ヤスコトヲ許セルハ知慮ナキナリ、寛文、延寶、天和、貞享ノ比ニ水損セシ地ノ、多年ヲ經ルマデ昔ノ地位ニ成ラザルハ、水防ノ普請ナクシテ早ク耕作シ、其ノ間ダ折々水損サセタル故ナリ、因テ其ノ爲シ來リヲ制シ置ケリ、此爲シ來リ他ノ郷々ニモアルナラバ、禁ゼラルヽニテアラン、是州ノ郷村ノ内ニテ東西ノ外海ニ出張リタル處ハ、潮風ノ吹キ入ルヽニテ諸作ノ損ズルコト殊ニ多ク、家小屋ノ損スルコトモ少ナカラズ、其ノ類ノ村々ハ濱邊ニ厚ク森林ヲ育テシメラルベキコトナラン、風ハ少シノ物ニ當リテモ吹ソラスユヘ、濱邊ノ森木ハ風防ギニ成ルベシ、濱邊石沙ノ處ニ木ヲ植立シムルニハ、毎年正月二月ノ比ノ風ノ輕キ日ニ、其ノ村ノ家々ヨリ空俵二俵ヅツ出ダサセ、其ノ俵ニ性ノ強キ土ヲ入レテ、突キ堅メ口ヲ結ビ、濱邊ノ森木ヲ育ツベキ處ニ推シ通シテ、堅横ノ間ダ四五尺ヅツ間ヲ置キ、土沙ノ中ニ土俵ヲ立テニ掘リ入レ、譬ヘバ六通リニ木ヲ植ヘ立ツルナラバ、中ノ二通リニ小松ヲ植ヘ、内ノ二通リト外ノ二通リニ、ハシハタ磯マメ磯椿トヘラ等ノ潮風ニ痛マズシテ、濱邊ニ能ク育ツ木ノ小サキヲ植ヘ、右ノ如ク植ルニハ、彼ノ土俵ヲ埋ミタル上ヘニ一本ヅツ植付ケ、木ヲ植付タル外ニハ、高サ三四尺ニ石ヲ築立テ、當分ノ潮風ヲ防グベキコトナリ、諸木生育ノ

樣子ヲ考フルニ、風寒ノ强キ磯邊ノ岩間石沙ノ處ニテモ、其ノ木ノ立根サヘ深ク入レバ、能ク長ジ能ク榮ユルト見ヘタリ、濱邊ニ森林ヲ育ツル村ハ、毎年村中一同ニ二日ホドヅツ植立ルナラバ、松ハ長ジテ上風ヲ防ギ、雜木ハ榮ヘテ松ノ下風ヲ防グベシ、吾レ曾テ佐須鄕奉役ヲ勤メシ時ニ、鄕中村々ノ濱邊ニ森木ヲ育ツベキ處ノ多キニ心付ナク、交代ノ後ニ上鄕ニ赴ムクトテ、與良鄕根緖村ヨリ船ニ乘リシ事アリケルニ、彼ノ村ノ濱邊ニ森林ノ厚ク榮ヘ、高ク長ジタルヲ見テ心付タリト記セリ、誠ニ精シキ勘辨ナリ、此人ハ鄕士ノ中ノ俊秀ノ人ニテ、川普請井手普請等ノ功者ナルユヘ、郡代ヨリ君上ヘノ申上アリテ、八鄕地方普請奉行ニ命ジタマヒ、上鄕ノ川普請井手普請ニ下知セシメラレ、上鄕ノ鄕士ノ奉役村下知役ヲ勤ムル人モ其才能ヲ稱ス、然レドモ木庭停止ノ下知ノ行ナワルル時ニ至ラズバ、此人ノ才能ヲ用ヒ盡シ、職分ヲ盡シ得ルコトアルマジ、其故ハ川普請モ井手普請モ、田作畠作ニハ益アリテ、木庭作ニハ益ナク、右ノ覺書ニ見ヘタル堤ヲ築キ、水ヲ蓄ヘテ旱損ヲ防グ事モ、濱邊ニ森木ヲ育テ風損ヲ防グコトモ、田作畠作ニハ益アリテ、木庭作ニハ益ナク、百姓ノ好ム事ニ益ナキ普請ハ百姓ノ心ニ甚ハダ嫌ヒ、川普請ノ夫使アル使節ニ、府中ニ成レル百姓ノ川普請ハ、百姓倒シト云ヒ廻リ、府中ノ諸人モ百姓ノ云フ所ヲ信ジ、地方普請奉行ヲ有リテ益ナク、無クテ害ナキ役人ノ樣ニ云ヒ成シケル時勢ナルガ故ナリ、若シ木庭作停止ニ決定ノ命令アリテ、鄕士百姓一同ノ心ニ此ノ事ヲ云ヒ破ルコトノ成ラザルト思ヒ、畠、山畠、段畠ノ耕作ヲ專バラニスル時ニ至ラバ、地方普請奉行ノ才能

ヲ用ヒ盡シ、職分ヲ盡シ得ルニテアラン、地方普請奉行ノ覺書ニ、堤ノ事ヲ記セル中ニテ、最トモ精シキ勘辨ナラント見ヘタルハ、常ニ水ノ強ク流ルル川筋ヲ除キ、其川筋ノ外ノ溪川ノ內ニテ、水ノ流ルル處ト、流レノ强カラザル水源ノ處ニ堤ヲ築キ、溪水ト雨水トヲ蓄ワヘ置キ、川水ノ減リタル時ニ堤ノ水ヲ川ニ流シ入レテ、用水ノ不足ヲ足スベキ事ナリト記セル所也、其レトモニ木庭停止ノ下知ノ行ナワレ、山々ニ木ノ育チタル處ノ多クシテ、山氣水氣ノ强ク成ルニアラズバ、堤ノ利ノ少ナクシテ田方ノ多ク增益スルコトアルマジ、木庭停止ノ下知ノ堅ク行ナワレタラバ、地方普請奉行ノ堤普請井手普請ノ功ノ分明ニ見ユルニテアラン、農政ニテ田方ノ多ク增益シテモ、木庭ノ內ノ山畠、段畠ニ成リテ、水ノ掛ラヌ處ノ多キニテ畠モ不足アルマジ(己酉三月七日成編)

訥庵文草續集 終

編録書目

津島紀略　二冊　　隨聞録　一冊
財用問答　一冊　　土穀談　一冊
老農類語　二冊　　刈麥談　一冊
水利問答　一冊　　告新録　二冊
農政問答　一冊　　土穀談附録　一冊
土穀談附説　一冊　　甘藷説　一冊
伊奈郷農事録　一冊　　郷村農事録　一冊
郷村農事録附説　一冊　　農書輯略　一冊
農書輯略後語　一冊

右十七部ノ外ニ民事紀聞二冊、紀聞附録一冊、紀聞附説一冊、食兵宗旨一冊アリ

財用說

財用說

吾レ家翁ニ請ヘルハ、是州ノ足食ノ事ヲ記セル諸書ノ中ノ節要ノ所ニ付紙シテ與ヘラレヨト請ヒ、家翁ノ答ヘニ、食兵宗旨ト木庭作停止批判覺書トノ二部ハ、全篇ヲ考ガヘズシテ叶ワヌ書ナリト云ヒ、其ノ他ノ諸書ノ節要ノ所ニ付紙シテ與ヘラレ、其ノ分ヲ寫スコト左ノ如シ

癸卯ノ年ヨリ發セラレシ農政ノ大略ハ、山々ノ中ノ段畠ト爲ルベキ所ハ段畠ト爲シ、段畠ト爲ルマジキ所ハ樹木ヲ生長セシメ、木庭作ヲ止メテ力ヲ田作、畠作ニ盡シ、木ヲ伐ルコト度アリテ水氣ヲ增益シ畠ノ田ト爲ルベキ所ハ水ヲ引キテ田ト爲シ、陽地ノ水ニ近キ所ニハ藷ヲ種ヘ、山陰ノ風ヲ避クベキ所ニハ栗ヲ育テ、山面ノ風ヲ受クル所ニハ櫨ヲ育テシムル事ナリ、是ノ如キ政令ハ是州ニ未ダ曾テ有ラズ、今ノ郡支配ノ始メテ興起セラルヽナリ、令ノ行ワレテ廢弛セズ、民ノ從ガフテ十年ヲ經ルナラバ、農事ノ舊弊ノ遂ニハ改革シテ、食ヲ足スノ利ノ無窮ニ傳ワリ、海路ノ通ジ難キ時アルトモ、鄕村ノ產スル物ヲ以テ州府ノ人口ヲ養ナフベシ、是レニ由リテ觀レバ、州府ノ餘民ミヅカラ上國ニ移ルニ任ゼラレ、移スコトヲ用ヒラレザルベシ、節儉ノ行ハルヽハ餘民ミヅカラ移ルベキ所ナリ、農政ノ行ワルヽハ移スコトヲ用ヒラレザルベキ所ナリ（津島紀略奥書）

郡支配ヨリ郷村ニ藷ヲ種フル下知アリシ中ニテ、藷ノ種子ノ乾キ、芽ノ出カヌ、蔓ノ延カヌル時ニ水ヲ灑グ事ト、藷ノ蔓ヲ種フベキ時ニ濕氣ナケレバ水ヲ灑ギテ種フル事ト、藷ノ蔓ヲ水ノ手寄リノ處ニ種ヘ、大旱ノ時ニ水ヲ灑グ事トハ其ノ下知ノ未ダ行ハレズ、八郷ノ中ノ一郷ニ試ミニ下知アリシ木庭作停止ノ事ハ山々ニ水氣ノ増シテ、大旱ノ時ニモ藷ニ灑グ水ニ不足ナキ根本ト成リ、惣體ノ農政ノ大本ト成レル下知ナルニ、郷村ノ諸人モ府中ノ諸人モ信ズルハ甚ハダ稀ニシテ、譏リ惡ムハ甚ハダ多ク、木庭作停止ノ下知ノ行ワルマジキ勢ト見ヘタルヲ喜コブヨシ沙汰セリ、孟子ノ語ニ不仁者ハ與ニ言フ可ケンヤ、其ノ危キヲ安シトシテ、其ノ菑ソヒヲ利アリトシ、其ノ以テ亡ブル所ヲ樂シムト曰タマヘリ、以後ニ至リ諸國ニ凶年ノ續キテ、其ノ領ノ穀物ヲ他方ニ賣出サヌ時モ、府中ノ仕者ノ家々ハ、是州ト基肄養父ノ損毛ノ殘リノ年貢ニテ飢餓ヲ免カルベケレドモ、町中ノ諸人ト郷村ノ貧民ハ何レノ穀物ニテ死亡ヲ免カルベキヤ、他國ニモ是州ニモ凶年ノ續クハ、百年二百年ノ中ニ無キコトモアラン、十年二十年ノ中ニ有ルベキモ量ラレズ、然ルニ盜ヲ捕ヘ索ヲ綯フト云ヘル諺ノ旨ヲ思ワズ、郡支配ノ民食ヲ重ンゼラルヽ農政ヲ譏リ惡ミ、其ノ下知ノ行ワルマジキ勢ト見ヘタルヲ喜コブハ、是レ其ノ危ウキヲ安シトシ、其ノ菑ワヒヲ利アリトシ、其人以テ亡ブル所ヲ樂シムナリ、不仁ナルコト憐レムベシ（甘諸說奥書）

下郷ノ人ノ云ヘルトテ沙汰スルハ郡支配ヨリ木庭下知アリテモ、其ノ下知ヨク行ワレテ木庭作ヲ止ム

ルコトハ、卅年ヲ過ギズシテハ成ルマジ、卅年ヲ過ギタラバ、只今ノ中年ノ農人ノ木庭作ヲ好ム人數ハ老ヒ死スルニテアルベキユヘ、其ノ時ナラデハ木庭下知ノ行ワル丶コトハアルマジト云ヘル由沙汰セリ、只今ノ少年ノ者ノ中年ニ成ルマデ、只今ノ中年ノ者ノ老年ニ成レルニ附キ從ガヒ居テ、木庭作ヲ好ム風俗ニ馴レケルナラバ、只今ノ少年ノ者ノ中年ニ成レルモ木庭作ヲ好ムベシ、卅年ヲ過ギシ後ニ木庭作ヲ知ラザル中年ノ農人ノ新タニ出來ベキ樣ナシ、又上鄉ノ人ノ云ヘルトテ沙汰スルハ、栗ノ實ノリ少ナキ年ハ上納ノ分サヘ出ダシカヌルニ、木庭ニ栗ヲ育テヨトノ下知ハ、當タラヌコトナリト云ヘル由沙汰セリ、栗ノ實ノリ甚ハダ少ナキ年ハ、商買人ノ栗ヲ買フ直段高直ナレドモ、上納ハ栗ニ限ラズ、何物モ定マリノ直段ニテ上納スルユヘ、其年ノ出來ノ少ナキ物ハ少シノ上納ノ分ヲモ出ダシカヌルコト皆人ノ知ル所ナリ、栗ハ少年ノ者ノ好ム者ナルユヘ、出來ノ少ナキ年ニテモ始メヨリ常年ノ如ク燒キテ食シ、少年ノ者ノ好ムニテ其母ノ煮テ食セシムルコトモ始メヨリ常年ノ如クシ、出來ノ少ナキ年トテ上納ノ分ホド除ケ置キ、其ノ餘分ヲ食スルニテハナク、出來ノ少ナキヲ云ヒ立テニシテ常年ヨリハ內端ニ出サントスル所ヨリ、村役人ノ催促ニ及ブハ是亦ヨク知レタル事ナルニ、栗ノ實ノリ少ナキ年ハ農家ニテ食スルコトナク、出來タル分ヲ總テ上納ニ當ツルニモ、上納ノ分ホド有リカヌル樣ニ云ヒ成シ、中分ノ出來ノ年ト出來ノ多キ年ノ事ハ云ワズ、出來ノ少ナキ年ノ事ノミ云フナリ 藪士

談附説

久田村ノ肝煎ノ云ヘルハ、久田ニハ村下知役ヨリ木庭作ヲ停止シ置カレタルニテ村中難儀ニ及ベリ、畠ノ諸持七斗蒔ホドナルニ品々ノ秋物ヲ作ルユヘ、蕎麥ヲ木庭ニ蒔付ルホドニ多ク蒔付ルコト成ラザルト云ヘリ、是レヲ聞ク人ノ云ヘルハ、其ノ七斗蒔ノ畠ニ麥ヲ能ク作リテ秋物ヲモ能ク作ラバ、木庭作セズトモ食用ノ不足ハアルマジト云フ、肝煎ノ云ヘルハ、畠作ニ念ヲ入タキト面々ニ思ヒテモ、先年ノ火災以後村中殊外困窮シ、薪伐ニ掛カリ居テ其日其日ノ食用ノ米ヲ薪代銀ヲ以ヲ買ヒ來レルユヘ、藻ヲ取リ置キ麥畠ノ養ナヒニ用ユルコトモ成ラズ、麥ノ草ヲ取ルコトモ根ニ土ヲ寄スルコトモ、思フホドニ成ラヌ所ヨリ麥出來好カラズト云フ、其人ノ云ヘルハ、木庭作ハ手間入ノ少ナキカト云フ、肝煎ノ云ヘルハ、木庭ヲ伐リ耕ヤスハ手間入ノ多キコトナリト云フ、其人ノ云ヘルハ、手間入ノ多キ木庭作スルニハ、其間ノ薪伐ノ日排ハ成ルマジ、其所ハ如何ガスルゾト云フ、肝煎ノ云ヘルハ、蕎麥ヲ木庭ニ蒔付レバ作得アルユヘ、其ノ作得ヲ心當ニシテ木庭ヲ伐リ耕ヤスト云フ、其人ノ云ヘルハ、畠作ニ念ヲ入レ、草ヲ能ク取リ土ヲ能ク寄セタラバ出來增ノ得アルベシ、藻ヲ取リ置キテ養ナヒトセバ、是亦出來增ノ得アルベシ、木庭ノ作得ヲ心當ニシテ、木庭ヲ伐リ耕ヤス間ノ日排ヲ止ルナラバ、畠ノ出來增ヲ心當ニシテ、畠作ニ念ヲ入レ藻ヲ取置キテ養ナヒトスベキコトナリト云ヘルナリ民事紀聞〇此ノ條ニ其人ト記スハ、民事紀聞ノ作者ナリ

己卯ノ春某ヲ郡奉行ニ命ジタマヒ、其年ノ五月佐護郷ニテ前奉役ノ語リシヲ聞クニ、廿年ホド以前ヨ

リ木庭ヲ明クルコト早ク成リ、只今ハ昔十二年目ニ明ケタル上木庭ヲ六年目ニモ明クル樣ニ成レルト語レリ、己卯ノ年ハ麥作ノ豐年ナリト云ヒケレドモ、八鄕其年ノ麥出來高ト前年ノ麥種子蒔付高トヲ書出サセ、種子ト出來トノ當リヲ極メシニ八升穗ニ當レリ、其時ハ古升四斗入ヲ一俵トシ、四升蒔ニ一俵出來タルヲ四升穗ト云フ、麥作ノ豐年ニハ畠木庭ノ並シ三升穗ニモ二升穗ニモ當ルベキコトナルニ八升穗ニ當リ、種子一粒ヨリ五粒出來タル並シナリ、其年仁位鄕奉役ノ語レルハ、仁位村ノ上畠小畦作リノ麥ハ、五合蒔ヨリ一俵出來タルト語レリ、是レ種子ノ八十倍ナリ、然ルニ惣體ノ並シ八升穗ニテ種子ノ四倍ニ當レルハ、木庭ノ明方ノ早ク成リ廣ク成リ居ケルニテ、木庭ノ蒔種子ノ多ク種子ニ應ジテハ出來ノ甚ハダ少ナキ故ナリ、其年ノ五月府中ヨリ北ノ鄕々ヲ廻リ見ケルニ、鰯糞ヲ用ヒタル木庭ハ別段ニテ、其外ノ木庭ハ莖モ穗モ疎ソカニ一穗ノ粒モ甚ハダ少ナク、一斗穗一斗四五升穗ノ出來ナラント云ヘル木庭ノ多カリケルナレバ、畠木庭ノ並シ八升穗ニ當レルハ其如クアルベキコトナリ、猪逐詰以前ノ木庭ノ明方ハ昔ヨリ一倍ホド早ク、猪逐詰以後ノ明方ハ猪逐詰以前ヨリ一倍ホド早ク、只今ヨリ上ヘニハ木庭ノ明方ヲ早クスベキ樣ナシト云ヒ、鄕村ニテノ諺ニ、木庭ヲ伐リ盡シタルト云ヘル由聞及ベリ、木庭ノ中ノ山畠、段畠ト爲スベキ處ヲ山畠、段畠ニ爲サバ、畠ノ增シタルニ成リ、木庭作ヲ止メシ手間ノ延ニテ、田畠ノ耕作段々ニ精シク成ラバ、穀物漸々ニ出來增スベシ（鄕村農事錄）

木庭ヲ古法ノ如クニハ明ケズ、早ク明ケ廣ク明クルコトヲ好ム風俗ト成リ來レル故ヲ考ガフルニ、譬

へバ上木庭十二石蒔ニテ物成三石ナルヲ、法ノ如ク十二年目ニ一石蒔代明クレバ、種子ノ十倍ノ出來ニテモ十一石出來、其中ヨリ種子一石ヲ引キ、物成三石ヲ引ケバ、得分七石ナルニ、五年目ニ三石蒔付レバ、種子ノ五倍ノ出來ニテモ十八石出來、其中ヨリ種子三石物成三石ヲ引テモ、得分十二石ニ成レル故ナラン、利益ノ一筋モナキコトヲ八鄕一同ニ好ムベキ様ナシ、鄕村ヨリ鄕村ノ事ヲ申出ルニモ、信ズベキコトノミハナク、疑ガフベキコトモアリ。老農類語編修ノ年ニ、八鄕ヨリ差出セシ田畠木庭百歩ノ豐年ノ出來ノ書付ノ中ニテ、佐須鄕ノ申出ニ猪荒ノ止ミシ後ニ木庭ヲ明過シ、以前ノ出來ノ半分ニモ及バス、木庭百歩豐年ノ麥出來、上上木庭、上木庭ノ並シ三四斗ホドト申出シハ、以前ノ猪荒ノ時ノ出來ヲ申出ルナリト云ヘリ、他ノ七鄕ハ田畠木庭トモニ其比ノ出來ヲ申出デ、與良鄕ハ上木庭百歩豐年ノ麥出來四斗ホドト記セリ、與良鄕ノ上木庭百歩豐年ニ四斗ホド出來ルニ、佐須鄕ハ二斗ニ及ザルベキ様ナシ、猪逐詰以後ノ木庭作ノ出來、猪逐詰以前ノ木庭作ノ出來ノ半分ニモ及バヌナラバ、與良鄕ノ上木庭百歩豐年ノ出來、猪逐詰以前ハ八斗餘ナルベシ、與良鄕上畠百歩豐年ノ麥出來サヘ六斗ホドト申出ケルナレバ、猪逐詰以前ニテモ上木庭百歩豐年ノ出來八斗ナルベキ様ナシ、今程四年目ニ明ケ、一石蒔ニ四石出來ル木庭ヲ、昔十二年目ニ明ケテ一石蒔ニ十石出來タルトモ、猪ノ牆ヲ破リテ掘返シ蹈倒シ、喰潰セシ木庭ノ損失ヲ並シタラバ、惣體ニテハ二三割ノ減リニモ成リ、今程一石蒔ニ四石出來ル木庭ノ昔ノ出來ノ並シモ、一石蒔ニ七八石出來ニハ過ザルベシ、上木庭十二石蒔

ヲ古法ノ如ク明クレバ一石蒔ト成ル、山畠、段畠ニ成ルベキ木庭ヲ山畠段畠ニ爲シ置キテ、畠ト同ジク耕作スル分數ハ、上木庭高ノ十二分ノ一ツ、下木庭高ノ二十五分ノ一ツナドト云フ分數ニテハアルマジ、然レバ此度ノ農政ニテ山々ノ作處ハ昔ヨリモ甚ハダ增シ、片下リナル作處モ平ラカナル作處ト成リ、昔ノ如キ猪荒ノ害ハナク、木庭ヲ明ケ過シ水旱ノ災ノ增シ居ケル患モ止ミ、山々ニ諸木ノ多ク育ツ利益モ段々ニ出來ベキ故、此度ノ農政ハ是州ノ鄕村ニテ不易ノ法ト爲スベキコトナラン（鄕村農事錄）

八鄕地方普請奉行ノ著ワセル覺書ニ、山間ニ堤ヲ築キテ旱ヲ防ギ、濱邊ニ樹ヲ植ヘテ風ヲ防グ事ヲ記シ置ケリ、此人ハ鄕士ノ俊秀ニテ川普請、井手普請等ノ功者ナルユヘ、郡支配ヨリ上ヘノ申上アリテ、八鄕地方普請奉行ニ命ジタマヒ、上鄕ノ川普請、井手普請ニ下知セシメラレ、上鄕ノ鄕士ノ奉役村下知役ヲ勤ムル人モ其ノ才能ヲ稱ス、然レドモ木庭作停止ノ下知ノ行ワルヽ時勢ニ成ラズバ、此人ノ才能ヲ用ヒ盡シ、職分ヲ盡シ得ルコトアルマジ、其ノ故ハ川普請モ井手普請モ、田作畠作ニハ益アリテ木庭作ニハ益ナク、右ノ覺書ニ見ヘタル堤ヲ築キ水ヲ蓄ヘテ旱損ヲ防グコトモ、濱邊ニ森木ヲ育テ風損ヲ防グコトモ、田作畠作ニハ益アリテ木庭作ニハ益ナク、百姓ノ好ム事ニ益ナキ普請ハ、百姓ノ心ニ甚ハダ嫌ヒ、川普請ノ夫使ハル時節ニ府中ニ來レル百姓ノ、川普請ハ百姓倒シト云ヒ廻リ、府中ノ諸人モ百姓ノ云フ所ヲ信ジ、地方普請奉行ヲ有リテ益ナク、無クテ害ナキ役人ノ樣ニ云ヒ成シケル時勢ナルガ故ナリ、若シ木庭作停止ニ決定ノ命令アリナ、鄕士百姓一同ノ心ニ此ノ事ヲ云ヒ破ルコ

トノ成ラザルト思ヒ、田畠、山畠、段畠ノ耕作ヲ專パラニスル時ニ至ラバ、地方普請奉行ノ才能ヲ用ヒ盡シ、職分ヲ盡シ得ルニテアラン、地方普請奉行ノ覺書ニ堤ノ事ヲ記セル中ニテ、最トモ精シキ勘辨ナラント見ヘタルハ、常ニ水ノ強ク流ルヽ川筋ヲ除キ、其ノ川筋ノ外ノ溪川ノ内ニテ水ノ流ルヽ處ト、流レノ強カラザル水源ノ處ニ堤ヲ築キ、溪水ト雨水トヲ蓄ワヘ置キ、川水ノ減リタル時ニ堤ノ水ヲ川ニ流シ入レテ用水ノ不足ヲ足スベキ事ナリト記セル所ナリ、其レトモニ木庭作停止ノ下知ノ行ワレテ、山々ニ木ノ育チタル處ノ多ク成リ、山氣水氣ノ強ク成ルニアラズバ、堤ノ利ノ少ナクシテ田方ノ多ク增益スルコトアルマジ、木庭作停止ノ下知ノ堅ク行ワルヽナラバ、地方普請奉行ノ堤普請、井手普請ノ功ノ分明ニ見ユルニテアラン、農政ニテ田方ノ多ク增益シテモ、木庭ノ内ノ山畠、段畠ニ成リテ水ノ掛ラヌ處ノ多キニテ、畠モ不足アルマジ 詢庵文草○此ノ條ハ詢庵文草續集ニ載セタル地方普請說ニ、普請奉行ノ覺書ヲ記シ、其末ニ書述ル文段ナリ

郡奉行所足輕目付ノ事ヲ沙汰スル說ニ、足輕ヲ目付ニ定メ置レタレドモ、其ノ目付ノ正直ナラヌハ、郷村ノ役人ノ善惡ヲ郡奉行ノ聞キ得ル益ハアルマジキト云ヘリ、郡奉行ノ心サヘ正直ナラバ、足輕目付ヨリ郷村ノ役人ノ善惡ヲ郡奉行ニ告グルニ僞ワリ飾ルコトハ成ルマジ、譬ヘバ足輕目付四人ニ郷村ノ役人ノ善惡ト、村々ノ百姓ノ樣子ヲ云ワシムルニ、四人ヲ一人ヅツ郡奉行ノ家ニ召シ寄セテ尋ネ問ヒ、其者ノ返答スル樣子ニテ其者ノ正直ナルト正直ナラヌヲ考ガヘ、四人ノ云フ所ノ合フト合ワザルトヲ考ガヘ、其ノ云フ所ノ引キ合ヒニ成ルベキ證據ヲ聞キ、他ノ筋ヨリモ聞キ合セ、四人ノ中ニテ正

直ナルト正直ナラヌトヲ考ガヘ知リ、正直ナラヌ者ヘノ云ヒ教ヘニ、其方ノ役ハ郷村ノ役人、百姓ノ樣子ト郡奉行所ノ下役人ノ樣子ヲ郡奉行ノ知リ得ル爲メノ肝要ノ役ナルニ、若シ僞ワリ飾リテ郡奉行ヲ欺ムキナバ、君上ヲ欺ムキ奉マツル道理ナルベシト敎ヘ置キ、其ノ敎ヘヲ得心シ、僞ワリ飾ルコトヲ改タメタルト見ユル者ヲノミ召シ使ヒ、得心セズシテ僞ワリ飾ルコトヲ改タメヌト見ユル者ハ除ケ去リ、別ニ相應ノ者ヲ選ビテ召シ使ヒ、郡奉行ノ心ヲ用ユルコト正直ニシテ、目付ヲ使フコト愼密ナラバ、四人ノ足輕目付ニテモ下知ニ益アルベシ、目付ヲ使フ人ノ正直ナラズ愼密ナラズバ、士ヲ目付ニ使フトモ下知ノ益ニ成ルコト少ナク、其ノ目付ノ中ノ正直ナルハ却テ役ヲ勤メ得ズ、正直ナラザルハ却テ役ヲ長ク勤ムルニテアルベシ、士ハ正直ニテ足輕ハ正直ナラヌト云フベキ道理ナク、神君ノ大訓ニ主ニ忠義ヲ思フニ、大身、小身、上輩、下輩ノ隔テ無キト心得ヨト曰タマヘル旨ヲ考ガヘ思フベキコトナリ（農政問答）

丁未ノ夏ノ沙汰ニ、八鄕ノ奉役村下知人內々ニテ云ヘルハ、郡支配ヨリ壬寅ノ年ニ夫使帳、出銀帳ノ事ヲ八鄕ニ命ゼラレ、丙午ノ春ハ帳面ノ上ニテノ正サルベキ事ヲ正サルベシト命ジ置レシニ、今年丁未ノ春マデ其ノ正シナシ、百姓ヨリ足輕目付ヲ以テ郡支配ニ差上ル帳面ノ樣子ヲ竊カニ聞及ブニ、奉役村下知人ノ使ワザル夫使ヲ、使ヘルニ成シテ帳面ニ記セルコトモアルト聞及ベリ、夫使、出銀ノ事ヲ命ゼラレシヨリ以來ハ、夫使ニ殊ニ念ヲ入レ使ワズシテ叶ワザルヲノミ使ヘリ、然ルニ無實ノ夫使

ヲ帳面ニ記セルコトアルハ、郡支配ヨリノ正シノ時ニ申シ開クベキト思ヒテ待チ居ケルニ、其ノ正シ延引シテハ無實ノ罪ヲ蒙ムリ居ケルナレバ、願上テナリトモ正シヲ受クベキコトナリト云ヘルヨシ沙汰セリ、若シ八鄕ノ奉役村下知人ヨリ其ノ如ク願出タラバ、郡奉行ヨリノ諭シニ、夫使帳、出銀帳ノ事ヲ命ゼラレ、百姓訴狀ノ事ヲ命ゼラレシハ、郡支配ヨリ百姓ノ爲メヲ思ワルヽノミニテナク、奉役村下知人ノ爲メ、郡奉行ノ爲メヲ思ワルヽ也、百姓訴狀ノ事ト、夫使帳、出銀帳ノ事トヲ命ジ置レテハ、郡奉行ノ愼シミモ其ノ以前ヨリハ深ク成ラズシテ叶ハヌコトナリ、各トテモ其ノ通リナラン・內午ノ春ニ至リテ夫使帳、出銀帳ノ上ヘニテノ正サルベキ事ヲ正サルベキヨシ命ジ置レシニ、今年丁未ノ春マデ其ノ正シナキハ定メテ故アルコトナルベシ、各ノ心ニハ夫使、出銀ノ帳面ニ相違ノ事アルハ正シヲ受ケテ申開キ、帳面ヲ書キシ百姓ノ罪ヲ著ワシ、相應ノ罰ヲ蒙ラシメント思ヘルナラン、夫使、出銀ノ帳面ノ事ヲ郡支配ヨリ足輕目付ヲ以テ尋子ラレ、足輕目付ノ申ス所ノ虛實ハ他ノ筋ヨリ聞カルベシ、然レバ百姓ノ帳面ノ上ノ事ヲ正サルヽハ、各ヨリ使ワルマジキ夫ヲ使ワレタル證據ヲ分明ニ聞立テ置レシ上ニテノ事ナルベキユヘ、正シニ及ブホドナラバ、各ノ申開キハ成ルマジ、正サルベキ夫使ハ少シモナキト思ワルベケレドモ、心ノ怠タレル所ニハ誤マリアルモノナリ、府中ノ諸役ヨリノ申上ニ、段々ノ日付ヨリ某其ノ事ヲ告ゲ奉ラバ、其ノ虛實ヲ正シタマワンコトヲ願奉ルトノ申上アリシコトヲ聞及バズ、郡支配ヨリ百姓ニ訴狀ノ事ト、夫使帳、出銀帳ノ事トヲ命ジ置レシハ、府中ニ

下日付ヲ立置キタマヘルト同ジ道理ナラント諭シアリテ、願出ノ口上書ヲ返シ渡セルニテアラン 民事紀聞

丁未ノ夏ノ沙汰ニ、百姓訴狀ノ事ト、夫使帳、出銀帳ノ事ヲ命ゼラレテヨリ後ハ、百姓ノ驕リ甚シク成リ、役人ノ下知ヲ以前ノ樣ニハ受ザルト沙汰セリ、百姓ノ公役ヲ勤ムルハ其後モ以前ニ替ラザルト聞コヘ、奉役村下知人ニ上ヨリ許シ置カセタマヘル手使ヲ勤ムルコトモ以前ニ替ラザルト聞コヘタリ、奉役村下知人ヨリ使フベキ夫ヲ使ワントスル時ニ、百姓ノ受ケヌナラバ、早速ニ郡奉行所ニ申出ズシテ叶ワヌコトナルニ、其ノ申出ナキハ使フベキ夫ヲ使ワントスル時ニ、百姓ノ受ケザルコトナキ故ナラン、然レバ以前ノ樣ニ下知ヲ受ケザルト云フハ虛說ナラン 民事紀聞

丁未ノ秋ノ沙汰ニ中國ノ明君ハ告訐(コクケツ)ヲ禁ジタマヘルニ、是州ノ郡支配ノ百姓ニ告訐ヲ命ゼラレシハ當ラヌ事ナリト沙汰セリ、唐ノ太宗ノ詔(ミコトノリ)ニ直言ノ路ヲ開クハ國ヲ利スルナリ、是比ハ封事ヲ上ゲテ人ノ細事ヲ訐(アバ)クコト多シ、今ヨリ是レヲ爲ス者アラバ、讒人ニ當テヽ罪セント曰タマヘリ、是州ノ郡支配ノ百姓訴狀ノ事ヲ命ゼラレシハ、百姓ノ難儀ニ成ル事ヲ書付テ足輕目付ニ出ダセト命ゼラレ、奉役ヨリ百姓中ニ云ヒ渡サシメラレタルナリ、上ヨリノ命令ノ中ニ、百姓ノ難儀ニ成ルコトアルマジキトハ極メ難カラン、奉役村下知人ノ云付クルコトノ中ニ、百姓ノ難儀ニ成ルコトモアラン、然レバ百姓訴狀ノ事ヲ命ゼラレ村々ノ事ヲ聞カルヽハ、直言ノ路ヲ開カレタル善政ナリ、是レヲ指シテ告訐ヲ命ゼラレシト云フコソ當ラヌ事ナルベケレ、訐ハ人ノ陰私ヲ攻メ發クナリ、唐ノ太宗ノ人ノ細事ヲ訐クト

曰タマヘル是レナリ、他人ノ難儀ニ成ル事ニテモナク、國家ノ政道ヲ害ナフ事ニテモナキ小細ナル陰私ヲ云ヒ立ツルヲ訐ト名ヅクルナリ、人ノ好カラヌコトヲ云フヲ總テ訐ト名ヅクルニテハナシ、申棖(シンタウ)ヲ剛(ガウ)ナル者ト稱スルヲ孔子ノ聞キタマヒテ、棖ハ慾ナリト發キタマヒ、微生高(ビセイカウ)ハ直ノ名アル者ナルニ、孔子ノ彼レガ不直ヲ發キタマヘルハ、世人ノ是非ニ惑ハンコトヲ憂ヒタマヘル仁心ナリ、人ノ惡ヲ稱スルコトヲ好ミ、人ノ私ヲ訐ヒテ直トスルトハ甚ハダ違ヒタルコトナルベシ民事紀聞

丁未ノ冬ノ沙汰ニ、中國ニテハ名ヲ記サヌ書付ヲ匿名書(トクメイシヨ)ト云ヒテ好ラヌ事ニ成リ居ケルニ、是州ノ郡支配ヨリ鄕村ノ者共ニ匿名書ヲ出セト命ゼラルヽハ處置ノ宜シカラザルナリト沙汰セリ、匿名書ヲ出スハ志士ノ爲スベキコトニアラズ、君命ニテモ爲スマジキコトナリ、是州ノ鄕村ノ目付トテ相應ニ目付役ヲ立テ置レタルニテナク、郡奉行所ノ足輕目付四人ノミニテ東西三里南北廿六里ニ散リ居ケル百十餘村ノ事ヲ聞シメラルヽハ聞得ザルコト多カルベシ、然レバ百姓ヨリ申出ル路ヲ開キ置レズシテ叶ワヌコトナリ、百姓ヨリ其ノ鄕中ノ難儀ニ成リ、其ノ村中ノ難儀ニ成ル事ヲ申出ルニ、其村ノ名ヲ著ワシ、其者ノ名ヲ著ワシテ書付ヲ出セトアラバ、鄕役人村役人ノ相手ニ成ルコトヲ恐レテ、如何樣ノ重キ難儀アリテモ申出マジ、匿名書ヲ出スハ君命ニテモ爲スマジキコトヽ云フハ、士ニ當ツベキ道理ニテ百姓ニ當ツベキ道理ニアラズ、昔年或人ノ語レルハ、豐前小倉ノ城主ヨリ其ノ家中ニ匿名書ヲ出サシメラシ、或時ノ匿名書ノ中ニ、其ノ主ノ殊ニ寵シタマフ近臣ノ惡行ヲ精シク書キ、分明ナル實事

ニ極マリ其ノ寵臣ヲ流罪ニ命ゼラレシト語レリ、主君ノ寵臣ノ惡行ヲ申上タラバ、主君ノ心ニ違ヒ自身ノ害ニ成ルベキカト恐レテ、目付ヨリ申上ザルヲ匿名書ニ書キタルニテ知レ、惡人ヲ除カレシハ匿名書ノ益ナリ、矢人ハ人ヲ傷ラザランコトヲ恐レ、術ヲ愼シム人ノ爲スマジキ業ナレドモ、矢人ナクバ聖人ノ始メ置キタマヘル弓矢ニテ天下ヲ威ス道モ立ツマジ、考ガヘ思フベキコトナリ民事紀聞

京都ニテ或人ノ語レルハ、昔シ北國ノ内ノ惡地ヲ領セラレシ郡主ト、丹波ノ龜山ノ城主ト公儀ノ命ニテ所替アリシニ、北國ノ郡主ノ家中ハ物成ノ多キ地ニ住センコトヲ悦ビテ丹波ニ移リ、龜山ノ城主ノ家中ハ物成ノ少ナキ地ニ住センコトヲ嘆キテ北國ニ移リ、二三年過ギタレバ北國ニ移リタマヘル大名ノ家中ハ、丹波ニ在リシ時ヨリユタカニ成リ、丹波ニ移リタマヘル大名ノ家中ハ、北國ニ在リシ時ヨリセワシク成リタルト語ル、是ノ物語リノ意味ハ、大名モ能ク勘ガヘタマフベキコトニテ、士モ町人百姓モ能ク勘ガフベキコトナリ、物成ノ少ナキ地ヨリ、物成ノ多キ地ニ移ルコトヲ悦ブハ人情ノ常ナレドモ、北國ノ郡主ノ家中ノ丹波ニ移ルコトヲ悦ベル心ニハ、奢ニ入ル機ヲ念ジケルナラン、物成ノ多キ地ヨリ、物成ノ少ナキ地ニ移ルコトヲ嘆クモ人情ノ常ナレドモ、龜山ノ城主ノ家中ノ北國ニ移ルコトヲ嘆キタル心ニハ、儉ニ入ル機ヲ念ジケルナラン、悦ベルハセワシク成リ、嘆キタルハユタカニ成レルニテ知ルベキコトナリ、國ニテモ家ニテモ奢ノ病アルハ、入リ增ノ增シケル度ゴトニ奢ノ病モ增シ、入リ方ノ少シ增シタル時ノ病ハ治シ易ク、入リ方ノ多ク增シタル時ノ病ハ治シ難キト見ヘタ

リ、奢ハ是州ノ小百姓ナドノ爲シ得ベキコトニアラズト云フ說モアレドモ、其レハ精シカラヌ說ナリ、粳米ノ飯クフヲ奢トイフベキ樣ハナケレドモ、粳米ニ雜穀ヲマジヘテクフベキ者ノ雜穀ヲマジヘズシテクフハ、粳米ノ飯クフモ奢ナリ、雜穀ノ飯クフヲ奢トイフベキ樣ハナケレドモ、雜穀ニ諸菜ヲマジヘテクフベキ者ノ、諸菜ヲマジヘズシテクフハ、雜穀ノ飯クフモ奢ナリ、奢トイフ道理ヲ勘ガフルニハ、何事ニモ是ノ意ヲ推シ廣メテ勘ガフベキコトナラン十穀談

右十三條ヲ庚戌ノ冬十一月七日ニ寫シ終ル、是レヲ讀ミテ家翁ニ聞カシメ、其ノ上ヘニテ問フ所ト答ヘラルヽ所トヲ書キ記スコト左ノ如シ

吾レ問ヘルハ、今若シ昔年ノ如ク郡役ヲ勤メ居ラルヽナラバ、木庭作停止ノ下知ノ行ワルヽ處置ヲ如何ガ爲セルニテアルベキヤト問フ、家翁ノ答ヘニ云ヘルハ、孔子ノ大舜ヲ稱シタマヘル語ニ、舜ハ大知ナルカ、問フコトヲ好ミテ邇言ヲ察シ、惡ヲ隱シテ善ヲ揚グト曰タマヘリ、何事ニテモ事ヲ任ジケル人ハ、此ノ聖語ノ旨ヲ深ク思ワズシテ叶ワヌコトナルベシ、其ノ旨ヲ思ワズシテ事ヲ任ズル人ハ問フコトヲ好マズ、希ニ問ヘルモ答フル人ノ云ヘル中ニテノ惡シキ所ヲ揚ゲテ、善キ所ヲ隱クシ、問ヒニ益ナシト云ヒ立テ問フコトヲ止メ、善キ事ヲ聞ク路ヲ塞グナリ、木庭作停止ノ下知ノ行ハルヽ處置ハ、郡役中ノ相談ノ上ヘニテ、去年ノ冬郡方佐役ノ撰セシ木庭作停止批判覺書ノ前書ト奧書トヲ除キ、木庭作停止ノ旨ヲ信ゼヌ人ノ云フ所ノ五箇條ト、木庭作停止ノ旨ヲ信ズル人ノ云フ所ノ五箇條ト

ヲ寫サセ、伊奈、與良ノ外ノ六郷ノ奉役ノ方ニ一通ヅツ差下シ、信ズル人ノ云フ所ノ五箇條ノ中ニテ奉役村下知人肝煎頭百姓ノ不同意ニ思ヘル所アラバ、不同意ノ譯ヲ委細ニ書付ケ差出セト云ヒ達シ、不同意ノ譯ヲ云出ル所アルハ、分明ニ開キタル覺書ヲ差下シ、云出ル辯言ノ甚ハダ巧ミニシテ開キ難キハ、思辨アルベキ人ニ手寄ヲ以テ尋ネ問ヒ、同役中ノ思辨ニ加ヘテ開キ諭シタラバ、不同意ヲ遂ゲントスル奉役村下知人肝煎頭百姓ノ心モ終ニハ從ヒ、木庭作停止ノ下知ヲ受クベキヨシ申出ルニテアラン、吾等只今郡役ヲ勤ムル身ナラバ、右ノ處置ニテ木庭作停止ノ下知ノ八郷ニ行ワル、樣ニ致シ成サント思ヘルナリ、昔年郡役ヲ勤メ猪逐請ヲ同役ト共ニ下知シテ其ノ事ノ成レルモ、他人ノ云フ所ヲ廣ク求メ聞キ、其ノ聞ク所ノ中ニテノ宜シキ說ヲ取リ用ヒ、同役中ノ我見ヲ立テザリシ故ナリ、郡役ヨリ郷村ニ下知スルニ肝要ノ意旨アリ、郡方足輕目付ノ郷村ニ下レル時ニ、郷村ノ人ニ嘲ケラレ惡マル、事ノ無キ樣ニ郡役中ヨリ堅ク正シ、郡役ノ郷村ニ下レル時ニ、郷村ノ人ニ嘲ケラレ惡マル、コトノ無キ樣ニ自カラ愼シミ、互ヒニ怠タリヲ正シ、郷村ノ諸人ノ中ノ諂ラヒ者ノ、好カラヌ事ニテ郡役ノ氣ニ入ントスル道ノ塞ガル樣ニ郡役中云合セテ、勵ミ勤ムルニアラズバ、何事ノ下知モ行ワルルコトアルマジキト云ヘルナリ

財用說終

受益談

幷同附記、同續錄、同附說
同或問、同束語、同後語

受益談

享保辛亥六月相識レル方ヨリ本多正信聞書ヲ借リ得テ始メテ是レヲ讀ミ、老後ノ學問ニ一得アリ、百姓ニ年貢ノミ上納セシメ、小物成ニ免カルヽヲ宜シトシタマフコト神君ノ大訓ニ見ヘ、上ヲ損ジ下ヲ益シタマフ仁政ナリトノミ心得居ケルニ、其レノミニテナク、財ヲ生ジ食ヲ足シタマヘル政道ナルコトヲ正信聞書ニテ始メテ知リ、是レ自カラ一得トスル所ナリ、是州ノ公役銀ハ昔シ諸色ヲ上納セシ代リナレバ、即チ是レ小物成ナリ、近年ハ郷村ヨリ府中ノ商人ニ賣リテ代銀ヲ公役銀ニ當ツル大豆、辛子、煙草、椎茸、干鰯、干烏賊、於期、若和布、板、屋板、材木、板車モ、基肆養父ノ年貢ヲ載セ來タレル船ニ賣リ渡ス薪モ甚ハダ下直ニ成リ、公役銀ノ高ノ內ヨリノ引ケ方ニ成ル諸色上納ハ甚ハダ少ナク、現銀上納ハ甚ハダ多キトノ兩樣ニテ公役銀上納ノ皆濟百姓ノ苦シミト成レル由沙汰セリ、是州ノ百姓平生ノ過シ方ニ儉約ヲ守リ、作物ノ出來ノ多キ年ノ餘分ト、山海ニ生來ル物ノ多キ年ノ賣出シノ代銀ノ餘分トヲ引キ除ケ置キ、作物ノ出來ノ少ナク、山海ニ出來ル物ノ少ナキ年ノ差シ足シニスルナラバ、今程ノ時勢ニテモ公役銀ノ上納皆濟ニ苦ムコトハアルマジケレドモ、豐カナル時ノ餘分ニテ約ナル時ノ不足ヲ足スコト、大抵ニテハ士トテモ成シ得難ク、殊ニ不在付ノ百姓ハ平生ノ過シ方ハ艱難ナルニテ、作物ノ出來ノ多キ年ト賣出シ物ノ代銀ノ多キ年ハ、平生ノ艱難ノ欝氣ヲ伸ブルマデニテ餘計ヲ蓄

フル心ハナク、其ノ上百姓ハ作所山海ノ出來物ヲ賣レル代銀ニテ、家內入用ノ諸品ヲ買ヒ調フルユヘ作所山海ノ出來物ヲ賣出ス代銀以前ノ半分程ニモ減リテ、買物ノ直段ハ賣物ノ直段ノ下直ニ成レルニ釣リ合ハザルニテ、家內入用ノ物ノ買ヒ調ヘ以前ノ樣ニ成リカテ、是ノ如キ時ニ公役銀ノ催促ノミナラズ、鄕中當用銀、草使、小拂銀ノ催促ヲモ受ケテハ、不足シテ或ハ利付ノ銀ヲ借リ、或ハ請持ノ地面ノ內ヲ年切リニ賣リ、甚シキハ牛ヲ賣リ、馬ヲ賣レル勢ヒニ成ルベシ、是ノ如キノ勢ナルニ出入ヲ掌ドレル役方ヨリ、公役銀上納催促ノ强キニ應ジテ、郡役ヨリ奉役ヘノ催促モ强ク、郡役ノ催促ノ强キニ應ジテ、奉役ヨリ村下知人肝煎ヘノ催促モ强キナラバ、在付ノ好カラヌ村々ト、惣體ノ村ノ中ノ在付ノ好カラヌ百姓ノ苦ミ量リ難キ所アルベシ、只今某昔年ノ如ク郡役ヲ勤メ居ケルナラバ、神君ノ上意ニ年貢ノミ上納セシメ、小物成ヲ免サルヽヲ宜シキトシタマヘル旨ヲ以テ郡支配ヘ申スベキハ、是後每年ノ籾麥ノ年貢ヲ穗見免ニ成サレ、麥出來ノ最初ニ上四鄕ニ目付一組ヅツ差下サレ、東目西目ノ通リ筋ノ村々ノ畠、山畠、段畠ノ麥ノ上中下ノ出來ノ所ヲ、畠ニテ一箇所、山畠ニテ一箇所、段畠ニテ一所ヅツ步刈セシメテ、或ハ晴日ニ當テ、或ハ火氣ニ當テヽ乾カシ、小舛ニテ量リ帳面ニ記シ置カシメ、惣體ノ穗見ハ其ノ鄕ノ奉役ト其村ノ下知人肝煎頭百姓トノ立合ヒニテ穗見セシメ、田作ノ穗見モ籾出來ノ最初ニ右ノ如クセシメ、惣體ハ其ノ鄕ノ役人ニ穗見セシメ、上納ハ古來是州ノ穗見免ノ定法ニ成リ居ケル通リニ、三ツノ免ニテ出來高ノ十ノ三ツヲ上納セシメラレ、公役銀ノ現銀上納ハ成リ次第

ニ上納シ不足ノ分ハ手形ニシ置キ、其ノ郷ノ田畠、山畠、段畠ノ三ツノ免ノ以前ノ定免ニ増シタル分ヲ、其年ノ相場ニ當テタル銀高ノ内ヨリ其ノ郷ノ公役銀未收手形ノ分ヲ引キテ手形ヲ返サシメラレ、木庭作ハ八郷一同ニ停止セシメラレ、若シ昔ヨリノ爲シ來リノ通リニ木庭作スルコトヲ郷役人モ百姓モ一同ニ願ヘル郷アラバ、願ヒノ通リニ許サレ、其ノ郷ハ田畠、山畠、段畠バカリ郷役人ニ穂見セシメラレ、木庭ハ其ノ郷ノ大中小ニ應ジ、目付役ヲ別シテ一組ニテモ、二組ニテモ、三組ニテモ差下サレ、木庭ノ坪々ニテ歩刈ヲ以テ出來ヲ極メシメ、十ノ三ツヲ上納セシメラルベシト初ヨリ命ゼラレンコトヲ申スベシ、是ノ如ク命ゼラレバ木庭作停止ノ下知ヲ受ケ用ヒヌ郷ハアルマジ、田畠ヲ耕スコト塊ヲ碎クコト、作物ノ根ニ土ヲ寄スルコト草ヲ抜クコト、牛馬ヲ野飼ニセズ、柴草ヲ多ク踏スルコトノ草糞、燒糞、水糞ヲ多ク拵ラユルコトヲ、木庭作ノ止ミ、公役銀ノ現銀上納ノ爲メノ働キヲ止メタル手間ノ延ノ分ホド精シクシテ、諸色上納近年ノ上納ノ大數ヨリ増スコトナク、年中入用ノ諸色ヲ麥ノ蒔付ノ濟ミタル後ニ取リ置キ拵ヘ置キ、正月二月ノ間ニ段々ト濟ギ上ラシメラレ、其ノ時ノ入用ノ諸色ハ其物ヲ商買スル町人ヨリ役方ニ買ハシメラレ、百姓ハ農ノ時ニ他事ヲ成サズ、專ラ農事ヲ務ムル樣ニ下知アラバ穀物出來増シノ道ノ幾久シク相續スルニテアルベシ、猪逐詰ハ元祿十三年庚辰ノ冬ヨリ始マリ、十年ヲ經テ寶永六年己丑ノ春ニ至リテ成就セリ、郷村ノ人高ノ知レ居ケルハ延寶五年丁巳ヨリノ事ニテ、丁巳ノ年ハ一萬四千五百九十三人、寛永元年甲申ニハ一萬六千三十八人、丁巳ヨリ甲申マデ二

十七年ノ間ノ人高ノ增シ千四百四十五人ナルニ、今年享保十六年辛亥ノ鄕村ノ人高ハ一萬八千七百五十人、猪逐詰ノ始マリシ後ノ六年目、乙酉ノ年ヨリ今年辛亥マデ二十七年ノ間ノ人高ノ增シハ二千七百十二人、猪逐詰以前ノ凶年ニ鄕村ノ貧民食用ノ米ヲ府中ヨリ買ヘルコト、猪逐詰以後ヨリモ多カリキト云ヒケルハ、猪逐詰ニテ諸穀諸菜ノ出來增シアル驗シナリ、以前ノ猪荒ノ畠ノ耕作ノ成リ難キ所ヲ作リ詰メ、木庭ノ床ノ平ラカナル所ヲ山畠ト成シ年々耕作シ、麥ノ生ヒ立チ秋物ノ生ヒ立チヲ猪ニ掘リ返サレシヲ掘リ返サレズ、實ノレルヲ猪ニ喰ヒ潰サレシヲ喰ヒ潰サレズ、夜ノ猪逐ニ疲レシコトノ止ミタルニテ晝ノ農務ノ力ヲ增シ、猪牆ヲ構ヘシ大分ノ手間ノ止ミタルニテ作所山海ノ働ラキノ力ヲ增シ、皆是レ猪逐詰ノ實益ナリ、猪逐詰以前ニ一石蒔ヨリ五石出來タル木庭ハ種子ノ四倍ノ出來ニテ、種子ヲ引キタル作得四石ト見ヘ、猪逐詰以後ニ其ノ類ノ木庭ヲ二石蒔伐明タルハ、種子ノ三倍ノ出來ニ成リテモ、二石蒔ニテハ八石出來、種子ヲ引キタル作得六石ト見ヘ、是ヲモ百姓ノ利益トスレドモ、木庭作ヲ廣メタル利益ハ實益ニアラズ、其利ノ代リニハ木庭作ノ害ノ其分程增ス故也、只今ノ木庭ノ明ケ方ノ上ヘニ木庭ヲ廣ク明ケテハ、種子ハ增シ出來ハ減リ、作得ノ無キ積リナルユヘ、假令木庭ヲ此ノ上ヘニモ廣ク明ケヨトノ下知アルトモ、明ケ方ヲ此ノ上ヘニ增スベキ樣ナシ、木庭作ノ止ミテハ山々ニ木ノ多ク育ツニテ水氣ヲ增シ、大雨ノ時ニ土沙ノ流レ下リ田畠川筋ニ害アルコトハ減リ、天水田モ井手掛ノ田ト成リ、水ヲ引キ得ベキ畠ハ段々ト田ト成リ、木ノ葉ノ多キニ雨ヲ含ムニテ遙カ水ノ出ズシテ、雨後ノ水

氣ノ殘ルコト長ク、夕立ノ雨ノ降ルコト增シテ大旱ノ害ハ滅リ、山々ニ木ノ多ク育チテハ薪材、木板、屋板ノ用ヲ利シ、栗櫧ノ若立ノ多ク育ツニテ栗ハ十年ノ後ニ大益ノ見ヘ、櫧ハ二十年ノ後ヨリ段々ト大益ノ見ユルニテ有ベシ、昔ヨリ凶年ニハ定免捨リヲ下サルレ共、捨リノ少ナキ樣ニト吟味アル時ニハ捨リ檢分モ辛ク、凶年ニハ飢飯米ヲ下サルレドモ、出方ノ成ルタケハ少ナキ樣ニト吟味アル時ニハ飢飯米モ行渡ラズ、葛根、蕨根ニテ食用ノ足ラザルホドノ凶年ニハ、脾胃ヲ害ナフ大華蘚ヲモ食スルコト昔ヨリ有リケルト聞ヘ、何レニモ木庭作停止ニ決定シテ農作ノ爲シ樣ノ精シク成リ、諸穀諸菜ノ出來增シ、栗櫧ノ多ク成ルホドノ利益ハアルマジ、加信聞書ニ執政本多佐渡守正信ノ語ヲ記シテ、新シキ開キヲサスル時ハ有リ來タル作所ノ出來ノ減ルモノナリ、有リ來リタル作所ニ油斷ナク念ヲ入レ耕作セシムベシト云ヘルヲ以テ考ガフルニ、木庭作停止ニ成ラバ、畠、山畠ノ蒔目何程ヨリ多キハ段畠ヲ拵ヘサセズ、何程ニ足ラザルハ其ノ足ラザル分ノ蒔目ホド段畠ヲ拵ヘサセコト命ゼラルベキコトナリ、川普請ニ曲レル川ヲ直グナル川ニ改ムルコトアリ、直グニ成リテ洪水ノ時ノ爲メニ宜シキト僉議ノ極マリタルハ、直グニスベキコトナレドモ、曲レルヲ直グニシテ古川ニ地ノ上ガレバ作所ノ增スト見テ、洪水ノ時ノ水勢ヲ精シク聞合セヌハ、直グニシタル川ヲ洪水ニテ損サシ益ニハ成ラズ害ニナルコトアリ、是モ作所ノ增スコトヲ一偏ニ求ムル上ヘノ誤リナリ、猪逐請ノ事ト、木庭作停止ノ事ト、段畠普請ノ事トヲ諸人ノ議スル所ハ曾テ著ハセシ數部ノ書ニ辨ジ置キタリ、猪逐請以後諸穀諸菜出來增シ人高モ

殊ニ增シ、凶年ノ食用ノ不足モ以前ノ程ニナキ利益アレドモ年貢ヲ以前ノ定免ノマヽニシ置カレケルニテ、百姓ノ飲食、衣服、家居、器物ノ侈リヲモ增シ、公役銀ノ現銀上納ノ爲メトテ蓄ハヘ置クコトハナク、近年ノ時勢ニテ公役銀ノ現銀上納ニ苦メル如ク、木庭作停止ニ成リ、田畠、段畠、山畠ノ耕作ニ念ヲ入ルヽ下知アリテ穀物出來增ストモ、年貢ヲ定免ノマヽニシ置カルヽナラバ、其ノ時ノ樣子モ猶逐詰以後ノ樣子ニ異ナラズ、耕作ニ彌以テ精ヲ入レ、穀物ノ彌以テ出來增ニハ成ルマジキコトヲ加信聞書ニ神君ノ上意ヲ記シ、百姓ノ仕置ハ萬事ノ根元ナリ、餘リニ宥免スグレバ愚カナル百姓ユヘ一寸先ヲ考ヘズ、侈リ出來テ耕作ニ精ヲ入レズト曰タマヘルトアルニテ始メテ知レリ、木庭作ノ堅ク止ミ、籾麥ノ出來增シアルヲ三ツノ免ニテ上納セシメラレタラバ、公役銀ヲ總テ免サレ、諸色ヲ賣上ゲニ命ゼラルヽトモ、年貢ノ增セシ分ノ代銀以前ノ公役銀高ニ勝サリ、上下ノ利益段々ニ增益スベシ、譬ヘバ上木庭ノ十二石蒔二石五斗物成ノ所ヲ、古法ノ如ク十二年目ニ一石蒔伐リ明ケ、種子ノ十倍ノ出來ニテ十一石出來、其ノ中ヨリ種子一石物成二石五斗ヲ引キ、作人ノ得分七石五斗ナルニ、其ノ木庭ヲ四年目ニ三石蒔伐リ明クレバ、種子ノ五倍ノ出來ニテモ十八石出來、其中ヨリ種子三石物成二石五斗ヲ引キ、作人ノ得分十二石五斗ト見ヘ、穗見免ニ成リテハ種子ヲ引キタル穗見ニテモ、十五石ノ十ノ三ツハ四石五斗ト見ヘ、作人ノ得分ハ十石五斗ニ成ルユヘ、村地ヲ請持居ケル作人ハ總テ穗見免ヲ嫌ヒ木庭作停止ニ成ラバ畠、山畠、段畠ノ出來ヲ穗見ニテ十ノ三ツ上納セシメラレンコトヲ恐レ、木庭作ノ止

ミテ大分ノ手間ノ延ビアルヲ畠、山畠、段畠ノ農事ニ用ヒテハ、十ノ三ツ上納シテモ十ノ七ノ得分以前ノ得分ニ勝サルベキヲ考ヘズ、上下ノ利益ニ成ルベキ農政ノ大事ヲ云ヒ破ラントスルナレバ、郡役ヲ勤ムル人ノ總テ皆心ヲ同ジクシテ郡支配ノ下知ノ力ヲ佐ケズバ、大事ノ成ルコトアルマジ、某今年七十五歳ノ老身ニテ是ノ如キ旨ヲ書キ述ブル事ハ、古人ノ「殘軀未ダ死セズ敢ヘテ忘レンヤ國ヲ」ト詠ジケル意ナリ

受益談 終

受益談附記

謹テ按ズルニ、聖賢ノ教ヘニ、思フコト其ノ位ヨリ出ス、其ノ位ニ在ラザレバ其ノ政ヲ謀ラズト曰ヒタマヒ、匹夫ノ賤シキモ、其ノ君ヲ君トシ其ノ民ヲ民トスルコト其分内ニ在リト曰ヒタマヘルハ、並ビ行ハレテ悖ラザルノ道ナリト見ヘ、因テ某ガ近頃述作スル受益談ノ卷末ニ右ノ旨ヲ書キ加ヘ、嗣子守正ヲシテ八幡宮ノ祠官藤氏ノ宅ニ持參セシメ、奉納ヲ求メ請ハシムルナリ

享保辛亥七月九日、對州府小生陶山存謹識、受益談ノ奉納事濟ミケル後ニ思ヒ出セル一事ヲ書キ述

ベ、此ノ書ニ附記シ置クコト左ノ如シ、三事ハ穂見ニ種子ヲ引キテ出來高ヲ極ムルコトト、木ノ育チタル山ニ竹ヲ植ヘル事ト、蕎、粟、黍ヲ凶年ノ備ヘニ當テ、儲蓄ノ出シ立テヲ止ムル事トノ二ツナリ、來ラヌ事ヲ云フヲ懸ムハ惑ヒナリ、先聖ノ「人無遠慮必有近憂」ト曰ヒタマヒ、後儒ノ「慮不及千百年之遠則患在旦夕之近矣」ト說ケルニ切ニ考ヘタラバ、自カラ惑ヒヲ解クベシ

是州ノ年貢昔ハ穂見免ナルニ、寛文四年甲辰ニ物成ノ仕付アリテ定免ニ成リ、其ノ中ニ穂見免ニ成リ居ケル所モアレドモ、段々ト定免ニ成レリ、穂見免ハ定法ハ十ノ三ツ上納スルト知レ居ケレドモ、種子ヲ引キタル十ノ三ツトモ、種子ヲ引カザル十ノ三ツトモ分明ニハ知レズ、田一歩ニ三勺三才蒔、畠一歩ニ五勺蒔ノ積リニシテ種子ヲ引カシメラレ、若シ作人麥作ニ念ヲ入レヌ村々モアラバ、大豆、小豆、粟、蕎麥ノ出來ノ十ノ三ツヲ上納センメラルベキコトナラン、木山ニ大利アルベキハ竹ヲ植ヘサセラル丶コトナルベシ、山中原野ニハ何レノ州郡ニテモ野猪アルユヘ、筍ノ育チ竹ノ廣ク生ズルコトナキト聞エ、是州ノ山中ニハ野猪ノナクナレルナラバ、竹ヲ植ソルニ宜シキ時節ニ百姓一同ニ一口ヅツ竹ヲ掘リ、宜シキ程ニ間ヲ置キテ植ヘ、木ノ密ニ育チテ竹ノ育ツニ障ルベキ所ハ宜シキ程ニ木ヲ滅ジ、木ノ透間ヲ疎ソカニセヨト奉役、村下知人、肝煎ヨリ百姓ニ下知セシメラレ、何レノ山モ低キ方ヨリ植ヘシメラレ、生ジテ三年ニ成ル竹ヲ臘月ニ伐リテ村ニ出シ置キ、其雜養父ノ年貢ヲ載セ來ル船ニモ、其ノ外商買物ヲ載セ來ル船ニモ賣リ渡シ、代銀ノ十ノ八ツハ百姓中ニ取リ、十ノ二ツハ奉役、村下知人、

肝煎中ニ受ケシメラレ、濱出運上ヲ何ホド出スナラバ、鄕村ニテノ買ヒ直段ヲ何ホドニ買フベキカト問ハシメラレ、濱出運上ト買ヒ直段トヲ宜シキホドニ定メシメラレ、大木ノ中ニ育ツ竹ハ大風ニモ倒レズ、竹林ニ育ツ竹ヨリモ長ク、平地沃土ノ竹ヨリハ性ノ强キト云フナレバ、木庭作停止ヲ未ダ命ゼラレヌ鄕ニテモ、竹ヲ風ノ吹キ倒サヌホドニ木ノ長ジタル所ニハ何レノ山ニモ段々ト竹ヲ植ヘシメラルベキコトナラン、愚カナル百姓ハ儲蓄ヲ面々ノ爲メト思ハズ、出スマジキ物ヲ出スト思フユヘ、古來儲蓄ノ法ノ行ハレシ時代ハ希ナリ、木庭作ノ停止アリテ定免ヲ穗見免ニ改メラルヽナラバ、儲蓄ノ下知ハ止ミテ宜シカランヽ、儲蓄ヲ出スコトモ百姓ノ心ニハ小物成リヲ出ス樣ニ思フベシ、木庭作ノ止ミ栗櫧ト藷ノ多クナラバ、儲蓄ノ勝備ハレルニ勝サルベシ

受益談附記終

受益談續錄

受益談ノ意旨ヲ嗣子ニ語リテ云ク、近比聞及ブニ、伊奈郷ノ中ノ五箇村ハ今年ニ至リテ公役銀ヲ出シ得ベキ在付ノ百姓マデモ、公役銀ヲ少シモ出サズ、其ノ事ヲ郡役ヨリ伊奈郷奉役ヘ不審ノ問ヒアリテモ、奉役ヨリ郡役ヘ分明ナル返答ノ成リカヌルト沙汰セリ、何某何某ハ公役銀ヲ出シ得ヌ身上ノ百姓ニテナキト申出タラバ、其分ノ百姓ハ罪人ニ定メラルベキヲ恐ルヽナラン、右五箇村ノ百姓ノ心ニ木庭作停止ユヘ百姓困窮シ、公役銀ヲ他郷ノ程ニモ出シ得ザルト申立ルナラバ、其ノ所ヨリ木庭作ヲ免サルベシト思ヘル樣子ニ見ヘタルトテ、木庭作ノ念ヲ切ラシムル爲メニ、植立物所ノ一斗蒔ホドノ木庭作ヲモ奉役ヨリ一切ニ停止セバ、五箇村ノ百姓ノ申出ニ、植立物所一斗蒔ノ木庭作ヲ免シ置カレテサヘ、百姓ノ作所不足シ身上困窮セリ、其ノ一斗蒔ヲモ停止アラバ困窮彌以テ重ク成ルベキト申シ、公役銀ヲ上納セヌヲ木庭作ノ免シアル所ト思ヘル心ノ殊ニ成ルニテアルベシ、受益談ニハ公役銀ヲ免サル道筋ノ次第ヲ記シ置キタレドモ、年貢穗見免ノ事ト同時ニ命ゼラレ、畠、山畠、段畠ニ麥ヲ蒔付ズ、辛子ト其外ノ物ヲ蒔付タル坪々アルニモ、其年ノ麥ノ歩刈リノ出來ホドニ出來ヲ當テ、十ノ三ツヲ上納セシメラレ、麥作ヲ粗クシ秋物ノ作ヲ精クスル村々ニ年貢ヲ麥作ニテ上納セシメラレズ、大豆、小豆、粟、蕎麥ニテ上納セシメラルヽニハ、芋、孝行芋、蕪菁、大根、麻、木綿等ヲ種付蒔付タル坪々アルニ

モ、其年ノ秋穀ノ歩刈リノ出來ホドニ出來ヲ當テ、十ノ二ツヲ上納セシメラルベシト命ゼラルベキコトナラン、公役銀免許ノ事ヲ命ゼラレズシテ年貢穗見免ノ事ヲ右ノ如ク命ゼラレバ、百姓ノ受ケザルコトモアルベシ、百姓ヨリ直グノ賣上ゲニ成ラズシテ叶ハヌ物ハ、材木、板車、苫等ノ物ナルベシ、材木、板車、苫等ノ外ノ諸色ハ百姓ヨリ賣上ゲシメラル丶コトナク、府中ノ商賣人ノ郷村ヨリ買ヒ取リ府中ニテ賣レルヲ、役方ヨリ買ハシメラルベキトノ命ナクバ、諸色賣上ゲノ多ク成リ、商買人ニ賣レルヨリハ下直ナル賣上ゲニ成ランコトヲ恐レ、公役銀上納ノ免許ヲ辭シ、以前ヨリノマ丶ニシ置キタマヘカシト願フコトモアラン、百姓ヲ治ムル役人ト、年貢ヲ請取ル役人ト、百姓ノ賣上グル物ヲ買ヒ取ル役人ニ百姓ヘノ憐愍ノ實意ナクバ、如何ナル良法ニモ種々ノ障リ出來ベシ、憐愍ノ實意アリテ憐愍ノ過ギヌコソ宜シカルベケレ、憐愍ノ過ギタラバ憐愍ノ無キニ同ジカルベシ、第一條

是州ノ年貢寛文四年ヨリ定免ニ成リ、定免ハ二ツ半ノ免ナリト云ヘドモ、山ニ近キ畠ニハ猪荒ノ了簡アリテ免ヲ仕付ケ、海邊ノ畠トテモ猪ノ通ハヌ畠ハ少ナク、芋ヲ種ヘタル畠ナドハ在所ノ家ノ廻リマデ猪ノ害甚シク、猪逐詰以後木庭ノ床ヲ山畠ニシ、年々ニ耕作シ來ル土地モ定免仕付ノ時ハ木庭年貢ヲ仕付タルナレバ、是後畠、山畠、段畠ノ年貢ヲ穗見免ニテ十ノ三ツヲ上納セシメラレバ、其ノ年貢ノ增シ輕キコトニテハアルマジ、麥出來ノ惡シキ年ノ穗見免ハ、定免ノ時ノ捨リヲ請ケタル分量ヨリハ、公役銀ノ現銀上納ノナキ損分ノ多カルベケレドモ、木庭作ノ止ミテ田畠、山畠、段畠ノ耕作ニ精ヲ

入レ段々ト出來增アルニ成ラバ、君上ノ利益年々ノ並シ、公役銀ヲ上納セシ定免ノ時ノ利益ノ並シニ勝サリ、百姓ノ利益ハ尙ホ以テ勝サルベシ、殊ニ木庭作ノ停止アリテ木山竹植立ノ事ヲ命ゼラレバ、上下ノ利益ノ勝サレルコト彌々多カラン、木山竹植立ノ事ヲ命ゼラルヽハ、木庭山ニ成リ居タル所ニ竹ヲ植ユルホドニ、木ノ長ズルコト十年十五年ノ中ニハアルマジケレドモ、二三年立チ五六年立チヲ伐リ明クル上上木庭、上木庭ハ格別ニテ、八九年十一二年モ立置キシ中木庭、下木庭ハ、木庭作ノ止テ十五六年ヲ過ルナラバ、竹ヲ植ユルホドニ木ノ長ズベシ、上上木庭、上木庭ハ地位ノ好キニテ、中木庭、下木庭ニ木ノ長ズル年數ヨリハ早ク長ズベシ、當分ハ郷々ニアル立山ト村立山トニ竹ヲ植ユベシ、三年目ヨリ以後ハ段々ト三年立ノ竹ヲ伐リ出シ、初メハ小竹ノミナリトモ漸々ニハ中竹大竹モ出來ベシ、譬ヘバ他方ヨリ來リテ銀一貫目分ノ竹ヲ買出ヅル商賈船ナラバ、濱出シノ運上ヲ五百目ニ當テラレ、百姓ノ植立テ伐出セル苦勞分ヲ四百目ニ當テラレ、奉役、村下知人、肝煎、頭百姓ノ竹植立ノ下知臨時ノ苦勞分ヲ百目ニ當テラレ配分セシメラレ、立山ノナキ村ハ木庭山ノ木ノ竹ヲ植ユルホドニ長ズル時ヲ待チテ其ノ如クシ、栗ノ木ノ竹ニ交ハレバ枯ルヽト云フナレバ、栗ノ木ノ育チケル邊ニ生ズル筍ハ取リテ、其ノ外ノ所ノ筍ハ、竹ニ成ラヌ二番筍ニテモ取ラズシテ腐ルニ任セ置キ、三年竹ヲ伐ルハ極月ニ伐リテ村ニ出シ、商賈船ノ入來ル時ニ賣渡セト命ゼラルヽニテアラン、嘗テ聞及ブニ、基肄養父ノ山廻役ノ云ヘルハ、牛原河内ノ山中ノ大木ノ立チ居ケル所ニ試ミニ竹ヲ植ヘケルニ、筍ヲ猪ノ喰

ヒ猿ノ取レルニテ竹茂ラズ、希レニ育チタル竹ハ竹林ノ竹ヨリモ殊ニ長クシテ殊ニ直グナリ、猪猿ノナクバ好キ竹ノ育ツベキニ惜シキ事也ト云ヒシト聞及ベリ、何レノ州郡モ其ノ如クナラン 第二條

郷村ノ下知ニ郷士百姓ノ好ム下知ハ、郡役中ニ不同意ノ人ノ雜リ居テモ行ハルヽニ障ハリアルマジ、多年ノ舊弊ニ郷士モ百姓モ共ニ染ミ着キ居ケル事ヲ改タメシメラルヽニハ、郡役三四人ノ中ニ不同意ノ人ノ一人アリテモ、郡支配ノ下知ノ行ハルヽニ障ハルベシ、況ヤ眞實ノ同意ノ人ノ有リ無シノ知レザルハ尚以テ行ハレ難カラン、郡支配ノ下知ナレバ、郡役ノ中ニ不同意ニ思フ人アリテモ不同意トハ申スマジ、上邊ニ同意ノ樣ニ見セ内心ニ不同意ヲ含ミ居ケル害ハ、上邊マデ不同意ヲ見スル害ヨリモ甚シカラン、然レバ木庭作停止、年貢穗見免、木山竹植立ノ三事ト、三事トニ關スル條目トハ、總テ老臣總中ヨリ直グニ八郷奉役ニ命ゼラレ、郡役ニハ有リ來レル當用ノ事ノミ勤メシメラレ、目付役、下目付ノ中ヲ五六人ヅツ擇バレ、郡目付兼帶ニ定メ置カレ、老臣惣中ヨリ八郷奉役ヘ下知アル事ノ行ハルヽ樣ニ巡察セシメラレ、川普請モ有リ來リタル川筋ノ損ゼヌ樣ニスル普請ノミ地方普請奉行ニ任セ置カレ、古川ヲ新川ニ改ムルハ地方普請奉行ト、其ノ郷ノ奉役ト、其ノ川筋ニ在ル村々ノ下知人、肝煎、頭百姓、惣百姓ノ思ヒ寄リヲ目付役ヨリ尋ネ聞キ、其ノ云フ所ノ書付ヲ出サシメラレ、老臣惣中ト郡目付中ノ吟味ノ上ニテ命ゼラレ、其ノ類ノ事ハ總テ其ノ如クナラバ、農政ノ行ハレズコトアルマジ、郡役ハ農政ノ外ノ事ヲ郡支配ヨリ郷村ニ命ゼラレ、諸役方ヨリ郡役所ニ云ヒ來リ、郷村ヨリ郡役

所ニ申出ル當用ノ事ノミ勤ムルトモ、精シク勤ムルナラバ餘リアルホドノ勤メナルベシ、若シ農政ノ下知ヲ老臣惣中ヨリ直グニ奉役ニ命ゼラルコトヲ妬ミ、當役ヲ勤メテモ本意ナラヌト思ヘル郡役アラバ役ヲ辭スベシ、其ノ跡役ヲ命ゼラルヽニ辭スル人ハアルマジ第三條

受益談ニ加信開書ヲ引キ、段畠モ分數ヲ相應ニ定メシメラレ度事也ト論ジ置ケリ、其事ヲ吾ガ親族ヨリ郷士ニ語ルニ、其ノ人ノ云ヘルハ、段畠ノ分數ヲ定メラルヽトモ、少シ餘分ヲ定メ置カレ其餘分ヲ常年ニハ耕作セズ、干鰯ノ餘分アル年ニ干鰯ノ養ヒヲ入レテ耕作セシメラルヽ事宜シカラント云ヘル由吾ニ知ラセタリ、吾ガ思フニハ、畠、山畠ノ蒔目ノ多少ニ應ジ、畠、山畠ノ少キハ相應ニ段畠ヲ多ク拵ヘシメ、畠、山畠ノ多キハ相應ニ段畠ヲ少ナク拵ヘシメ、大抵蒔目ノ定數アリテ耕作セヌ段畠ナク、干鰯ノ餘計アル年ニハ蓄ヘ置キ、翌年ノ養ヒニ當テサセタキ事也、ケ樣ノ類ノ事ハ其事ノ決定アリテ命ゼラル時ニ、衆議ヲ合セテ勝レル方ヲ用ヒ下知セシメラルヽニテアラン、畠、山畠、段畠ノ蒔目ヲ合セタル高ニ其村其村ノ定數アラバ、年貢ヲ麥ニテ上納セシメラルヽ村々ノ作所ノ中ニテ、麥ヲ作ラヌ坪々ニ麥ノ歩刈リノ出來ヲ當テシメラレ、年貢ヲ秋穀ニテ上納セシメラルヽ村々ノ中ノ、秋穀ヲ作ラヌ坪坪ニ秋穀ノ歩刈リノ出來ヲ當テシメラルヽ時ニ、繁雜ナラズシテ容易ニ濟ムベシ、木庭作停止ニ決定ノ命アラバ、今作人帳ヲ八郷ヨリ出サシメラルヽニテアルベシ、不精ナル百姓ニモ一人分ノ村地ヲ請持セ置キ、次男ニ好キ百姓ニ成ルベキ者ノ出來テモ、彼ノ不精者ノ請持チノ地ヲ取上ゲ好キ百姓ニ成

ルベキ次男ニ請持セ、彼ノ不精者ヲ名子ノ部ニ入ルヽコトナキハ是州郷村ノ弊事ナリ、農政ノ行ハルルニナラバ此ノ如キノ弊事ハ總テ改メシメラルヽニテアラン、次男ノ段々ト出來增スニハ、山中ニテ山畠ニ成ルベキ平地ト、段畠ニ成ルベキ穩カナル所アルヲ、山畠、段畠ニ拵ヘシメラレ次男ニ請持セラレ、三箇年ハ其ノ山畠、段畠ノ作物ヲ作リ取リニサセ置カレ四箇年目ヨリ穗見免ニテ十ノ三ツヲ上納セシメラレ、次男ノ請持ノ山畠、段畠モ分數ヲ定メテ拵ヘシメラレ、年貢ヲ上納スル年ノ前年ニ何レノ村ヨリモ其ノ帳面ヲ出サシメ、今作人帳ノ末ニ添ヘシメラルヽニテアラン第四條

八郷ノ中ニテ段畠ノ拵ヘ樣ノ宜シキハ三根郷ナリト沙汰スル由聞及ベリ、伊奈郷ノ中ニテ殊ニ風俗ノ惡シキ村々ハ段畠ヲ拵ラフルニ、穩カナル所ノ段畠ニ成ルベキハ段畠ニ拵ヘズ、其ノ分ハ植立物所トテ一斗蒔ヅツ奉役ヨリ許セル木庭作ノ地ニ當テ置キ、木庭作ノ免シアル時ノ伐リ明ケ所ニモ當テ置キ、段畠ニスルハ段畠ニ成ルマジキ嶮岨ナル所ヲ段畠ニシ、苦土ヲ掘リ出シ置キ作物出來ヌ樣ニシ、其ノ類ノ村々ノ百姓ノ中ニテ、其ノ棟梁ニ當ツベキ百姓一二人ニ相應ノ科代ヲ出サシメタク思テモ、木庭作停止ノ決定ノ命ナキ前ニ其ノ如クスルコトヲ憚リ、其ノ分ニシ置ケバ、彌段畠下知ノ行ハレヌ樣ニシ、其レ共ニ木庭作ヲ免サルヽ事ノ延引スルハ、公役銀ヲ大抵上納スル故ナラント思ヒ、郷中ノ五箇村ノ百姓ハ在村ノ好キ者共マデ一同ニ、公役銀ヲ出サヌト沙汰スルヨシ聞及ビ、是レ實說ニテアラント考ヘ思フナリ、公役銀免許ノ事ト年貢穗見免ノ事ノ僉議ヲ精シク遂ゲラレ、詳カニ命ゼラレ、其ノ上

ニモ惡シキ爲シ樣ヲ改メヌ村々アラバ、其ノ村々ノ中ニテ在付ノ殊ニ好ク年ノ殊ニ長ジタル百姓一人ヅツニ、少シ難儀ニ思フホドノ科代ヲ出サシメラレ、何レノ鄕モ其ノ格ニ命ゼラレタラバ、下知段々ト行ハルヽニ成ルベシ、木庭作停止ノ後ニ山奥ニ木庭作シタル所アリテ知レタリトモ、法ヲ犯シタル者ヲ尋子ラレズ、其ノ木庭作ノ作物ノ出來タル時ニ、村中ヨリ刈取リ掘リ取リ、船便ノ時ニ郡役所ニ納メサセヨト命ゼラレテ事濟ムベシ第五條

人世ノ患ヒハ宜シカラヌト見ヘタル事ノ中ニテ大小輕重ヲ考ヘ、殊ニ大ナルコト殊ニ重キコトヨリ段段ト改メテ宜シクスルコトナク、宜シカラヌマヽニシ置クヨリ起レリ、吾輩ノ如キ下愚ノ者ハ今日目前ニ見ヘ來ル患ヒ、皆是レ前ニ慮カリナキヨリ起レル患ヒナルコトヲ悟ラズ、其ノ時ニモ遠キヲ慮バカリテ言ヲ立ツル人アレバ、目ニ見ヘヌコトヲ云フトテ惡ミ、見ヘ來レル患ヒニ處置スルモ、只是レ今日ヲ謀リテ明日ヲ謀ラヌ處置ナリ、百姓ノ農隙ハ極月正月ノ二箇月ノミト見ヘ、其他ノ十箇月ハ農務ノ急ナルト、急ナラザルトノ違ヒアルマデニテ皆是レ農時ナリ、若シ鄕役人ノ心ニ公役銀ヲ强ヒテ皆濟セシメント思フ所ヨリ月割ニセバ、不在付ノ百姓ハ農務ノ急ナル時ニモ山海ノ働ラキヲ爲ス日アルベシ、穀物ヲ收納シタル時分モ百姓ノ家內ノ心ノ緩マズ、麥ヲ取ルト秋物ノ蒔付、種付トノ樣ナル夜ヲ日ニ繼グベキ急務ノ時ニ飯ヲ心ノマヽニ食スルハ格別、急務ナラヌ時ニ一日ニ一升ヲ穀物ヲ食シテ事濟ム者ノ二升三升ヲ食スルコトナク、麥ニ黑煮ノ簇鹿角菜等ヲ交ヘテ食シタル者ノ交ヘヌコトナ

キ様ニ下知ヲ致シ成スハ、尋常ノ役人ノ力ニハ及ビ難キ所ナリ、豐年ハ元ヨリノ事ニテ、凶年トテモ穀物ヲ收納シタル時分ノ百姓ノ家內ニハ緩ミアルト云フナレバ、年貢ヲ穗見免ニ命ゼラレ、十ノ三ツヲ上納セシメラレ、收納ノ時分ニモ百姓ノ家內ノ緩マザル樣ニ成サレ、公役銀ハ免許セラルヽコソ宜シカルベケレ

某只今垂死ノ病中ナルニ、貪欲、名聞、我慢、嫉妬ノ凡情ノ生ズルコトハ平日ヨリモ薄クシテ、君上ノ爲メ家中、町中、鄕村ノ爲メニ實益アルコトノ起リ難キヲ憂フルコトハ平日ヨリモ厚シ、是レ鳥ノ將ニ死ナントスルニ其ノ鳴クコト哀シキト云ヘル道理ナラン、某ハ下愚不肖ノ身ナルニ、神君ノ上意ヲ錯マリ會スル所アルベキヲモ恐レズ、何ンノ用ニモ立タヌコトヲ書キ述プル所ノ多カルベキヲモ思ハズ、受益談ト此ノ續錄ヲ著ハスハ、只是レ獻芹ノ類ニ成リ、凶惡ノ類ニハ成ルマジキカト思フ故ナリ第六條

受益談續錄終

書受益談續錄後

享保辛亥七月中比ヨリ八月初比マデ疾ヲ力メテ受益談續錄ヲ草案シケルニ、段々ト元氣ノ疲レ甚シク成リ、意旨ヲ書盡シ得ズシテ編ヲ成セリ、其後二十日ホド保養シテ書殘シヲ書足スナリ、今若シ老臣ヨリ年貢穗見免ノ事、下木庭作停止ノ事ト、公役銀免許ノ事ト、木山竹植立ノ事トヲ八郷奉役ニ命ゼラル、ナラバ、其ノ詞ニ先年以來郡支配ヨリ八郷ニ農作ノ事ノ下知アルハ、農作ノ精シク成リ作物ニ出來增シアリテ、百姓ノ益トナランコトヲ求ムルマデニテ、上納ノ增益センコトヲ求ムルニアラズト示シ置ケリ、然ルニ近年ハ朝鮮トノ交易ノ利分ノ減ジ、如何程ニ儉約ヲ行ハレテモ用ノ足ラザル所ヨリ、少シヅツニテモ每年ノ入方ノ增スコトヲ命ジタマハズシテ叶ハザル勢ニナレリ、鄉村ノ田畠木庭寬文四年ニ年貢ノ仕付アリテ定免ニ改マリシ時ハ、猪ノ作物ヲ害ヒケル時ナルユヘ、惣體ノ仕付ニ其ノ了簡アリ、其ノ後ノ猪逐詰ニテ以前ノ猪ノ害ヒケル分ハ總テ百姓ノ益ニノミ成リ、以前ノ木庭ノ床ヲ山畠ニシテ年々ニ耕作シケルモ、總テ百姓ノ益ニノミ成リ、其ノ益ノ中ヲ君上ニ少シモ上納セシメタマハザレドモ、右ニ云フ時勢ト成リ來レルユヘ、來年ヨリ穗見免ニ命ジタマヒテ年貢ノ石高ヲ增益セシメタマフベキナリ、是ノ如ク命ジタマフトテ百姓ノ利ヲ損ジタマヒ、君上ノ利ヲ益シタマフニテハナシ、百姓ニモ益アリテ君上ニモ益アル樣ニ命ジタマフナリ、是州ニ穀物ノ出來ルコト地面ニ相應

セザルハ、木庭作スルニ依レリ、木庭作ノ止ミ以前ノ木庭作ノ手間ヲ田畠、山畠、段畠ニ用ユルナラバ、作物ノ出來增以前木庭作ヲ手廣クシテ手間ノ日數ノ多ク掛リ、種子ハ多ク入リ種子ニ應ジテハ出來ノ少ナキ時ニ勝サルベシ、土ヲ耕ヤシ塊ヲ碎キ、草ヲ拔キ土ヲ寄スルコトノ精シク成リ、若キ木柴、草茅ヲ刈リ取リテ其ノマヽ田ニ入ルヽ若草ノ養ヒ、牛馬ヲ野飼ニセズ草ヲ多ク踏セタル馬糞ノ養ヒ、刈リ積ミ腐ラシ乾カシタルヲ畠作ノ畦底ニ敷ク草糞ノ養ヒ、竈ノ灰ヲ蓄ヘ置キタル灰糞ノ養ヒ、塵芥ヲ燒キ置ケル燒糞ノ養ヒ、人家ノ諸水ト屋敷ノ下水トヲ集メ置キシ水糞ノ養ヒヲ合セタラバ、養ヒニ何ンノ不足カアラン、海ニ遠キ州郡ハ田畠ニ成ルベキ平地ノ中ヲ田畠トセズ、草ヲ育テ置キ刈ルベキ時ニ刈リテ田畠ノ養ヒトス、是ノ州ノ山廣クシテ草ト木柴ノ多キニハ、藻糞、鰯糞ノ力ヲ借ラズトモ養ヒ足ルベシ、其ノ上ニ藻糞鰯糞ノアルヲ用ヒタラバ、彌益アラン、仁位鄕ノ農人ノ云ヘルハ、是州ノ百姓多クハ、養ヒノ力ニテ作物ノ出來ルコトヲノミ知リ、手入レノ精シキニテ作得ノ增スコトヲ知ラズ、手入レヲ精シクスレバ養ヒノ足ラヌ作所ニテモ、養ナヒノ足リテ養ナヒノ用ヒ樣ノ粗キ作所ヨリハ作得ノ多キコト分明ニ知レ居ケレドモ、其ノ事ヲ考ヘズ、手入レノ精シキハ即チ養ヒナリ、養ヒニ用ユル物ハ手入レノ養ヒノ助ナリト云ヒ、三根鄕ノ農人ノ云ヘルハ、手入レヲ精シクスレバ輕キ養ヒヲ用ヒテモ作得ハ多シ、請持ノ地面ノ少ナキニアラザレバ、手入レヲ精シクスルコトモ成リ難シ、養ヒヲ用ユルニ濃キ養ヒヲ一度用ユルハ、水ヲ多ク交ヘ薄ク成シテ數度ニ用ユルコト利益マサレリ、作

物ノ養ヒノキク時アリ、キカヌ時アリト見ヘタレドモ、其ノ考ヘハ心ヲ用ヒテモ考ヘ難シ、薄キ養ヒヲ數度モ用ユレバ、數度ノ中ニテ其ノ作物ニキク時ニ用ヒ合ハスルユヘ利益アリト云ヘルヨシ聞及ベリ、是ノ旨ヲ村々ノ頭百姓ニ精シク云ヒ聞カセヨ、木庭作停止アリテ、木庭作ノ手間ノ延ビテ田畠、山畠、段畠ノ農事ニ用ユルトモ公役銀ノ上納アリテハ、農務ノ時ニモ山海ノ働キヲ爲ス者アルベキトノ吟味ニテ公役銀ヲ免許シタマヘリ、材木、板車、苫等ノ類バカリ極月ノ農隙ニ用意シ置キタルヲ、正月二月ニ漕ギ上ラシメ賣上ゲニセシメ、其ノ他ノ諸品ノ府中ニテ商賣人ノ賣買スル分ハ、商買人ヨリ賣上ゲシメラルベシ、其ノ如クニ成リテハ作物イヨ／＼出來增スニテアラン、定免ノ時ニ畠、山畠ト木庭ヨリ譬ヘバ麥十石取レル年ニ麥十五石モ取リ、猪逐詰ノ後モ免ノ增シナク、以前ノマヽニテ十石ノ中ヨリ一石五斗上納シテモ、百姓ノ得分ハ八石五斗ナルニ、十五石取ルニ成リテハ十ノ三ツノ四石五斗ヲ上納シテモ、百姓ノ得分ハ十石五斗ナリ、其ノ上ニ公役銀ノ現銀上納ヲ免許シタマヒテハ百姓ノ利益モ大分ナルベシ、是州ノ年貢ノ昔ハ穗見免ニテ、寬文四年ニ定免ニ改レルハ、穗見ヲ鄕役人ニ命ゼラレテハ府庫ニ上納スベキ分ヲ正シク上納セザルモアリ、州府ヨリ穗見使ヲ下サルヽニ組數ヲ多ク下サレテハ、鄕村ノ人馬送迎ノ夫使ノ多キニテ百姓ノ難儀ニ成リ、組數ヲ少ナク下サレテハ穗見ニ日久ク掛リテ收納延引シ、梅雨ノ降リ續ク年ハ麥ノ腐レ甚ハダ多ク、其ノ上麥跡ノ秋物ノ蒔付ケ延引シ、秋物ノ出來ノ好カラヌコトヲ僉議アリケル故ナラン、是度穗見免ノ舊ニ復セラルヽニハ目付役一人ニ

下目付一人ヲ添ヘラレ、一組ハ上四郷ノ通リ筋ノ村々、一組ハ下四郷ノ通リ筋ノ村々ノ畠、山畠、段畠ノ麥ノ上中下ノ出來ノ所ヲ、一歩ヅツ歩刈セシメラレテ出來ノ程ヲ極メ、上ノ出來ノ所ハ十ノ中ニテ何ホドナラン、中ノ出來ノ所ハ十ノ中ニテ何ホドナラン、下ノ出來ノ所ハ十ノ中ニテ何ホドナラントト大略ヲ見量ヒ了簡シテ書付ケ、手間ノ入ル樣ニ精シクスルコトナク、日數ノ少ナクシテ穂見歩刈ノ濟ミ、其ノ中ニ奉役ト村下知人、肝煎、頭百姓ノ立合ノ穂見モ濟ミ、其ノ上ニ府中ニテ老臣ト郡目付トノ吟味アリテ極マリ、穂見ニ手間入リ少ナク、總穂見ニ疑ヒモナカラン、木庭作停止ニテ木庭山ノ諸木ノ高ク長ジタル所ヨリ竹ヲ植ヘ、其前ニハ立山村立山ニ竹ヲ植ヘ、神社領、佛寺領 給人領ニモ或ハ百姓ヲ頼ミテ植ヘ、或ハ其ノ地ノ主タル者ヨリ植ヘ、毎年極月二三年立ノ竹ヲ伐リテ村ニ出シ置キ、商買船ノ來ル時ニ賣リ渡セシメヨ、商買人ノ云フ所ヲ聞カシメ、商買人ニ相應ノ利ヲ得ル樣ニシテ、郷村ニテノ買直段、府中浦ニテノ濱出シ運上ヲ定メシムベシ、竹ノ枝ニ實ノ成リタルハ枯ルヽナレバ、其ノ竹ハ早ク伐リ間ヲ置キ根ヲモ掘リ除ケテ、勢ヒ好ク見ユル所ノ竹ヲ伐レル株ヲ植ヘ、段々ニ其ノ如クセシメヨト詞ヲ立テラルヽニテアランカ、是レニ關カルコトヲ受益談ト續錄トニ記シ置キタリ

受益談附說

此ノ卷ハ辛亥九月初比ヨリ末比マデノ間ニ草案シ、嗣子ヲシテ書寫サシム、受益談續錄ニモ云ヒ殘セシコトヲ玆ニ記シ、老病衰弱ノ心力ヲ此ノ事ニ盡シ置クハ、天命ヲ畏ル、人ニ效ハントスルバカリナリ

受益談ト續錄トニ穗見免ノ事ヲ記シ置キタリ、歩刈リニテ出來ノ程ヲ極ムルモ確カナル事ニテハナシ、上中下ノ出來ノ分數ヲ見立ルニ、譬ヘバ上ノ出來十ノ三ツ、中ノ出來十ノ四ツ、下ノ出來十ノ三ツナルヲ、上ノ出來十ノ二ツ、中ノ出來十ノ三ツ、下ノ出來十ノ五ツト見立ツレバ、見立テノ甘キニテ百姓ノ得分ニ成リ、上ノ出來十ノ五ツ、中ノ出來十ノ三ツ、下ノ出來十ノ二ツト見立ツレバ、見立テノ辛キニテ百姓ノ損分ニナレリ、又上ノ下中ノ下下ノ下ヲ、上ノ中中ノ中下ノ中ト見立ツレバ、歩刈ノ甘キニテ百姓ノ得分ニ成リ、上ノ上中ノ上下ノ上ヲ、上ノ中中ノ中下ノ中ト見立ツレバ、歩刈ノ辛キニテ百姓ノ損分ニ成レリ、其州ノ爲シ來リニテ譬ヘバ十ノ五ツヲ上納セシメラレ、小物成ヲモ上納セシメラルヽナラバ、仁心アル人ノ穗見役ヲ勤ムルニ、百姓ニ益アル了簡ヲ加ヘズシテ叶ハヌコトナルベケレドモ、籾麥ノ出來高ノ中ヨリ籾ハ田一歩三勺三才蒔ノ當テニシ、麥ハ畠、山畠、段畠一歩五勺蒔ノ當テニシテ、種子ノ分ヲ引キタル殘リ高ノ十ノ三ツヲ上納セシメラレ、公役銀ノ上納ヲ免サルヽニハ如何ホド仁心アル人ノ穗見役ヲ勤ムルニモ、百姓ニ益アル了簡ヲ加フベキ道理ナシ、穗見ヲ如何ホ

ド正直ニスルトモ、精シク明カニ分數ヲ知ル様ニ成ルベキコトニテハナク、畢竟只是レ推量ナリ、然レドモ正直ナル穗見ニ大違ヒハアルマジ、昔年某肆養父ノ老農ノ云ヘルトテ或人ノ語レルハ、當領ノ田畠ノ石盛リ相定マリ居ケレドモ、石盛リノ分數ヨリ多ク出來ザルニテハナク、上ノ村ノ上田一段ノ石盛リ一石七斗代ナレドモ、竿延マリケルニテ二石モ出來、田畠トモニ其ノ如クナルユヘ、其ノ餘計ニテ百姓ノ身上ノ立チ居ケルナリ、年貢小物成ヲ石盛リニ當ツレバ八ツホドノ免ニ當ツユヘ、餘計ナクバ百姓ノ身上ヲ立ツベキ様ナシト云ヘルヨシ語レリ、元祿年中ニ百姓ヨリ穗見免ノ害ヲ申シ上ゲ、六十三年ノ並定免ニ命ゼラレタリ、下モ村ノ水損所ノ年貢ノ不足ヲ水損所ニテナキ村々ヨリ差足スニ依リ、愚カナル百姓ハ並定免ヲ宜シカラヌト云フ者共モアレドモ、勘辨アル百姓ハ一同ニ並定免ヲ甚ダ宜シキコトナリト云ヘルヨシ聞及ベリ、並定免ニ成レルトテ穗見ヲセヌニテハナシ、大小ノ庄屋、頭百姓立合ヒテ穗見シ、豐年ノ納越ニヲ凶年ノ不足ヲ足シ、凶年ノ續キケル大凶年アルニハ定免ヨリ内端ニ上納シ置キテ、其後ニ段々ト納メ足スニ成レリ、以前ノ穗見ヲ害アルト申上ゲシハ、是州ヨリ差渡ル、穗見使ノ不功ナルニテ、年々ノ穗見ニ日數ノ多ク掛リ、刈リ時分ノ延引シテ米ノ性モ薄ク成リ、藁ノ性モ弱ク成リ、麥、辛子ノ蒔付モ延引セシ故ナリ、是州ノ郷村ヲ穗見免ニ命ゼラレ、奉役、村下知人、肝煎、頭百姓ノ立合ニテ穗見セバ、是レ即チ某肆養父ノ並定免ノ穗見ニ同ジ、上郷モ下郷モ通リ筋ノ村ハ村數ノ多ク、通リ筋ニテナキ村ハ村數ノ少ナク、通リ筋ノ村々ノ中ニ海村モ山村モアルナレ

バ、通リ筋ノ村々ノ歩刈ニテ其ノ他ノ村々ノ其ノ年ノ出來ノホドノ推量モ成ルベシ、通リ筋ニテナキ村々ヲ奉役、村下知人、肝煎、頭百姓ノ立合ヒニテ穗見スルニ、百姓ノ爲トテ漫リニ穗見ヲ甘クスルコトハ成ルマジ、一年ハ通リ筋ノ村々ノミ歩刈セシメラレ、又一年ハ通リ筋ニテナキ村々ヲ加ヘ、其ノ分ホド通リ筋ノ村々ノ歩刈ノ數ヲ減ラサシメラレバ、目付モ村々ノ樣子ヲ殘リナク知レル爲メニ宜シカラン、上四郷下四郷ノ村數百二十村ホドニテ、毎年ノ歩刈ニ當タル村ハ八十村ホドナルベシ、其ノ八十村ヲ二組ニ分クレバ四十村ホドニ成リ、一日ニ四箇村ヅツ歩刈シテモ、十日ホドニハ濟ムベシ第一條

受益談續錄ニ木庭作停止ト、年貢穗見免ト、公役銀免許トノ三事ヲ命ゼラル、次第ヲ記シ置ケリ、是州ハ西海道ノ諸州ト大海ヲ隔テ居ケルユヘ、惣體ノ百姓諸州ノ上納ノ樣子ヲ曾テ知ラズ、右ノ三事ヲ命ゼラレテモ上下ノ利益ノ增ス所ニハ目ヲ付ケズ、上ノ利益ヲ增スベキヲ嫌ヒ、左樣ニ仰付ケラレタラバ百姓一同ニ潰ルベシ、定免ノ年貢ヲ穗見免ニ仰付ケラレテハ、公役銀ヲ免許シタマヒテモ、百姓ノ爲メニハ大ナル損ナリ、木庭作ヲ停止シタマヒ、其ノ上ニ田、畠、山畠、段畠ノ年貢ヲ穗見セシメタマヒテ、十ノ三ツヲ上納セシメタマハバ、百姓ノ身上ノ立ツベキ樣ナシト申出ベシ、然レバ右ノ三事ヲ奉役ニ命ゼラレ、村下知人、肝煎、頭百姓ト村々ノ中ニテノ秀デタル百姓二三人ニ奉役ヨリ云ヒ渡サシメラル、最初ニ、諸州ノ年貢ハ大抵十ノ四ツヲ上納シ、其ノ上ニ小物成リヲ上納シ、公役ノ勤メモアルコトヲ示サレ、其肆養父ハ昔公役ヲ勤メシ代リニ公役代米ヲ上納シ、其ノ上ニモ長崎ヘノ上使ノ往還シ

タマヘル時ニハ勤メ捨リノ公役ヲ勤ムル事ト、六十三年ノ穂見免ヲ並定免ニ命ゼラレ、豊年ノ取リ立ノ納越ニテ凶年ノ不足ヲ足サシメラルヽ事ト、是州ハ朝鮮トノ交易ノ利分ニテ用ヲ足シ來タリタマヘドモ、近年ハ上方ニテノ白絲、端物ノ直段下直ニナリ、朝鮮ニテノ買直段ハ以前ニ替フズ、朝鮮ニテノ人參ノ買直段ハ以前ニ増シ、江戸上方ニテノ賣直段ハ公儀ヨリ定メ置カセタマヘルニテ、買直段ノ増シタル分ヲ賣直段ニテ増サルヽコト成ラズ事ヲ示サレ、府中ノ諸士ノ祿ノ内ヲ昔年ヨリ借上ゲ置カセタマヘルナレバ、諸士ノ祿ノ内ノ借上ゲヲ命ジタマフベキ様モナク、諸役所ノ物入ハ段々ト減ジ置キタマヘルユヘ、此ノ上ニ減ジタマフベキ様ノナキコトヲ示サレズシテハ叶ハヌコトナルベシ、郷村ニ命ゼラルヽ事ノ行ハルヽ道ヲ論ズルニ兩説アリ、一説ニハ百姓ニ其ノ事ノ旨ヲ得心サセズシテハ行ハルベキ様ナシ、得心シタル上ニテコソ行ハルベケレ、得心セヌコトヲ押シテ受ケサセラルヽハ終ニ破ルベシト云ヘリ、是レ精シカラヌ説ナリ、昔ヨリ上納シ來レル年貢公役銀モ得心シテ上納スルニテハナク、郷中當用銀、貢使小拂銀モ得心シテ出スニテハナシ、上ヨリ命ゼラレテ上納シ來リ、役人ヨリ差圖アリテ出シ來レルナリ、又一説ニハ愚カナル百姓ナレバ、面々ノ好マヌコトハ如何ホドニ諭サレテモ得心スマジ、僉議決定ノ上ニテ命ゼラレ、威ニ恐レテ從フ様ニ下知セラレズシテハ行ハルベキ様ナシト云ヘリ、是レモ精シカラヌ説ナリ、有リ來レル事ヲ改メテ新タニ命ジタマフニハ、其ノ譯ヲ示シタマハズシテ叶ハヌコトナリ、示サルヽヲ得心セヌトテ、聞キ入ルヽ所ノ全ク無キコトハアルマジ、道理ヲ

命ゼラルヽト、無理ヲ命ゼラルヽトノ別レノ大抵ハ通ズルニテアルベキユヘ、譯ヲ示サレシ上ニテ得心シケルト、得心セザルトノ兩樣ヲ尋子ラレズ、老臣一同ノ決心ノ上ニテノ命ナルコトヲ知ラシメラルル、是レ下知ノ行ハルヽ肝要ノ意旨ナラン、其ノ時ハ有リ來レル事ノ中ニテ、無理ナル事ノ有ルカ無キカヲ精シク僉議アリテ、無理アラバ改メラルベキコトナリ、某昔年郡役ヲ勤メシ時ニ、仁位鄕ノ白姓ノ云ヘルハ、畠木庭ニ物成ノ掛カリ居ケルニ、其ノ畔端ノ茶園ニモ物成ヲ掛ケラレ、茶園成麥トテ上納スルハ二重ノ物成ナリト云ヘリ、是レヲ聞キテ手代ノ中ノ老功ナル者ニ尋子シニ、仁位鄕ノ百姓ノ申ス如クナル茶園バカリニテハアルマジ、其ノ如クナル茶園ノナキニテモアルマジト答ヘタリ、公役銀上納ヲ免許セラルヽニナラバ、八鄕奉役ニ茶園ヲ正サシメラルヽ上ニテ、二重物成ニ成リ居ケル分ハ免サレ、椿森物成麥トテ少シ許リ上納シ來レルモ、共ニ免サルベキコトナラン　第二條

受益談ト續錄トニ木山竹植立ノ事ヲ記シ置キタリ、大木ノ茂リタルハ本木ト本木トノ間五間モ六間モ透キ居ナガラ、末ノ枝葉ハ木ト木ト續ギ、其ノ下タハ總テ樹陰ナリ、竹ハ陰地ヲ好ミ陽地ヲ嫌フ物ナレバ大木ノ末ノ枝葉ノ續キケル木山ニ育チタル竹ハ、竹ニ病ヒ付キ實ノ成リテ枯ルヽ氣候ノ時ニモ枯レザルコトアラン、雞知ノ住吉ノ神社ノ廻リノ大竹ハ大木ノ中ニ立チ居タレドモ、病ヒ付キテ枯レタリト云ヘル人モアリ、然レドモ左樣ノ事ヲ粗ク論ズベカラズ、雞知住吉ノ竹ハ病ヒノ付カヌ以前ヨリ痛ミ居ケリ、其ノ痛ミハ大竹ノ直段ノ好キ時ニ賣リ用ニ伐リ過シタル故ナリト云フ、虛弱ナルニハ時行

ノ病ヒ付キ易ク、強健ナルニハ時行ノ病ヒ付キ難キ道理ナレバ、廣キ山々ノ大木ノ中ニ育チテ其ノ竹ヲ伐リ取ルニ奉役、村下知人、肝煎ノ下知ノ正シク前年ノ極月ニ伐リタル跡ヲ、翌年正月二月府中ヨリ目付役ヲ差下サレ檢分セシメラルヽナラバ伐リ過シハアルマジ、何事モ人事ヲ盡サズシテ氣候ト土地トノミ咎ムルハ當ラヌコトナリ、豐崎郷ノ人ノ語レルハ、上郷ニ佐郷ノ栗ホド性ノ好キ栗ハナシ、其ノ故ハ栗木ヲ百姓共ノ分ケ持チ、持主ノ見ヌ時ハ吾栗木ニテナキ栗ヲモ以前ハ互ニ拾ヒ取レルニテ、持主面々ヨリ他人ニ取ラセジトテ十分ニ實ノ入ラヌヲ打落シテ取リケルニ、奉役ヨリ嚴密ニ制シ、法ヲ背ケルハ科代ヲ出サセ、其ノ下知ノ行ハレテ他人ノ栗ノ木ノ下ニ落チ居ケル栗ハ拾フコトナク、持主ヨリ十分ニ實ノ入テ落チタルヲ拾フ故ナリト語レリ、下知ノ甚ダ行ハレヌ村ノ事ヲ是比聞及ブニ、五六年以前ヨリ實ノレル栗巢ノ木ノ下ニ草茅、小木ノアルヲ伐リ除ケ置カズ、其木草ノ中ニ落チタル栗ハ取リ難キトテ、未ダ落ツル程ニモ熟セヌヲ枝ナガラ伐リテ其ノ栗ヲ取レルヨシ聞及ベリ、下知ノ精粗ノ損益ニ關カルコトノ甚シキハ右ノ一事ニテモ考ヘ知ルベシ、田、畠、山畠、段畠ノ事モ、山林、川筋、浦濱ノ事モ目付役ノシテ諸人ノ說ヲ聞カシメラレ、其ノ中ヲ撰バレ奉役ヲシテ下知セシメラルベキコトナラン、若シ八郷一同ニ木庭作ヲ停止セセシメラレ、年貢ヲ穗見免ニ命ゼラルヽニナラバ、木庭ノ床ヲ山畠ト成シ居ケル所ト段畠トナシ居ケル所ニハ、府中ヨリ一郷ニ一人ヅツ目付役ヲ差下サレ、其ノ目付役ト、其ノ郷ノ奉役ト其ノ下知人、肝煎、頭百姓ノ立合ニテ極月正月ノ農際ニ山畠、段畠ニ竿ヲ入レ

サセラル丶ニテアラン、其時ニハ先ヅ畠坪ノ内ヲ谷口、原中、濱邊三所ニテ五坪宛竿ヲ入レ、蒔目歩數ノ帳面ノ蒔目ヨリ多キ分ノ並シ何程ト極サセ、譬バ竿延ノ並シ帳面ヨリ一割ノ延ナラバ、山畠、段畠ノ竿ノ入リタル上ニテ、四升蒔ノ坪ハ帳面ニ三升六合蒔ト記セシメ、二升蒔ノ坪ハ帳面ニ一升八合蒔ト記セシメラルベキ事ナランカ、是比下鄕ノ人ノ云ヘルトテ沙汰スルヲ聞クニ、木庭作ヲ停止シ給ハズ共、川普請ノ只今ノ爲シ樣ヲ停止シ給フベキ事ナリ、川岸ノ亂杭ニ七八寸廻リ一尺廻リ程ノ木ヲ用ヒラレ、三年目ニハ其ノ木ノ土際ヨリ朽チケルニテ、其ノ初メノ如ク爲シ替ユル故、山々ノ木ヲ多ク伐リ倒スコトハ木庭作スルヨリ甚ダシト云ヘル由沙汰セリ、山川ノ事ヲ論ゼシ書策ニ水損ヲ防グハ山々ニ育ツルニ如クハナナキ由記セリ、是州ノ鄕モ八鄕共ニ木庭ノ停止アリテ山々ニ木ノ育ツナラバ、終ニハ川中ノ土沙ハ海ニ流シ入レ川床ノ深ク成ルニテ、假令川普請ナク共水損地捨リノ害ハ止ムベシ、木庭作ノ停止ナクテ山々ニ木ノ育タスナラバ、大雨ニ土沙ノ流レ下リ川床ヲ埋ミ如何程ホド川普請アリテモ、水損地捨リノ害ハ止ムマジ、斟酌アルベキ事ナリ、此州ノ土地人民ノ實益ニ成ル事ノ第一ハ木庭作停止ナラン、木庭作停止ニ決定セバ、其他ノ實益ニ成ル事段々ト興起シテ相續スベシ 第三條

受益談附説 終

受益談或問

此ノ卷ハ受益談ト續錄ト附說トノ三部ノ中ノ意旨ニ問ヒヲ設ケテ答ヘ、病間ニ小シヅツ草案シ嗣子ヲシテ書寫サシム、死ヨニ及ブ前マデハ其ノ如シ、思ヒ出セルハ段々ニ書キ加フベシ、先ヅ辛亥十月初比ヨリ中頃マデノ病間ノ草案ヲ一卷ニ寫サシメ置クナリ

問フ、是州ノ定免ヲ穗見免ニ改メラレ公役銀上納ヲ免サルヽ旨ニ叶ヒタル道理ヲ、中國聖賢ノ書ニモ記セルカ、曰ク、孟子ニ貢ハ數歲ノ中ヲ挍ガヘテ以テ常ト爲ス、樂歲ニハ粒米狼戾シテ多ク取リテモ虐トセザルニ寡ナク取ル、凶年ニハ足ラザルヲ取リテ盈ツ、其ノ父母ヲ養フコトヲ得ズト說ケリ、是州ノ鄉村豐年ノ事ヲ尋ネ聞クニ、下農夫ハ格別ニテ中農夫ノ上納スル定免ノ年貢モ十ノ一ツヨリハ輕ク、上農夫ノ年貢ハ彌以テ輕キト云フ、是レ多ク取リテ虐トセザルニ寡ナク取ルナリ、是州ノ定免ハ凶年ニ年貢ノ中ノ捨リヲ受ケシメラルヽユエ、足ラザルヲ取リテ盈ツルニテハナケレドモ、公役銀ノ上納ニ豐凶ノ差別ナク、作所山海ノ出來物ノ多キ年モ寡ナキ年モ、作所山海ノ出來物ヲ賣リ出ス直段ノ高直ナル時モ、下直ナル時モ、公役銀定數ノマヽニ上納セシメラルヽユヘ出來物ノ寡ナキ年ト、賣直段ノ下直ナル時トノ上納ハ是レ足ラザルヲ取リテ盈ツルナリ 第一條

問フ、定免ヲ穗見免ニ改メラレ公役銀ヲ免サルヽ、後ニ、年貢ノ增シタル分數ノ代銀ノ積リ公役銀ノ高ニ及バヌナラバ、用ノ足リタマハヌ上ニ其ノ分ホド又足ラザルニ成ルベキカ、曰ク、本多加信聞書ニ記セルハ、權現樣關東ニ入ラセタマフ初メ問ハシメタマヘルニ、小物成數々アリケレバ、年貢ノミ上納サセヨト仰出サレ、耕作ノ時節ニ少シノ人夫モ使ハザレト仰付ラレ、二年目マデハ上納ノ損ト見ヘタレドモ、三年目ヨリ年貢バカリノ石高ソノ前年貢小物成ヲ合セタル石高ヨリモ大分ニ增シ、百姓ノ在付モ其ノ前ニ勝レリト記セルニ、受益談ニ是州鄕村ノ定免ヲ穗見免ニ改メラレ公役銀ヲ免サレタラバ、三四年以後ハ上納ノ利ノ增スベケレドモ、二三年ハ上納ノ利ノ減ルコトモアラント云フコトヲ記サヾルニ意旨アリ、關東八州ノ年貢ハ北條ノ時モ穗見免ニテアリケルナラン、然レバ權現樣關東八州ヲ領シタマヘルニ、年貢ノ物成ヲ增シタマフベキ樣ナク、物成ハ北條ノ時ノ格ニテ、氏政ノ代ニ至リ政事氏康ノ代ニ違ヒテ苛ク成リ、小物成ノ多カリシヲ免サセタマフ所ヨリ、八州ヲ領シタマヘルニ二年目マデハ上納ノ損ト見ヘケレドモ小物成ヲ免ジタマヒ、耕作ノ時節ニ少シノ人夫モ使ハザレト仰付ラレシ善政ノ功驗三年目ヨリ見ヘ、上下ノ利ノ增益シケルナラン、是州ハ猪荒ノ了簡アリテ盛付シ定免ヲ、猪荒ノ止ミケル後ニ改メラレズ、以前ノマヽニシ置カレケルユヘ、是ノ後ニ若シ穗見免ニ命ゼラレタラバ假令穗見免ニテ十ノ二ツ半ヲ上納セシメラルヽトモ、物成ハ大分增益スベシ、其ノ上ニ以前ヨリノ穗見免ノ定格ヲ用ヒラレ、十ノ三ツヲ上納セシメラルヽナラバ、年貢尙以テ增益シ公役銀免許ノ損分

ニ勝サリ、公役銀ノ爲メノ働キヲ一切ニ止メタル手間ノ延ヲ、田畠、山畠、段畠ノ耕作ニ用ユルニ驗ノ見エルニ成ラバ、上下ノ利益尙以テ勝ラン、受益談附記ニ穗見免ノ定法ハ十ノ三ツ上納スルト知レ居ケレドモ、種子ヲ引キタル十ノ三ツトモ、種子ヲ引カザル十ノ三ツトモ分明ニハ知レザレドモ、種子ヲ引カシメラルベキコトナラント記シ置ケリ、今按ズルニ、種子ヲ引カシメラルヽハ宜シカルマジ、種子ヲ引ク定法ト知レ居ケルニテモナク、公役銀免許ノ上ニテ十ノ三ツノ免ハ高免ト謂フベキ免ニテモナク、君上ノ用ノ餘分アル程ニ年貢ヲ得タマフニテナク、大分ノ不足ヲ浮利ヲ以テ足シ來リタマヘルニ、十ノ三ツノ年貢ニ種子ヲ引カシメラルベキコトヽ思ヘルハ、其ノ時ノ思慮ノ誤リナリ、若シ公役銀ヲ免サレ、穗見免ニ改メラルヽヲ、郡代老臣ノ心ニ宜シキ事ト吟味アラバ、當分二三年モ年貢增益ノ分數ノ、公役銀免許ノ分數ニ及バヌコトモアランカトテ宜シキニ就カレヌコトハアルマジ、子夏ノ政ヲ問ヘルニ孔子ノ答ヘタマヒテ、「無レ欲レ速、無レ見ニ小利一、欲レ速則不レ達、見ニ小利一則大事不レ成」ト曰ヘリ、當分ノ小損ヲ厭フハ是レ小利ヲ見ルナリ（第二條）

問フ、若シ木庭作停止ニ決定アリテ定免ヲ穗見免ニ改メラルヽナラバ、儲蓄ノ下知ハ止ミテ宜シカラント云ヘルハ如何ナル意旨アル故カ、曰ク、定免ヲ穗見ニ改メラレ、年貢ノ增ス時ニ至リテモ儲蓄ノ穀物ヲ出サシメラルヽナラバ、百姓ノ心ニ年貢增シケル上ニ儲蓄マデ出サレ難儀ナルコトナリ、年貢ノ增シタルナレバ儲蓄ハ其ノ增シタル年貢ノ中ヨリ鄕藏ニ入レサセタマフベキコトナリト思フベシ、是ノ

如ク思フ人情ニ逹ハレ、只今マデノ通リニ儲蓄ノ法ヲ立テ置カルヽハ宜シカルマジ、木庭作停止ノ下知ノ行ハレテ山々ニ栗ノ多ク育チ、生栗ヲ煮テ飯ニ交ヘ、穀物ヲ喰ヒ延バシ、煮タル栗ヲ日ニ晒シ、乾キタル時ニ打チ碎キ、澁皮ニ付キテ除キ、實バカリニナリタルヲ俵ニシ置キ、暑月マデ飯ニ交ヘテ煮テ食シ、木庭作停止ノ下知ノ行ハレテ山々ニ諸木ノ多ク育チ、水氣ヲ增シテ大旱ノ時ノ水涸レ以前ノ様ニナク、藷ニ灑グ水ノ乏シカラズシテ藷ニ旱損ナクバ、凶年ノ少シノ穀物ニテモ栗ト藷トニ交ヘテ食用ヲ足シ得ベシ、其ノ如クニ成レル時マデハ籾麥ノ年貢ノ中ノ一割ホドヲ鄕藏ニ入レサセ置カレ、其年ノ麥出來、籾出來ニ新穀ニ取替ヘ、舊穀ハ其年ノ上納ニシ、百姓ヨリ出シ置キタル分ヲ返シ渡サシメラルベキコトナラン、只今マデノ儲蓄ハ上中下ノ百姓ヨリ其ノ村ニ應ジ同ジホドヅツ出スカ、身體相應ニ出スニテアルベシ、上百姓ト上ニ近キ中百姓ハ、凶年ニテモ食用不足ノ憂ヒハアルマジ、下百姓ト下ニ近キ中百姓コソ凶年ニ儲蓄ヲ賴ムベケレ、然ルニ面々ヨリ出シ置キタル分ヲ取リ返スマデナレバ、下百姓ト下ニ近キ中百姓ノ大凶年ニ逢ヒタルハ、儲蓄ヲ取リ返スノミニテハ叶ハザルニテアルベシ、穗見免ノ年貢ノ中ノ一割ホドヲ鄕々ノ藏ニ蓄ヘサセ置カレ、下百姓ト下ニ近キ中百姓ノ凶年ノ憂ヒ救ハシメラルヽコト、君上ノ百姓ヲ憐愍シタマヘル旨ニ叶ハンカ、下百姓ト下ニ近キ中百姓ハ常年ニテモ麥出來ノ前ニハ食用ノ足ラヌト云フ、是レ新穀ノ出來テ收納シタル時分ハ漫リニ大食シ、黑煮ノ篠鹿角菜ヲ少シヅツ交ヘテ食スレバ、翌年ノ新穀ノ出來ルマデ穀物ヲ喰ヒ合スル積リト見ヘテモ、

其ノ覺悟ナク食用ノ甚ダ乏シク成レル時ニ至リテハ掘物ニテ飢ヲ凌ギ、葛根、蕨根ヲ掘リテモ足ラザル時ハ大華蘇ヲモ掘リ、脾胃ヲ害ナフト聞ヘ、下百姓ハ百姓ノ内ニテノ不覺悟ナルモノニテ、不仕合セユヘ困窮シタルハ漸々ニ身上ノ成リ立チテモ、不覺悟ニテ困窮シタルハ成リ立チ難ク、下百姓ニテ終ルト云フナリ、農政ノ行ハレテ穀物段々ニ出來増シ、諸業ノ利モ廣ク成ラバ、樂歳ニハ賴モシゲ多キノ道理ニテ、下百姓マデ親類縁者ノ中ノ上百姓中百姓ノ救ヒヲ受ケ、子ナキ老人モ、病身者、片輪者モ渡世ノ難儀ヲ免カルベシ 第三條

問フ、穗見ノ歩刈ノ事ヲ勤ムル目付役一組ニテ、一日ニ四箇村ヅツ歩刈スルコトハ成リ難カランカ、曰ク、一組ニテ一日ニ四箇村ヅツノ歩刈リ成リ難クハ、穗見歩刈ノ目付ヲ四組ニ定メラレ、一組ニテ一日ニ二箇村ヅツ歩刈リセシメラルヽニテアランカ、目付役ノ中ヨリ郷村ノ目付ヲ常ニ兼帶セシメラルルハ二人ナルベキユヘ、穗見ノ時ニ目付四組ニテ穗見セシメラルヽモ、四人ノ中ノ二人ハ郷村ノ目付ヲ兼帶スル二人ヲ用ヒラレ、又二人ハ郷村ノ目付ヲ兼帶セヌ二人ヲ用ヒラルベシ、以前ヨリ凶年ノ捨リ檢分ニ差下サレシ、目付ハ、郷村ノ目付ヲ兼帶シタルニテナク、捨リ檢分ノ時ニ當分差下サレタルナリ、郷村ノ常目付ヲ兼帶セシ二人年々ニ穗見シテ功者ニ成ラバ、初メ四組ニテ濟ミシ穗見モ二組ニテ濟ムベシ 第四條

問フ、木山竹植立テニ大利アルベシト云ヘルハ、彌其ノ通リニ思ヘルカ、曰ク、是州ノ山々ニ育ツ

諸木ノ中ニテ大利ノアルベキ第一ハ栗ナリ、栗ト竹トハ並ビ生ゼヌト云フナレバ、栗ノ育ツ所ニハ竹ヲ育テズ、竹ノ育ツ所ニハ栗ヲ育テズシテ宜シカラン、竹ニ病ノ付キテ枯ルヽ氣候ノ時ニテモ、一年二年ノ間ダニ一州ノ竹ノ枯レ盡クルニテハナク漸々ト枯レ、竹ニ實ノ成リタル最初ニ早ク其ノ林ノ竹ヲ殘ラズ伐リ、枝葉ヲ伐株ノ上ニ敷キ散ラシ置キ、其ノ枝葉ノ枯レ掛リタル時ニ燒ケバ、竹ノ根マデハ病ヒ通ラズ、一二年過レバ元ノ如クナル竹ノ生ズルト云ヒ、大木ノ高キ枝ノ下ニテ竹ノ枝葉ヲ燒クハ障ハリアルベキコトニテナケレバ、或ヒハ其ノ如クシ、或ヒハ受益談ニ記シ置キケル如クニシテ其ノ驗ノ勝レル方ヲ用ヒ、下知ノ次第ノ宜シクシテ長ク行ハレバ、栗ノ外ノ利ノ竹ニ及ブハナク、栗ハ食用ヲ利シ、竹ハ他方ヘノ賣出シニ成リ、代銀ノ入リ來リテ上下ノ用ヲ利スル大益アルベシ 第五條

問フ、鄉村ノ目付ヲ兼帶スル目付役ヲ立テタマハズシテ叶ハヌト思ヘルニ、別シテ意旨アルカ、曰ク范淳夫ノ唐鑑ニ說ケルハ、管子ニ言ヘルコトアリ、堂上百里ヨリ遠ク、堂下千里ヨリ遠ク、君門萬里ヨリ遠シト、壅蔽ノ害ヲ爲スコトノ深キヲ言フナリト說ケリ、以前ヨリ諸州ノ中ニテノ郡役ノ奸邪ナル者ノ事ヲ聞キ及ブニ、主君ノ爲メヲ思ヒ、百姓ノ爲メヲ思フ實意ハナクシテ、郡代ニモ老臣惣中ニモ主君ノ爲メヲ實ニ思ヒ、百姓ノ爲メヲ實ニ思ヘル郡役ノ樣ニ聞キ迷ハシメ、其ノ如ニ致シ成ス術ハ、何事モ是非ヲ擇バズ鄉村ノ人ノ心ニ叶フ樣ニ云ヒ、上ニ願ヒ上タキト云フコトアルヲ聞キテハ、決シテ成ルマジキコトト思ヒテモ何トゾ心ヲ用ヒ肝煎リテ願ヒノ叶フ樣ニスベキト云ヒ聞カセ、其ノ者共ヨ

リ何ツマデトモナク賴ミノ賂ナヒヲ取リ、其ノ賂ナヒノ物ヲ郡代老臣ニ其ノ身ノ取リ成シスベキ面々ニ賂ナヒ、郡代老臣ノ氣ニ入リ、郡代老臣ノ次ニ立ツ人ノ氣ニモ入リ、困窮村ヲ救ヒタマヘト申シテ上ヨリ出シタマヘル銀ヲ救ヒニハセズ、自己ヲ利スル爲メニ其ノ銀ヲ廻ハシ、郷村ノ開地ノ事ヲ申シテ下知シ、上ノ利ニ成ルト云フホドノ事ニテモナキニ利ニ成ルト云ヒテ郡代老臣ヲ欺ムキ、其ノ者ヲ郡代老臣ノ好キ者ト思ハルヽコトヲ郡役ノ仲間モ知リ居ケルユヘ、其ノ者ノ惡事ヲ申シタラバ嫉妬讒言ト思ハンコトヲ恐レテ申サズ、宥免アルニシテモ一日モ早ク役ヲ除カルベキ者ヲ當役ニ勤功アリトテ賞セラレ、是ノ如クナルハ郷村ニ有リ來レル事ノ中ノ宜シキ事モ破レ廢リ、郷村ニ益アルベキ事ヲ郡代ヨリ命ゼラレテモ行ハレヌト聞キ及ベリ、奸邪ノ者ノ是ノ如ク郡代老臣ヲ壅蔽スルハ、郷村ノ爲メニ正直ナル目付役ヲ立テラレザルユヘナリ、人ヲ知ルコトハ聖人モ難シトスルトアルナレバ、是州ノ郡代老臣ノ郡役ヲ擇バルヽニ如何ホド念ヲ入レラレテモ、奸者ナル者ニ郡役ヲ命ゼラルヽコト何ツマデモ決シテアルマジキトハ極メ難カラン、因テ目付役ノ中ヨリ殊ニ正直ナル人二人ヲ擇バレ、郷村ノ目付役ヲ兼帶セシメラレタキコトト思ヘルナリ　第六條

右六條ハ辛亥十月ニ記スナリ

問フ、穗見歩刈ノ事ト、茶園ニ重物成ノ事トヲ如何カ思ヘルカ、曰ク、穗見使ノ郷村ニ下レル前ニ村役人ニ畠、山畠、段畠、上中下ノ出來ノ歩刈スベキ所ニ札ヲ立テサセ、上中下ノ出來ノ分數ヲモ書付サ

セ置キ、其ノ上ヲ穂見使ノ見ケルニテアルベキカ、茶園ハ茶ノ木二本ヅツカ、三本ヅツカ並ビ立チタル二端ニテナキ茶ノ木マデ物成ノ掛レルハ、二重物成トモ云フベキカ、以後トテモ畠ノ端ニ一本並ビノ茶園ヲ仕立テタルニハ物成ヲ掛ケシメラレ、只今マデ畠ノ内ニアル茶ノ木ハ、其ノ茶ノ枯レタル跡ニ茶ヲ植ヘ立テズ、面々ノ用フル爲メニ茶ヲ仕立ツベシト思ハヾ、請持ノ畠ノ端ニ一重並ビニ仕立テサセ、先格ノ通リニ茶園物成ヲ銀ニテ上納セシメヨト命ゼラルベキコトナランカ、左樣ニ命ゼラレズシテ畠ノ内ノ茶園ハ物成ヲ免サルヽニ成ラバ、段々ト茶園ヲ仕立ツル者共ノ多ク成リテ、麥取納ノ時分ノ障ハリト成ルベシ、ケ樣ノ類ノ事ハ僉議吟味ノ上ナラデハ決定スマジキナリ（第七條）

問フ、受益談ヲ讀ミテ批判セシ說ヲ傳ヘ聞クニ、其ノ人ノ云ヘルハ、受益談ハ大意ノミヲ述べ、下知ノ次第ノ精シキ所ヲ述べズ、公役銀免許アリテ麥ノ出來高ノ十分ノ三ヲ上納セシメタマハヾ、公役銀高ニ當ルホドハアルベケレドモ、畢竟銀ニテ上納スルモ、麥ニテ上納スルモ同ジ事ナリ、殊ニ木庭作ヲ停止シタマヒテハ、百姓ノ殘リ麥ノ少ナキニテ難儀スベキヤト見ユル所アリ、受益談ノミニテハ精シカラズト云ヘルヨシ聞及べリ、此ノ旨如何思ヘルカ、曰ク、百姓ノ作得ハ年々ニ同ジカラズ、麥出來十分ノ年ニ十五石作リ出ダス百姓ハ、九分ノ年ニ十三石五斗、八分ノ年ニ十二石、七分ノ年ニ十石五斗、六分ノ年ニ九斗、五分ノ年ニ七石五斗、四分ノ年ニ六石、三分ノ年ニ四石五斗、二分ノ年ニ三石、一分ノ年ニ一石五斗ト見ヘ、何斗ト云フ違ヒモナク、何升ト云フ違ヒモナク、同ジ作リ出シノ年ハア

ルマジ、吾等ガ郡役ノ時ニ郡代ニ申上ゲ格ヲ改メ、物成ノ一倍ノ出來マデハ捨リヲ受ケズ、物成ノ一倍ニ足ラヌ分ホド捨リヲ受クルユヘ、三分ノ年ニ四石五斗作リ出シタルハ少シノ捨リヲモ受ケズ、四石五斗ノ内ヨリ一石五斗ヲ上納スレバ殘リ三石ナリ、其ノ積リナルユヘ、四分ノ年ハ上納ノ殘リ四石五斗、五分ノ年ハ六石、六分ノ年ハ七石五斗、七分ノ年ハ九石、八分ノ年ハ十石五斗、九分ノ年ハ十二石、十分ノ年八十三石五斗也、四分ノ年ノ殘リ三石ト十分ノ年ノ殘リ十三石五斗ニ較ブレバ十石五斗ノ違トナリ、是レハ豐年ト凶年トノ違ナレバ、十年ニ四五度モアルコトニテハナシ、五分ノ年ト、六分ノ年ト、七分ノ年トハ十年ニ四五度モアルベシ、然ルニ五分ノ年ノ殘リ六石、六分ノ年ノ殘リ七石五斗、七分ノ年ノ殘リ九石ヲ較ブレバ三石ノ違ヒナリ、一石五斗上納セシ所ヨリ三石上納シテモ、七分ノ年ハ六分ノ年ニ成リ、六分ノ年ハ五分ノ年ニ成ルマデナリ、穗見免ニ命ゼラルヽ時ニハ、何程ノ損毛マデヲ皆無ニ準ゼラルヽトノ格ヲ僉議吟味ノ上ニテ定メラルベシ、秋物ノ出來ニモ段々ノ次第アリテ、秋物ニハ殊更損毛ノ年ノ多ケレドモ、麥ト秋物トニ山海ニ出來テ食用ニ當ツル物ヲ加ヘテ食ヲ足ス也、若シ穗見免ニ命ゼラルヽニ成ラバ、畠、山畠、段畠ノ高一町一石五斗蒔ニ三石出來タル迄ヲ皆無ニ準ゼラレ、三石一斗出來タルハ一斗上納セシメラレ、三石五斗出來タルハ五斗上納セシメラレ、四石二斗出來タルヨリ十分ノ三ノ一石二斗ヲ上納セシメラルヽコトモアルベキカ、新ニ命ゼラルヽ事ハ當役人僉議シ、精シク書付テ役頭ニ出ダシ、役頭ノ吟味ノ極マレル上ニテ命ゼラレ、其ノ命ゼラレ

行ハルヽ時ニ至リテ、初メニ知レザル障リモアルモノナルユヘ、其ノ障リニ應ジ又僉議吟味アリテ、年月モ經シ後ニ條目相備ハルモノナリ、然ルニ受益談ニ大節目ヲ精シク記セルヲ精シカラズト云ヒ、條目ヲ記スコト役人ノ事ヲ行フ時ノ覺書ノ樣ニナキヲモ精シカラズト云ヘルハ、如何ナル故トモ知リ得ズ、是比ノ沙汰ニ大間ノ給人木庭知行ノ多キハ、其ノ木庭ヲ百姓ニ請持セ、五石十石ノ物成ヲ取レルモアリ、木庭作停止ニ成リテハ其ノ五石十石ノ入方ノ止ムコト、是レ指當リタル損ナリト沙汰スルヨシ聞及ベリ、木庭作セヌニテ其ノ山々ノ木ノ育チタラバ、遂ニハ麥物成ニ替レルホドノ利アルベシ、百姓ノ木庭作ヲ止ムルモ材木ニ成ル木ノ育チ、栗、櫨ノ育チ其外ニ山ノ育ツ利益ノ多キコトヲ受益談ニ精シク記シ置キタリ、流俗ノ批判ニハ目前ノミヲ見テ右モ左モ後ロモ見ヌ批判多シ、上ノ用ノ足リタマハヌニテ、府中ノ士ノ祿ノ內ヲ先年借リ上ゲタマヘルハ木庭作ノ止ミタル代リニ段々諸木ノ育チテ利益ト成ル類ニテナク、借リ上ゲタマヘル代リニ以後ケ樣ノ利益アルベシト云フ所ハナケレドモ、上ノ用ノ足リタマハヌ事實ヲ知リ居ケルユヘ、七十石ノ人ハ格別、百石以上ノ人ハ差シテ難儀トモ云ハズ、又是比ノ沙汰ニ淺海竈十二箇村ハ別ニ勤メノアルユヘ、公役銀ヲ上納セズ、其ノ勤メハ免サルベキ勤ニテナケレバ以前ヨリノ儘ナルベキユヘ穗見免ニハ命ゼラレ難ク、此ノ所ハ如何ガ成サルベキヤト沙汰スルヨシ聞及ベリ、ケ樣ノ類ノ事ノ數々アルベキヲ、箇條ヅツ段々ト僉議セシメラレ、郡役中、奉役中ノ了簡ヲ聞屆ケラレ、吟味ノ上ニテ其ノ格ヲ立テラルヽニ何ニノ難キコトカアランヤ、以前定免

ノ時ニモ穗見ノ所アリケルナレバ、淺海鑑十二箇村ヲ穗見免ノ時ニモ定免ニシ置カル丶ニ何ニノ障リアルベキヤ 第八條

問フ、是比ノ沙汰ニ公役銀ヲ免許シタマフトモ、穗見免ニテ十ノ三ツヲ上納セシメタマフハ、百姓ノ食用不足シテ難儀スベシト沙汰スルヨシ聞及べリ、此ノ沙汰ノ如何ガ思ヘルカ丶云ク、是ノ如ク云フ人ハ近來鄕村ニテ公役銀ヲ出シカヲ、食用ノ麥ヲ賣ル者共ノアルト沙汰スルヲ聞キテハ、定メテ淚ヲ流スホドニ悲シムニテアルベシ、某ガ如クナル者ノ郡役ヲ勤メテ飢飯米五百石ヲ下シ賜ハル樣ニ申上ルホドノ凶年ニ、其ノ如クナル人ノ郡役ヲ勤メ居ケルナラバ、定メテ飢飯米千石ヲ下シ賜ハル樣ニ申上ルニテアラン、其ノ如クナルコトヲ云フ人ノ心ハ某ガ如キ者ノ知リ得ベキ所ニアラズ、只願フ所ハ君上ノ實益ニ成リ百姓ノ實益ニ成ルベキコトノ行ハレヨカシト願ヒ思フバカリナリ 第九條

右三條ハ辛亥十一月ニ記スナリ、是年六月四日ニ始メテ本多加信聞書ヲ讀ミ、其後ニ受益談ト續錄ト附說ト此ノ或問ト四卷ヲ著ハシ、十一月十七日ニ或問ノ編ヲ成セリ、折節元氣ノ疲レ甚シク成リ、一句ヅツ云ヒテ嗣子ニ書カシムルコトモ爲シ得ザルユヘ、此事ヲ記スモ今日ヲ終リトナルナリ

受益談或問 終

書受益談或問後

辛亥十二月或人ノ某ニ語レルハ、受益談ニ年貢穗見免ト公役銀免許トヲ同時ニ命ジタマフベキ事ナリトアレドモ、同時ニ命ジタマフ中ニテ公役銀ハ先ヅ四分ノ一ヲ免サレ、二三年ヲ經テ其ノ殘リノ半分ヲ免サレ、又二三年ヲ經テ殘リナク免サルヽコト宜シカラント云フ說アルヨシ語レリ、某コレヲ聞キテ老父ニ告グ、老父ノ云ヘルハ、其ノ說ハ吾ガ記シ置ケル說ニ甚ダ勝レリ、受益談或問ノ卷末ニ附記セヨト云ヘルユヘ茲ニ記スナリ

享保辛亥十二月九日　陶山守正識

受益談束語

去年辛亥ノ六月ヨリ十一月マデ老病ノ中ニ受益談五巻ヲ著ハシ、十二月ニ至リテハ寒氣ノ甚シキニテ、事ヲ思フモ筆ヲ執ルモ心力氣力ニ及バズ專ラ保養シ、壬子ノ春ヲ待チ得テ此ノ束語ヲ草案シ、老病ヲ凌ギテ書キ終レリ、去年書述シヲ思ヒ改メケルコト二事アリ、受益談ヲ讀ム人ハ此ノ束語ヲ以テ某ガ定論ト爲スベシ、集義和書ニ云ヘルハ、德ナクシテ好キコトノミ行ヘバ人情ニサカリ、時處位ニアハズ、其ノ好キ事ノ一倍モ惡シキ事ニ成ルモノナリ、藥ヲ用ヒズシテ日ヲ經ヌレバ自カラ愈ル病ニ、下手醫者ノ藥ヲ用ヒテ大煩ト成レルガ如シ、然レドモ左樣ニ一偏ニモ云ハレズ、イロハズシテ置キテ國ノ治マルモノナラバ、其レホド易キコトハナシ、誰モ國ヲ治ムベシ、早ク藥ヲ用ヒ灸ヲスレバ愈ル病人ニ、藥ヲ用ヒタルハ惡シキトテ用ヒズ、打チ捨オキ日ヲ經テ病ノ重レバ死スルヨリ外ノ事ナシ、早ク備ヘヲ設クレバ眞ノ無事ニナリ、長久ナルモノナリト云ヘリ、是州ノ鄉村ノ病ヲ藥ヲ用ヒズシテ自ヅカラ愈ル病ナリト覺ヘ居テ、郡代ノ農政ヲ發セラレシヲ一切ニ無用ノ新法ナリト云ヒテ嘲ケリ譏ルコトノ甚シキ面々ハ、此ノ一段ノ意旨ヲ思ヒ辨ヘザルナリ、世變ハ量ラレザルモノナルユヘ、只今農政ノ行ハルマジキト見ヘタルトテ、後日ニモ行ハルマジキトハ極メ難カラン、某ガ昔上ノ厚恩ヲ忘却セ

ザル寸志ニハ、前ノ事ト今ノ事ト記シ置キテ後ノ考ヘニ備ヘルナリ、六十八年以前寛文四年甲辰ニ穂見免ヲ定免ニ改メラレシ故ヲ案シテ受益談ニ記シ置キタレドモ、精シク考ヘ思ヘバ前ニ記セシ故ニテハアルマジ、某ガ郡役ヲ勤メシ初比ノ事ニ考ヘ合スルニ、捨リ検分ヲ願ヒ出ヅル年ニ検使ノ検分ノ濟ムハ入梅ノ前ナリ、梅雨ニ成リテ長雨降リ續カズ、三四日ノ雨天ノ後ニ一二日ノ晴天アレバ、取置キシ穂麥ヲ干セドモ、五六日モ七八日モ雨天ノ續キテハ麥粒ノ腐レ多ク、是レ検分ヲ受ケシ後ナレバ、面々ノ云フマヽニ捨リヲ下サルベキ樣モナク、此ノ障リノ上ニ風雨ノ夜ナドハ猪ノ牆ヲ破リテ木庭麥ヲ喰ヒ減ラシ、山ニ近キ所ハ畠麥マデヲモ喰ヒ減シ、梅雨ノ中ニ麥粒モ穂モ濕ヒテ軟カニ成レバ、猪ノ喰フコト梅雨ノ前ヨリモ甚シク、是ノ如キノ損ヲ穂見ノ濟ミタル後ニ申出ルコトアリケルユヘ、昔モ其ノ通リニアリタルナラン、依テ甲辰ノ年ニ僉議吟味ノ上ニテ定免ニ命ゼラレ、三ツノ免ノ六分ノ一ヲ減ラシ、二ツ半ノ免ト名付ケラレケルナラン、某等郡役ヲ勤メシ時ニ猪逐詰ノ事ヲ郡代ニ申上ゲ差圖ヲ受ケ下知セシニ、其ノ入目銀ノ第一ノ出所ハ薪積大船五十艘ノ請負アリテ、以前ノ直段一匁ニ三貫半ナルヲ三貫ニシテ、其ノ半貫增ノ代銀ヲ猪追詰ノ入目ニ當テ、其ノ上ニ觸番殘薪賣拂ノ代銀鹿皮代銀等ヲ加ヘ、狩飯米ヲ與ヘズシテハ叶ハザル時ノ飯米代ニ當テ、獵師百姓ノ冬ヨリ春マデ勤メシ長キ日數ノ中ノ飯米代モ公役銀上納モ、多クハ彼ノ薪積大船ノ薪代銀ヲ以テ濟メ、西目淺海ニハ薪積小船ヲ入レ出代リヲモサセシ故ナリ、薪積大船五十艘ノ請負アリシニテ木山ヲ伐リ荒シタレドモ、山

ノ荒レタルヲ育ツルハ人力ヲ借ラズシテ育チ、當分ニテモ山ノ荒ルヽハ害ナレドモ、當分ノ利害ヲノミ論ジテハ永世ノ實利ヲ求メ得ベカラズ、猪逐詰ハ是州ノ農政ノ大原ニテ、猪逐詰ナクバ田、畠、山林ノ爲メニ木庭作停止ヲ命ゼラレ、穀菜果ノ多ク出來增ス道筋ヲ立テラルヽコト成ルマジ、猪逐詰ノ濟ミシ後マデ十年ホド猪逐詰アリシコトヲ種々ニ云ヒテ譏レルハ其ノ故アルコトナリ、其比府中ノ人ノ中ニテ鄕村ノ樣子ヲ知レル人ノ云ヘルハ、鄕村ニテ畠木庭ノ麥モ秋物モ、以前猪ニ掘返サレ喰滅サレタル損ノ分ヲ唯今ノ百姓ノ得分トノミ爲シ、木庭ノ内ノ平ラカナル所ハ山畠ニシテ畠ト同ジク年々ニ耕作シナガラ、以前ノ通リ木庭年貢ヲ上納シケルナレバ、年貢ヲ增シタマフベキコトナリト云ヒ、其ノ事ヲ書付テ役目ヲ勤ムル人ニ見セ、其ノ時ニ某ハ郡役ヲ交代シ居ケレドモ某ニモ見セタリ、其ノ事ヲ鄕村ニ傳ヘ聞キ穗見免ニ成ランコトヲ恐レ、猪逐詰ハ百姓ノ益ナラザルノミナラズ、害ニ成リタルト云ヒ觸ラセリ、近年ハ郡代ヨリ段畠ノ普請ヲ命ゼラレシコトヲ甚ダ譏リ、段畠ノ上ハ土ニ善土ノ交リ作物ノ出來ヌ樣ニ拵ラユル村々ノ多キモ、段畠ヲ好ク拵ヘ作物ノ好ク出來ルナラバ、木庭作停止ニ決定シ穗見免ニ成ランコトヲ恐ルヽ故ナリト聞ヘ、是レ敎化ナキ時代ノ凡夫ノ通情ナレバ怪シムベキコトニアラズ、神君ノ上意ニ小物成ヲ宜シトシタマハズ、百姓ニ宥免ノ過ギヌヲ宜シキトシタマヘルヲ用ヒ申サレ、公役銀ヲ四五年ノ中ニ段々ト許サレ、年貢ハ三ツノ免ニテ上納セシメラルヽナラバ、古訓ニ「罔㆘咈㆓百姓㆒以從㆗己之欲㆖、罔㆑違㆑道以干㆓百姓之譽㆒」ト示サレシ旨ニモ叶ハルヽニテアラン、受益

談續錄ニ記シ置ケルハ粮麥ノ穗見ノ歩刈檢分ヲ目付役ニ命ゼラレ、總穗見ヲ奉役ニ命ゼラルヽコトヲ記シ置キタレドモ、今春ニ至リテ其ノ事ノ行ハルマジキコトヲ知レリ、目付役モ奉役モ郡役ノ心ヲ憚リテ固ク辭スベキ時勢ト見ヘタル故ナリ、近年百姓ノ上府シテ云ヘルトテ沙汰スルヲ聞及ブニ、夫使帳、出銀帳ノ事ヲ命ゼラレシ初比二三年ハ百姓ノ爲ニ甚ダ宜シキコトナリシニ、其ノ後ハ以前ノ如クニ成リ二帳ヲ仕立ツル墨紙筆ノ入目百姓ノ損ト見ユルト云フヨシ沙汰セリ、八郷一同ニ其ノ如クナルニテハアルマジ、又近年伊奈鄕ノ百姓ノ上府シテ云ヘルトテ沙汰スルハ、川普請ニ新川ヲ立テラレ、大水ノ時ニ新川ヲ損サシ、古川留メヲ損サスコト度々ナルニテ、段々ト同ジ處ノ普請ヲノミ勤メ、村々ニ川普請ヲセズシテハ叶ハヌ所アレドモ普請スルコトナラズ、手寄ノ村ヲ三四箇村四五箇村ヅツ一組ニシテ川普請シ、新川ヲ立ツルコトハ郡代ヨリ精シク僉議セシメタマヒ、村々ノ者共ノ申ス所ヲモ聞キタマヒ、吟味ノ上ニテ新川ヲ立ツルコトヲ許シタマフ樣ニアリタキコトナリト云ヘルヨシ聞及べリ、

右ノ二事ノ沙汰ノ虚實ハ知ラザレドモ、若シ實說ナラバ郡役ノ心ヲ用ユベキ所ナリ、集義和書ニ云ヘルハ、堯ノ時ニ天下洪水ノ難アリ、朝廷ノ諸臣ミナ洪水ヲ治ムベキ人ハ鯀ナリトス、堯ヒトリ其ノ功ヲ遂グマジキコトヲ知リタマヘドモ、衆ノ勸ムルニ由リテ命ジタマヘリ、初メハ其ノ功アリシニ終ニ成就セザリシハ、己レヲ立テ人ニ下ラザル故ナリ、大任ニ當タル者ハ己レヲ捨テ人ニ從ガヒ、天下ノ才知ヲ用ヒ、衆ノハカリゴトヲ盡サザレバ功ヲ成スコトアタハズ、鯀ハ其ノ才知ニ自滿シ、初メ功ア

リシニ誇リ、彌己レニ知アリトシテ自カラ任ズルユヘ、善ヲ告グル者ナク功ヲ成シ得ズト云ヘリ、
右ノ旨ヲ郡役ノ深ク考ヘ地方普請奉行ヲモ諭スベキコトナリ、近年ハ百姓ノ公役銀上納ニ甚ダ苦シム
ト云フナレバ、木庭作停止、年貢穗見免、公役銀免許ノ三事ヲ命ジタマフコト延引セバ、其ノ害ハヒ
量リ難キ所アルベシ、右ノ三事ヲ郡役中同意ニテ八鄕ニ命ゼラレ、郡役ヨリ奉役　村下知人、肝煎、
頭百姓ニ下知ヲ任カセ、下知ノ爲シ樣モ穗見ノ爲シ樣モ皆共ノ云フ所ヲ精シク聞キ、宜シキ了簡ヲ云
ヒタルハ深ク稱美シ、宜シカラヌ了簡ヲ云フコトアルハ、懇切ニ云ヒ諭シテ改メサセ、宜シカラヌ了
簡ヲ云ヒ諭シテ改メサセタルコトヲ郡代ニモ申サズ、郡方手代ニモ詰ラズ、實意ヲ以テ勸ムルナラバ
農政必ラズ行ハルベシ、公役銀免許ニ先ヅ公役銀高ノ四分ノ一ヲ許サレ、二三年ヲ經テ殘リ高ノ半分
ヲ許サレ、又二三年ヲ經テ殘リナク許サルヽニ成リタルトモ、其ノ初比打續キ損毛ノ年ニテ糭麥ノ出
來スクナク、定免ノ分ヲ引キタル糭麥ノ代銀ノ分數、公役銀高ノ四分ノ一ニ當ラヌコトモアルベシ、
公役銀ヲ殘リナク許サレシ初比、打續キ作物ノ出來中分ノ年ニテ定免ノ分ヲ引キタル糭麥定免ノ分ヨ
リ多キホドニアリテモ、穀物ノ直段ノ甚ダ下直ナルニテ、定免ノ分ヨリモ多キ糭麥ノ代銀公役銀高ヨ
リ少ナキコトモアルベシ、然レバ聖訓ニ「欲レ速則不レ達、見ニ少利一則大事不レ成　トホシタマヘル旨ヲ堅
ク信ゼラレ、當分ノ損ヲ嫌ハレザル定見ナクテハ、年貢穗見免、公役銀免許ニ決セラルベキ樣ナシ、退
休シテ事ヲ執ラヌ人ハ善政ノ興廢ニ命アリト見テモ、廢ヲ歎キ興ヲ願フ思ヒヲ絶ツマジキコトナリ、

陸放翁ノ臨終ノ時ニ、「死去元知萬事空、但悲不レ見九州同、王師北定ニ中原一日、家祭無レ忘告ニ乃翁一」ト云ヘリ、某モ嗣子ニ云置クハ吾ガ死後ニ農政ノ行ハル、ナラバ、靈位ニ向ヒテ告知セヨト云置クナリ

受益談東語 終

書受益談東語後

今ノ郡役ハ何レモ川筋ノ曲リタルヲ直ニシ、古川ニ地ノ揚ガリテ作所ノ増スヲ宜シキコト、云ヘルヨシ聞キ及ベリ、先年某ニ郡代ヨリ郷村ノ事ヲ問ハレケル時ニ答ヘ申セシモ其ノ通ナリ、木庭作停止ノ事ト、段畠普請ノ事ト、川筋普請ノ事トノ三事ヲ答ヘ申セシ中ニ、百姓ノ譏ラヌ事ハ一事モ無シ、乙巳以來八年ノ間ダ郷士百姓ノ伊奈郷ノ木庭作停止ヲ譏ル說ヲ聞キ盡シテ、彌木庭作停止ハ是州ノ農政ノ大本ニテ、穀菜果ノ出來增シ君上ニモ百姓ニモ府中ノ諸人ニモ利益アルコトノ大原ナリト知レリ、只今思フニハ、新川ノ立ツコトハ一切ニ停止アリテ宜シカラント思フナリ、今ノ郡役ノ事ヲ聞ク

ニ、才勘アルト沙汰スル人ナレバ、吾輩ノ如キ愚蒙ニテハアルマジケレドモ、畢竟只是レ常人ノ中ニテノ才幹アル人ナルベシ、常人ノ情ハ先入ヲ主トスルユヘ、新川ヲ立テ古川ノ曲レルニ地ノ揚ガルヲ上下ノ利益ト見ケル先入ノ見識ノ、少シモ殘ラズ改マルコトハ甚ダ難カラン、某モ郡役ヲ勤メ居ケル身ナラバ、近年新川ノ宜シカラヌト云フ次第ヲ聞キテモ、先入ノ見識ヲ改メ得ザルニテアルベシ、其ノ事ニ預カラズシテ見聞クハ、其ノ事ニ預リテ見聞クヨリモ精シキコト是レ何事ノ上ニモアルコトナリ、何レノ所ノ川普請ノ時ニテモ新川ノ事ヲ郡役ヲシテ僉議セシメラルヽニ成ラバ、新川ヲ立ツルコトヲ好ム先入ノ見識ノ殘リ居ケル所ヨリ新川ノ立タズシテ濟ムモ、新川ノ立タズシテハ濟マヌ僉議落着スベシ、其ノ害ハ新川ヲ立ツベキ所ニ新川ヲ立テズ、有リ來リタル川ノ損ジケル所バカリ修理シ置ク害ヨリモ重カラン、段畠普請ノ宜シカラヌコトヲ知レルハ、與良郷ノ郷士ノ說ニ、早ク木庭作ヲ停止シタマヒ、段畠ヲ拵ラフルコトモ停止シタマヒ、昔ヨリ有リ來タレル畠ト、猪荒ノ止ミシ後ニ掘リ明ケ山畠ト爲シ年々ニ作リ來レル畠バカリニ耕作セシメタマフベキコトナリト云ヘル由傳ヘ聞キ、是レ當然ノ道理ナルコトヲ知リ、以前ノ見識ノ誤リヲ悟レリ、段畠普請ヲ停止セラレ、作所ノ甚ダ不足ナル村ヨリ願ヒ出ルニ許サルヽモ、願出ノ分數ヨリ内端ニ許サレ、段畠ニ成ルベキ所ノ多キヲ以來ノ生レ增シノ次男ノ作所ニ當テ置カルベキコトナラン、農業全書ニ田畠ハ分限ヨリ内端ニシテ、深ク耕ヤシ精シクコナシ厚ク培フニ利多シト云ヘル、是レ農作ノ道理ノ肝要ニテ、是州ノ郷村ノ甚希ナル良

農ノ云フ所モ其ノ通リト聞及ビタレドモ、木庭作ヲ好ム惣體ノ農人ソノ說ヲ惡ムコト讎敵ノ如クナルユヘ、人ニ語ルモ竊カニ語リ、其ノ說ハ埋モレテ流布セズ、木庭作停止ヲ譏ル不埒ナル說ノミ府中ニモ流布スルナリ、近來ハ穗見免ノ沙汰アリテ穗見免ニ成ラバ、公役銀ヲ許シタマヒテモ百姓ハ潰ルベシト云ヘルヨシ聞及ベリ、木庭作ノ停止アリテ木庭作ヲ止メタル手間ノ延ヲ、田、畠、山畠、段畠、ニ用フル下知ヲ堅ク成サレ、田、畠、山畠、段畠ニ出來增シアリテ十ノ三ノ上納ノ分數段々ト多ク成リ、作人ノ得ル所ノ十ノ七ノ分數モ段々ト多ク成リ、以前畠作、木庭作ヲ兼テ爲セル利益ニ勝サレルトモ、上府セシ百姓共ノ云ヒ廻ルニハ、年貢ヲ大分ニ上納セシメタマヒ百姓ハ潰レタリトバカリ云ヒ廻ルベシ、左樣ニ云ヘルトテ疑ヒヲ起サルベキコトニアラズ、是レ古訓ニ「罔ニ違レ道以干ニ百姓之譽一」ト示シ置カレシ所ナリ、其ノ他ノ事ノ上ノ利ニノミ成リテ百姓ノ損ニ成ルコトハ、上府セシ百姓ノ惡シク云ヒ廻ラス鄕村ニテ、内々ニ譏ルベキコトモ命ゼラレザルコソ宜シカルベケレ、是レ古訓ニ「罔レ咈ニ百姓一以從ニ己之欲一」ト示シ置カレシ所ナリ、川普請ニ曲レル川ヲ直グナル川ニシテ、假令田畠ヲ合セ百町百五十町ノ新地ノ出來ル積リト見ヘタルトモ、某ハ甚ダ宜シカラヌコトト思フナリ、其ノ故ハ夫飯米ヲ下サレズシテ新地ノ出來ル樣ニ、是ノ後モ毎年川普請ヲ爲サシメタマフハ、百姓ノ川普請ノ下知ヲ怨ミ惡ムコト彌深ク成リ、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ヲ田、畠、山畠ノ耕作手入レ養ヒニ用ヒシメラルヽ下知アルトモ行ハレ難カラン、百姓ノ譏レル下知ノ中ニテ改メラルベキ事ヲ一々ニ改メラレ、

其ノ上ニテ農作ノ下知アルヲ百姓ノ守ル樣ニ下知セシメラルヽニ成ラバ、糭麥ノ出來增シ大分ナルベシ、若シ穗見免ニ改タメラルヽニナラバ、穗見ヲ奉役ニ任ゼラレ、村下知人、肝煎ト立合ヒ、上中下ノ出來ノ所ニテ上ノ中ト中ノ中ト下ノ下トヲ見極メテ歩刈シ、上中下ノ出來ノ分數ヲ見極メ、出來高ヲ極メ、十ノ三ヲ上納セシメヨト命ゼラレ、上ノ爲メトテ辛ク見極メ、下ノ爲メトテ甘ク見極ムルハ共ニ是レ惡シキコトナリ、念ヲ入レテ眞直ニ見ヨト示シ置カレ、早麥ノ穗見ノ時節ト云フ六七日前ニ、兼テ穗見役ニ撰ビ置カレタル郡役一人ニ目付役一人下目付一人ヲ添ヘラレ、豆酘郷、佐須郷、與良郷ノ通リ筋ノ村々ノ麥出來ノ樣子ヲ見通フシメラレ、仁位郷ニテ郷役人ト共ニ早麥ノ出來ト早麥晩麥ノ分數ノ大抵トヲ檢分シ、三根郷、伊奈郷、佐護郷ノ早麥ノ檢分ニハ立合ハズ只ダ見通レルマデニシ、豐崎郷ニ郷役人ト共ニ晩麥ノ出來ト、晩麥・早麥ノ分數ノ大抵トヲ檢分シ、毎年ノ麥出來檢分ヲ其格ニテ檢分スル二郷ハ年々ニ替ヘ、糭出來檢分モ其ノ主意ヲ用ヒテ檢分セシメラルヽコト宜シカランカ、何レノ事ノ下知ニテモ木庭作停止ニ決定ナクテハ無益ノ下知トナラン、木庭作停止ニ決定ノ命アリシ上ニテ、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ビヲ田、畠、山畠、段畠ノ耕作手入レ養ヒニ用ヒシメラルヽ、下知ハ、毎年三月ノ節中比ヨリ四月ノ節ノ中比ノ間ダ、穗見役ニ定メ置カレシ郡役一人ニ目付役一人下目付一人ヲ添ヘラレ、八郷ノ村々ノ畠麥ヲ巡視セシメラレ、何レノ村ニテモ畠ノ草ヲ能ク拔キ土ヲ能ク寄セ、麥ノ株ヘモ能ク見ユル中ニテ殊ニ能ク見ユル所ノ作人二人ノ名ヲ書付ケ、草ヲ能ク拔カズ土ヲ能

ク寄セズ、麥ノ株ヘモ能ク見ヘヌ中ニテ殊ニ能ク見エヌ所ノ作人三人ノ名ヲ書付ケ持チ登ラシメラレ、麥畠ノ様子ノ能ク見ヘヌ作人三人ノ中ニテ、麥蒔付ノ時分ヨリ或ハ其ノ身ノ病氣ナルカ、或ハ家內ニ病人アリシユヘ、蒔付ノ前ノ耕シ疎ソカニ成リ、蒔付モ延引シ手入養ナヒモ心ニ任カセヌト云フモアラバ、一村切リニ下知人、肝煎ニ吟味サセ其ノ名ヲ書キ出サシメ、奉役ヨリ飛脚ヲ以テ差出セト命ゼラレ、何ノ障リモナキニ請持ノ地面ノ麥ノ様子ノ殊ニ惡シキ三人ノ中ノ一二人ヲ不精者ニ極メラレ、年貢上納ノ殘リノ內ヨリ麥二俵ヅツ科代ニ出サシメラレ、村下知人ト肝煎トノ小屋ニ預リ居テ、其年ノ極月ニ彼ノ好キ作人二人ヘノ褒美ニ渡セト命ジ置カレ、其ノ差引ニ違ヒノ有リ無シハ、翌年正月上四鄉下四鄉ニ下目付ヲ一人ヅツ差下サレ聞極メサセラレ、其ノ翌年ノ檢分ノ時モ彼ノ不精者ノ請持ノ麥ノ様子ノ前年ニ替ルコトナクバ、彼ノ不精者ノ地面ヲ取揚ゲ、上百姓ノ次男ノ中ニテ百姓ニ成ルベキ者ニ請持セ、當分左様ノ次男ナクバ上百姓ノ仲間ニ請持セ、彼ノ不精者地面ヲ取揚ゲラレ名子ニ成レルニハ山ノ働キヲ停止セラレ、木山ヲ伐荒ス害ヲ防ガレ、鄉士百姓ノ雇ハレニ成ルト磯海ノ働キスルバカリニテハ渡世難儀ナルト云ハヾ、其ノ鄉ノ鄉士ニ身ヲ賣ラセ、幼少ノ子アルハ母ニ付ケテ身ヲ賣ラセ、老父母アルカ、常病人、片輪者アルハ其ノ村ト隣村ニ在ル親類緣者ニ分ケテ介抱サセ、老父母ノ共ニアルハ引キ分ケズ一所ニ置キ、介抱スベキ仲間ヨリ其ノ一所ニ居ケル家ニ食用ノ物ヲ贈ラセ、總テ其ノ心持ニテ農業ニ念ヲ入ル丶コトヲ勸メラレタキコトナリ、心易キト思フコトノミニテ懲ル丶

コトナクバ、農政ノ行ハルヽコトアルマジ、農業ノ時節ニ府中ヨリ役人ノ郷村ニ下レルハ、馬ノ口取リ船渡シノ水夫ヨリ宿人足ニ至ルマデ、百姓ノ農務ヲ缺グ障リアレドモ、不精者ヲ極メラルヽ爲メ目付役、下目付ヲ下サルヽニハ、其ノ障リヲ構ハルベキコトニ非ズ、奉役、村下知人ニ不精者ヲ極メサセラルヽバカリニテハ行ハルベキ勢トハ見ヘズ、川普請ニ夫飯米ヲ下サレズ、他村他郷マデ飯米ヲ持越シテ勤ムルコトノ十年以前ニ始マリシハ、只今江戸在勤ノ郡代ヨリ某々郡村ノ事ヲ尋ネラレシ返答ニ申セシ事ノ中ノ一事ナリ、左様ニ申セヨシ故ハ、上ノ用ノ足リタマハザルニテ段々ト出方ヲ減サレケル所ヨリ、川普請ヲ命ゼラルヽコトモ止ミ、數年川普請ノ無キニテ川端ノ損ジヤ地捨リアレバ、上ノ年貢ノ減ルヨリハ作人ノ作得ノ減ルコト多ク、其ノ所ヨリ見テハ夫飯米ヲ請ケズ、川普請ヲ勤メテモ百姓ノ爲メニ成ルベシト考ヘケル故ナリ、然ルニ是比ニ到リテ其ノ誤リヲ悟レルハ、去冬以來上府ノ百姓ノ云ヘルヲ聞及ビテノコトナリ、某ガ誤マリ遂ニハ郡代ノ誤マリト成レルコトヲ甚ダ難儀ニ思ヒ、州府在勤ノ郡代ノ是レヲ見テ改メラレンコトヲ願ヒ、茲ニ精シク記シ置クナリ、儲蓄ノ事ヲ伊奈郷ノ百姓ノ上府シテ云ヘルハ、儲蓄麥ヲ毎年四俵ヅツ出サセラレ食用乏シキト云ヘルヨシ沙汰セリ、之レ僞リナリ、伊奈郷ノ百姓ニ某ガ知レル者アリテ、是比上府セシニ尋ネケル返答ニ云ヘルハ、其ノ身ハ三俵物成ノ地面ヲ請持チ居ケルニ、近年段々ニ出セシ儲蓄ハ總テ六俵ナリ、其ノ上ニハ出セラレズト云ヘリ、前ノ沙汰ノ如クナル僞リヲ不埒ナル百姓ノ云ヒ廻ハルハ其ノ類ノ多キコトナリ、若シ農政興

起ノ時ニ考ヘニモ成ルベキカト思ヘル次第ハ、食兵宗旨一冊、財用説一冊、受益談六冊ニ記シ置キ、前ノ書述ヲ後ニ改メシ事モ一々ニ記シ置ケリ、川普請ノ事ハ改メテ命ゼラレ、手寄ノ村三四箇村四五箇村ヅツ云ヒ合セ、冬春兩度ノ普請ノ日數モ相談次第ニ定メ、水當リノ岸ノ堅固ニ成ル爲シ様モ、川岸土手ノ植物ノ爲シ様モ、地方普請奉行先年以來郷々ニテ川普請ノ下知ヲ勤メシ時ノ差圖ヲ、村下知人、肝煎、頭百姓ノ見覺ヘ心得居ケル通リニセヨト命ゼラレタラバ、夫飯米ヲ下サレザルモ害アルマジ、若シ木庭作停止ヲ命ゼラルヽニ成ラバ、毎年麥ノ草生ヒ秋物ノ草生ヒノ時分ニ下目付二人郡役所ニ出デ、郡役ノ前ニテ圖ヲ取リ、其ノ圖ハ上四郷ノ中ニテ一郷ニ二箇村ヅツ、下四郷ノ中ニテ一郷ニ二箇村ヅツ村ノ名ヲ書キタルヲ二人ニテ取リ、圖ニ當リタル郷々ノ二箇村ヅツノ山ヲ檢分シ、平ラカナル山畠、段畠ニテナキ所ニ作物ノ生立居ケルヲ見及バヾ作人ヲ尋子極メ、書付テ郡役ニ差出セト命ゼラレ、其ノ書付ヲ封ノマヽ郡役ヨリ郡代ニ差出ス格ニ成ラバ、木庭作停止ノ下知ノ立ツコト易カラン、一年ナリトモ早ク木庭作停止ヲ命ゼラレ、木庭作ノ止ミタル手間ノ延ビヲ田、畠、山畠、段畠ノ農作ニ用ユル下知ヲ前ニ記ス趣ニ命ゼラレタラバ、穀、菜、果ヲ増スコト大分ナラン（壬子二月中旬述作）

受益談後語

郷村ノ麥出來六分七分ノ年ニモ四分五分ノ年ニモ、百姓ノ食用不足ナラント思フコトナキ人ノ穗見免ニ成ラバ、百姓ノ食用不足ナラント思フハ、是レ思ヒ合スルコトノ精シカラヌナリ、夫レ共ニ定免ノマヽニシ置カレテ何ニノ憂ヒモアルマジキナラバ、定免ヲ穗見免ニ改メラルヽハ無用ノ事ナラン、某ガ曾テ述作セシ十穀談ニ記セルハ、諸方ノ通路ノ成リ易キ時ニ年貢ノ增ス事ヲ少シモ爲サズ、一筋ニ百姓ヲ利スル心ヲ守レル郡奉行ヲ眞トニ能ク君ヲ利スル郡奉行ト云フベシト記シ、去年辛亥ノ五月マデハ其ノ通リニ思入リ居ケルニ、六月四日ニ始メテ本多加信聞書ヲ讀ミ、神君ノ上意ニ、百姓ノ仕置ハ萬事ノ根元ナリ、餘リニ宥免スグレバ、愚カナル百姓ユヘ一寸先ヲ考ヘズ、侈リ出來テ耕作ニ精ヲ入レズト云ヒタマヘルヨシ記セルニテ、多年ノ心得違ヲ始メテ悟レリ、定免ニテハ如何ホドノ豐年ニモ定免ノ分サヘ上納スレバ、其ノ餘ハ總テ百姓ノ得ナリト覺ヘ居ケルニ、穗見免ニテ出來高ノ十ノ三ヲ上納セシメラルヽユヘ、耕作ニ精ヲ入レ作物ノ出來增シアレバ、十ノ七ヲ百姓ノ得ケル分モ多ク成リ、耕作ニ精ヲ入レズ作物ノ出來增シナケレバ十ノ七ヲ百姓ノ得ケル分モ少ナク成レルト知リ、當分ハ其ノ辨ヘナクテモ郡役奉役ノ折々ニ云ヒ諭スニテ漸々ニハ聞キ入レ、上下ノ利益ノ多ク成レルニテアルベシ第一條

去年以來聞及ブニ、儲蓄ノ麥ヲ村下知人、肝煎ノ内證ニテ百姓ニ返シ與ヘタル村々ノ少ナカラヌト云フ沙汰アリテ、上百姓ト上ニ近キ並百姓ノ出シ置キタル儲蓄ノ麥ヲ、大凶年ニテモナキニ取リ返シタキト請フベキ樣ナク、下百姓ト下ニ近キ並百姓ノ出シ置キタルヲ取リ返シタキト深ク請ヒ、村下知人肝煎モ已ムコトヲ得ズシテ竊カニ返シ渡シ、奉役モ大抵ハ其ノ樣子ヲ聞キテモ聞カザル分ニシ置ケルナラン、大凶年ト云フホドノ年ニテナキニ其ノ如クナルハ、儉約ヲ行ハズ、奢侈ノ風俗ニ成リ居ケルユヘナリ、秋物ノ出來大抵ナレバ、翌年ノ麥出來ノホドヲ考ヘズシテ食用モ雜用モ心ニ任カスルニ依リ、若シ翌年ノ麥出來大抵ヨリ内端ナレバ、其ノ年ノ秋物ノ出來ザル前ニ麥ヲ喰ヒ盡ス積リト見ユルニテ掘物シ、麥出來大抵ナレバ、其年ノ秋物ノ出來ノホドヲ考ヘズシテ食用モ雜用モ心ニ任カスルニ依リ、若シ其ノ年ノ秋物ノ出來大抵ヨリ内端ナレバ、翌年ノ麥ノ出來ザル前ニ秋物ヲ喰ヒ盡ス積リト見ユルニテ掘物シ、其ノ如ク掘物スル時ニ其ノ者共ノ出シ置キタル儲蓄ノ麥ヲ取リ返シタキト深ク請ヘルニハ、村下知人、肝煎ノ其ノ請ヒニ應ズルコト自然ノ理勢ナリ、今若シ儲蓄麥ノ俵數ヲ郡役ヨリ正スベシトノ議アラバ、草使共ヨリ面々ノ郷ニ急ニ告ゲ知ラセ、種々ノ拵ヘ事アリテ其ノ正シニ益ナカラン條第二

是ノ比聞及ブニ、君上ノ用ノ殊ニ足リタマハザル時勢ニ成レルト聞及ベリ、孟子ノ仁術ト云ヒタマヘルヲ朱子ノ註ニ「術謂二法之巧者一」ト說キタマヒ、「術猶二方便一也、術字本非二不好底字一只緣二後來把做二

變詐ニ看了上、便道ニ不好一、却不レ知ミ天子事有ニ難處一、須下看ニ箇巧底道理一始得上」ト云ヒタマヘリ、只今若シ巧底ノ道理ヲ用フル郡役アラバ、同志ノ郡役ニ相談シ連名ノ書付ヲ郡支配ニ差出シ、其ノ書付ニ今年ノ立夏ハ四月十三日ニテ、鄕村ノ者ノ春木庭ヲ伐リ始ムルハ三月ノ節ニ成リテノ下旬ナリ、然レバ今年四月初メ比ノ未ダ春木庭ヲ伐リ始メヌ前ニ、木庭作停止ヲ命ジタマハヾ春木庭ヲ伐ラズ、四月ニ木庭粟ヲ作ラヌ手間ノ延ビニテ麥出來前ニ仕廻シ置クベキコトヲ仕廻ハシ置キ、麥取リノ勝手ニ宜シカラン、木庭大豆ハ早ク作ラネバ出來ノ好カラヌトテ、畠麥ヨリ早ク木庭麥ヲ取リ麥跡ヲ耕ヤシ、大豆ヲ早ク蒔付ルユヘ畠麥ノ取リ仕廻ヒ延引シ、梅雨ニ成リテ麥ヲ腐ラス損分多クカ少クカ年々ニ有ルコトナレバ、木庭作ヲ今年四月初比ニ停止シタマヒテ、同時ニ穗見免ノ事ヲ命ジタマハバ、差當リ今年ノ麥出來ノ穗見ヨリ麥ノ梅雨ニ腐ルヽコトノ以前ノ樣ニナキ利益アリテ、其ノ分ホド出來高ノ十ノ三ノ上納ノ增シニ成リ、作人ノ十ノ七ノ得分ノ方ニテモ增スベシ、木庭作スルニテ薄ク出來居ケル廣キ木庭ノ大豆、粟、蕎麥ヲ取ルニ手入レ多ク、秋物跡ニ麥ヲ蒔付クル木庭ハ其ノ耕ヤシ蒔付ケニモ手入レ多ク、畠ノ麥蒔付マデ時ニ後レ、蒔付ノ時ニ後レタル分ハ實入リ薄シ、其ノ損分ト麥ヲ取リ仕廻ハヌ前ニ木庭大豆ヲ作リ麥 梅雨ニ腐ラス損分ヲ合セテハ、木庭作ノ作得ヨリモ右ノ損分ノ多キコト勘辨アル作人ハ知リ居ケレドモ、木庭ヲ請持ケルユヘ俗ニ從ヒテ木庭作スルト聞キ及べリ、公役銀ノ爲メニ賣リ拂フ諸品ノ直段ノ下直ニ成レル損分アルニテ、上納皆濟ノ成リカスル足シハ、穗見免ニテ年貢ノ增

シタル分ヲ賣リ拂ヘルヲ以テ差シ足スヨリ外ハナシ、其ノ如クセズ強ク催促シテ皆濟セシムルナラバ、下百姓ト下ニ近キ並百姓ノ大潰シ、來ル年潰ルヽハ來年ニ成リ、來年潰ルヽハ今年ノ冬潰ルベシ。並百姓下百姓ノ潰レノ早ク成ル樣ニ下知シテ公役銀ヲ皆濟セシメ、其ノ年ノミヲ見テ翌年ヲ見ヌハ郡役ノ大ナル罪ニ成ルベキユヘ、今年ノ極月ニ去年ノ公役銀ノ算用ヲ差出スニハ、下百姓ト下ニ近キ並百姓ノ身上ノ潰レニ成ラヌ樣ニ、精シク見量ラヒ催促セヨト奉役村下知人ニ云ヒ渡スベシ、其ノ如クスルニ木庭作停止ト年貢穗見免トヲ四月初比ニ命ジタマハズバ、今年極月ノ公役銀ノ未收ノ分量ハ輕キコトニテアルマジ、八鄕ノ中ニテモ麥ノ取高ノ多キ鄕アリ、少ナキ鄕アリ、取リ高ノ少ナキ鄕バカリ見テハ以後ハ格別、近年ノ中ニハ年貢ノ增シ多カラズ、諸品賣拂ノ代銀ヲ以テ公役銀ヲ上納スル不足ヲ足スホドニハアルマジキト見ユベケレドモ、其ノ分ハ麥ノ取リ高ノ多キ鄕ノ十ノ三ノ上納ノ增シヲ以テ差足スニテ餘分アルベシ、穗見免ニ成レル上ニテモ以前定免ノ時ニ捨リヲ受クホドノ凶年アラバ、定免ノ物成ノ分ヲ引キタル殘リ高ノ中ヨリ十ノ三ヲ上納セシムルコト宜シカラズ、右ノ格ニ成リテハ公役銀ヲ免許シタマハヌトテモ、公役銀免許ノ主意ニ叶フベシ、其ノ故ハ幸子、椎茸、於期、若和布、大豆、煙草等ハ、作所ノ出來物ト、山海自然ノ出來物ニテ作ラデ叶ハズ、取ラデ叶ハヌ品ナレバ、農務ノ時節ニ公役銀ノ爲メトテ強ヒテ山海ヲ働クニテナク、基肄養父年貢ヲ載セ來レル船ニ薪ヲ伐リテ賣リ渡スコトモ常例ニ成リ居ケルユヘ、爲サデ叶ハヌ働キナルガ故ナリ、右ノ格ニ成リテモ若

シ其ノ年ノ山海ノ出來物ノ甚ダ少ナク、穗見免ノ十ノ三ノ上納モ甚ダ少ナキ年ノ希レニアル時ノ爲メ
ニハ、穗見免ノ物成ノ定免ノ時ニ增シタ分ト、作所山海ノ出來物ト、不時ニ鰯ヲ多ク引揚ゲ、烏賊ヲ
多ク釣揚グルトヲ賣拂ヘル代銀ヲ合セタル銀高ノ、其ノ年ノ公役銀ヨリ多キ分ヲ別帳ニ記シ、勘定役
所ニ差出シ置キ、基肄養父並定免ノ格ヲ用ヒラレ納越ニ立テ置カレ、定免ヨリ多キ年貢ノ代銀ト、作
所山海ノ諸品賣拂ノ代銀トヲ合セタル銀高ノ、其ノ年ノ公役銀ノ高ホドニハナキ年ノ差足シニ當テ置
カレンコト宜シカランカ、郡役ノ中ニテ何某ノ云フ所ハ某共ト異ナリ、數遍尋聞キテモ落着キ得ズ、
郡支配ヨリ精シク尋子ラレ、某共ノ申ス所ヨリハ道理ノ勝レルト思召ルヽナラバ、其ノ道理ヲ某共ニ
示サレ、何レモ君上ノ爲メ百姓ノ爲メ宜シキ樣ニ命ゼラレンコトヲ願ヒ申スヨシ書述ベ差出ニテアル
ベシ第三條

早麥、晚麥ノ出來高ヲ郡役目付役ノ穗見ニテ極メ置キタル鄉モ、村中ノ作人面々ヨリ十ノ三ヲ上納セ
シムル割付ハ、其ノ鄉ノ奉役ト其ノ村ノ下知人、肝煎トニ任カスベキコトナリ、穗見役ハ何レニモ郡
役ノ中ノ一人ニ定メラレ、目付役二人ヲ撰ビ置カレ、毎度一人ヅツ添ヘラルヽコト宜シカラン、若シ
郡役二人ニ定メラレタラバ、穗見ノ格ノ大筋ニハ違ヒナクテモ、枝葉ノ所ニハ面々ノ見識一樣ナラ
ズ、其ノ一樣ナラヌ所ヨリ奉役、村下知人ノ心ニ疑ヒ出來テ、穗見ノ大筋目マデノ害ニ成ルコトアル
ベシ、其ノ一人ノ郡役モシ穗見ノ時節ニ當病アラバ、毎度ノ穗見ニ添ヘラルヽ目付役ニ穗見ヲ命ゼ

ラルベシ第四條

久田ノ川ヲ新川ト謂フ說アリ、彼ノ川ハ南ノ山下ヲ一筋ニ流レ居ケルニテナク、原中ニモ流シ出デ、川筋ノ定マリ居ケルヲ檢分シテ原中ヲ掘リ通シ、船江ノ方ノ江川ニ掘リ續ケ川筋ヲ定メタルナリ、能ク流レ通リ居ケル川アルニ、別ニ川筋ヲ立テタル新川ノ類ニハアラズ第五條

右ハ壬子三月老病ノ病間ニ述作スルナリ

受益談後語終

足食談

足食談

是州ノ郷村ニ稻ヲ產スルニ石數ノ殊ニ少ナキコトハ、續日本紀延喜式等ノ國史國典ニ見ヘ、應永年中ニ筑紫ノ人來リ住スルコトアリケル後ハ、雜穀ヲ食シテモ食ノ足ラザルニ成リ、寬永以後ハ京都大坂ヨリ下リ居ケル者ノ多キニテ、足ラザルコト愈々甚シク、寶永年中ニ府中ノ人口ヲ減ラサルヽ命令アリテ、京都大坂ヘ上レル者スクナカラズ、府中ノ人口四分ノ一程ハ減リタリ、是レ食ヲ足サルヽ政道ノ一ツナリ、八年以前享保乙巳ノ年ニ、郡代ヨリ伊奈鄉ニ木庭作停止ヲ命ゼラレショリ以來、ソノ下知ヲ譏ル說ニ云ヘルハ、以前猪逐詰ナクバ、木庭作停止ナクトモ何ノ害アラン、此度ノ下知ハ以前ノ猪逐詰ノ過マチヲ補ナワルヽマデノ下知ト見ユレドモ、其ノ補ナヒハ成ルマジ、農作ヲ他ノ州郡ノ樣ニ爲シ來ラヌ農人ナレバ、假令下知ニテ木庭作ヲ止メタルトモ、農作ノ爲シ來リヲ何トシテ改タムベキヤ、木庭作停止ヲ若シ他ノ鄉々ニモ、伊奈鄉ノ如ク命ゼラルヽナラバ、中分以下ノ百姓一同ニ潰ルヽニテアラン、木庭作ヲ止メ田畠、山畠、段畠ニノミ耕作シ、手入レ養ナヒヲ精シクスルナラバ、作物ノ出來增ス事モアルベケレドモ、貧シキ百姓ハ農務ノ時ニモ、公役銀ノ爲メニ山海ヲ働ラキ、公役ノ夫使ニモ當タリ、作所ノ手入レ養ナヒノ手廻シ力ニ及バストコロアリ、鰯ヲ引ク村々ハ作所ノ手入レ

カニ及バヌトコロアリテモ、畠、木庭ノ養ナヒニ干鰯ヲ用ヒテ、作物ノ出來オホケレドモ、鰯ヲ引カヌ村村ハ、干鰯ヲ買フ代銀ヲ持タル百姓ノミ干鰯ノ養ナヒヲ用ヒ、並百姓ハ畠バカリニモ用ヒ得ズ、何レニモ惣體ニ行キ度リテ利益アルハ、木柴ヲ燒キテ養ナヒトスル木庭作ナリ、畠ノ甚ダ少ナク、木庭作ニテ百姓ノ身ノ上ノ立居ケル村ト畠モ甚ダ少ナク、木庭ハ險岨木庭バカリナル村ニモ、木庭作ノ停止アラバ、其ノ難儀殊更オモカラント云ヘリ、是レ郡代ノ下知ヲ譏ル說ヲ聞ク大畧ナリ、希ニ譏ラヌ說ニ云ヘルハ、猪逐詰ナクバ、農政ノ大益ノ見ユルコトアルマジ、農政ナクバ、猪逐詰ノ大益ノ見ユル事アルマジ、木庭作停止ハ農政ノ先務ナリ、寬文四年甲辰ノ地分ケ以前ハ、田畠木庭ヲ百姓自分ノ持傳ヘニシテ、富民作所ヲ多ク持チ、地主ノ少ナキニテ、木庭ノ分レモ少ナカリシニ、甲辰ノ地分ケ以後ハ、百姓一同ニ作所ヲ請持チ、木庭ノ分レモ多ク成レリ、山畠段高ノ外ノ木庭地ノ耕作ヲ禁ゼラルヽハ、禁ヲ犯カス事見ヘ易カルベシ、木庭ヲ古法ノ如ク明ケシメラルヽモ、別ニ分數ヲ定メテ明ケシメラルヽモ、法ヲ守ルト法ヲ犯ストノ檢分ヲ、作人面々ノ木庭ノ、毎年ノ麥作ト秋物ノ作ニテ檢分セシメラルヽハ、成ルベキ事ニアラズ、猪逐詰ヲ論ズルニ、猪ノ木庭ノ牆ヲ破リテ、作物ノ草生ヒヲ掘リ返シ、實ノラントスルヲ喰ヒ潰シ、山ニ近キ畠作マデモ掘リ返シ喰ヒ潰シ、殊ニ山ニ近クテ牆ニスル木ヲ取ルニ手遠キ所ノ畠ハ、耕作シ得ザルモアリシニ、猪逐詰以後ニ、右ノ段々ノ損ノナキ事ハ云ワズ、以前ハ前ノ年ノ木庭ノ牆木ニテ薪ノ用ヲ達シケレドモ、猪逐詰以後ハ別シテ薪ヲ伐リ取ルニテ、百姓ノ爲メニ宜

シカラズナドヽ、輕キ事ヲ重キ事ノ樣ニ云ヒ爲シ、木庭ヲ廣ク明クレバ、種子ニ應ジテハ出來ノ少ナクテモ、作所ノ廣ク種子蒔ノ多キニテ、種子ヲ引キタル殘リノ作得、以前ニ勝サリ一石蒔ヨリ五石出來ルハ、種子ノ四倍ナレドモ、種子ヲ引キタル作得四石ニテ、二石蒔ヨリ八石出來タルハ、種子ノ三倍ナレドモ、種子ヲ引キタル作得六石ナリトハ云ハズ、種子ニ應ジテハ出來ノ少ナキ事ノミ云ヒ、寛文甲辰ノ前ハ、並百姓下百姓ノ勝手ノ支ヘタル時ニ賣レル作所ヲ富民ノ方ニ買聚メ、並百姓ハ富民ノ作リ子トナリ、富民ハ勝手ノ支ヘナキニテ、木庭ヲ明ケ過サズ、作リ子ニ差圖シテ大抵古法ノ通リニ明ケサセ、大雨ノ時モ土沙石ノ流レ下ダル事少ナカリケルニ、甲辰ニ富民持來リノ作所皆々取上ゲニ成リ、並百姓下百姓マデ、大抵作所ヲ同ジ程ヅツ請持チケル後ハ、凶年ノ作得ノ不足ヲ取リ足ストテ、木庭ヲ段々ト廣ク明ケ、種子ニ應ジテ出來ハ少ナク成リ、木庭ノ土沙石ノ大雨ノ時ニ流レ下ダル事ハ增シ、元祿十二年己卯五月、其時ノ郡奉行佐護ニテ昔ト其時ノ替リアル事ヲ老人ニ問ヘルニ、二十年ホド以前ヨリ木庭ヲ明ケ過シ、鄕子淵ノ深サ昔ハ九尋ナリシニ、今ハ五尋ニ成リ、志多内川ノ昔ハ直グナリシニ、段々ト北ノ川岸ヲ洗ヒ崩シ、曲レル川ニ成リ、上畠ノ損ゼシモ木庭ノ明ケ過シニテ、土沙石ノ多ク流レ下ダリ、川中ニ積レル故ナリト答ヘ、何レノ鄕モ其ノ樣子ナリト云ヒ、元祿己卯ハ寛文甲辰ヨリ三十五年ニ當タリ、甲辰ノ地分ケ以後十餘年ノ間、漸々ニ木庭ヲ明ケ過シ、元祿己卯ヨリ二十年ホド以前ニ至リテ、木庭ノ明ケ過シト見ヘ渡ルホドニ廣ク明ケタルト聞ヘケルニ、木庭ノ出

來ノ種子ニ應ジテハ少ナク成レル事モ、土沙石ノ多ク流レ下ル事モ、猪逐詰以後ハ猪逐詰以前ニ增シタルト云ハズ、猪逐詰アリシニテ新ニ始マリタル樣ニ云ヘリ、以前猪荒ノ時ハ、夜ノ猪逐ヲ勤ムベキ年比ノ者ノ三人アル家ハ、三箇所ニ木庭ヲ明ケ、四人アル家ハ、四箇所ニ木庭ヲ明ケ、石原モ惡地モ入レ交ヘテ廣ク明ケタルナレバ、猪アリテハ山畠、段畠ニ成ルベキ所ヲ何箇所ニテモ山畠、段畠ニシテ耕作シ得ベキ樣ナク、猪ヲ防グ手間ノ費ヘ多クシテ、田畠ノ耕作手入レ養ヒヲ精シクシ得ベキ樣ナキユヘ、猪逐詰ハ農政ノ先務ナリ、猪逐詰アリテモ、木庭作ノ停止ナケレバ、木庭ヲ彌廣ク明ケ、田畠ノ耕作手入レ養ヒヲ精シクシ得ベキ樣ナキユヘ、猪逐詰アリシ後ノ農政ノ先務ハ、木庭作停止ナリ、如何ホド愚カナル農民ニテモ、作得ノ滅ル樣ニ木庭ヲ明ケ過スベキ事ニアラズ、只今ヲ木庭ノ明ケ過シノ至極ト云フ故ハ、此上ニ廣ク明ケテハ、種子蒔ノ分數ハ增シ出來ハ減リ、干藻干鰯ヲ入レ來レル木庭ニテモ、地面ノ分數ノ彌廣ク成レルニテ養ヒ足ラズ、木庭作ノ利ノ無ク成ル積リト見ヘタル故ナリ、農民ノ三月四月ニ、粟木庭ヲ伐明ケ掘明ケ蒔付ル事ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ麥ノ草ヲ拔キ土ヲ寄セ、四月五月ニ木庭ノ廣キニ薄ク出來居ケル麥ヲ取納メ、麥跡ヲ耕ヤシ、大豆ヲ蒔付ル事ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ麥ヲ早ク取終リ、麥跡ノ秋物ヲ早ク蒔付ケ、六月七月ニ、蕎麥木庭ヲ伐明ケ掘明ケ蒔付ル事ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ秋物ノ手入レ養ナヒヲ爲シ、八月九月ニ、麥木庭ヲ伐明ケ掘明ケ蒔付ル事ヲ止メタル手間ノ延ニテモ、畠、山畠、段畠

ノ秋物ノ手入レ養ナヒヲ爲シ、十月霜月ニ、木庭ノ廣キニ薄ク出來居ケル秋物ヲ取納メ、秋物跡ヲ耕ヤシ、麥ヲ蒔付ル事ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ秋物ヲ早ク取終リ、麥ヲ早ク蒔付ケ、木綿大根ヲモ總テ畦作リニシ置キ、芋ノ中麥ノ如クニ種ヘ、木綿跡大根跡ノ麥モ、十月ノ節ノ內ニ種ヘ終ル樣ニシ、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ノ中ヨリ、木柴、草茅ヲ多ク取リ、牛馬ヲ野飼ニスル時ナク、木柴、草茅ヲ多ク踏セ置キ、塵芥枯草ヲ取聚メテ燒置キ、其ノ養ナヒニテ作物ヲ肥シ、旱ニテ土ノ乾キタル時ハ水糞ニテ養ナヒ、水糞ノ足ラズバ手寄リノ淵川ノ水ヲ汲運ビテ養ナヒ、木庭作ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠、山畠、段畠ノ作物ノ蒔付ケ種付ケ早ク成ラバ、出來モ早ク成リ、出來ノ早キニテ跡作ノ地拵ラヘ精シク成リ、田ニ苗ヲ種付ル手廻シモ早ク成リ、麥ノ出來取納メ早ク成ルニテ、梅雨ニ麥ヲ腐ラス事モナク、木庭作ノ止ミ、山々ニ木ノ育チタル所ノ多ク成リテハ、大雨ノ時ニ土沙石ノ流レ下ル事少ナク、木ノ葉ニ雨ヲ含ムニテ、遽水ノ出ル事少ナク、草葉落葉ニ雨水ヲ含ム事多ク成リテ、雨後ノ旱ニ水ノ涸ルヽ事晩ク、山氣ノ厚ク成リテ夕立ノ雨ノ降ル事多ク、土沙石ノ流レ下リノ少ナキニテ、川床漸々ニ深ク成リ、川筋修理普請ノ手間入リ段々ニ減リ、木ノ多ク育チテハ、薪材、木板、屋板ノ用ヲ足シ易ク、木庭作スルトテ早ク伐リタル諸木ヲ伐ラズシテ育ツル中ニ、栗櫧ハ民食ノ大益ニ成リ穀物喰延シ、栗ハ早ク實ノリテ利益ノ見ユルコト早ク、以前ノ溪水ノ涸レ易カリシ所モ、水氣ノ增シケルニテ、井手溝ヲ掘リ水ヲ引キ、堤ヲ築キ水ヲ蓄ヘ、畠、山畠ノ內ノ田ト成ルベキ所

ハ、段々ト田ト成リ、木庭作ノ止ミタル利益ハ輕カラザル事ナルベシ、他方ニテモ公役ノ夫使ナク、年貢ノ外ノ納物ナキ州郡ハアルマジ、他方ニテ山ノ遠キ郷村ハ、田畠ト成ルベキ地面ノ中ニ、草ヲ育テオキテ草糞トシケルニ、是州ノ百姓ハ木柴草茅ノ多キ山谷ノ間ニ住シテ草糞ヲ拵ラヘズ、燒糞ヲモ拵ラヘズ、田畠ノ手入レ精シカラズバ、木庭作ニ手間入リ多ク、木庭作スルニテ、田畠ノ農事ノ風俗マデ粗ク成リ居ケル故ナリ、木庭作停止ニ決定スルニ成ラバ、郷役人村役人僉議ノ上ニテ、諸木ヲ育ツル山ヲ廿區ニ分ケ、毎年一區ヅツノ木ヲ伐ラシメ、山林マデ田畠、山畠、段畠ト同ジク、村人面々ノ請持ニシ置キテハ、其年ニ伐ルマジキ所ノ木ヲ伐ル者アリテ制シ難ク、木庭作ノ禁ハ立チテモ、農時ニ山ノ働キヲ爲ス事アルベシトテ、村人仲間ノ請持ニ定メ、山畠、段畠ノ上手左右ヲ其ノ山畠、段畠ノ廣狹ニ應ジ、二三十間四五十間ヅツ伐寄ノ燒草ノ用ニ當テ、其ノ山畠、段畠ニ附ケ、外海、內海、浦內ノ潮滿ノ限リト見ユル所ヨリ三町マデノ山モ、谷川ノ左右三十間ヅツモ、牛馬飼用ノ草木ト、苫用屋禰葺用ノ茅ヲ育テ置ク所ヲモ廿區ノ外ニシ、廿區ノ木ヲ毎年一區ヅツ冬伐リニシ、其ノ伐リ始メハ廿區ノ中ニテ、木ノ殊ニ長ジタル一區ヲ伐リ、其ノ翌年ハ其ノ次ニ木ノ殊ニ長ジタル一區ヲ伐リ、段々ト其ノ格ニシテ、遂ニハ年々ニ廿年立チノ木ヲ伐ルニ致シ成シ、潮滿ノ限リト見ユル所ヨリ三町マデノ山ニ、大木ノ立チ居ケルハ其ノマヽニ立テ置キ、草茅小木ノミ生ジ居ケルハ、小木ヲ伐リ薪トシ、冬ノ晴天ノ續キタル時ニ草茅ヲ燒キ拂ヒ、翌年ノ二月ニ眞櫨ノ種子ヲ植ヘシメ、海邊ノ櫨ハ能ク實ノ

ルト云フナレバ、長ク育テ置キテ櫧子ノ利ヲ得セシメ、谷川ノ左右三十間ヅツノ地ニモ眞櫧ノ種子ヲ植ヘシメ、何ツマデモ伐ラズ、川筋ニ水氣ノ强ク成リ、田ニ用ユル水ニ不足ナク、田ト成ルベキ畠、山畠ヲ田ト爲ス利ヲ得セシメ、廿區ノ中ニテ雜木ノ立居ケル所ハ、其ノ一區ノ木ヲ伐ル年ニ殘サズ伐取テ、伐株ノ若立ヲ育テ、栗櫧松樅ノ交リ居ケルハ其ノマヽニ育テ置キ、又廿年ノ後ニ其ノ區ノ木ヲ伐ル時ニ、栗櫧ハ實ノル木ヲ立テ置キ、實ノラヌ木ヲ伐リ、伐株ノ若立ヲ育テ、松樅ヲ伐ルニハ種子松種子樅ヲ間ヲ配リテ殘シ置キ、自然生ヲ育テ、木筋ノ好ク育チタルハ伐取ズ、大キナル材木ノ用ニ備ヘ置キ、杉竹ハ陰地ニ植ヘ、桑ハ村ノ近邊ノ川端ト、南向ノ山附ノ畠ノ北ノ端ニ植ヘ、楮ハ自然生ノ能ク育ツ所ニ育タシメ、村地ノ木山ト社領、寺領、給人領ノ木山ト交リ居ケルハ、別段ニセズシテ廿區ノ區數ノ內ニ入レ、社領、寺領、給人領ノ木ヲ百姓ノ伐リテ村ニ運ブハ、其ノ木庭ノ主ト相對次第ニ、伐手間、運手間ノ賃ヲ取レト定ムルニテアルベシ、上々木庭上木庭ハ險岨ナルモ、作得ノ少ナカラズト云フ事ナレドモ、中木庭下木庭ハ多ク、上々木庭、上木庭ハ少ナケレバ、其ノ少ナキ上々木庭上木庭ノ中ニテ、山畠、段畠ニ成ラヌ所バカリ耕作セヌ損分ハ輕キ損分ナラン、木庭ノ耕作ヲ止メタル手間ノ延ヲ、畠ト山畠、段畠ノ耕作手入レ養ナヒニ用ユルナラバ、出來增ノ並シ木庭出來ノ並シニ勝サルベシ、木庭ノ險岨ニシテ山畠、段畠ニ成ルベキ所ナキ村ハ、其ノ村ノ木庭ノ作得モ甚ダ少ナカラン、作得ノ甚ダ少ナキ險岨木庭ニ自然生ノ雜木ヲ育テ、府中ニ近キ村ハ薪ニシテ賣上セ、府中ニ遠キ

村ハ小材木ニシ屋板ニシテ、農隙ニ賣上ル利分ト、木庭ノ耕作ヲ止メタル手間ノ延ニテ、畠作ヲ精シクシ出來增アル利分ヲ合セタラバ、險岨木庭ノ耕作ヲ止メタル損分ヨリ多カラント云ヘリ、是レ郡代ノ下知ヲ議ラヌ說ヲ聞ク大略ナリ、先賢ノ語ニ、天地ノ物ヲ生ズル不足ノ理ナシ、天下ノ君臣父子兄弟夫婦ニ分ヲ盡サヾル所アル事ヲ思ヘト曰タマヘリ、精シク考ガフベキ大訓ナリ、是州郷村ノ產スル所ノ穀ハ、州府ノ人口ヲ養ナフニ足ラズ、他方ノ米ノ入來リニ障ワリアル時ノ備ヘニ、穀ヲ產スル事ノ增益スベキ農政ヲ行ハレズシテハ叶ワヌ事ナルベシ、府中ノ人口ノ半ハ、外國ノ米ヲ食スル事是州ノ弊事ナリ、基肄養父ノ貢米トテモ、是州ノ郷村ニ產スル穀物ト同ジ樣ニ見ルベキ事ニアラズ、神君ノ上意ニ夏ノ溫タカナレバ、冬ノ寒キヲ考ガヘヌゾト戒シメ置カセタマヘルヲ愼シミ思フベシ、府中ノ人ノ木庭作停止ヲ議ル事、今年三月ノ比マデ段々ト强ク成リケルユヘ、若シ今年ノ麥蒔付ヨリ、木庭作ヲ八郷ニ停止セラルヽトノ命アリトモ、郷村ノ人ノ心ニ決定ノ命トハ思ワズ、下知ヲ信ゼヌ所ヨリ行ワレヌ事アルベシ、老臣惣中ヨリ直グニ八郷ノ郷役人村役人ニ命ゼラレ、親切ナル覺書ヲ渡サレ、郷役人ノ進ミテ村役人勸ムル樣ニ示サレ、木庭作停止ヲ不同意ニ思ヘル郷役人ノ下知スル郷ハ、以前ヨリノ爲シ來リノマヽニ爲サシメ置ケト命ゼラルヽナラバ、却テ八郷一同ニ下知ノ行ワルヽニ成リ、畢竟ハ老中ノ決定アルニテ行ワルベシ、是州ノ農人ハ麥ヲ晩ク取納メ、希ニ五月ニモ長雨ノ降ラズ、全タク取納ムル事アルヲ目當テニシテ、常年ノ損ヲ思ワズ、今年ノ霖雨ハ殊更長降ニテ麥ノ腐レ多シ、

然レドモ裸麥ハ出來ノ早キニテ、四月ノ節ノ內ニ取終レリ、裸麥ノ事ヲ聞クニ、春ツキテ減ラズ、食シテ味ワヒ好ケレドモ、養ナヒ厚カラザレバ出來スクナク、急ニ取納メザレバ落チ散ル事多シト云ヘリ、木庭作ノ止ミタル上ヘニテ、手遠キ山畠、段畠ニ蠶豆辛子等ヲ種ヘ。畠ト手近キ山畠、段畠ニ裸麥ヲ種ヘ、牛馬ニ踏セシ木柴、草茅ノ腐チ乾ケルト、枯草塵芥ヲ燒キタルト、作リ水トヲ以テ厚ク養ナヒ、木庭作セヌ手遠キ所ニ麥ヲ作ラヌニテ、早ク取納ムベキ事ナラン、享保壬子閏五月、老病ノ床ニテ此ノ一卷ヲ述ベ、曾テ著ワス受益談六卷ニ添フルナリ

足食談終

讀增田開地記

讀増田開地記

増田開地記ハ、是州本山派ノ頭襟司述作セリ、其記中ニ云ヘルハ、昔年君上ノ祈願所相續ノ爲ニ、其肆養父ニ開地シ置カントト思ヒ立チ居ケレドモ、其肆養父ハ遠境ナレバ、君上ノ祈願所相續ノ永久ノ助ケニハ頼ミ難キト思ヒ改タメ、因テ享保己酉ノ年ニ、與良郷久田村領ノ増田ト謂フ所ニ、開地ノ端ヲ發キテ普請シ始メケル由云リ、君上ノ祈願所相續永久ノ爲メニスルサヘ、遠境ノ開地ノ米穀ヲ頼難キト思フナレバ、君上ノ爲メニ國家永久相續ノ道ヲ謀ルハ他境ノ米穀頼ムベキ事アラズ

以後ニ至リ、若シ是州ヨリ諸方ニ通路ノ障ワリアル時ニナラバ、其肆養父ノ貢米トテ、滯ラズ州府ニ入來ルベシトハ定難カラン、先聖ノ語ニ、人ノ遠キ慮カリ無キハ、必ラズ近キ憂ヒ有リト曰タマヘルハ有リ來リタル事ノ中ニテ、後日ニ重キ害ワヒト成ベキ事ヲ慮カリ、其ノ害ワヒヲ防グ處置ヲ早ク爲スベシト示シタマフナリ

是ノ旨ヲ神君ノ上意ニ無智ナル者ハ、利發立シテ一寸先キヲ知ラヌ、夏ノ温タカナルハ、冬ノ寒キ考ガヘヌゾト戒シメ置カセタマフトコソ見ヘタルニ、州府ニテ浮利多キヲ尊トブ人ハ、是州ト朝鮮トノ年例貿易ニ當テラルヽ、諸品ノ中ニテ、是州ノ地ニ産スル物ハ一種モ無シ、總テ外國ヨリ入來ルナリ、

其ノ諸品ノ是州ニ入來ラヌ事、五年モ拾年モアルナラバ、其間ノ年例貿易買米モ入リ來ルマジ、四百年來朝鮮ノ米ニテ食用ヲ足セル舊弊ニ戀着シ、郷村ニテ耕作スル輩ハ以前ヨリ爲シ木庭作ニ陷溺シ、其ノ類ハ總テ郡代ノ農政ヲ譏レリ、是州ニテ常ニ朝鮮ノ米ノミ食スルハ、其身日本ニ在リテモ朝鮮ノ民ニ同ジ、毎日ノ食ニ當テ身命ヲ保ツ米穀ヲ内外ノ隔テナク通用スル藥物布帛ノ如ク見ルベキ事ニアラズ、辨マヘアル人ハ朝鮮ノ米ニテ身命ヲ保タンヨリ、是州ノ麥ニ芋、孝行芋ト、蕪菁大根ト、黑煮ノ鹿角菜等ヲ交ヘテ、食ヲ足スヲコソ甚ハダ勝サレルト思フベケレ、栗ハ煮テ食ニ當テ、穀物ヲ喰ヒ延ス利益アリ、楠判官ノ領中ニハ、栗ヲ植ヘシメラレケル由傳記ニ見ヘタリ、是州ノ山谷ハ栗ニ宜シク、自然生ノ多ケレドモ、木庭作スルニテ栗ヲ育テズ、栗ノ食ヲ足利益スクナシ、木庭作ノ害ハ數々ニテ、是州ニ米穀ヲ產スル事少ナキハ、木庭作スル故ナルヲ、害ノ大原ヲ認メテ利ノ大ナル事ト誤マリ居ケルナリ、四百年來是州府中ノ人口ノ段々ト多ナリ、其中ニテ百餘年前マデハ諸方通路ノ成難キ時節モアリケレドモ、州府ノ食用ノ盡キタル事無カリシト云議論ヲ立テ、世上ノ變化ニ量リ難キ所アリテ、百年以來百年以前トハ、是州ノ樣子ニ替リアル事ヲ少モ考ガヘズ、只一筋ニ農政ヲ譏リ惡ム人ノ甚多キコソ悲シケレ、今年閏五月二十八日ニ、吾足食談ノ稿ヲ成シ、其ノ書ノ中ニ亡肄養父ノ貢米トテモ、是州ノ郷村ニ產スル穀物ト同ジ樣ニ見ルベキ事ニアラズト書シ、六月七日ニ增田開地記ヲ讀ミ、竊カニ自カラ感ズル所アリテ、此一篇ヲ書述べ、翌月十五日ニ稿ヲ成セリ、吾二十年以前ヨリ退

休シ、今年ハ已ニ七拾六歳ニ成レルユヘ、世間ノ事ヲ一切ニ聞カズ、安閒ニシテ死ヲ俟ツバカリナルベキニ、農作ノ事ニ疾ヲ力メ書ヲ著ワセリ、農政ノ行ワル丶ハ國家永久ノ道ノ在ル所ニシテ、永久ノ道ノ障ワリハ農政ノ行ワレザルニ在ルベシト、自深ク思ヒ入リケル故ナリ

讀墸田開地記 終

宮崎幸麿
小西武治
校

大正三年九月廿一日印刷
大正三年九月廿四日發行

日本經濟叢書 卷四 非賣品

編者 瀧本誠一

發行者 佐藤卯兵衛
東京市神田區駿河臺鈴木町拾六番地

不許複製

印刷者 中田福三郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 日本經濟叢書刊行會
東京神田區駿河臺鈴木町拾六番地
電話本局三一八五・振替口座東京二六八一〇

理事 高木龍之丞
鹽谷壽作

16. **JUYEKI DAN,** *(with the supplements* **FUKI, ZOKU-ROKU, FUSETSU, WAKUMON, SOKUGO** *and* **KŌGO**), *or talks on how to enjoy benefits, namely on the abolishment of "Kola Tsukuri," on growing forests, on water regulation, on the disburdening of public imposts, etc.*

17. **SOKU SHOKU DAN,** *or talks on keeping food-supply in sufficiency.*

18. **DOKU MASUDA KAICHI KI,** *or a review of the book entitled "clearing of a waste land in Masuda for cultivation."*

7. **KANSHO SETSU,** *or the benefit of planting sweet potatoes explained.*

8. **MINJI KIBUN,** *or notes on rural life.*

9. **NŌSEI MONDO,** *or dialogues on agrarian administration.*

10. **INAGŌ NŌJI ROKU,** *or notes on agricultural conditions of Ina-village.*

11. **GŌSON NŌJI ROKU,** *or notes on agricultural conditions of Gō and Son (villages).*

12. **NŌSHO SHŪRYAKU,** *or outlines of a treatise on agriculture.*

13. **SHOKU HEI SOSHI,** *(a summary of the above work) or principles of maintaining food-supply and of keeping villages safe from robbers.*

14. **TOTSUAN BUNSŌ,** *or miscellaneous essays.*

15. **ZAIYO SETSU,** *or extracts of the author's views on the use of commodities.*

CONTENTS

of the fourth volume

COLLECTED WORKS *of* SUYAMA DON-Ō

(1657—1732)

1. **KŌJŌ OBOYE GAKI,** *or notes from colloquium on agricultural subjects.*

2. **DOKOKU DAN,** *or talks on soil and corn, how to feed the people of the island (Tsushima) with the cereal production thereof.*

3. **RŌNŌ RUIGO,** *or selected talks of an old farmer.*

4. **GAI BAKU DAN,** *or talks on the best way to reap in "Mugi."*

5. **SUIRI MONDŌ,** *or dialogues on water regulation: on the benefit of turning dry-fields into wet-fields.*

6. **KOKU SHIN ROKU,** *or supplementary notes on agrarian subjects.*

BIBLIOTHECA
JAPONICA
ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. IV

TŌKYŌ
NIHON KEIZAI SŌSHO
KANKŌKWAI
1914.

BIBLIOTHECA
JAPONICA
ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. IV

TŌKYŌ
NIHON KEIZAI SŌSHO
KANKŌKWAI
1914